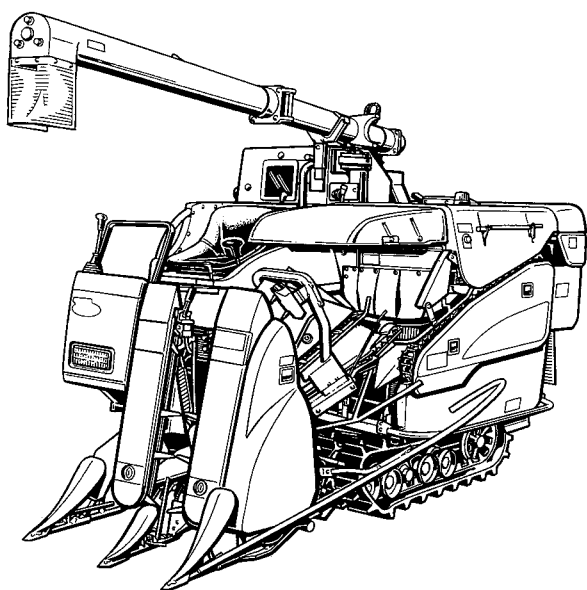


クボタコンバイン

取扱説明書

スカイロード **SR** イース

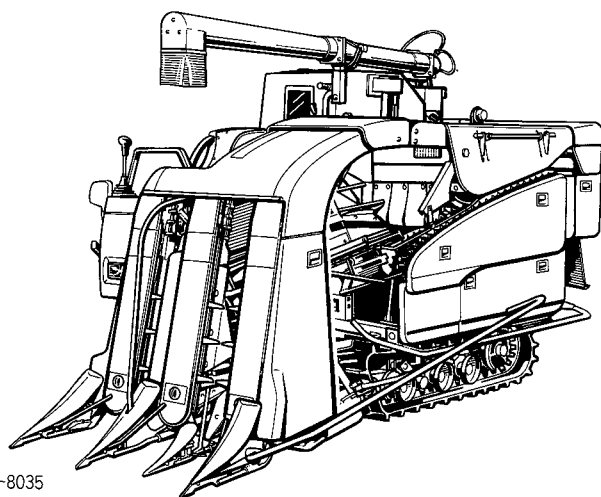
SR 165・195
215・R218s



M-8571

[SR215]

SR-M₂₀
M₂₃



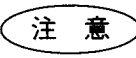
M-8035

[SR-M23]

ご使用前に必ずお読みください
いつまでも大切に保管してください

操作装置のシンボルマーク

運転操作及び保守管理のために、操作装置のシンボルマークが使用されています。シンボルマークの意味は下記のとおりですのでよく理解して戴き誤操作のないようご注意ください。

	ホーン		エンジン回転数 “低回転”		エンジン回転数 “高回転”
	ウインカランプの 操作方向		ヘッドランプ		ヘッドランプと作業灯
	アンローダの移動方向		エンジン停止		燃料
	エンジン予熱		エンジン油圧		バッテリー充電
	異常発生を点滅で示す ランプ		ウインカランプの作動を 点滅で示す案内ランプ		

専門用語の説明

- パワーステアリングレバー …………… 油圧式の操向操作レバーと刈取部昇降レバー
- デバイダ …………… こくかんを分けすくい上げる部分
- ドレーン(プラグ) …………… エンジンオイル・トランスミッションオイルの排油栓，ラジエータの水を抜く栓
- アジャスト …………… 調節を意味する
- 主変速レバー …………… “前進” “後進” の切換え及びそのスピードをコントロールするレバー
- スローブローヒューズ …………… バッテリー近くに設けたメイン回路保護のためのヒューズ
- ホツパ …………… 精選されたこく粒を袋詰めするまで一時貯蔵するもみタンク
- 1 番スクリュ …………… 精選されたこく粒を横搬送するスクリュコンベア
- 2 番スクリュ …………… 粗選されたこく粒やわらくずを横搬送するスクリュコンベア
- チャフシーブ(選別板) …………… こく粒を粗選する棧状の板
- トウミ …………… 選別風を発生させるファン
- グレンシーブ …………… こく粒を精選するあみ体
- 送じん調節レバー …………… こぎ胴内の作物移動速度を調節するレバー
- 排じん調節 …………… 選別されたわらくずの排出に抵抗をかける板
- こぎ胴 …………… 脱こくするドラム
- フィードチェーン …………… 稲を挟持搬送するチェーンコンベア
- 縦スクリュ …………… 精選されたこく粒を縦搬送するスクリュコンベア
- こぎ胴オープン …………… こぎ胴を上にする機構
- 揺動板(シーブケース) …………… 揺動運動してこく粒を選別する装置
- アンローダ …………… グレンタンクからもみを排出する筒

はじめに

このたびはクボタ製品をお買上げいただきありがとうございました。

この取扱説明書は本製品の正しい取扱い方法、簡単な点検及び手入れについて説明しています。ご使用前によくお読みいただいてじゅうぶん理解され、お買上げの製品がすぐれた性能を発揮し、かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。また、お読みになったあとも製品に近接して保存し、わからないことがあったときには取出してお読みください。なお、品質・性能向上あるいは安全上、使用部品の変更を行なうことがあります。その際には、お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

▲ 安全 第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた▲の表示があるラベルは、人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。

なお、▲表示ラベルが汚損したり、はがれた場合はお買上げの販売店に注文し、必ず所定の位置に貼ってください。

■ 注意表示について

本取扱説明書では、特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について、次のように表示しています。

-  **危険**： 注意事項を守らないと、死亡又は重傷を負うことになるものを示します。
-  **警告**： 注意事項を守らないと、死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。
-  **注意**： 注意事項を守らないと、ケガを負うおそれのあるものを示します。
- 重要**： 注意事項を守らないと、機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。
- 補足**： その他、使用上役立つ補足説明を示します。

本製品の使用目的について

本製品は、稲・麦の刈取・収穫用の作業機としてご使用ください。

使用目的以外の作業や改造はしないでください。

使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりませんのでご注意ください。（詳細は【165・195・215・R218S】は保証書，【M20・M23】はサービスブックをご覧ください。）

この取扱説明書では、仕様の異なる製品を下記のように表示していますので、お買上げの製品の仕様をお確かめのうえ、お間違いのないようお願いいたします。

【M20・M23】

【例】 SR-M23 J G HD W2

① ② ③ ④ ⑤

- ①エンジン出力によって..... { “SR-M20”
“SR-M23”
- ②走行部の変速方式によって
- ベルト無段変速方式..... “J仕様”
(ジョイマチック)
 - 油圧シフト方式..... “A仕様”
(スカイロードマチック)
- ③ { グレンタンク仕様..... “G仕様”
ホッパ仕様..... 表示なし
- ④諸装置の仕様によって..... { “D仕様”
(デラックス)
“HD仕様”
(ハイデラックス)
- ⑤クローラによって
- 標準クローラ..... 表示なし
 - 360ワイドクローラ..... “W仕様”
 - 400ワイドクローラ..... “W2仕様”

諸装置		仕様	A仕様		J仕様		備 考
			D	D	HD		
自動化装置	自動こぎ深さ制御	○	○	○			
	自動車速制御	—	○	○			
	自動方向制御	—	—	○			
	自動脱こく制御	—	—	○			
	自動エンジン停止装置	○	○	○			
	アンローダ自動旋回装置	○	○	○	グレンタンク仕様		
	パイプロシャッタ	○	○	○	グレンタンク仕様 手動		
	集中注油装置	○	○	○	電動		
	防じんカバー	—	—	○			

【例】 SR215 J G HD W2 — S1

 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥

- ⑥酒米仕様

仕 様 諸装置		A仕様			J仕様		備 考
		D	DSW3 (165ホッパ 仕様のみ)	HD	D	HD	
自 動 化 装 置	自動こぎ深さ制御	○	○	○	○	○	
	自動車速制御	—	—	—	○	○	
	自動方向制御	—	—	○	—	○	
	自動脱こく制御	—	—	○	—	○	
	自動エンジン停止装置	○	○	○	○	○	
	アンローダ自動旋回装置	○	—	○	○	○	グレンタンク仕様
刈取部横スライド装置 (スライドヘッダ)		○	○	○	○	○	
パイプロシャッタ		○	—	○	○	○	グレンタンク仕様 手動
集中注油装置		○	○	○	○	○	
防じんカバー		—	—	○	—	○	

コンバインを安全にしかも上手にご使用していただくため、この取扱説明書は次の手順で構成されていますので、基本操作から刈取作業まで順番に理解体得してください。

まずは安全確保をしましょう

1. **▲安全作業をするために：**安全作業をしていただくために基本的注意事項や警告ラベル・注意ラベルの機械への貼付け位置と警告・注意事項を解説していますのでよく読んで理解し、必ず守ってください。

動かす前に走行装置を理解しましょう

2. **走行装置の名称と取扱い：**走行装置のはたらきをまず理解し、基本操作を体得してください。

作業装置でコンバインの性能を最大に発揮させましょう

3. **作業装置の名称と取扱い：**作業装置のはたらきと基本操作を体得してください。

動かす前に機械の健康診断をしましょう

4. **運転前の点検：**作業中のトラブル防止のため、毎作業前の点検内容を理解し、必ず実施してください。

エンジンの安全基本操作・コンバインの安全走行のための基本操作を体得しましょう

5. **移動走行と輸送：**

- (1)機体の急発進を防止するため、エンジンの始動と停止の手順を体得してください。
- (2)機体の前・後進や停車の基本操作を体得してください。
- (3)コンバインをほ場へ安全に移動させるため、安全装置の取付けや各装置の脱着や固定作業、トラックへの安全な積み込み・積降しと輸送方法を理解し、必ず守ってください。

では実際にほ場で刈取作業を始めてみましょう

6. **収穫作業のしかた：**作業前の各装置の取付け、作物とほ場条件に合わせた調整、安全で正しい刈取作業を体得してください。

良く働いた機械をいたわりましょう

7. **メンテナンス：**機械を長持ちさせるために、刈取シーズン前・後及び長期格納時の注意事項や定期点検の要領を理解・実施し、来シーズンに備えてください。

コンバインがもしもの不調のときは

8. **コンバインの不調と処置：**異常や故障かな？と思われたとき、現象に応じて、処置をしてください。

目 次

⚠ 安全に作業するために … ⚠ -1

サービスと保証について	1
ご相談窓口	1
補修用部品の供給年限について	2
小型特殊自動車について	3
小型特殊自動車取得の届出と	
標識(ナンバープレート)の取付け	3
運転免許証の携帯	3
走行装置の名称と取扱い	4
機体方向説明と走行装置の名称	4
各部の名称とはたらき	6
メインスイッチ	6
アクセルレバー	6
非常エンジン停止レバー	7
主変速レバー	7
副変速レバー	7
ブレーキペダル	8
駐車ブレーキレバー	8
パワーステアリングレバー	9
刈取下降ロックレバー	9
運転席(シート)	9
スカイナビ	10
コンビネーションスイッチ	11
作業装置の名称と取扱い	12
作業装置の名称	12
各部の名称とはたらき	14
自動車速制御装置【J仕様】	15
自動方向制御装置【HD仕様】	16
刈取クラッチレバー	16
刈取変速レバー【A仕様】	16
刈取スライドスイッチ	
【165・195・215・R218S】	17
自動こぎ深さ制御装置	17
脱こくクラッチレバー	18
エンジン停止スイッチ	18
自動脱こく制御装置【HD仕様】	18

トウミ調節レバー【D仕様】	19
チャフ調節レバー【D仕様】	19
もみ排出クラッチレバー	20
パイプロレバー	20
アンローダ自動旋回制御装置	20
アンローダレバー	21
スカイナビ	21

運転前の点検	24
日常点検項目	25

移動走行と輸送	26
新車時の扱い方	26
ならし運転について	26
エンジンの始動と停止のしかた	26
始動のしかた	26
停止のしかた	28
移動走行について	29
走行前の準備	29
発進のしかた	32
旋回のしかた	34
停車のしかた	34
道路走行について	34
輸送について	35
トラックとあゆみ板の準備	35
コンバインの準備	35
コンバインの積込み・積降しのしかた	35
トラック上での処置	37

収穫作業のしかた	38
作物とほ場の条件	38
作物の条件	38
ほ場の条件	38
ほ場の準備	39
ほ場の準備	39
コンバインの準備	39
準備のしかた	39
アンローダ(ロングオーガ)の	
折りたたみ・伸ばしかた【165・195・215】	42
刈取作業のしかた	44
ほ場の出入りのしかた	44

刈取作業の手順	45
ほ場の刈りかたと旋回のしかた	
【165・195・215・R218S】	49
刈取スライド装置の使いかた	
【165・195・215・R218S】	52
ほ場の刈りかたと旋回のしかた	
【M20・M23】	53
湿田作業のしかた	56
作物に合わせた変速の選びかた	57
もみの排出のしかた【ホッパ仕様】	59
もみの排出のしかた【G仕様】	60
手刈り(枕刈り)脱こくのしかた	64
作業に合わせた各部の調節・調整のしかた	67
スカイナビによる異常と処置	77
メンテナンス	80
各部のオープン(開閉)と脱着のしかた	80
エンジンルームオープン	80
こぎ胴オープン	81
カッタオープン	82
シーブケースの脱着	83
受あみの脱着	87
引起しサイドカバー右・左の脱着	87
引起しカバーの脱着	88
カッタ左サイドカバー前及びカッタ左サイドカバー後の脱着	88
グレンタンクオープン【G仕様】	89
各部の掃除と注油のしかた	90
掃除のしかた	91
注油のしかた	95
定期点検	99
オイル・フィルタ類の交換とチェーン・ベルト・クローラの張り調整	99
使用済廃棄物の処分について	99
使用者が行なってはいけない修理	99
定期点検一覧表	100
給・注油(水)点検一覧表	102
燃料・オイル・グリースの点検・補給・交換	104
ラジエータ冷却水の点検・交換	107
エアクリーナの点検・掃除・交換	108
パイプ・ホース類の点検・交換	108
防じんあみ、ラジエータフィンの掃除	109

オイルクーラフィンの掃除	
【J仕様(165除く)】	109
フューエルフィルタアッシの交換	
【165】	110
フューエルフィルタの掃除とフィルタエレメントの交換	110
エンジンオイルフィルタ	
カートリッジの交換	111
ミッションオイルフィルタの交換	112
各部ワイヤ・ロッドの点検・調整	112
各部ベルトの点検・調整	116
各部チェーンの点検・調整	123
刈刃の点検・調整	
【165・195・215・R218S】	126
刈刃の点検・調整【M20・M23】	128
わら切刃の点検・交換	131
カッタ部の点検・調整	132
カッタ刃の交換のしかた	133
バッテリーの点検・交換	136
吐出口ブーツの点検・交換【G仕様】	139
電気の各配線コード・各ヒューズの点検・交換	140
ランプ(電球)の点検・交換	141
ホーンスイッチの点検	141
反射器の点検・交換	141
刈取スライドの点検・注油・掃除・増締め	
【165・195・215・R218S】	142
クローラの点検・調整	142
刈取作業後の手入れ	143
毎日の作業後	143
長期格納時	143

コンバインの不調と処置	146
--------------------	------------

付 表	152
主要諸元	152
付属部品	164
オプション(別売品)	165
消耗部品	167
クボタ純オイル	179

安全に作業するために

必ず読んで
ください。

この黄色ページは、安全に作業していただくため、ぜひ守っていただきたい注意事項と  表示ラベルの内容・貼付位置を記載しています。また、本文中でも取扱い上の注意事項をそのつど  危険・ 警告・ 注意・重要・補足として取上げていますので本機をご使用になる前に、これらの注意事項をよく読んで理解してください。

目 次

1. 安全作業するための注意事項

ページ

◆一般的な注意事項	▲-2 ~ ▲-3
◆作業前の注意事項	▲-4 ~ ▲-5
◆移動走行・ほ場の出入り・駐車時の注意事項	▲-6 ~ ▲-7
◆作業時の注意事項	▲-8 ~ ▲-9
◆作業後・格納時の注意事項	▲-10 ~ ▲-11
◆点検整備時の注意事項	▲-12 ~ ▲-15
◆運搬時の注意事項	▲-16 ~ ▲-17

2. 安全作業するための 表示ラベル

◆  表示ラベルの内容・貼付位置	▲-18 ~ ▲-29
◆  表示ラベルの手入れ	▲-30

安全に作業するために

1. 安全作業するための注意事項

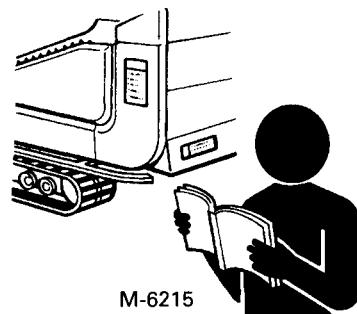
◆一般的な注意事項

▲ 取扱説明書及び機械に貼付けている **▲** 表示ラベルをよく読み、正しい運転、作業方法を覚える。

- 本書記載事項以外についても、安全には細心の注意を払ってください。

【守らないと】

死亡又は傷害を負うおそれがあります。



▲ 体の状態が悪いときには運転操作をしない。

- 運転操作には的確な判断が必要です。下記状態の方は、機械の運転操作を行わないでください。
- お酒を飲んでる方
- 睡眠不足の方
- 妊娠中のご婦人
- 過労、病気の方
- 16歳未満の方

【守らないと】

思わぬ事故の原因になります。

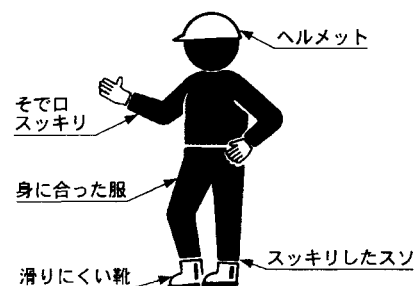


▲ 運転者、補助者とも作業に適した服を着用する。

- だぶついた服は着用しない。
- そで口はきっちりと止める。
- はち巻き、首巻き、腰タオルは着用しない。
- サンドル、スリッパなどの履物は着用しない。

【守らないと】

レバーや作動部に引っかかったり、滑ったりして、傷害を負うおそれがあります。

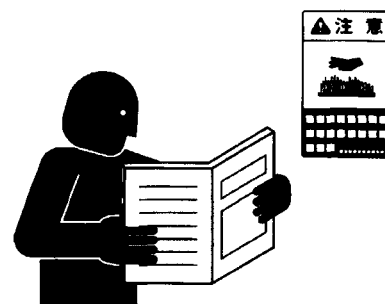


▲ 取扱説明書及び **▲** 表示ラベルの内容が理解できない人や子供には絶対運転させない。

- 機械を他人に貸すとき、運転させるときは、取扱説明書を読ませるとともに、取扱方法や安全な使いかたを説明して、安全な作業ができるよう指導する。

【守らないと】

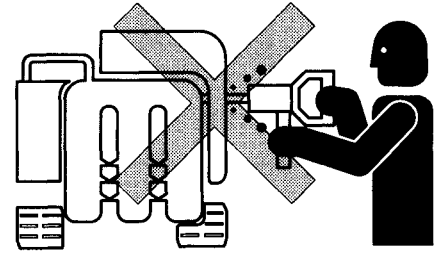
死亡又は傷害をまねくおそれがあります。



⚠ 機械を改造しない。

【守らないと】

安全性をそこない、思わぬ事故の原因になります。



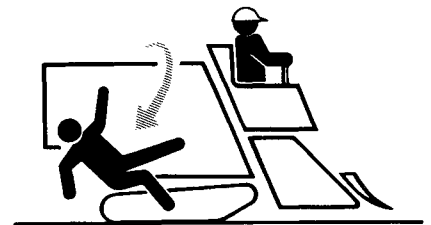
M-8657

⚠ 運転者以外は機械に乗らない。

- 動いている機械に飛び乗ったり、飛び降りたりしない。

【守らないと】

振り落とされたり、ひかれたりして、死亡又は傷害を負うおそれがあります。



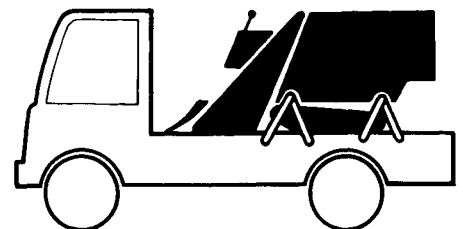
M-6231

⚠ 公道を走行するときは交通法規や安全ルールを守る。

- 公道を走行する場合は、所定の手続きと運転免許証が必要です。
- 公道を走行できない機械は、トラックで運搬する。

【守らないと】

交通事故をまねき、死亡又は傷害を負うおそれがあります。



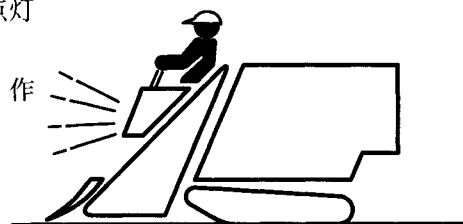
M-6218

⚠ 夜間の作業や移動走行は避ける。

- やむをえず夜間作業を行なうときは、ヘッドランプや作業灯を必ず点灯する。
- やむをえず夜間に移動走行するときは、必ずヘッドランプを点灯し、作業灯は消灯させる。

【守らないと】

交通事故や転倒・転落をまねき、死亡又は傷害を負うおそれがあります。



M-8658

安全に作業するために

◆作業前の注意事項

▲ 屋内で運転するときは、排気ガスに注意して適切な換気をする。

- 排気管を屋外に延長するか、ドアや窓を開け外気がじゅうぶん入るようにする。

【守らないと】

エンジンの排気ガスは有毒です。中毒を起こし死亡事故にいたるおそれがあります。



F-8842

▲ 燃料補給中は火気厳禁。くわえタバコや裸火照明は近づけない。

- 燃料補給するときはエンジンを必ず止めて、キーを抜く。
- 燃料やオイルをこぼしたときは、きれいにふきとる。

【守らないと】

火災の原因になります。



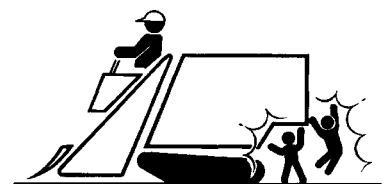
B-1499

▲ 機械を動かすときは周囲の安全に気をつける。

- エンジンを始動するときは、運転席に座って、変速レバーを“中立”位置にし、各クラッチを“切”位置にして、ホーンを鳴らすなどの合図をする。
- 機械を発進するときや各クラッチを入れるときは、ホーンを鳴らすなど合図してから行なう。

【守らないと】

回転物に巻込まれたり、挟まれて重大な傷害を負うおそれがあります。



M-6217

- 初めて運転する人は、操作になれるまで低速で運転する。

【守らないと】

思わぬ事故の原因となります。



M-6236

作業前点検（日常点検）を実施する。

■運転の前には点検項目（“日常点検項目”の項参照）の点検を行なう。異常があれば整備してから運転する。

【守らないと】

整備不良による事故で傷害を負うおそれがあります。

■点検・整備・掃除・給油するときは、エンジンを必ず止めて、キーを抜く。

■取外した安全カバー、保護カバーは必ずもとどおりに取付けて作業する。

【守らないと】

回転部に巻き込まれて傷害を負うおそれがあります。

■マフラ周辺部、ベルトカバー内、バッテリー周辺にたまっているわらくずはきれいに取除く。

【守らないと】

火災の原因になります。

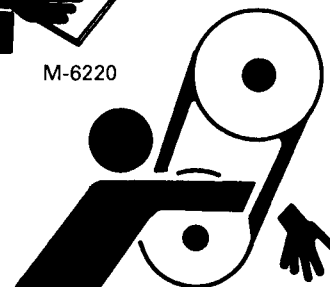
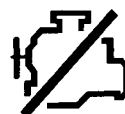
■点検整備中及び作業中は機械に子供を近づけない。

【守らないと】

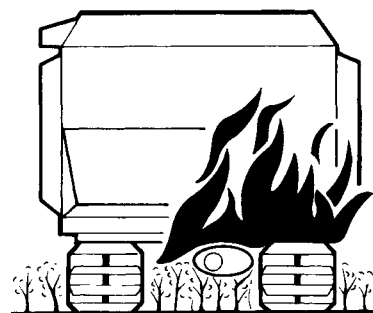
回転物に巻き込まれたり、挟まれて重大な傷害を負うおそれがあります。



M-6220



N-0676



M-6238



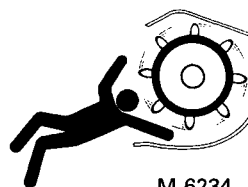
M-6217

こぎ胴、カッタ、結束機、エンジンルーム、グレンタンクをオープンするときは、エンジンを必ず止めて、キーを抜く。

- オープンは一平たんな場所で行なう。
- こぎ胴、カッタ、結束機をオープンしたときは、ストッパを掛ける。
- オープンしたままエンジンを始動しない。

【守らないと】

内部の回転物に接触したり、巻き込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。



M-6234



M-6232



B-1505



B-1506



安全に作業するために

◆移動走行・ほ場の出入り・駐車時の注意事項

▲移動走行するときは、次の事項を守る。

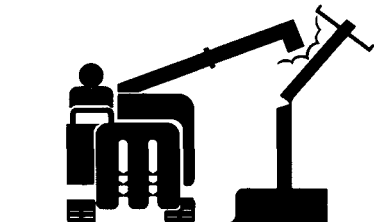
- 各作業クラッチを“切”位置にし、運転者以外に人を乗せない。
- もみはすべて排出、又は降ろす。
- 刈取部の先にデバイダカバーを取付ける。
- 補助デッキ、左分草かんを収納して、機体幅をせまくする。
- 刈取部を上昇させて、刈取部下降ロックを掛けて下降防止をする。
- アンローダを下げ、アンローダ支えに収納してバンドを掛ける。

【G仕様】

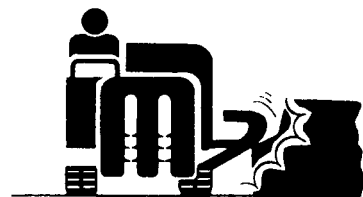
- 折りたたみ式のアンローダ（ロングオーガ）は、折りたたんで収納する。【G仕様】

【守らないと】

人や物を傷つけたり、機体のバランスをくずして転倒するおそれがあります。



M-8660



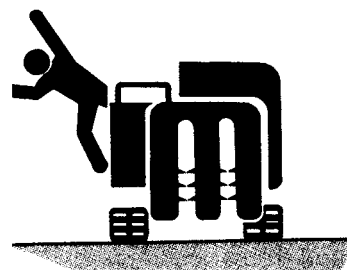
M-6241

▲高速走行時は急旋回をしない。

- 方向を変えるときは、走行速度を落として（低速にして）、パワーステアリングレバーをゆっくり倒して旋回する。

【守らないと】

機械から振り落とされたり、転倒するおそれがあります。



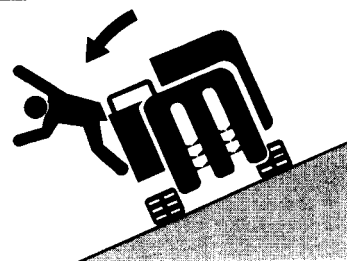
M-6228改

▲坂道（傾斜地）では走行速度を落とす。

- 坂道（傾斜地）では、パワーステアリングレバー、副変速レバー、駐車ブレーキを操作しない。
- 坂道（傾斜地）では、斜め走行や旋回はしない。

【守らないと】

暴走したり、転倒するおそれがあります。



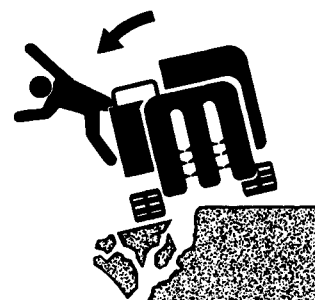
M-6228

⚠ 道幅に余裕がなく高所にある道路（土手）は、走行しない。

- 溝のある農道や、両側が傾斜している農道は路肩に注意する。
- 溝、穴、土手の近くは走行しない。
- 水溜まりや草のおい茂ったところなど、地面のよく見えないときは、事前に降車してよく確かめる。

【守らないと】

機体のバランスをくずして転倒・転落するおそれがあります。



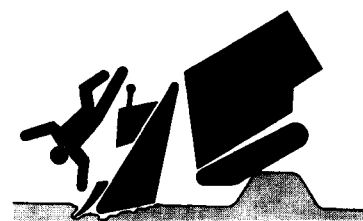
M-6227

⚠ ほ場の出入りで、段差のあるところではあゆみ板を使う。

- 10cm以上の段差のあるところでは、段差の4倍以上の長さで基準に合ったあゆみ板を使う。
- あゆみ板は段差に直角に置く。
- もみはすべて排出、又は降ろす。

【守らないと】

機体のバランスをくずして転倒するおそれがあります。



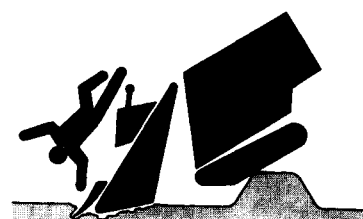
M-6229

⚠ あぜの乗り越えは低速で直角に進入する。

- 10cm以上のあぜ、又はコンクリートのあぜは、段差の4倍以上の長さで基準に合ったあゆみ板を使う。
- もみはすべて排出、又は降ろす。

【守らないと】

機体のバランスをくずして転倒するおそれがあります。



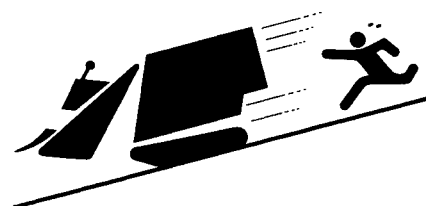
M-6229

⚠ 駐車するときや運転席を離れるときは、平坦な場所に止め、副変速レバーを中立以外の変速段にし、駐車ブレーキを掛け、刈取部を地面に当たるまで降ろして、エンジンを必ず止めて、キーを抜く。

- やむをえず坂道（傾斜地）で駐車するときは、さらに木片などで確実に車止めをする。

【守らないと】

機械が暴走し、思わぬ事故のおそれがあります。



M-8661

安全に作業するために

◆作業時の注意事項

⚠ 共同作業するときは、ホーンなどで合図を行なう。

- エンジン始動時、及び各作業のクラッチやスイッチを入れるときは、ホーンなどで合図し、補助者のOKをもらう。
- 補助者が機械に近づくときは、運転者に知らせることを徹底させる。

【守らないと】

補助者は運転席から見えにくい位置にすることがあり、思わぬ事故を起こすおそれがあります。



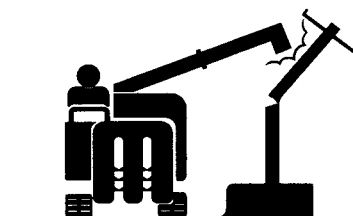
M-6236

⚠ アンローダを動かすときは、旋回範囲に人や障害物がないことを確認する。【G仕様】

- 旋回範囲に人がいたり、障害物があるときは、アンローダを動かさない。
- アンローダは、アンローダ支えに収納した状態で作業を行う。
- 折りたたみ式のアンローダ（ロングオーガ）を伸ばして作業するときは、周囲に人や障害物がないことを確認する。【G仕様】

【守らないと】

人や物を傷つけたり、機体のバランスをくずして転倒するおそれがあります。

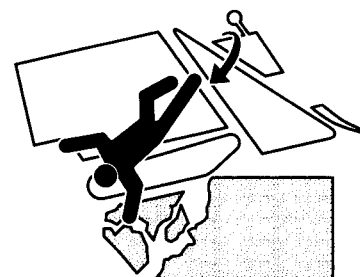


M-8660

⚠ すみ刈りを行なうときは後方をじゅうぶん確認する。

【守らないと】

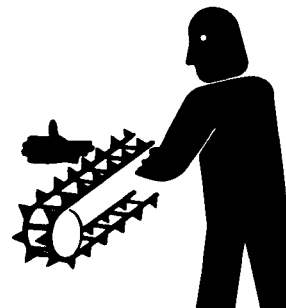
後退し過ぎると、転倒・転落するおそれがあります。



M-8662

▲ 手こぎ作業するときは、手や腕の位置を必ずチェーンの外側にして、少量ずつ供給する。

- 機械は平坦な場所に止めて、刈取部を止め、駐車ブレーキをかける。
- そで口はきっちり止めて、手袋・はち巻き・首巻き・腰タオルは着用しない。
- 脱こく部入り口にたまつた、わらやもみなどを脱こく部に押し込むときは、チェーンに手や腕が巻込まれないように、わらなどを使って少量ずつ押し込む。
- 防じんカバー付きの機械は、防じんカバーを開ける。



M-6235

【守らないと】

チェーンに巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。

▲ 異常に気づいたら、すぐエンジンを必ず止めて、キーを抜く。

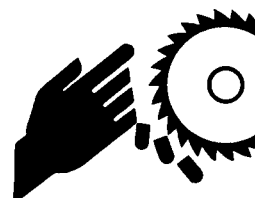
- わらの巻付きや詰まりを取除くときや、もみの点検・掃除をするときは、各作業クラッチレバーを“切”位置にし、エンジンを必ず止めて処置する。
- カッタに詰まったわらなどを取除くときは、厚手の手袋を着用して少しずつ取除く。
- 素手で刃先には触らない。



B-1506

【守らないと】

カッタ刃やチェーンなどの作動部に接触したり、巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。



M-6232

▲ 点検や掃除で外したカバーは、必ず取付けること。

- ベルトやチェーンのカバー、及び掃除口や点検窓のカバーなどを外したままで運転しない。



B-1506

【守らないと】

内部の回転物に接触したり、巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。

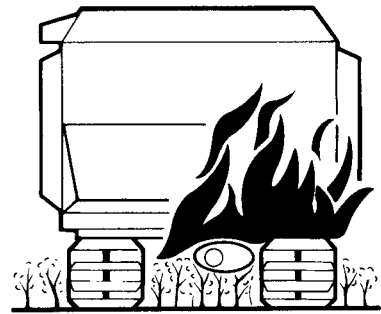
安全に作業するために

◆作業後・格納時の注意事項

▲ わらくずや枯れた雑草の上に機械を止めない。

【守らないと】

わらくずや枯れた雑草は燃えやすく、火災が発生するおそれがあります。

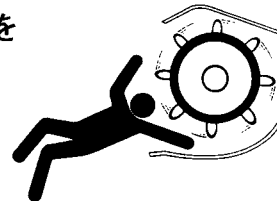


M-6238

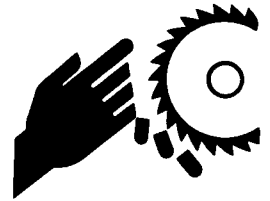
▲ 点検・掃除する前に、エンジンを必ず止めて、キーを抜く。

【守らないと】

機械に巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。



M-6234



M-6232



B-1505



B-1506

▲ 点検・掃除は、エンジン停止後、各部が冷えてから行なう。

- エンジン本体、マフラ、排気管は、停止直後は触れない。

【守らないと】

やけどを負うおそれがあります。

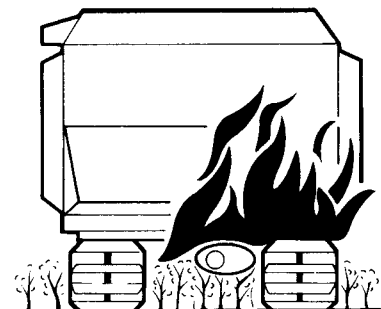


B-1502

▲ エンジン本体、マフラ周辺、ベルトカバー内配線部、バッテリー周辺のわらくずを点検し、きれいに取除く。

【守らないと】

火災が発生するおそれがあります。

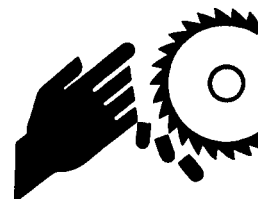


M-6238

⚠ 掃除するときは、刈刃やカッタの刃先に触らない。

【守らないと】

刃先で傷害を負うおそれがあります。



M-6232

⚠ バッテリーの近くに裸火（マッチ、ライター、タバコの火など）を近づけたり、ケーブルをショートさせない。

【守らないと】

バッテリーからは水素ガスの発生があり、引火爆発のおそれがあります。



F-8836

⚠ ワイヤハーネスやバッテリーコードなど電気配線に被覆の破れや、挟み込みがないか点検する。

【守らないと】

ショートによる火災発生のおそれがあります。

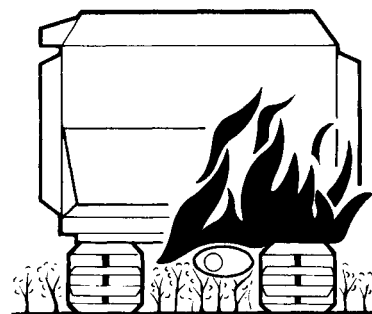


B-1500

⚠ 機体にカバー（おおい）をかけるときは、エンジン、マフラが冷えてから掛ける。

【守らないと】

火災が発生するおそれがあります。



M-6238

安全に作業するために

◆点検整備時の注意事項

⚠ 定期点検整備を行ない、各部の保守をする。

【守らないと】

整備不良による事故で傷害を負うおそれがあります。

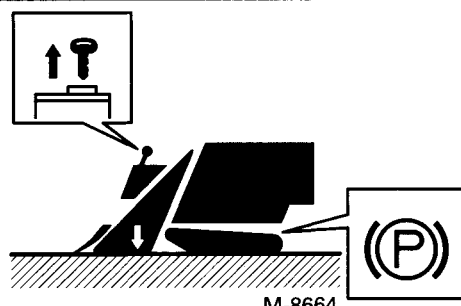


M-6220

⚠ 各部の点検・整備・交換・掃除を行なうときは、平坦な場所で、エンジンを必ず止めて、キーを抜き、各クラッチレバーを“切”位置にして、駐車ブレーキを掛ける。

【守らないと】

機械に挟まれたり、巻込まれて傷害を負うおそれがあります。

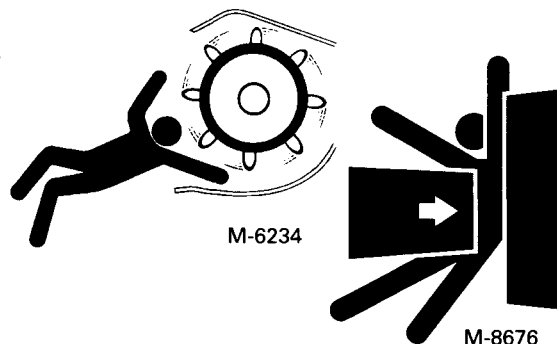


M-8664

⚠ こぎ胴、カッタ、結束機をオープンしたときは、ストッパで固定する。

【守らないと】

機械に挟まれて傷害を負うおそれがあります。



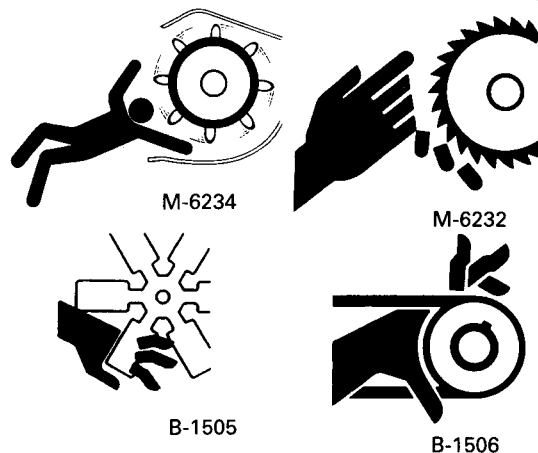
M-6234

M-8676

⚠ こぎ胴、カッタ、結束機、エンジンルーム、グレンタンクをオープンしたままエンジンを回さない。

【守らないと】

内部の回転物に接触したり、巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。



M-6234

M-6232

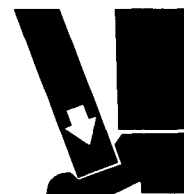
B-1505

B-1506

▲ シーブケースやカッタ、結束機など重量物の脱着作業は、2人以上で行なう。

【守らないと】

不意の落下により、傷害を負うおそれがあります。



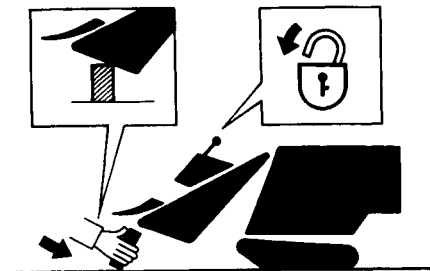
M-8659

▲ 刈取部を上げて点検・整備・掃除するときは、刈取部をロックするとともに、落下防止の歯止めをする。

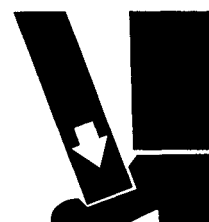
- 作業前に、エンジンを必ず止めて、駐車ブレーキを掛ける。
- 刈取部の下へもぐったり、足や手をつっこんだりしない。

【守らないと】

機械にはさまれて、傷害を負うおそれがあります。



M-6237

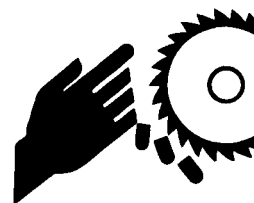


M-8659

▲ 刈刃、カッタ刃、ワラ切刃を調整・交換するときは、手袋を着用し、直接刃先に触らない。

【守らないと】

刃先で傷害を負うおそれがあります。



M-6232

▲ 取外したカバー類は、必ず取付ける。

【守らないと】

内部の回転物に接触したり、巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。



B-1506



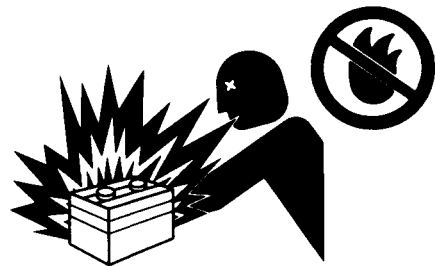
安全に作業するために

⚠ バッテリーを取外すときは、最初にマイナス⊖側のケーブルを取外す。

- バッテリーの近くに裸火（マッチ、ライター、タバコの火など）を近づけたり、ケーブルをショートさせない。
- バッテリーを取付けるときは、最初にプラス⊕側のケーブルをプラス⊕側の端子に取付ける。

【守らないと】

ヤケドや発火爆発のおそれがあります。



F-8836

⚠ バッテリーは液面がLOWER（最低液面線）以下になっただままで使用や充電をしない。

- バッテリー液が不足していれば、すぐにUPPER LEVEL（上限）とLOWER LEVEL（下限）の間に補水する。
- 充電は機械から取外して行なう。
- 充電は風通しのよい所で行なう。
- 放電したバッテリーにブースタケーブルなどを接続して始動するときは、取扱方法をよく読みそれに従う。

【守らないと】

LOWER（下限）以下で使用や充電を続けると、バッテリーの寿命を縮めるばかりでなく、爆発の原因となることがあります。



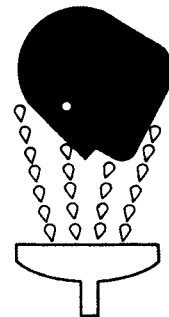
F-8836

⚠ バッテリー液（希硫酸）を体に付着させない。

- 目に入ったときや飲込んだときは、すぐ水でよく洗った後、医師の治療を受ける。
- 皮ふ、衣服についたときは、すぐ水でよく洗う。

【守らないと】

失明やヤケドのおそれがあります。



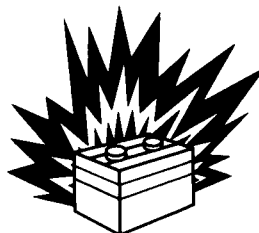
F-8837

⚠ 指定外のバッテリーは使わない。

- 取扱説明書で指定しているバッテリーを使用する。

【守らないと】

思わぬ事故が発生するおそれがあります。



F-8836改



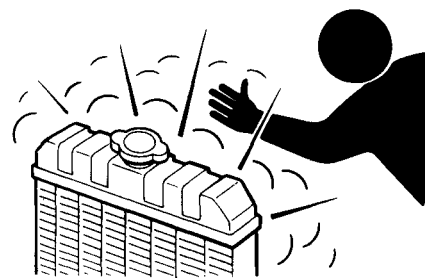
M-6465

⚠ ラジエータの圧力キャップやリザーブタンクは、エンジンが冷えてから開ける。

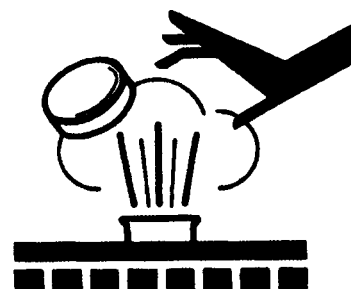
- エンジン停止後、30分以上経過してからエンジンルームを開け、ラジエータの圧力キャップを徐々にゆるめて蒸気の圧力を抜いてから開ける。

【守らないと】

熱湯や蒸気が吹き出して、ヤケドや傷害を負うおそれがあります。



B-1503



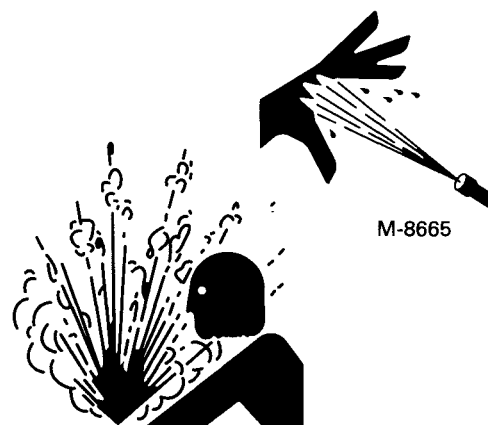
F-8846

⚠ フューエルパイプ、ラジエータホース、オイルドレインホースは、2年ごとに交換する。

- ゴム類は時間がたつと劣化するので、定期的に交換する。

【守らないと】

燃料や熱湯がもれて、火災やヤケドを負うおそれがあります。



M-8665

M-8666

⚠ 燃料噴射管や油圧パイプなどからの高圧油の漏れは、厚紙や板などを使って点検する。

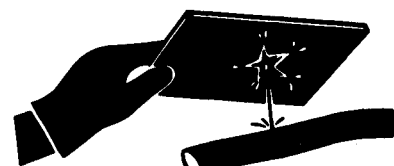
- 高圧噴油に直接手を触れない。もし、触れた場合は、直ちに医師の診断を受ける。

【守らないと】

油が皮ふに侵入して、えそにかかるおそれがあります。



F-8847



B-1504

安全に作業するために

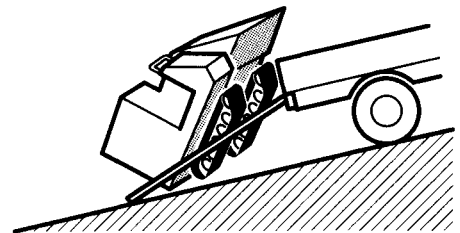
◆運搬時の注意事項

トラックへの積込み・積降しは平坦地で行なう。

- 機械の重量であゆみ板が傾いたりしない場所を選ぶ。
- トラックの駐車ブレーキをしっかり掛ける。
- できるだけ助手の立ち会い誘導のもとに行なう。
- 周囲に人を近づけない。

【守らないと】

あゆみ板がずれたり、トラックが動いたりして機械が落下するおそれがあります。



M-8672

積込み・積降しには基準に合ったあゆみ板を使う。

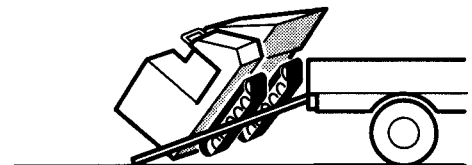
●あゆみ板の基準

長	さ	トラックの荷台の高さの4倍以上
幅		50cm以上
数	量	2枚
強	度	1枚が1200kg以上に耐えうる

- あゆみ板はフック、すべり止めがついているものを使う。
- あゆみ板はトラックの荷台に平行に確実に掛ける。

【守らないと】

あゆみ板がずれたり、外れたりして機械が落下するおそれがあります。



M-8673

積込み・積降し前に、もみはすべて排出、又は降ろす。

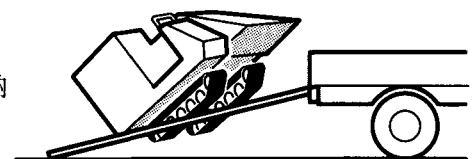
- アンローダを下げ、アンローダ支えに収納してバンドを掛ける。

【G仕様】

- 折りたたみ式のアンローダ（ロングオーガ）は、折りたたんで収納する。**【G仕様】**

【守らないと】

バランスがくずれて、転倒・転落するおそれがあります。



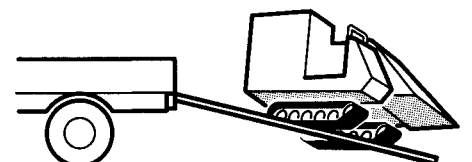
M-8674

トラックへの積込み・積降しは最低速で行なう。

- 積込みは前進で、積降しは後進で行なう。
- 結束機付きの場合は、積込みは後進で、積降しは前進で行なう。

【守らないと】

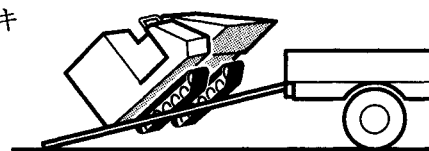
バランスがくずれて、転倒・転落するおそれがあります。



M-8675

▲ あゆみ板の上では方向修正しない。

- あゆみ板を走行するときは、機体から降りる。
- あゆみ板の上では、パワーステアリング・副変速レバー・駐車ブレーキレバーは操作しない。
- 方向を変えるときは、いったん地上、又は荷台にもどって方向を修正し、再度やり直す。



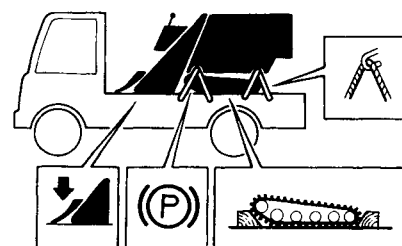
M-8674

【守らないと】

急旋回したり、暴走して落下するおそれがあります。

▲ トラックの上では、刈取部を床に当たるまで降ろして、駐車ブレーキを掛ける。

- 副変速レバーを中立以外の変速段にする。
- 所定の“ロープ掛けフック（4カ所）”にロープを掛けてしっかり床に固定する。
- 車止めをする。



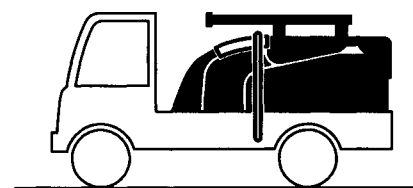
M-6224

【守らないと】

機械が動き、思わぬ事故のおそれがあります。

▲ トラックに積んだときは、機体の各カバーを固定する。

- 樹脂カバー、着脱の簡単なカバー、折りたたみ部品などは、ロープで確実に固定するか、外して荷台に置く。
- 防じんカバーは閉じる。【防じんカバー付き】



M-8671

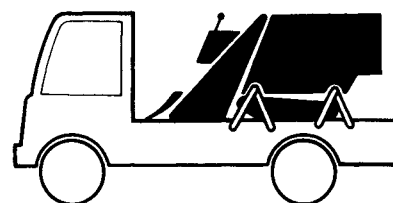
【守らないと】

輸送中に風圧で破損、脱落のおそれがあります。

▲ 輸送中の急発進、急ブレーキ、急旋回は避ける。

【守らないと】

輸送中に機械が動き、思わぬ事故のおそれがあります。



M-6218

安全に作業するために

2. 安全作業するための ▲ 表示ラベル

◆ ▲ 表示ラベルの内容・貼付位置

①品番 52166-2575-1



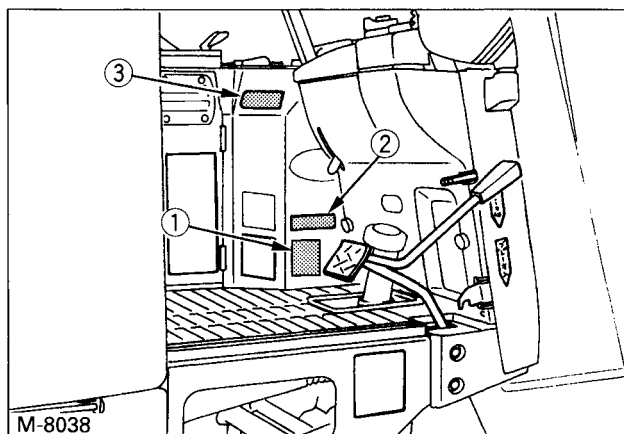
注 意



火気厳禁

・火災のおそれがあるので給油するときはエンジンを止めること。

ディーゼル軽油



②品番 52166-3533-1



刈取部が不意に下降してはさまれる危険があるので、刈取部を上げて点検・調整するときはロック金具を必ずロックすること。

③品番 52320-3167-1



注 意

エンジンを始動するときは、駐車ブレーキをかけて、脱こくクラッチを「切」にすること。

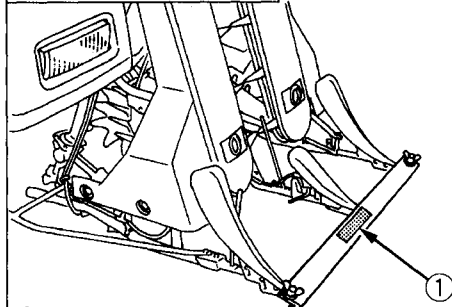
①品番 59700-4332-2



注意

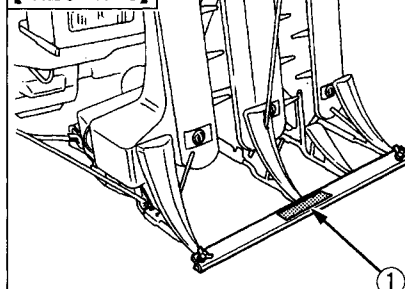
デバイダ先端に当たるとケガをするおそれがあるので、移動するときは必ず本品を取り付けること。

[165-195-215-R218S]



M-7148

[M20-M23]



M-8057 改

①品番 53981-6432-1



注

意

中に回転物がありケガをするので、
点検・調整時はエンジンを必ず止めること。
点検・調整後はカバーを必ず取付けること。

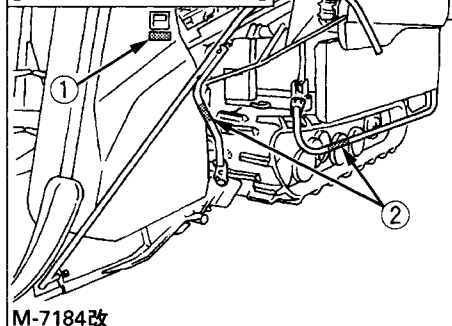
②品番 59700-2136-2



注意

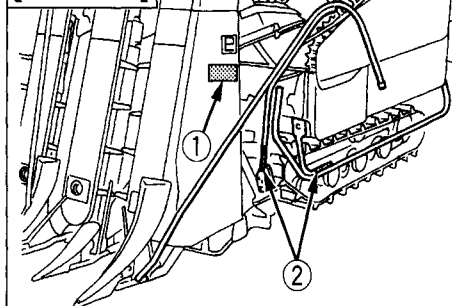
人に当たりケガをさせるおそれがあるので、
移動するときは必ず収納すること。

[165-195-215-R218S]



M-7184 改

[M20-M23]



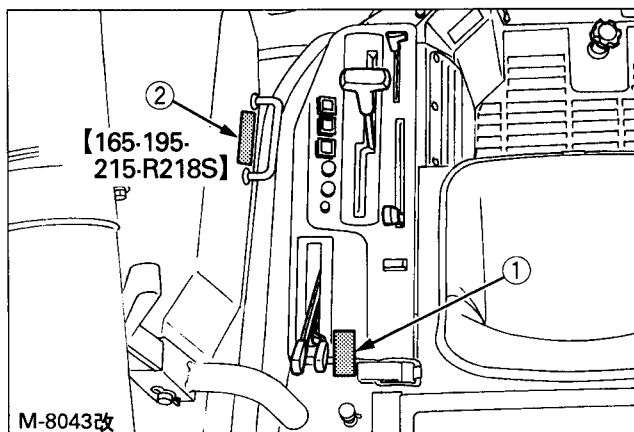
M-8090 改

安全に作業するために

①品番 52166-3512-2



エンジンルームをオープンし点検調整後は、必ず「クランプ」で確実にロックすること。ロックしないと走行中不意にオープンすることがあり危険です。

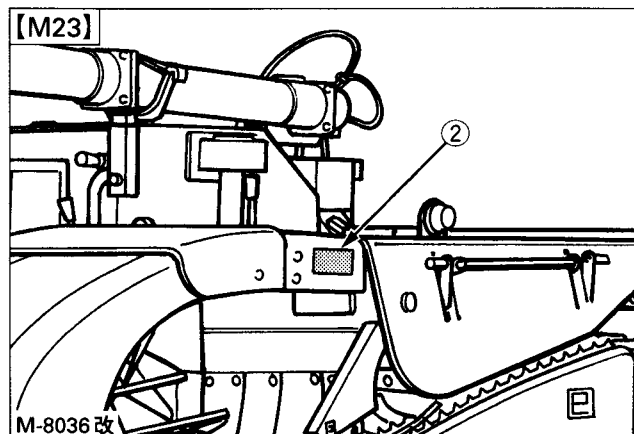
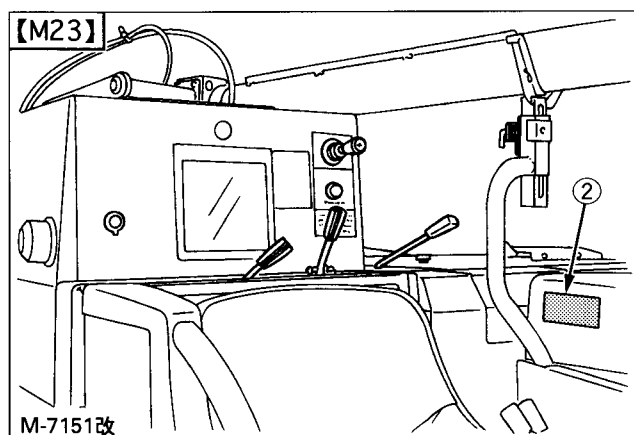


②品番 52000-7917-2 【HD仕様】



注 意

トラックで輸送するときは、風圧でカバーが浮き破損・脱落し、ケガをさせるおそれがあるので、刈取部を下げて、ボウジンカバーを閉じ、ロープ等で浮き上がりを防ぐこと。



必ず読んで
ください。

①品番 52320-3292-5

注意**作業前**

1. 安全に作業するために、取扱説明書を読んで、機械の使い方を覚えること。
2. エンジンを始動するときは、各クラッチを「切」にし、主変速レバーを「N」（中立）にすること。
3. 屋内は排気ガスが溜まりやすく、ガス中毒のおそれがあるので、換気すること。
4. ケガをするおそれがあるので、掃除・点検・調整のときは各クラッチを切りエンジンを必ず止めること。

移動・作業中

1. 発進するときや脱こく部・刈取部を 작동させるときは、周囲の安全を確かめ合図をして、機械に人を近づけないこと。
2. 緊急停止が必要なときは、ブレーキペダルをすみやかにいっぱい踏み込むこと。
3. 転倒・転落事故のおそれがあるので、傾斜地・路肩の軟弱な道路・かげざななどは走行しないこと。また移動走行で旋回するときは、必ず減速すること。
4. 急発進・暴走のおそれがあるので、副変速を切換えるときは、平坦な場所で、主変速レバーを「N」（中立）にし、ブレーキペダルをいっぱい踏み込むこと。
5. 刈取作業時以外（特に、あぜ越え時・移動走行時・運搬時格納時）は「もみ」はすべて排出、あるいは降ろすこと。

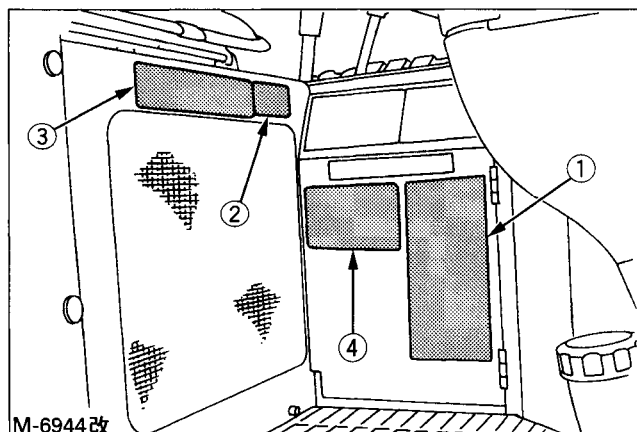
積込み・積降し・あぜ越え

転倒・転落事故のおそれがあるので、車への積込みおよびあぜ越えをするときは以下を守ること。

- ① 上るときは前進で、降ろすときは後進で行う。結束機付きの場合は、上るときは後進で、降ろすときは前進で行うこと。
- ② 副変速レバーを「低速」、主変速レバーを低速側にし、エンジンの回転を落とすこと。
- ③ 運転者は機械から降りて操作すること。
- ④ パワーステアリングレバーを操作しないこと。方向を変えるときは、いったん地上又は荷台に戻って向きを正し、再度やり直すこと。
- ⑤ あゆみ板は、段差の4倍以上の長さですべり止めがあり、基準に合ったものを使うこと。

駐・停車

1. 火災のおそれがあるので、機械を停止するときは、切りわから雑草の上に止めないこと。
2. 機械から離れるときは、エンジンを止めて「始動キー」を抜き、駐車ブレーキを必ずロックすること。また坂道で駐車するときは、車止めをして暴走を防ぐこと。



④品番 52320-3158-4

注意

傾斜地での暴走を防ぐため必ず下記を守ること。

1. 駐車ブレーキをかけるときは、すみやかにいっぱい下げること。
2. 車止めをすること。

駐車ブレーキのかけ方

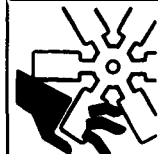
- ① 駐車ブレーキレバーを下げる。駐車ブレーキレバー
- ② ブレーキフックを出す。
- ③ レバーをフックに引っ掛ける。

②品番 52320-3159-1

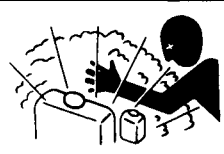
注意

マフラ・ハイキカン・エンジンなどの高温部に触れるとヤケドをするので、高温部に絶対に触れないこと。

③品番 52450-3166-2

注意

エンジンを回転したままエンジンルームを開けるとファンやベルトでケガをするおそれがあるのでエンジンルームを開けるときは、エンジンを必ず止めること。

注意

オーバーヒートでエンジンルームを開けて点検整備するときは、次の手順を守ること。

1. エンジンを止める。
2. 必ず停止後30分以上経過してからエンジンルームを開けること。
エンジンが冷えていないときは、ラジエータ部・リザーブタンク部より熱湯が吹き出し、ヤケドをするおそれがある。



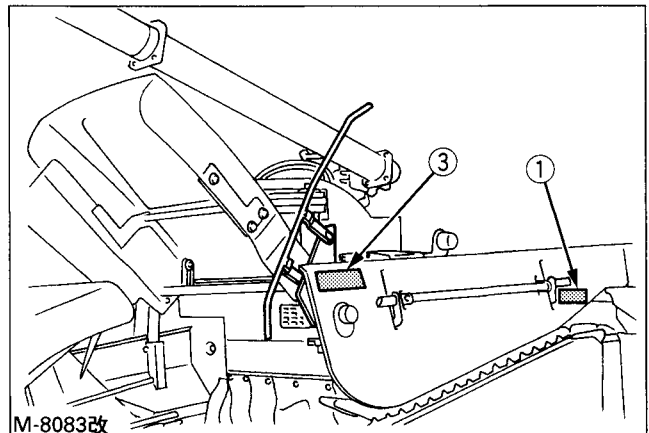
安全に作業するために

①品番 53982-6431-1



警告

中で扱歯が高速で回転しているので、接触するとケガをします。扱胴オープンするときにはエンジンを必ず止めること。

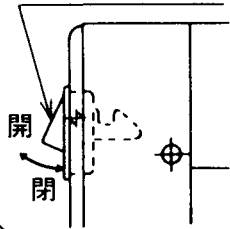


M-8083改

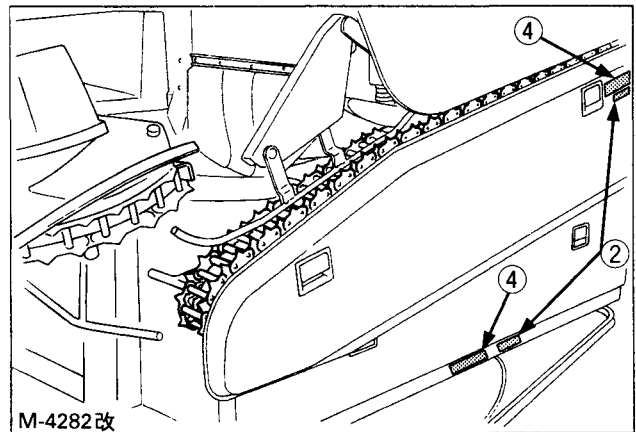
②品番 57745-5319-1

注意

ロックハンドル



1. このカバーを閉じる場合、ロックハンドルを必ず閉位置にすること。
2. ロックが確実にされていないと、落下し危険です。



M-4282改

③品番 53981-6435-2



警告

1. わら等の巻付き・詰まり除去のときは、エンジンを必ず止めること。
2. 手こぎ作業で、手・腕をチェーンにはさまれてケガをするおそれがあるので、下記を守ること。
 - ・ 平坦な所で走行部・刈取部を止めること。
 - ・ 手・腕をチェーンの外側に位置させ、わらを少しづつ送り込むこと。

④品番 53981-6436-2



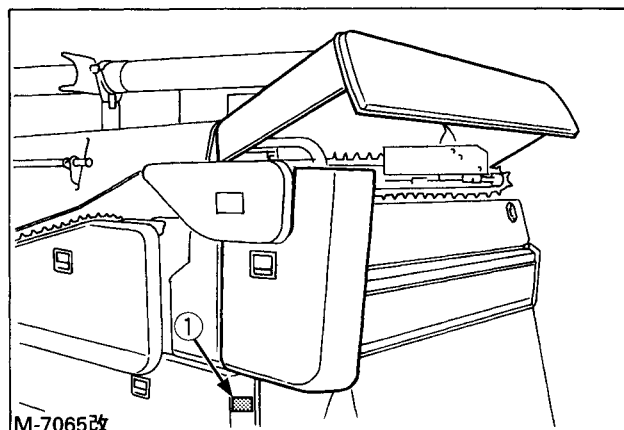
注意

1. 回転物に接触するとケガをするおそれがあるので、カバーの下側に手を入れないこと。
2. 点検・調整時はエンジンを必ず止めること。
3. 点検・調整後はカバーを必ず取付けること。

①品番 53690-3129-2

▲ 注意

中に回転物がありケガをする
おそれがあるので、運転中は
絶対に手を入れないこと。



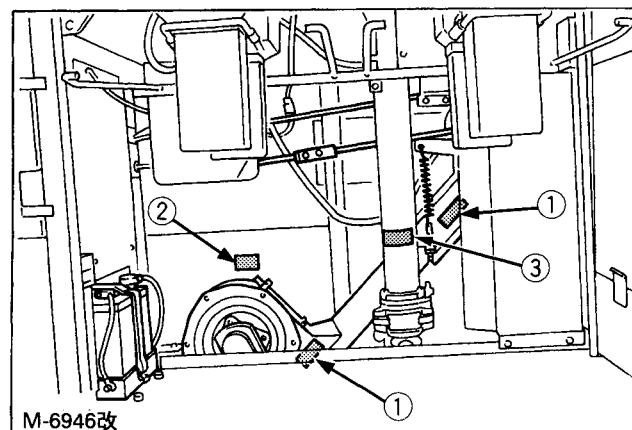
M-7065改

①品番 53981-6434-1

▲ 注意

掃除口

中に回転物がありケガをするので、
清掃時はエンジンを必ず止めること。
清掃後はフタを必ず閉じること。

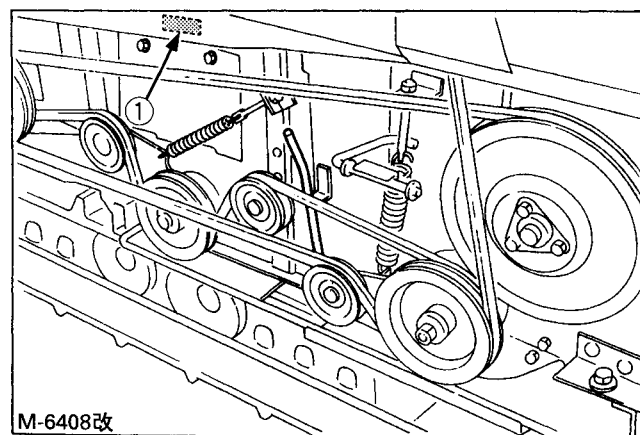


M-6946改

②品番 53690-3129-2

▲ 注意

中に回転物がありケガをする
おそれがあるので、運転中は
絶対に手を入れないこと。

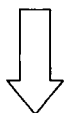


M-6408改

③品番 53681-6434-2

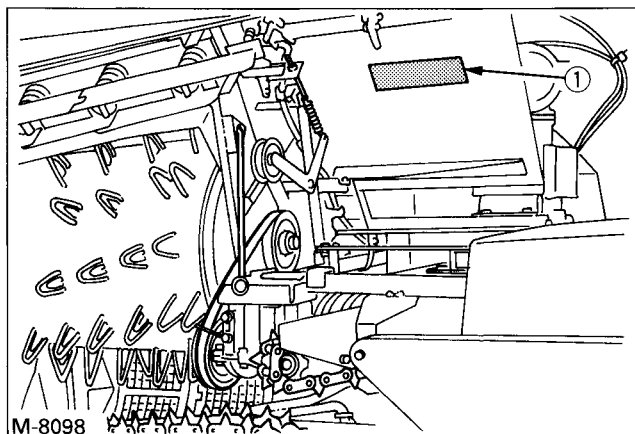
▲ 注意

掃除口



中に回転物がありケガをするので、
清掃時はエンジンを必ず止めること。
清掃後はフタを必ず閉じること。

安全に作業するために

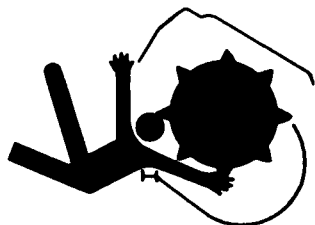


①品番 53981-6416-2



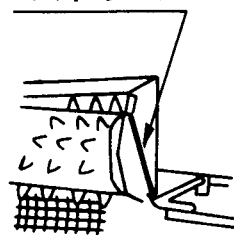
警

告



1. 扱胴オープンした状態で脱こく機を回転させると非常に危険です。エンジンは、絶対に始動しないこと。
2. 扱胴をオープンして、受網の脱着や扱室の掃除をするときは扱胴が落下して身体がはさまれることがあるので、ストッパで必ず固定すること。

ストッパ



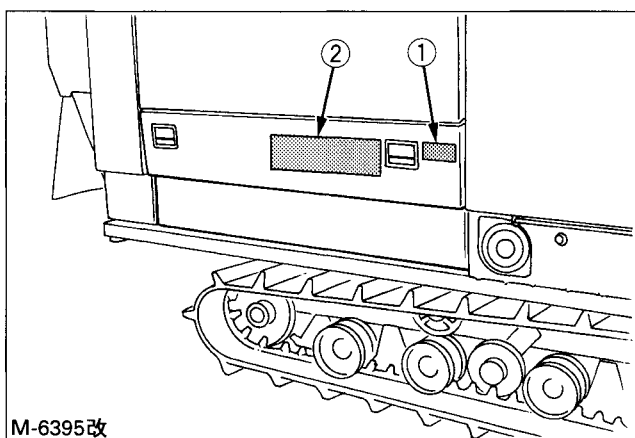
①品番 53981-6432-1 【G仕様】



注

意

中に回転物がありケガをするので、
点検・調整時はエンジンを必ず止めること。
点検・調整後はカバーを必ず取付けること。



M-6395改

②品番 58058-8171-1 【G仕様】



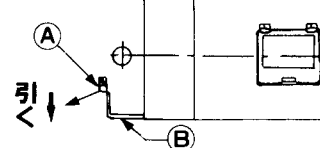
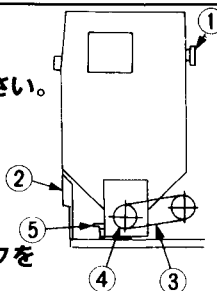
注

意

グレンタンクをオープンするときは、ベルトに手をはさまれたり、タンクに身体がはさまれるおそれがあるので、「もみ」を排出し、平坦な場所に停止し、エンジンを必ず止めること。

◆タンクオープンのしかた

1. タンクをオープンするときは、カッタを閉じて行って下さい。
2. タンク固定用ノブボルト①をはずしてください。
3. カバー②を外し、ベルト③をプーリ④からはずして、タンク固定ピン⑤を抜いてください。
4. タンク右下の取手を持ってタンクを開いてください。
5. タンクを元に戻すときは、上記の逆の順番で確実にタンクを固定し、ベルトをかけ忘れないようにしてください。



◆カバー-Bを開くときは、カバー-Aの取っ手を引いてください。
カバー-Bを閉じるときは、カバー-Bを押してください。

①品番 5G021-1714-2 【165・195・215・R218SG仕様】

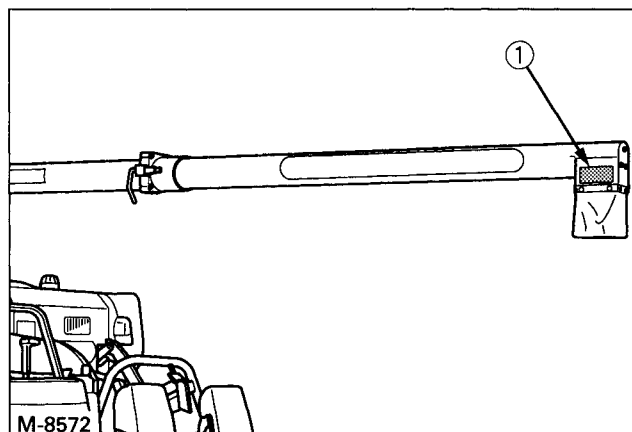
▲ 注意

アンローダの中に
回転物がありケガ
をするおそれがある
ので、運転中は
絶対に手を入れないこと。

余裕



袋詰め時、余裕を
持って排出クラッ
チを切ること。
アンローダが詰ま
ると、駆動系統の
故障の原因になり
ます。



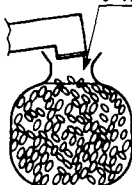
M-8572

①品番 59715-6425-2 【M20・M23G仕様】

▲ 注意

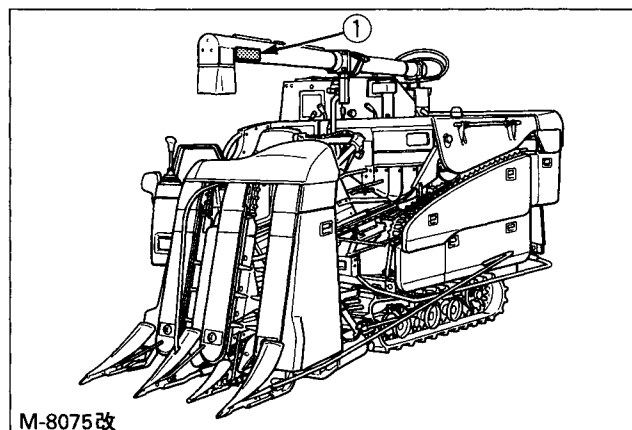
中に回転物がありケガ
をするおそれがあるの
で、運転中は絶対に手
を入れないこと。

余裕



袋詰め時、余裕を持って
排出クラッチを切ること。

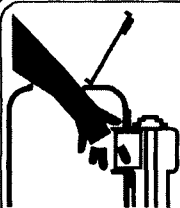
アンローダが詰まると、
駆動系統の故障の原因
になります。



M-8075改

①品番 5H250-5338-1 【ホッパ仕様】

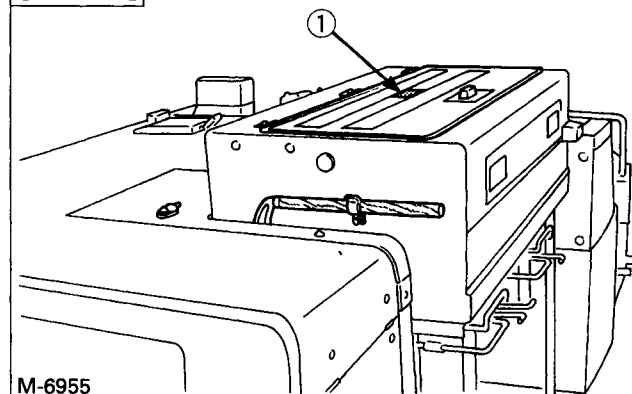
▲ 警告



1. タンクの中に回転物がありケガをする
おそれがあるので、運転中は絶対に手
を入れないこと。
2. 手を入れるときは必ずエンジンを停止
すること。

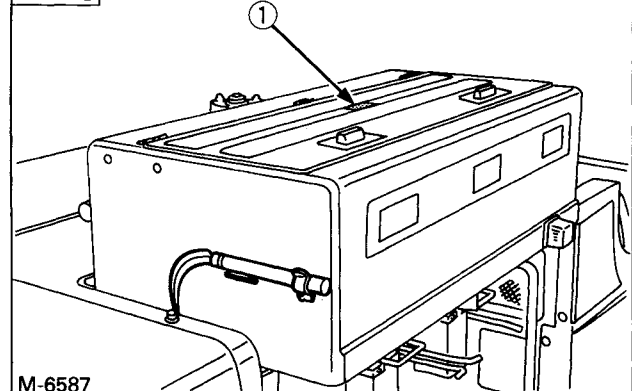
変形や落下のおそれがあるので、タンクの上に
物を載せないこと。

【165・195】



M-6955

【M23】



M-6587

安全に作業するために

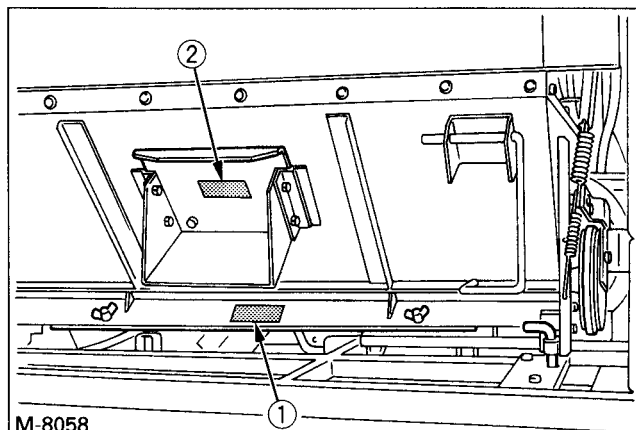
①品番 53981-6434-1【G仕様】



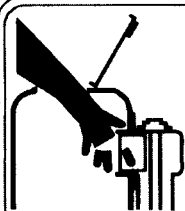
注意

掃除口

中に回転物がありケガをするので、
清掃時はエンジンを必ず止めること。
清掃後はフタを必ず閉じること。



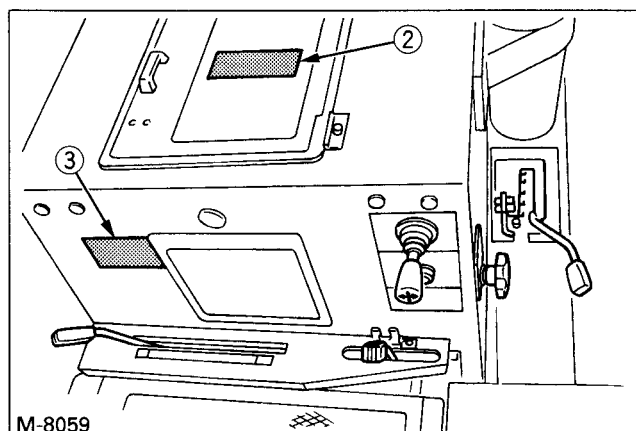
②品番 5H250-5338-1【G仕様】



警告

1. タンクの中に回転物がありケガをするおそれがあるので、運転中は絶対に手を入れないこと。
2. 手を入れるときは必ずエンジンを停止すること。

変形や落下のおそれがあるので、タンクの上に物を載せないこと。



③品番 58071-8173-1【G仕様】

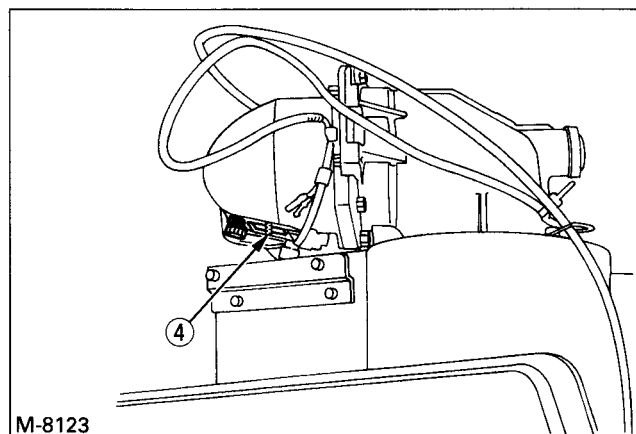


注意



1.手をはさみ、ケガをするおそれがあるので、アンローダササエの上に手を置かないこと。

2.アンローダ先端が大きく動き、ケガをするおそれがあるので、アンローダの作用範囲に人がいるときは、アンローダを動かさないこと。



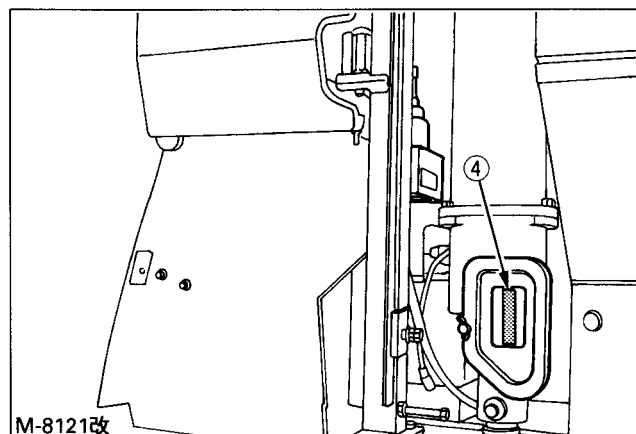
④品番 58071-8174-1【G仕様】



注意

掃除口

清掃中は必ずエンジンを止めること。
清掃後は必ずエンジンを止めること。
清掃中は必ずエンジンを止めること。
清掃後は必ずエンジンを止めること。



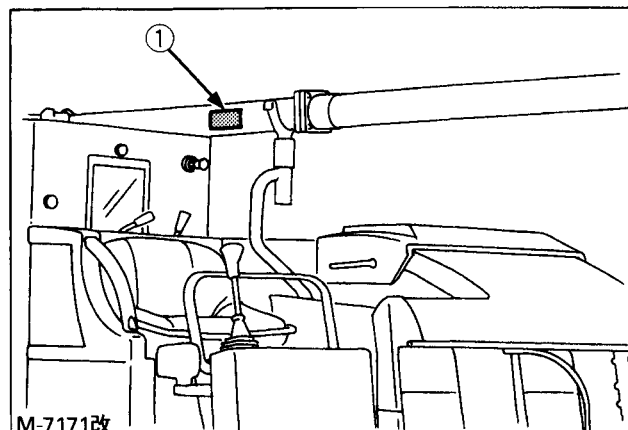
必ず読んで
ください

①品番 5G001-8172-1【M20・M23・R218SG仕様】

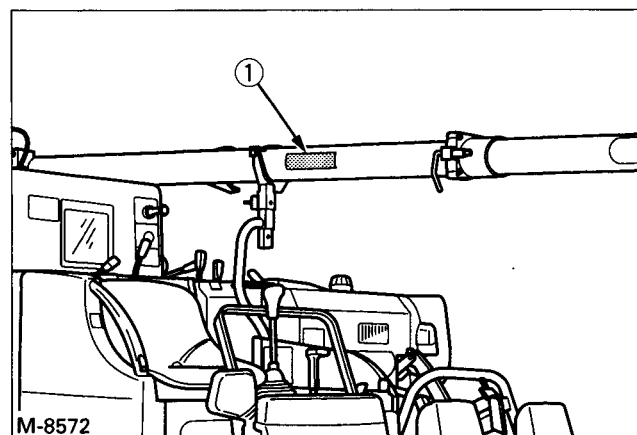
注意

あぜ越え・移動時およびトラックで輸送する場合、アンローダが人・物にぶつかる危険があるので下記を守ること。

1. アンローダササエを下げる。
2. アンローダを収納する。
3. 延長アンローダの場合は折りたたむ。
4. アンローダが浮き上がらないようにバンドで固定する。



M-7171改



M-8572

①品番 5G021-1713-2【165・195・215G仕様】

注意



手をはさみ、ケガをするおそれがあるので、「アンローダ受け」に手を置かないこと。

アンローダ先端が大きく動き、ケガをするおそれがあるので、アンローダの作用範囲に人がいるときはアンローダを動かさないこと。

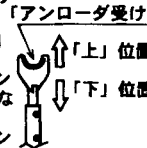
アンローダが自然に動きケガをするおそれがあるので、アンローダを伸ばしたり、折りたたんだりするときはアンローダを水平の状態にしエンジンを止めること。

あぜ越え・移動時およびトラックで輸送する場合、アンローダが人・物にぶつかる危険があるので下記を守ること。

1. 「アンローダ受け」を「下」位置にする。
2. アンローダを収納する。
3. アンローダを折りたたむ。
4. アンローダを浮き上がらないようにバンドで固定する。

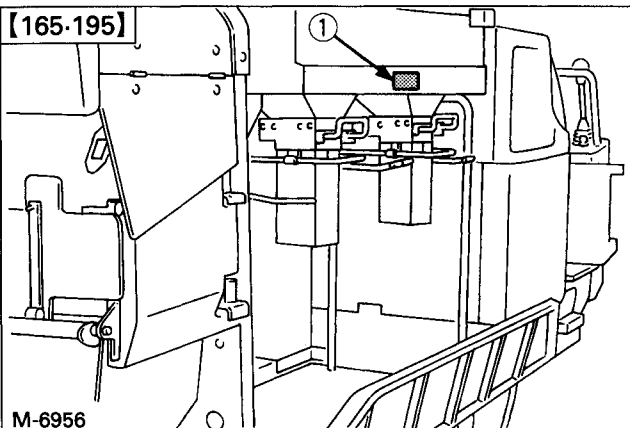
「アンローダ受け」の取扱い
アンローダからの「もみ」こぼれをなくすために下記を守ってください。

1. 作業時は「アンローダ受け」を「上」位置にしてください。
2. 「もみ」の排出を途中で止めて、アンローダを「アンローダ受け」に戻さないでください。
3. アンローダを折りたたむときは、アンローダをいったん最上位まで上昇させた後、「アンローダ受け」に戻してか折りたたんでください。



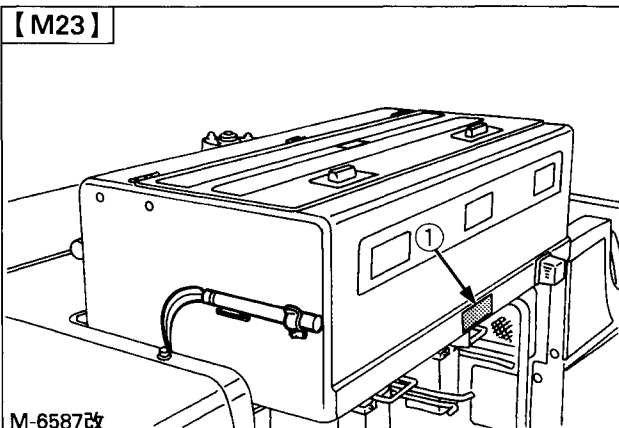
安全に作業するために

【165-195】



M-6956

【M23】



M-6587改

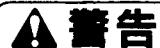
①品番 52166-2119-2 【ホッパ仕様】



注意

1. 転落のおそれがあるので補助デッキには乗らないこと。
2. 移動するときは、人に当たってケガをさせるおそれがあるので、補助デッキを必ず収納すること。

①品番 53981-6188-2



警告

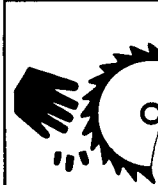


1. カバーの中に回転物がありケガをするので手を絶対に入れないこと。
2. ワラ・雑草などの巻付や詰りを取除くときは、エンジンを必ず止めること。

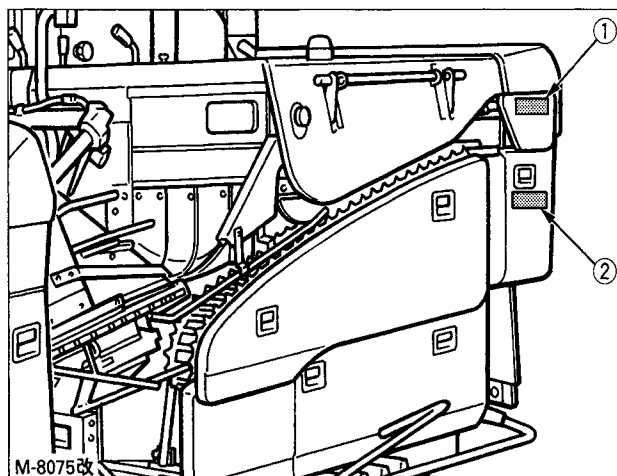
②品番 57745-5314-2



警告



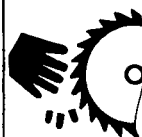
1. カッタの刃に接触すると手・指を切断するおそれがあるので、手を絶対に入れないこと。
2. チェーン・ベルトに接触すると、手をケガするので、手を絶対に入れないこと。
3. カッタ開閉時はエンジンを必ず止めること。
4. カッタをオープンしたまま運転しないこと。
5. 点検・調整、ワラ・雑草などの巻付きや詰りを取除くときはエンジンを必ず止めること。
6. 点検・調整などが終わったら、カバーを元通りに必ず取り付けること。



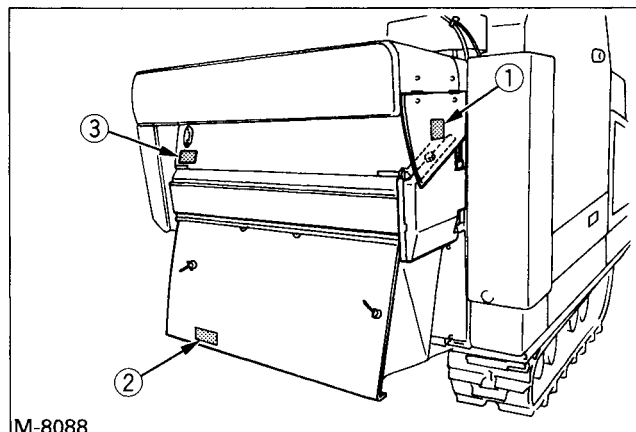
M-8075改

①品番 53981-6191-1

警告

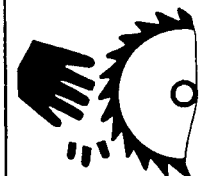


1. カッタの刃に接触すると手・指を切断するおそれがあるので、手を絶対に入れないこと。
2. ワラ・雑草などの巻付きや詰りを取除くときは、エンジンを必ず止めること。
3. カッタ作業時は、カバーを必ず閉じること。

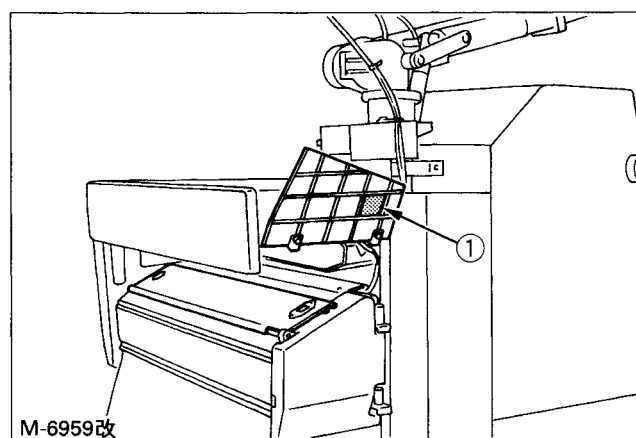


②品番 57745-5315-3

警告



1. このカバーの中は刃物が回転しており危険なので、手を絶対に入れないこと。
2. ワラ・雑草などの巻付きや詰りを取除くときは、エンジンを必ず止めること。

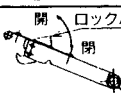


③品番 57749-5315-1

警告



1. このカバーの中は刃物が回転しており危険なので、手を絶対に入れないこと。
2. 点検・調整、わら・雑草などの巻付きや詰りを取除くときはエンジンを必ず止めること。
3. 点検・調整などが終わったら、危険ですのでカバーを元通りに必ず戻すこと。

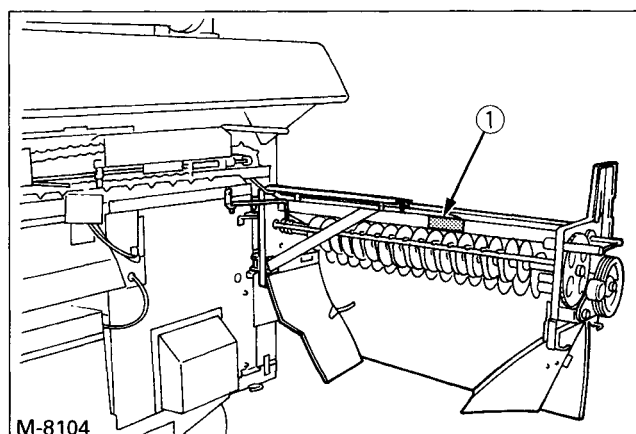


1. このカバーを閉じる場合、ロックハンドルを必ず「閉」位置にすること。
2. ロックが確実にされていないと、エンジンをかけ脱こクラッチを入るとエンジンが停止します。

①品番 57745-5124-1

注意

1. カッタをオープンしたら、不用意な動きを防ぐため規制金具で確実にロックすること。
2. カッタの刃に触れると手・指を切るので、巻付きや詰りを取除くとき刃に絶対触れないこと。





安全に作業するために

必ず読んで
ください。

◆▲表示ラベルの手入れ

▲表示ラベルをよく読み理解して、安全注意事項を守る

- ラベルは、いつもきれいにして傷つけないようにする。
- ▲表示ラベルがよごれた場合は、石鹼水で洗い、やわらかい布でふく。
シンナーやアセトンなどの溶剤を使うと、文字や絵が消えることがあります。
- 高圧洗浄機で洗車すると、高圧水によりラベルが剥がれるおそれがあるので、高圧水を直接ラベルにかけない。
- 破損や紛失したラベルは、製品購入先に注文し、新しいラベルに張り替える。
- 新しいラベルを貼る場合は、貼付面の汚れを完全にふき取り、乾いた後、もとの位置に貼る。
- ラベルが貼付けされている部品を新部品と交換するときは、ラベルも同時に交換する。

サービスと保証について

この製品には、保証書【165・195・215・R218S】サービスブック【M20・M23】が添付してありますのでご使用前によくご覧ください。

■ご相談窓口

ご使用中の故障やご不審な点及びサービスについてのご用命は、お買上げいただいたご購入先に“**ご相談窓口**”を設けておりますのでお気軽にご相談ください。

その際 (1)商品名・区分と車台番号

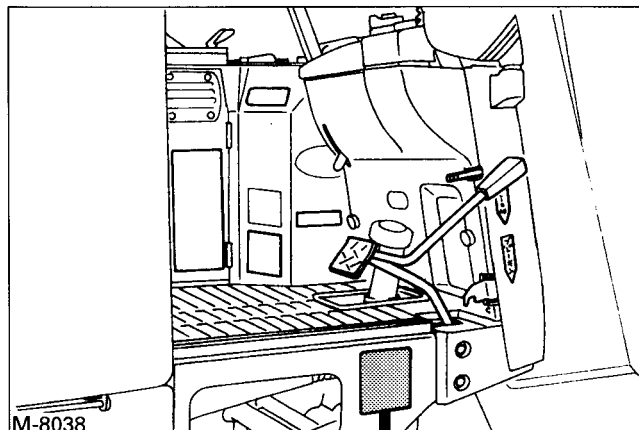
(2)とう載機関(エンジン)の型式名と機関番号をあわせてご連絡ください。

なお、部品ご注文の際は、ご購入先に純正部品表を準備しておりますので、そちらでご相談ください。

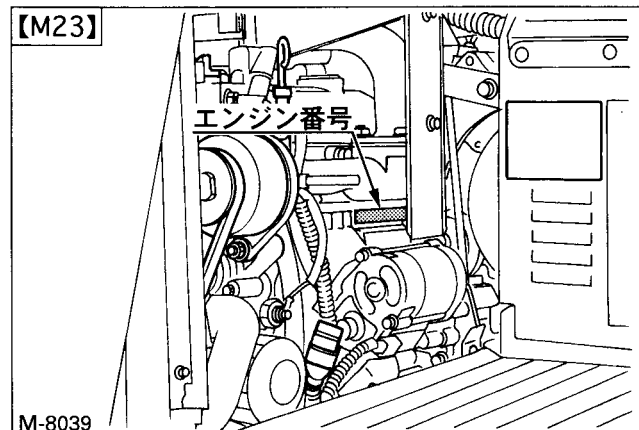
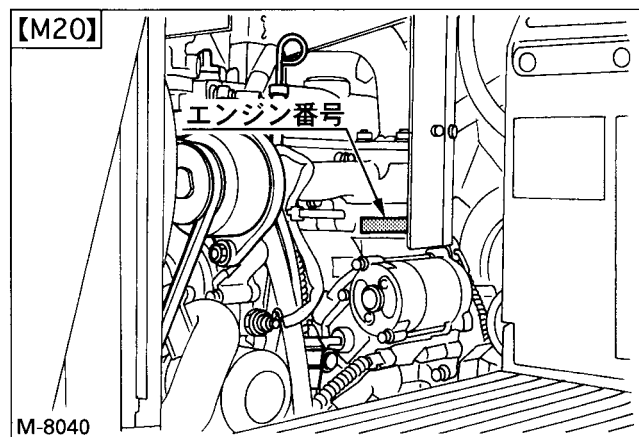
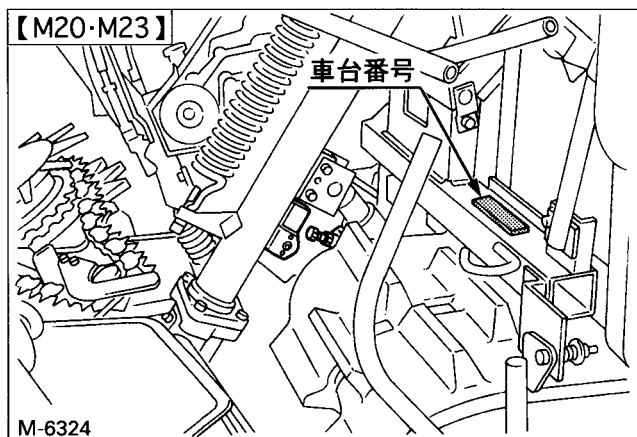


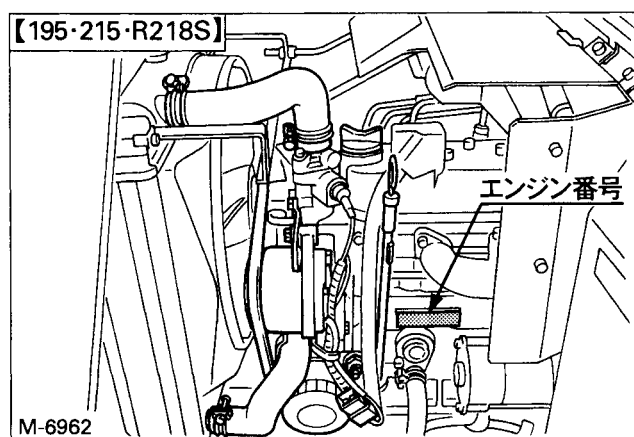
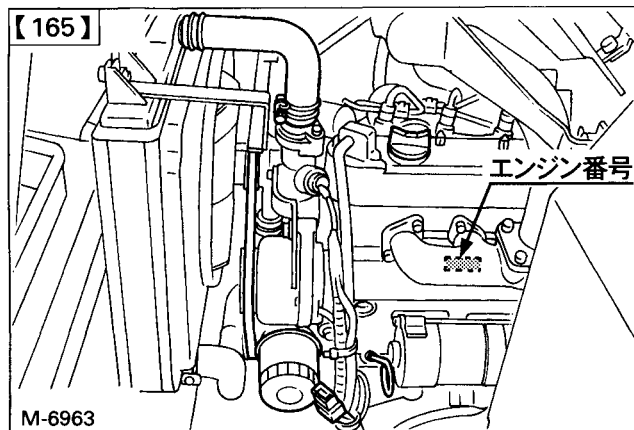
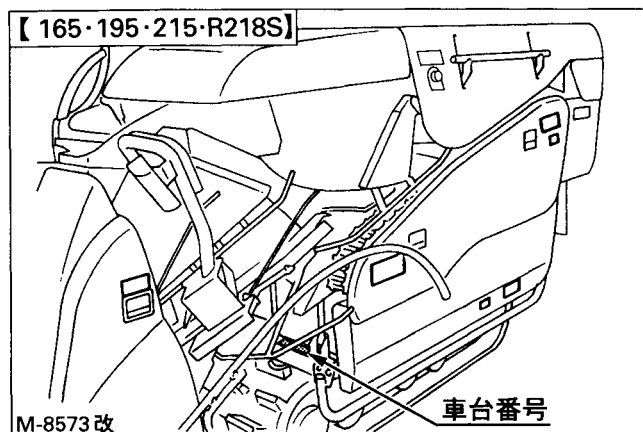
警告

*機械の改造は危険ですので、改造しないでください。改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は、メーカー保証の対象外になるのでご注意ください。



農業機械の種類		コンバイン (自脱型)	
農機	型式名	クボタ	
商	品	名	
区	分		
車	両	型式名	クボタ
車	台	番	号
刈	取	条	数
と	う	型	式
載	機	関	番
機	関	番	号
関	機	関	番
製	造	元	株式会社クボタ





◆認定番号

農機型式名及び認定番号が必要な場合は、下記の型式名及び番号をご使用ください。

商品名	農機型式名	安全鑑定番号	小型特殊自動車		摘 要
			車両型式名	型式認定番号	
SR165J/A	クボタR9601	21188	クボタC215	農2007	ホッパ仕様
SR165JG/AG	クボタR9601G	21189	クボタC215	農2007	グレンタンク仕様
SR195J/A	クボタR9602	21190	クボタC216	農2008	ホッパ仕様
SR195JG/AG	クボタR9602G	21191	クボタC216	農2008	グレンタンク仕様
SR215JG/AG	クボタR9602G	21191	クボタC216	農2008	グレンタンク仕様
R218SG	クボタR9601G	21189	クボタC216	農2008	グレンタンク仕様
SR-M20AG	クボタR9514G	20119	クボタC308	農1984	グレンタンク仕様
SR-M20JG	クボタR9514G	20119	クボタC308	農1984	グレンタンク仕様
SR-M23J/A	クボタR9514	20118	クボタC308	農1984	ホッパ仕様
SR-M23JG/AG	クボタR9514G	20119	クボタC308	農1984	グレンタンク仕様

■補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限(期限)は製造打ち切り後9年といたします。

ただし、供給年限内であっても特殊部品につきましては、納期などについてご相談させていただく場合もあります。

補修用部品の供給は原則的に上記の供給年限で終了致しますが、供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格について相談させていただきます。

小型特殊自動車について

このコンバインは、道路運送車両法の農耕作業用小型特殊自動車に該当します。



警告

*道路を走行するときは、小型特殊自動車の法規を守り安全運転をしてください。



注意

*作業灯(オプション)は“道路運送車両の保安基準”第42条(灯火の色等の制限)において、“走行中に使用しない灯火”とされ、点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから道路走行中の点灯は禁止されております。

*このコンバインは、小型特殊自動車で道路運送車両の保安基準が適用されます。下記のうち一つでも条件を満足しないと保安基準に適合しませんので特にご留意してください。

1. 認定を受けたエンジン以外は搭載して走行することはできません。
2. エンジン及び本機で封印されているところはさわらないでください。封印が外されたと認められる場合は、一切の保証はいたしません。
3. 認定時の構造を変更した状態では、道路走行することはできません。
4. 結束機付きコンバインは公道を走ることができません。移動するときは、トラック輸送(“輸送について”の項参照)又は、結束機を取外してください。(カッタは、装着したままで走行できます。)

■小型特殊自動車取得の届出と標識(ナンバープレート)の取付け

新たに小型特殊自動車の所有者となった者は、市町村条例により、その取得を市町村役所に届け、標識(ナンバープレート)の交付を受けなければなりません。手続きは市町村により多少異なりますので詳細は、購入先にご相談ください。

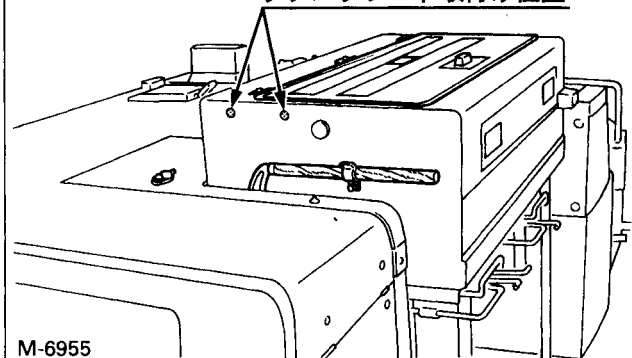
- ① 小型特殊自動車取得の証明書など(購入先で発行)に、軽自動車税を添えて市町村役所に届出ます。
- ② 届出が済むと標識(ナンバープレート)が交付されます。
- ③ 標識(ナンバープレート)を車体の取付け位置に取付けてください。

◆損害賠償保険について

万一の交通事故補償に備え、任意保険に加入されることをお勧めします。

【165・195ホッパ仕様】

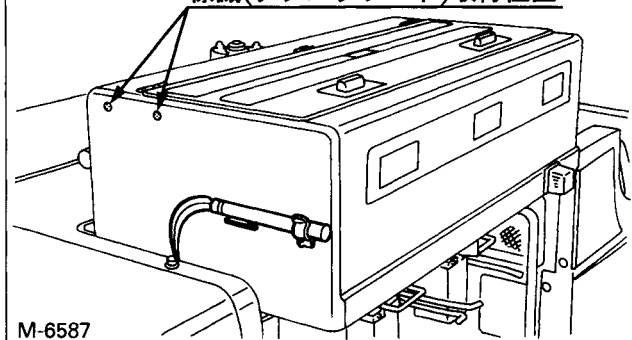
ナンバープレート取付け位置



M-6955

【M23ホッパ仕様】

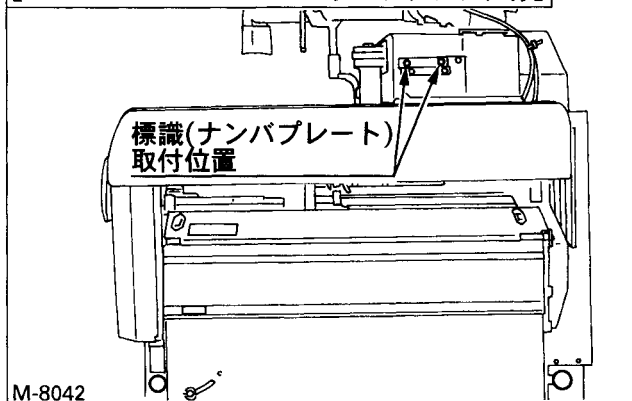
標識(ナンバープレート)取付け位置



M-6587

【165・195・215・R218S・M20グレンタンク仕様】

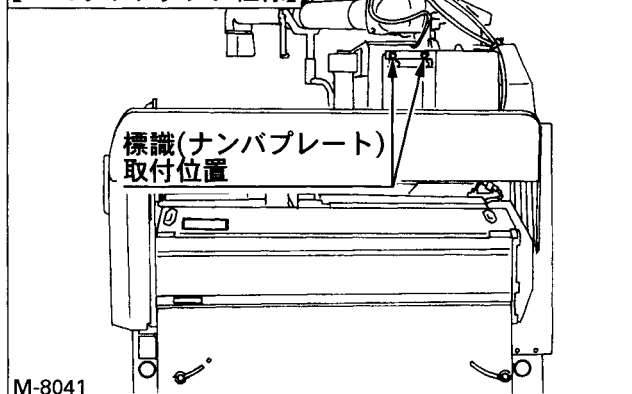
標識(ナンバープレート)取付け位置



M-8042

【M23グレンタンク仕様】

標識(ナンバープレート)取付け位置



M-8041

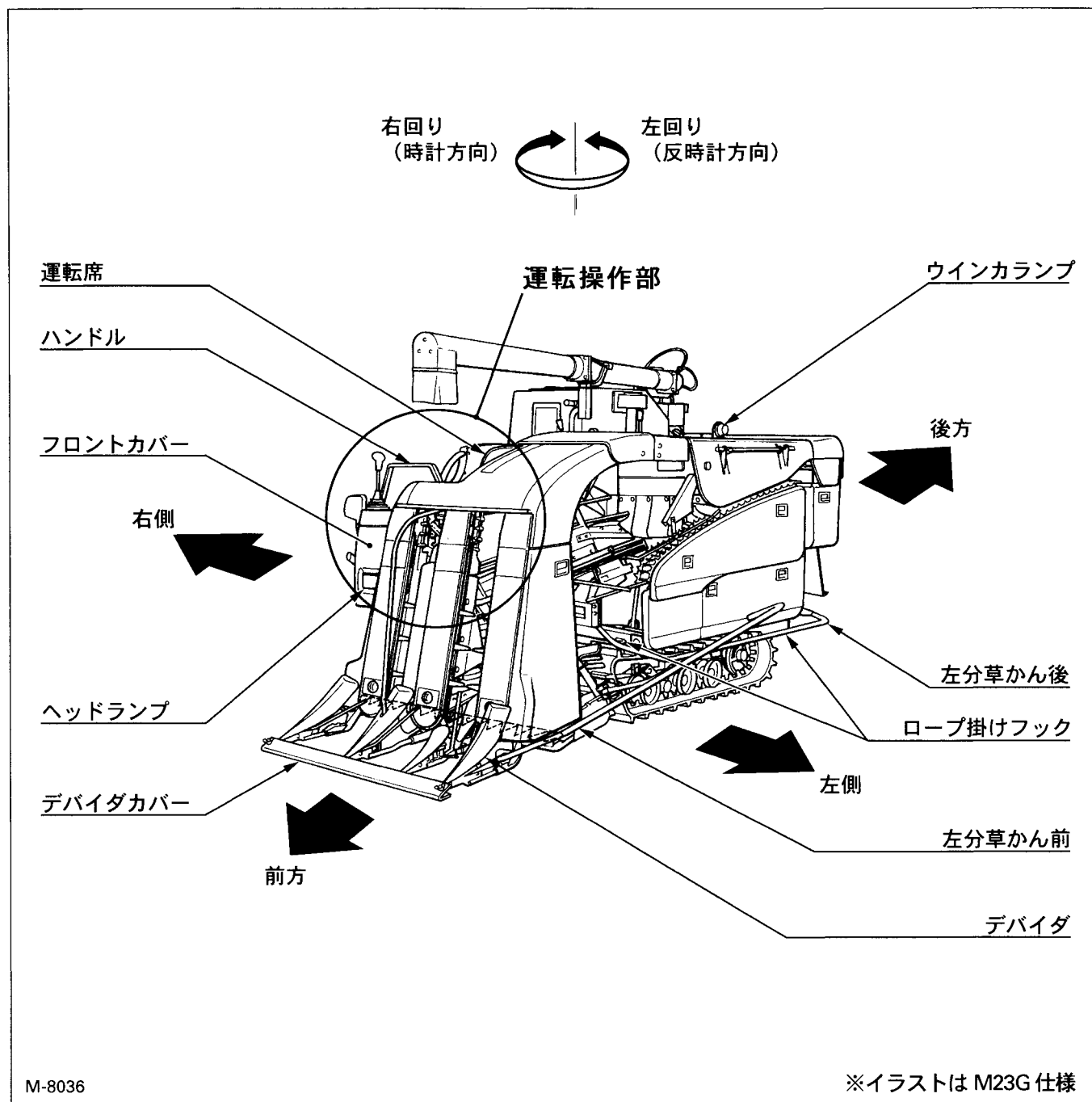
■運転免許証の携帯

公道走行時は、小型特殊自動車の運転可能な運転免許証が必要です。必ず所持してください。

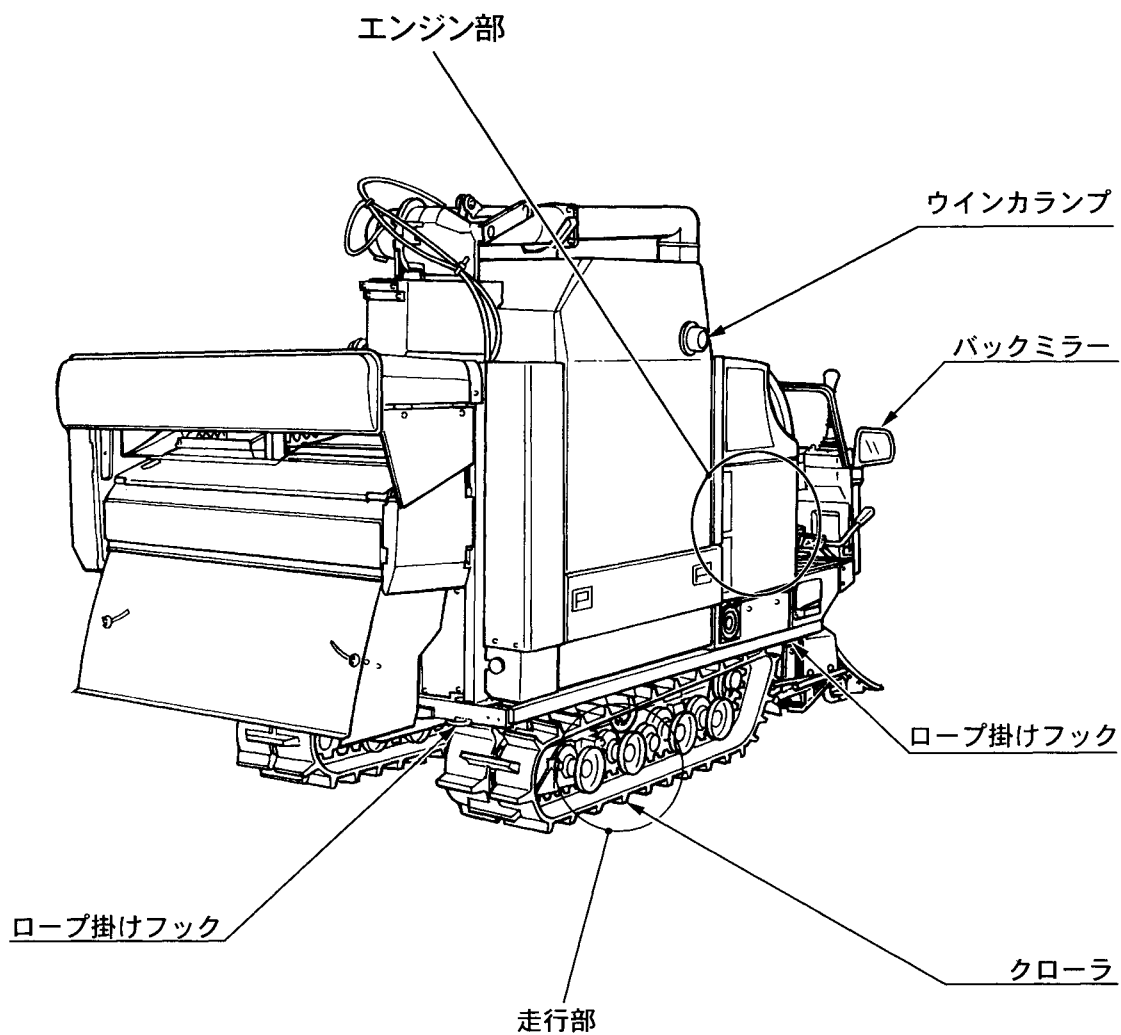
走行装置の名称と取扱い

機体方向説明と走行装置の名称

この取扱説明書で使用している前後・左右・左回り・右回りなどの方向は、図示の通りです。



- **運転操作部**……エンジンの始動・停止や移動走行・刈取作業の運転操作を行なうところ

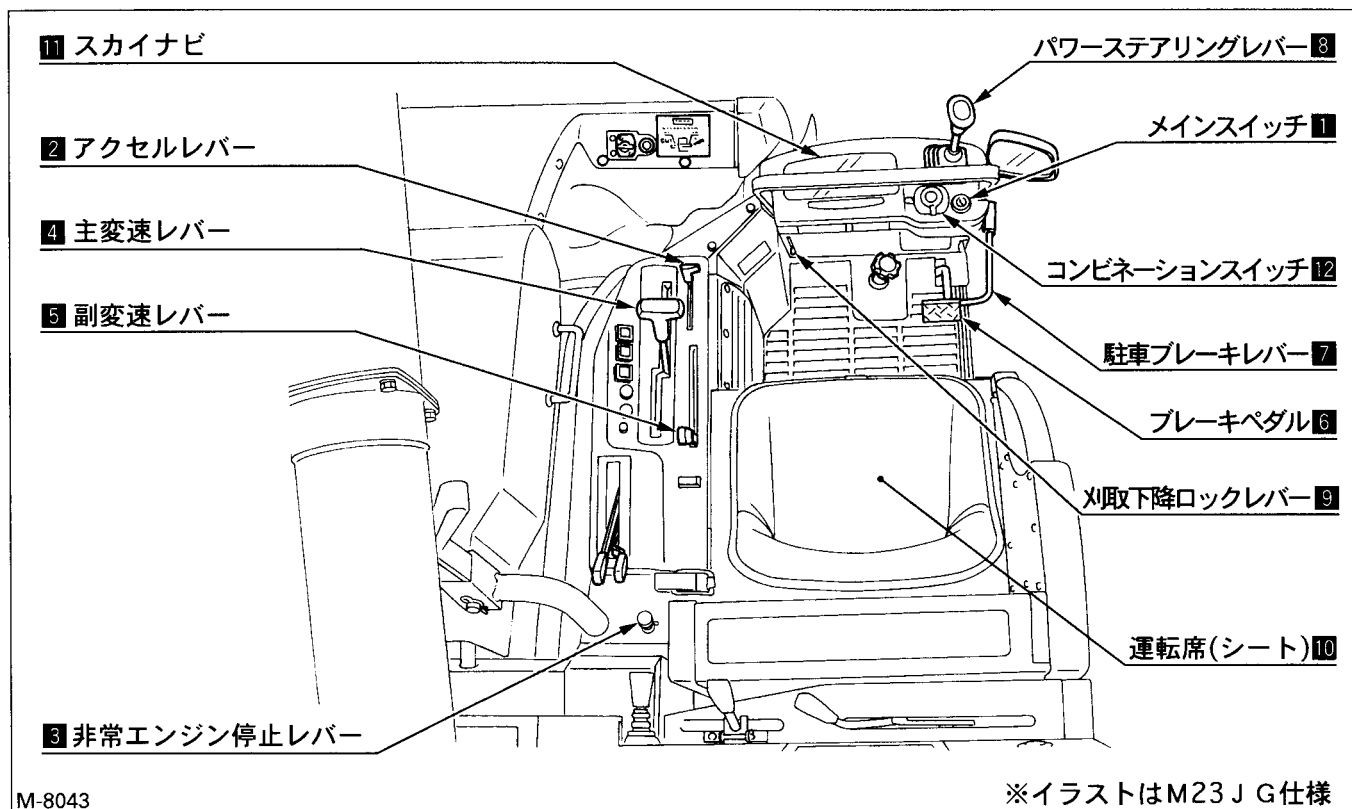


M-8037

※イラストはG仕様

- エンジン部……運転席下部にある動力装置
- 走行部……クローラにより走行を行なうところ

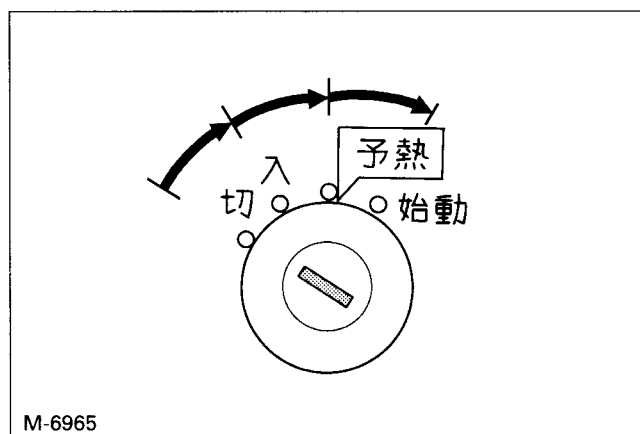
各部の名称とはたらき



◆エンジン操作関係

1 メインスイッチ

コンバインの電源の入・切、及びエンジンの始動・停止を行なうスイッチです。



“切”………スイッチキーが抜き差しできるエンジン停止中の位置。

“入”………電気(電装)装置がはたらく位置。

“予熱”………エンジンの燃焼室内が予熱される位置。

“始動”………セルモータが回転し、エンジンが始動する位置。

補 足

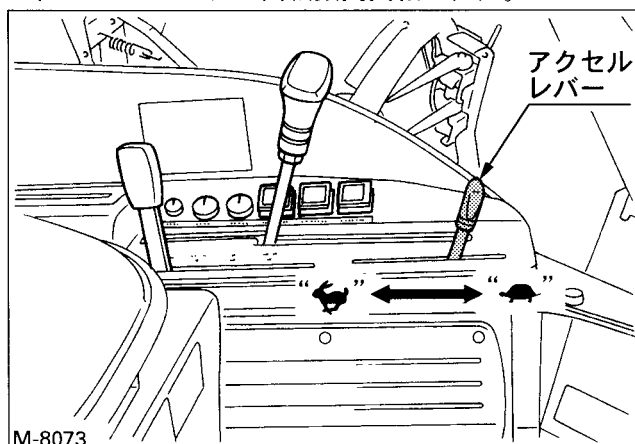
* エンジン始動後、スイッチキーから手を離すとスイッチキーは、“入”の位置に戻ります。

2 アクセルレバー

エンジン回転をコントロールするレバーです。レバーを後方に引くと回転数が上がります。

“🐢”………エンジン回転数低回転の位置。

“🐇”………エンジン回転数高回転の位置。

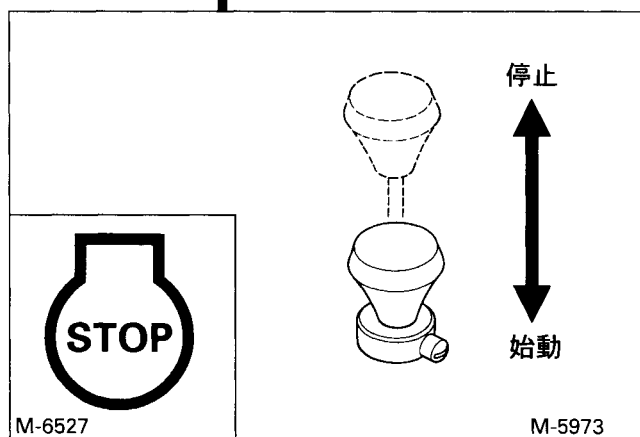
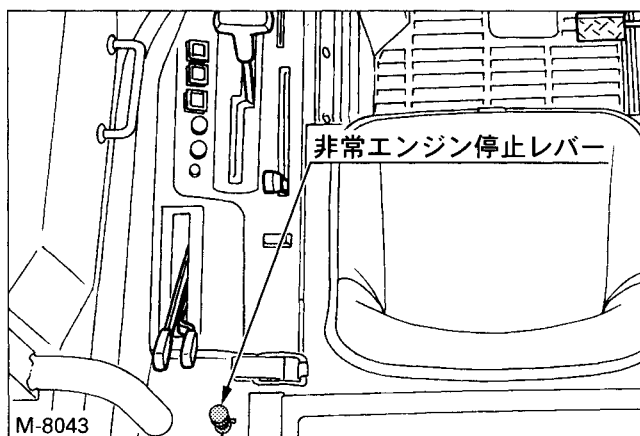


補 足

* エンジン回転計は、スカイナビの項目を参照してください。

3 非常エンジン停止レバー

スイッチキーを“切”位置にしてもエンジンが止まらないときなど**非常時**に、エンジンを停止させるレバーです。



補 足

* レバーが停止状態では、エンジンは始動しません。

◆走行操作関係

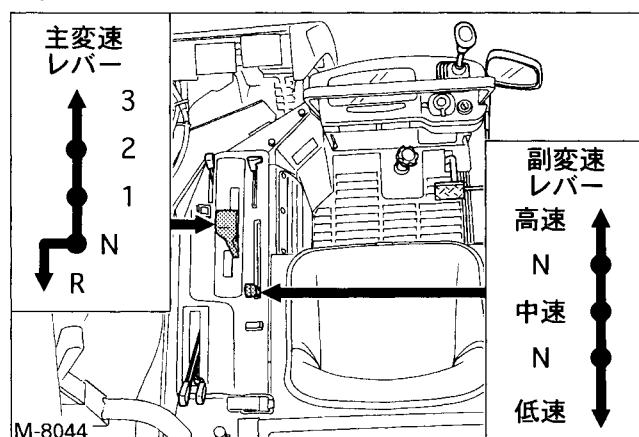
4 主変速レバー

5 副変速レバー

移動走行時や刈取作業時に変速をするレバーです。
主変速レバーで、機体の**前進・後進**を操作します。

●【A仕様】

変速段数は、主変速レバー操作で前進3段・後進1段、副変速レバー操作で3段です。また、2本のレバーの組合せで前進9段・後進3段の車速を選べます。

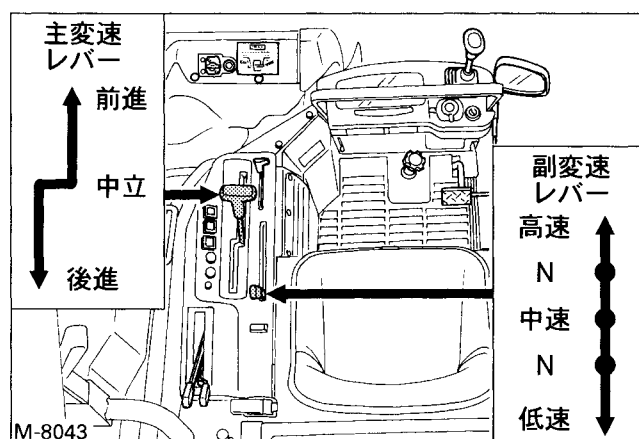


補 足

* 主変速レバーを“R”(後進)位置にするとバックブザーが鳴ります。

●【J仕様】

変速段数は、主変速レバー操作で前進・後進無段、副変速レバー操作で3段です。



補 足

* 主変速レバーを“後進”位置にするとバックブザーが鳴ります。

6 ブレーキペダル

踏込むとクラッチが切れてブレーキが掛かります。エンジンの始動時や副変速レバーの操作時【A仕様】に使用します。

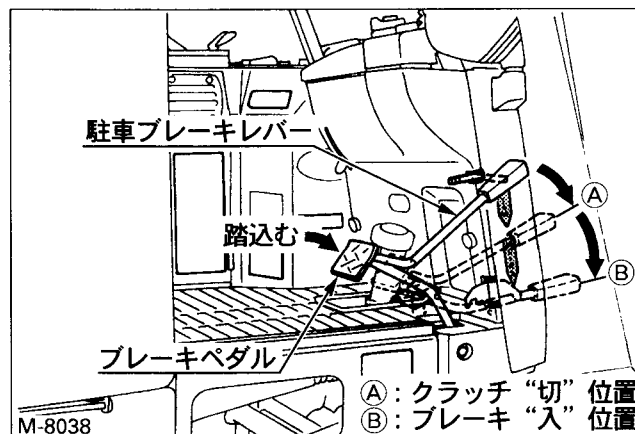
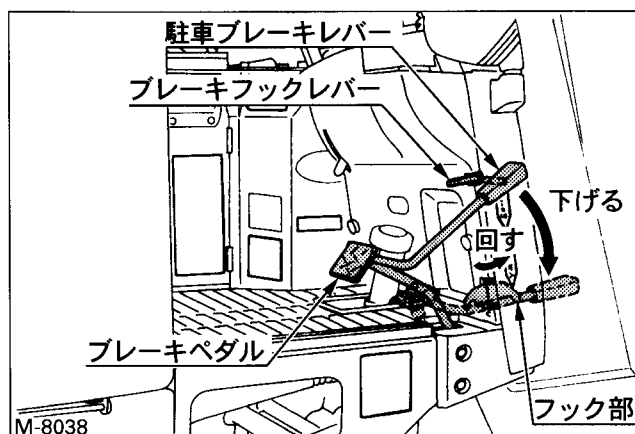
また、ブレーキペダルは、駐車ブレーキレバーと連動しています。

補 足 【165・195・R218S各A仕様】

*主変速レバーが“2”速，“3”速の位置のときに踏込むと、レバーは“1”速の位置に戻ります。また、ブレーキペダルを踏込んだ状態では、主変速レバーを“2”速，“3”速に変速することができません。

7 駐車ブレーキレバー

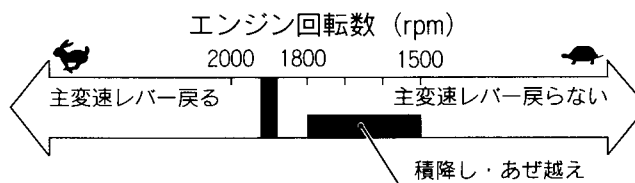
レバーを下げるとクラッチが切れてブレーキが掛かり、ロックレバーで駐車ブレーキレバーをロックすると駐車ブレーキが掛かります。



補 足 【J仕様】

*エンジン回転数が2000rpm以上のとき、ブレーキペダルを踏込むと主変速レバーが自動的に低速側又は、“中立”位置へ戻ります。

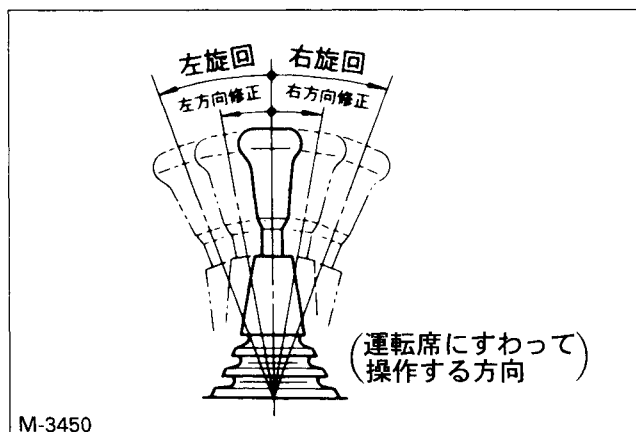
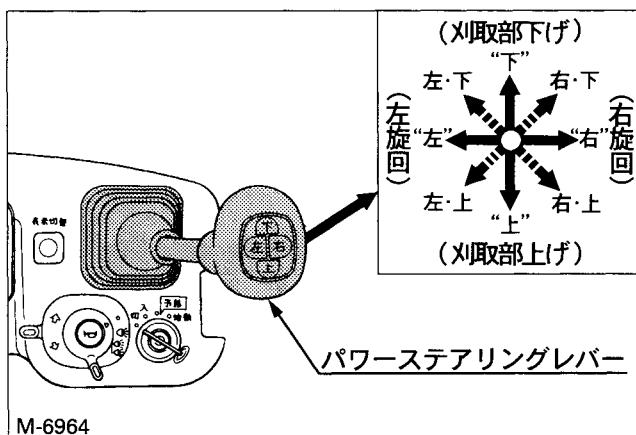
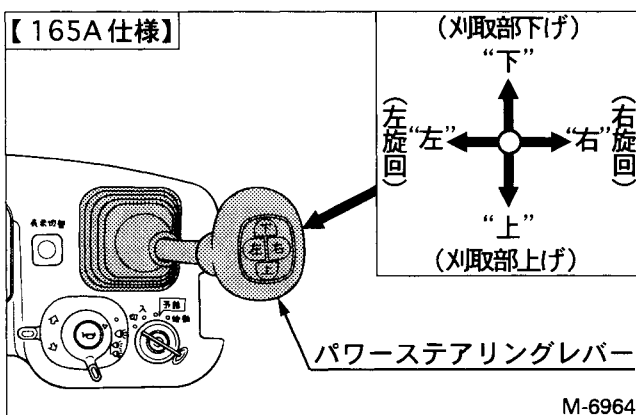
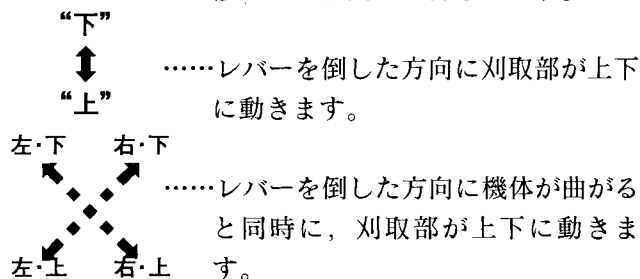
*積降し・あぜ越えなどコンバインから降りて作業するときは、駐車ブレーキレバーを操作しても主変速レバーが自動的に戻らないエンジン回転数1800rpm～1500rpmで使用してください。



8 パワーステアリングレバー

機体走行時の進路変更と刈取部の昇降の操作を行なうレバーです。

“左”↔“右”……レバーを倒した方向に機体が曲がります。倒す角度に応じて機体の方向修正から旋回まで行なえます。



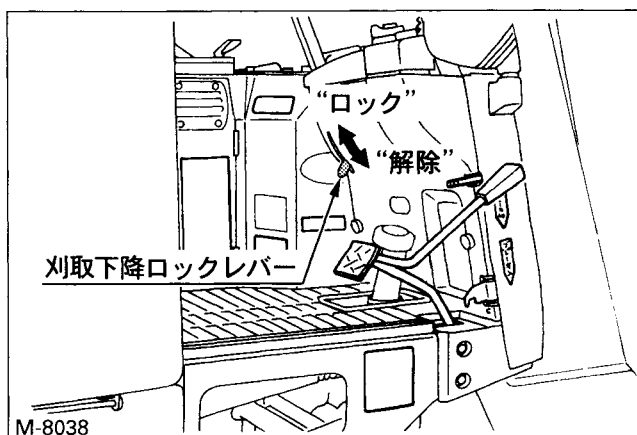
補 足

*自動方向制御【HD仕様】がはたらいいていても、パワーステアリングレバーによる手動操作が優先されます。

*エンジン停止時にレバーを前方(“下”方向)に倒すと、刈取部が下降します。

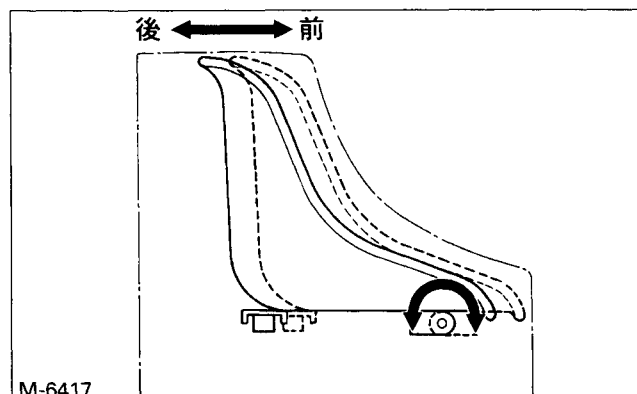
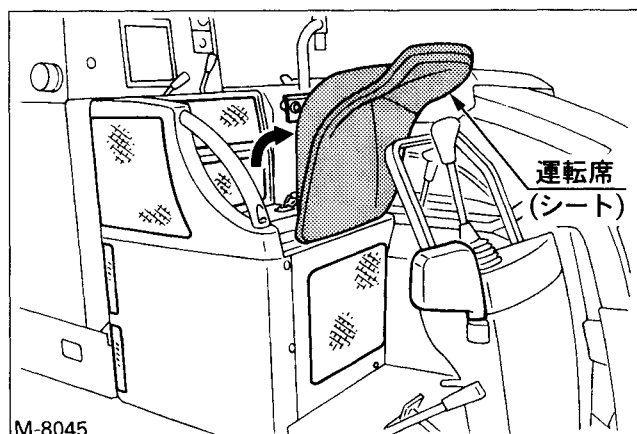
9 刈取下降ロックレバー

刈取部の下降防止を行なうロックレバーです。ロックレバーを上げる(“ロック”位置)とパワーステアリングレバーを操作しても刈取部は下降しません。ロックレバーを操作するときは、刈取部を上昇させた状態で行なってください。解除するときはロックレバーを下げて(“解除”位置)ください。



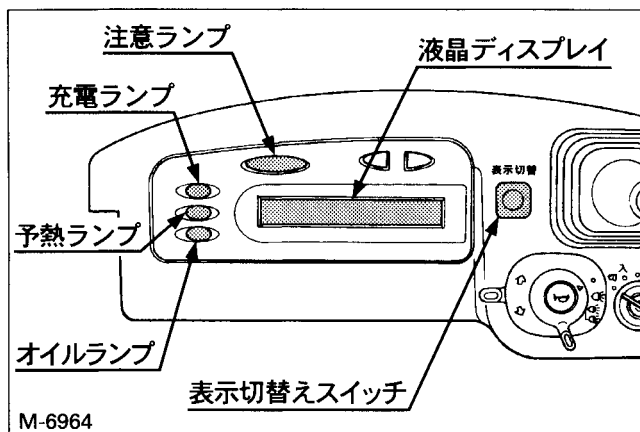
10 運転席(シート)

運転席(シート)を前方に倒しながら、前・後に調節してください。



◆電装関係

■スカイナビ



◆液晶ディスプレイ・表示切替スイッチ

液晶ディスプレイは機械の状態や状況(移動走行や通常作業時、異常発生時、誤操作時など)に応じて、必要な情報をマイコンが判断し、自動的に切替えて液晶ディスプレイに表示します。また、表示切替スイッチを押すと液晶ディスプレイの表示内容が切替わります。

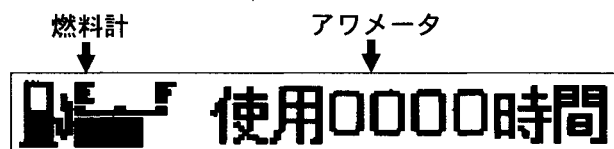
(1)移動走行・通常作業時

●燃料計

燃料の残量を目盛(4段階)で表示します。

●アワメータ

エンジン運転時間の積算使用時間を液晶表示します。



●負荷メータ

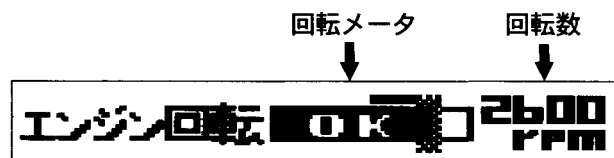
刈取作業中にエンジンにかかっている負荷の大きさを“1～4”の数字で表示します。

負荷1のとき



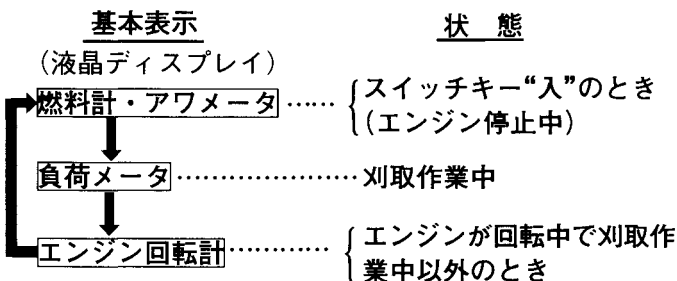
●エンジン回転計

1分間のエンジン回転数を表示します。
アクセルレバーの操作により、そのときの回転数に応じて回転数の下降↔上昇と共に回転メータが下降↔上昇します。



補 足

* 機械の状態(エンジンの始動前・後及び刈取作業中)によって、液晶ディスプレイに表示される基本表示は異なります。また、表示切替スイッチを押すと下記➡の順で表示が切替わります。



* 表示切替スイッチで表示を切替えると、約5秒後に上記の基本表示に自動的に切替わります。

(2)異常発生時

異常が発生すると、異常の内容が表示されると同時にブザーが鳴り、注意ランプが点滅します。

●給油して下さい表示(燃料警報)

燃料が不足すると表示します。

補 足

* 処置については、スカイナビによる異常と処置の項を参照してください。

* 表示切替スイッチを押すとブザーは停止し、注意ランプは異常の原因を取除くと消灯します。

(3)誤操作時

エンジンを始動するときに、レバーやペダルが始動条件に合っていないとき、操作に必要な内容が表示されると同時に注意ランプが点滅します。

●クラッチペダルを踏む表示

メインスイッチのスイッチキーを“始動”位置にしたとき、クラッチペダルが踏まれていないと表示します。

●脱こくクラッチ切にする表示

脱こくクラッチレバーが“入”位置のとき表示します。

補 足

* 脱こくクラッチレバーが“入”位置で、クラッチペダルが踏まれていないときは交互に表示します。

◆各ランプ

●充電ランプ

バッテリーの電圧低下や電気系統の故障で、充電できなくなったときに点灯します。

●予熱ランプ

スイッチキーを“予熱”位置にすると約5秒間点灯後、消灯します。

●オイルランプ

エンジンオイルの圧力が、異常に低下したとき点灯します。

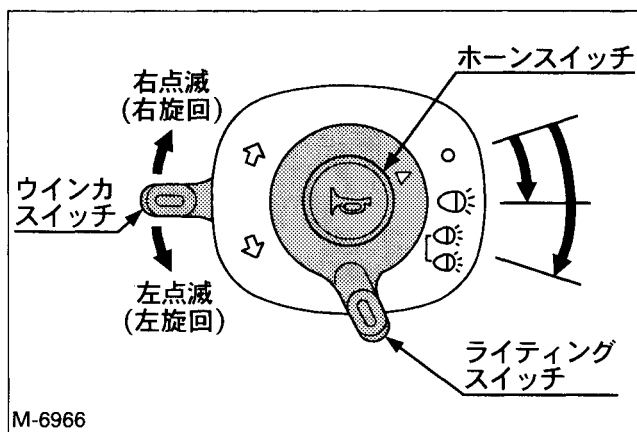
●注意ランプ

異常が発生すると点滅すると同時にブザーが鳴り、液晶ディスプレイに異常の内容が表示されます。また、機械の誤操作時は、点滅すると同時に液晶ディスプレイに誤操作の内容が表示されます。

補 足

- *処置については、スカイナビによる異常と処置の項を参照してください。
- *表示切替えスイッチを押すとブザーは停止し、注意ランプと液晶表示は異常の原因を取除くと消灯します。
- *エンジンが停止しているとき、スイッチキーを“入”位置にすると、オイルランプと充電ランプが点灯しますが異常ではありません。

12 コンビネーションスイッチ



M-6966

●ライティングスイッチ

スイッチを操作するとヘッドランプと作業灯が点灯します。

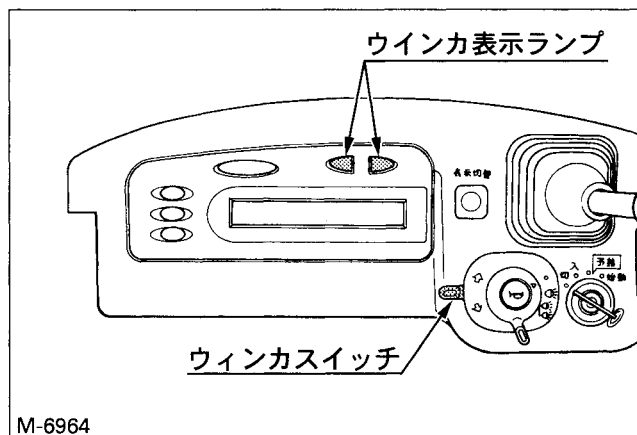
“○”……消灯位置。

“☉”……ヘッドランプ点灯位置。

“☼”……ヘッドランプ・作業灯点灯位置。

●ウインカスイッチ

旋回方向に操作すると、ウインカランプが点滅すると同時にスカイナビ内の表示ランプが点滅します。



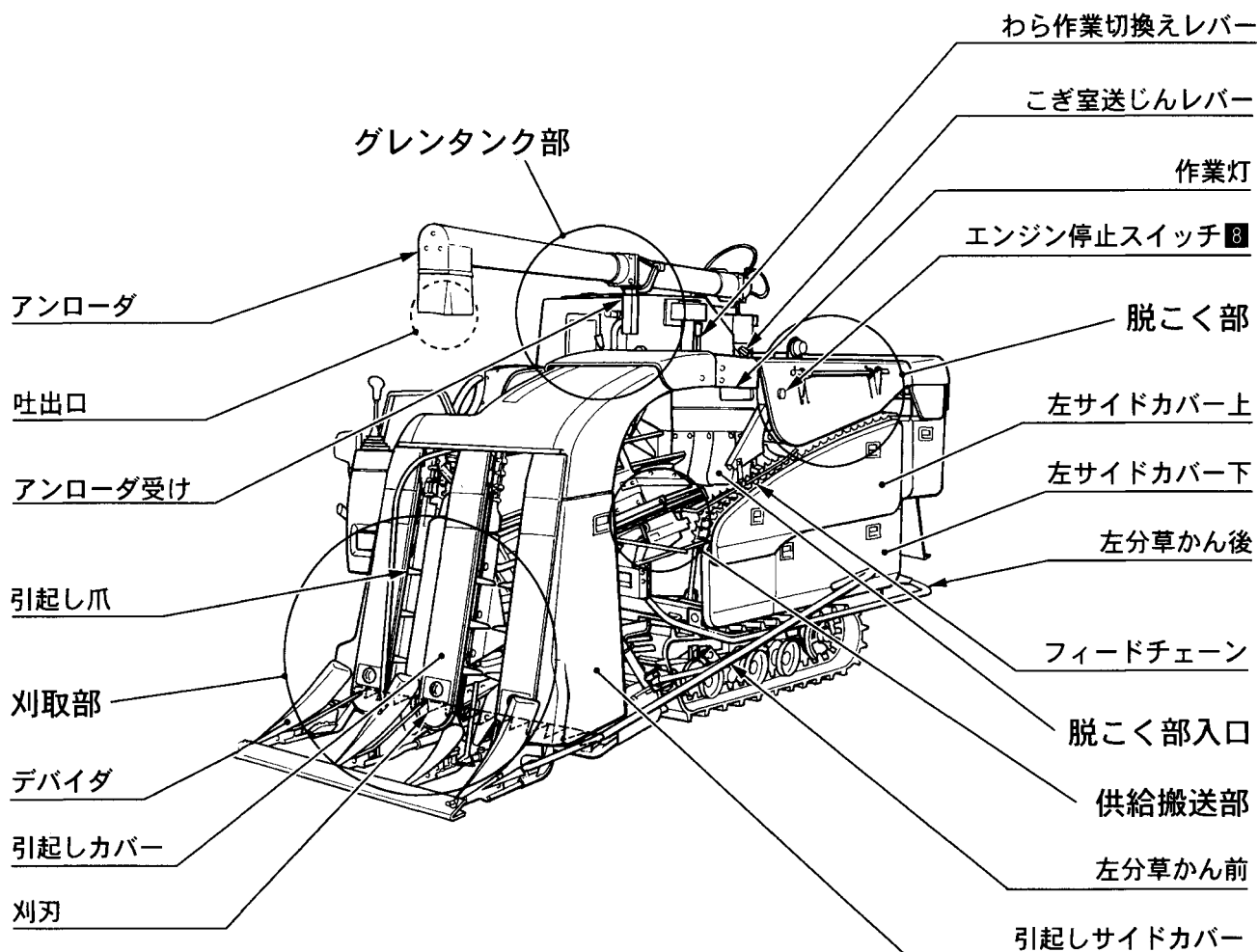
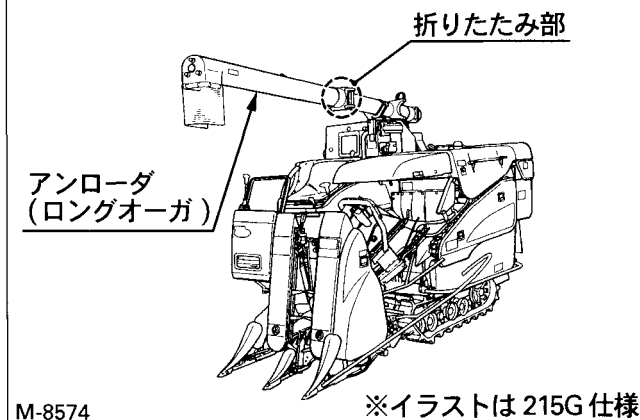
M-6964

●ホーンスイッチ

中央の黄色いスイッチを押すとホーンが鳴ります。

作業装置の名称と取扱い

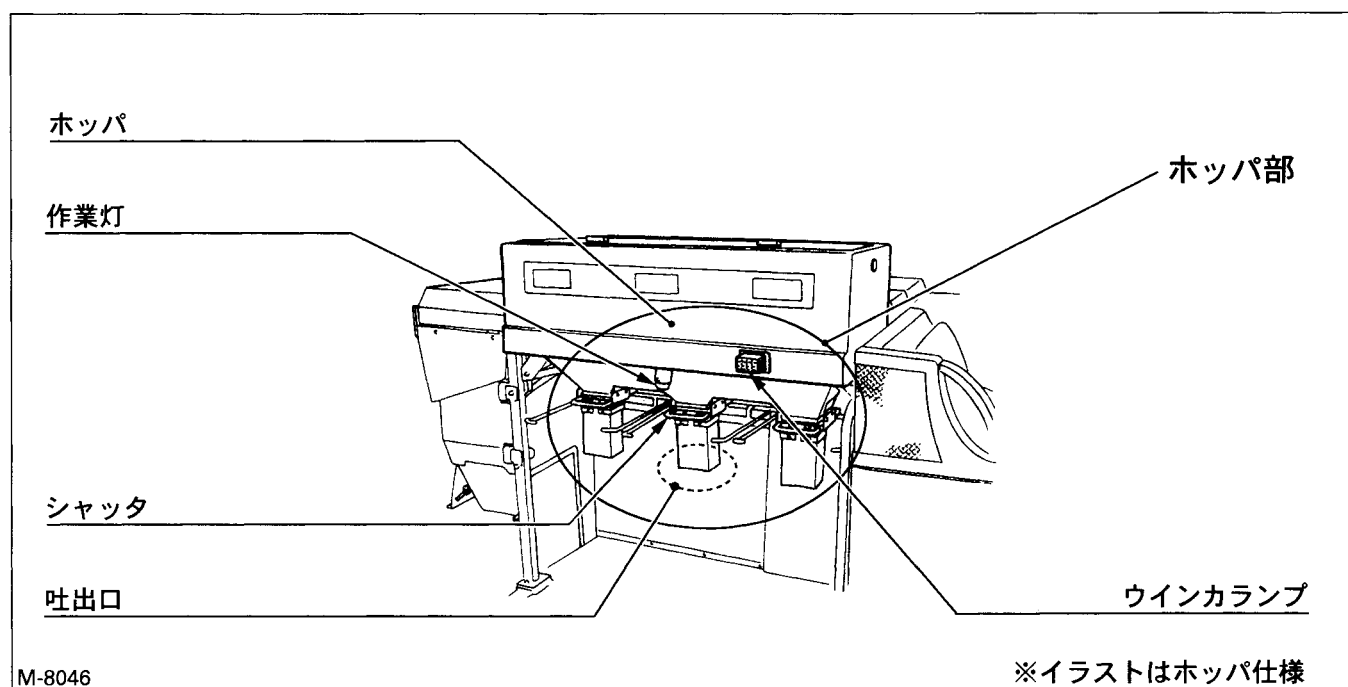
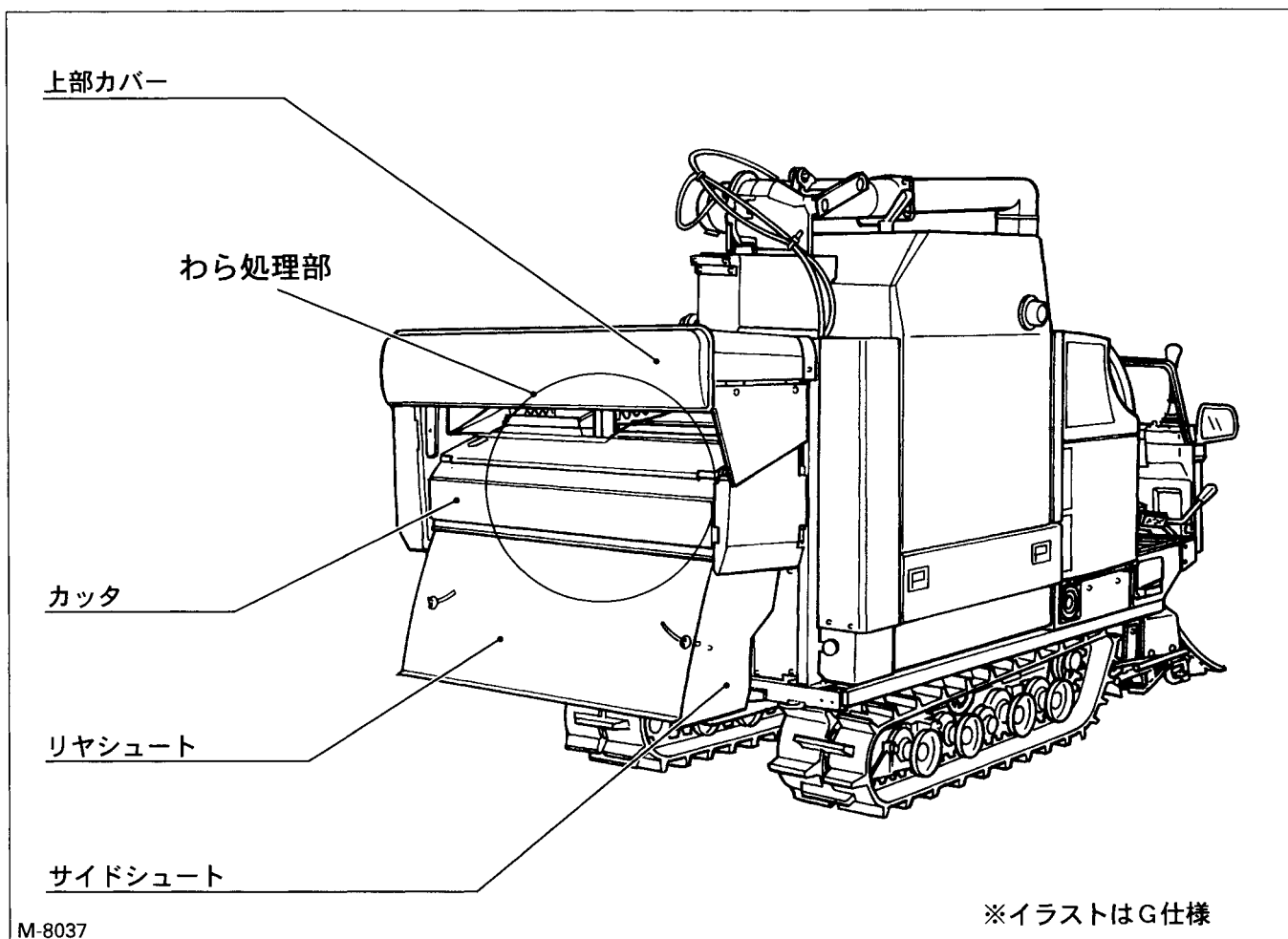
作業装置の名称



M-8036

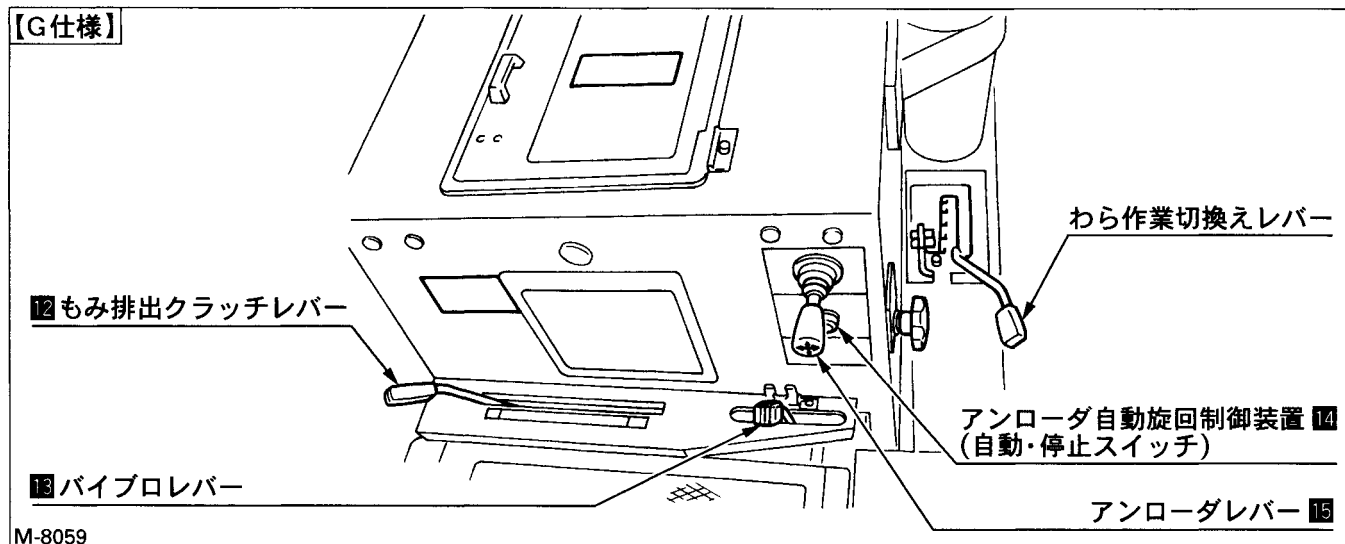
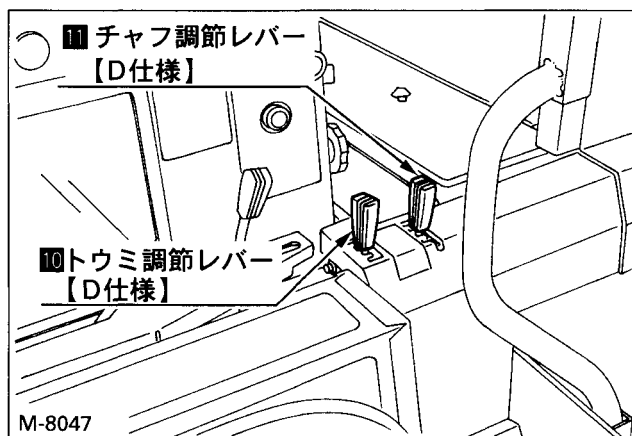
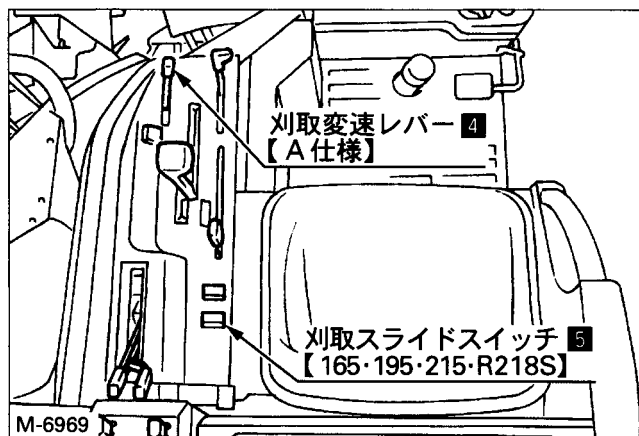
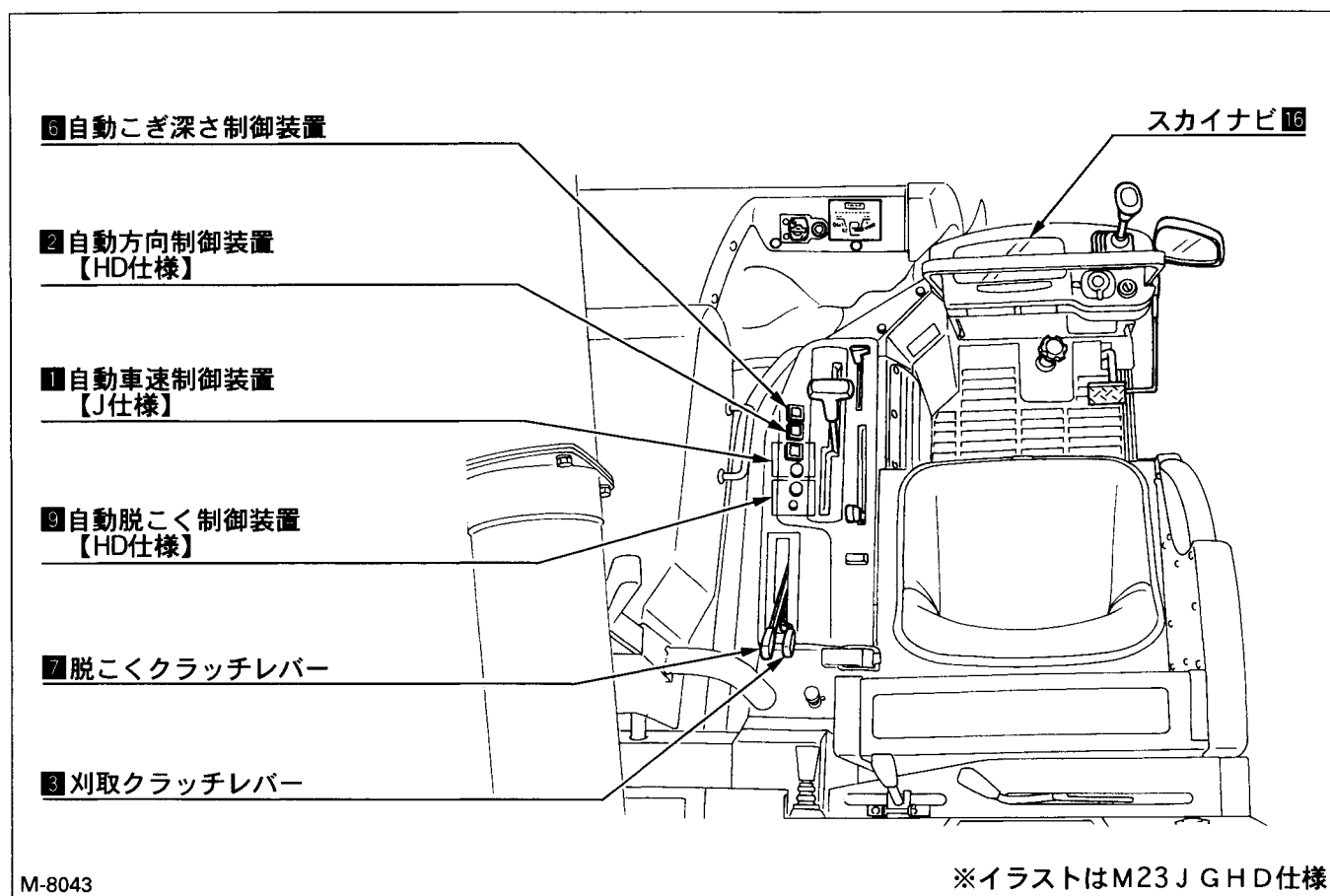
※イラストは M23G 仕様

- 刈取部……………作物の引起しと刈取を行なうところ
- 供給搬送部……………刈取った作物を脱こく部へ搬送するところ
- 脱こく部……………作物の脱こくを行なうところ
- グレンタンク部…脱こくで精選されたもみを一時貯蔵したあとアンローダで排出を行なうところ
- アンローダ……………グレンタンクからもみを排出する筒



- わら処理部……………わらの切断やばら落としなどわらの処理を行なうところ
- ホッパ部……………脱こくで精選されたこく粒を一時貯蔵したあと袋詰めを行なうところ

各部の名称とはたらき



2 自動方向制御装置【HD仕様】

自動方向制御装置は、刈取作業中に方向センサ(右, 左)が作物に接触すると、自動的に方向を修正する装置です。

● 自動方向制御切換えスイッチ

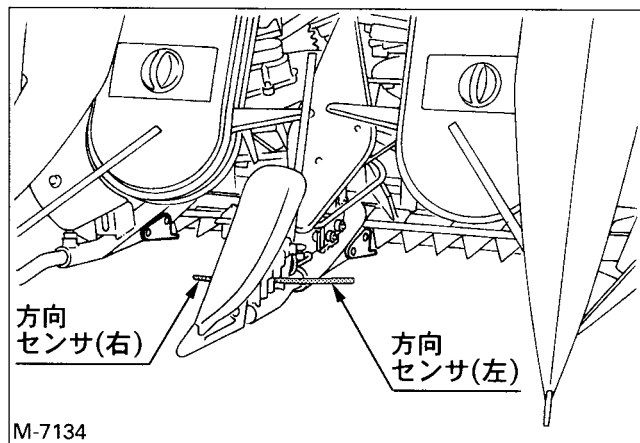
自動入り……ランプが点灯し、自動方向制御が作動します。

自動切り……ランプが消灯し、自動方向制御が解除されます。



● 自動制御について

自動制御は、中央のデバイダに取付けている2本の方向センサ(右, 左)が作物を感知して、デバイダが条と条の間を通るように方向修正します。



補 足

- * 自動制御がはたらいっているときでも、パワーステアリングレバーによる操作が優先されます。
- * 横刈り(条刈りの直角方向)のときは、条間が不揃いのため機体が3～4秒間振動したあと、自動制御が停止して直進します。
- * 自動制御は刈取作業中以外はたつきません。また、1条分多く刈取るときや斜めに刈るときは、自動制御がはたらかないときがあります。

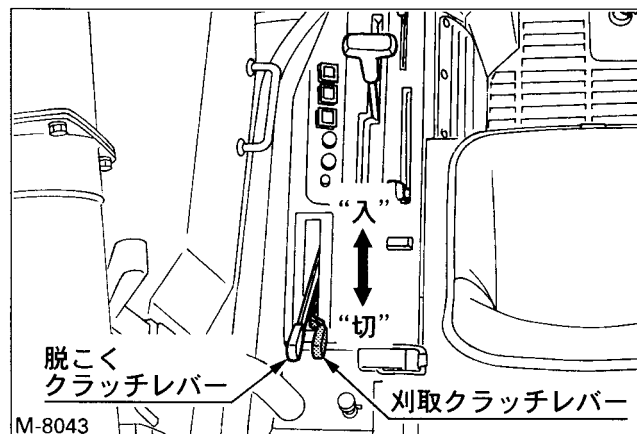
◆刈取関係

3 刈取クラッチレバー

刈取部を作動させるレバーです。

“入”………刈取部が作動します。

“切”………刈取部が停止します。

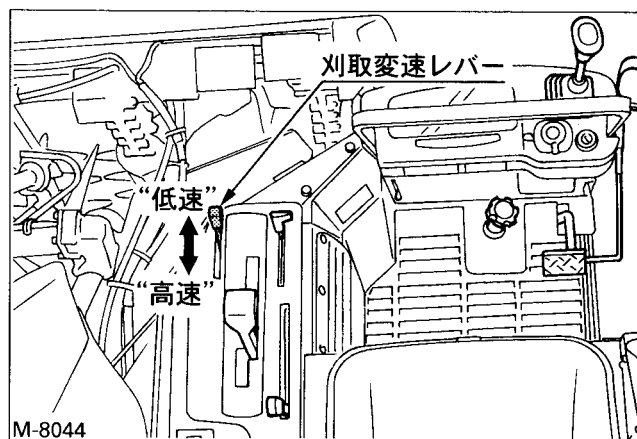


補 足

- * 刈取クラッチレバーを“入”位置にすると同時に、連動して脱こくクラッチレバーが“入”位置に動き、脱こく部が作動します。

4 刈取変速レバー【A仕様】

刈取部の速度を変えるレバーです。作物や作業の状態に合わせて、“低速”と“高速”の2段階に変速できます。

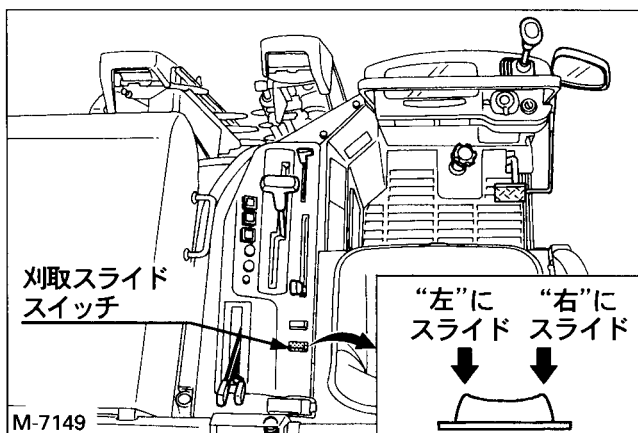


5 刈取スライドスイッチ

【165・195・215・R218S】

刈取部を左・右にスライドさせるスイッチです。

(刈取スライド装置の使いかたの項参照)



補 足

* 刈取スライド装置は、エンジン停止中でも、メインスイッチ“入”の位置で動きます。

6 自動こぎ深さ制御装置

こぎ深さ自動制御装置は、作物の長さにかかわらず、適正なこぎ深さを保つ装置です。

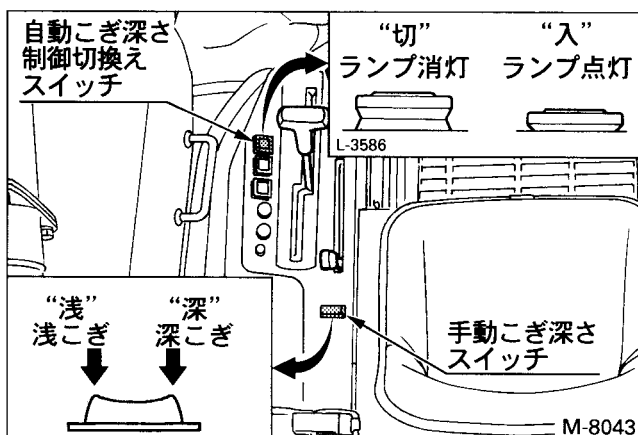
●自動こぎ深さ制御切換えスイッチ

自動入り……ランプが点灯し、自動こぎ深さ制御が作動します。

自動切り……ランプが消灯し、自動こぎ深さ制御が解除されます。

●手動こぎ深さスイッチ

こぎ深さを手動で使う場合、自動を解除して手動こぎ深さスイッチで供給搬送部の上・下調節をしてください。(刈取作業の手順の項参照)



補 足

* 自動制御が、はたらいしているときでも手動スイッチによる操作が優先されます。

* 手動こぎ深さスイッチは、エンジン停止中でもメインスイッチ“入”の位置で作動します。

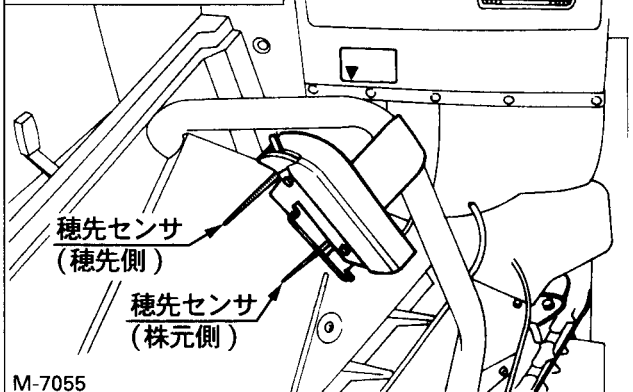
* 下記条件のときは、自動制御がはたらきません。

- ・刈取作業中以外するとき
- ・停止しているとき

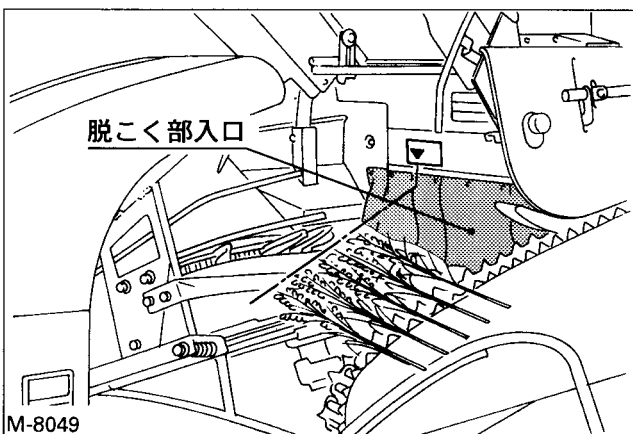
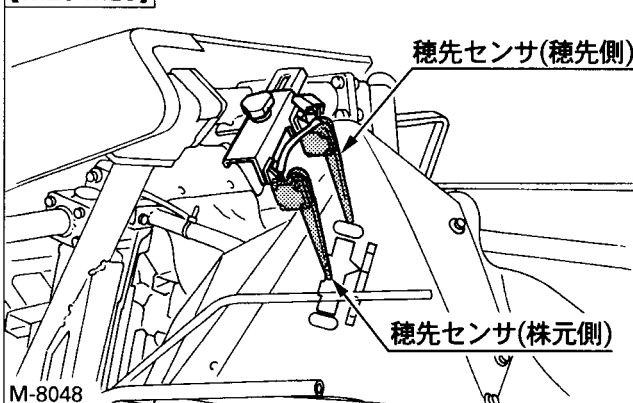
●自動制御について

こぎ深さの自動制御は、供給搬送部の上部にある2本の穂先センサ(株元側、穂先側)が、搬送されてきた作物の穂先を感知して一定の状態ですく部入口へと供給します。

【165・195・215・R218S】



【M20-M23】



補 足

* 穂先センサ(株元側、穂先側)に浮わらや雑草が引っ掛かるとセンサが誤作動を起こし、正常な自動制御ができません。

* 下記のように自動制御の困難なときは、手動で操作してください。

- ・長かん作物(約130cm以上)を刈取るとき
- ・遅れ穂が多く、こぎ残しの出るとき
- ・間欠に作物を刈取るとき
- ・極端に作物の長さが不揃いのとき
- ・雑草が多いとき
- ・倒伏作物を低速で刈取るとき

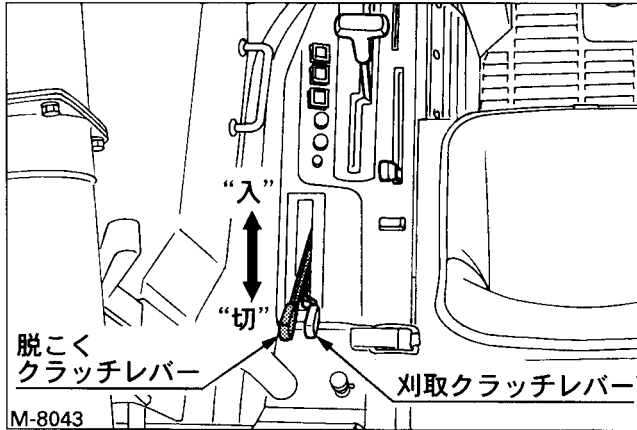
◆脱こく関係

■7 脱こくクラッチレバー

脱こく部を作動させるレバーです。

“入”……脱こく部が作動します。

“切”……脱こく部が停止します。

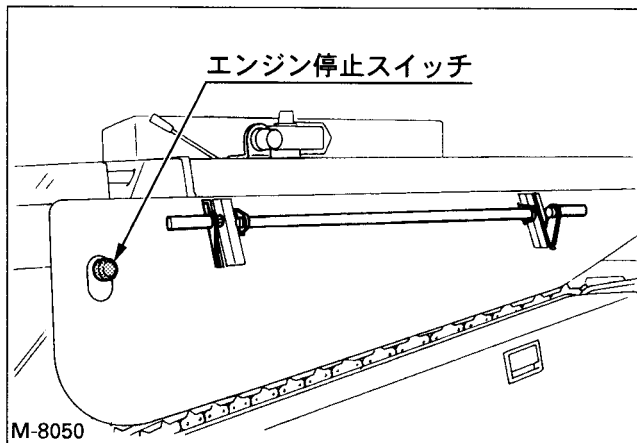


補 足

* 脱こくクラッチレバーを“切”位置にすると同時に、連動して刈取クラッチレバーも“切”位置に動き、刈取部が停止します。

■8 エンジン停止スイッチ

エンジンを停止するスイッチです。エンジンが停止すると同時にブザーが鳴り、注意ランプが点滅します。



補 足

* スイッチキーを“切”位置又は、表示切替えスイッチを押すとブザーは止まり、注意ランプは消灯します。

* スイッチキーを“切”位置に戻してからエンジンを再始動してください。

■9 自動脱こく制御装置【HD仕様】

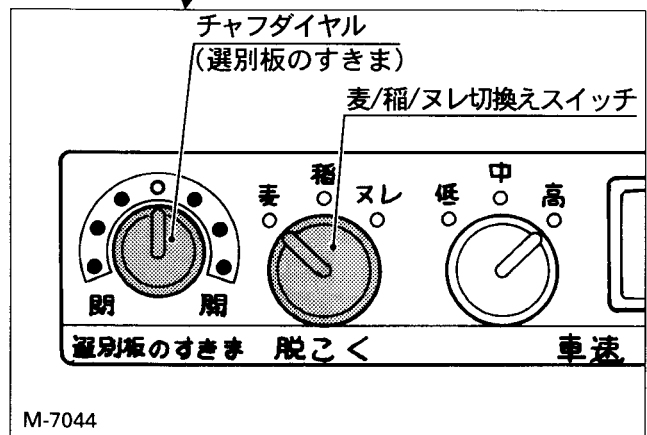
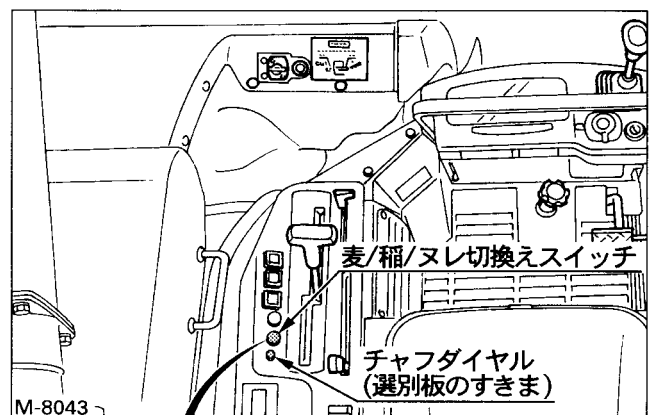
自動脱こく制御装置は、刈取られた作物のもみがシーブケース内に搬送されてきたとき、もみの量や刈取速度の変化に対応して安定した選別作業を行なう装置です。

●麦／稲／ヌレ切換えスイッチ

作物の種類や濡れ状態に合わせて選択を行なうスイッチです。

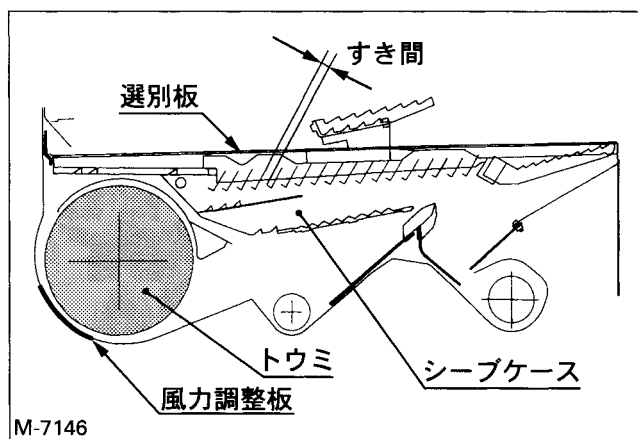
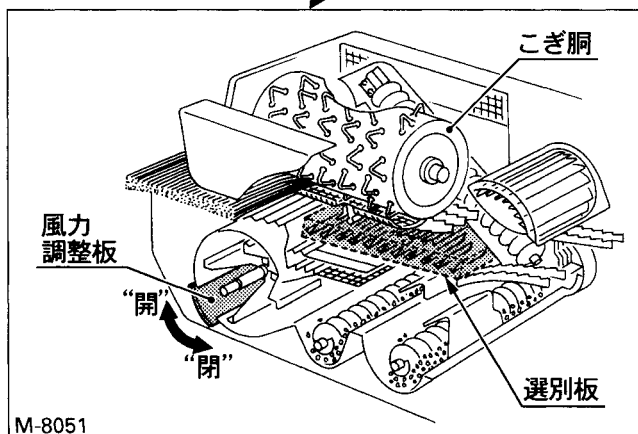
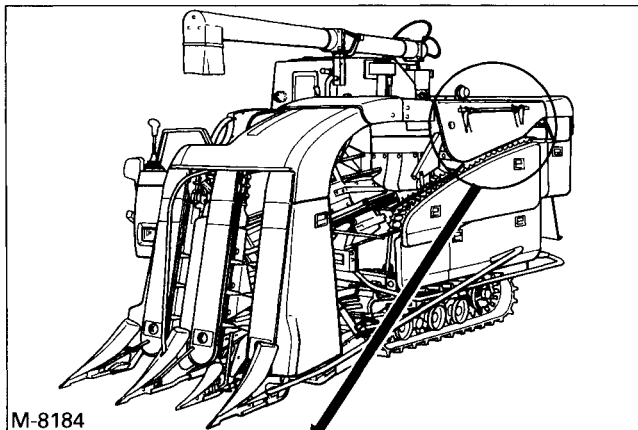
●チャフダイヤル

シーブケースにある選別板のすき間(チャフの開度)の調整を行なうダイヤルです。



●自動制御について

作物の種類や状態により、トウミ風力やシーブケースにある選別板のすき間が、自動的に調整されます。また、トウミ風力は、風力調整板が開閉することにより調整されます。

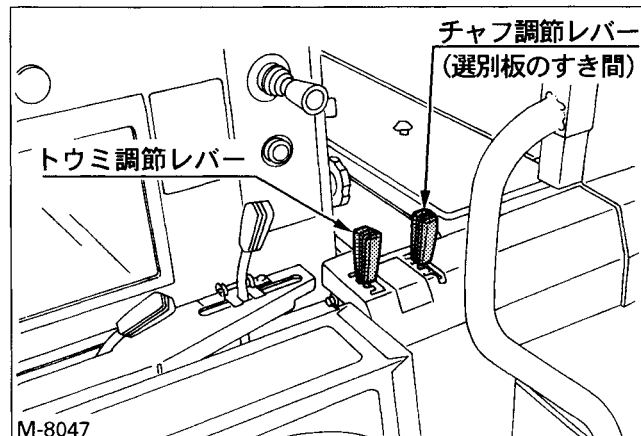


10 トウミ調節レバー【D仕様】

トウミの風力調整板の開度の調節を行なうレバーです。選別状態に合わせて4段階の調節が行なえます。

11 チャフ調節レバー【D仕様】

シーブケースにある選別板のすき間(チャフの開度)の調節を行なうレバーです。



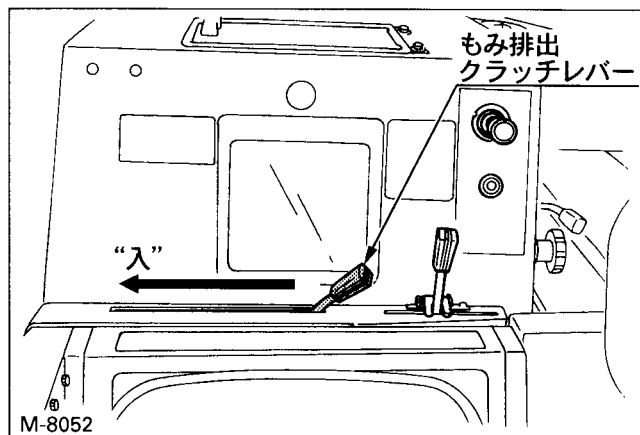
◆グレンタンク関係[G仕様]

■12もみ排出クラッチレバー

グレンタンク内のもみの排出操作を行なうレバーです。

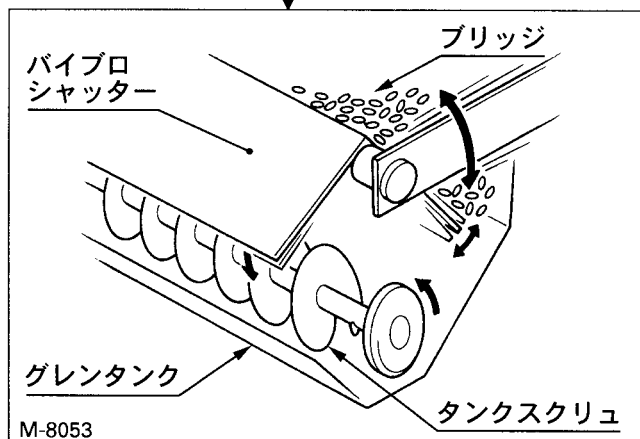
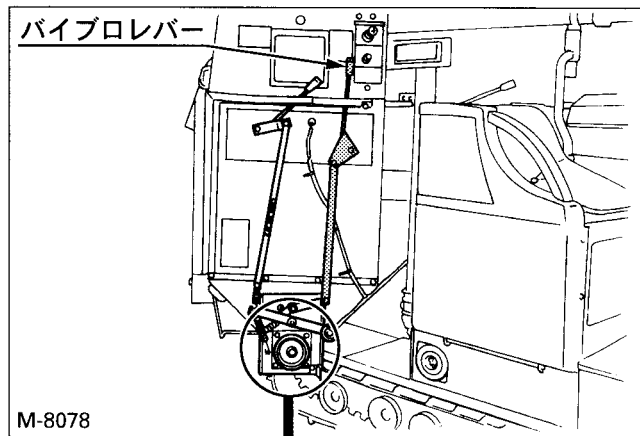
“入”……もみが排出されます。

“切”……もみの排出が止まります。



■13バイプロレバー

もみ排出を行なうとき、グレンタンク底部のバイプロシャッターに濡れたもみがブリッジを作ったとき、バイプロシャッターを振動させブリッジを取除くレバーです。



■14アンローダ自動旋回制御装置

アンローダ自動旋回制御装置は、自動・停止スイッチの操作により、アンローダが収納位置↔排出位置(機体後方)に自動旋回する装置です。

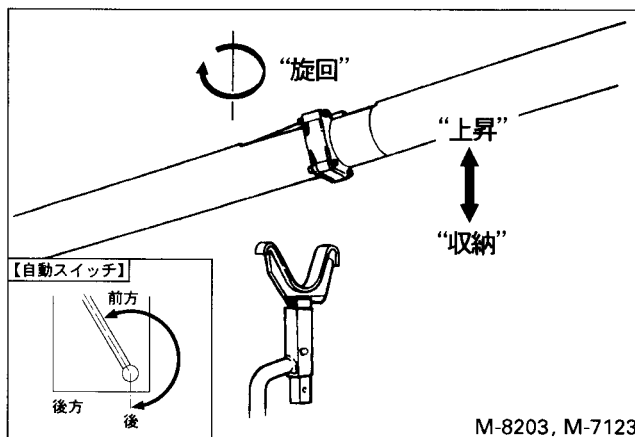
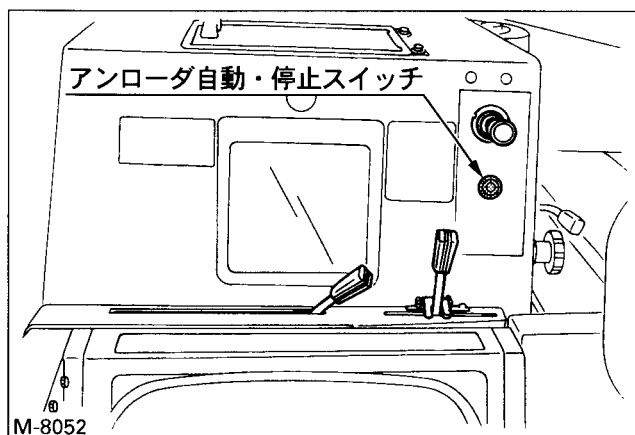
●アンローダ自動・停止スイッチ

アンローダが下記位置にあるときにスイッチを押すと
(1)収納位置(アンローダ受けに収納状態)にあるときは、アンローダが上昇し排出位置まで自動的に旋回します。

(2)自動上昇・旋回・下降途中でスイッチを押すと、その位置で停止します。そのあと、もう一度スイッチを押すと

・自動旋回途中・収納位置以外での自動上昇途中の場合は、収納位置まで自動的にもどります。

・収納位置からの自動上昇途中・収納位置への下降途中の場合は、排出位置まで上昇・旋回をします。



重要

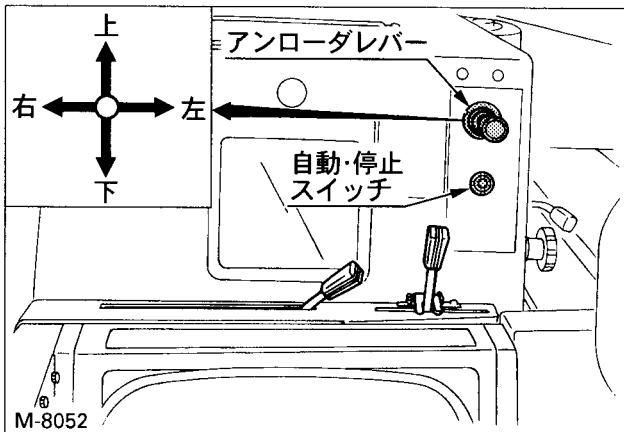
* エンジン停止中でもメインスイッチ“入”の位置で旋回操作はできますが、長時間エンジンを停止した状態で操作するとバッテリー上りの原因となりますので、操作するときは、エンジンを必ず始動して行なってください。

補足

* 自動制御でアンローダが収納位置に戻った直後に、自動・停止スイッチを押しても自動制御は作動しません。10秒程度待つてから自動・停止スイッチを押してください。

15 アンローダレバー

アンローダの旋回及び上昇・下降の操作を行なう手動操作レバーです。



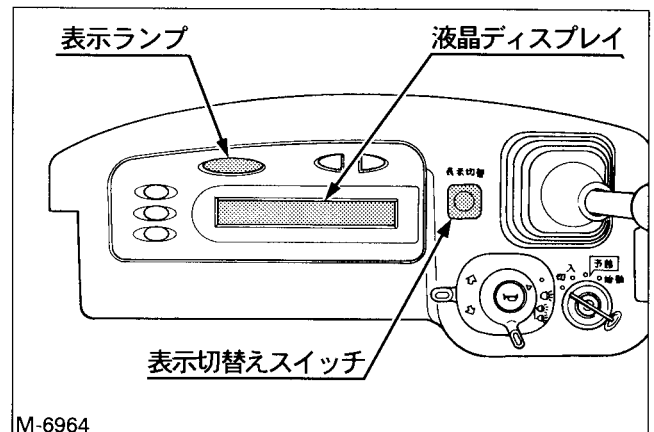
	レバーの 操作方向	アンローダの 動き
	上	上昇
	下	下降
	左	左回り(反時計 方向)に旋回
	右	右回り(時計方 向)に旋回

補 足

- * 左、右の旋回方向は、運転席に座って見たときです。
- * 自動制御装置作動中でもアンローダレバーの操作が優先され、その後の自動旋回は停止します。

◆電装関係

16 スカイナビ



◆液晶ディスプレイ・表示切替えスイッチ

液晶ディスプレイは機械の状態や状況(通常作業時、異常発生時、誤操作時など)に応じて、必要な情報をマイコンが判断し、自動的に切替えて液晶ディスプレイに表示します。また、表示切替えスイッチを押すと液晶ディスプレイの表示内容が切替わります。

(1)通常作業時

● 負荷メータ

刈取作業中にエンジンにかかる負荷の大きさを表示します。

負 荷 1



負 荷 2



負 荷 3



負 荷 4



● [エンジン停止 SW] 表示

手刈り脱こく作業などでエンジン停止スイッチを押すとブザーが鳴り、注意ランプが点滅します。

補 足

- * スイッチキーを“切”位置又は、表示切替えスイッチを押すとブザーは止まり、注意ランプと液晶表示は消灯します。

(2) 異常発生時

異常が発生すると、異常の内容が表示されると同時にブザーが鳴り、注意ランプが点滅します。

●速度を落として下さい表示(負荷警報)

刈取作業中にエンジンにかかる負荷の大きさが、負荷表示の数字“4”をこえると表示します。

●もみ満杯表示(もみ警報)

ホoppa【ホoppa仕様】又は、グレンタンク【G仕様】が満杯になると表示します。

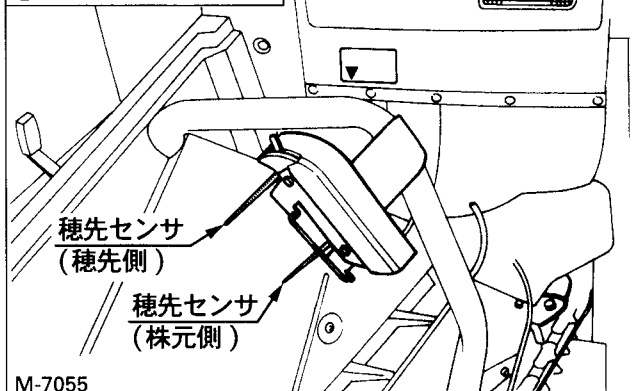
●カッタ詰まり表示(排わら警報)

わら処理部に異常が発生し、エンジンが自動停止(エンジン自動停止装置)すると同時に表示します。

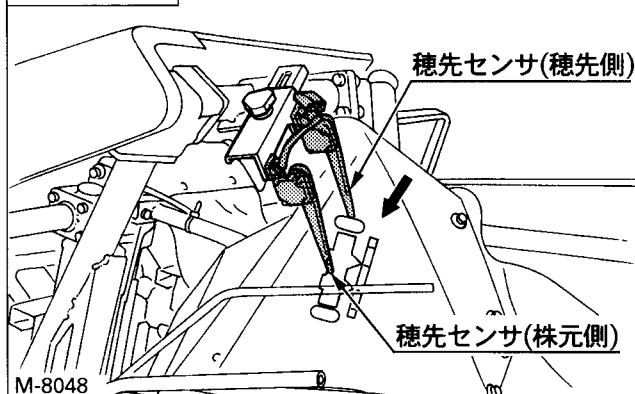
●穂先センサ→点検表示(こぎ深さ警報)

こぎ深さを自動で制御しているとき、穂先センサの株元側が作動せず、穂先側が作動している状態が一定時間以上作動したときや穂先センサの株元側と穂先側が同時に一定時間以上作動すると表示します。

【165・195・215・R218S】

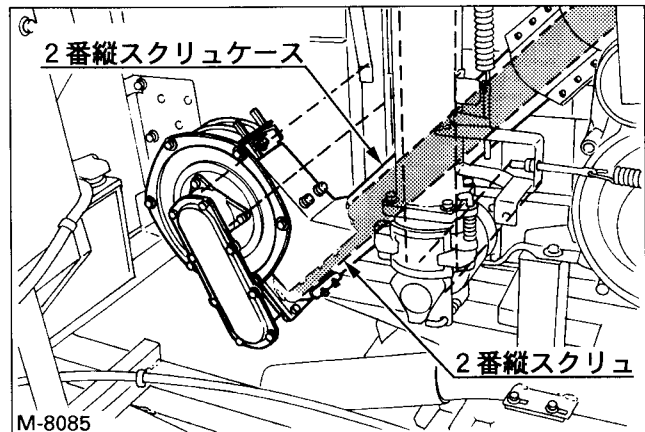


【M20・M23】



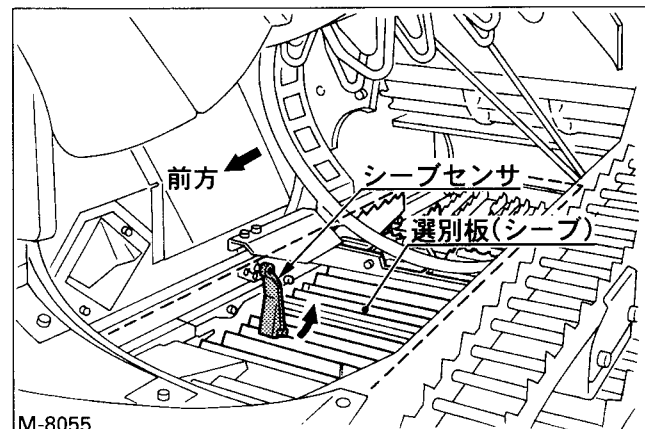
●2番詰まり表示(2番警報)

2番縦スクリュケース内にある縦スクリュの回転数が下がってくると表示します。



●選別板のすき間→開表示(シーブ警報)

選別板(シーブ)の上に滞留しているもみの量が増加し、シーブセンサが設定角度以上作動すると表示します。



- **オーバーヒート** 表示 (水温警報)

エンジンの冷却水温が高温(約120度)になると表示します。

- **制御装置 異常** 表示

自動制御装置に異常が発生すると表示します。

補 足

* 処置については、スカイナビによる異常と処置の項を参照してください。

* 表示切替えスイッチを押すとブザーは停止し、注意ランプと液晶表示は異常を取除くと消灯します。

* エンジンが停止しているとき、スイッチキーを“入”位置にすると、オイルランプと充電ランプが点灯しますが異常ではありません。

(3)誤操作時

刈取作業前及び作業中に、エンジン回転数が低いとき、作業操作に必要な内容が表示されると同時に注意ランプが点滅します。

- **回転数を上げて下さい** 表示

刈取作業前に脱こくクラッチレバーを“入”位置にしたとき、エンジン回転数が低いとき表示します。また、刈取作業中に表示されるとブザーも鳴ります。

運転前の点検

故障を未然に防ぐには、機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。日常点検は一日一回、運転前に欠かさず行なってください。(点検・調整方法の詳細は、メンテナンスの項を参照。)



警告

- *必ずエンジンを停止してから行なってください。
- *バッテリーの点検・充電・交換中は火気厳禁です。
- *取外した回転部のカバー類は、衣服などが巻き込み危険ですので、必ず取付けてから作業をしてください。



注意

- *燃料やオイル補給中は火気厳禁です。
- *運転前にブレーキ・クラッチや安全装置などの日常点検を行ない、摩耗や損傷している部品があれば交換してください。また、定期的にボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。
- *使用前にはオイル、燃料が規定量入っているか必ず点検してください。
- *燃料、オイルがこぼれた場合は、きれいにふき取ってください。
- *バッテリー、マフラーやエンジン・燃料タンク・ベルトカバー内・配線部周辺にごみや燃料の付着、泥の堆積などがあると火災の原因になることがあります。日常点検をして取除いてください。
- *刈刃やカッタの点検・掃除時は刃部に注意してください。

重要

各部への給油と交換

- *点検するときは機体を水平な場所において行なってください。傾いていると正確な量を示しません。
- *使用するエンジンオイル、ミッションオイル、グリースは、指定の“クボタ純オイル・スベアグリース”を必ず使用してください。
- *燃料補給の際は、ゴミや水が混入しないようにしてください。

◆前日の異常箇所

前日の作業中に異常を感じたところがあれば、使用前に支障がないか点検してください。

◆コンバインの回りを歩いて

- (1)ボルトやナットのゆるみや脱落がないか点検します。
- (2)車体各部の変形や損傷がないか点検します。
- (3)油もれや水もれなどないか点検します。
- (4)機体各部にわらくずがたまっていないか点検します。

日常点検項目

〈ここを〉 → 〈点検し異常があれば〉 → 〈こうする（処置）〉				参照 ページ
機体の周りを歩いて	機 体 各 部		1. 損傷や変形はないか。 2. ボルトナットのゆるみや脱落はないか。 3. 油もれや水もれはないか。 4. わらくずがたまっていないか。 5. 安全ラベル(▲表示ラベル)の損傷やはがれはないか。	— — 108 90 ▲-18
	刈刃, カッタ刃		● 刃の損傷はないか。	126,128 132
	ク ロ ー ラ		● たるみや損傷はないか。	142
	防 じ ん あ み		● 詰まりはないか。	109
	反 射 器		● 汚れや損傷はないか。	141
エンジンルームを開けて	エンジンオイル		● 油量は規定量(オイルゲージの上限線と下限線の間)あるか。	104
	ラジエータ	冷却水	● リザーブタンクの水量は規定量(タンクのFULL線とLOW線)あるか。	107
		フィン	● 詰まりはないか。	109
	エ ア ク リ ー ナ		● エレメントが汚れたり、ほこりが詰まっているか。	108
	ファン駆動ベルト		● たるみはないか。 ● 損傷はないか。	118
	パイプ, ホース		● 油もれや水もれはないか。	108
	配 線 コ ー ド		● コネクタの外れはないか。 ● 被覆の損傷はないか。	140
運転席に座りメーターを覗いて	スカイナビ	各 ラ ン プ	● 各スイッチを操作すると点灯又は、点滅するか。	7,10,11 21,77 140,141
		液晶ディスプレイ	● 表示はされているか。 ● 切替えスイッチを押すと表示内容が変わるか。	
		ホ ー ン	● スイッチを押すと鳴るか。	
		バックブザー【A仕様】	● 主変速レバーを“R”(後進)位置にするとブザーが鳴るか。	
		燃 料 計	● 作業に必要な燃料はあるか。	10,104
ブ レ ー キ		● 遊び量は適正か。	112	
バ ッ テ リ		● エンジン始動するか。	136	
エンジンを始動して	スカイナビ	充電ランプ	● 各ランプは消灯するか。	10,11 140,141
		予熱ランプ		
		注意ランプ		
		オイルランプ		
	エ ン ジ ン		● 異音はしないか。 ● 排気ガスの色に異常はないか。	—
	各 レ バ ー	● 各レバーの作動に異常はないか。	112	
		バックブザー【J仕様】	● 主変速レバーを“後進”位置にするとブザーが鳴るか。	7,140
	刈取スライド(刈取部)【165・195・215・R218S】		● スライドスイッチを操作したときに、刈取部の作動(スライド)に異常はないか。	17,52 142
こぎ深さ制御装置(供給搬送部)		● こぎ深さ制御装置(供給搬送部)の作動状態(上昇↔下降)の異常はないか。	17,140	
エ ン ジ ン 停 止 ス イ ッ チ		● スイッチを押すと、ブザーが鳴りエンジンが停止するか。	18,140	

重 要

* 処置したあとに異常が直らないときは、購入先に連絡してください。

移動走行と輸送

新車時の扱いかた

新車時の上手な運転操作やメンテナンスがコンバインの寿命に影響を及ぼします。新車のコンバインは厳重な検査のもとに出荷されていますがコンバインの各部の部品はならし運転されていません。ならし運転期間中はコンバイン各部の部品がなじむまでは走行速度は低速で、過負荷となる刈取作業は避けてください。コンバインの性能を最大に発揮させたり、長期にわたる耐久力を維持させるためには、適正なならし運転が重要です。

新車時の取扱いは次項を遵守してください。

■ならし運転について

- * 急発進や急ブレーキ操作はしないでください。
- * 寒い日や冬期、エンジンはじゅうぶん暖機運転をしてください。
- * エンジンは規定刈取作業回転数以上に回さないでください。
- * 高速での刈取作業は避けてください。
- * 整地されていない凹凸道路では低速走行をしてください。

以上はならし運転以降も必要な事項ですが、新車時は特に注意してください。

エンジンの始動と停止のしかた



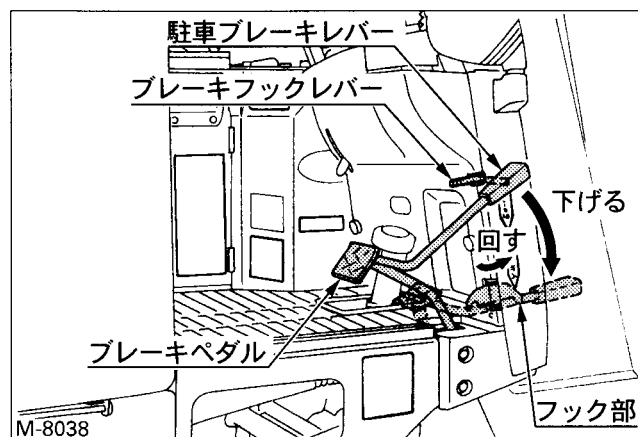
注意

- * メインスイッチのスイッチキーを“予熱”位置にしたとき、スカイナビの液晶ディスプレイに「ご安全に」と表示されますので、この取扱説明書前編の黄色のページの“安全に作業をするために”の内容を必ずお読みいただいて安全作業を心掛けてください。
- * コンバインに貼ってある警告・注意ラベルの内容を必ずお読みください。
- * エンジン排気ガスによる、排気ガス中毒をさけるため、換気の悪い納屋・倉庫でエンジンを回さないでください。
- * 始動操作は、ホーンなどで周囲の人に始動の合図をしてから行なってください。

■始動のしかた

1. 駐車ブレーキを掛けます。

駐車ブレーキレバーをいっぱいまで下げ、ブレーキフックレバーを外側に回し、フック部を駐車ブレーキレバーに引掛けます。



補足

- * 駐車ブレーキを掛けていないときは、ブレーキペダルをいっぱい踏まないでエンジンを始動しません。

2. 各レバー位置の確認をします。

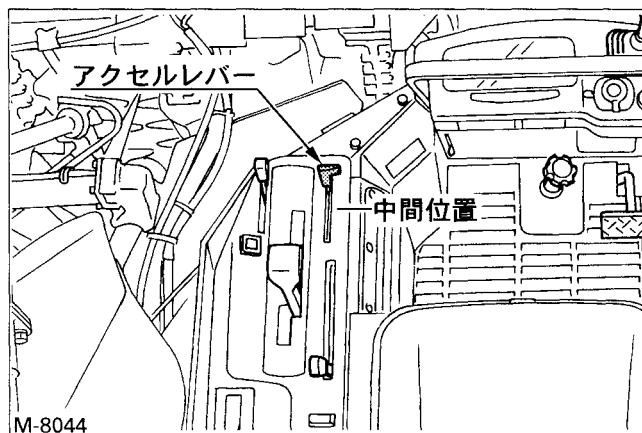
◆【A仕様】

- ①副変速レバーを“N”(中立)、主変速レバーを“N”(中立)位置にします。
- ②各作業クラッチ(刈取、脱こく)レバーを“切”位置にします。

補 足

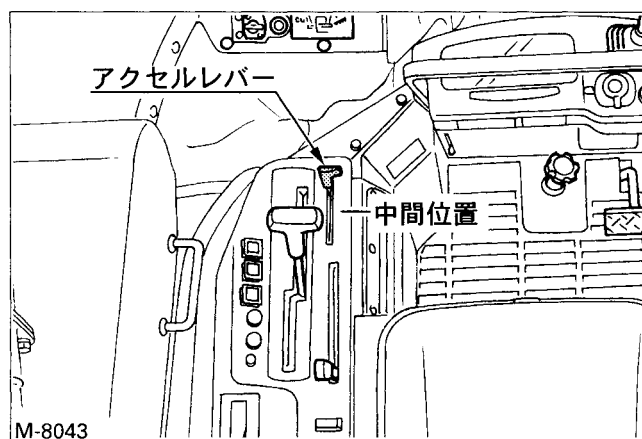
*各作業クラッチ(刈取、脱こく)レバーが“入”位置のときは、エンジンが掛かりません。

- ③アクセルレバーを中間位置まで引きます。



◆【J仕様】

- ①副変速レバーを“N”(中立)位置にします。
- ②各作業クラッチ(刈取、脱こく)レバーを“切”位置にします。
- ③アクセルレバーを中間位置まで引きます。



重 要

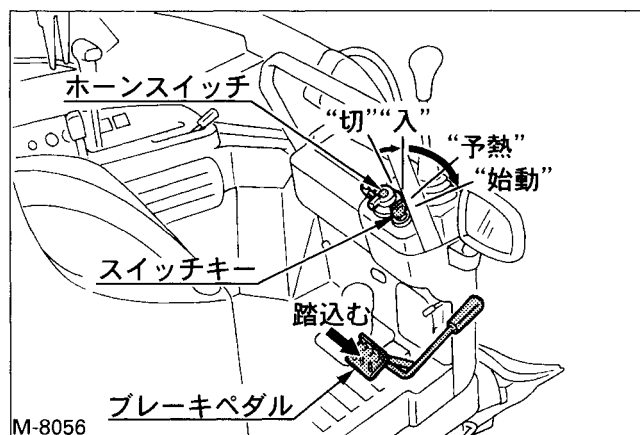
*エンジン停止時は主変速レバーを前・後進方向に動かさないでください。レバーの破損の原因になります。

補 足

- *作業クラッチレバーが“入”位置のときは、エンジンが掛かりません。
- *主変速レバーが“中立”位置にない場合、エンジンを始動すると、主変速レバーは自動的に“中立”位置に戻ります。

3. エンジンを始動します。

- ①メインスイッチにスイッチキーを差込み“入”の位置にしたあと、ホーンを鳴らすなどして始動の合図を周囲の人に送ります。
- ②スイッチキーを“始動”の位置に回してエンジンを始動します。始動後は、スイッチキーから手を離してください。



重 要

- *スイッチキーを“始動”位置に回して10秒たっても始動しないときは、いったんキーを“切”位置にして、30秒ほど休止してから、エンジンを再始動してください。10秒以上の使用は故障の原因になります。
- *エンジン回転中に、スイッチキーを“始動”位置に回すと故障の原因になります。
- *エンジン始動後、オイルランプ、充電ランプが消灯しないときは、購入先へ連絡してください。

補 足

*スカイナビの液晶ディスプレイに、ブレーキペダルを踏んでいない(駐車ブレーキが掛かっていない)ときは、クラッチペダルを踏むが表示され、脱こくクラッチレバーが“入”位置のときは、脱こくクラッチ切にすると表示されます。

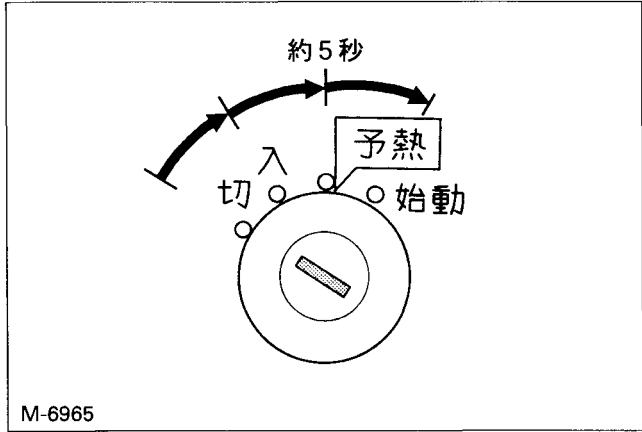
- ③エンジン始動後、エンジン回転数を約1500rpmに合わせて約5～10分間は負荷をかけずに暖機運転を行ってください。

重 要

*オイルを各部にじゅうぶんゆきわたらせるため、始動してからすぐ負荷をかけると、運転部分の焼付きや破損などの故障の原因になります。

◆寒冷時の始動のしかた

寒冷時にエンジンを始動するときは、始動する前にスイッチキーを“予熱”位置で約5秒間予熱し、スカイナビの予熱ランプが消灯したあと“始動”位置に回してください。



重 要

＊寒冷時は暖機運転を怠るとパワーステアリングレバー操作ができなくなったり、ブレーキが効かなくなるなど油圧システムの故障につながりますので、下記の表を目安にアクセルレバーを中間位置にして暖機運転を行なってください。

気 温	暖機運転時間
0℃～－10℃	約10分
－10℃～－15℃	10～15分
－15℃～－20℃	15～20分
－20℃以下	20分以上

補 足

＊スイッチキーを“予熱”位置にすると、予熱ランプは約5秒間点灯したあと消灯します。

◆燃料切れ後の再始動のしかた

運転中に燃料切れで停止した場合は、

- ①各クラッチレバー及びスイッチキーを“切”位置にします。
- ②燃料タンクに燃料を補給します。
- ③始動のしかたの1～3を確認後、エンジンを始動します。

補 足

＊スイッチキーを“入”位置にすると約5～10秒で自動的にエア抜きされます。

■停止のしかた

- ①刈取クラッチレバー・脱こくクラッチレバーを“切”位置にします。
- ②アクセルレバーを“”(低回転)位置にします。
- ③スイッチキーを“切”位置にしてエンジンを停止します。

重 要

＊エンジン停止中でスイッチキーが“入”位置の状態のまま長時間放置するとバッテリー上がりとなります。
＊スイッチキーを“切”位置にしてもエンジンが停止しないときは非常エンジン停止レバーを引いてください。そのあと、ヒューズや配線を点検し、異常がなければ、購入先へ連絡してください。また非常エンジン停止レバーは非常時以外は使用しないでください。(各部の名称とはたらきの非常エンジン停止レバーの項参照)

移動走行について



注意

- *ホッパ又は、グレンタンクに残っているもみは全て排出してください。
- *安全のためヘルメットを着用してください。
- *運転者以外の人は乗せないでください。
- *10cm以上の段差(あぜやコンクリート畦畔など)のあるところではあゆみ板を使ってください。
- *あゆみ板を使うときや、前後左右とも10度をこえる傾斜地(坂道)を走行するときは、速度を最低速にし機械から降りて操作してください。また、駐車ブレーキレバー・主変速レバー・パワーステアリングレバーを操作すると、機械の移動方向が変化したり、急降下、落下するおそれがありますので操作しないでください。
- *あゆみ板を使うときや坂道を走行するときは、速度を最低速にし、あぜや傾斜方向に対して上り方向は前進、下り方向は後進(結束機装着時は上り方向は後進、下り方向は前進)で直角に走行してください。斜めに走行すると転倒してケガをするおそれがあります。
- *下記のようなところを走行するときは、転倒しケガをするおそれがあるので注意してください。
 - 両側が傾斜していたり、溝のある道路の路肩
 - 道幅に余裕がなく高いところにある道路(土手)
 - 路肩の弱い道路
 - 路面の凹凸(溝や穴・窪地など)の落差の大きいところや路面が草などでおおわれて良く見えないところ
- *小型特殊自動車の標識(ナンバープレート)を取得していない場合や結束機を装着している場合は、“道路運送車両法”の違反となりますので公道を走行できません。必ずトラックなどに乗せて移動してください。
- *アンローダ(ロングオーガ)は必ず折りたたんでください。【165・195・215G仕様】

■走行前の準備

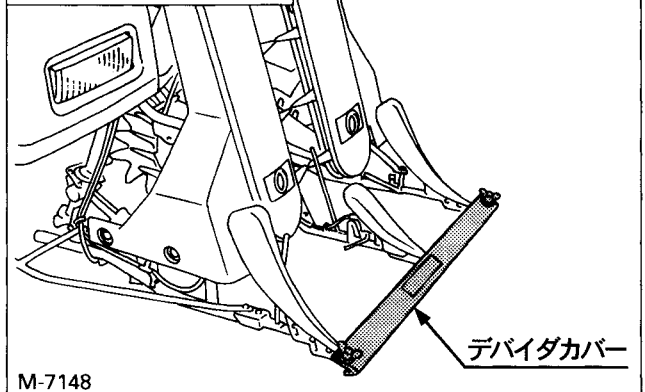


注意

*準備が終われば、カバー類などが確実に取付けられているか確認してください。

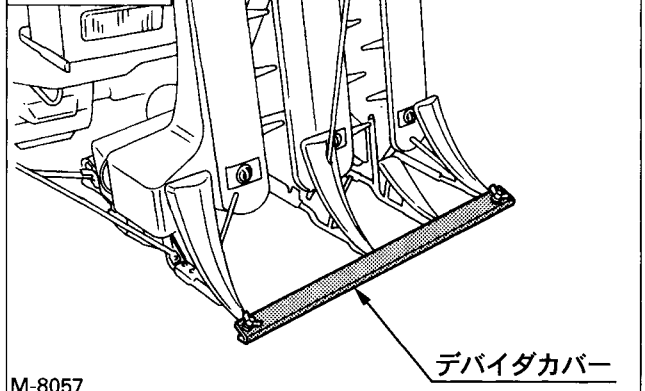
- ①ホッパ又は、グレンタンク内に残っているもみは、すべて排出します。(もみの排出のしかたの項参照)
- ②デバイダカバーを取付けます。

【165・195・215・R218S】



M-7148

【M20・M23】



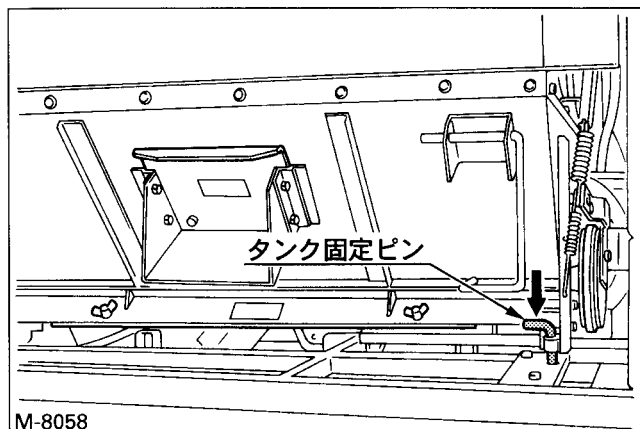
M-8057

補足

*右側デバイダは標準の位置にしてください。
(作業に合わせた各部の調節のしかたの項参照)

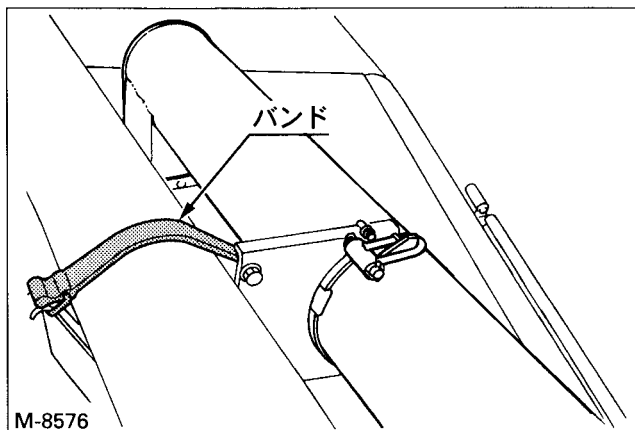
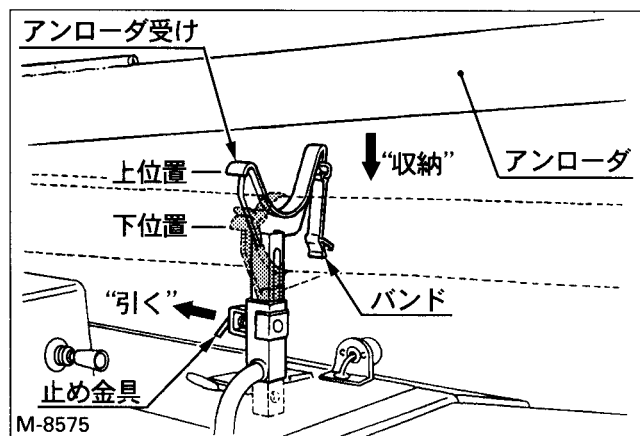
③【G仕様】

(1)タンク固定ピンとタンク固定ボルトで固定します。



(2)【165・195・215・R218S】

止め金具を引き、アンローダ受けを下位置(収納位置)にしたあと、アンローダをアンローダ受けに収納します。そのあと、【165・195・215】はアンローダを折りたたみ、バンドでアンローダ受けと固定します。(アンローダ(ロングオーガ)の折りたたみ・伸ばしかたの項参照)【R218S】はアンローダを収納し、バンドでアンローダ受けと固定します。

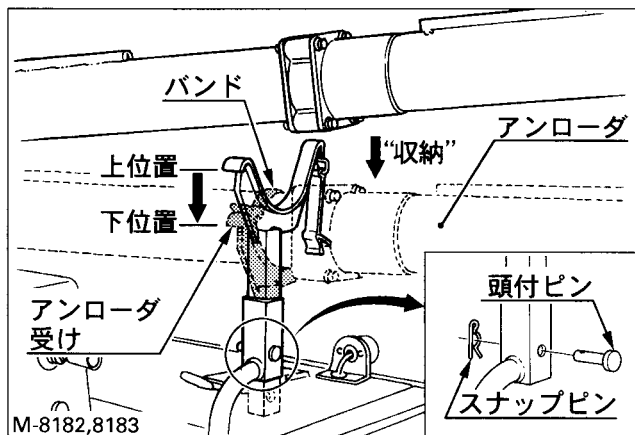


補 足

*アンローダ内にもみが残っていると、もみがこぼれるのでアンローダを一度再上昇させて収納してください。

(2)【M20・M23】

スナップピンを取外し、頭付ピンを抜いてアンローダ受けを下位置(収納状態)にしたあと、アンローダを収納し、バンドでアンローダ受けと固定します。

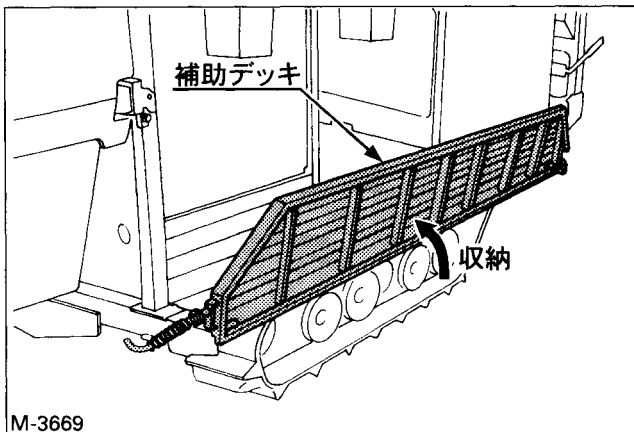


補 足

*アンローダ内にもみが残っていると、もみがこぼれるのでアンローダを一度最上昇させて収納してください。

③【ホッパ仕様】

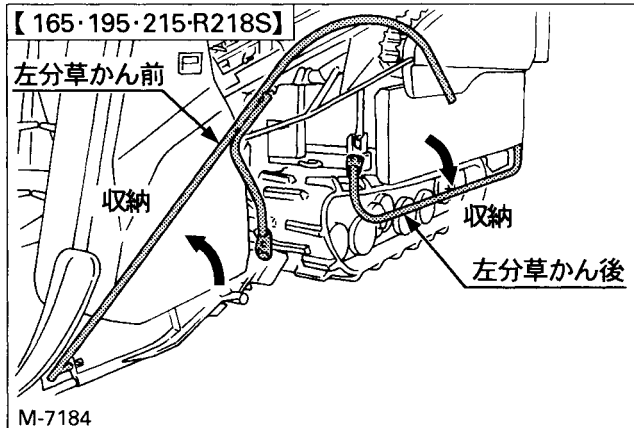
補助デッキを収納します。



M-3669

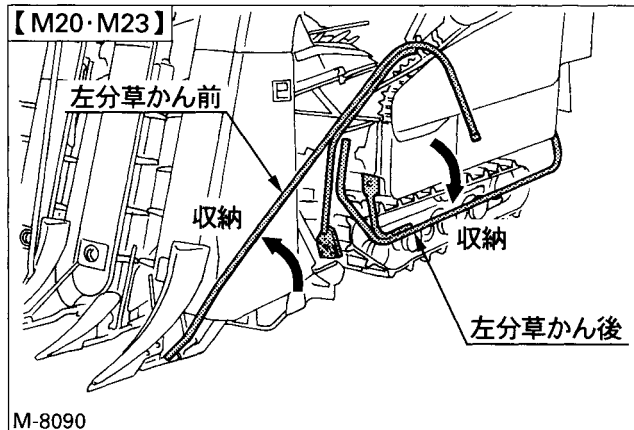
④左分草かん前・後を収納します。

【165・195・215・R218S】



M-7184

【M20・M23】

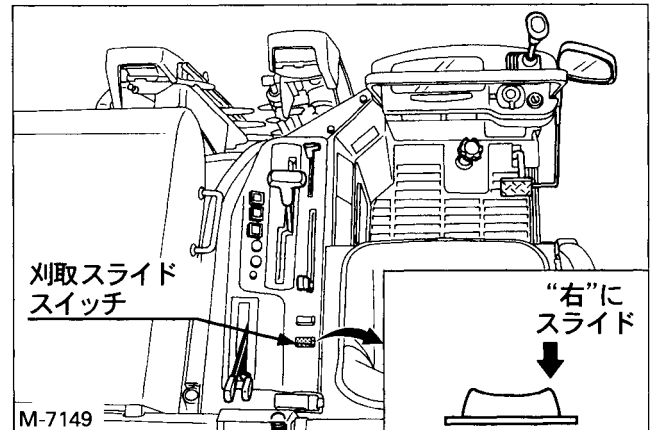


M-8090

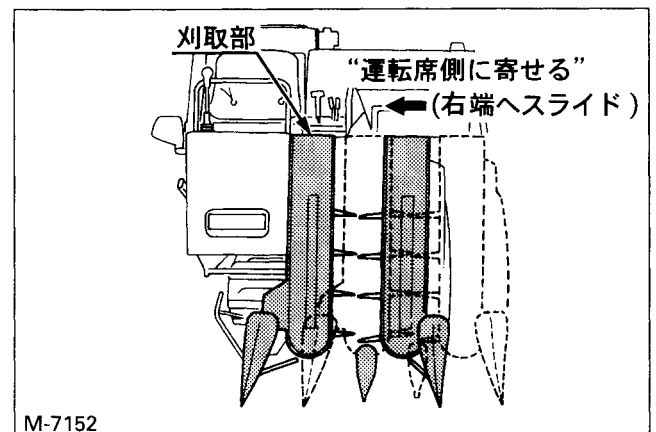
⑤運転席に座り各作業クラッチ(刈取, 脱こく)を“切”位置にします。

⑥刈取スライドスイッチを操作して刈取部を右端(運転席側)いっぱいまで移動します。

【165・195・215・R218S】



M-7149



M-7152

■発進のしかた



注意

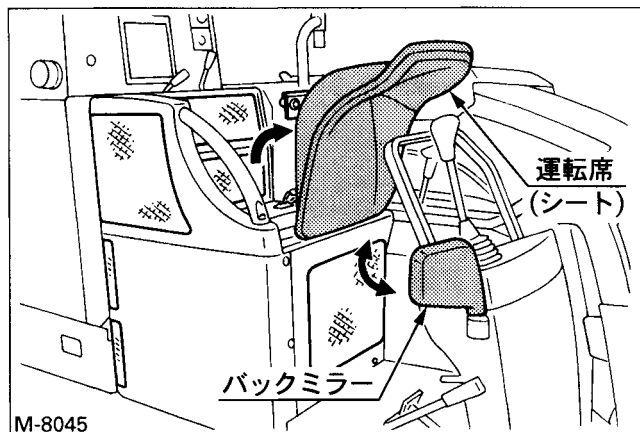
*発進をするときは、周囲の安全を確かめてホーンなどで合図を行ってから発進してください。

*急発進は危険ですので、ゆっくりと発進してください。

1. 運転席、バックミラーの調整を行ないます。

① 運転席を上部に持上げて前・後の調整を行ないます。

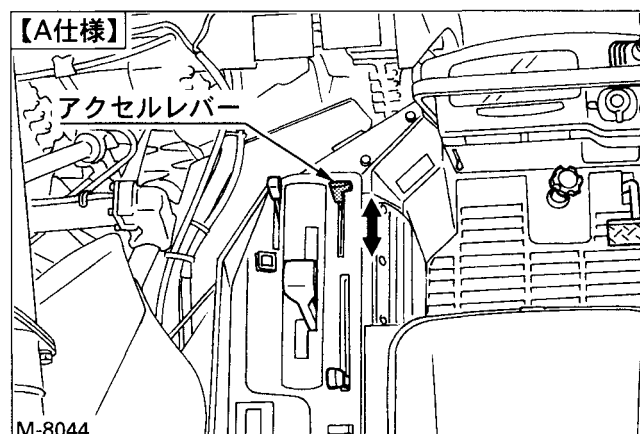
② 後方の状況が分かるようにバックミラーを調整します。



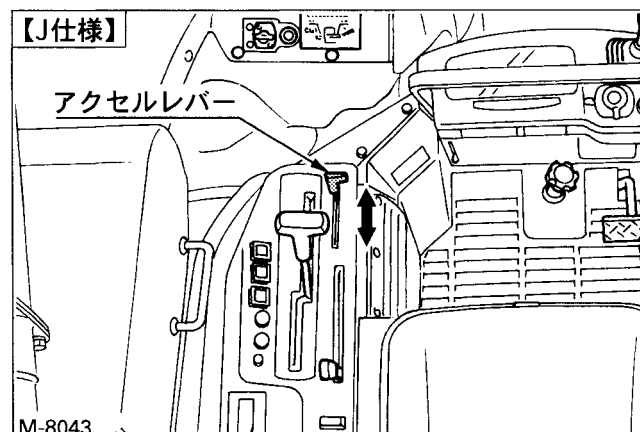
M-8045

2. アクセルレバーを操作します。

エンジンを始動したあと、アクセルレバーを操作してエンジン回転を調整します。



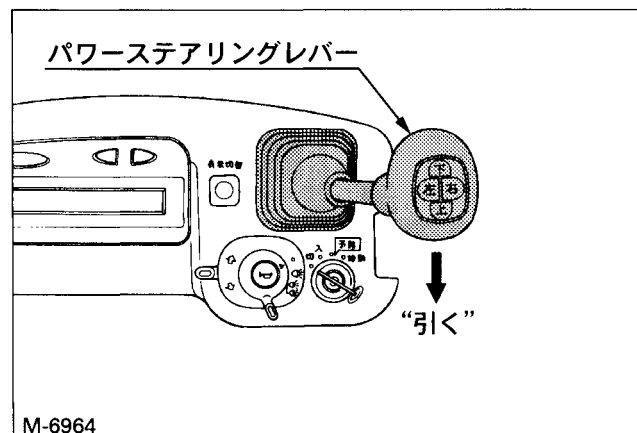
M-8044



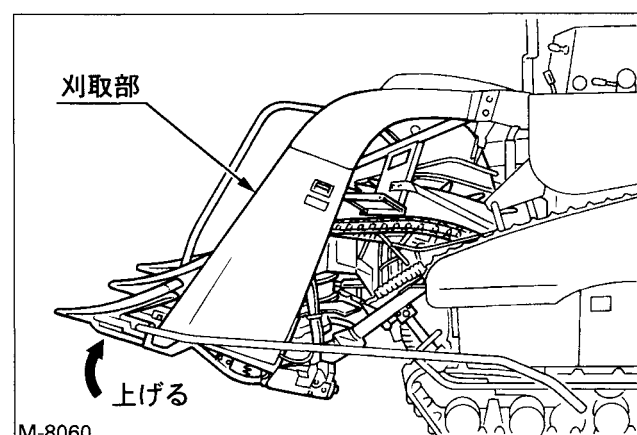
M-8043

3. 刈取部を上げます。

パワーステアリングレバーを引いて刈取部を最上昇位置まで上げます。



M-6964



M-8060

4. 走行速度を選んで発進します。



注意

*副変速レバーの操作時などで、ブレーキペダルを踏込むときは、平たんな場所で行なってください。坂道で操作するとブレーキが効く前に急降下(暴走)するおそれがあります。

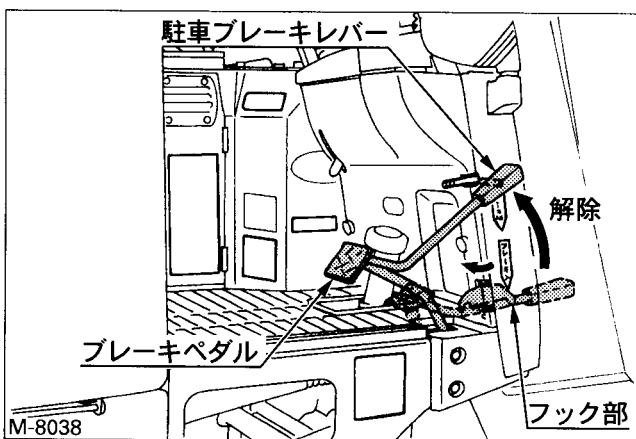
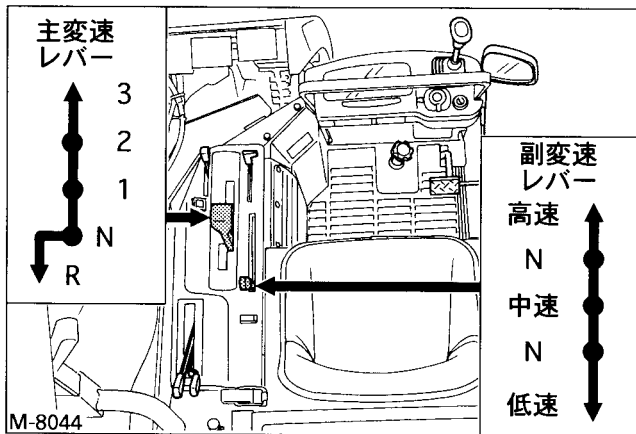
◆【A仕様】

- ①主変速レバーを“N”(中立)位置にして、ブレーキペダルを踏込んで副変速レバーで速度を選びます。

補 足

*ブレーキペダルをさらに踏込むと、駐車ブレーキレバーからフックが外れ、駐車ブレーキが解除されます。

- ②主変速レバーを“N”(中立)位置より前に押すと前進し、後に引くと後進します。



補 足

*主変速レバーの操作は、ブレーキペダルを踏まずに行ないますが、副変速レバーの操作はブレーキペダルを踏込んでください。

*主変速レバーが“2”速，“3”速位置のときに踏込むと、レバーは“1”速位置に戻ります。また、ブレーキペダルを踏込んだ状態では、主変速レバーを“2”速，“3”速に変速することができません。

◆【J仕様】

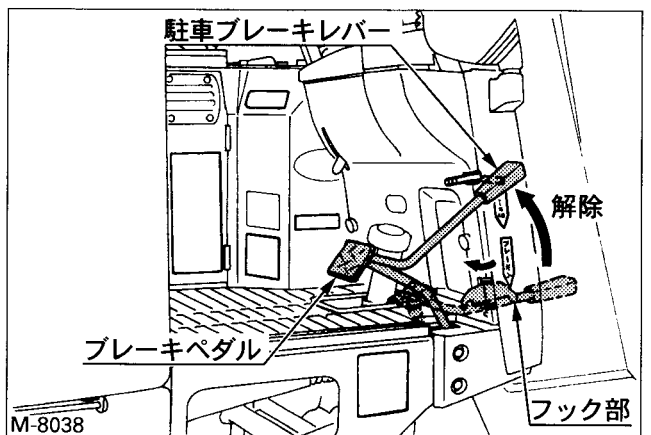
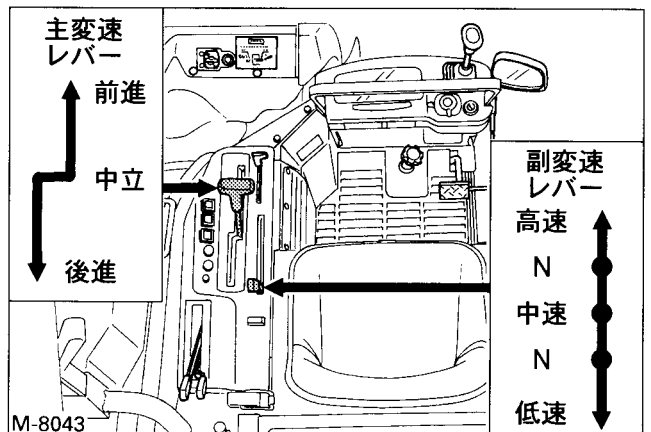
- ①副変速レバーで速度を選びます。

- ②ブレーキペダルをさらに踏込んで駐車ブレーキを解除します。

補 足

*ブレーキペダルをさらに踏込むと、駐車ブレーキレバーからフックが外れ、駐車ブレーキが解除されます。

- ③主変速レバーを“中立”位置より前に押すと前進し、後に引くと後進します。



補 足

*主変速、副変速各レバーの操作は、ブレーキペダルを踏込まずに行なってください。

*主変速レバーの操作が重たく変速が困難な場合や、直進走行時に主変速レバーが“中立”方向に戻ってしまう場合は、販売店に連絡してください。

*エンジン回転数が2000rpm以上のとき、ブレーキペダルを踏込むと主変速レバーが自動的に低速側又は、“中立”位置へ戻ります。

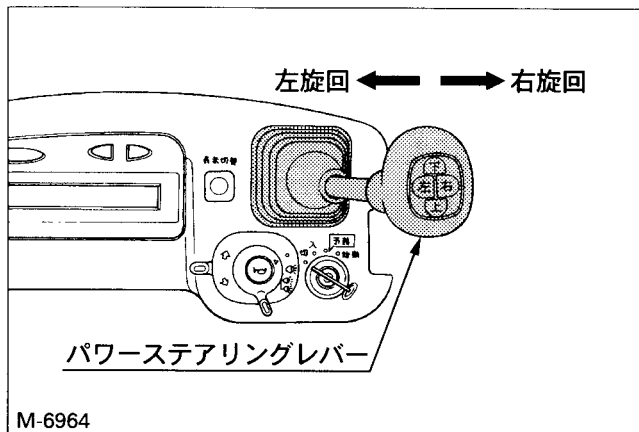
■旋回のしかた



注意

*高速走行時、パワーステアリングレバーを強く操作すると急旋回して危険ですので、旋回前に必ず減速してください。

旋回する方向にパワーステアリングレバーを倒します。倒す角度に応じて旋回力が変わります。また、いっぱいまで倒すと急旋回します。



M-6964

重要

*砂利道での急旋回は、クローラに石がかみこみ故障するおそれがありますので避けてください。

■停車のしかた



注意

*コンバインを離れるときは、平坦で安全な場所に置き、刈取部を降ろして駐車ブレーキを掛け、エンジンを止めてください。

*緊急停止を要するとき及び、坂道で停車をするときは、ブレーキペダルを素早くいっぱい踏み込み、駐車ブレーキを掛けてください。坂道でブレーキペダルを離すと、暴走することがあります。

*坂道で駐車するときは、木片などで車止めをし、暴走を防いでください。

- ①駐車ブレーキを掛けます。
- ②アクセルレバーを“”(低回転)位置にします。
- ③主変速レバーを“N(中立)”位置にします。

補足【J仕様】

*エンジン回転数により、ブレーキペダルを踏込むと低速側又は、“中立”位置へ自動的に移動します。

- ④エンジンを停止してスイッチキーを抜きます。

■道路走行について



警告

*道路を走行するときは、小型特殊自動車の法規を守り安全運転をしてください。



注意

*結束機【結束機付き仕様】は、必ず取外してください。

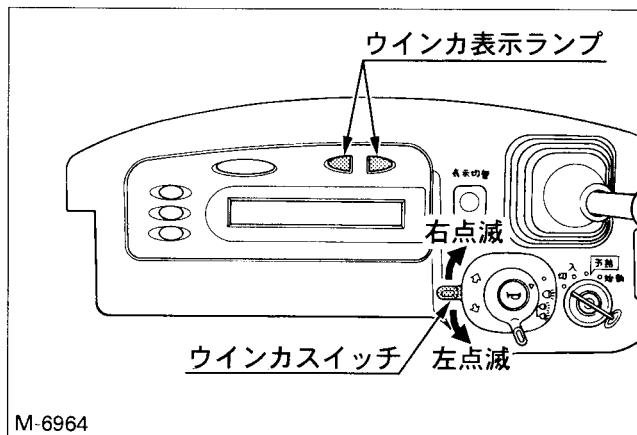
*夜間に移動走行するときは、ヘッドランプを必ず点灯し、ヘッドランプ以外の作業灯は必ず消灯してください。

*作業灯は“道路運送車両の保安基準”第42条(灯火の色等の制限)において、“走行中に使用しない灯火”とされ、点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから、道路走行中の点灯は禁止されています。

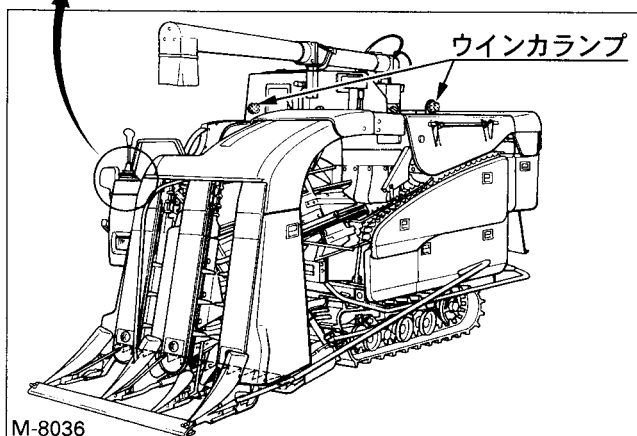
道路走行中、進路方向を変えるときは、ウインカ(方向指示器)で進路方向を他の自動車に知らせてください。

●ウインカスイッチ

旋回方向に操作すると、ウインカランプが点滅すると同時にメータユニット内の表示ランプが点滅します。



M-6964



M-8036

補足

*旋回が終わるとウインカスイッチは中央に戻してください。

輸送について

■トラックとあゆみ板の準備



注意

- * 積込み・積降しは平たん地を選び，トラックの駐車ブレーキをしっかりと掛けてください。
- * あゆみ板はフックが付いているもので，じゅうぶんな強度，幅(50cm以上)，長さ(高さの4倍以上)のある基準に合ったすべり止め付きのものを使用し，コンバインの重量であゆみ板が傾いたりしない場所を選んでください。
- * あゆみ板を荷台に掛けるときは，段差がなく平行で，左・右のあおりに機体が接触しない位置に合わせてください。

あゆみ板の基準

長さ	トラックの荷台の高さの4倍以上
幅	50cm以上
数量	2枚
強度	1枚が1200kg以上の重量に耐えうる

■コンバインの準備

もみをすべて排出し，アンローダ受けを下(収納)位置にしてアンローダを収納後，折りたたみ式アンローダは折りたたみ【165・195・215】フックを確実にかけ，バンドで固定【G仕様】し，補助デッキ【ホッパ仕様】や左分草かんをそれぞれ収納したあと，デバイダカバーを取付けます。

(移動走行についての走行前の準備の項参照)

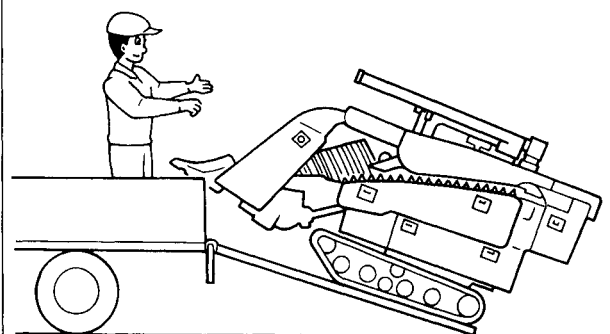
■コンバインの積込み・積降しのしかた



注意

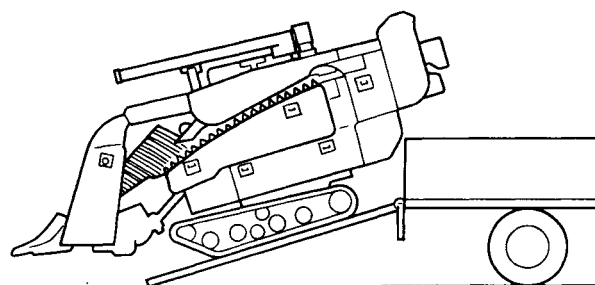
- * 積込みは前進で，積降しは後進で行なってください。ただし，結束機を装着している機械は後進で積込み，前進で積降しを行なってください。
- * 積込み・積降し作業を行なうときは，機体から降りて発進させてください。
- * 運転者及び共同作業者は，あゆみ板を走行中のコンバインからは離れてください。

【165・195・215・R218S】



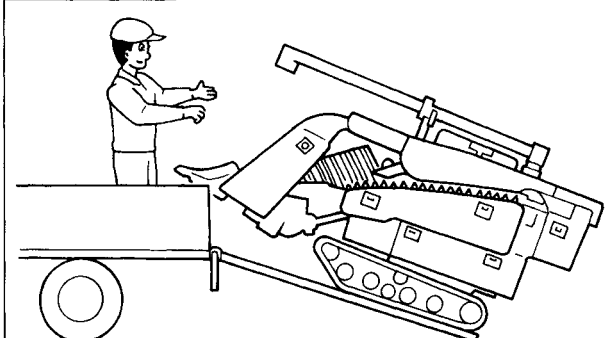
M-8577

【165・195・215・R218S結束機付】



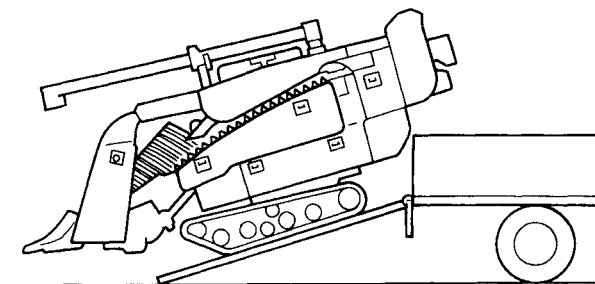
M-8578

【M20・M23】



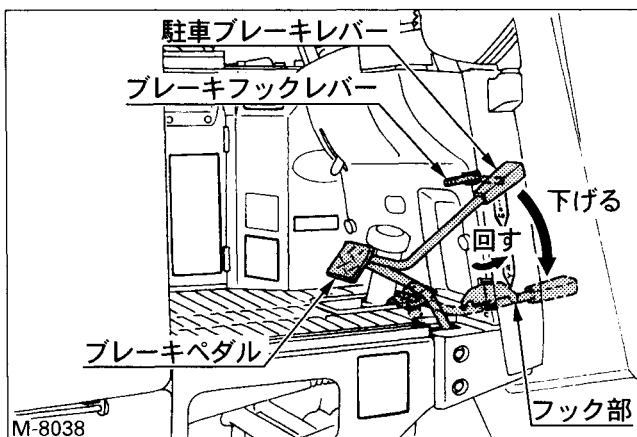
M-8061

【M20・M23結束機付】

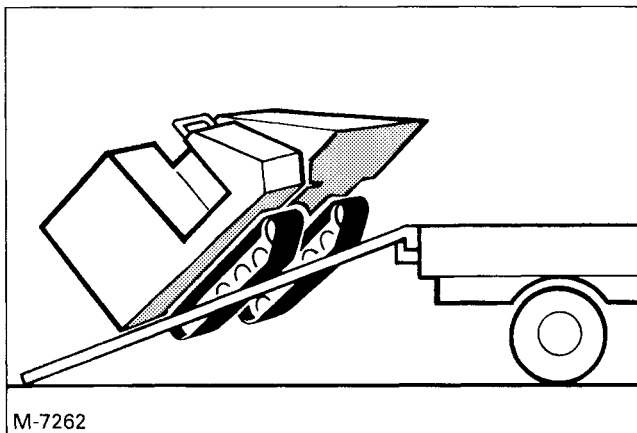


M-8062

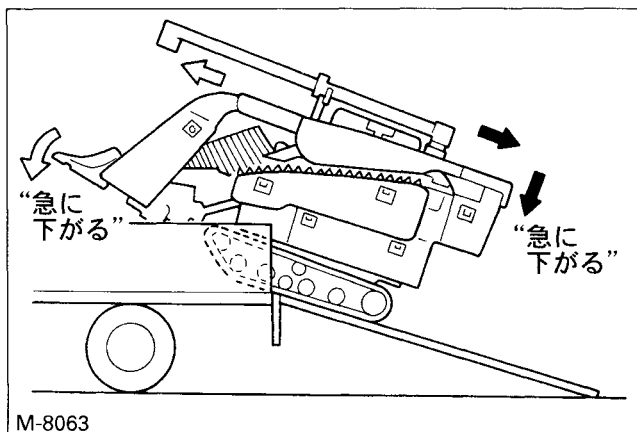
*走行中に異常が発生し、緊急に停止するときは、駐車ブレーキレバーを素早くいっぱい押下げて、ブレーキフックレバーで駐車ブレーキを掛けてください。操作をゆっくり行なうとブレーキが効く前に急降下します。



*あゆみ板の途中で駐車ブレーキレバー・主変速レバー・パワーステアリングレバーを操作すると、機械が急降下し落下する危険がありますので、操作しないでください。方向を変えるときは、いったん地上又は荷台に戻って方向を修正し、再度上り下りし直してください。



*機体が凸部を越えるときは、急にコンバインの姿勢が変わりますのでじゅうぶん注意してください。

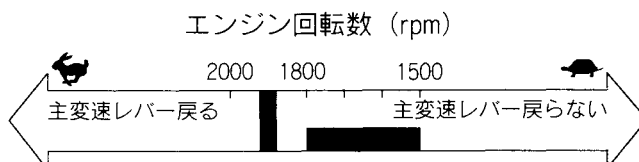


◆操作のしかた

- ①各作業クラッチレバーを“切”位置にします。
- ②アクセルレバーを操作してエンジン回転数を1800～1500rpmに調整します。
- ③副変速レバーを“低速”位置にします。
- ④パワーステアリングレバーで刈取部を最上昇位置まで上げます。
- ⑤【A仕様】
主変速レバーは、前進のときは“1”速、後進のときは“R”(後進)位置にします。
- ⑤【J仕様】
主変速レバーを操作して、前・後進低速で行ないます。
- ⑥あゆみ板の前でいったん停止し、あゆみ板の中央に左右のクローラを合わせ、あゆみ板と平行になっているか確認してから積込み・積降しをしてください。
- ⑦荷台に乗り終わると駐車ブレーキレバーを掛けて、走行を停止します。

補 足 【J仕様】

*駐車ブレーキレバーを操作しても主変速レバーが自動的に戻らないエンジン回転数1800rpm～1500rpmで使用してください。また、エンジン回転数を下げ過ぎると、パワーステアリングレバーを操作しても通常より方向修正が遅れることがあります。



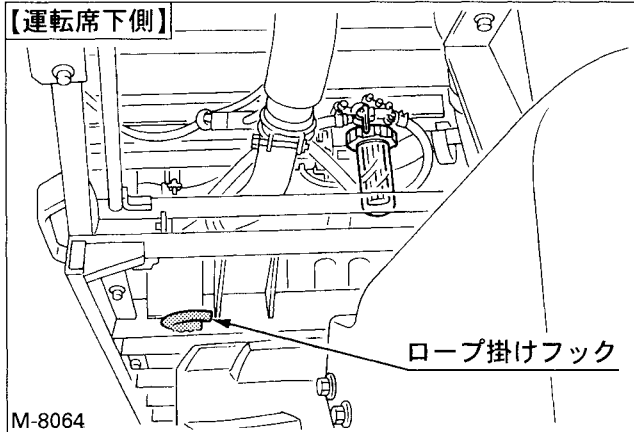
■トラック上での処置



注意

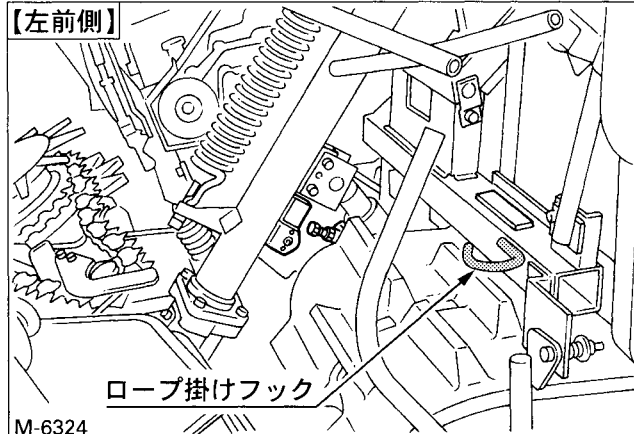
*刈取部を床まで降し、駐車ブレーキを掛け、車止めをし、ロープでしっかりトラックに固定してください。

【運転席下側】



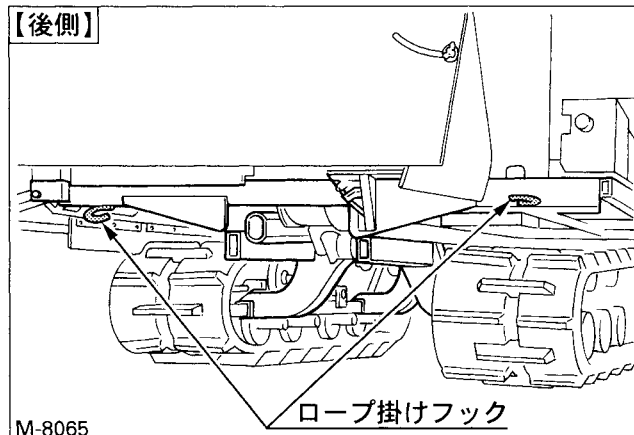
M-8064

【左前側】

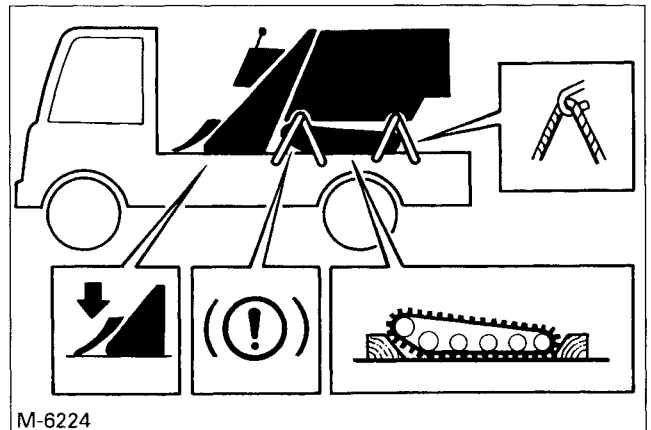


M-6324

【後側】



M-8065

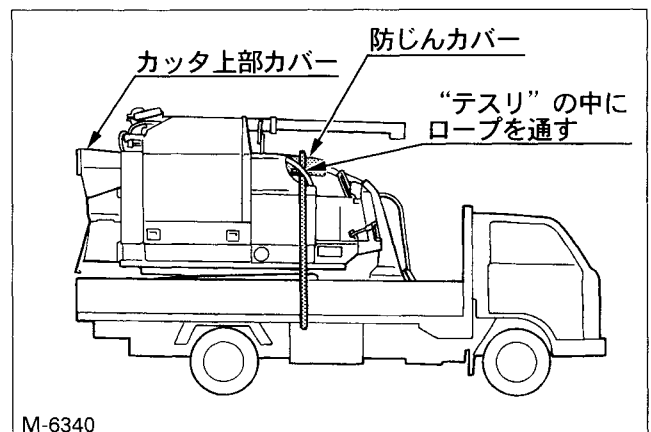


M-6224

重要

*フック以外の所には、ロープを掛けないでください。

*風圧により防じんカバーが浮き上がるので、破損防止のためロープを傷がつかないように、掛けてください。また、結束機付のときはカッタ上部カバーも掛けてください。【HD仕様】



M-6340

収穫作業のしかた

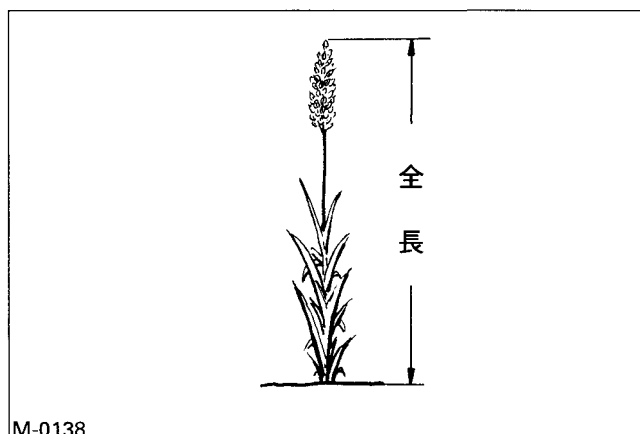
作物とほ場の条件

作物の状態やほ場の状態によっては、刈取作業ができない場合があります。作業を始める前によく確認して、収穫量が上がる能率のよい作業を行なってください。

■作物の条件

◆作物の長さ

刈取れる長さは、標準の刈高で約55～130cmです。



M-0138

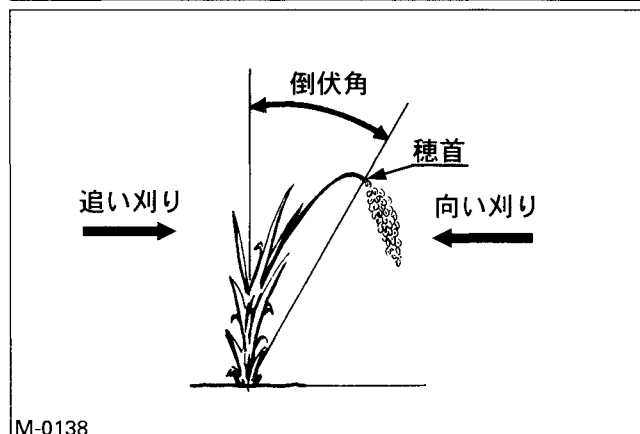
補 足

* 短かん調節を行なうと約50cmから刈取れます。
(作業に合わせた各部の調節のしかたの短かん調節の項参照)

◆作物の倒伏

作物の倒れかた(倒伏角)により、刈取り方向に注意してください。

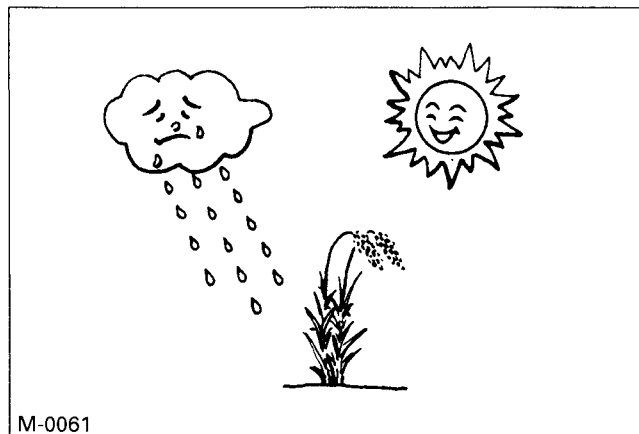
刈取りかた(方向)	倒 伏 角
追い刈り	85度以下
向い刈り	70度以下



M-0138

◆作物の水分(ぬれ)

作物の乾燥状態は、手でさわってぬれていない状態が適期です。



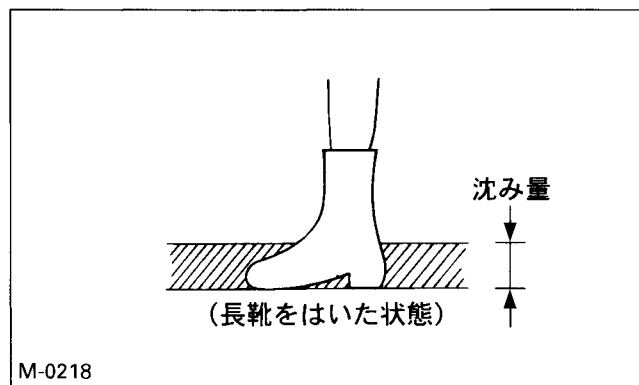
M-0061

■ほ場の条件

◆ほ場のぬかるみ

足の沈み量を測って目安にしてください。また、クローラの仕様(仕様についての項参照)によって、目安の沈み量は異なります。

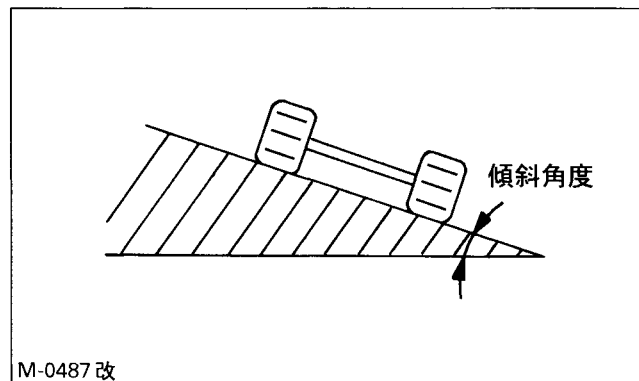
仕 様	沈 み 量
標 準	6cmまで
W, W2	15cmまで
SW3 【165】	18cmまで



M-0218

◆ほ場の斜き

傾斜角度5度以上では、作業できません。

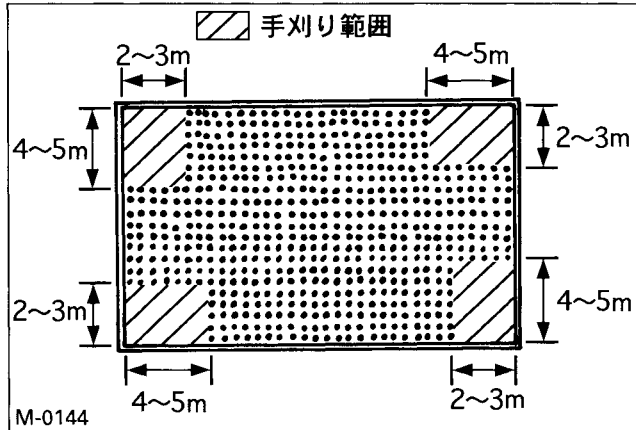


M-0487 改

ほ場の準備

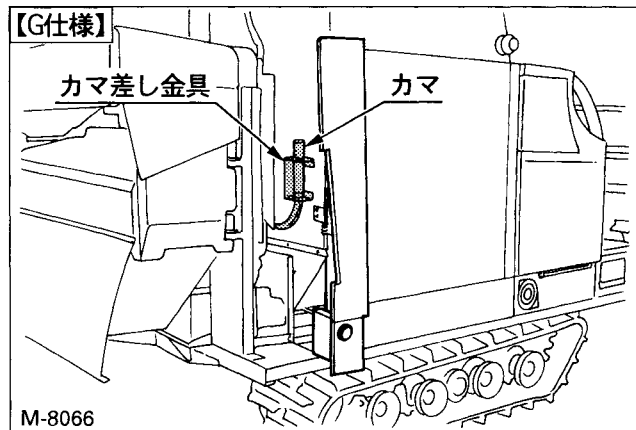
■ほ場の準備

コンバインをほ場に入れる前に、あぜぎわの四すみで旋回が楽に行なえるように、旋回ができる範囲(面積)の手刈り(枕刈り)をします。

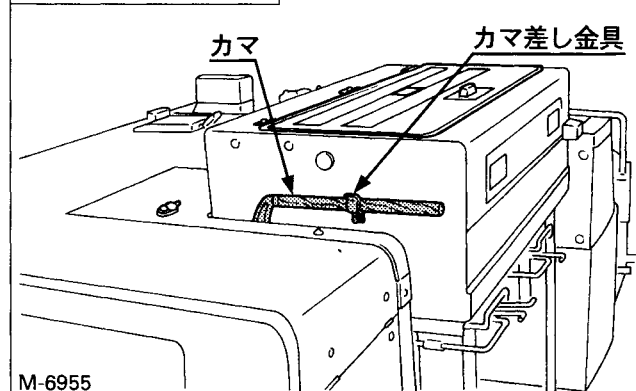


補 足

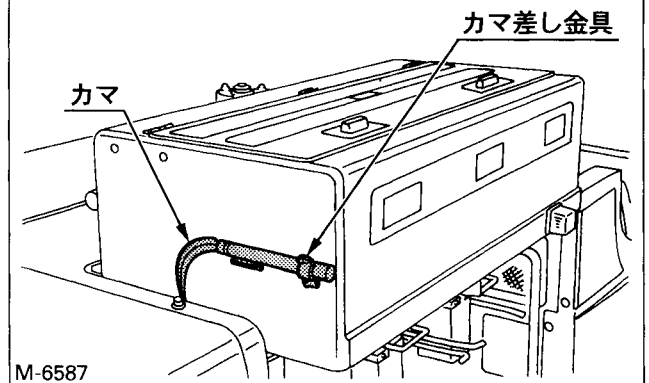
* カマの収納場所は下図の位置にあります。



【165・195ホッパ仕様】



【M23ホッパ仕様】



コンバインの準備



警 告

* 平たんな場所に置き、エンジンは必ず止めてください。

* 取外したカバー類は必ず取付けてください。

■準備のしかた

1. 各部への注油

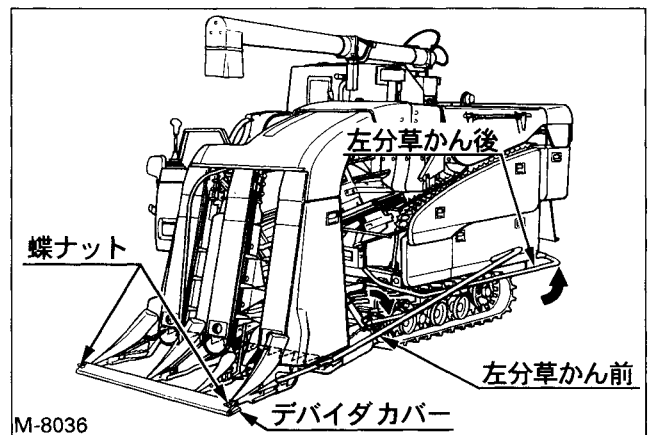
作業前に刈刃や各チェーンに注油を行なってください。
(各部の掃除と注油のしかたの項参照)

2. デバイダカバーの取外し

蝶ナット2箇所をゆるめてデバイダカバーを取外します。

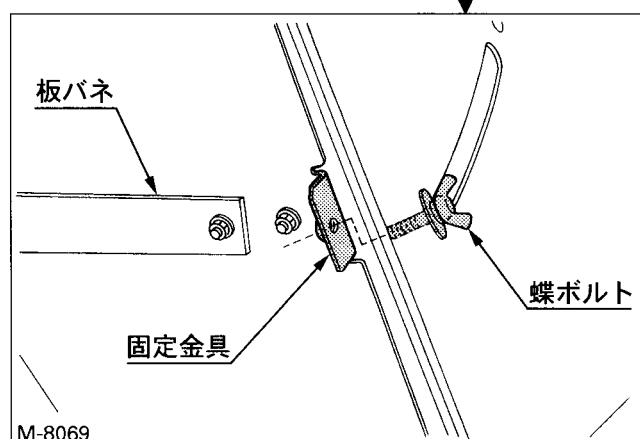
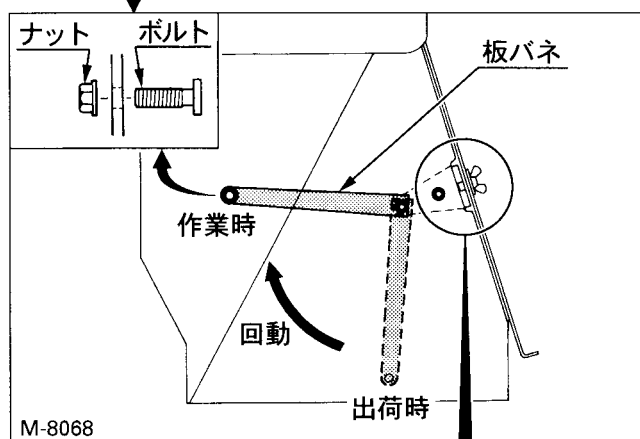
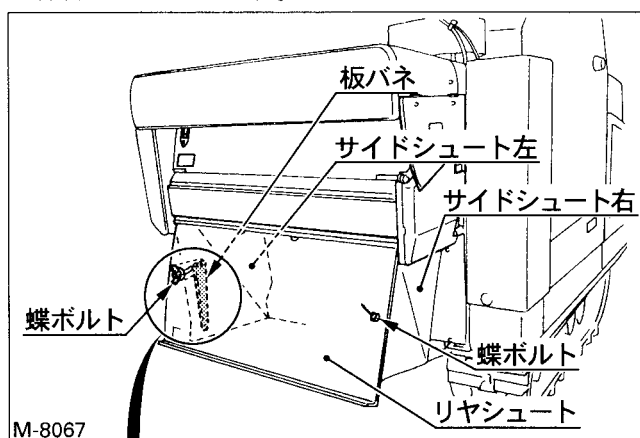
3. 左分草かんのセット

左分草かん前・後を開きます。



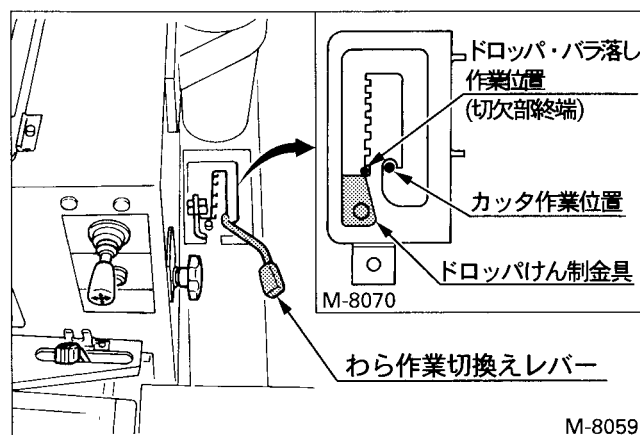
4. リヤシュート・サイドシュートの準備

- ① 収納状態のリヤシュートとサイドシュートを固定している左・右の蝶ボルトをそれぞれゆるめ、サイドシュートを外します。
- ② リヤシュートを後方に広げ、サイドシュート左・右を外側に広げます。
- ③ サイドシュート左に取付けている板バネの先端部にあるボルトとナットを取外します。
- ④ 板バネを機体前方向に回転させ、下図作業時位置の取付け穴にシュートの裏側よりボルトを差込んで、ナットを締付けて固定します。
- ⑤ リヤシュートとサイドシュート左・右を①の工程でゆるめた蝶ボルトで、サイドシュートの固定金具に締付けて固定します。



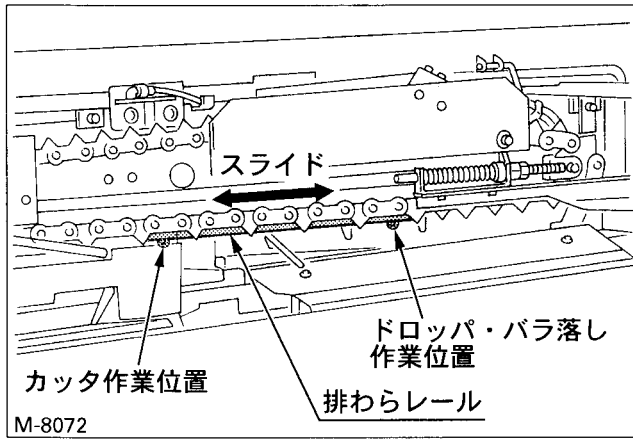
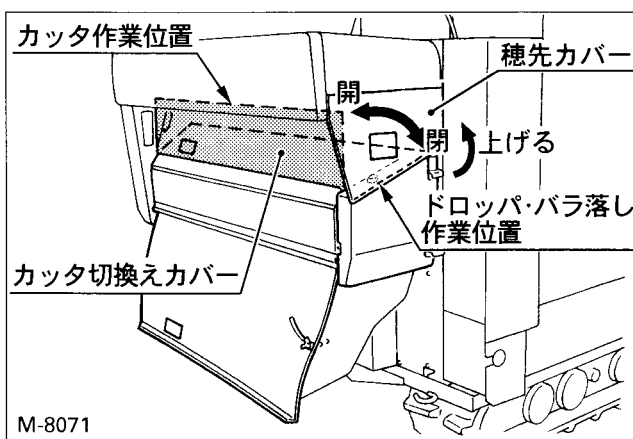
5. 排わら処理の選択

運転席(シート)左後部にあるわら作業切換えレバーを操作して、**カタ作業** ↔ **ドロップ・バラ落し作業**の選択をします。



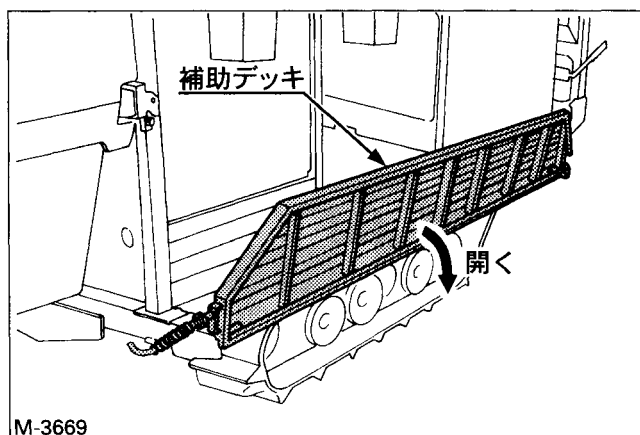
補 足

- * ドロップ・バラ落し作業は、切換えレバーをドロップバけん制金具に当たる切欠部終端位置まで動かしてください。他の切欠部は結束機付き仕様のとき使用します。
- * ドロップ・バラ落とし作業のときは、穂先カバーを上げてください。
- * 切換えレバーを操作すると、カタ部のカタ切換えカバーが開閉すると同時に、排わらレールがスライドします。



6. 補助デッキともみ袋の準備【ホッパ仕様】

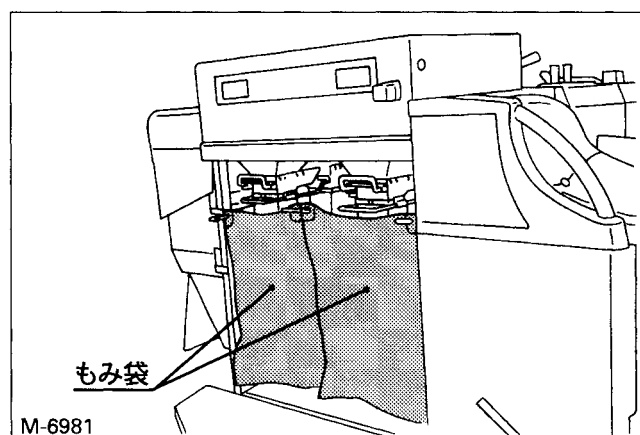
① 補助デッキを開きます。



M-3669

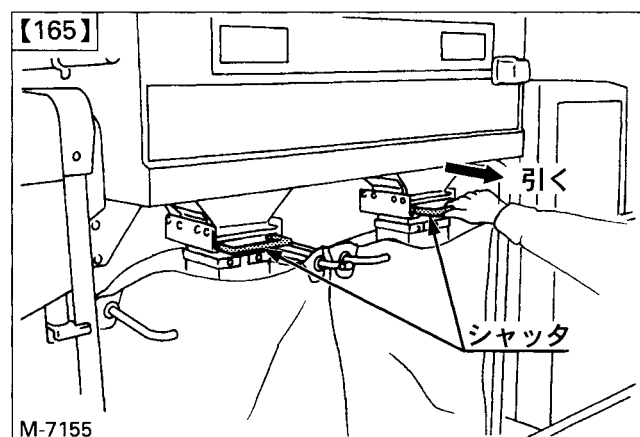
②【165・195】

(1) もみ袋のファスナを開き、図のように掛け金具に、もみ袋を取付けます。

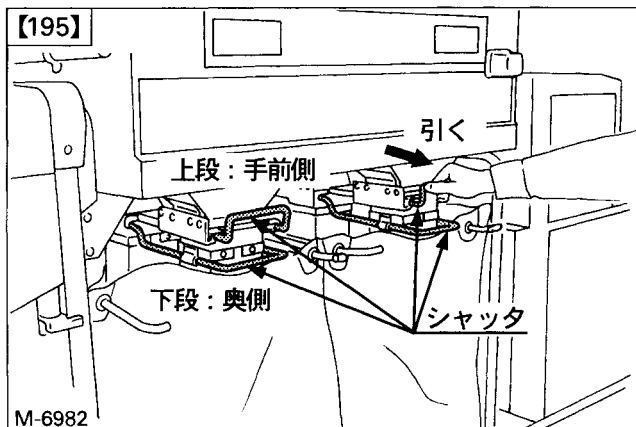


M-6981

(2) 各吐出口のシャッタを開きます。



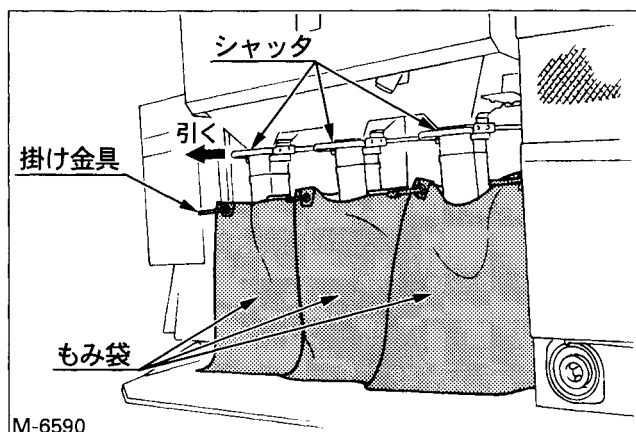
M-7155



M-6982

②【M23】

もみ袋のファスナを開き、図のように掛け金具に、もみ袋を取付けたあと、各吐出口のシャッタを引いて吐出口を開きます。

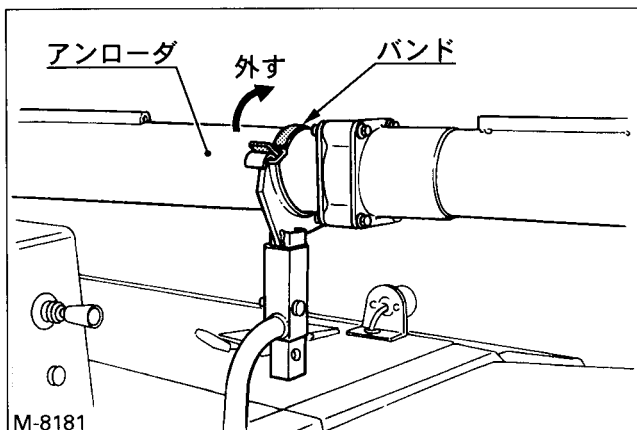


M-6590

7. アンローダの準備

【R218S・M20・M23G仕様】

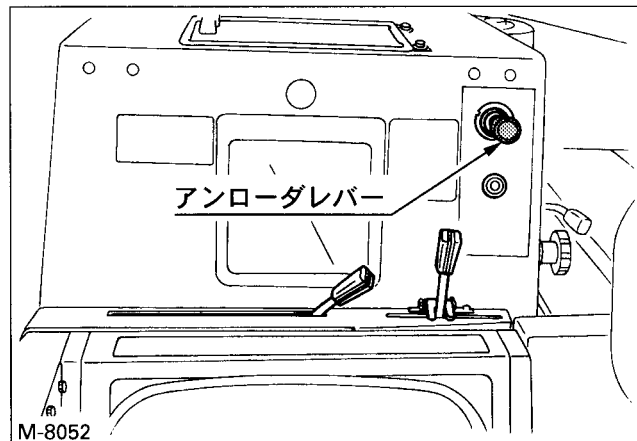
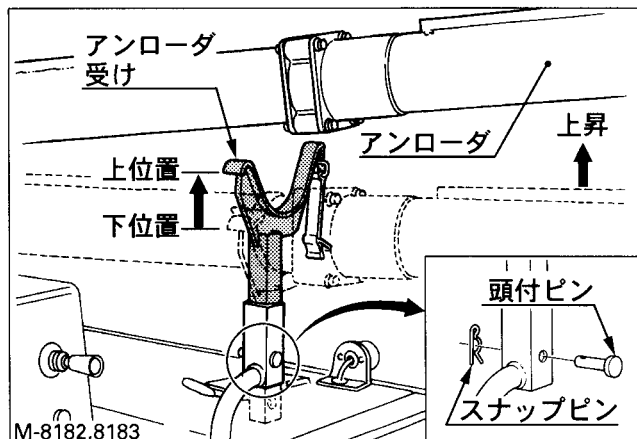
- ① アンローダを固定しているバンドを外します。



- ② アンローダレバーでアンローダを上昇させます。

- ③ スナップピンを取外し、頭付ピンを抜いて、アンローダ受けを上位置(作業状態)にします。

- ④ アンローダレバーでアンローダを収納します。



- ⑤ アンローダ(ロングオーガ)を伸ばします。

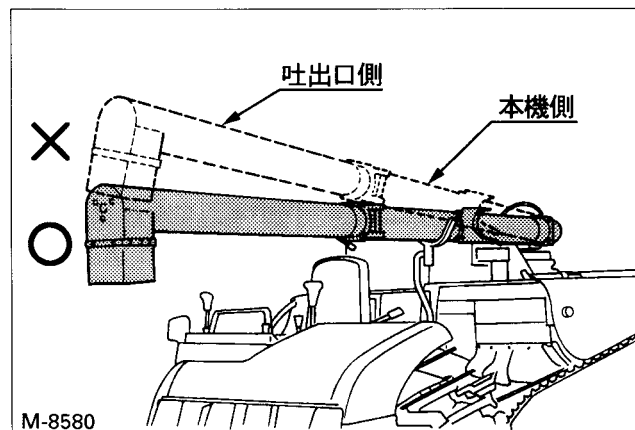
■ アンローダ(ロングオーガ)の折りたたみ・伸ばしかた【165・195・215】



注意

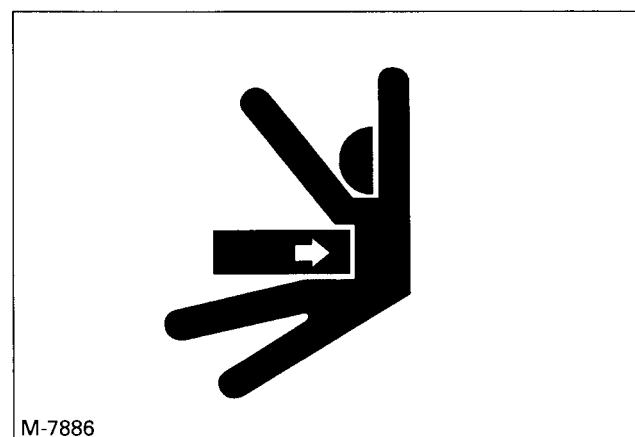
* 水平で平坦な場所でエンジンを必ず停止させてください。

* 機体やアンローダが傾いていると、吐出口側のアンローダが自然に動きケガをするおそれがありますので、アンローダは必ず水平状態にしてください。



* アンローダ先端が大きく動き、ケガをするおそれがあるので、アンローダの旋回範囲に人がいるときは、アンローダを動かさないでください。

* フックがされていないと吐出口側のアンローダが不意に動いてケガをするおそれがあります。



【165・195・215 G仕様】

(アンローダ(ロングオーガ)の折りたたみ・伸ばしかたの項参照。)

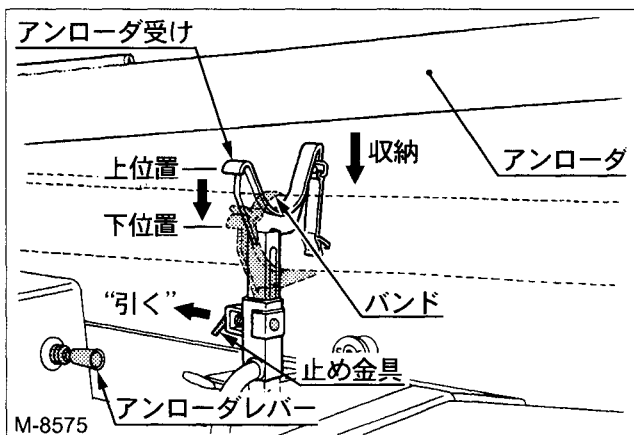
◆折りたたみかた



注意

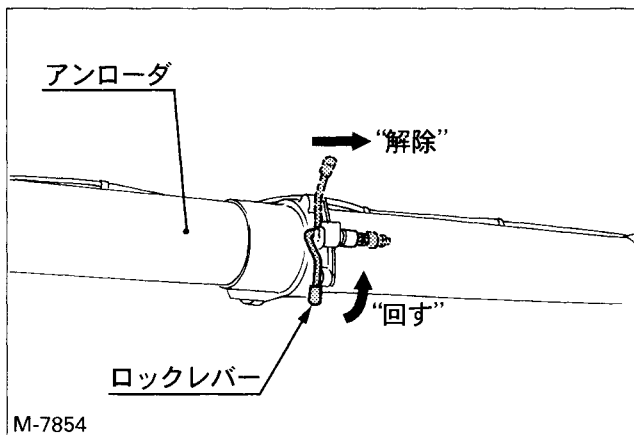
* あぜ越え、移動走行時およびトラックで輸送するときは、アンローダが人や物にぶつかるおそれがあるので必ず折りたたんでください。

- ① 止め金具を引いたあと、アンローダ受けを下位置にします。
- ② メインスイッチを“入”位置にします。
- ③ アンローダ内にもみが残っているときは、一度アンローダを最上昇させます。
- ④ アンローダレバーを操作してアンローダをアンローダ受けに収納したあとバンドをします。

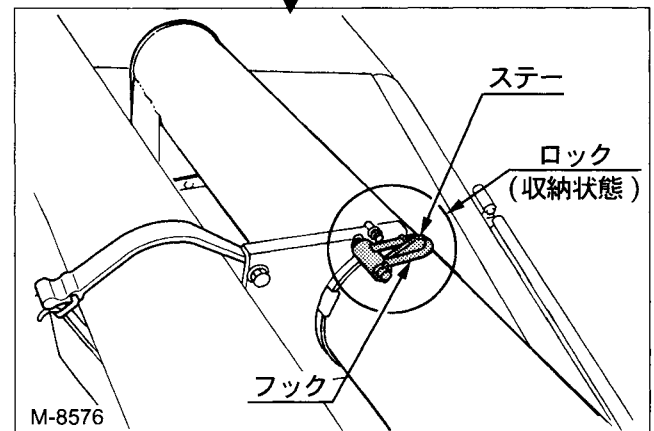
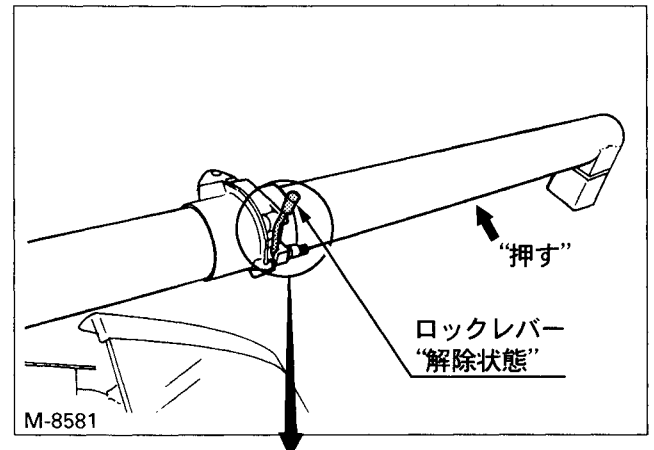


- ⑤ アンローダを折りたたみます。

(1) ロックレバーを上側に回してロック解除の状態にします。



(2) 吐出口側のアンローダを左側に強く押して収納位置にロックします。

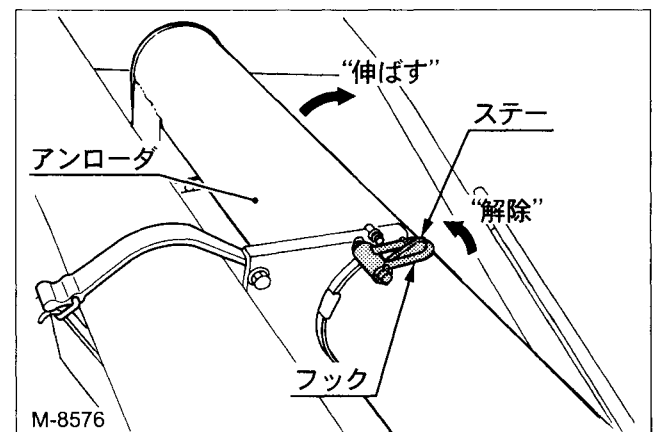


補足

* 吐出口側のアンローダを強く押すと収納位置で、ステアにフックが引掛かり自動的にロックされます。
* もみの排出途中で排出を止めたとき、アンローダ内に残っているもみがこぼれますので、アンローダは折りたたまないでください。

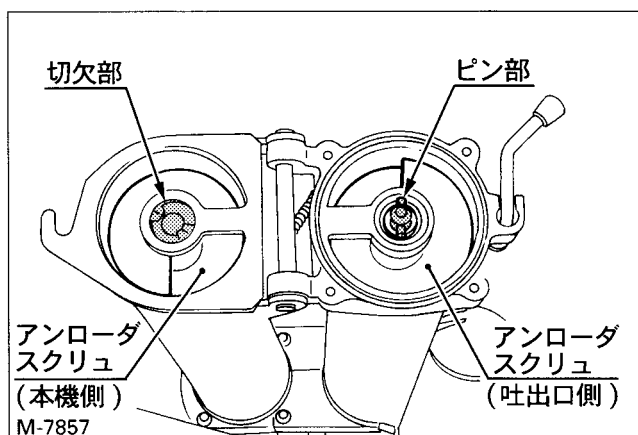
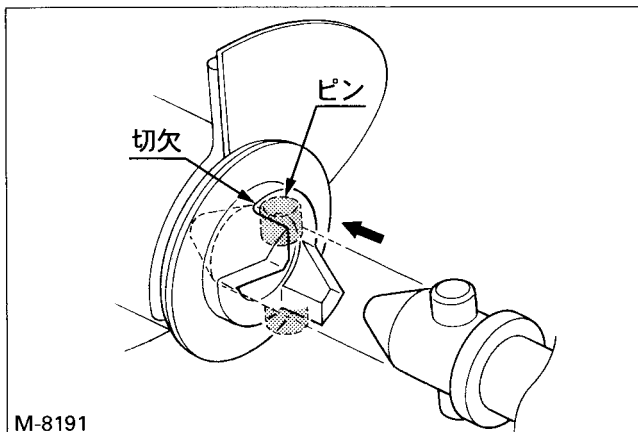
◆伸ばしかた(作業時)

- ① アンローダのフックを上げてステアより外したあと、吐出口側のアンローダを伸ばします。

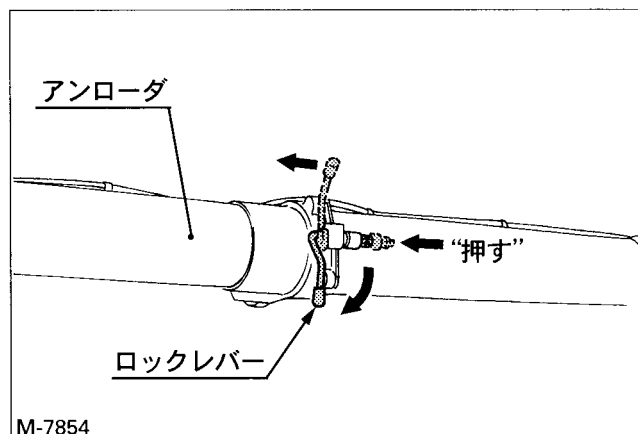


補 足

* アンローダを伸ばすときは、本機側アンローダスクリュの切欠に吐出口側のピンを合わせてください。



② ロックレバーで本機側と吐出口側のアンローダを固定します。このとき、スプリング部を指で押して、ロック溝にレバーを通して、下側に回してロックします。

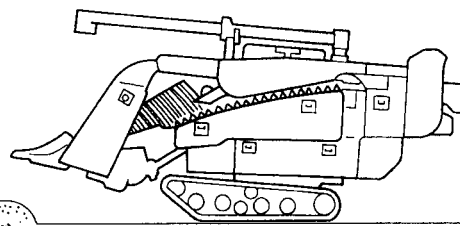


- ③ バンドを外します。
- ④ メインスイッチを“入”位置にしたあと、アンローダレバーでアンローダを上昇させます。
- ⑤ アンローダ受けを上位置にします。
- ⑥ アンローダレバーを操作してアンローダ受けに収納します。

刈取作業のしかた**■ほ場の出入りのしかた****注 意**

- * 10cm以上の段差(あぜやコンクリート畦畔など)のあるところではあゆみ板を使ってください。
- * あゆみ板を使うときや前後左右とも10度をこえる傾斜地を走行するときは、速度を最低速にし機械から降りて操作してください。
- * あゆみ板を使うときは、速度を最低速にし、あぜに対して上り方向は前進、下り方向は後進(結束機装着時は上り方向は後進、下り方向は前進)で直角に走行してください。斜めに走行すると転倒してケガをするおそれがあります。
- * 後進する場合は後方の安全確認、また後方に川(用水路)やがけのある場合は転落しないよう後方にはじゅうぶん注意してください。
- * 機体が、凸部を越えるときは、重心の位置が変わって機体が上向きから下向きに姿勢が変わるのでじゅうぶん注意してください。

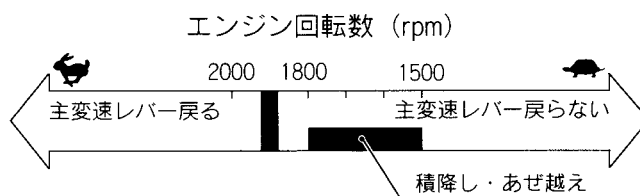
① 主変速・副変速各変速レバーを最低速にして、エンジン回転を低回転(1800rpm～1500rpm)にし、直角にあぜ越えしてください。

低いあぜ越え

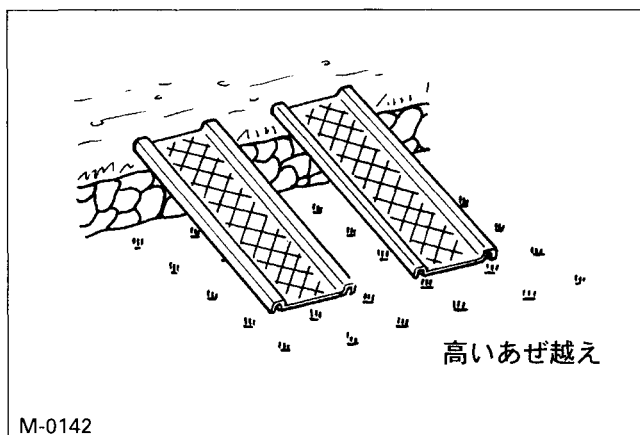
M-8062改

補 足 [J仕様]

* コンバインから降りて作業するときは、駐車ブレーキレバーを操作しても主変速レバーが自動的に戻らないエンジン回転数1800rpm～1500rpmで使用してください。また、エンジン回転数を下げ過ぎると、パワーステアリングレバーを操作しても通常より方向修正が遅れることがあります。



- ②10cm以上の高いあぜの場合はあゆみ板を使用してください。



■刈取作業の手順



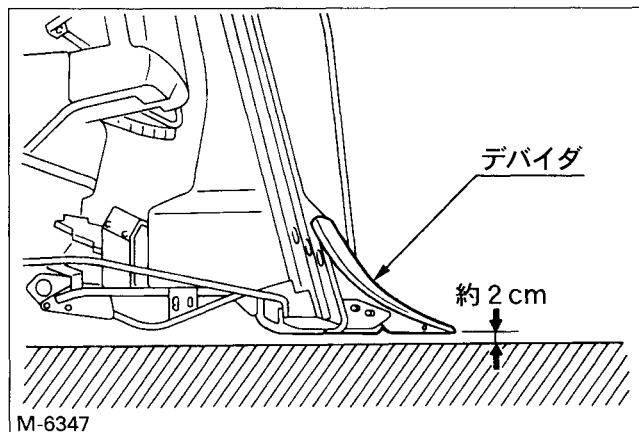
注意

- *異常が発生したときは、エンジンを必ず止めてください。
- *小さなほ場や、ほ場のすみでは作業がしにくいので、安全のため低速で注意しながら作業を行ってください。
- *夜間など暗い場所で作業するときは、ヘッドランプや作業灯を必ず点灯してください。

重要

- *枕地を刈取るとき、アンローダ(ロングオーガ)の先端が、障害物(電柱や壁など)に当たり、破損するおそれがありますので、アンローダ(ロングオーガ)は折りたたんだ状態で作業を行ってください。【165・195・215】
- *作業中エンジン回りの防じんカバーにゴミの付着が多くなれば、そのつど掃除してください。
防じんあみ全面にゴミが付着したまま作業を続けると、エンジンオーバーヒートの原因になりますので注意してください。
- *コンバインを停止するときは、わらくずの上に止めないでください。マフラ排気口にわらくずが触れると、火災のおそれがあります。
- *湿田で作業する場合特に一方刈りで何回も後進するときは、フレーム下部に切わらを大量に抱込み、トラブルの原因になりますので、切わらの無い場所を後進するか早めにわらを排出してください。
- *副変速レバーを“高速”位置にして刈取作業はしないでください。トラブルの原因になります。

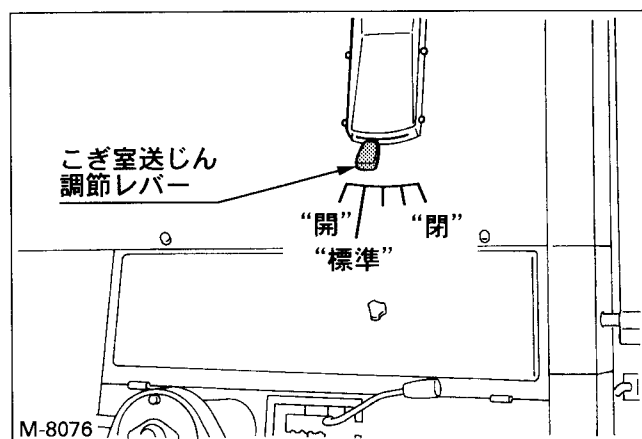
- ①ほ場に入ったらコンバインの走行をいったん停止し、主変速・副変速各変速レバーを中立位置にしたあと、アクセルレバーを操作してエンジン回転を最低回転数(アイドリング状態)にします。
- ②パワーステアリングレバーを操作し、通常はデバイダの先端を、地面すれすれ(約2cm程度)のところまで刈取部を下げます。



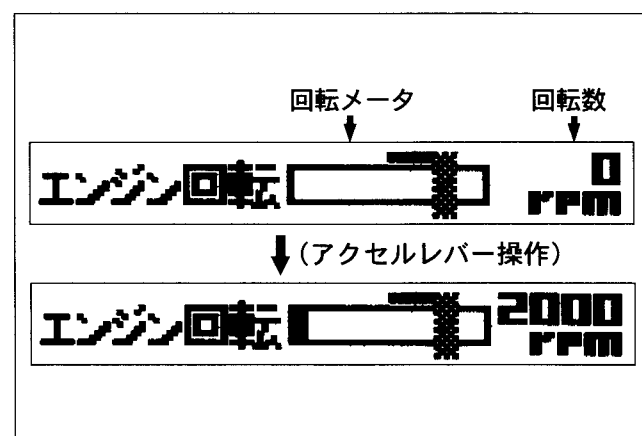
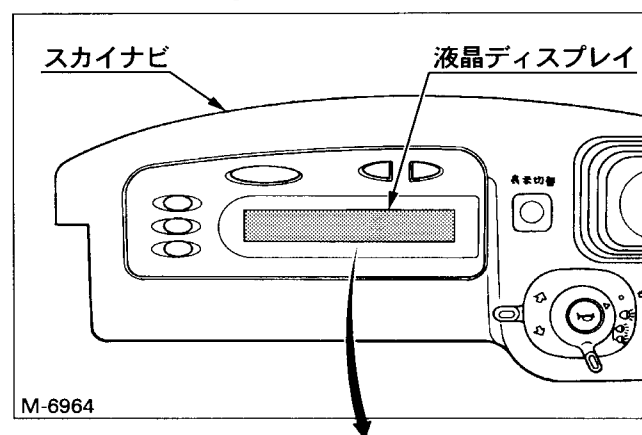
補足

- *長かん作物、麦、雑草の多い作物は、高刈りしてください。

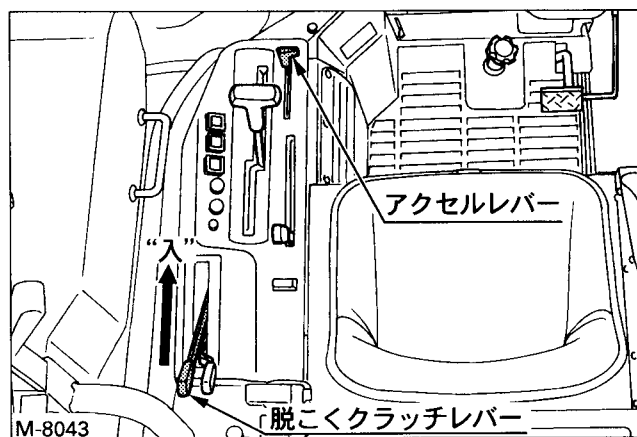
- ③ こぎ室送じん調節レバーを“標準”位置にします。
(作業に合わせた各部の調節・調整のしかたの項参照)



- ④ スカイナビの液晶ディスプレイのエンジン回転数表示を見ながらアクセルレバーを操作して、エンジン回転数を約2000rpmにします。



- ⑤ 脱こくクラッチレバーを“入”位置にします。



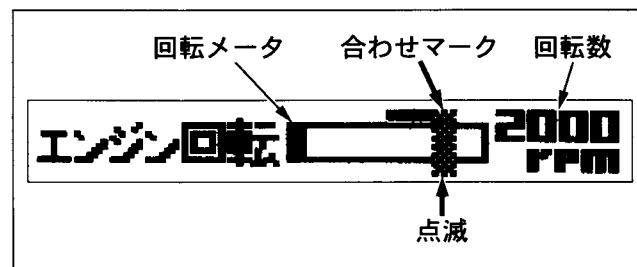
重要

＊エンジン回転数が2000rpm以上のとき、脱こくクラッチレバーを入れると駆動ベルトが破損するおそれがあります。

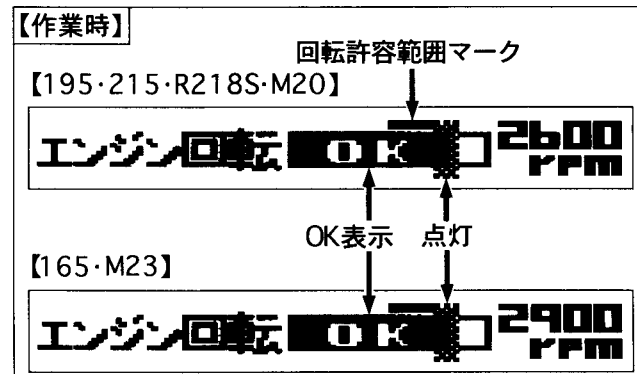
補足

＊エンジン回転数が低すぎると液晶ディスプレイに「回転数を上げて下さい」と表示します。

- ⑥ エンジン回転数表示を見ながらアクセルレバーを操作して、エンジン回転数を2600rpm【195・215・R218S・M20】又は、2900rpm【165・M23】に合わせます。このとき、エンジン回転メータの合わせマークに回転数が到達すると、合わせマークが点滅から点灯に変わると同時に“OK”と表示されます。



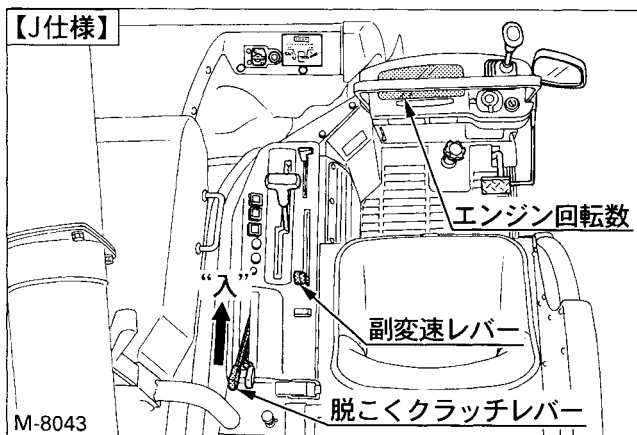
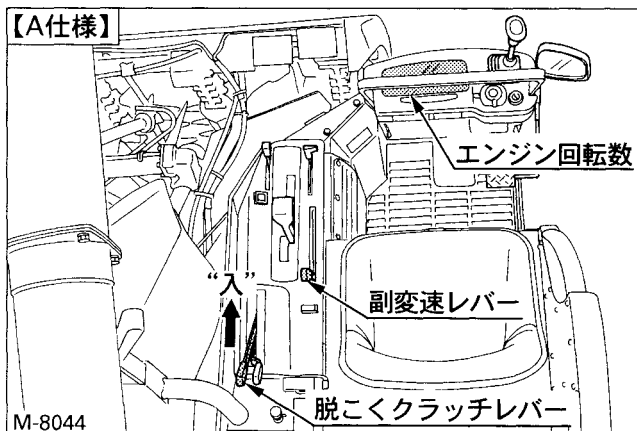
↓ (アクセルレバー操作)



補 足

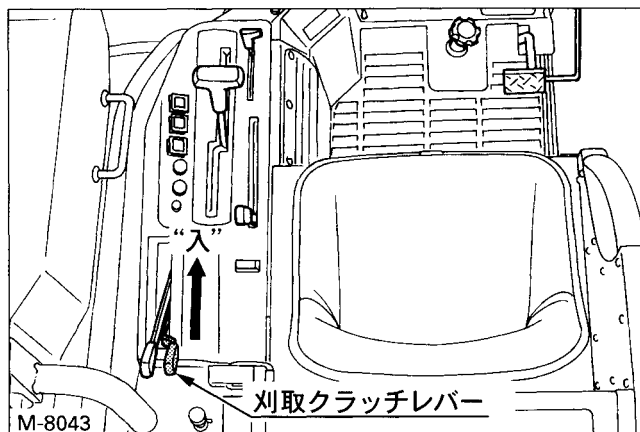
- * “OK”表示のエンジン回転数は、標準作業時の回転数です。もみの脱ぶや損傷が多いときは、エンジン回転数を回転許容範囲内(約150rpmの範囲)マークの範囲内で回転数を調整してください。
- * 回転許容範囲より低いエンジン回転数で作業を開始すると **回転数を上げて下さい** と表示すると同時に警報ブザーが鳴ります。
- * エンジン回転数が合わせマークをこえると“OK”表示は消えます。

- ⑦ 副変速レバーを作物の条件に合わせて、“低速”又は、“中速”の位置にします。(作物に合わせた変速の選びかたの項参照)

**重 要**

- * 副変速レバー“高速”位置での刈取作業は、トラブルの原因になりますので、使用しないでください。
- * エンジン回転数は脱こくクラッチレバーを“入”位置にし、走行しない状態で合わせてください。

- ⑧ 刈取クラッチレバーを“入”位置にします。

**重 要 【A仕様】**

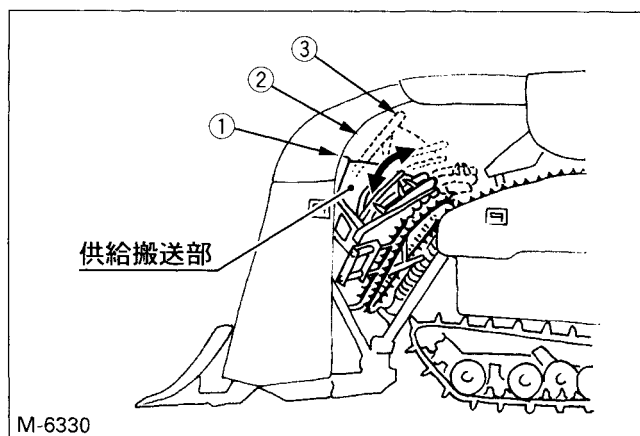
- * 刈取作業中に走行を停止する場合は必ずブレーキペダルを踏んでください。主変速レバーを“N(中立)”にしても刈取部は停止しませんので、作物を引倒して搬送コボレが発生します。

補 足

- * エンジン回転数が2000rpm以上のとき、ブレーキペダルを踏込むと主変速レバーが自動的に低速側又は、“中立”位置へ戻ります。【J仕様】
- * 主変速レバーが“2”速、“3”速位置のときに踏込むと、レバーは“1”速位置に戻ります。また、ブレーキペダルを踏込んだ状態では、主変速レバーを“2”速、“3”速に変速することができません。【A仕様】

- ⑨ 作物の長さを確認したあと、刈始めのこぎ深さの調整をします。調整するときは、手動こぎ深さスイッチで供給搬送部を下図の位置に合わせます。そのあと、自動こぎ深さスイッチを“入”にします。(自動こぎ深さ制御装置の項参照)

- 作物の長さ80cm以下 ①の位置(“浅こぎ”)
- 作物の長さ80～100cm ②の位置
- 作物の長さ100cm以上 ③の位置(“深こぎ”)



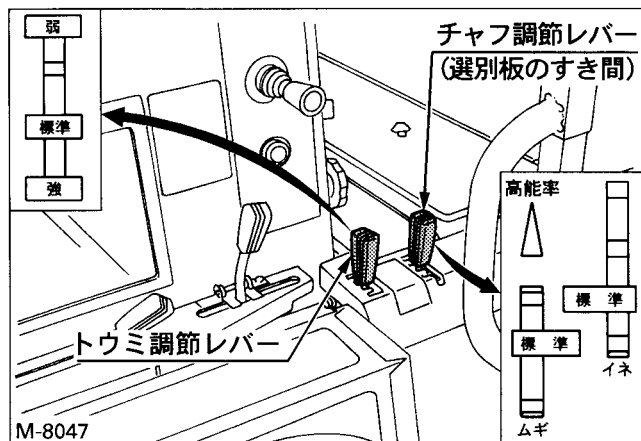
- ⑩脱こく部のトウミ(風力)及びチャフ(選別板のすき間)を設定します。

補 足

* 調節のしかたについては、作業に合わせた各部の調節・調整のしかたの項参照

●【D仕様】

トウミ調節レバー及びチャフ調節レバーを“標準”位置にします。



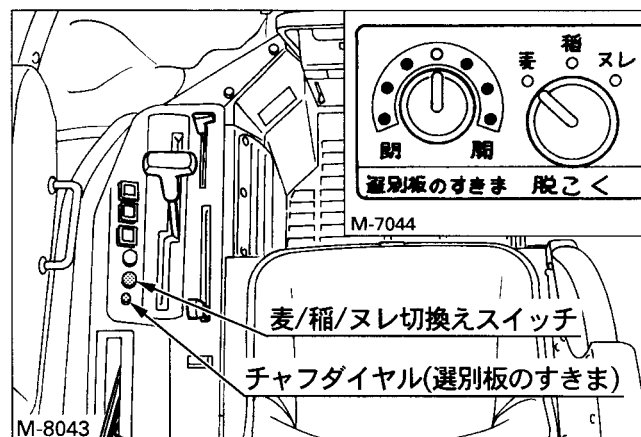
●【HD仕様】

- (1)麦/稲/ヌレ切換えスイッチを作物に合わせて設定します。

補 足

* 切換えスイッチを“ヌレ”位置に設定すると、チャフ(選別板のすきま)は全開位置に固定されます。また、トウミは風力が最大となります。このとき、チャフ(選別板のすきま)ダイヤルの調節はできません。

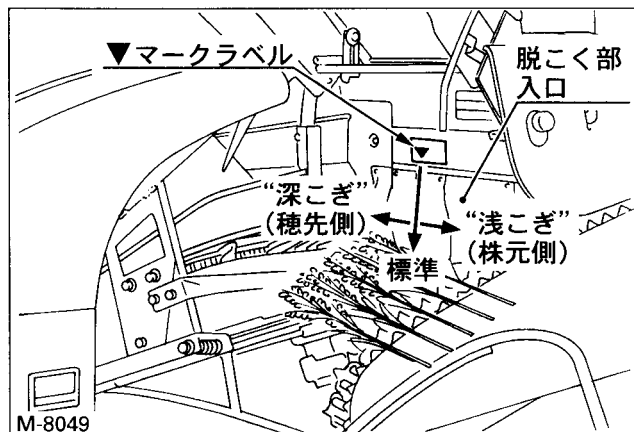
- (2)チャフダイヤルを開と閉の中間(標準)位置(“○”位置)にします。



- ⑪作物の条件に合わせた速度に主変速レバーを合わせて刈始めます。

(作物に合わせた変速の選びかたの項参照)

- ⑫作物が刈取られて脱こく部入口に入り始めたときに、作物の穂先を“▼マーク”(こぎ深さ標準位置)に合わせます。“▼マーク”より穂先側は深こぎ状態、株元側は浅こぎ状態となります。



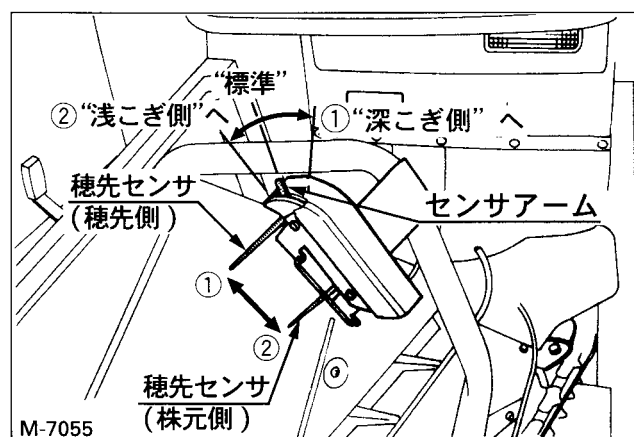
補 足

* 浅こぎ状態では、こぎ残しが出て収穫量が下がったり、深こぎ状態では、こぎ胴にわらが巻き付いたりして、トラブルの原因となります。

●▼マークの合わせかた【165・195・215・R218S】

供給搬送部の上側にある2本の穂先センサ(株元側、穂先側)を、センサアームで作物の穂先が穂先センサ(株元側)のみに接触するよう、調整してください。

状 態	調整方向
深こぎ	浅こぎ側へ
浅こぎ	深こぎ側へ



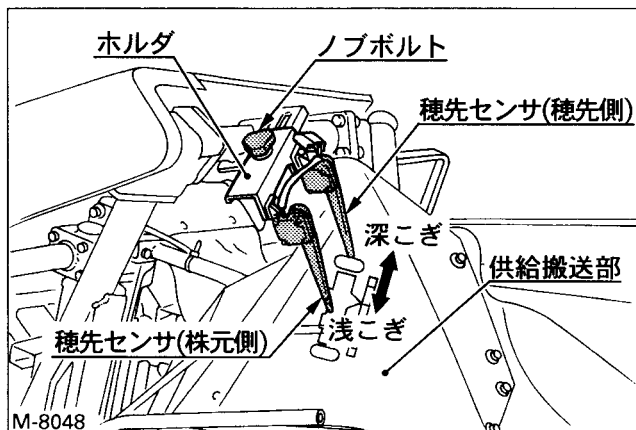
補 足

* 穂先センサ(株元側、穂先側)は、2本とも同時に動きます。

●▼マークの合わせかた【M20・M23】

供給搬送部の上側にある2本の穂先センサ(株元側、穂先側)の位置を確認しながら、穂先センサを取付けているホルダのノブボルトをゆるめて、作物の穂先が穂先センサ(株元側)のみに接触するように、調整してください。

状 態	調整方向
深こぎ	浅こぎ側へ
浅こぎ	深こぎ側へ



- ⑬刈取作業を少し行なったあと、選別状態やこぎ残しの有無を確認し、異常があれば各部の調節(作業に合わせた各部の調節・調整の項参照)を行なってください。
- ⑭刈取作業が終わると、刈取クラッチレバーを“切”位置にし、脱こくが終わりもみが全てホッパ又は、グレンタンク内に入ったことを確認して、脱こくクラッチレバーを“切”位置にします。

■ほ場の刈りかたと旋回のしかた

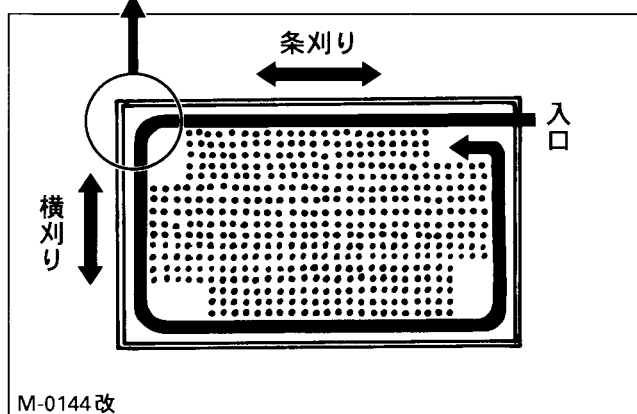
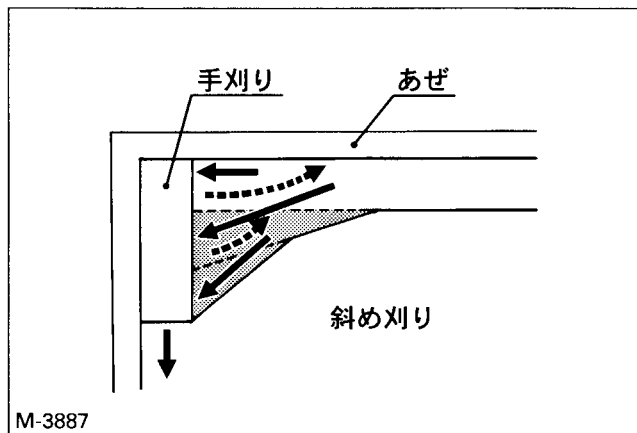
【165・195・215・R218S】

ほ場での作物の刈りかたは、作物・ほ場の状態や作業効率によって異なりますが、基本作業は、条刈りで左回りの2方向刈りを行なってください。

重 要

＊枕地を刈取るとき、アンローダ(ロングオーガ)の先端が、障害物(電柱や壁など)に当たり、破損するおそれがありますので、アンローダ(ロングオーガ)は折りたたんだ状態で作業を行なってください。【165・195・215】

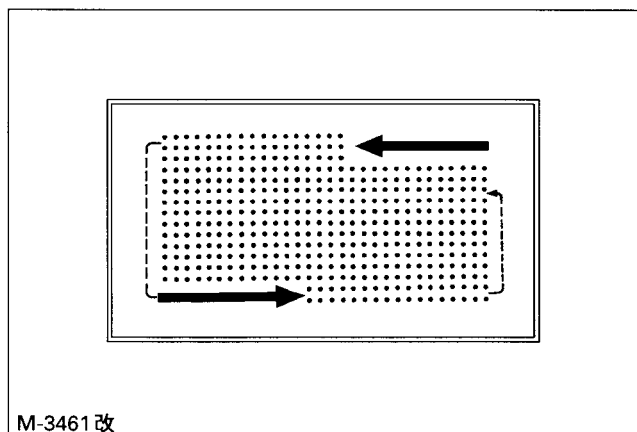
- ①右側デバイダを外側に広げます。(作業に合わせた各部の調節・調整の2. デバイダの調節の項参照)。
- ②刈取スライドを右(運転席)側へ移動したあと、1周目は手刈り(枕刈り)したところから進入し、あぜわから左回りで3条分を刈始めます。2周目からは2条分を刈取ります。
- ③隅を旋回できるまで2～4回斜め刈りします。



補 足

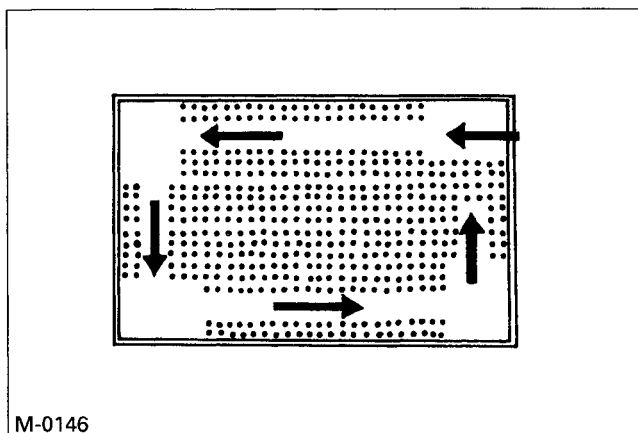
＊横刈りのときは、自動方向制御【HD仕様】がはたきません。また、斜め刈りをするとき、刈取途中で方向修正をすると、かん長が不揃いとなり正常な脱こくができない場合があります。

- ④刈取スライドを左側へ移動したあと、両端(枕地)を旋回できる範囲に刈取ったら両端は刈取らずに旋回し、2方向刈りを行なってください。



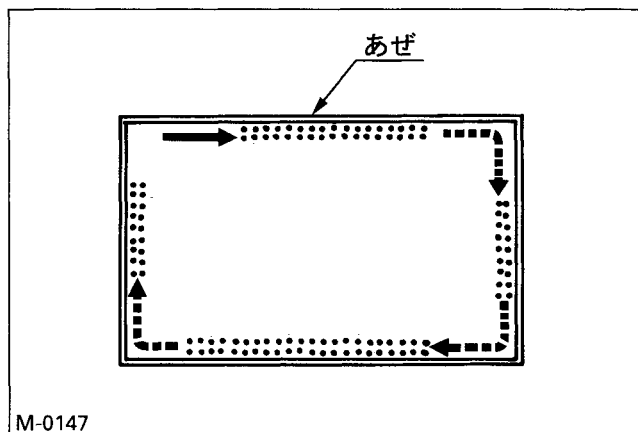
◆あぜぎわの刈りかた

- (1)あぜぎわの条があぜに近く、右クローラがあぜに乗り上げるときは、1周目は周囲2条を残して3条分を刈取ります。



M-0146

- (2)あぜぎわに残した作物の刈取りは、左分草かんを収納し、低速で右回りで行ないます。



M-0147

重要

- *あぜぎわ刈りをするとき、デバイダをあぜに突込ないように、少し高刈りをしてください。また、分草かんを畦に強く当たると刈取部が変形しますので、収納して作業してください。
- *コンクリート畦畔にクローラをこすりつけると、クローラを切損する場合がありますので注意してください。

補足

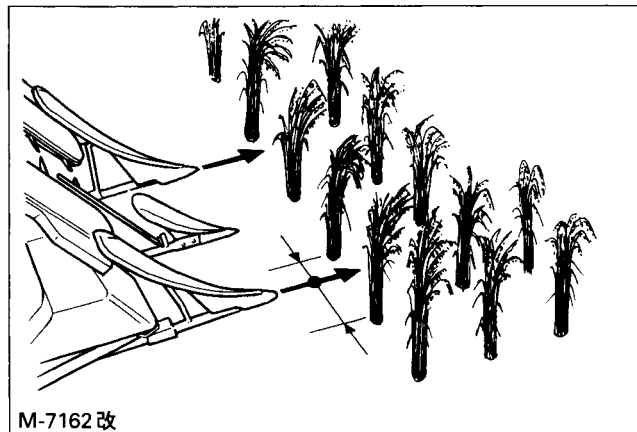
- *自動こぎ深さ装置を“切”位置にして、こぎ残しが出ないように手動スイッチで深こぎぎみにしてください。
- *ホツパ仕様は、補助デッキを収納してください。

◆デバイダ(刈取部)の条合わせのしかた

条合わせをするときは、コンバインの速度を落としてください。

●刈り始め・中割り作業のとき

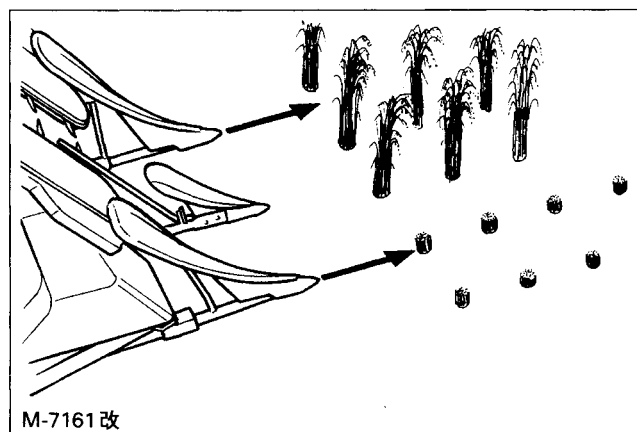
右デバイダを条間の左寄りになるように合わせて3条で刈取ります。(低速で作業してください。)



M-7162改

●通常の回り刈りのとき

既刈側刈株跡に右デバイダを合わせて2条で刈取ります。



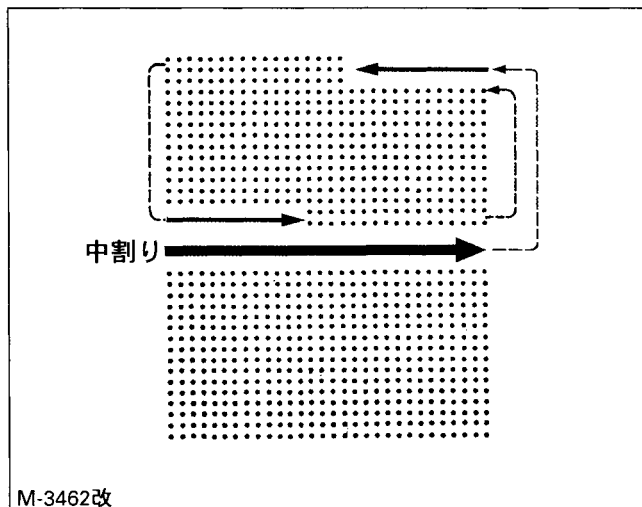
M-7161改

補足

- *条合わせのときは、パワーステアリングレバーを小刻みに操作してください。

◆広いほ場の場合

刈取スライドを右(運転席)側に移動したあと、**中割り刈り**で分割して、同じ要領で刈取ります。



M-3462改

補 足

- * 中割り刈り以外の場合は、通常の回り刈りをしてください。
- * ホツパ仕様は、補助デツキを収納してください。

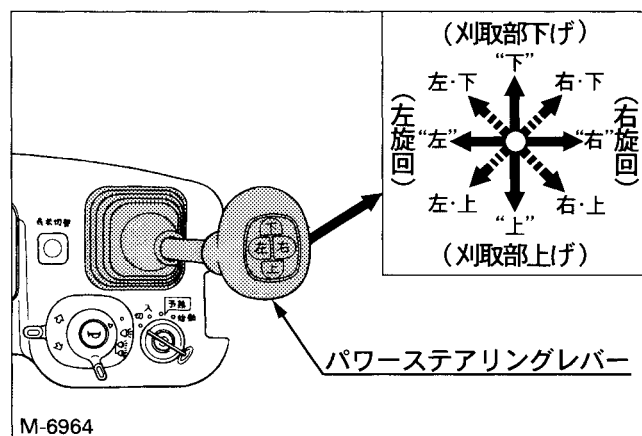
◆旋回のしかた

① 刈終わると前進しながら刈取部を上げます。

補 足

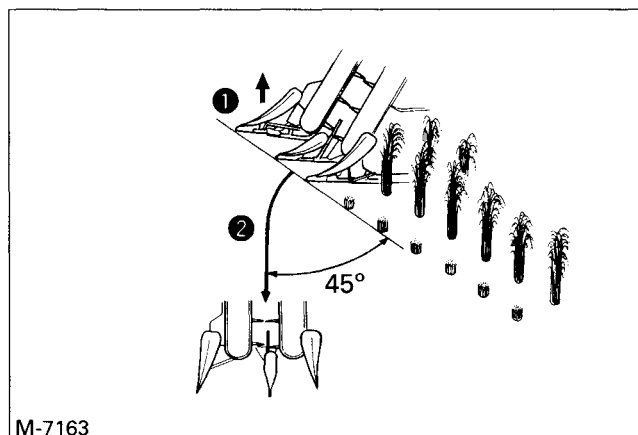
- * 刈終わる前に刈取部を上げると刈残しが発生します。
- * エンジンの回転低下が大きいときは、旋回操作の前に減速してください。
- * パワーステアリングレバーを斜め方向に操作すると、機体の旋回と同時に刈取部が上下します。

【195・215】



M-6964

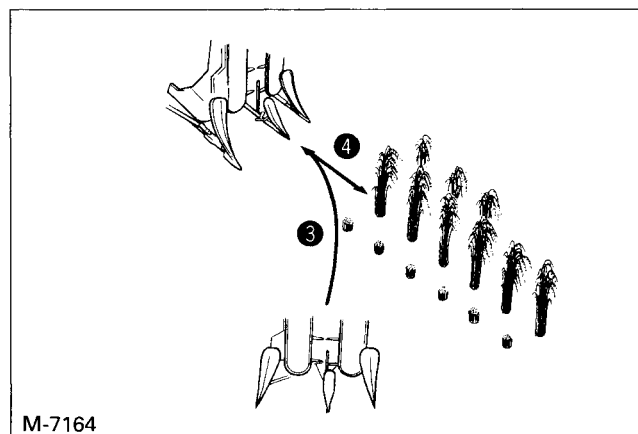
② パワーステアリングレバーを左に倒し、45度くらい旋回した位置で走行を停止します。



M-7163

③ 主変速レバーを“R”(後進)位置に入れ、後進しながらパワーステアリングレバーを右に倒し、次に刈る方向に刈取部を合わせます。

④ 刈取部を下げて前進します。



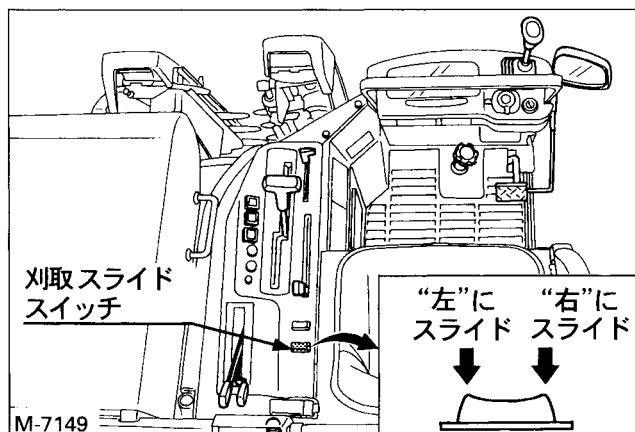
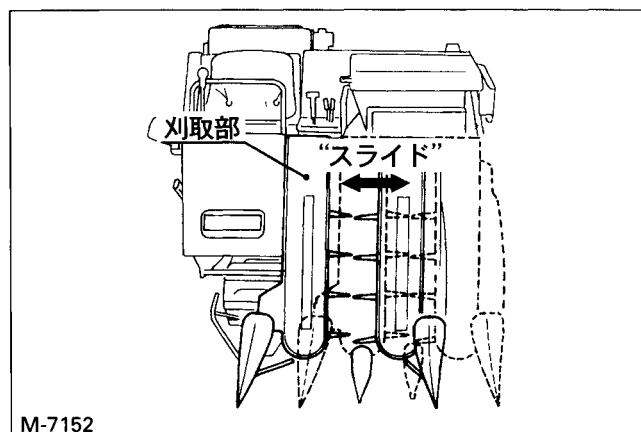
M-7164

重 要

* エンジン回転数は、下げないでください。選別が悪くなったり詰まりの原因になります。

■刈取スライド装置の使いかた【165・195・215・R218S】

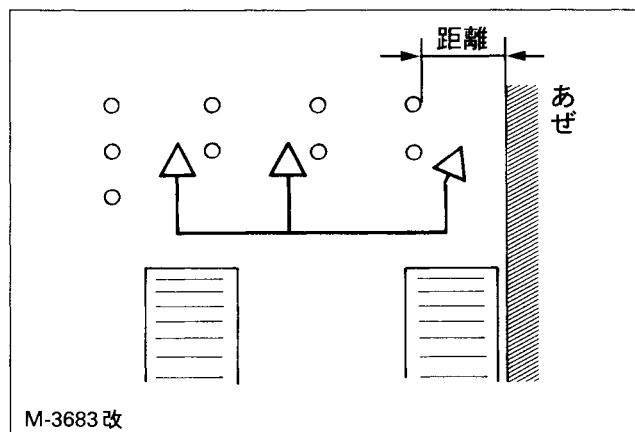
刈取スライド装置は、スライドスイッチを操作することによって刈取部が右←→左にスライドする装置です。



◆刈取スライドの使いかた

作業に応じて使い分けてください。

刈取部を右にスライドして踏代を少なくできます。また、条があぜから15cm以上(右デバイダが外位置のとき)の距離があるときは、あぜぎわから刈れます。



補 足

クローラ仕様	距 離	クローラ仕様	距 離
W・W2	15cm以上	165SW3	25cm以上

重 要

- ＊あぜがコンクリートのとき乗上げると、クローラを切損する場合がありますので、あぜぎわ2条を残してください。
- ＊刈取部に作物のある場合(刈取作業中や詰まった状態)は、刈取部をスライドしないでください。スライド部の故障の原因になります。
- ＊スライドを連続して5往復以上しないでください。またスライドが停止したら、スイッチからすぐ手を離してください。モータが加熱し故障の原因になります。
- ＊スライド時は刈取部を約5cm浮かせてください。地面にこすると動かないときがあります。

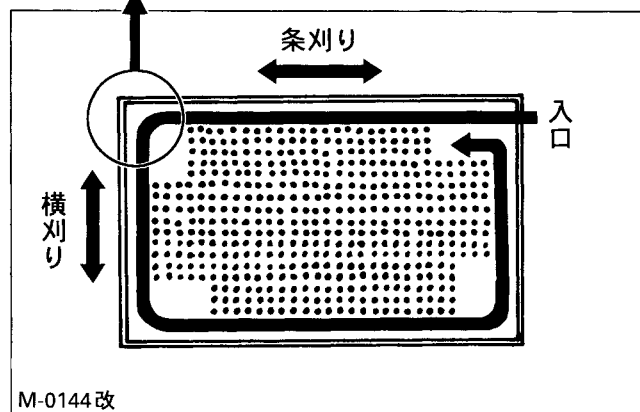
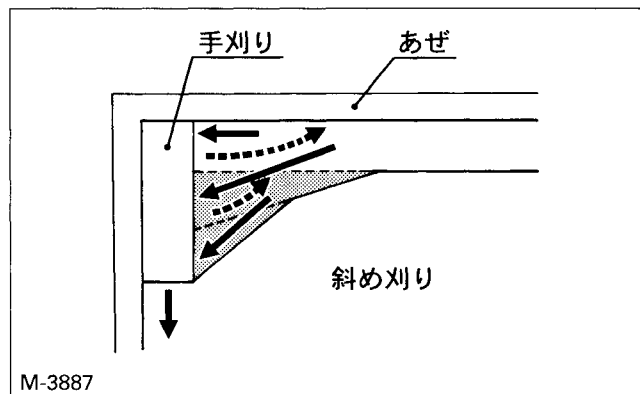
作 業 内 容	刈取部の位置	刈取スライドの使い方
●中割り刈り ●あぜぎわ順回り刈り(左回り) ●移動走行 ●トラックへの積み込み	M-3683	刈取部を右スライド位置で使います。 (運転席に近づける)
●通常回り刈り ●あぜぎわ逆回り(右回り) ●刈取部脱着 ●斜め刈り	M-3682	刈取部を左スライド位置で使います。 (運転席から遠ざける)

■ほ場の刈りかたと旋回のしかた

【M20・M23】

ほ場での作物の刈りかたは、作物・ほ場の状態や作業効率によって異なりますが、基本作業は、条刈りで左回りの2方向刈りを行なってください。

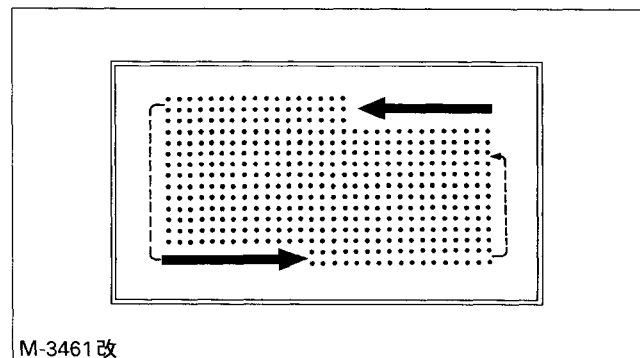
- ① 右側デバイダを外側に広げます。(作業に合わせた各部の調節・調整の2. デバイダの調節の項参照)。
- ② 1周目は手刈り(枕刈り)したところから進入し、あぜぎわから左回りで4条分を刈始めます。2周目からは3条分を刈取ります。
- ③ 隅を旋回できるまで2～4回斜め刈りします。



補 足

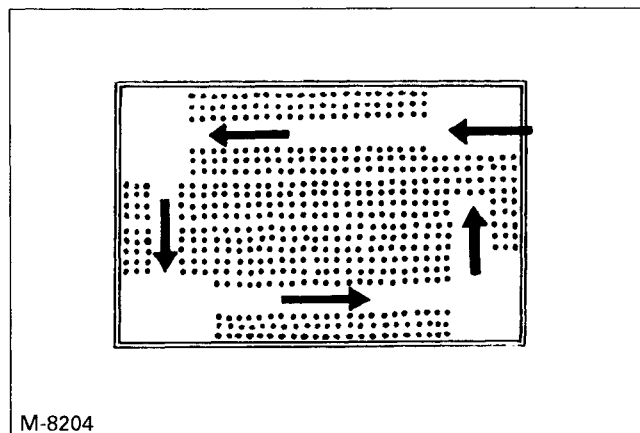
* 横刈りのときは、自動方向制御【HD仕様】がはたきません。また、斜め刈りをするとき、刈取途中で方向修正をすると、かん長が不揃いとなり正常な脱こくができない場合があります。

- ④ 両端(枕地)を旋回できる範囲に刈取ったら両端は刈取らずに旋回し、2方向刈りを行なってください。

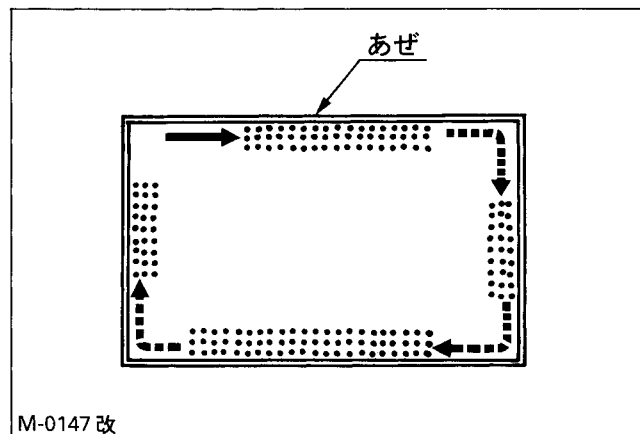


◆あぜぎわの刈りかた

- (1) あぜぎわの条があぜに近く、右クローラがあぜに乗り上げるときは、1周目は周囲3条を残して4条分を刈取ります。



- (2) あぜぎわに残した作物の刈取りは、左分草かんを収納し、低速で右回りで行ないます。



重 要

* あぜぎわ刈りをするとき、デバイダをあぜに突込ないように、少し高刈りをしてください。また、分草かんを畦に強く当ると刈取部が変形しますので、収納して作業してください。

* コンクリート畦畔にクローラをこすりつけると、クローラを切損する場合がありますので注意してください。

補 足

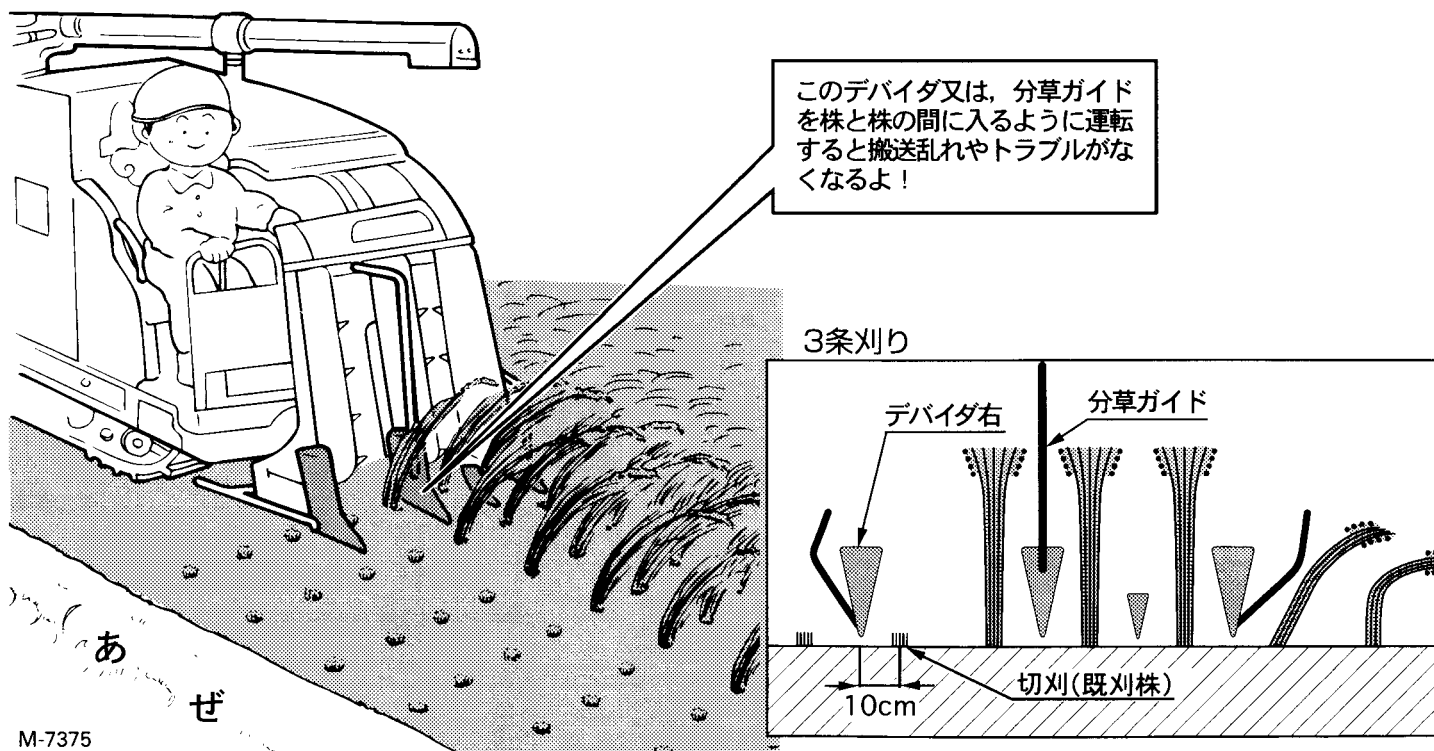
* 自動こぎ深さ装置を“切”位置にして、こぎ残しがないように手動スイッチで深こぎぎみにしてください。

* ホツパ仕様は、補助デツキを収納してください。

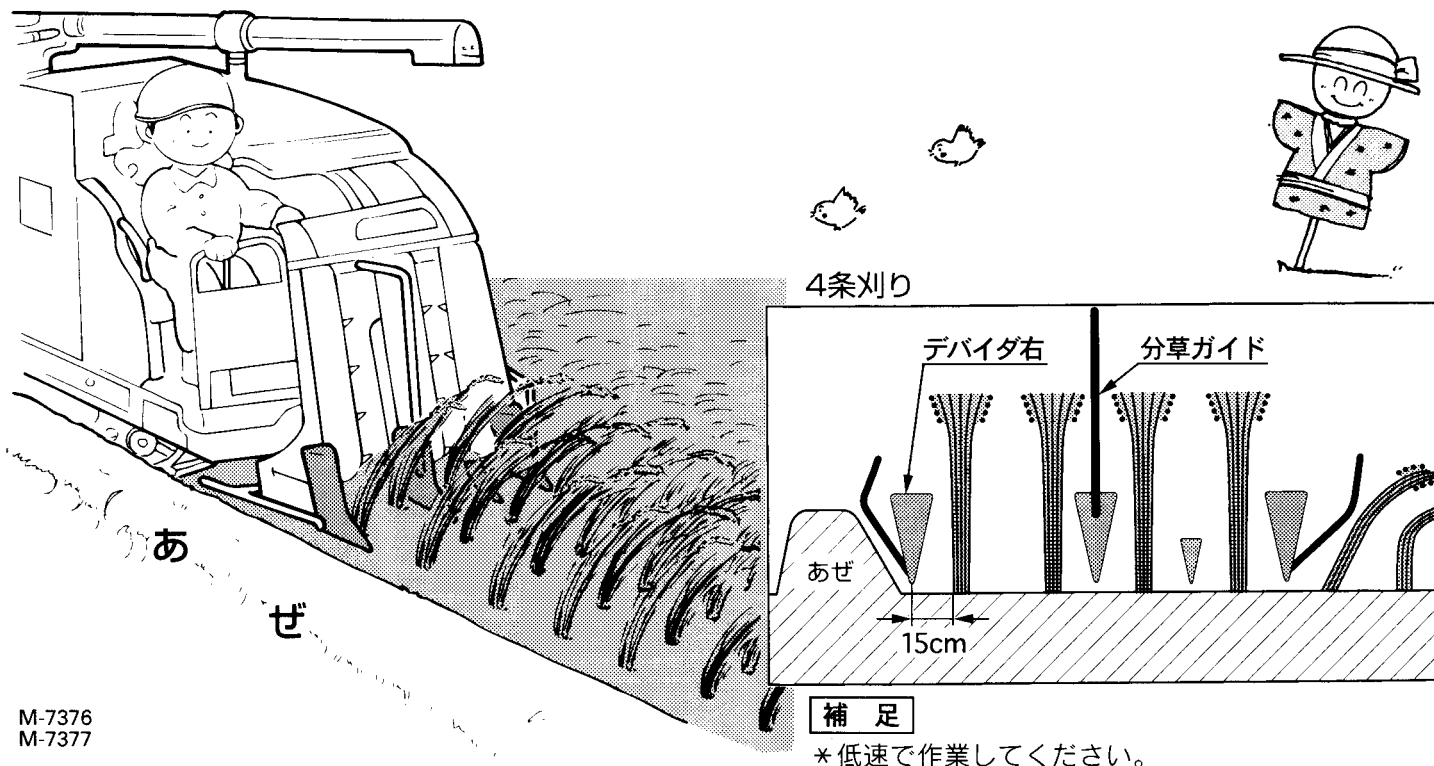
◆デバイダ(刈取部)の条合わせのしかた

条合せをするときは、コンバインの速度を落とし、分草ガイドを株と株の間に入れてください。

- 3条刈りするときは、既刈側刈株跡から外側約10cmに右デバイダを合わせてください。

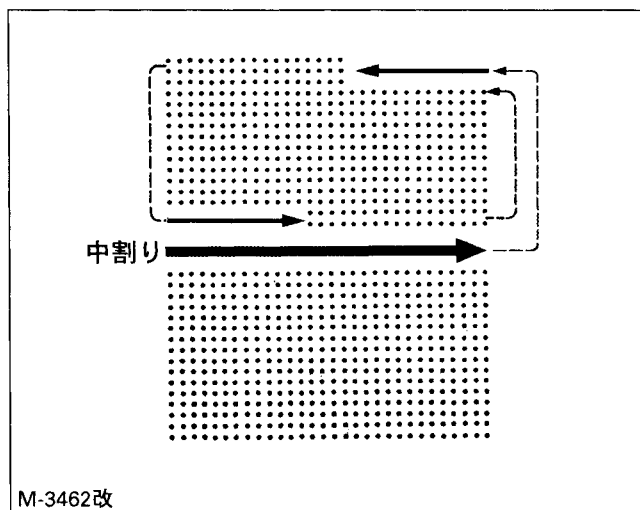


- 刈り始め・あぜ際刈り・中割りをするときには、右デバイダから内側約15cmになるように合わせてください。



◆広いほ場の場合

中割り刈りで分割して、同じ要領で刈取ります。



補 足

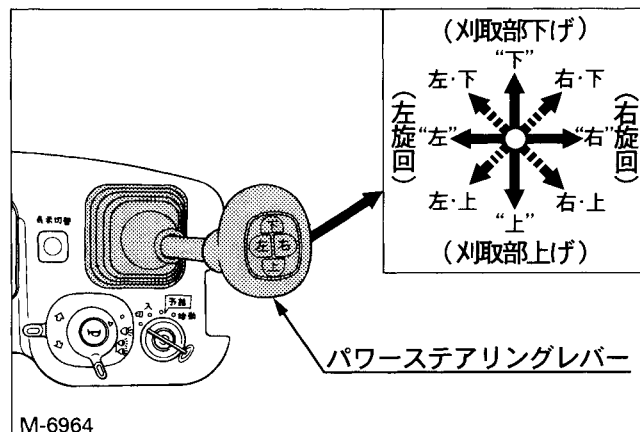
- * 中割り刈り以外のときは、通常の回り刈りをしてください。
- * ホツパ仕様は、補助デッキを収納してください。

◆旋回のしかた

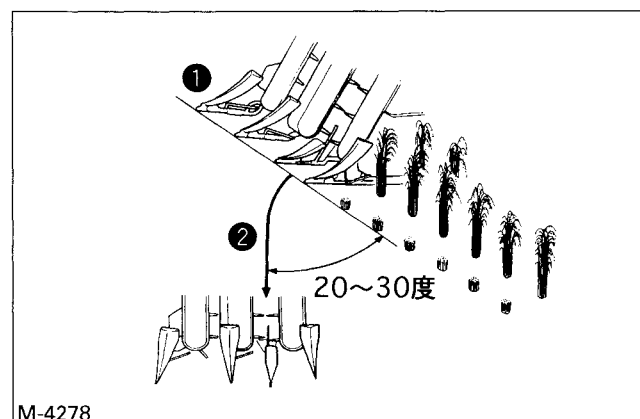
① 刈終わると前進しながら刈取部を上げます。

補 足

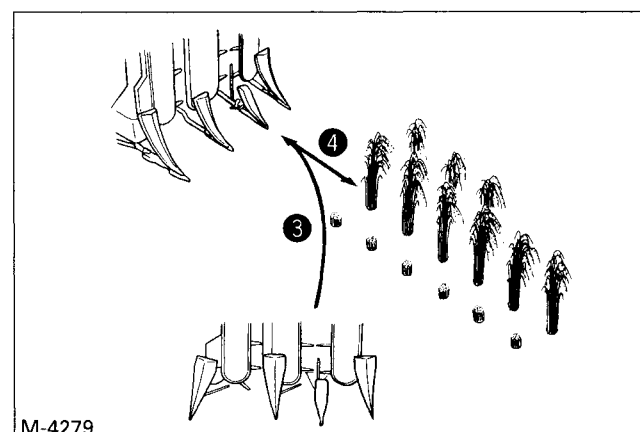
- * 刈終わる前に刈取部を上げると刈残しが発生します。
- * エンジンの回転低下が大きいときは、旋回操作の前に減速してください。
- * パワーステアリングレバーを斜め方向に操作すると、機体の旋回と同時に刈取部が上下します。



② パワーステアリングレバーを左に倒し、20～30度くらい旋回した位置で走行を停止します。



- ③ 主変速レバーを“R”(後進)位置に入れ、後進しながらパワーステアリングレバーを右に倒し、次に刈る方向に刈取部を合わせます。
- ④ 刈取部を下げて前進します。



重 要

- * エンジン回転数は、下げないでください。選別が悪くなったり詰まりの原因になります。

■ 湿田作業のしかた



- *異常が発生したときは、エンジンを必ず止めて処置してください。
- *機体が大きく傾くときは、必ず下車してください。転倒してケガをするおそれがあります。

湿田で刈取作業を行なうときは、作物の状態(倒伏角の大きさなど)やほ場の状態(ぬかるみや起伏の大きさなど)をよく確認してください。また、異常が発生したときは、下表を参照してください。

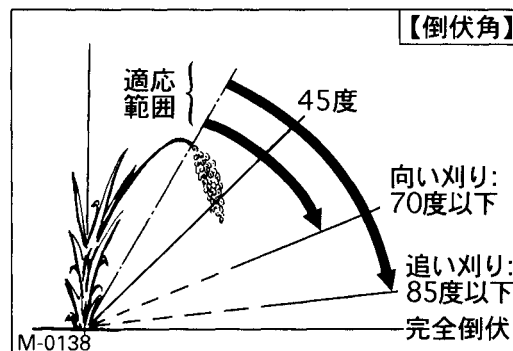
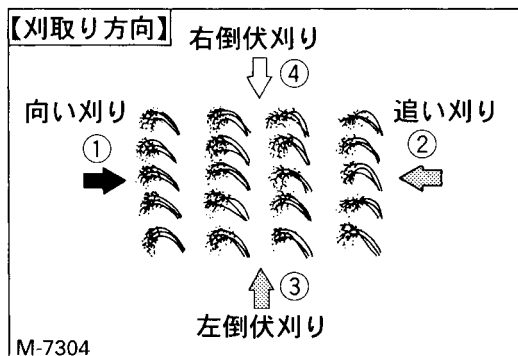
現 象	処 置
●スリップする。 ●沈下して動かなくなる。 ●機体が傾く。	●低速で作業を行なう。 ●同じ場所での旋回は避ける。 ●急旋回はない。(パワーステアリングを小刻みに操作し、大廻りする。) ●急発進はない。 ●機体を軽くする。(下車したり、ホッパ内のもみやもみ袋を早期交換する。) ●水口場所や深いところでは、下車し、機体を軽くする。
●刈取部が詰まる。	●わらくずや泥の付着を取除く。(パツカ下部や搬送部) ●少し高刈りする。
●カッタ部が詰まる。	●わらくずや泥の付着を取除く。

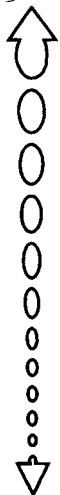
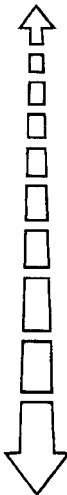
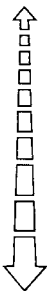
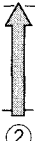
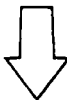
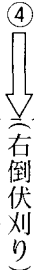
■作物に合わせた変速の選びかた

作物の状態により適正な速度を選んでください。

◆作業速度の選びかた

下表を参考にして主変速レバーと副変速レバーで適正な作業速度を選んでください。通常は倒伏角が大きい場合や水分が多い場合は、作業速度を遅くし、倒伏角が小さい(立毛)場合や水分が少ない(乾燥)場合は、作業速度を速くすることができます。



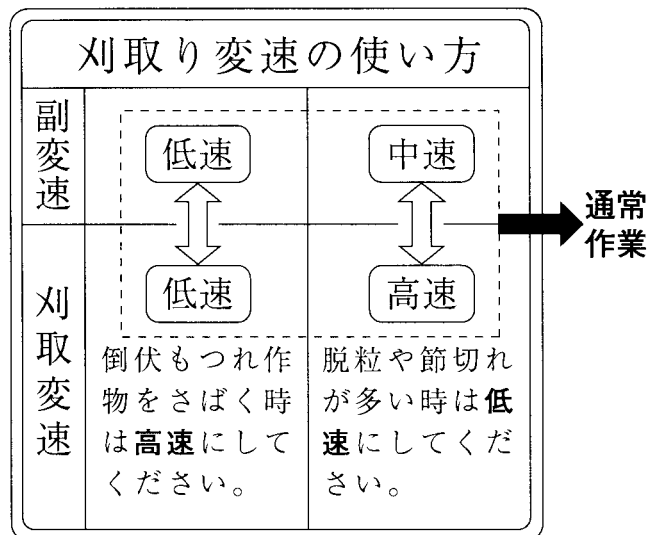
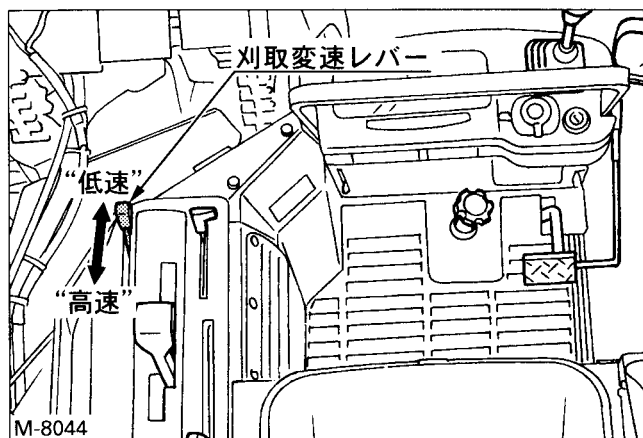
作物の ぬれ	作 業 速 度		変速レバー		倒 伏		立毛	倒伏角		
			副変速	主変速	刈取り方向					
	【A仕様】	【J仕様】		【A仕様】	【J仕様】					
水分 多い  乾燥	遅い 	↑ 	低 速	1 速	低速 (中立側)	 ① (向い刈り)	 ④ (右倒伏刈り)	 ② ・ ③ (左倒伏刈り) 追い刈り	 大きい	
				2 速	高速 (前進側)					
				3 速						
	↓ 	↓ 	中 速	1 速	低速 (中立側)	 (右倒伏刈り)	 (左倒伏刈り) 追い刈り			小さい
				2 速	高速 (前進側)					
				3 速						

補 足

* 収量・成熟度合やその他の要因により適正な速度は変化します。この表はあくまでも目安ですので、その作物と機械に合った速度で作業を行ってください。

◆刈取変速の選びかた【A仕様】

刈取部の引起しの速度を作物の状態に合わせて、下表を参考にして、刈取変速レバーで“低速”、“高速”（2段階）の変速を行なってください。



補 足

＊下記のような条件では、上表のような作業速度では作業ができない場合があります。

- 雑草が極めて多いほ場
- 5度以上傾斜しているほ場
- 病虫害、風水害により倒伏している作物
- 根ぐされし、切れやすい作物
- こくかんがくさり、ぬれているもの
- 過熟して、茎が折れやすくなっている麦
- 10cm以上の高うねのほ場

◆副変速・引起し変速の選び方【M23J仕様】

刈取部の引起し及び搬送の速度を作物の状態に合わせて、下表を参考にして、副変速レバーと引起し変速（“標準”・“高速”・“低速”の3段階）の変速を行なってください。

作物状態		変速選択位置	
倒伏度	その他の条件	副変速レバー	引起し変速
直立	一般的作物	“中速”	“標準”
	周囲刈りなど低速走行作業	“低速”	
	脱粒しやすい作物（麦穂切れ大も含む）	“中速”	“低速”
倒伏	45度以下の倒伏	“低速” （又は“中速”）	“標準”
	45度以上の倒伏 長かん作物		“高速”

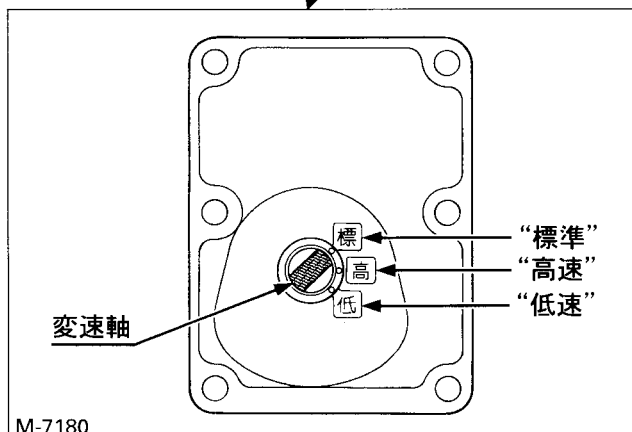
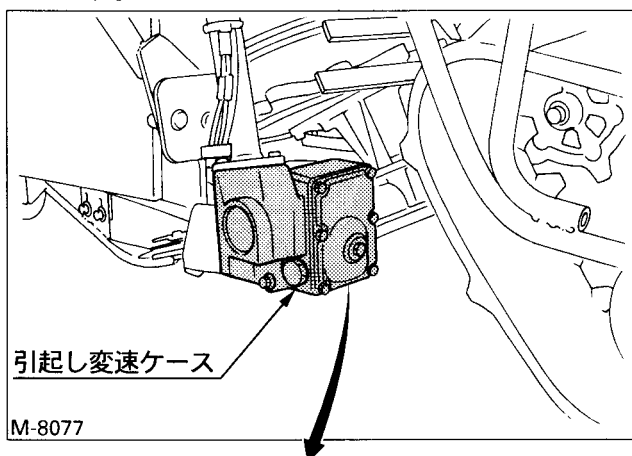
補 足

＊上記の表は目安です。

＊車速の増減により刈取部の引起し及び搬送の速さが自動的に2段階切り替わります。（車速同調）

●引起し変速の変速のしかた

引起し変速ケースの変速軸をスパナで動かして調整します。



◆副変速の選び方【J仕様】

刈取部の引起し及び搬送の速度を作物の状態に合わせて、下表を参考にして、副変速レバーの変速を行なってください。

作物状態		副変速レバー位置
倒伏度合	その他の条件	
直立	一般的作物	“中速”
	周囲刈りなど低速走行作業	“低速” (又は“中速”)
	脱粒しやすい作物 (麦穂切れ大も含む)	“中速”
倒伏	45度以下の倒伏作物	“低速” (又は“中速”)
	45度以上の倒伏作物	

補 足

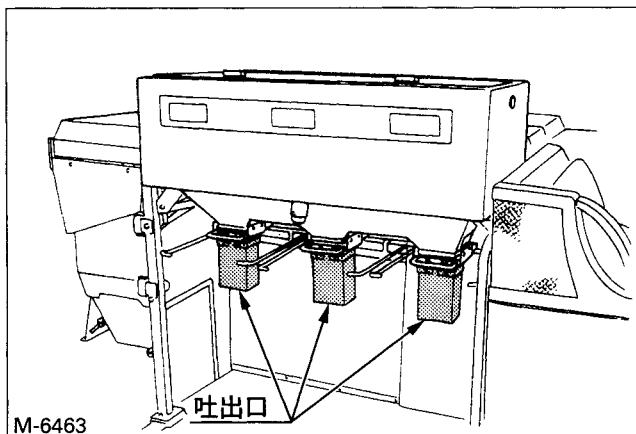
* 車速の増減により刈取部の引起し及び搬送の速さが自動的に無段階切換わります。(車速同調)

■もみの排出のしかた【ホッパ仕様】



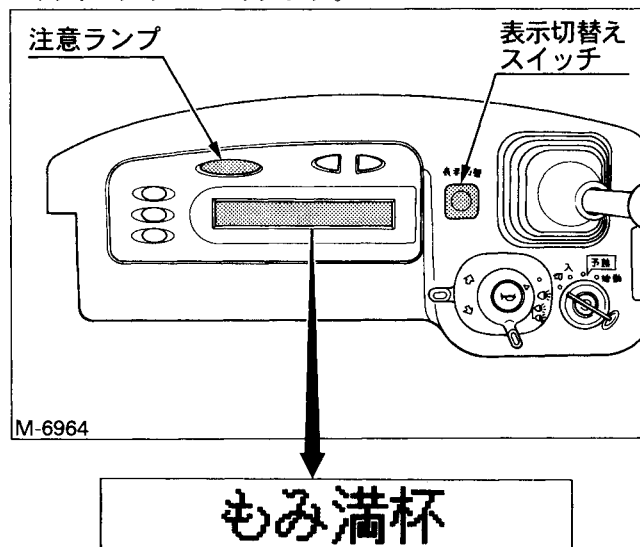
注 意

- * コンバインを必ず停止してください。
- * 吐出口に手は入れないでください。



M-6463

- ① ホッパが満杯になると、スカイナビの液晶ディスプレイが**もみ満杯**と表示し、注意ランプが点滅すると同時にブザーが鳴ります。



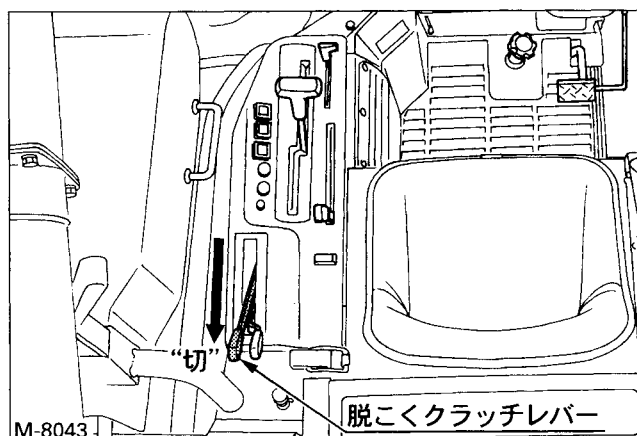
重 要

* ブザーが鳴ったあとも刈取作業を行なうと、もみがあふれたり、1番スクリュが詰まったりして、故障の原因となります。

補 足

* 表示切替えスイッチを押すと、ブザーは停止しますが注意ランプの点滅は続きます。また、脱こくクラッチレバーが“入”位置のまま30秒間経過すると、再び注意ランプが点滅し、液晶ディスプレイが**もみ満杯**と表示します。

- ② 20～30秒待ったあと脱こくクラッチレバーを“切”位置にし、脱こく部を停止します。

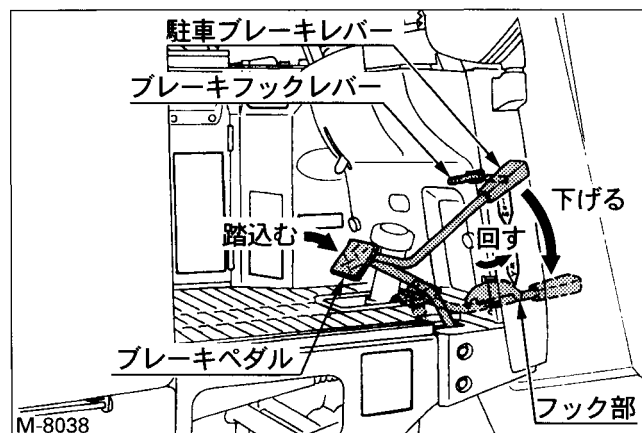


M-8043

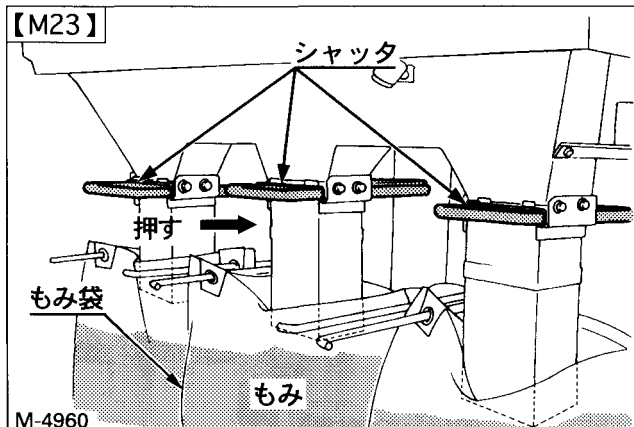
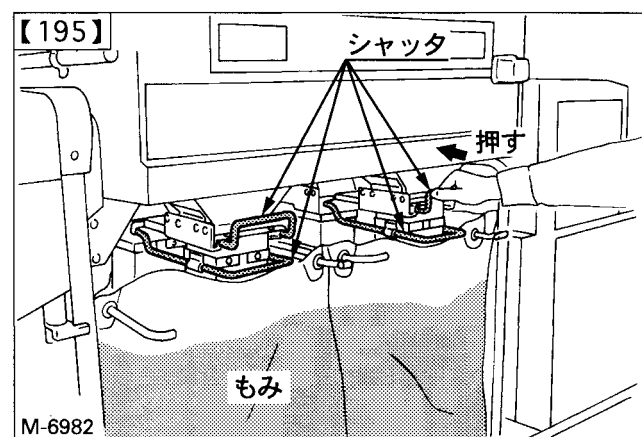
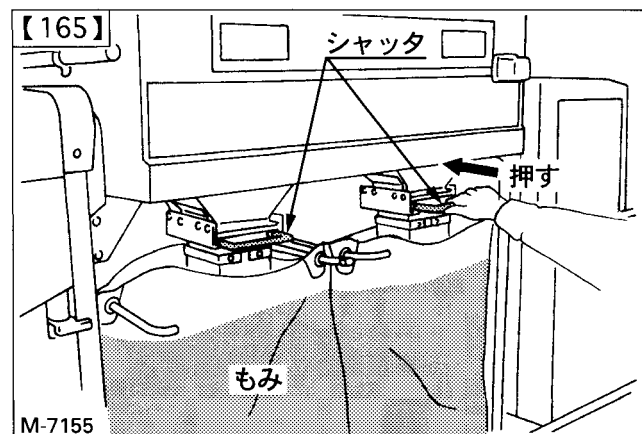
補 足

- * 選別不良の原因となりますので、走行停止後20～30秒経過して行なってください。
- * 脱こくクラッチレバーを“切”位置にすると同時に、連動して刈取クラッチレバーが“切”位置に動き、刈取部も停止します。

- ③平坦な場所を選んで走行を停止したあと、主変速レバーを“N”(中立)位置にして、ブレーキフックレバーを外側に回し、フック部を駐車ブレーキレバーに引掛けます。



- ④シャッタを押して(閉じて)、新しい(空の)もみ袋と交換したあと、シャッタを引き(開き)ます。



補足

*もみを排出すると、注意ランプの点滅と液晶ディスプレイの「もみ満杯」表示が消えます。

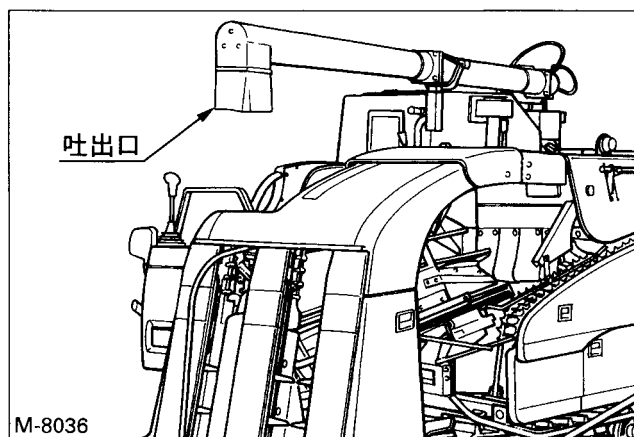
- ⑤ブレーキペダルを踏込んでロックを解除したあと、作業を始めてください。

■もみの排出のしかた【G仕様】

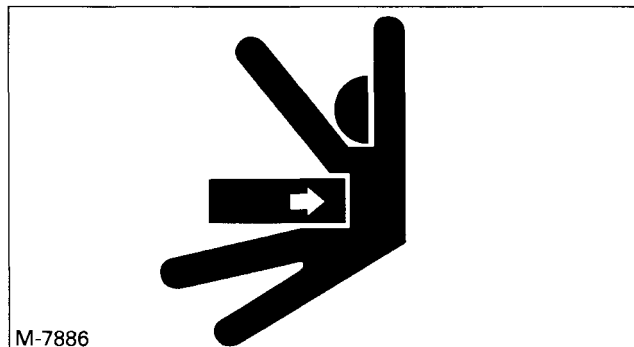


注意

- *コンバインを必ず停止してください。
- *吐出口に手は入れないでください。



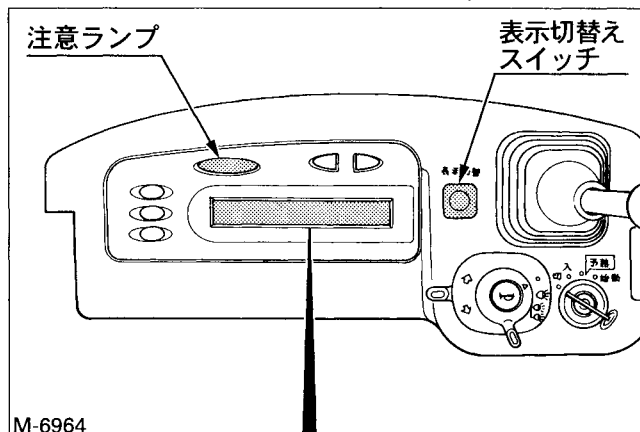
- *手をはさみ、ケガをするおそれがあるので、アンローダ受けの上に手を置かないでください。
- *アンローダ先端が大きく動き、ケガをするおそれがあるので、アンローダの旋回範囲に人がいるときは、アンローダを動かさないでください。



M-7886

- *排出時は、機体を水平な場所に停車させてから排出作業を行なってください。

- ① グレンタンクが満杯になると、スカイナビの液晶ディスプレイが**もみ満杯**と表示し、注意ランプが点滅すると同時にブザーが鳴ります。



もみ満杯

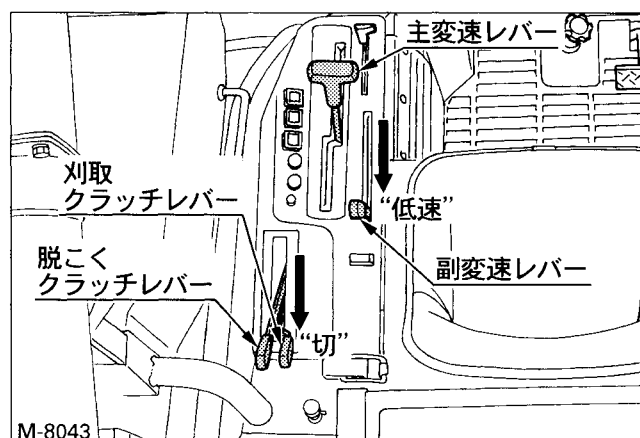
重要

＊ブザーが鳴ったあとも刈取作業を行なうと、もみがあふれたり、1 番スクリュが詰まったりして、故障の原因となります。

補足

＊表示切替えスイッチを押すと、ブザーは停止しますが注意ランプの点滅は継続します。また、脱こくクラッチレバーが“入”位置のまま30秒間経過すると、再び注意ランプが点滅し、液晶ディスプレイが**もみ満杯**と表示します。

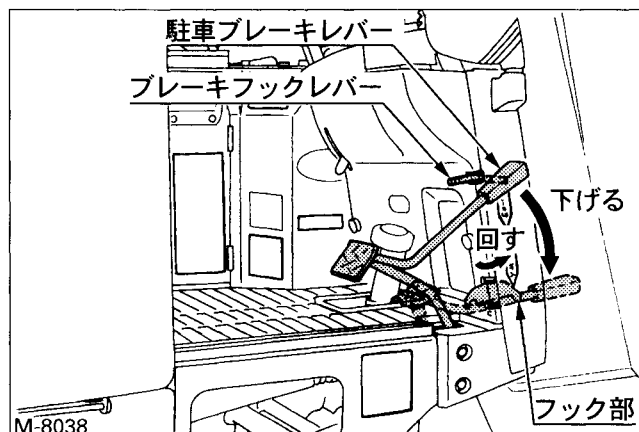
- ② ブレーキペダルを踏込んで走行を停止したあと、主変速レバーを“N”(中立)位置にします。
- ③ 約20～30秒待ったあと、脱こくクラッチレバーを“切”位置にして、所定の排出位置に移動します。



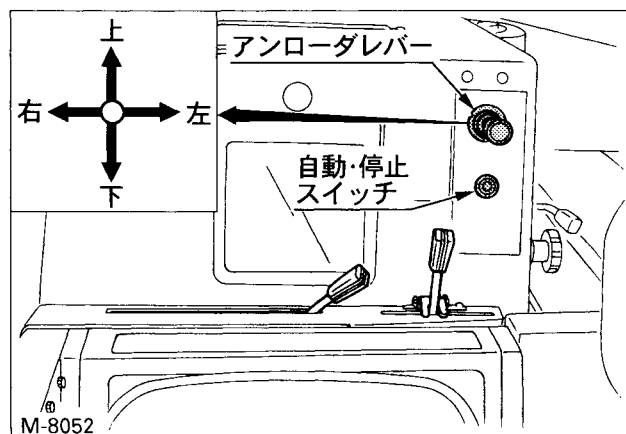
補足

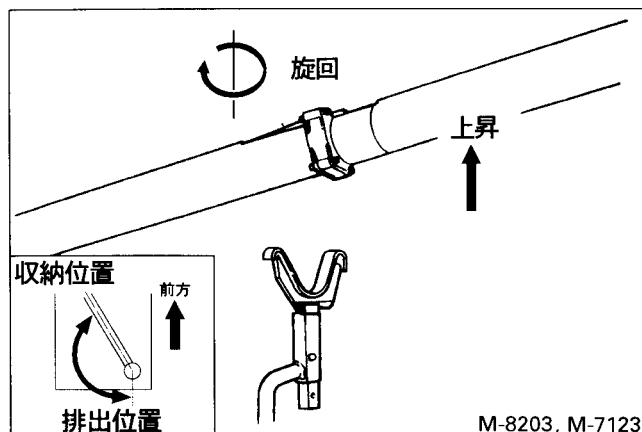
＊脱こくクラッチレバーを“切”位置にすると同時に、連動して刈取クラッチレバーが“切”位置に動き刈取部も停止します。

- ④ ブレーキペダルを踏込んで、ブレーキフックレバーを外側に回し、フック部を駐車ブレーキレバーに引掛けます。



- ⑤ 自動・停止スイッチを押すとアンローダは上昇し、排出設定位置(機体後方)まで自動的に旋回します。
- ⑥ アンローダレバーを操作して、排出位置まで動かします。





重要

- * 走行しながら、アンローダ自動旋回操作を行なわないでください。機械故障(油圧系統の作動不良)の原因になります。
- * 自動・停止スイッチを押す前に、アンローダの可動範囲に障害物がないか確認してください。

補足

- * 自動制御でアンローダが収納位置に戻った直後に、自動・停止スイッチを押しても自動制御は作動しません。10秒程度待つてから自動・停止スイッチを押してください。
- * 自動制御装置作動中に、自動・停止スイッチを押すかアンローダレバーを操作すると、自動制御は停止します。停止状態から再度自動・停止スイッチを押すと、アンローダは排出位置又は、収納位置に戻ります。
- * 自動制御装置作動中でもアンローダレバーの操作が優先され、その後の自動旋回は停止します。

◆ アンローダレバー(手動操作レバー)について

アンローダレバーは手動でアンローダを操作するレバーです。操作方向とアンローダの動きは下記の通りです。

	レバーの 操作方向	アンローダの 動き
	上	上昇
	下	下降
	左	左回り(反時計 方向)に旋回
	右	右回り(時計方 向)に旋回

補足

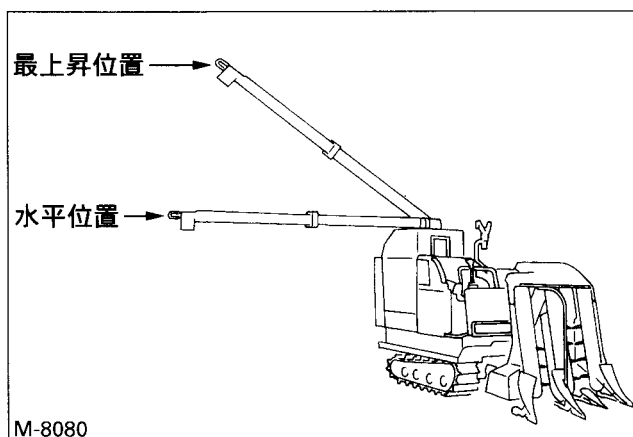
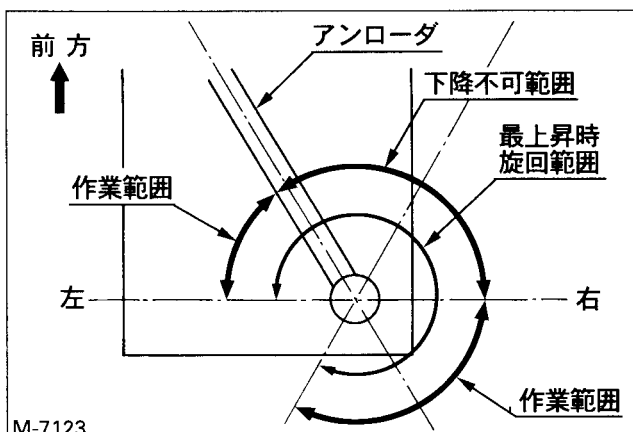
- * 左, 右の方向は、運転席に座って見たときです。

● アンローダレバーを操作したとき

- (1)アンローダが最上昇位置のとき、旋回する範囲は約300度です。
- (2)アンローダの下降は水平位置までです。
- (3)排出作業を行なうときは、作業範囲で行なってください。

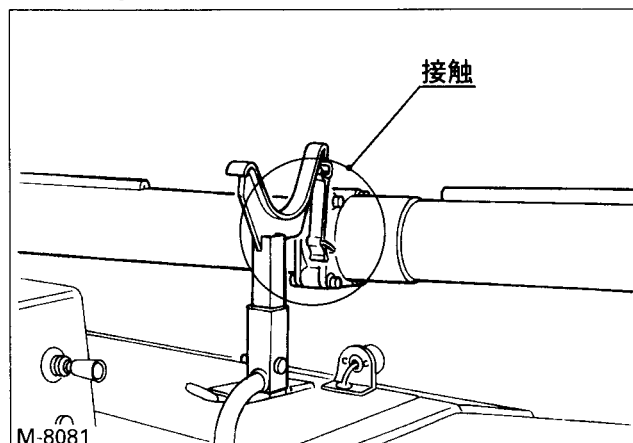
補足

- * アンローダが最上昇位置のとき、下降不可範囲ではレバーを操作しても下降しません。
- * アンローダが作業範囲内で最上昇位置以外のとき、レバーを操作しても下降不可範囲内には旋回しません。

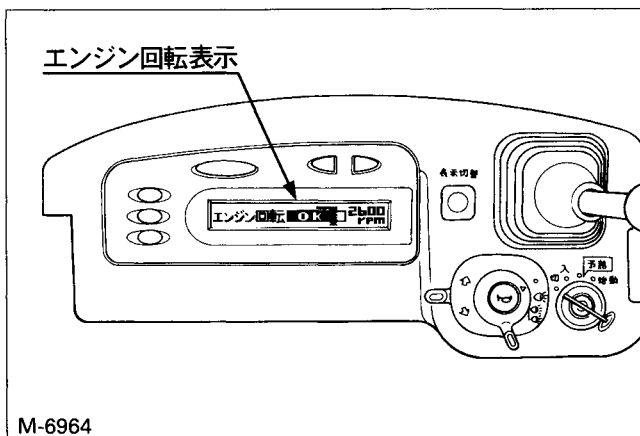


重要

- * アンローダ受け付近でアンローダを水平状態より下げると、アンローダ受けに接触し、破損の原因となります。



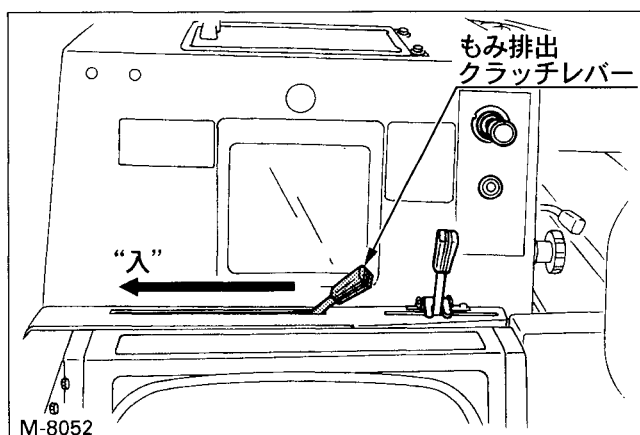
- ⑦液晶ディスプレイのエンジン回転表示の回転メータに“OK”と表示されているか確認し、表示されていなければ、アクセルレバーを操作して、“OK”表示にします。



補 足

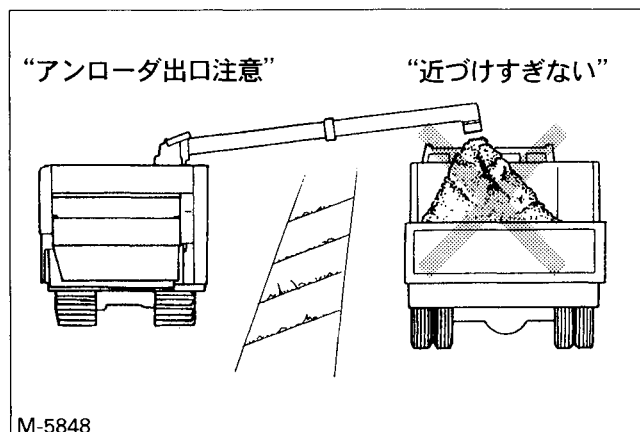
* 損傷しやすい作物は、エンジン回転数を約2000rpm以下にならない程度まで下げて下さい。

- ⑧もみ排出クラッチレバーを“入”位置にし、もみを排出します。

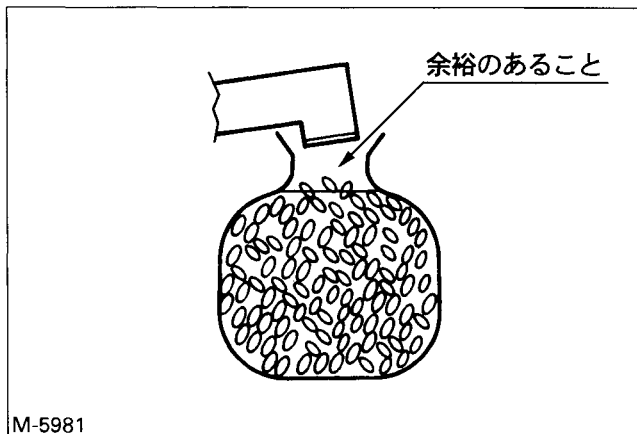


重 要

* 吐出口をふさがないようにアンローダの位置を調整してください。故障の原因となります。

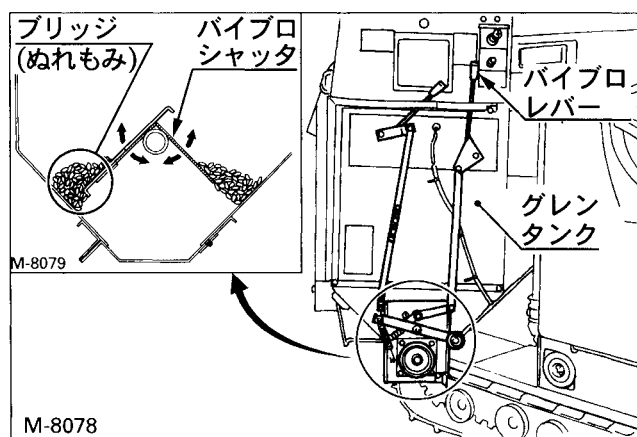
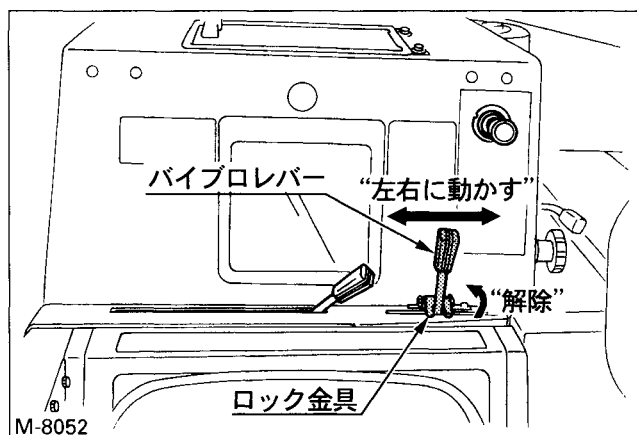


- * アンローダには、絶対物を吊るさないでください。
* アンローダで袋詰め作業を行なうときは、詰まり防止のため、袋に余裕のある状態で、もみ排出クラッチレバーを切ってください。アンローダが詰まると、駆動系統の故障の原因になります。



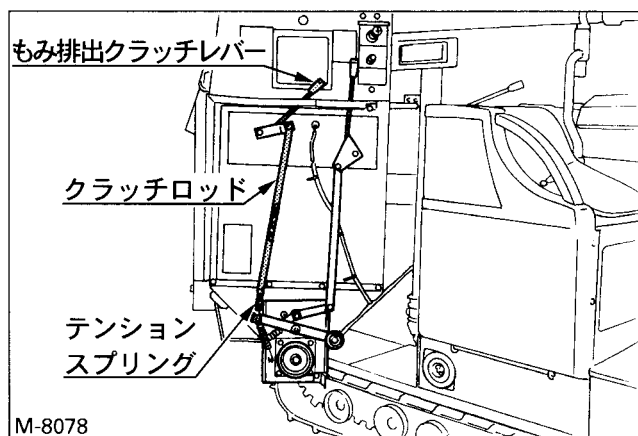
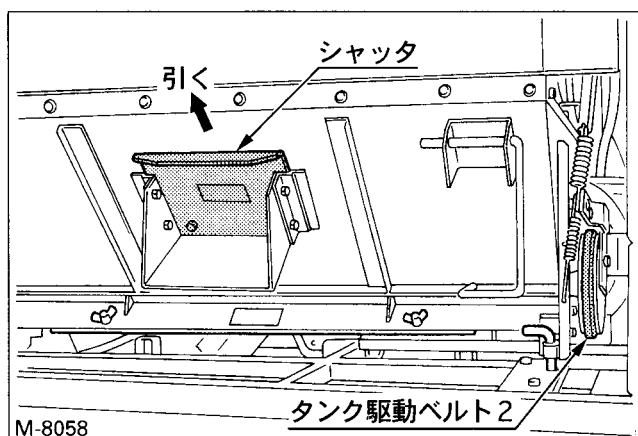
補 足

* ぬれたもみがグレンタンク内底部でブリッジを起こして滞留しているとき、ロック金具を解除してパイプロレバーを左・右に動かすとパイプロシャッタが動いてブリッジを取除きます。また、レバー操作が重いときは、小刻みに動かしてください。



*アンローダからもみが排出されないときは、下記事項を点検し、処置してください。

- (1)異物がかみ込んでいるときは、アンローダの各掃除口を点検(メンテナンスの掃除のしかたの項参照)し、異物があれば取除きます。
- (2)タンク駆動ベルトがスリップしているときは、シャッタを引きもみを排出したあと、グレンタンクをオープン(メンテナンスのグレンタンクオープンの項参照)し、もみ排出クラッチレバーのクラッチロッドの調整(メンテナンスの各部ベルトの点検・調整のグレンタンク駆動ベルト2の項参照)をします。調整を行なってもスリップが止まらないときは、ベルト交換を行なってください。



- ⑨排出が終わると、排出クラッチレバーを“切”位置にし、自動・停止スイッチを押してアンローダをアンローダ受けに収納します。

補 足

- *もみを排出すると、注意ランプの点滅と液晶ディスプレイの「もみ満杯」表示が消えます。
- *アンローダレバーで操作するときは、アンローダを最上昇位置にして旋回後、アンローダ受けに収納してください。
- *アンローダ内にもみが残っていると、もみがこぼれるのでアンローダを一度最上昇させて収納してください。

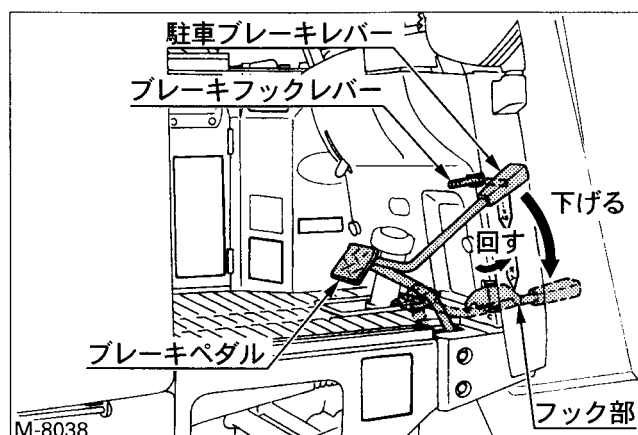
■手刈り(枕刈り)脱こくのしかた



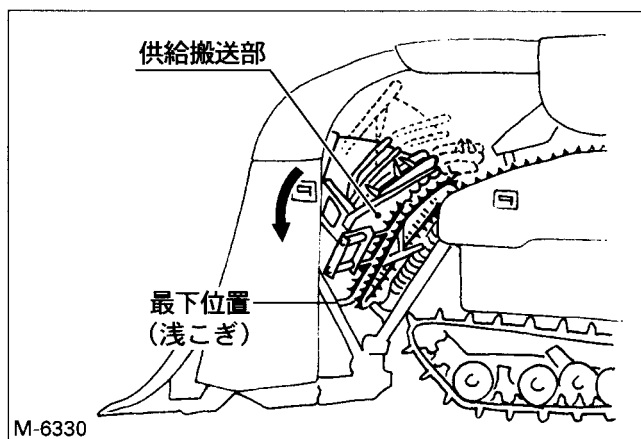
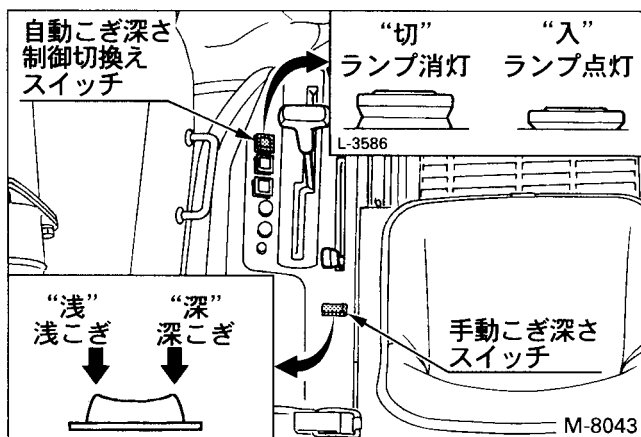
警告

- *そで口はきっちり止めて、はち巻き、首巻き、腰タオルはしないでください。チェーンに巻込まれてケガをするおそれがあります。
- *コンバインは平坦な場所に止めて、駐車ブレーキを掛けてください。
- *刈取部は地面に接地させて、停止してください。
- *手刈り(枕刈り)脱こくするときは、手や腕の位置を必ずチェーンの外側(コンバインから離れる位置)にして、作物を少量ずつ押込んでください。
- *脱こく部入口のプレートの上にたまったわらやもみなどを脱こく部に押込むときは、エンジンを必ず停止してください。中に回転物がありケガをするおそれがあります。

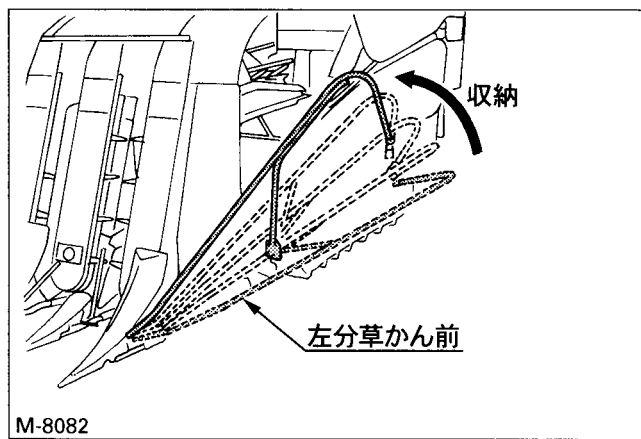
- ①平坦な場所を選んで走行を停止したあと、主変速レバー及び副変速レバーを“N(中立)”位置にし、ブレーキフックレバーで駐車ブレーキを掛けます。



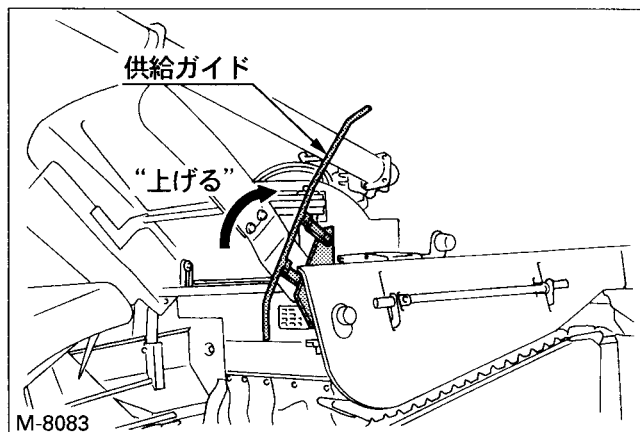
- ②刈取部を地面に接地させたあと、供給搬送部を手動こぎ深さスイッチで最下位置にします。



- ③左分草かん前を収納します。



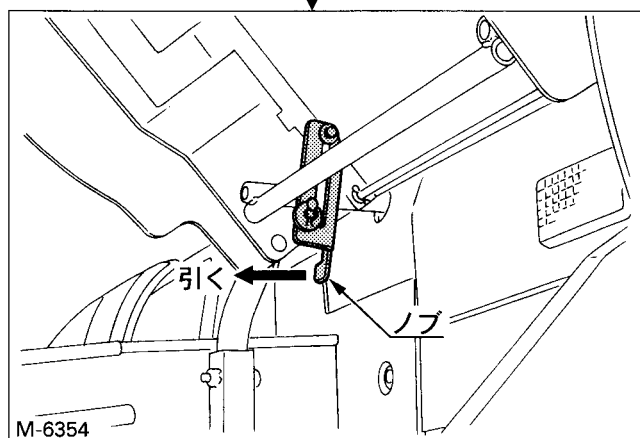
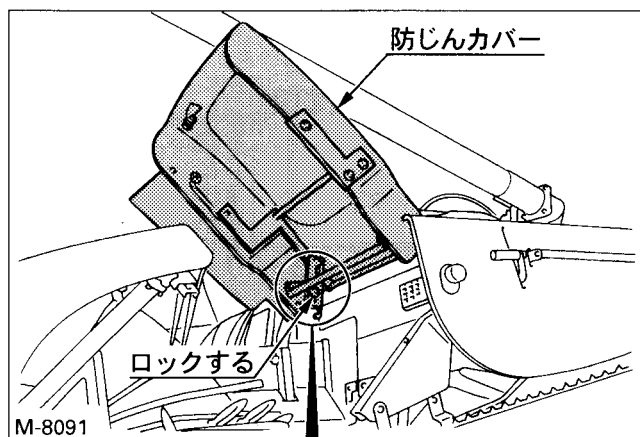
- ④供給ガイドを上げます。



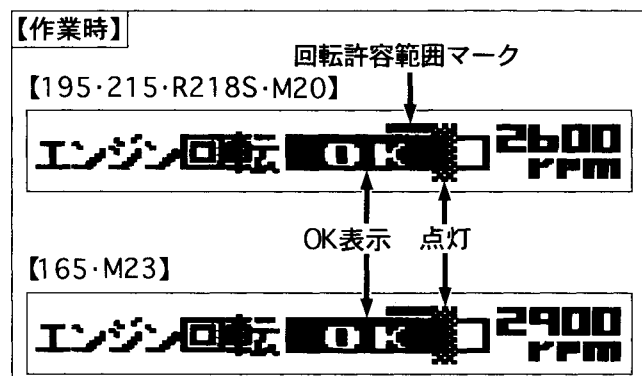
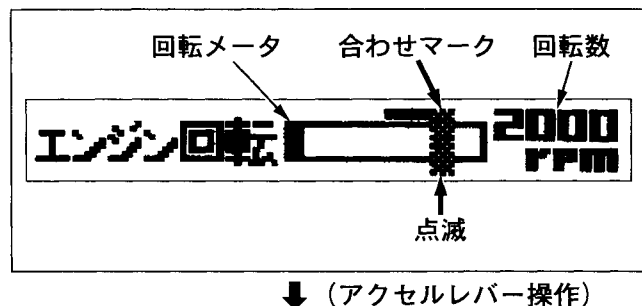
補 足【HD仕様】

＊防じんカバーはロックする位置まで上げてください。

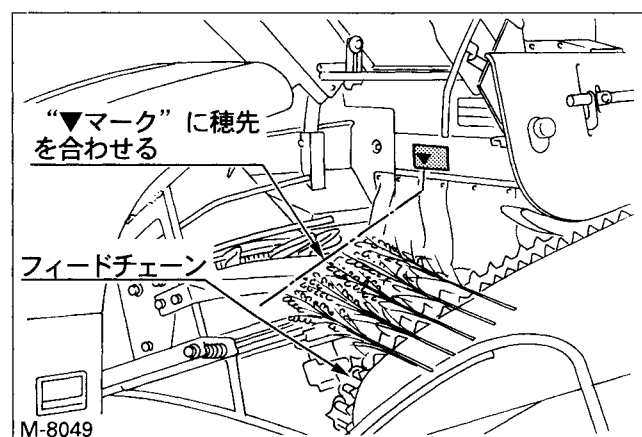
＊また作業終了後に防じんカバーを閉じるときは、防じんカバーを支え、ノブを前方に引いてください。



- ⑤脱こくクラッチレバーを“入”位置にし、刈取クラッチレバーを“切”位置にします。
- ⑥エンジン回転数表示を見ながらアクセルレバーを操作して、エンジン回転数を2600rpm【195・215・R218S・M20】又は、2900rpm【165・M23】に合わせます。このとき、エンジン回転メータの合わせマークに回転数が到達すると、合わせマークが点滅から点灯になると同時に“OK”と表示されます。

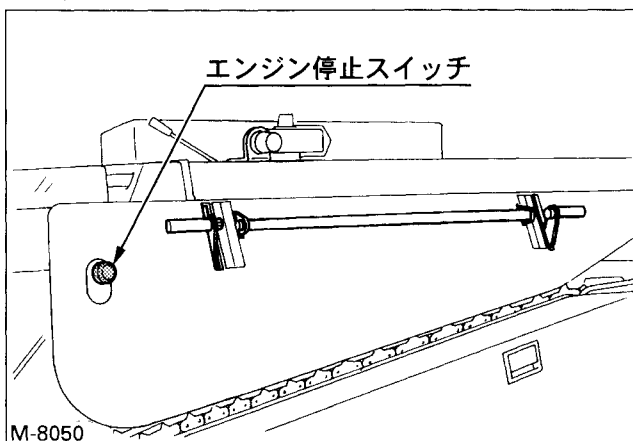


- ⑦作物の穂先を“▼マーク”に合わせ、少量ずつフィードチェーンに供給します。

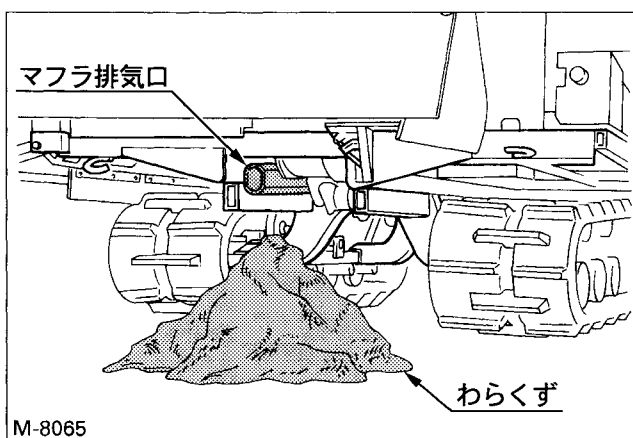


重要

- * 1箇所でも多量の手こぎをする場合、カッタやドロップパの下に排わらや切断わらの堆積が原因で、カッタなどが詰まることがありますから、機体を定期的に移動させてください。
- * 切断わらがカッタわら排出口に詰まった場合は、エンジンを必ず止めて取除いてください。
- * 手刈り脱こく時に万一異物などのかみ込みが発生したときは、エンジン停止スイッチを押してください。



- * 湿田作業中は、マフラ排気口に泥の詰まりやわらくずがあれば掃除し、機体を止めて脱こくするときは、わらくずが下図のようにたまっていないか点検し、掃除してください。



補足

- * 手刈り脱こく中にもみの飛散(ロス)が多いときは、下記要領で調節を行なってください。
- 【HD仕様】
チャフ調節ダイヤルを“開”方向へ調節してください。
- 【D仕様】
トウミ調節レバーを“弱”方向へ又は、チャフ調節レバーを“高能率”方向へ調節してください。
(作業に合わせた各部の調節・調整の項参照)
また、手刈り脱こくが終わったあとは必ず通常の刈取作業の状態(元の状態に調節)にしてください。

■作業に合わせた各部の調節・調整のしかた



警告

- *調節時は必ずエンジンを止めてください。
- *衣服などが回転部に巻込まれ危険ですので、取外した回転部のカバー類は必ず取付けてください。



注意

- *水平で平坦な場所で行なってください。
- *コンバインを停止するときは、わらくずの上に止めないでください。マフラ排気口にわらくずが触れると、火災のおそれがあります。

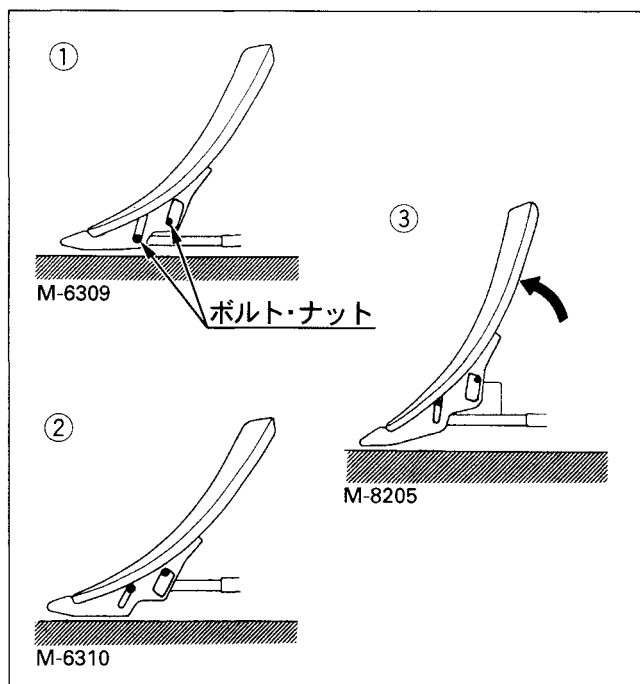
◆刈取部

1. デバイダの調整

●上・下調整

下表の作物条件に応じて、調整を行なってください。調整のしかたは、ボルト・ナットをゆるめて下表を参照し調整を行なったあと、ボルト・ナットを締付けます。

調整位置	作物・ほ場条件
①	● 標準
②	● 湿田でコンバインが前上りになるとき ● うね作業のとき ● 雑草が多く高刈りしたいとき
③	● (強) 湿田倒伏で株の引抜きが多いとき



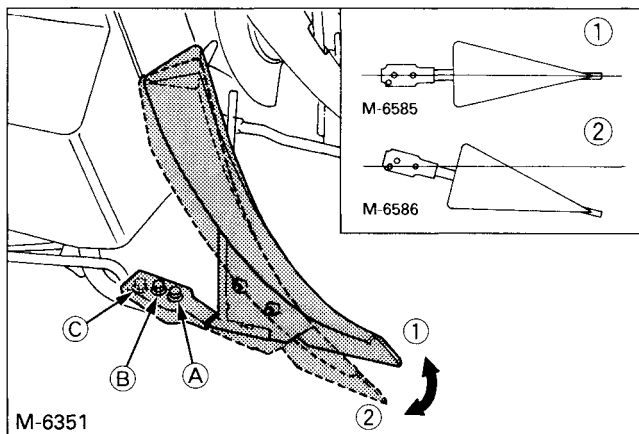
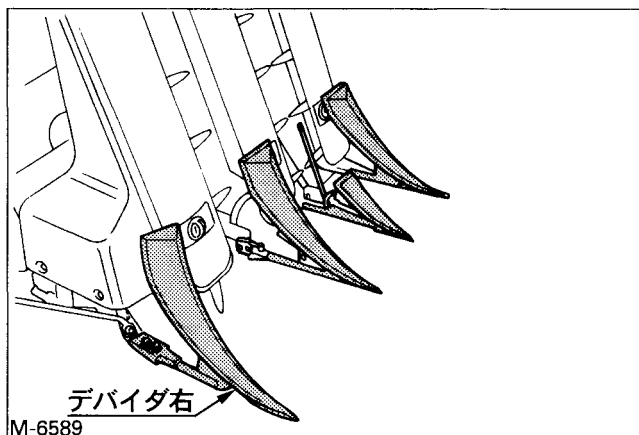
補 足

- *デバイダの上下高さは、全てのデバイダを同じ高さにしてください。

●右デバイダの調節

下表の作業条件に応じて、調節を行なってください。調節のしかたは、ボルト④と⑤又は、⑥2箇所をゆるめたあとボルト⑥又は、⑥の取付け位置を変更して下表を参照し調節を行なったあと、ボルト2箇所を締付けます。

調節位置	作業条件
①	● 標準
②	● あぜぎわ刈り、中割り刈りのとき ● 33cm条間又は、麦の刈取りのとき



補 足

- *デバイダカバーを取付けるときは、①(標準)の位置にしてください。

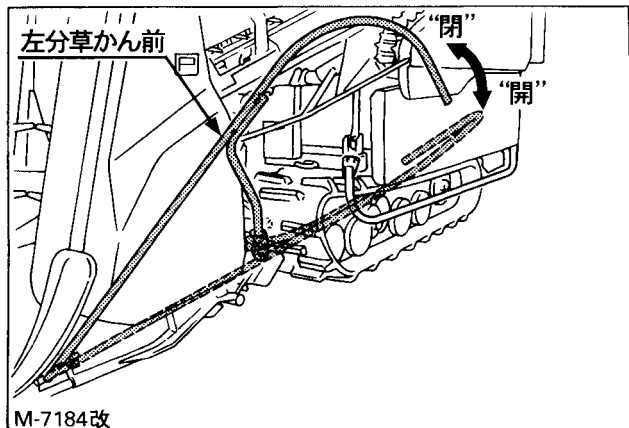
2. 左分草かん前・後の調節・調整

作物やほ場の条件に合わせて開度の調節を行なってください。

●左分草かん前

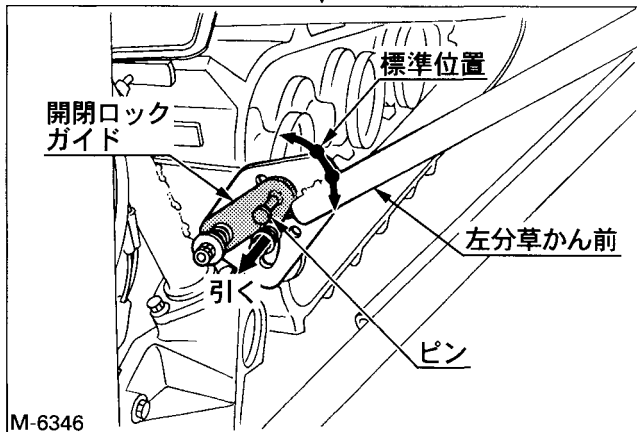
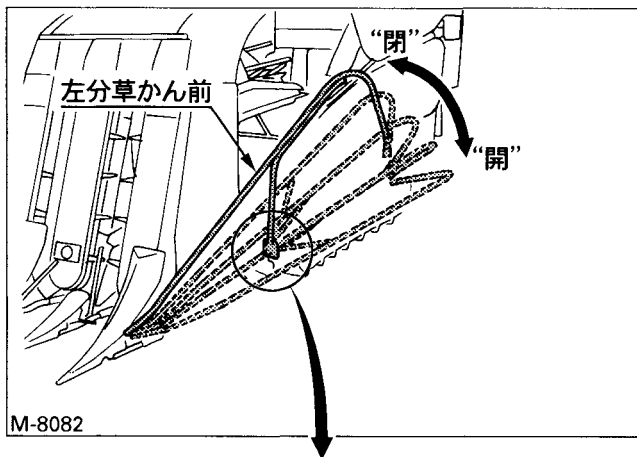
【165・195・215・R218S】

任意の位置に開度を調節できます。条件に合った位置で使用してください。



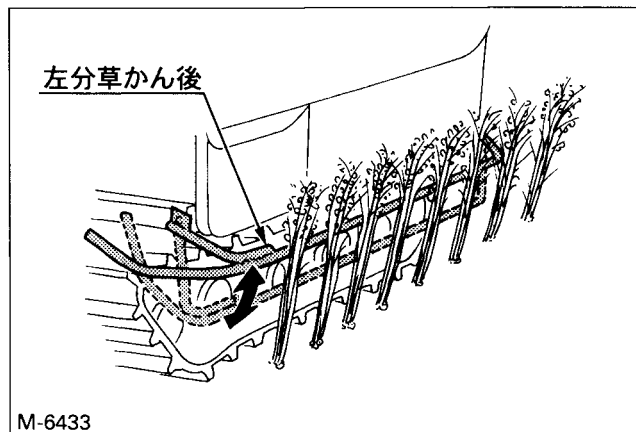
【M20・M23】

条件に合わせて4段階の調節が行なえます。調節を行なうときは、開閉ロックガイドのピンを引いた状態で左分草かん前を動かして、穴にはめ込んでロックします。



●左分草かん後

左分草かん後を上・下させ調整を行なってください。



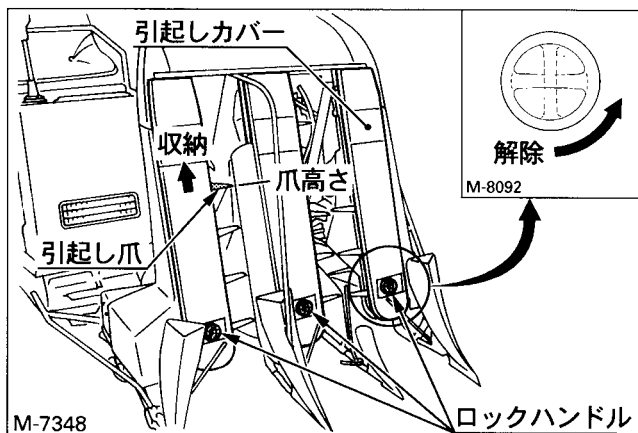
補 足

＊ 湿田でクローラでの穂の汚れがあるとき、穂先がクローラにさわらないよう調節してください。

3. 引起し爪高さの調節

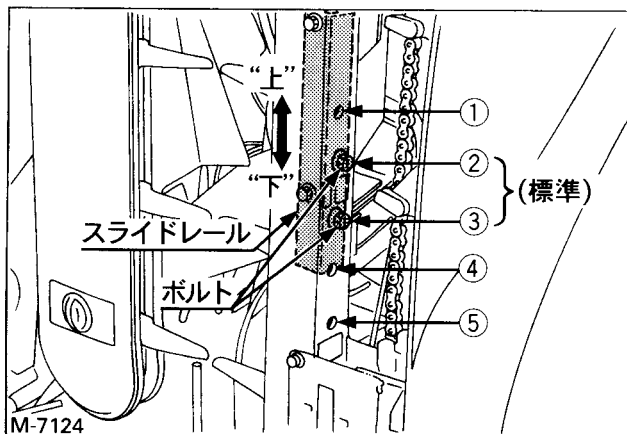
作物条件に応じて、引起し爪が収納される位置の調節を行なってください。調節は必ず**全条同じ位置**にしてください。

- ① 引起しカバーのロックハンドルを回して、引起しカバーのロックを解除します。
- ② 引起しカバーを取外します。



③【165・195・215・R218S】

ボルト2本を外してスライドレールを上下に移動し、引起し爪の高さを調節したあとボルトを締付けてください。



●作物条件と調節位置

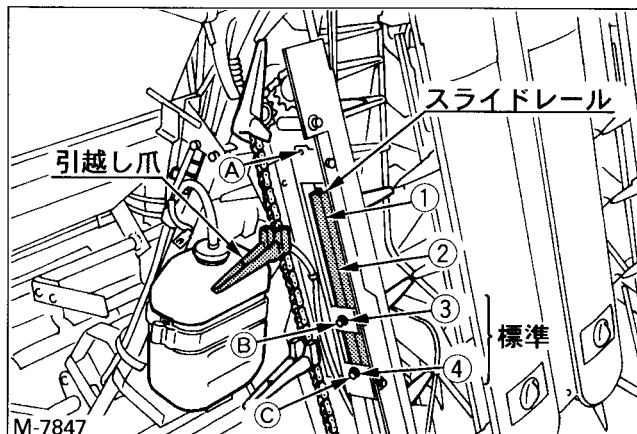
	調節位置
標準の作物	②と③
極長かん (1.3m以上)	①と②
脱粒しやすい品種 わらちぎれの多い作物 (過熟小麦など)	③と④
長かんで倒伏している作物	②と③ 又は、①と②

補 足

* 脱粒しやすい品種を刈取りするときは、引起し爪の高さを、作物の穂首より下側に調節してください。

③【M20・M23】

ボルト2本を外してスライドレールを上下に動かし調節したあと、ボルトを締付けます。



●作物条件と調節位置

	スライドレール 調節位置	ボルト 取付位置
標準の作物	③と④	②と③
極長かん (1.3m以上)	①と④	②と③
脱粒しやすい品種 わらちぎれの多い作物	②と③ 又は、①と②	②と③
長かんで倒伏している作物	③と④ 又は、①と④	②と③ 又は、②と③

補 足

* 脱粒しやすい品種を刈取りするときは、引起し爪の高さを、作物の穂首より下側に調節してください。

- ④ 引起しカバーを装着し、ロックハンドルを押しつけて右に90度まわして、ロックします。

4. 刈刃の高さ調節【M20・M23】

作物の刈高さを低くするときに行なってください。

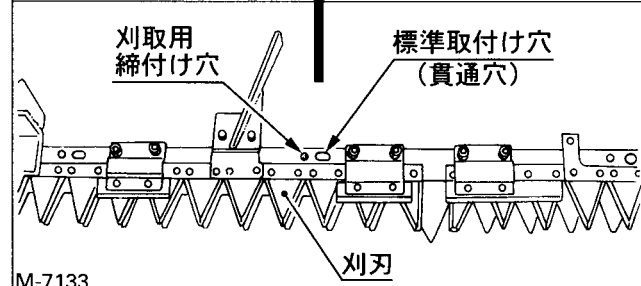
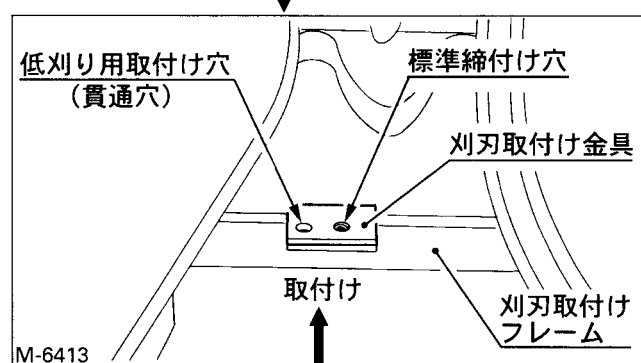
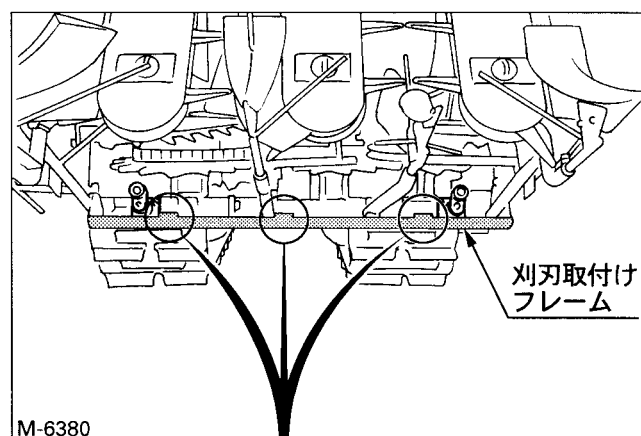
重要

＊下記条件のときは、作業のしかたにより刈刃の破損の原因となりますので標準位置(出荷時)で作業を行なってください。

- ほ場が湿田のとき
- 作物が麦などのうねのあるほ場のときや、雑草が多いとき

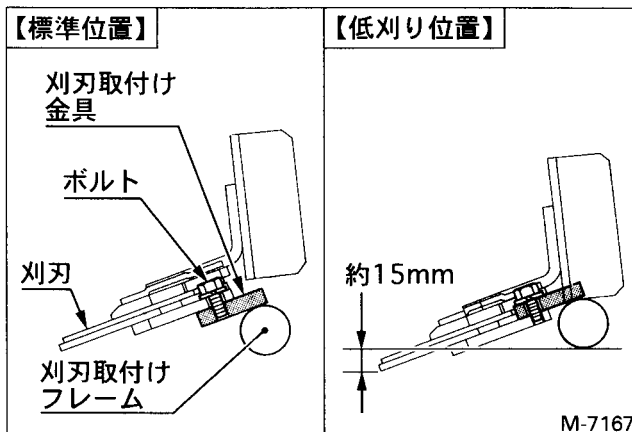
❶ 刈刃を外します。(メンテナンスの刈刃の点検・調整・交換の項参照)

❷ 刈刃取付けフレームの刈刃取付け金具の下側に刈刃をセットし、取外したボルト(M8×20)を取付け金具の低刈り用の取付け穴から差込んで3箇所それぞれ締付けます。

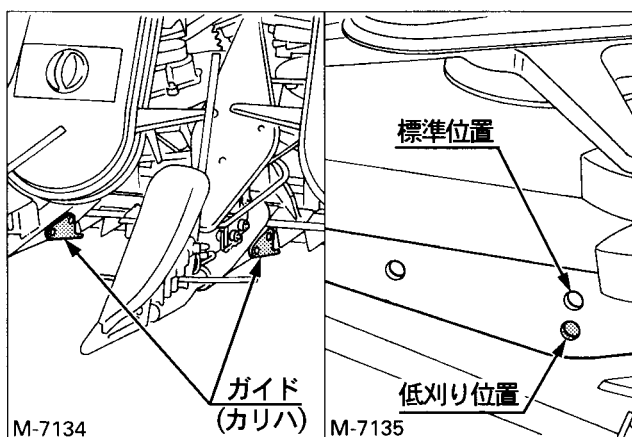


補足

＊刈刃の高さは標準位置より約15mm低くなります。



❸ 刈刃ガイドを低刈り用の穴に差込んだあと、ナットで2箇所それぞれ締付けます。



5. 刈取り高さの調節【M20・M23】

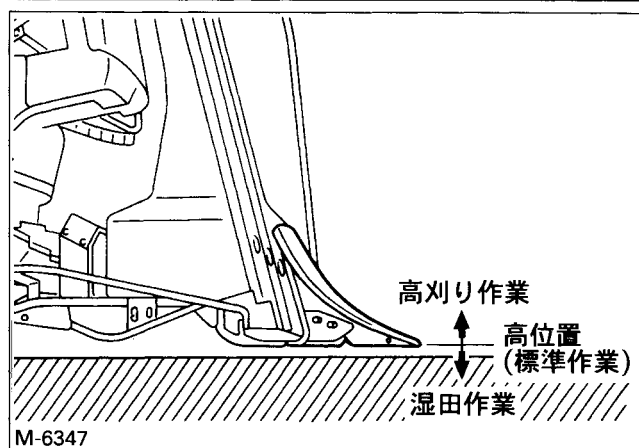
ほ場や作物の条件に合わせ調節を行なってください。調節を行なうときは、刈取部を上昇させて行なってください。

刈取部を動かすシリンダ部にある刈高さ調節カムを上位置⇔下位置に動かします。また、刈高さ調節カムが上位置よりさらに刈高さを高くしたいときは、調節ボルトのロックナットをゆるめ、調節ボルトをゆるめる方向に回してください。



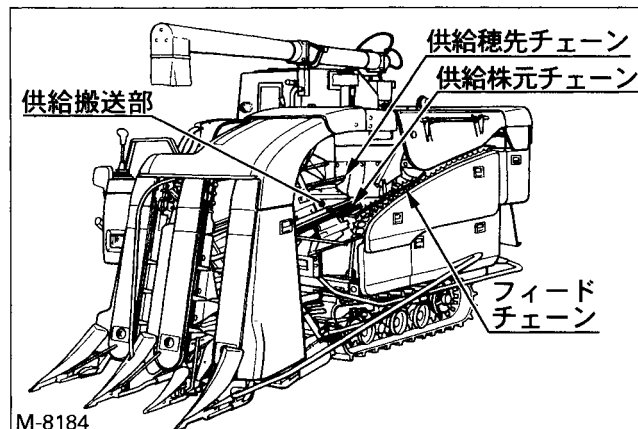
●調節位置とほ場・作物条件による作業

調節位置	条件(作業)
高位置	●標準作業
低位置	●湿田作業
高位置で調節ボルトをゆるめる。	●高刈り作業 ●刈取作業に慣れていないとき。



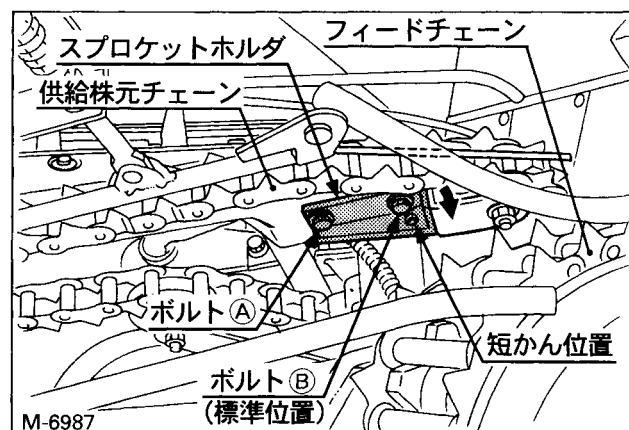
6. 短かん調節

短かん作物や着粒範囲の広い作物で、こぎ残しが発生しやすい作物は、供給搬送部の終端のスプロケット【165・195・215・R218S】又は、従動アーム【M20・M23】を動かして調節を行なってください。

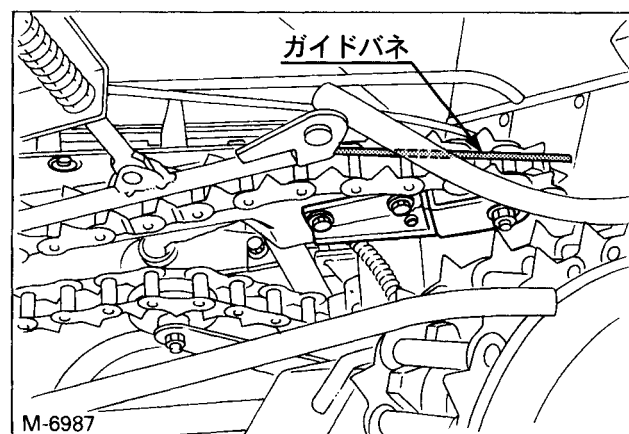


【165・195・215・R218S】

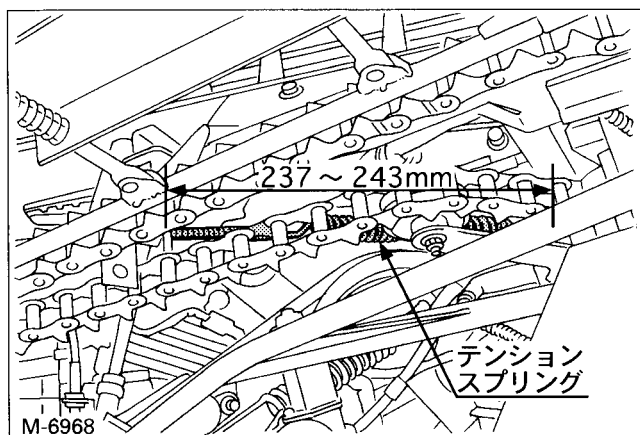
① ボルトAをゆるめ、ボルトBを取外して、スプロケットホルダを標準位置から短かん位置に付換えます。



② チェーンに添うようガイドバネの取付けを調整します。



- ③ テンションスプリング長さを237～243mmに調整します。(各部チェーンの点検・調整の項参照)

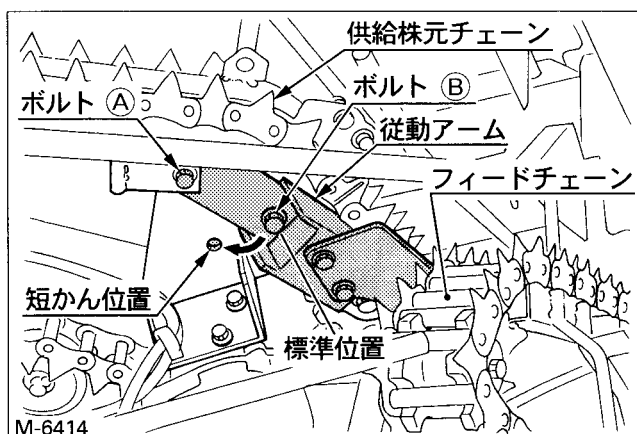


補 足

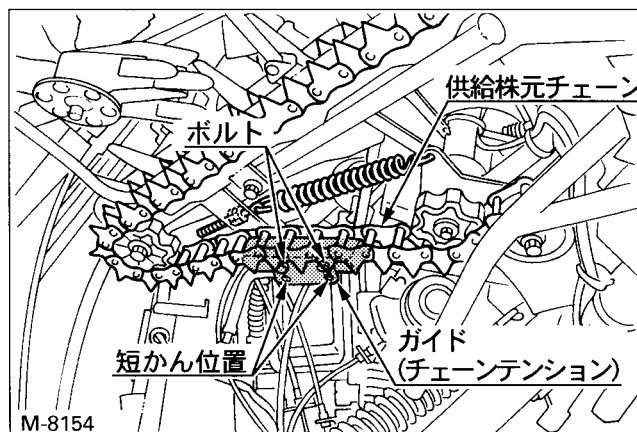
＊短かん位置から標準位置へ戻すときは、テンションスプリングをゆるめてから行なってください。

[M20・M23]

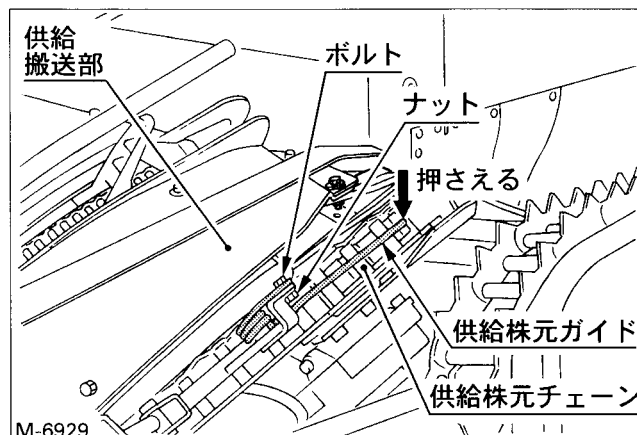
- ① ボルト④をゆるめたあと、ボルト⑤を取外して、従動アームを標準位置から短かん位置にし、ボルト⑥を締付けます。



- ② ガイド(チェーンテンション)の取付けボルト2本を取外したあと、短かん位置にしてボルト2本で締付けます。



- ③ 供給株元ガイドの取付けボルト・ナットをゆるめ、供給チェーンにガイドを押さえたあと、ボルト・ナットを締付けます。



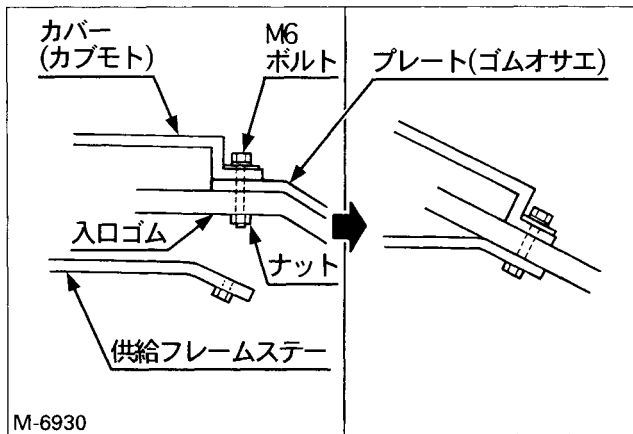
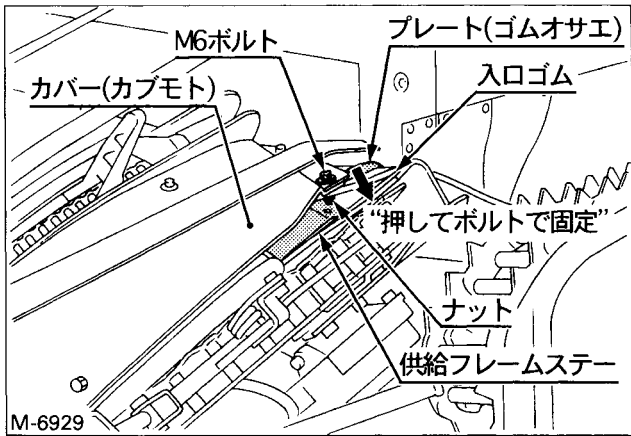
- ④ 供給株元チェーンテンションスプリングの長さを237～243mmに調整します。調整するときは、ロックナットをゆるめ調整ナットで調整を行なったあと、ロックナットを締付けます。



補 足

＊短かん位置から標準位置へ戻すときは、テンションスプリングをゆるめてから行なってください。

- ⑤ カバー(カブモト)と入口ゴムを取付けているM6ボルトのナットとプレート(ゴムオサエ)を外し、供給フレームのステーにM6ボルトを締付けて固定します。



補 足

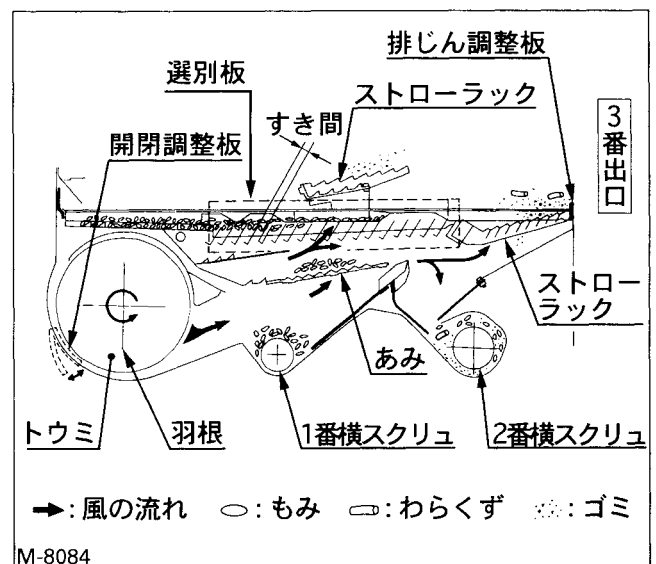
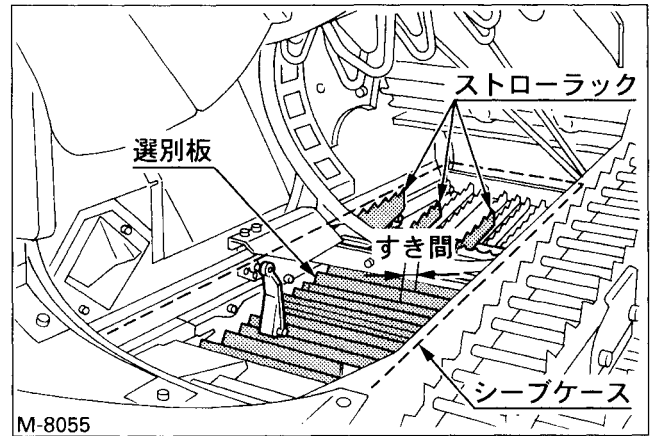
* 取外したプレート(ゴムオサエ)とナットは大切に保管してください。

- ⑥ 標準位置に戻すときは、①～⑤の逆の手順で行なってください。

◆脱こく部

7. 脱こく状態に合わせた調節・調整

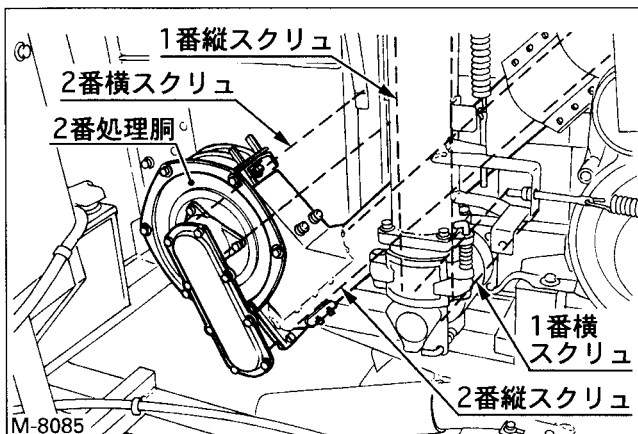
下記もみの流れを参照して、作物の現象(状態)に応じ、各部の調節や調整を行なってください。



- (1) こぎ胴で脱こくされた作物は、シーブケースの揺動運動により選別板へ搬送されます。
- (2) 選別板上の搬送途中でもみは、選別板のすき間から落下したあと、あみで選別されて1番横・縦スクリュからホッパ又は、グレンタンクに搬送されます。また、一部のもみ(穂切れ粒)や大きなわらくず・ゴミなどは、トウミの羽根の回転風力で2番スクリュ又は、ストローラックを通過して3番出口へ排出(飛散)されます。

補 足

＊ 2 番スクリュで搬送される穂切れ粒や大きなわらくず・ゴミなどは、2 番横スクリュ出口の 2 番処理胴（ツースパー）で補助脱こくされたあと、2 番縦スクリュで選別板へ還元されます。



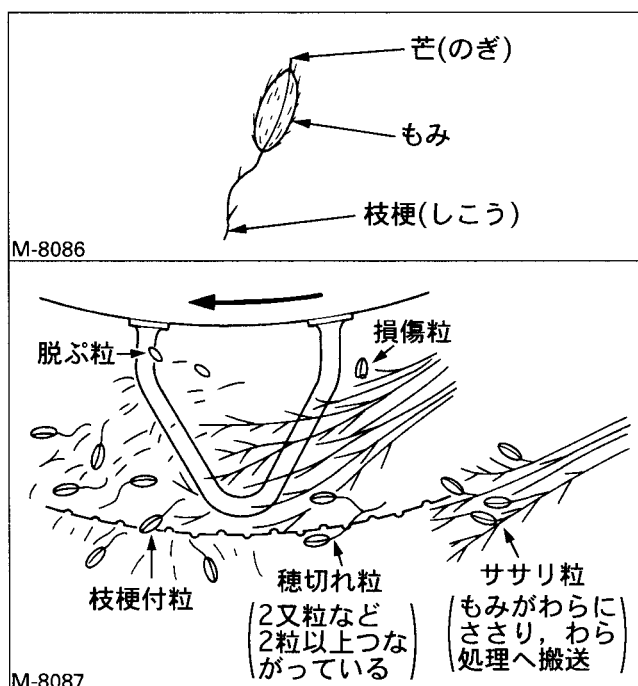
(3) トウミ（風力）とチャフ（選別板のすき間）について

- 選別板のすき間が小さいともみの選別は良くなりますが、排じんロス（もみがわらくずやゴミと一緒に排出される）や脱ぶ・損傷が増加します。また、すき間が大きいと能率は上がりますが、芒（のぎ）・枝梗（しこう）付粒・穂切れ粒・わらくず（切れわら）が増加して選別が悪くなります。
- トウミの風力が強いと排じんロスが増加します。また、弱いとわらくずやゴミの混入が増加して選別が悪くなります。

補 足

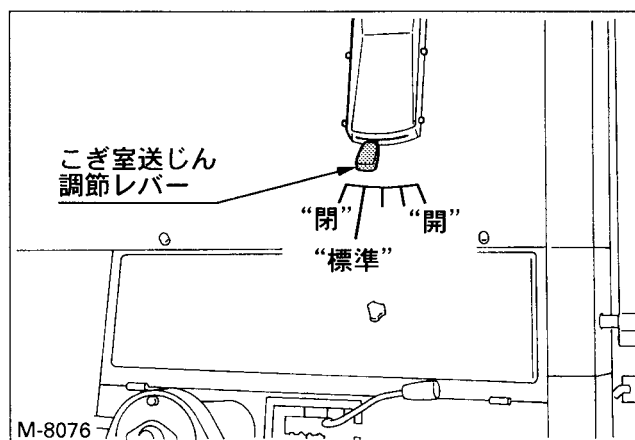
＊ トウミの風力は開閉調整板で調整されます。

(4) もみについて

**● こぎ室送じんレバーの調節**

下表を参照してこぎ室送じん調節レバーで調節してください。

調節方向	現 象（状 態）
“開” ↑	● ゴトゴトと大きな異音がある（こぎ胴の負荷が大きい） ● 倒伏作物やぬれ作物の刈取り ● 脱ぶや損傷（胴割れや欠け）粒が多い
“標準” ↓ “閉”	● 選別が悪い （ ● 芒・枝梗付粒が多い ● 穂切れ粒が多い ● ササリ粒が多い ） ● 排じんロス（もみの飛散）が多い

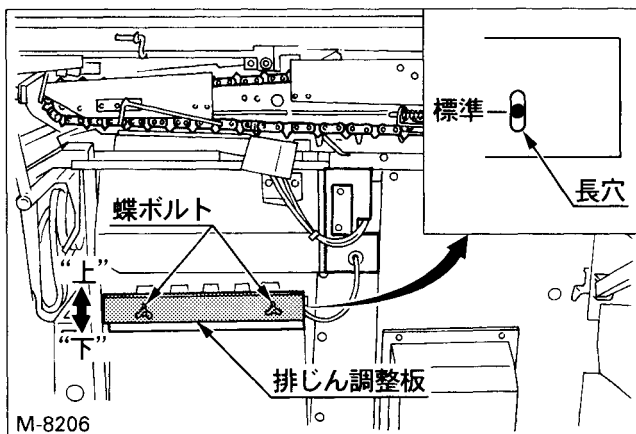


●排じん調整板の調整

下表を参照して排じん調整板を調整してください。

- ①カッタをオープンします。(各部のオープンのしかたの項参照)
- ②蝶ボルト2個をゆるめます。
- ③排じん調整板を動かして調整します。

調節方向	現象(状態)
上 ↑	●排じんロスが多い
標準 (長穴中央)	
下 ↓	●ぬれ作物の刈取り ●雑草が多い ●能率を上げる(高速刈取り)



- ④蝶ボルト2個を締付けて、カッタを閉じます。

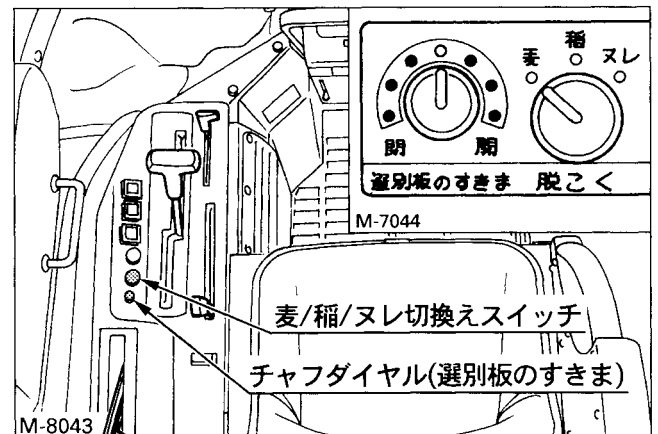
●トウミ(風力)とチャフ(選別板のすき間)

の調節・調整

【HD仕様】……自動脱こく制御装置

作物に合わせて麦／稲／ヌレ切換えスイッチ(トウミの自動制御)を設定したあと、下表を参照してチャフダイヤル(選別板のすき間の自動制御)で調整してください。

調節方向	現象(状態)
“開” ↑	●能率を上げる(高速刈取り) ●ぬれ作物の刈取り ●脱ぶや損傷(胴割れや欠け)粒が多い
“標準” (○位置)	
↓ “閉”	●選別が悪い ●芒・枝梗付粒が多い ●穂切れ粒が多い ●切わらが多い



補 足

*切換えスイッチを“ヌレ”位置に設定すると、チャフ(選別板のすき間)は全開位置に固定されます。
また、トウミは風力が最大となります。このとき、チャフ(選別板のすき間)ダイヤルの調節はできません。

【D仕様】

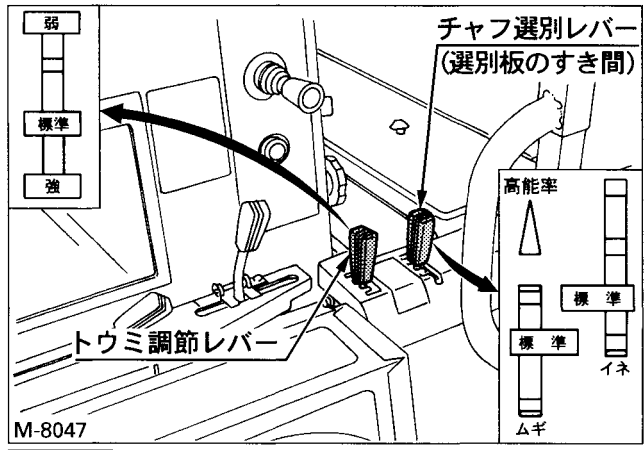
下表を参照してトウミ調節レバーとチャフ調節レバーで調節してください。

(1)トウミ調節レバー

調節方向	現象 (状態)
“強” ↑ “標準” ↓ “弱”	・選別が悪い (・切れわらやゴミが多い) (・穂切れ粒が多い)
	・排じんロス (もみの飛散) が多い

(2)チャフ調節レバー

調節方向	現象 (状態)
“高能率” (開) ↑ “標準” ↓ “イネ”・“ムギ” (閉)	・能率を上げる (高速刈取り) ・ぬれ作物の刈取り ・脱ぶや損傷 (胴割れや欠け) が多い
	・選別が悪い (・芒・枝梗付粒が多い) (・穂切れ粒が多い) (・切わらがが多い)



補 足

*チャフ調節レバーの“標準”位置は稲と麦で異なります。

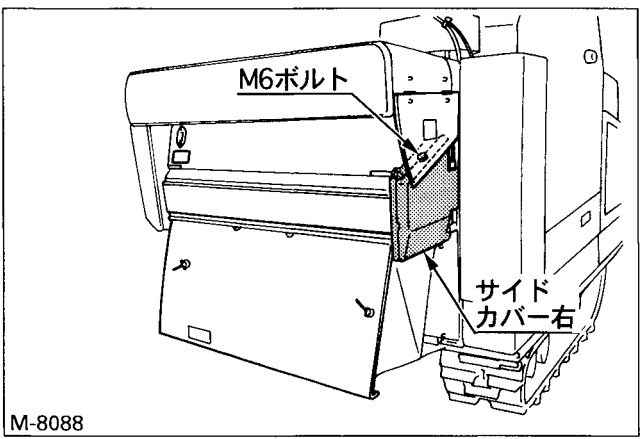
◆カッタ(排わら処理)部

補 足

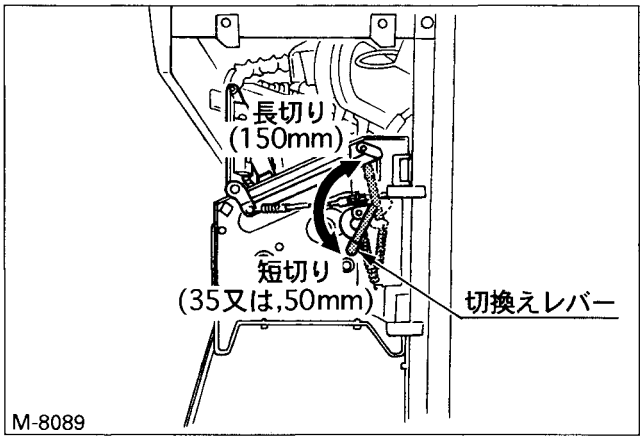
* オプション部品のわら切断長さ切換え式 (35/150mm・50/150mm) カッタ用です。

わらの切断長さの切換えを行なってください。

① M6ボルト 1 本を外し、サイドカバー右を外します。



② サイドカバー内部の切換えレバーで短切り↔長切りに切換えます。



■スカイナビによる異常と処置



警告

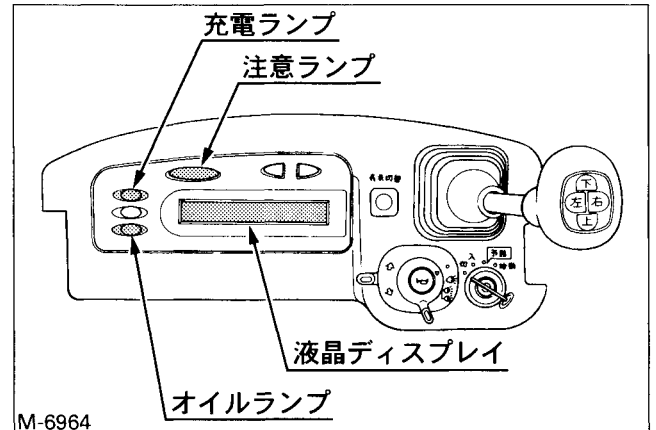
- *各部の点検やわら詰まりを取除くときは、エンジンを必ず止めてください。
- *各搬送チェーンやカッタ刃には注意してください。ケガをするおそれがあります。

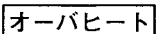


注意

- *エンジン停止直後は、エンジンにさわったり、ラジエータキャップを開けないでください。ヤケドをするおそれがあります。
- *取外したカバー類は、必ず取付けてください。

液晶ディスプレイ及び各ランプが異常を表示したときは、下表の処置を行なってください。



液晶ディスプレイ・ランプ (ランプ表示)	ブザー	現 象	処 置	参 照 ページ
 給油して下さい (注意ランプ点滅)	○ 断続 (5回)	●燃料が少なくなっています。 ※最後の1コマで表示します。 (点滅時残量……約6L) ●そのまま作業を続けると… エンジンが停止します。	●給油してください。	104
 オーバヒート (注意ランプ点滅)	○ 断続 (繰返し)	●水温が上昇しています。 ●そのまま作業を続けると… オーバーヒートします。	●約5分間エンジンだけを動かしたあと、エンジンを停止し、30分以上たってから点検と処置をします。 ①冷却水量 不足……ラジエータ・リザーブタンクに清水を補給 水もれ……排水プラグ・ラジエータホースのバンドを増締め ②ファン駆動ベルト ゆるみ……張り調整 破損など…交換・調整 ③防じんあみ・ラジエータフィン 汚れ・詰まり…掃除して取除く	107 108,109 118 109
オイルランプ (ランプ点灯)	—	●エンジンのオイル圧力が不足しています。 ●そのまま作業を続けると… エンジンが動かなくなります。	●エンジンを停止後、オイル量を点検します。 ●オイルドレーンゴムホースの点検、バンドの増締め ●エンジンが焼付きを起していますので、購入先へ連絡してください。	104 109
充電ランプ (ランプ点灯)	—	●バッテリーに充電されていません。 ●そのまま作業を続けると… バッテリー上がりとなり、エンジンの始動ができなくなります。	●エンジンを停止後、点検と処置をします。 ①ファン駆動ベルト ゆるみ……張り調整 破損など……交換・調整 ②バッテリー 電圧低下……充電 ●バッテリーを充電してもエンジンが始動しないときは、交換してください。	118 137 137

液晶ディスプレイ・ランプ (ランプ表示)	ブザー	現 象	処 置	参 照 ページ
穂先センサ→点検 (注意ランプ点滅)	○ 断続 (5回)	● 浮わらや雑草が、穂先センサに接触しています。 ● 自動制御が困難なとき。 ● そのまま作業を続けると…選別不良となります。	● 穂先センサを点検し、浮わらや雑草を取除きます。 ● 自動こぎ深さスイッチを自動切りにし、手動で浅こぎ側へ操作します。 ● こぎ深さ指示(▼)マークに穂先を合わせます。	17, 22 48 17 48
【D仕様】 選別板のすき間→開 (注意ランプ点滅) 【HD仕様】 選別板のすき間→開 (注意ランプ点滅) ↓減速しないと10秒後に 速度を落して下さい (注意ランプ点滅)	○ 断続 (5回)	● シーブケース上に詰まりが発生しています。 ● 刈取量が処理能力をこえています。 ● そのまま作業を続けると…エンジンが停止します。	● 液晶ディスプレイの指示に従ってください。 1. チャフダイヤルを全開にします。 ↓ 2. 作業速度を落します。 ↓ 3. 刈取作業を中止し、脱こく部を空運転します。	21, 22 18, 75 7 18
2番詰まり (注意ランプ点滅)	○ 断続 (繰返し)	● 2番処理胴(ツースパー)又は、スクリュが詰まっています。 ● そのまま作業を続けると…駆動系統の故障になります。	● 2番処理胴(ツースパー)を掃除します。	93
速度を落して下さい (注意ランプ点滅)	○ 断続 (繰返し)	● エンジンや脱こく部に負荷がかかっています。 ● そのまま作業を続けると…エンジンが停止します。	● 作業速度を落としてください。 ● 作業条件に合った調節や調整を行なってください。	7 15, 57
【作業前】 回転数を上げて下さい (注意ランプ点滅)	—	● 作業に必要なエンジン回転数に足りません。	● エンジン回転数を上げてください。	6, 46
【作業中】 ○ 断続 (5回)	○ 断続 (繰返し)	● そのまま作業を続けると…正常な脱こくができません。		
もみ満杯 (注意ランプ点滅)	○ 断続 (繰返し)	【ホッパ仕様】 ● ホッパのもみが満杯です。 ● そのまま作業を続けると…ホッパからもみがあふれます。又は、1番スクリュが詰まります。	● 刈取作業を中止し、もみ袋を交換してもみを排出します。	59
		【G仕様】 ● グレンタンクのもみが満杯です。 ● そのまま作業を続けると…グレンタンクからもみがあふれます。又は、1番スクリュが詰まります。	● 刈取作業を中止し、もみを排出します。	20, 60

液晶ディスプレイ・ランプ (ランプ表示)	ブザー	現 象	処 置	参 照 ページ
自動的にエンジンが 停止すると同時に ↓ カッタ詰まり (注意ランプ点滅)	○ 断続 (繰返し)	●フィードチェーン終端部、 カッタ部のわら詰まりです。	●異常の原因(詰まり)を取除いて復帰します。	91
		①カッタ部にわらが詰まっています。	①カッタの切換えカバーを開いて、わらを取除いてください。	94
		②フィードチェーン終端部にわらが詰まっています。	②こぎ胴をオープンして、わらを取除いてください。	81, 91
		※③結束機のみもなし・ひも切れです。 ※④結束機の結節部にわらやひもが巻付いています。 また、結束部にわらが詰まっています。	③新しいひものセット・ひもの再セットをしてください。 ④わらやひもを取除いてください。	— —
制御装置 異常 (注意ランプ点滅)	○ 断続 (5回)	●自動制御装置(マイコン)が異常を起しています。	●販売店へ連絡してください。	—

※は結束機付仕様

重 要

*処置したあとに異常が直らないときは、購入先へ連絡してください。

補 足

*警報メッセージ表示中に表示切替えスイッチを押すと、液晶ディスプレイ表示は警報表示からもとの表示に戻り、警報ブザーと注意ランプの点滅が停止します。

但し、給油の必要があるときには、液晶ランプの左端に燃料マークが点滅し、燃料の残量が少ないことを知らせます。***カッタ詰まり**の警報メッセージが表示されるとエンジンが自動停止します。そのあと、異常処置を行ない、脱こくクラッチレバーを“切”位置にするとエンジンは始動します。

メンテナンス

各部のオープン(開閉)と脱着のしかた



警告

- * 平たんで安全な場所で、エンジンを必ず止めてから行なってください。
- * 取外したカバー類は、必ず取付けてください。

■エンジンルームオープン

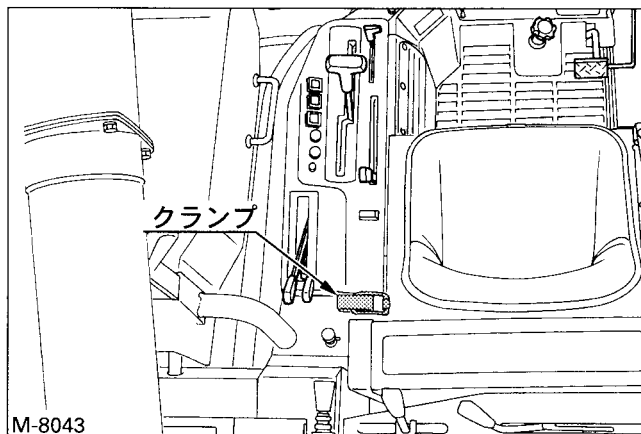


注意

- * オーバヒートなどでエンジンルームを開けて点検・整備するときは、次の手順に従ってください。
 - (1) 作業を中止する。
 - (2) エンジンを約5分間アイドリング回転で運転した後、エンジンを停止する。
 - (3) エンジン停止後30分以上経過してから開ける。
 - (4) 点検・整備で内部に触れるときは、ヤケドの危険性がないことを確認する。
- * エンジンが冷えてないとき、エンジンルームを開けるとラジエータ部、リザーブタンク部などより熱湯が噴出し、あるいは高温部に接触してヤケドするおそれがあります。

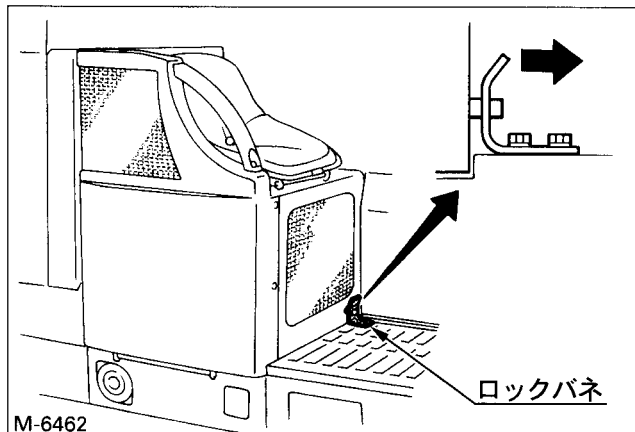
◆開きかた

- ① シートフレーム部のクランプを外します。

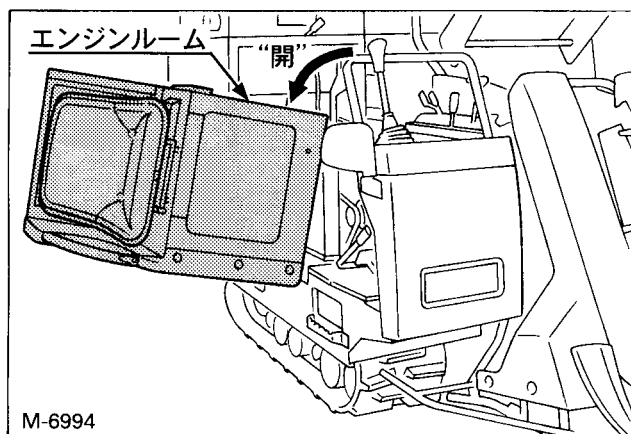


M-8043

- ② 足元左側のロックバネを引き、エンジンルームを外(手前)側に倒して開きます。



M-6462



M-6994

◆閉じかた

エンジンルームを閉じたあと、クランプをします。

重要

- * 閉じたときは、クランプで必ずロックしてください。

■こぎ胴オープン



警告

＊中でこぎ歯が高速で回転しているので接触するとケガをします。こぎ胴オープンするときは、エンジンを必ず止めてください。



注意

＊こぎ胴をオープンして、受あみの脱着やこぎ室の掃除をするときは、こぎ胴が落下して身体がはさまれるおそれがあるので、オープントッパで必ず固定してください。

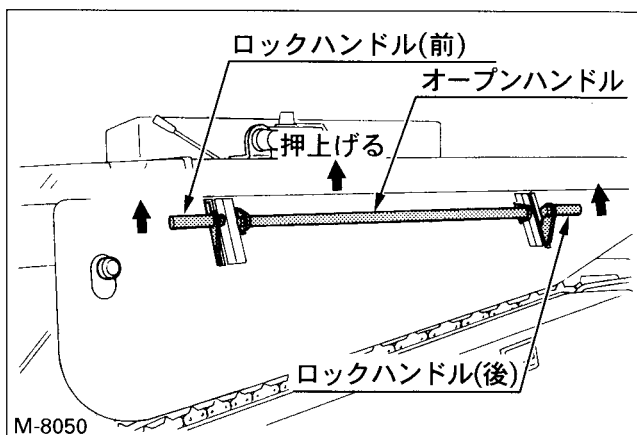
◆開きかた

①アンローダ(ロングオーガ)を折りたたんでいるときは、アンローダ(オーガ)を上昇させます。

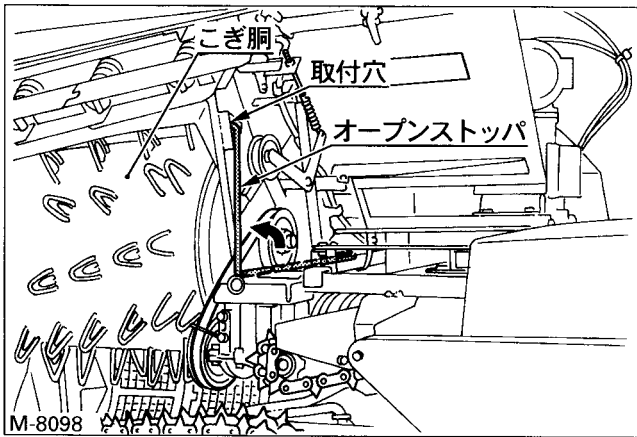
【165・195・215】

②ロックハンドル前・後を上にも上げます。

③オープンハンドルを持って、こぎ胴カバーを押上げます。



④排わら駆動ベルトを外し、オープントッパをセットします。



◆閉じかた

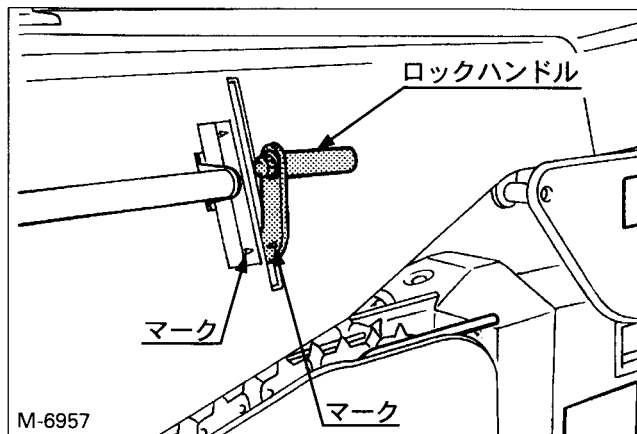
①オープントッパを取付穴から外します。

②排わら駆動ベルトをプーリに掛けます。

③オープンハンドルを持って、こぎ胴を押下げます。

重要

＊こぎ胴カバーを閉じたとき、ロックハンドル前、後の“◁”マークが、ハンドル横の“開”↔“閉”ラベルの“閉”の“◁”マーク位置にあることを確認してください。“閉”の位置以外で作業を行なうと、こぎ室フレームが変形することがあります。



■カッターオープン



警告

*カッターを開いているときは、カッターの刃先に注意してください。



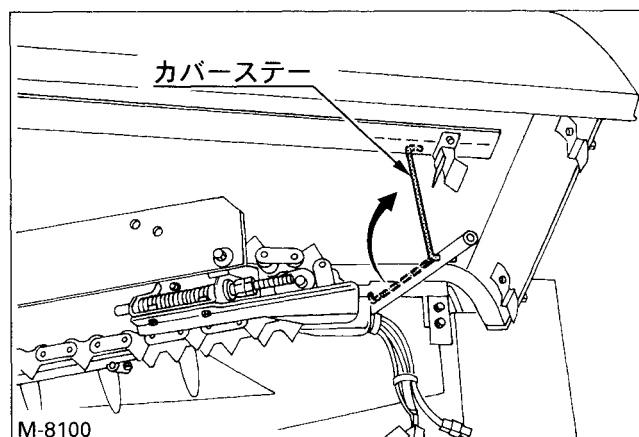
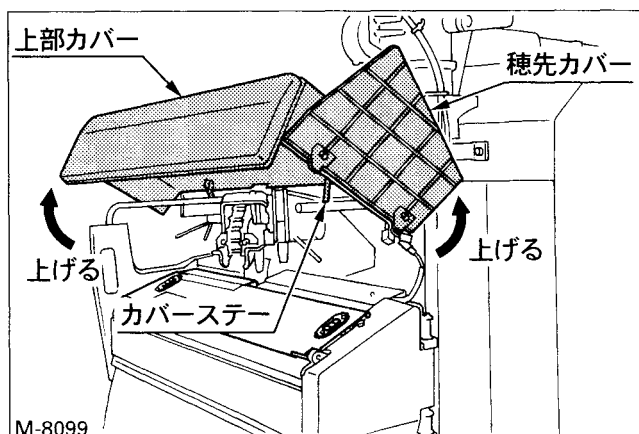
注意

*傾斜地でのカッターの開閉はしないでください。

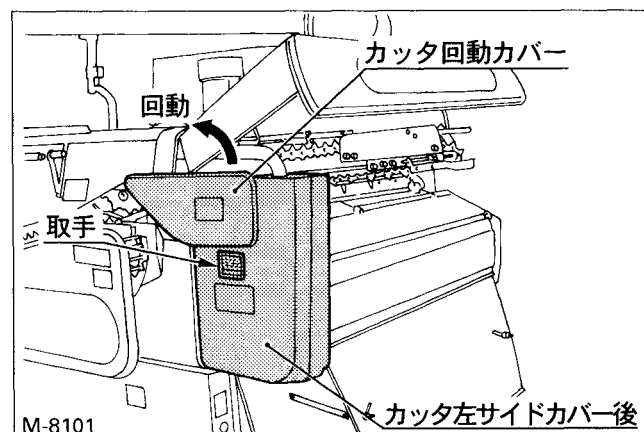
*カッターをオープンして掃除をするときは、オープンストップで必ず固定してください。

◆開きかた

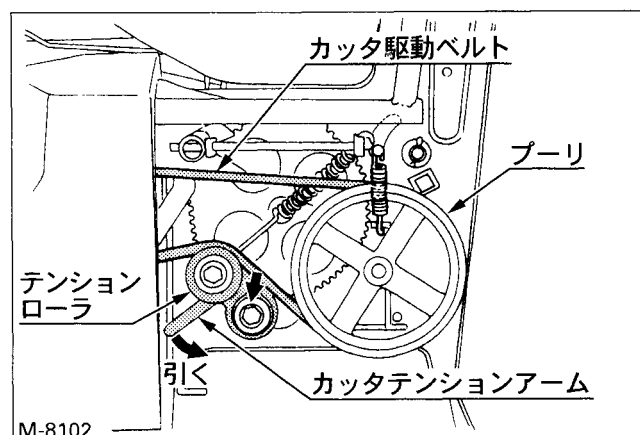
①上部カバーを上げて、カバーステーをセットしたあと、穂先カバーを上げます。



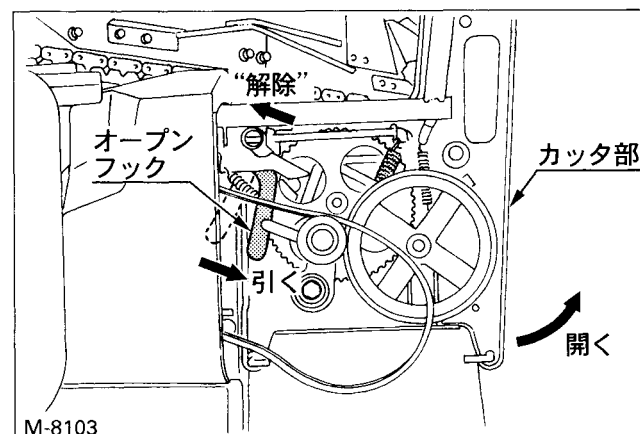
②カッター回転カバーを上側に回転させたあと、取手を引いてカッター左サイドカバー後を外します。



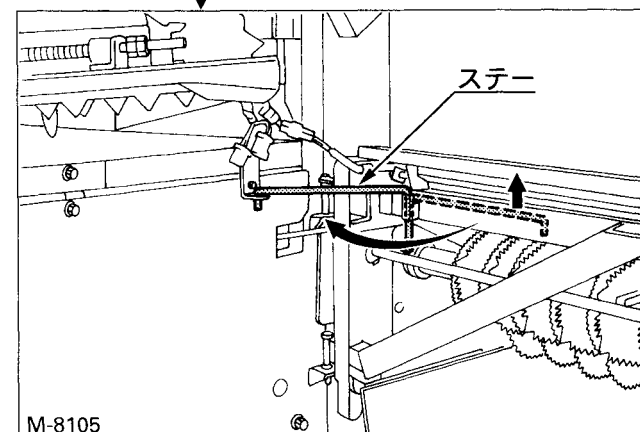
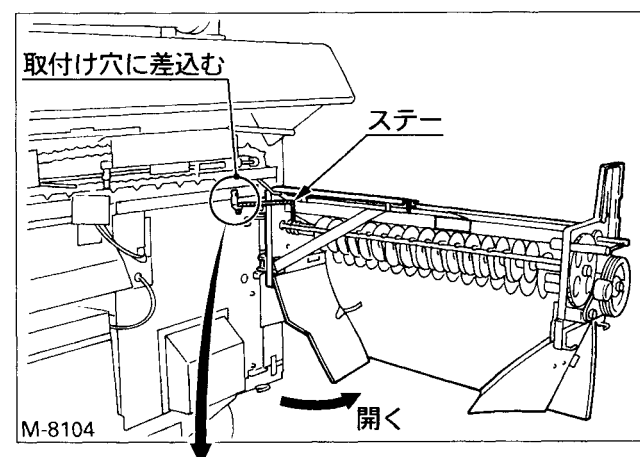
③カッターテンションアームを引き、テンションローラを下げて、カッター駆動ベルトをプーリから外します。



④オープンフックを引き、カッター部を開きます。



⑤カッター部を開いた(オープン)あと、ステーを脱こく側の取付け穴に差込みます。



◆閉じかた

開き方と逆の手順で閉じます。

■重要

* オープンフックが確実にロックされていることを確認してください。

* ベルトは、掛け間違えないでください。

■シーブケースの脱着



■注意

* 脱着作業は、合図を掛け合って2人で行なってください。

◆拔出しかた

①チャフ調節台を取外します。

■補足【G仕様】

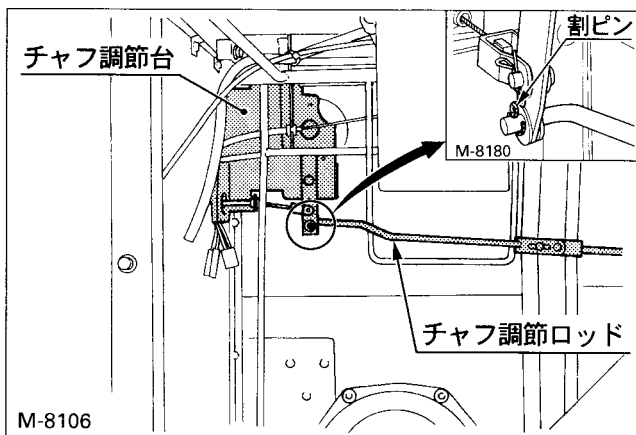
* グレンタンクをオープンします。

(グレンタンクオープンの項参照)

(1)チャフ調節台を取外す準備をします。

●【D仕様】

チャフ調節台の調節支点に取付けているチャフ調節ロッドの割ピンを外し、チャフ調節ロッドを外します。

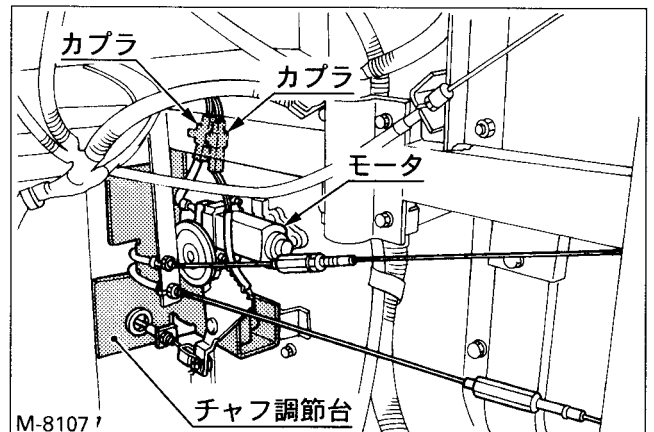


■重要

* 割ピンは再使用しますので、破損しないように外してください。

●【HD仕様】

チャフ調節台に取付けている2箇所のモータ用カプラを取外します。



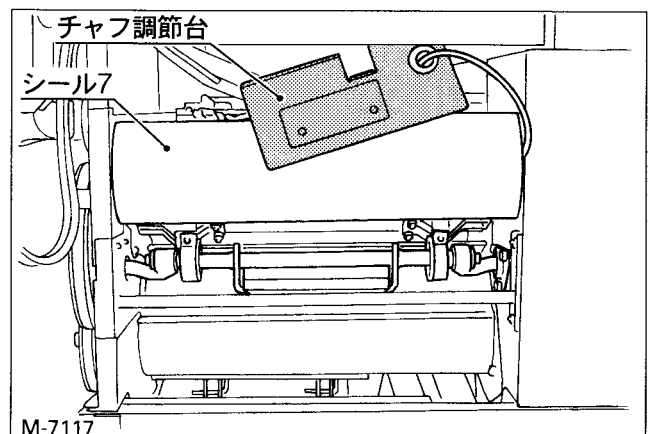
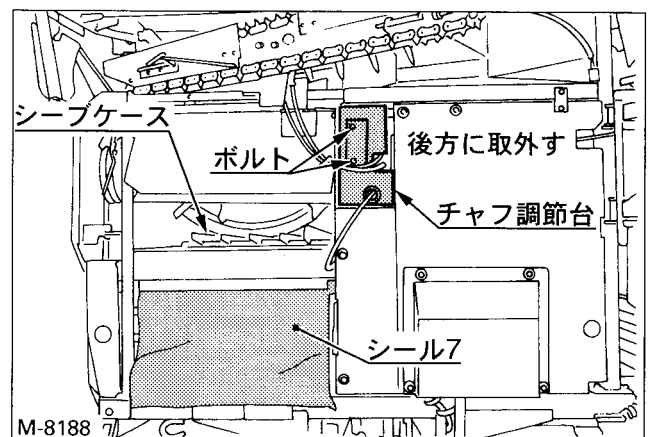
(2)カッタオープンを行います。

(カッタオープンの項参照)

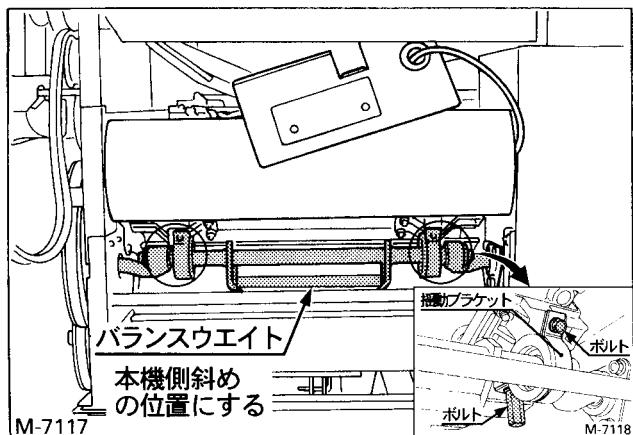
■重要【G仕様】

* グレンタンクを必ず閉じたあと、カッタオープンをしてください。

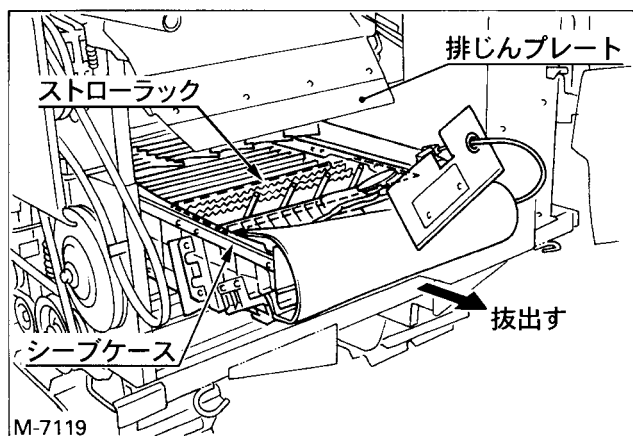
(3)チャフ調節台の取付けボルト2本を外し、チャフ調節台を取外します。そのあと、シーブケース後部のシール7をシーブケース上にめくり上げ、下図のようにチャフ調節台をシーブケースに乗せます。



- ② バランスウエイトを支えている揺動ブラケット
(左・右)取付けボルト(4本)を外します。
- ③ 揺動軸のバランスウエイトを後方斜め下の外しやすい位置にこぎ廻を回して調整します。



- ④ シーブケースを抜出します。

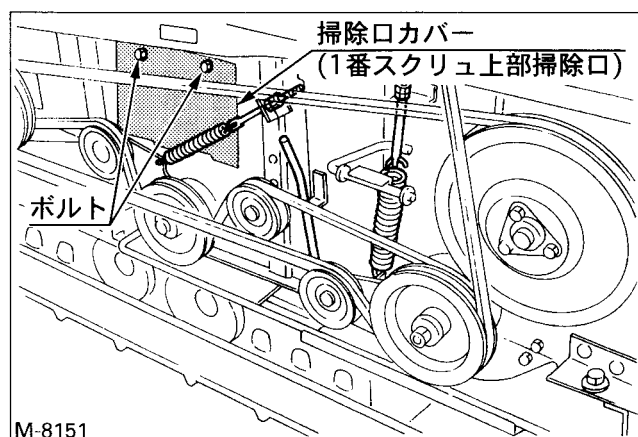
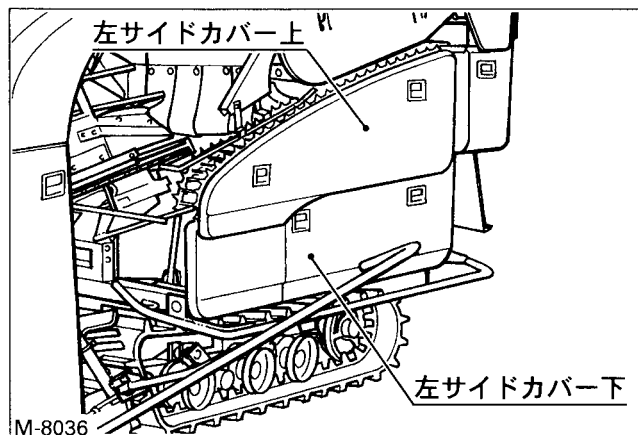


補 足

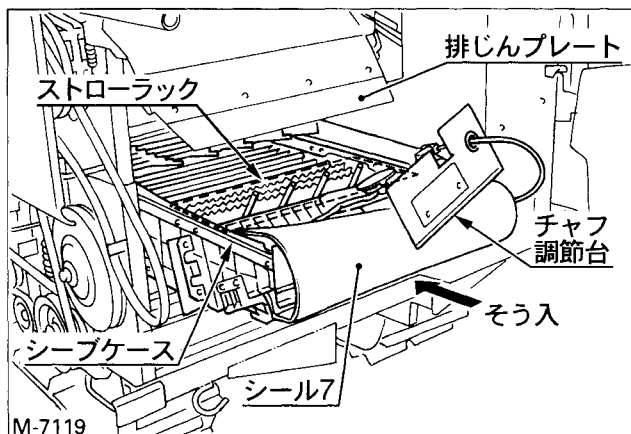
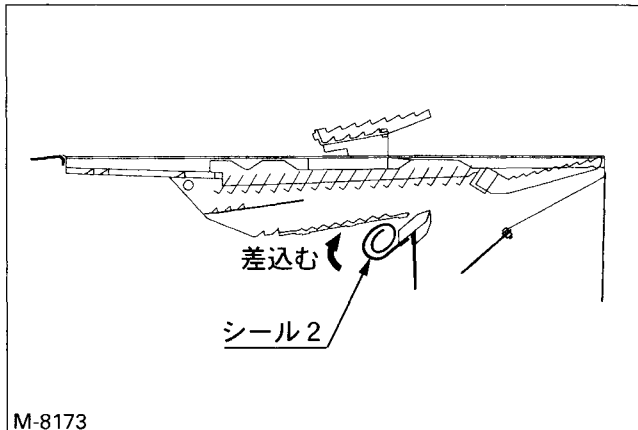
* 排じんプレートとストローラックやチャフ調節台が
引っ掛からないようにしてください。

◆取付けかた

- ① 左サイドカバー上、下を取外したあと、ボルト2本
を取外して1番スクリュ上部掃除口カバーを取外し
ます。

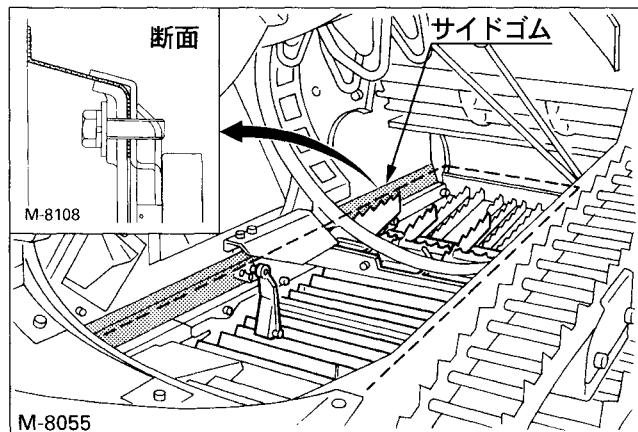


- ② シーブケース後部のシール7をシーブケース上にめくり上げ、チャフ調節台をシーブケースに乗せます。
- ③ シーブケース下側のシール2を下図のように巻込んだあと、シーブケースをそう入します。

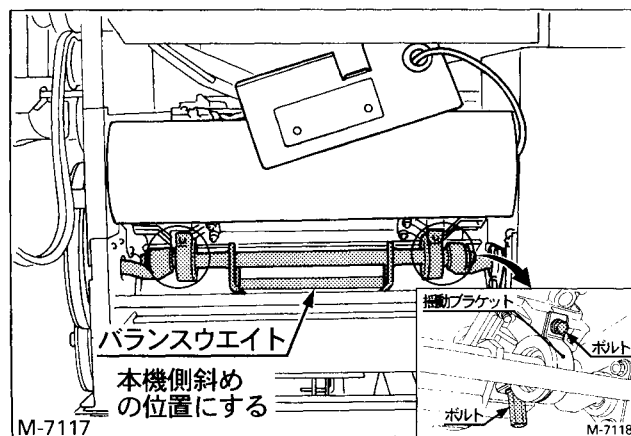


重要

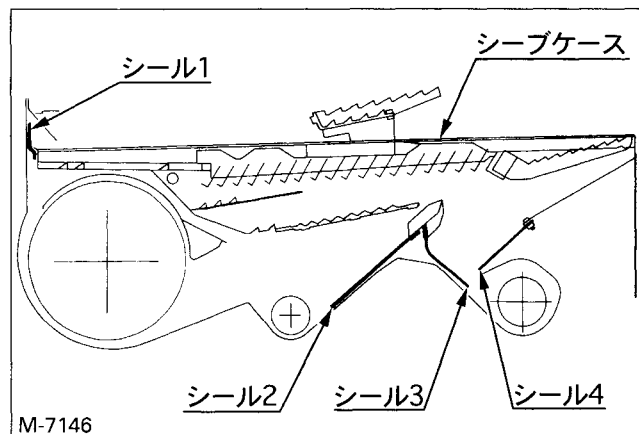
- * 排じんプレートとストローラックやチャフ調節台が引っ掛からないようにしてください。
- * そう入途中で、大きく上下動させないでください。
- * そう入したあとこぎ胴をオープンして、受けあみを外し、シーブケースのサイドゴム(左、右)が下側に折曲がっているときは、シーブケースを前・後に動かしてサイドゴムの先端が上側になるようにしてください。



- ④ 揺動軸のバランスウエイトを後方斜め下の取付けやすい位置にこぎ胴を回して調整します。
- ⑤ 揺動ブラケット(左・右)の組付け方向を合わせて、取付けボルト(4本)を締付けます。



- ⑥ シール各部を下図のようにセットします。

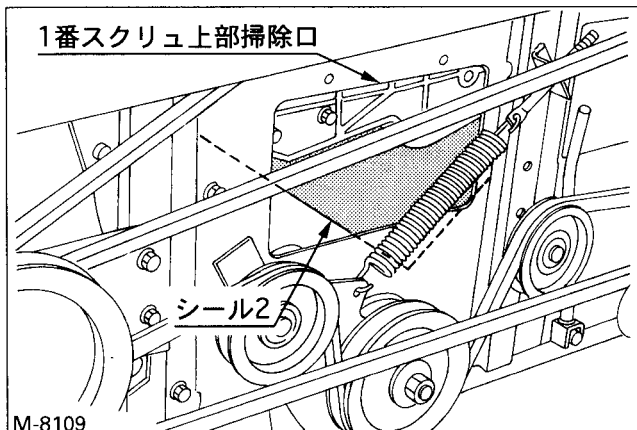


補足

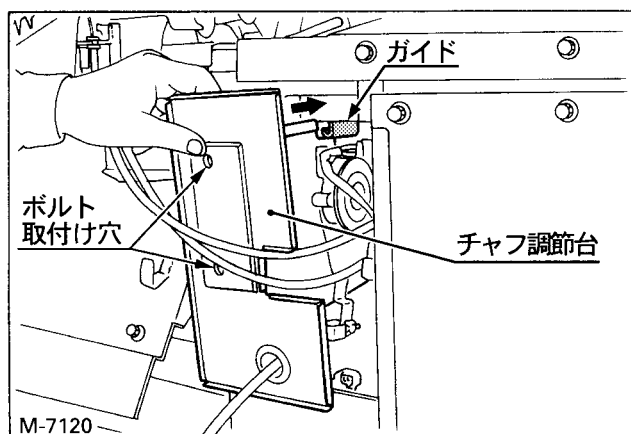
- * シール各部が正しくセットされていないと、もみがこぼれたりしてロスの原因となります。

- (1) こぎ胴をオープンしたあと、受けあみを取外します。
(こぎ胴オープン及び受けあみの脱着の項参照)
- (2) シール1が下側に折曲がっているときは、シーブケースを後にずらしてゴムの先端を上向きにします。
- (3) シール3・4は、シーブケース後下側よりセットします。

- (4) シール2は、1番スクリュ上部掃除口カバーを取外したあと、掃除口より手を入れて下図のようにセットします。



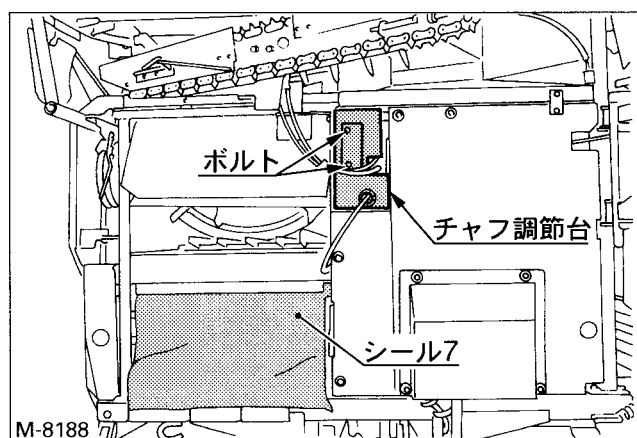
- ⑦ チャフ調節台をガイドに合わせて取付け、ボルト2本で取付けます。



補 足

* モータのハーネスがくい込まないようにしてください。

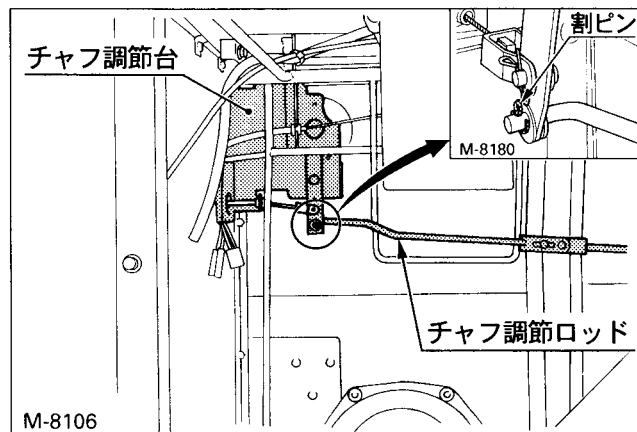
- ⑧ シール7をセットしたあと、カッタを閉じます。



- ⑨ チャフ調節台にチャフ調節ロッド【D仕様】・モータ用カブラ【HD仕様】を取付けます。

●【D仕様】

チャフ調節台の調節支点到チャフ調節ロッドを割ピンで取付けます。

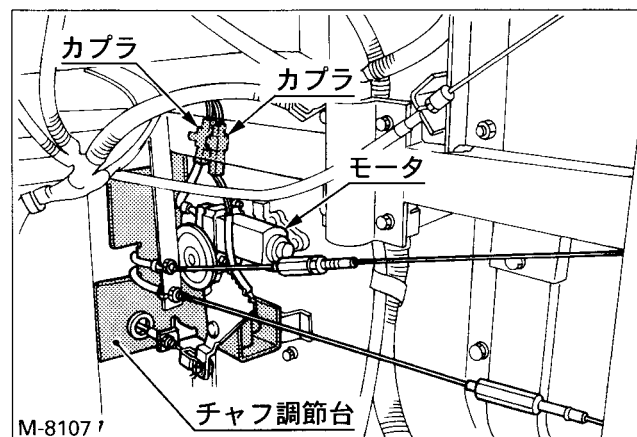


補 足

* 調節ロッドの取付け方向を間違わないでください。

●【HD仕様】

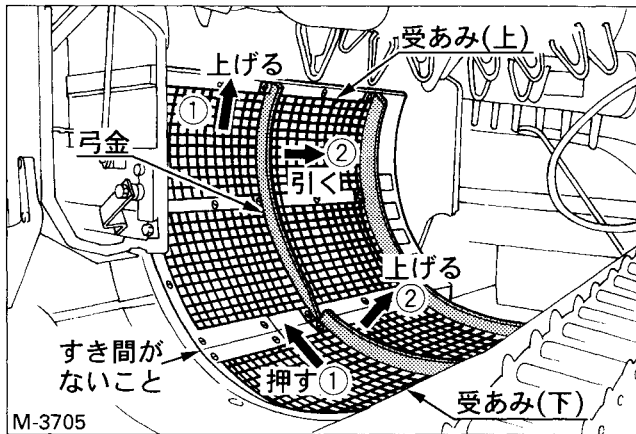
2箇所のモータ用カブラをチャフ調節台側と取付けます。



- ⑩ 1番スクリュ上部掃除口カバーをボルト2本で取付けたあと、左サイドカバー上・下を取付けます。

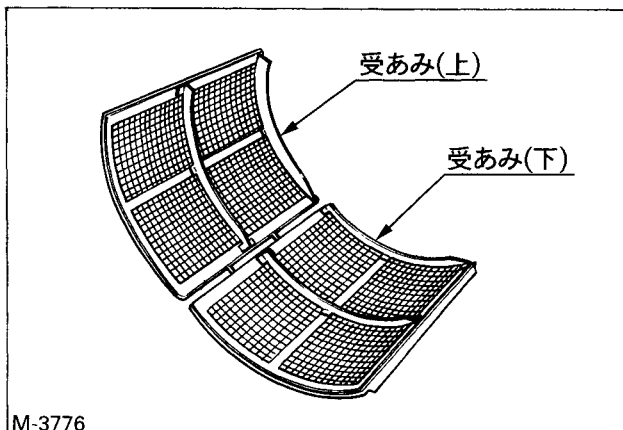
■受あみの脱着

- ① こぎ胴をオープンします。
(こぎ胴オープンの項参照)
- ② 受あみ(上)の弓金を上側に押上げたあと、手前に引いて取外し、受あみ(下)も同じように、左上側に押して取外します。
- ③ 取付けるときは、逆の手順で受あみ(下)から取付けます。



重 要

* 取付けたときに受あみ(上)、(下)の間にすき間があったり、受あみ(上)、(下)を逆に組付けると、脱こく部の故障の原因となります。



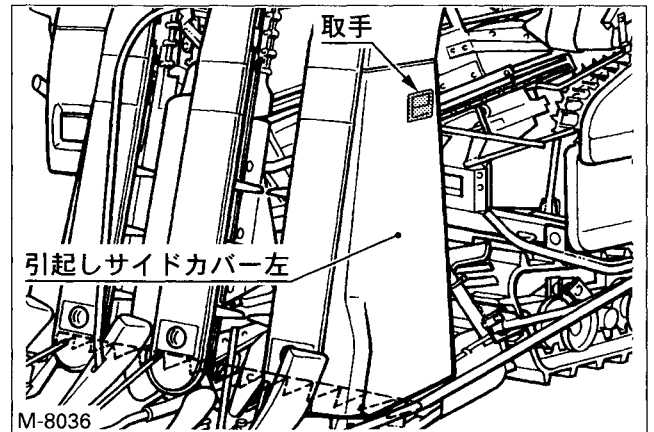
■引起しサイドカバー右・左の脱着

刈取部を地面に接地させて行なってください。

◆取外しかた

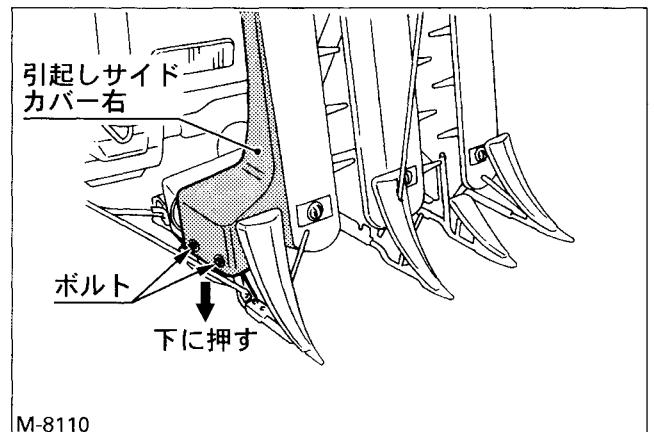
●引起しサイドカバー左

取手を引いて取外します。



●引起しサイドカバー右

ボルト2本を取外して下方側に押しながら取外します。



◆取付けかた

引起し爪を全て上側に倒したあと、引起しサイドカバーを取付けます。

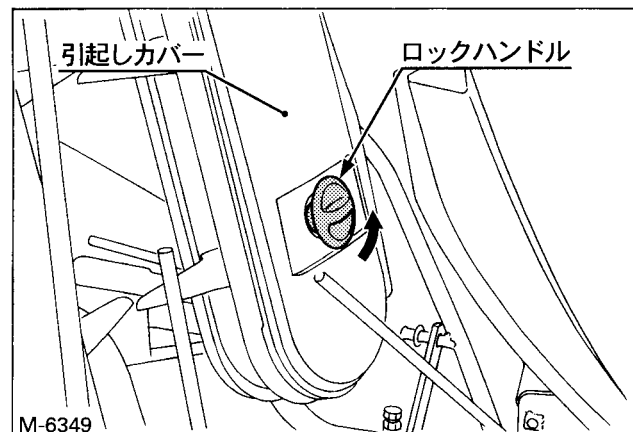
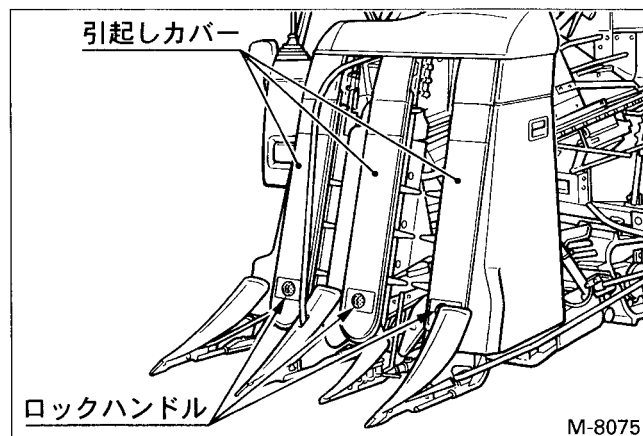


■引起しカバーの脱着

刈取部を地面に接地させて行なってください。

◆取外しかた

ロックハンドルを90度回したあと、引起しカバーを下方向に引いて取外します。



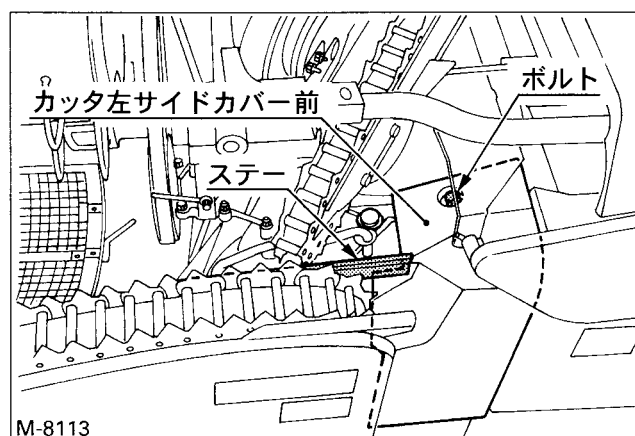
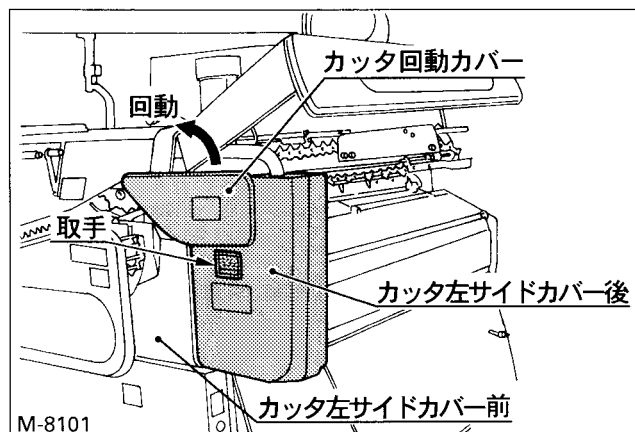
◆取付け方

引起しカバーを取付けてロックハンドルを取外す方向と逆向きに回してロックします。

■カッタ左サイドカバー前及び カッタ左サイドカバー後の脱着

◆取外しかた

- ①カッタ回転カバーを上側に回転します。
- ②取手を引き、カッタ左サイドカバー後を取外します。
- ③ボルトを取外して、カッタ左サイドカバー前を取外します。



補 足

* ステーの引っ掛かりに注意してください。

◆取付け方

取外し方の逆の手順で取付けてください。

■グレンタンクオープン【G仕様】



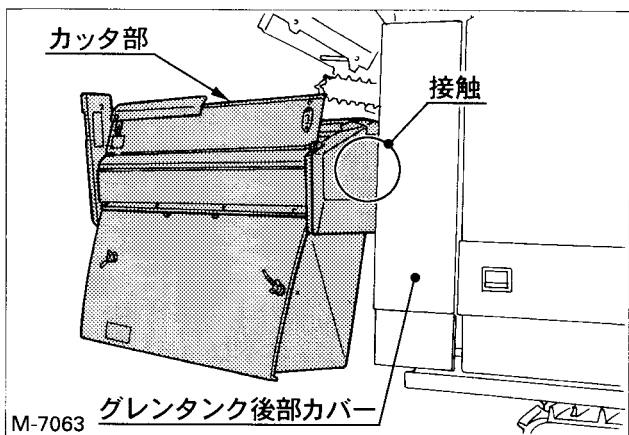
注意

*グレンタンク開閉範囲内に人がいないことを確認してください。

*コンバインが傾いている傾斜地などでは、グレンタンクを開閉しないでください。

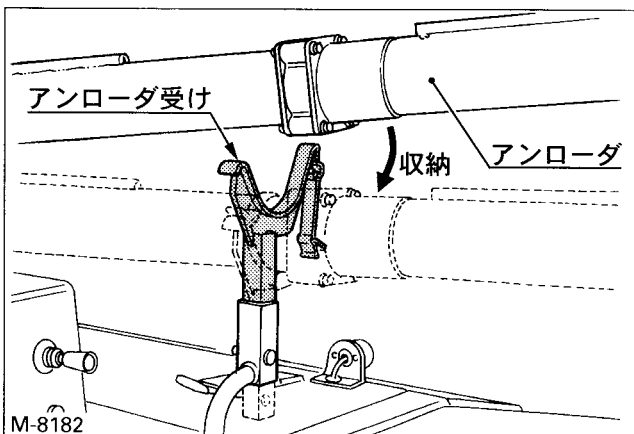
重要

*カッタ部がオープンされているときは、グレンタンクを開けないでください。グレンタンク後部カバーと接触し、破損するおそれがあります。

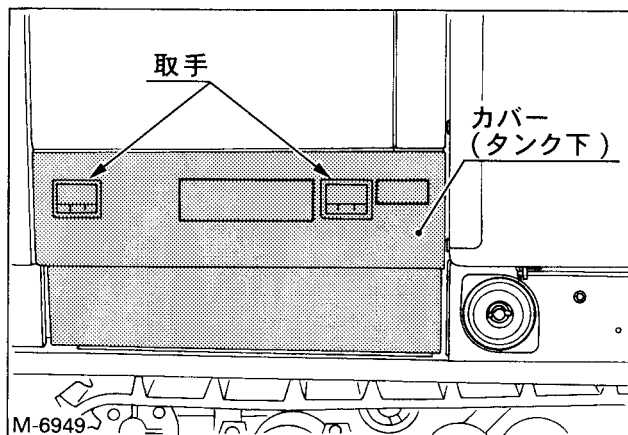


◆開きかた

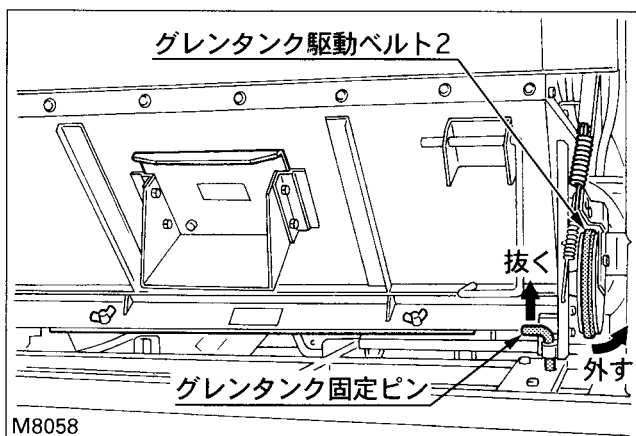
- ①グレンタンク内に残っているもみは、すべて排出します。(もみの排出のしかたの項参照)
- ②主変速、副変速各レバーを“N(中立)”位置にし、各作業クラッチ(刈取、脱こく、もみ排出)レバーを“切”位置にします。
- ③アンローダをアンローダ受けに収納固定します。



- ④取手を引き、カバー(タンク下)を外します。

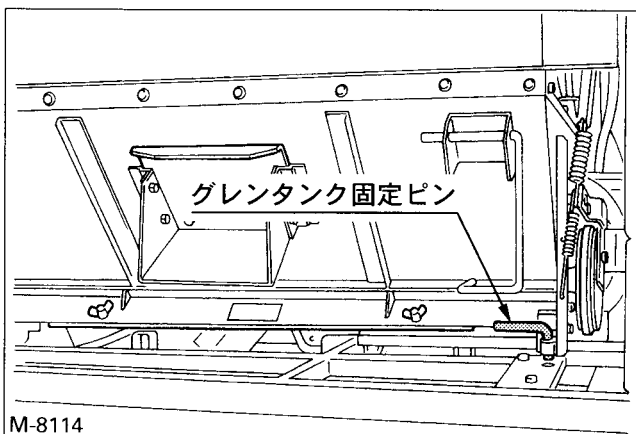


- ⑤グレンタンク固定ピンを抜いたあと、グレンタンク駆動ベルト2を外します。

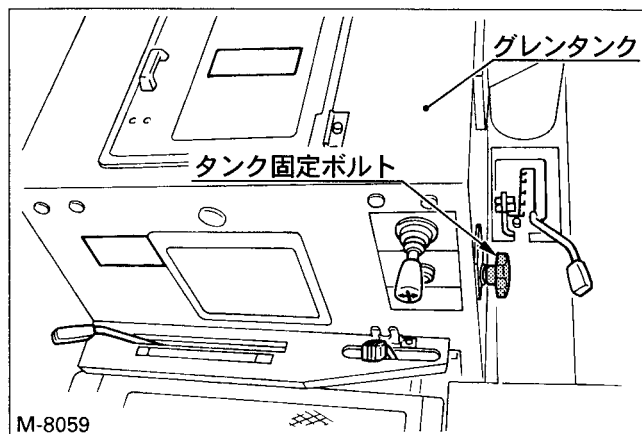


補足

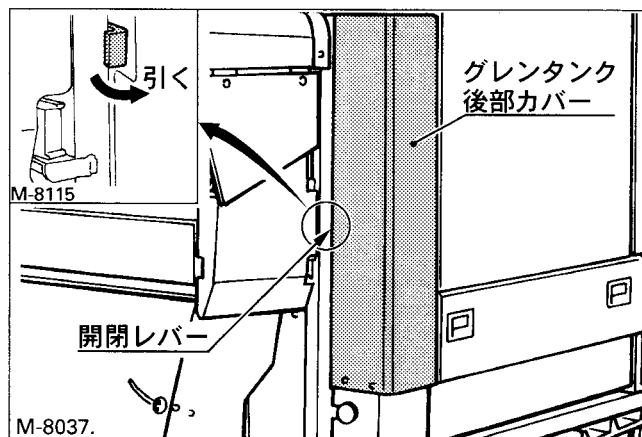
*グレンタンク固定ピンを抜いたあとは、下図のように差換えておいてください。



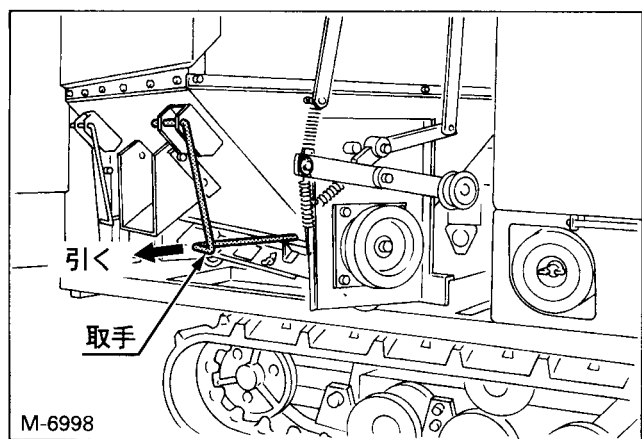
- ⑥ グレンタンクと脱こく部を固定しているグレンタンク固定ボルトをゆるめて取外します。



- ⑦ グレンタンク後部カバーを開きます。開くときは、開閉レバーを強く手前に引きます。



- ⑧ 取手を引いてグレンタンクを開きます。



◆閉じかた

開き方と逆の手順で閉じます。

重要

- * グレンタンク駆動ベルト2は確実に掛けてください。ベルトが掛かっていないと、もみを排出しません。
- * グレンタンク固定ボルトの締付けや固定ピンの差込みは確実に行ってください。

各部の掃除と注油のしかた

機械の故障などトラブルが発生しないように、各部の手入れをじゅうぶん行なってください。



警告

- * エンジンを必ず止めてください。
- * 取外したり、オープンした回転部のカバー類は衣服などが巻き込み危険ですので必ず取付けてください。
- * 各搬送チェーンやカッタ刃には注意してください。ケガをするおそれがあります。



注意

- * 刈取部を上げた状態で作業するときは、刈取下降ロックレバーで必ずロックしてください。さらに枕木などを使用して落下防止の歯止めをしてください。
- * 空運転するときには必ずこぎ胴をセットして、カッタを閉じてください。
- * オイルがこぼれた場合は、きれいにふき取ってください。(クローラなどのゴム製品は損傷します。)
- * バッテリー、マフラやエンジン・燃料タンク周辺部にゴミや燃料の付着、泥の堆積などがあると火災の原因になることがありますので、取除いてください。
- * 刈刃やカッタの掃除・注油時は刃部に注意してください。

重要

- * 水洗いするときは、電装品に水をかけないようにしてください。故障の原因になります。
- * 掃除口を閉じるときは、掃除口にもみの付着がないことを確認してから閉じてください。また、掃除の後、ふたを忘れるともみが飛散します。
- * 機内はよく乾燥させてから掃除してください。濡れているともみが機内に付着して残留もみが多くなります。
- * 湿田で作業したあとは、必ずクローラ部分の泥を取除いてください。
- * 取外したボルト・ナットは、必ず締付けてください。

■掃除のしかた

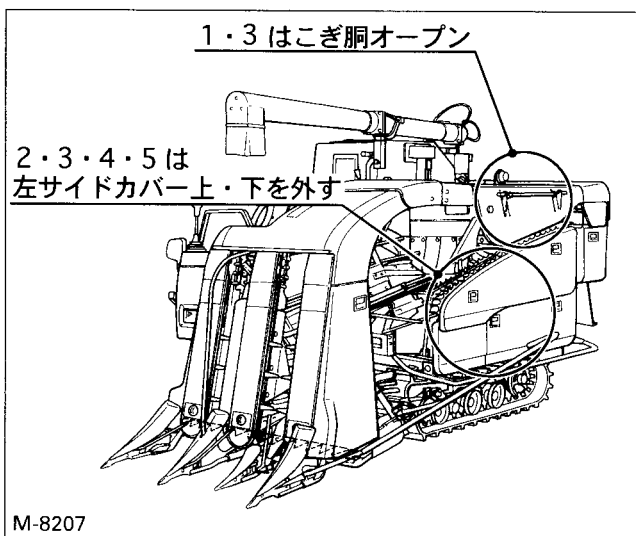
品種や稲・麦の混合を避けたいときや収穫シーズンが終わったときには、機内の残留こく粒をきれいに取除いておきましょう。

◆掃除のしかた

刈取作業が終わり、もみの排出がすべて終わったあと脱こく部を約3分間空運転します。そのあと、脱こくクラッチを切りエンジンを止めます。

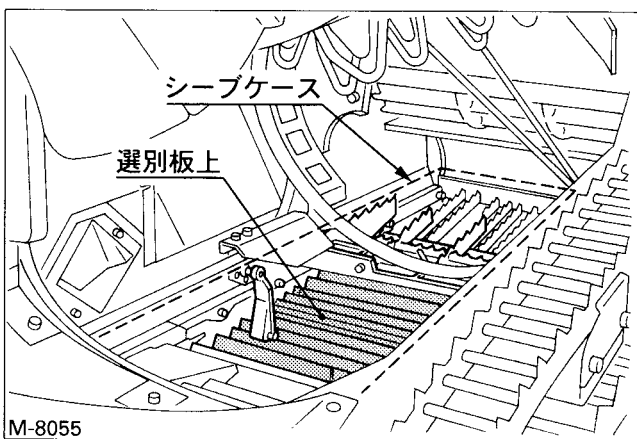
掃除をするときには、各部をオープン(開閉)又は、掃除口を開いてください。

◆掃除箇所



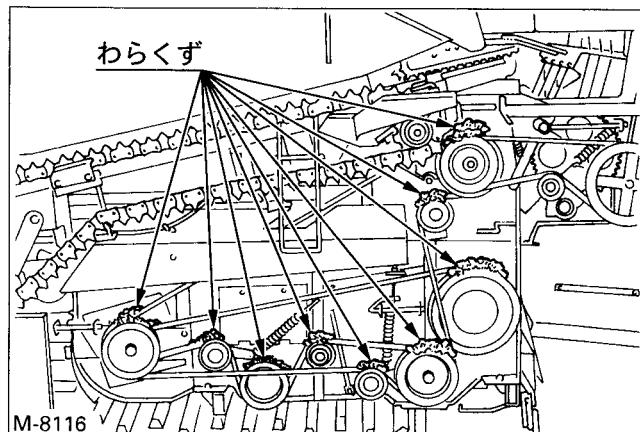
1. 脱こく部内(シーブケース内選別板上)

受あみ(上, 下)を取外してください。



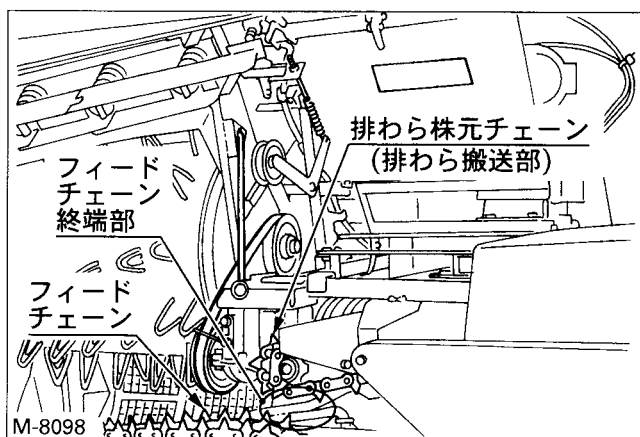
2. ベルトカバー内

左サイドカバー上, 下を外したあと、ボルトを取外してカタ左サイドカバー前を取外してください。



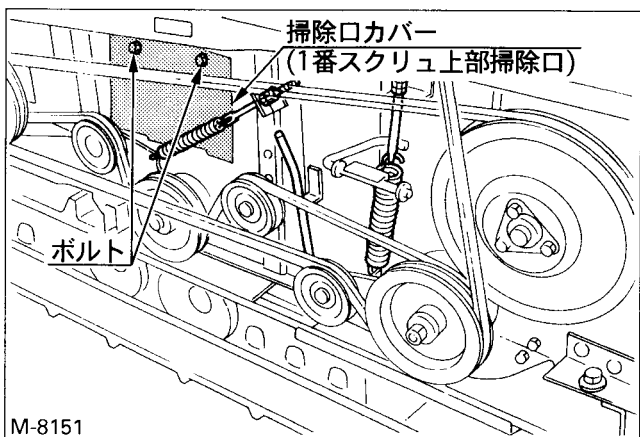
3. フィードチェーン終端部・排わら搬送部

自動エンジン停止装置がはたらいたとき(わら詰まりのとき)に掃除してください。



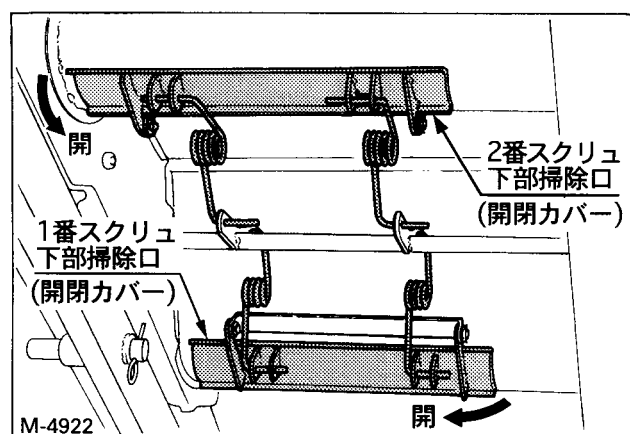
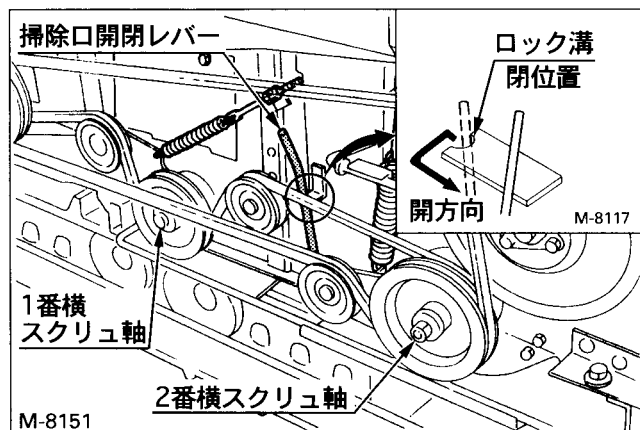
4. 1 番スクリュ上部掃除口

ボルト2本を取外し、1 番スクリュ上部の掃除口カバーを取外してください。



5. 1・2番横スクリュ下部掃除口

掃除口開閉レバーを操作して、1・2番横スクリュ下部にある掃除口の開閉カバーを開いてください。開くときは、開閉レバーを閉位置のロック溝から後方に動かします。



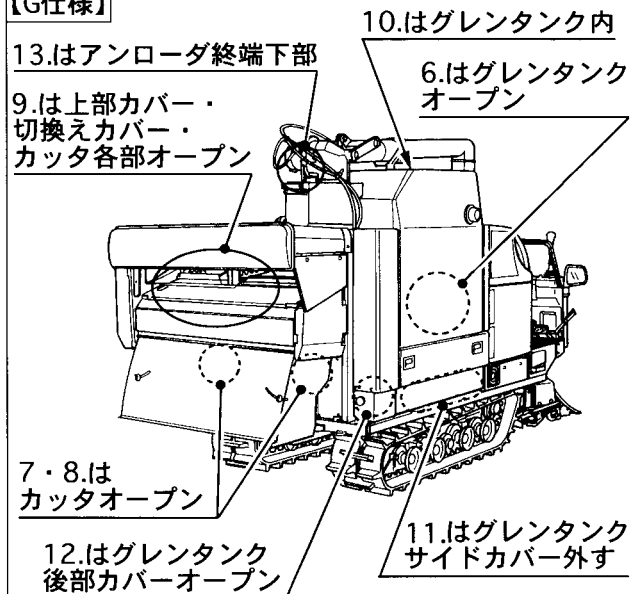
重要

* 掃除口開閉レバーを使用しないときは、R(ロック)溝の閉位置にしておいてください。走行中に掃除口開閉カバーが開いて破損するおそれがあります。

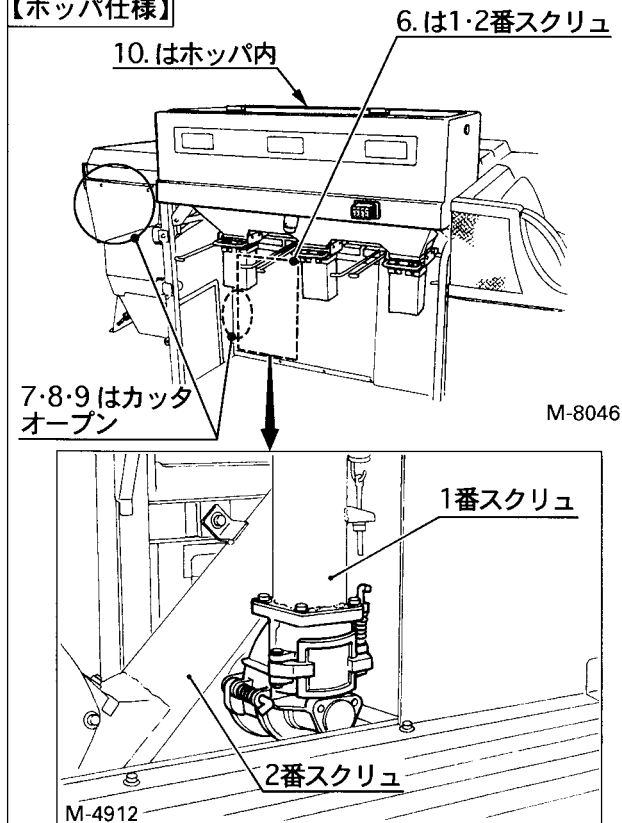
補足

* クローラに付着している泥は取除いてください。掃除口開閉カバーに接触し、開閉しなくなります。

【G仕様】



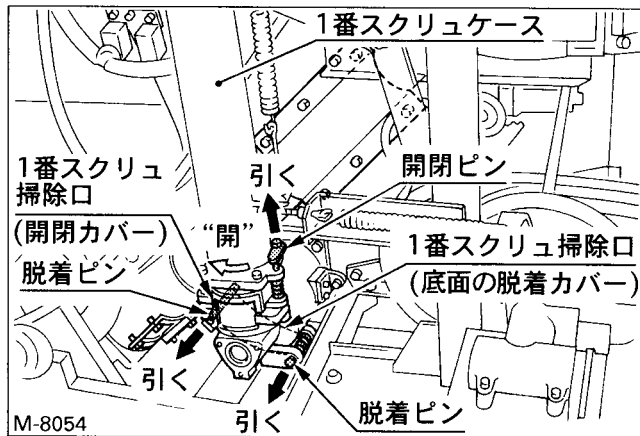
【ホッパ仕様】



6. 1・2番スクリュ掃除口

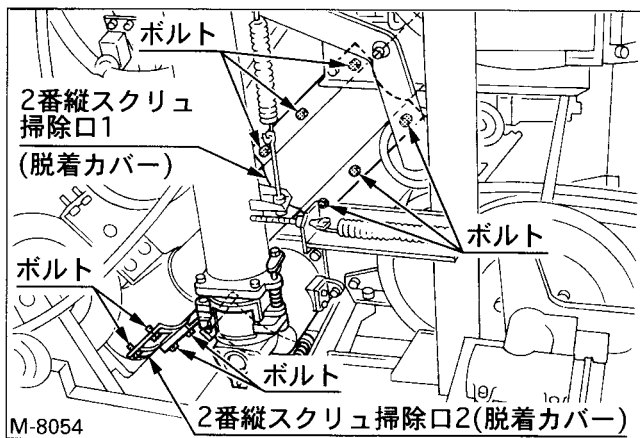
● 1番縦・横スクリュ掃除口

縦スクリュ掃除口の開閉ピンを引いて開閉カバーを開いてください。また、横スクリュ掃除口の脱着ピン2箇所を同時に引いて脱着カバーを取外してください。



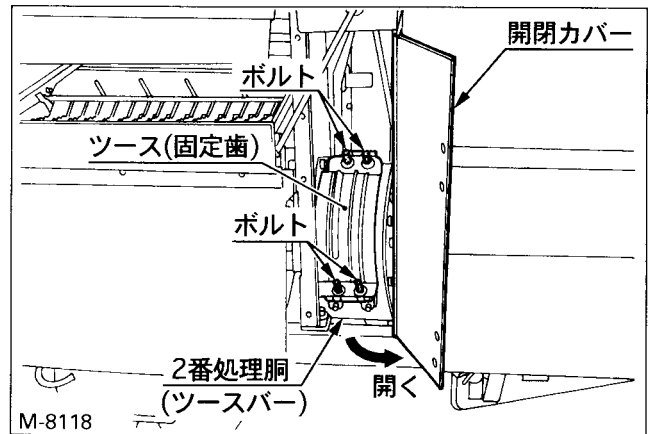
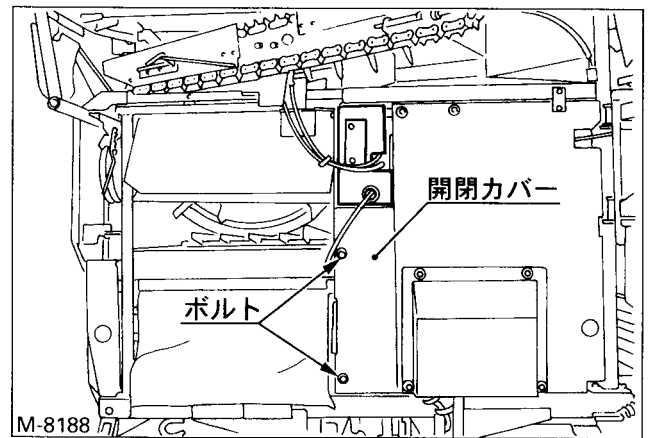
● 2番縦スクリュ掃除口

縦スクリュ掃除口1のボルト6本を取外して脱着カバーを取外してください。また、縦スクリュ掃除口2はボルト4本を取外して脱着カバーを取外してください。

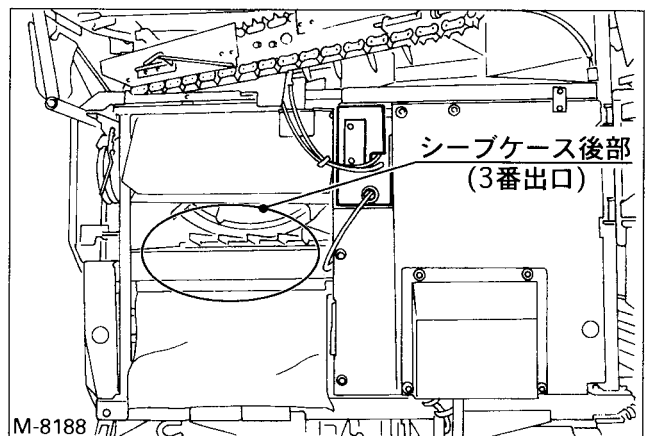


7. 2番処理胴(ツースバー)掃除口

ボルト2本を取外したあと、開閉カバーを開いてください。そのあと、ボルト4本を取外して2番処理胴のツース(固定歯)を取外してください。



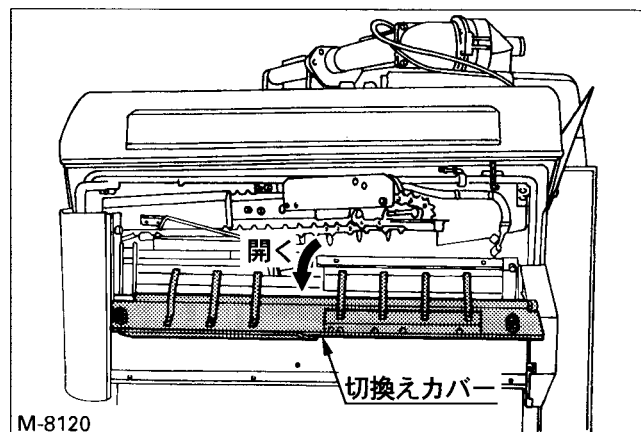
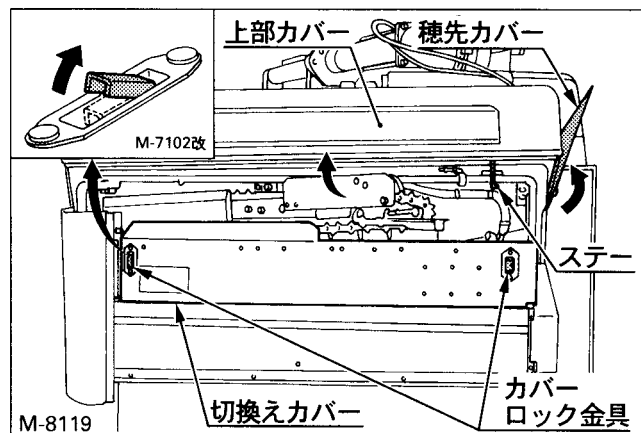
8. シーブケース後部(3番出口)



9. カッタ部・排わらチェーン部(わら詰まりのとき)

自動エンジン停止装置がはたらいたときは、次の手順で掃除してください。

- ① わら作業切換えレバーをカッタ作業位置にし、切換えカバーを開きます。
- ② 上部カバーを上げてカバーステーをセットし、穂先カバーを上を開きます。
- ③ カバーロック金具を引き、切換えカバーを後方へ倒します。

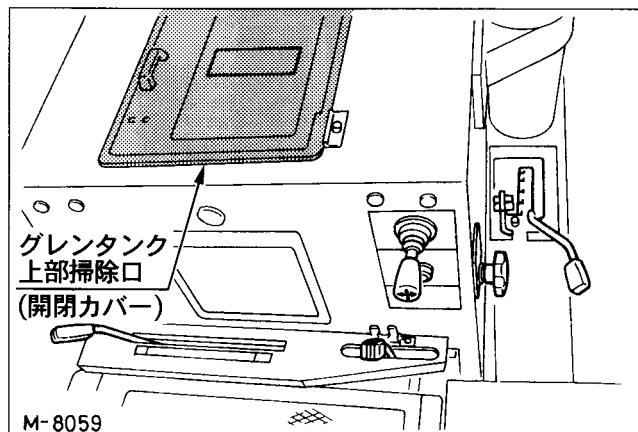
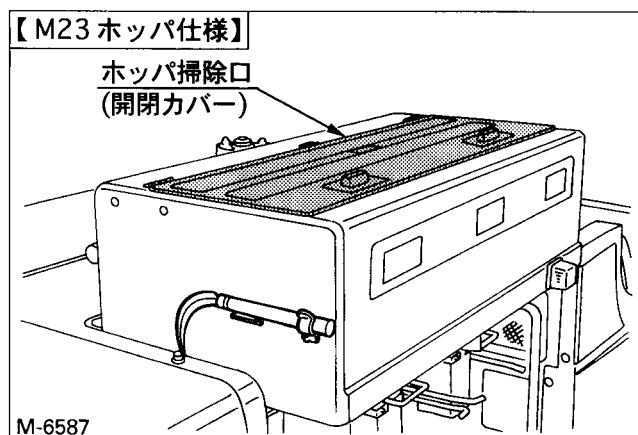
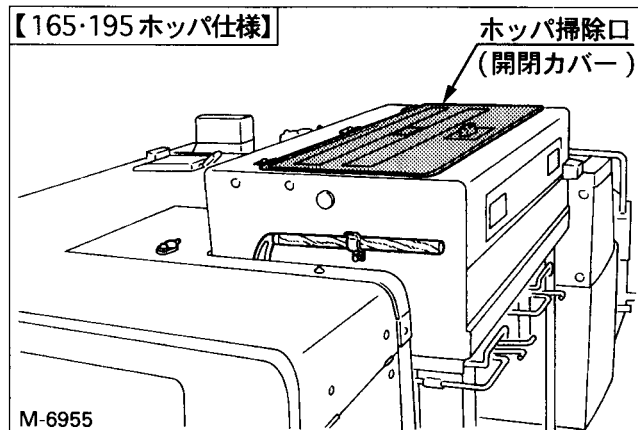


補 足

- * 必要に応じて、このあとカッタオープンして掃除を行ってください。
- * 切換えカバーを開けたままでは、エンジンをかけても脱こくクラッチをいれるとエンジンが止まります。点検・掃除後は、必ずカバーロック金具を引きながら切換えカバーを閉め、カバーロック金具を確実にロックしてください。

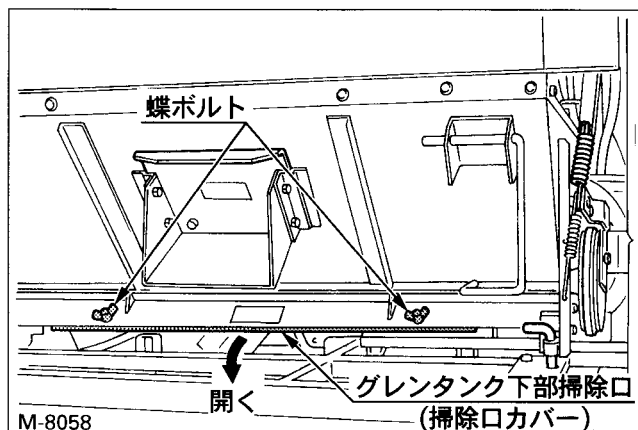
10. ホッパ内・グレンタンク内

開閉カバーを開いてください。



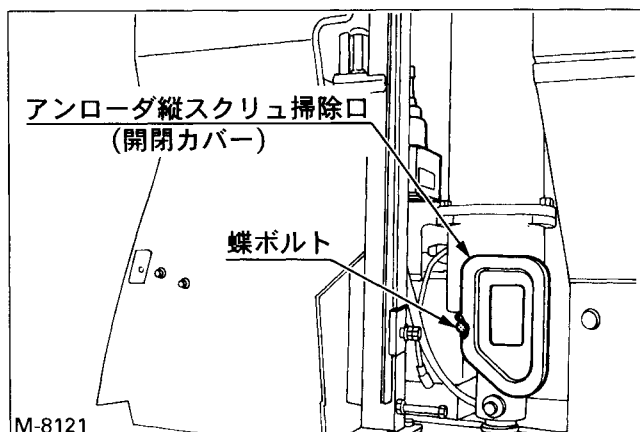
11. グレンタンク下部掃除口【G仕様】

蝶ボルト2本を取外すと、掃除口カバーが開きます。



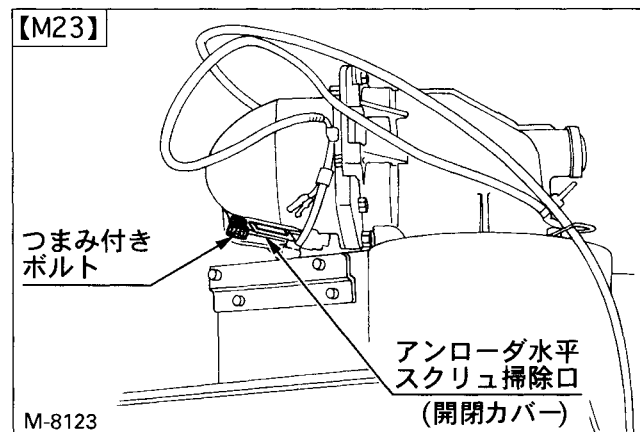
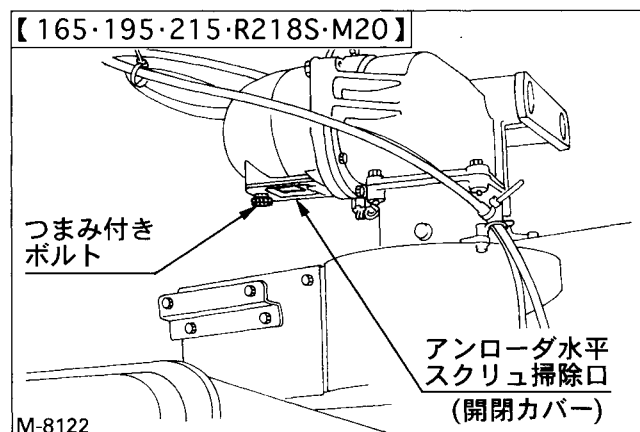
12. アンローダ縦スクリュ掃除口【G仕様】

蝶ボルトを取外して開閉カバーを開いてください。



13. アンローダ水平スクリュ掃除口【G仕様】

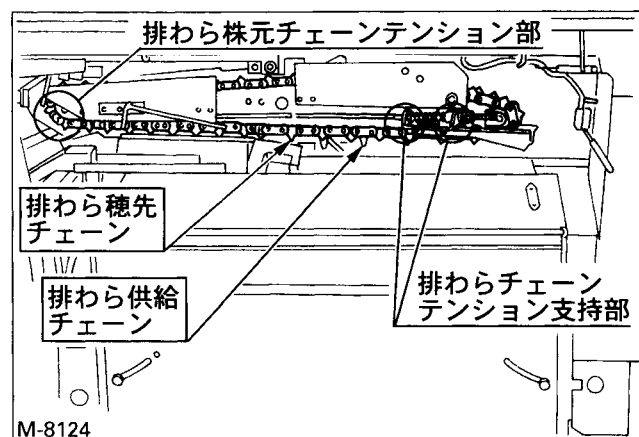
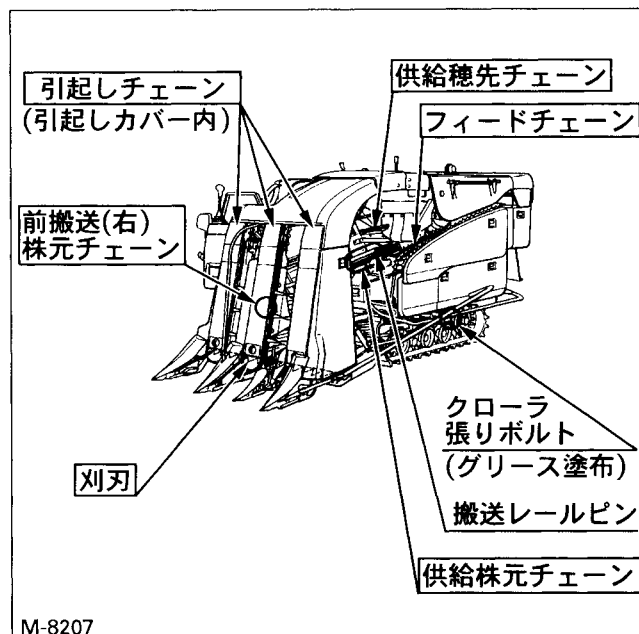
つまみ付ボルトを取外して開閉カバーを開いてください。



■注油のしかた

機体各部の掃除が終わったあと又は、刈取り作業を始める前には各部の注油やグリースの塗布を行なってください。

◆注油・グリース塗布箇所



補 足

* ☐ 箇所は自動集中注油装置で注油が行なえます。

◆自動集中注油装置による注油【M20・M23】

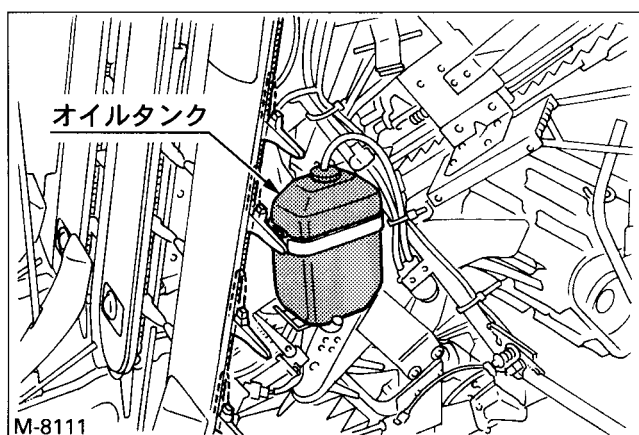
自動集中注油装置の注油スイッチを押して各作動部(刈刃や各チェーン)に注油してください。

補 足

＊気温が10℃以下になると均等に注油されなくなります。寒い地域では、気温の上がる昼間に注油してください。

●注油のしかた

- ①平坦な場所に刈取部を接地させたあと、駐車ブレーキを掛けます。
- ②引きしサイドカバー左を取外し、オイルタンクのオイル量を確認して不足しているときは補給します。



重 要

＊指定のオイル以外は使用しないでください。また、廃油などゴミの混入しているオイルを使用すると、ノズルの詰まりやバルブ不良の原因となります。

オイルの種類	オイルタンク容量
クボタ純オイル D10W30又は、D30	4.0 L

＊オイルタンクへオイルを補給するときは、付属品のじょうごを使用してください。

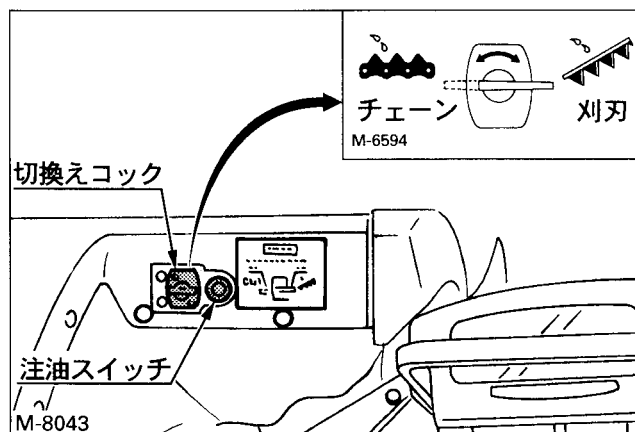
- ③エンジンを始動したあと、エンジン回転数を中速回転(1600～1800rpm)にし、各作業クラッチ(刈取・脱こく)レバーを“入”位置にして刈取り部・脱こく部を動かします。

補 足

- ＊スカイナビの液晶パネルに「**回転を上げてください**」の表示と注意ランプが点滅しますが異常ではありません。
- ＊注油したときチェーンが停止していると、オイルが1箇所に集中するため、ベルトやカバーにオイルが付着したり、チェーンのスリップの原因となります。

- ④切換えコックの位置を確認(チェーン位置/刈刃位置)して注油スイッチを押します。注油は切換えコックを切換えて各部チェーン・刈刃の両方共に行ないます。

- チェーン位置…7～10秒間**連続**で押す。
- 刈刃位置………5～7秒間**断続**で押す。



重 要

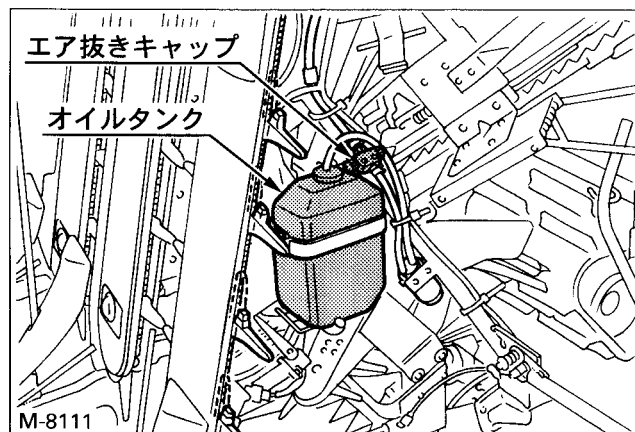
＊オイルタンク内のオイルが空の状態では注油スイッチを押すとポンプモータの故障の原因となります。

補 足

- ＊各部チェーン・刈刃の注油状態が不均一になったり、不足しているときは販売店へ連絡してください。
- ＊オイルタンク内が空の状態ではオイルを補給したとき、配管内にオイルが通過するため、約30秒時間がかかります。
- ＊万一ポンプとオイルタンク間のホースにエアが入り、注油スイッチを押してもオイルが送られない場合は、エア抜きキャップをゆるめ、エア抜きしてから作動してください。

◆エア抜きの方法

図示のエア抜きキャップを外し、内部のゴムシールを外してから、注油スイッチを押して、油を送出してください。



- ⑤エンジンを止めたあと、引きしサイドカバー左を付けます。

◆集中注油装置による注油【165・195・215・R218S】

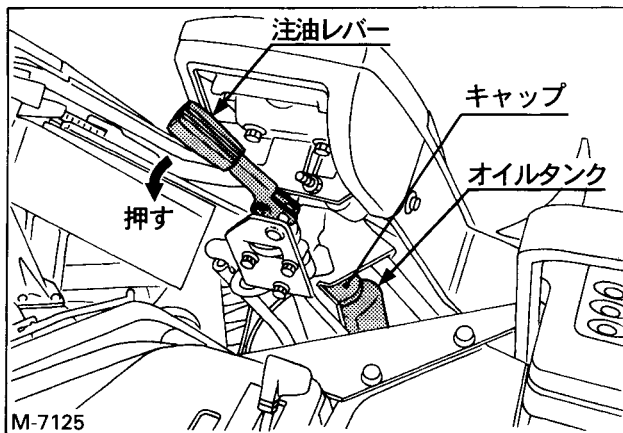
集中注油装置の注油レバーを押して各作動部(刈刃や各チェーン)に注油してください。

補 足

* 気温が10℃以下になると均等に注油されなくなります。寒い地域では、気温の上がる昼間に注油してください。

●注油のしかた

- ① 平坦な場所に刈取部を接地させたあと、駐車ブレーキを掛けます。
- ② オイルタンクのオイル量を確認して不足しているときは補給します。
- ③ 注油レバーを3～4回押して注油します。



重 要

* 指定のオイル以外は使用しないでください。また、廃油などゴミの混入しているオイルを使用すると、ノズルの詰まりやバルブ不良の原因となります。

オイルの種類	オイルタンク容量
クボタ純オイル D10W30又は、D30	約1L

* オイルタンクへオイルを補給するときは、付属部品 のじょうごを使用してください。

- ④ エンジンを始動したあと、エンジン回転数を中速回転(1600～1800rpm)にし、各作業クラッチ(刈取・脱こく)レバーを“入”位置にして刈取部・脱こく部を動かします。

補 足

* スカイナビの液晶パネルに「**回転を上げてください**」の表示と注意ランプが点滅しますが異常ではありません。

* 注油したときチェーンが停止していると、オイルが1箇所に集中するため、ベルトやカバーにオイルが付着したり、チェーンのスリップの原因となります。

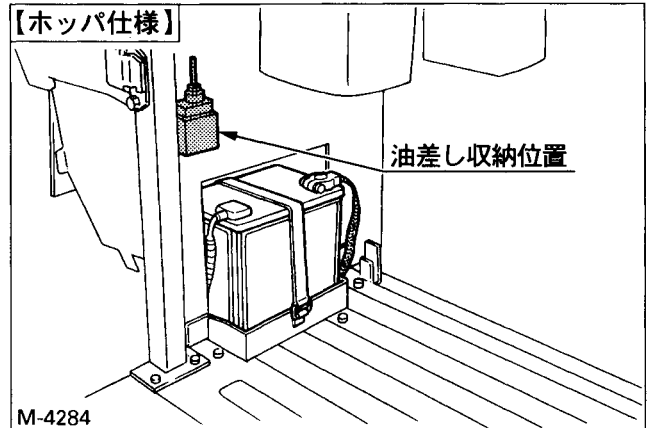
◆注油・グリース塗布

自動集中注油で注油が行なえる箇所以外の注油は、油差しで行なってください。

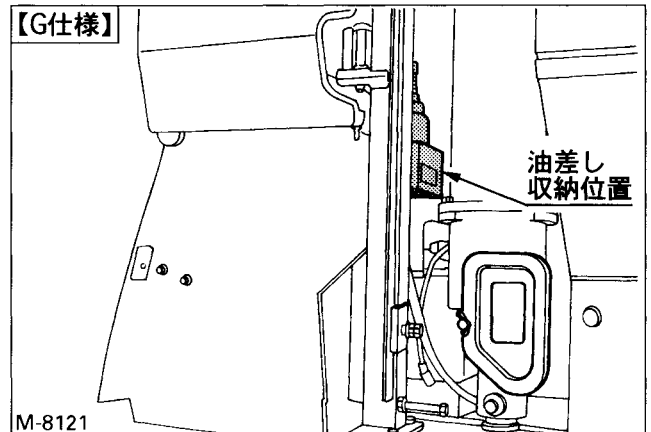
●油差し収納位置

下図の位置に収納してください。

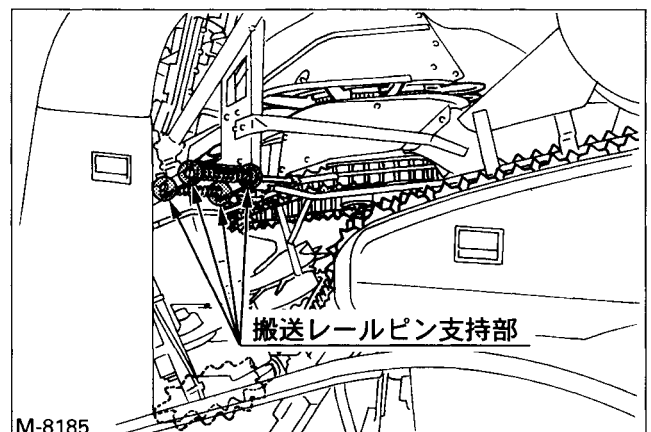
【ホッパ仕様】



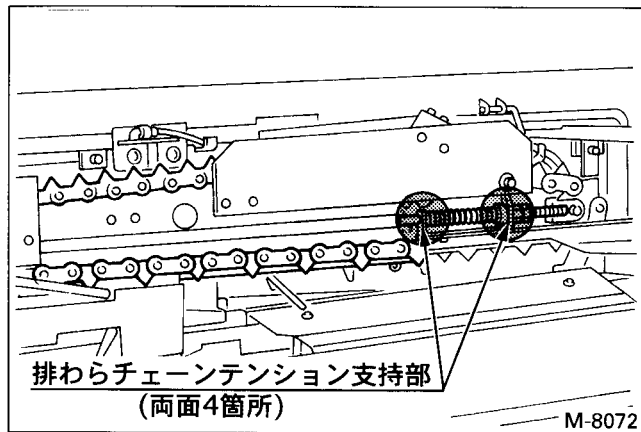
【G仕様】



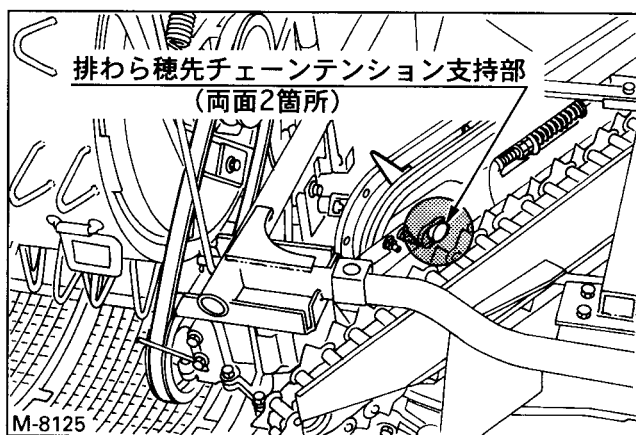
●搬送レールピン支持部(注油)



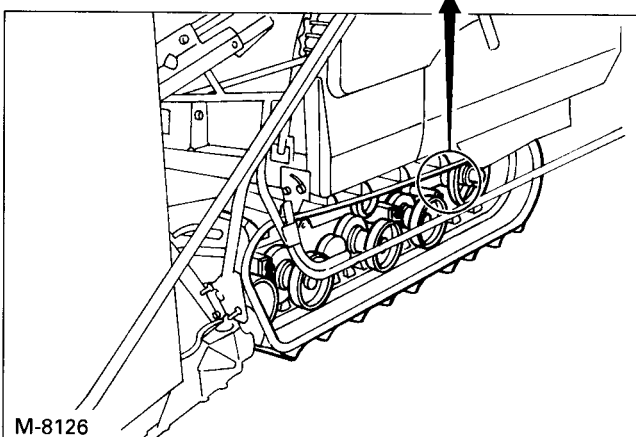
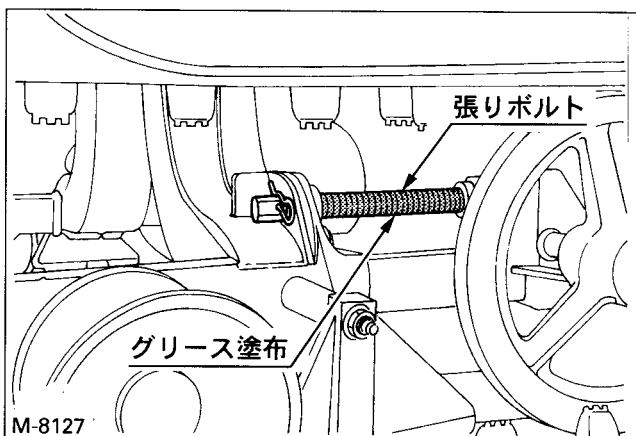
● 排わら株元チェーンテンション部(注油)



● 排わら穂先チェーンテンション支持部(注油)

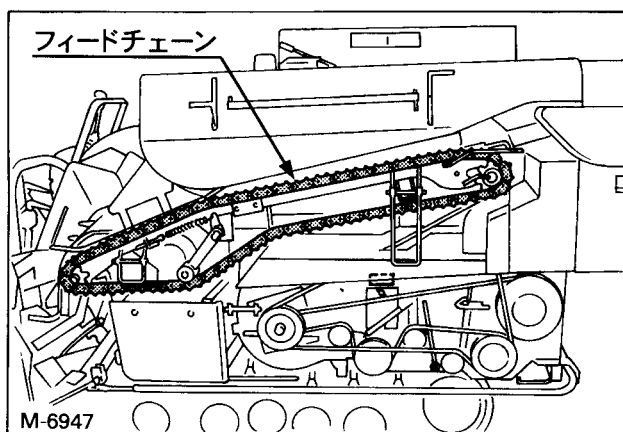


● クローラ張りボルト(グリース塗布)



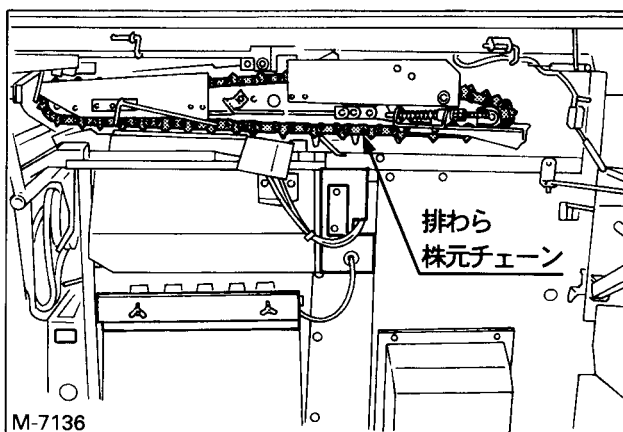
● フィードチェーン(注油)

【165・195・215・R218S】



● 排わら株元チェーン(注油)

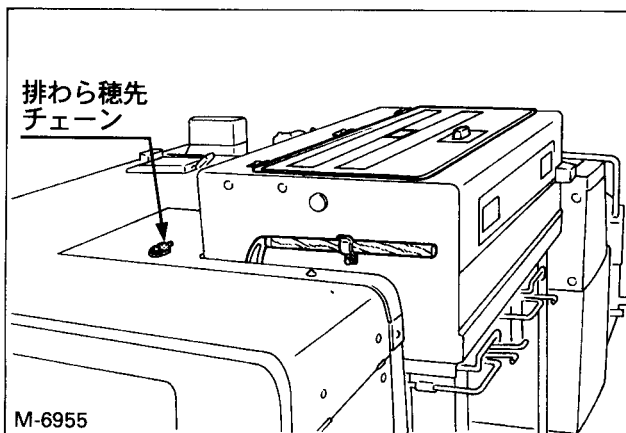
【165・195・215・R218S】



● 排わら穂先チェーン(注油)

【165・195・215・R218S】

エンジンを始動したあと、脱こく部を中速回転しながら、注油してください。



定期点検

定期点検は、コンバイン作業を行なう人が定期的に行なう点検です。

コンバインは、使用時間と使用状況に応じて劣化が進み、その構造や装置の性能が低下します。これを放置しておくで故障や事故の原因となり、ひいてはコンバインの寿命を短くしてしまいます。

コンバインの持つ性能がいつまでもじゅうぶん発揮できるように、定期的に点検を行ないましょう。



警告

- *各部の調整・点検・交換を行なうときは、エンジンを必ず停止させ、各レバー類を“切”位置にして、回転部を止めてから作業をしてください。
- *取外した回転部のカバー類は、衣服などが巻き込み危険ですので、点検後は必ず取付けてから作業をしてください。



注意

- *点検・作業するときは、駐車ブレーキを掛けてください。また刈取部は一番下まで降してください。もし刈取部を上げた状態で作業するときは、刈取下降ロックレバーで刈取部の下降防止を行なってください。さらに枕木などを使用して落下防止の歯止めをしてください。
- *エンジンルームオープンをするときは、内部がじゅうぶん冷え、ヤケドのおそれがないことを確認してください。
- *オイル交換中は火気厳禁。
- *刈刃やカッタの点検・掃除時は刃部に注意してください。
- *機械は平たんで、回りにわらくずなどの燃えやすいごみのない場所へおいてください。バッテリー、マフラーやエンジン周辺部にゴミや燃料の付着、泥の堆積などがあると火災の原因となります。
- *燃料、オイルがこぼれた場合は、きれいにふき取ってください。

補足

- *専門的な技術や特殊工具を必要とする場合及び定期点検一覧表の参照ページ欄に☆印のある項目は、購入先にご相談ください。
- *点検・交換の時期は、使用条件や環境に大きく左右されます。従ってひとつの目安として早目の点検をお願いします。

■オイル・フィルタ類の交換とチェーン・ベルト・クローラの張り調整

- *新車時はコンバインの回転・しゅう動部の各部品はなじみがついていませんのでならし運転期間中に細かい金属粉が生じ、部品の極度な摩耗につながるおそれがあります。よって、オイル・フィルタ類は初期50時間で交換してください。
- *チェーンやベルト類・クローラはならし運転中に初期伸びが発生します。初期20又は、50時間で張り調整をしてください。
(交換したときも同様です。)

■使用済廃棄物の処分について

廃油や冷却水などの廃棄物をむやみに捨てると環境汚染になります。

機械から廃油を抜く場合は、容器に受けてください。地面へのたれ流しや川、沼への廃棄は絶対にしないでください。

廃油・燃料・冷却水・冷媒・溶剤・フィルタ・バッテリー・その他有害物を捨てるときは、購入先、又は産業廃棄物処理業者に依頼してください。

■使用者が行なってはいけない修理

下記部品に異常があるときは購入先に連絡してください。

- 電気系統(自動制御関係)
- 結束部(ケツセツブカンピ)
- エンジン本体
- トランスミッションケース
- ギヤ(ベベルギヤを含む)を内蔵したケース類
- 油圧系統
- 電気部品と電気系統
- 刈取部の動力伝達系統

定期点検一覧表

○：点検と調整・掃除・締付け(バンド)

●：ならし運転後の点検と調整

△：交換

▲：ならし運転後の交換

点検箇所・項目			時間	点 検 ・ 交 換 時 期																	それ以降		2年ごと	参 照 ページ
				アワメータ表示時間（時間）																				
				20	50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700	750	点検	交換			
エンジン部	ファン駆動ベルト	調整・交換	●			○		△	●		○		△	●		○		△	50又は、 100時間ごと	250時間ごと		118 ☆		
	エアクリーナ エレメント	掃除・交換		○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	△	○	○	○	○	50時間ごと	300時間ごと		108		
	(点検・掃除が6回目のときに交換)																							
	インレットパイプ (エアクリーナ)	締付け・交換				○			△			○			△		○	注1	注2	△	109			
	(注1：使用時間が150時間又は、6ヶ月ごとの早い方で点検) (注2：使用時間が300時間又は、2年ごとの早い方で交換)																							
	フューエルフィルタ エレメント	掃除・交換			○		○		○		△		○		○		○	100時間ごと	400時間ごと		110,111			
	フューエルフィルタ アッシ【165】	— 交換					△				△				△			—	200時間ごと		110			
	オイルフィルタ カートリッジ	— 交換					△				△				△			—	200時間ごと		111			
	(エンジンオイル交換が2回目のとき同時に交換)																							
	フューエルパイプ	締付け・交換				○			△			○			△		○	注3	注4	△	108,109 ☆			
(注3：使用時間が150時間又は、6ヶ月ごとの早い方で点検) (注4：使用時間が300時間又は、2年ごとの早い方で交換)																								
燃 料 こ し あ み	掃除・—			○		○		○		○		○		○		○	100時間ごと	—		☆				
オイルドレーン ゴ ム ホ ー ス	締付け・交換				○			△			○			△		○	注5	注6	△	109 ☆				
(注5：使用時間が150時間又は、6ヶ月ごとの早い方で点検) (注6：使用時間が300時間又は、2年ごとの早い方で交換)																								
ラジエータホース	締付け・交換				○			△			○			△		○	注7	注8	△	109 ☆				
(注7：使用時間が150時間又は、6ヶ月ごとの早い方で点検) (注8：使用時間が300時間又は、2年ごとの早い方で交換)																								
防 じん あ み、 ラジエータフィン、 オイルクーラ	掃除・—		●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	—		109			
走行(ミッション) 駆 動 ベ ル ト	調整・交換	●		○		○		△ (320)		○			○		△ (620)		○	20又は、 100時間ごと	300時間ごと		118 ☆			
(駐 車)ブレーキ	調整・—		●	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	—		112			
アクセルワイヤ	調整・交換		●	○		○	△	●	○		○	△	●	○		○	△	50又は、 100時間ごと	250時間ごと		☆			
中立(ニュートラル) 停 止 ワ イ ヤ	調整・交換		●	○		○	△	●	○		○	△	●	○		○	△	50又は、 100時間ごと	250時間ごと		☆			
パワーステアリングレバー (サイドクラッチワイヤ)	調整・交換		●	○		○	△	●	○		○	△	●	○		○	△	50又は、 100時間ごと	250時間ごと		113 ☆			
パワーステアリングレバー (刈 取 昇 降)	調整・—		●		○		○		○	○	○	○		○		○	100時間ごと	—		114				
CVT変速レバー【仕様】	調整・—			○		○		○				○		○		○	100時間ごと	—		☆				
ク ロ ー ラ	調整・交換		●		○		○		○		○	△	●		○		○	100時間ごと	500時間ごと		142 ☆			
ミッションオイルフィルタ	— 交換		▲					△						△			—	300時間ごと		112 ☆				
トラックローラ・泥水シール・ ボールベアリング	— 交換												△				—	500時間ごと		☆				
キャリアローラ・ローラシール・ ボールベアリング	— 交換												△				—	500時間ごと		☆				
転輪・後輪シール・ ボールベアリング	— 交換												△				—	500時間ごと		☆				
クローラガイド(前・後)	— 交換												△				—	500時間ごと		☆				
可動転輪・ローラシール	— 交換												△				—	500時間ごと		☆				
駆動スプロケット	— 交換												△				—	500時間ごと		☆				

*参照ページに☆印のある整備項目(交換)については、購入先又は、整備工場で行なってください。

○：点検と調整・掃除・締付け(バンド)

●：ならし運転後の点検と調整

△：交換

▲：ならし運転後の交換

時間 点検箇所・項目			点 検 ・ 交 換 時 期																	2年ごと	参 照 ページ		
			点検と処置	アワメータ表示時間(時間)														それ以降					
			20	50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700	750	点検	交換			
刈 取 部	刈 取 駆 動 ベルト	調整	交換	●		○		○		△ ● (320)		○		○		△ ● (620)		○		100時間 ごと	300時間 ごと	119 ☆	
		補助搬送(突起付)ベルト	調整	交換	●		○		○		○		△ ● (520)		○		○		20又は、 100時間ごと	500時間 ごと	119 ☆		
	引 起 し	チェーン	調整	交換	●		○		○		△ ● (420)		○		○		○		20又は、 100時間ごと	400時間 ごと	125 ☆		
		爪	—	交換							△								—	400時間 ごと			
	供給穂先	チェーン	調整	交換	●		○		○		△ ● (320)		○		○		△ ● (620)		○		20又は、 100時間ごと	300時間 ごと	124 ☆
		搬 送 爪	—	交換						△						△			—	300時間 ごと			
	供給株元チェーン	調整	交換		●	○		○		△	●	○		○		△	●	○	50又は、 100時間ごと	300時間 ごと	124 ☆		
	右 株 元 チェーン	—	交換						△							△			—	300時間 ごと	☆		
	刈 刃	調整	交換		●	○		△	●	○		△	●	○		△	●	○	50又は、 100時間ごと	200時間 ごと	126, 128 ☆		
	刈刃駆動ベアリング	—	交換					△				△				△			—	200時間 ごと	☆		
株 元 セ ン サ	—	交換											△					—	500時間 ごと	☆			
	穂先センサー(上,下)	—	交換										△					—	500時間 ごと	☆			
	パ ッ カ	—	交換											△				—	500時間 ごと	☆			
(パッカ交換時はトルクリミッタ調整)																							
こ ぐ 部	トウミ駆動ベルト	調整	交換	●		○		○		△ ● (320)		○		○		△ ● (620)		○		20又は、 100時間ごと	300時間 ごと	120 ☆	
		こぎ胴駆動ベルト	調整	交換	●		○		○		△ ● (320)		○		○		△ ● (620)		○		20又は、 100時間ごと	300時間 ごと	☆
	1番・揺動駆動ベルト	調整	交換	●		○		○		△ ● (320)		○		○		△ ● (620)		○		20又は、 100時間ごと	300時間 ごと	121 ☆	
		2番・フィードチェーン・ カッタ駆動ベルト	調整	交換	●		○		○		△ ● (320)		○		○		△ ● (620)		○		20又は、 100時間ごと	300時間 ごと	121 ☆
	フィードチェーン	調整	交換		●	○		○		○		△	●	○		○		○	50又は、 100時間ごと	400時間 ごと	123 ☆		
	排わら穂先	チェーン	調整	交換		●	○		○		○		△	●	○		○		○	50又は、 100時間ごと	400時間 ごと	126 ☆	
		搬 送 爪	—	交換						△						△			—	300時間 ごと	☆		
	排わら株元チェーン	調整	交換		●	○		○		○		△	●	○		○		○	50又は、 100時間ごと	400時間 ごと	125 ☆		
	わ ら 切 刃	—	交換					△				△				△			—	200時間 ごと	131		
	こ ぎ 歯	—	交換							△						△			—	300時間 ごと	☆		
樹脂受けあみ(弓金含む)	—	交換							△						△			—	300時間 ごと	87 ☆			
こ ぐ 部	フロントハンプ	—	交換									△				△			—	300時間 ごと	☆		
	1 番 縦 スクリュ	—	交換									△							—	400時間 ごと	☆		
	1 番 スクリュ	—	交換											△					—	500時間 ごと	☆		
	2 番 縦 スクリュ	—	交換									△							—	400時間 ごと	☆		
	2 番 スクリュ	—	交換											△					—	400時間 ごと	☆		
	2番縦スクリュケース	—	交換											△					—	500時間 ごと	☆		
	2 番 処 理 ケ ー ス	—	交換									△							—	400時間 ごと	☆		
	ツース(2番固定歯)	—	交換							△						△			—	300時間 ごと	☆		
	ツース(2番処理歯)	—	交換							△						△			—	300時間 ごと	☆		

*参照ページに☆印のある整備項目(交換)については、購入先又は、整備工場で行なってください。

●：ならし運転後の点検と調整

▲：ならし運転後の交換

時間			点 検 ・ 交 換 時 期																	それ以降		2年ごと	参 照 ページ
			アワメータ表示時間（時間）																				
点検箇所・項目		点検と処置	20	50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700	750	点検	交換			
グ レ ン タ ン ク 部	グレンタンク 駆動ベルト 1, 2	調整・交換	●		○		○		△ ● (320)		○		○		△ ● (620)		○		20又は、 100時間ごと	300時間 ごと	122 ☆		
	もみ排出クラッチ	調整	—	●		○		○		○		○		○		○		○	100時間 ごと	—	122		
	打 抜 き あ み	— 交換									△								—	400時間 ごと	☆		
	底 ス ク リ ユ 軸	— 交換							△						△				—	300時間 ごと	☆		
	縦 ス ク リ ユ 軸	— 交換							△						△				—	300時間 ごと	☆		
	水平スクリュ軸	— 交換							△						△				—	300時間 ごと	☆		
カ ッ タ 部	カッタ駆動ベルト	— 交換							△						△				—	300時間 ごと	122 ☆		
	排わら切換えワイヤ	調整・交換		●	○		○		△	●	○		○		△	●		○	50又は、 100時間ごと	300時間 ごと	114 ☆		
	カ ッ タ 刃	— 交換				△			△			△			△			△	—	150時 ごと	132 ☆		
電 装 部	バ ッ テ リ	充電	(注 9 : セルモータが回りにくいとき充電)															注9	—		136,137		
	ワイヤハーネス・ バッテリーコード	点検・交換	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間 ごと	注10	△	137,140 ☆	
	ヒューズ・ スローブローヒューズ	点検・交換		○		○		○		○		○		○		○	○		100時間 ごと	注11	△	140,141	
	ランプ（電球）	点検・交換		○		○		○		○		○		○		○	○		100時間 ごと	注12	△	141	
	ホーンスイッチ	点検・交換		○		○		○		○		○		○		○	○		100時間 ごと	注13	△	141 ☆	

*参照ページに☆印のある整備項目(交換)については、購入先又は、整備工場で行なってください。

重要

*各部のベルト・チェーン・ワイヤ・クローラを交換したあとは、ならし運転後の点検と調整(●印)を行なってください。

■給・注油(水)点検一覧表

種類	点 検 箇 所	処置	点検・交換時期 (アワメータ表示時間)		容量・規定量(L)	種 類	参 照 ページ
			点 検	交 換			
燃料	燃 料 タ ン ク	給油	作業前 又は、 作業後	—	●容量 ……18【165・R218S】 ……24【195・215】 【M20・M23】	ディーゼル軽油	104
オイル	エ ン ジ ン	補給 ・ 交換		●初回 …50時間目 ●2回目以降 …100時間ごと	＊規定量 オイルゲージの 下限と上限の間 …2.2～3.2【165】 …3.5～5.1【195・215・R218S】 【M20・M23】	クボタ純オイル D30又は,D10W30	104
	集中注油オイルタンク	補給		—	●容量 …約1.0【165・195】 【215・R218S】 …約4.0【M20・M23】		96,97

種類	点 検 箇 所		処置	点検・交換時期 (アワメータ表示時間)		容量・規定量(L)	種 類	参 照 ページ
				点 検	交 換			
オイル	トランスミッションケース		補給・交換	100時間ごと	● 初回 …50時間目 ● 2回目以降 …100時間ごと	* 規定量 検油口からオイルがにじむまで …3.0【A仕様】 …3.2~3.6【165J仕様】 …3.6~4.0 【195・215 J仕様】 【M20・M23】	クボタ純オイル スーパーUDT	105
	油 圧 オ イ ル タ ン ク		補給	100時間ごと	—	● 容量……………1.4 * 規定量 ゲージの先端以上入っていること	クボタ純オイル スーパーUDT	106
	フィードチェーン駆動ケース				—	● 容量……………0.25	クボタ純オイル	106
	こ ぎ 胴 ケ ー ス				—	● 容量……………0.15	M80B又は, M90	106
	引 起 し チ ェ ー ン		注油	作業前 又は, 作業後	—	適 量	クボタ純オイル D30又は,D10W30	97,98
	搬 送 レ ー ル ピ ン 支 持 部							
	供 給 チ ェ ー ン (株 元 , 穂 先)							
	フ ィ ー ド チ ェ ー ン							
	排 わ ら チ ェ ー ン (株 元 , 穂 先)							
	排 わ ら チ ェ ー ン テ ン シ ョ ン 部 (株 元 , 穂 先)							
水・液	冷 却 水 (リザーブタンク)		補水	作業前 又は, 作業後	冬期停止時は 排出又は, 不凍液を入れる	* 規定量 タンク測面のL(下限)とF(上限)の間 L(LOW)……………0.2 F(FULL)……………0.4	清水又は, クボタ不凍液	107,144
グリース	刈 取 部	刈 刃 ギ ヤ ケ ー ス	補給	分解時	—	適 量	クボタ スペアグリース	☆
		パ ッ カ 駆 動 ケ ー ス						
		刈 取 ギ ヤ ケ ー ス						
		供 給 ギ ヤ ケ ー ス						
		引 起 し ギ ヤ ケ ー ス						
	脱 こ く 部	排 わ ら ベ ベ ル ケ ー ス						
		縦 ス ク リ ュ ベ ベ ル ケ ー ス						
		2 番 ベ ベ ル ケ ー ス						
	グ レ ン タ ン ク 部	2 番 チ ェ ー ン ケ ー ス						
		グ レ ン タ ン ク 駆 動 ケ ー ス						
		ア ン ロ ー ダ ケ ー ス 1						
		ア ン ロ ー ダ ケ ー ス 2						
		ア ン ロ ー ダ ケ ー ス 3						
		ア ン ロ ー ダ ケ ー ス 2・3 接 続 回 動 し ゅ う 動 部	塗布					

* 参照ページに☆印のある整備項目(交換)については, 購入先又は, 整備工場で行なってください。

重 要

各部への補給と交換

* 点検するときは機体を水平な場所において行なってください。傾いていると正確な量を示しません。

* 使用するオイル・グリースは, 指定のクボタ純オイル・スペアグリースを使用してください。

* 補給や交換の際は, ゴミや水が混入しないようにしてください。

■燃料・オイル・グリースの点検・補給・交換



注意

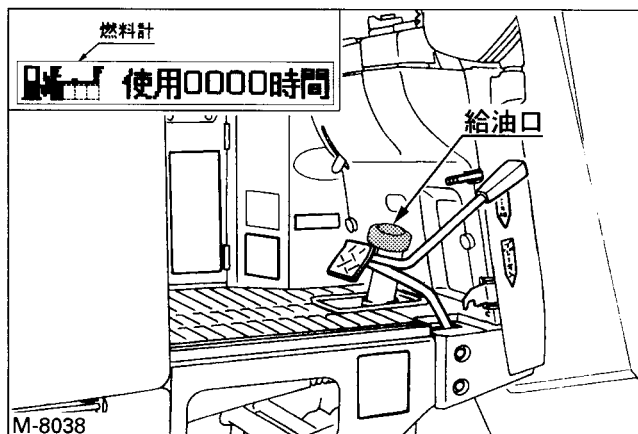
- * 燃料やオイル補給中は火気厳禁です。
- * 燃料を補給する前に給油口やタンク周辺のごみを取除いてください。

重要

- * 補給・交換を行なうときは、機械の故障の原因となりますので下記事項を守ってください。
- 廃油は使用しないでください。
- 給油口やその周辺からゴミなど異物や水の混入を防ぐため掃除してください。
- 使用するオイル・グリースはクボタ純オイル・スペアグリースを使用してください。
- * 点検するときは機体を水平な場所に置いて行なってください。傾いていると正確な量を示しません。

1. 燃料

スカイナビ液晶ディスプレイの燃料計残量が1目盛りになったとき、**給油してください**表示と同時に、ブザーが鳴り、注意ランプが点滅したときは給油してください。(警報発生時残量約6L)



重要

- * 給油口の燃料こしあみは外さないでください。燃料タンクにゴミなどの異物が混入するとエンジンの故障の原因となります。

◆給油

燃料を給油するときは、メインスイッチを“入”位置に行なってください。燃料が満タン近くになると満タンお知らせ機能がはたらき、ブザーが鳴ると同時に液晶ディスプレイに**燃料満タン**と表示します。

補足

- * 満タンお知らせ機能は、ブザーが5回鳴ると停止します。
- * ブザーが鳴ったあと、約2Lで満タンになりますので、あふれさせないように注意してください。

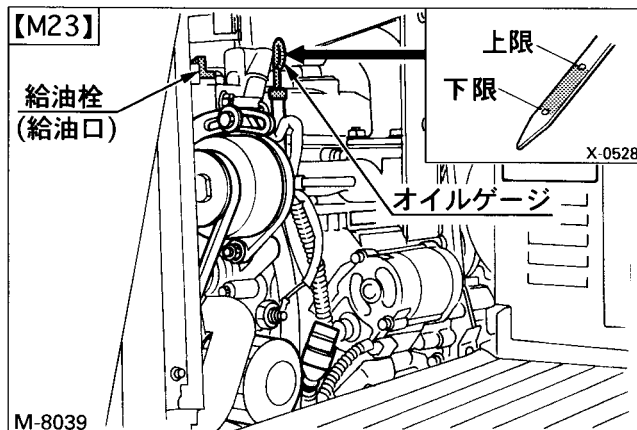
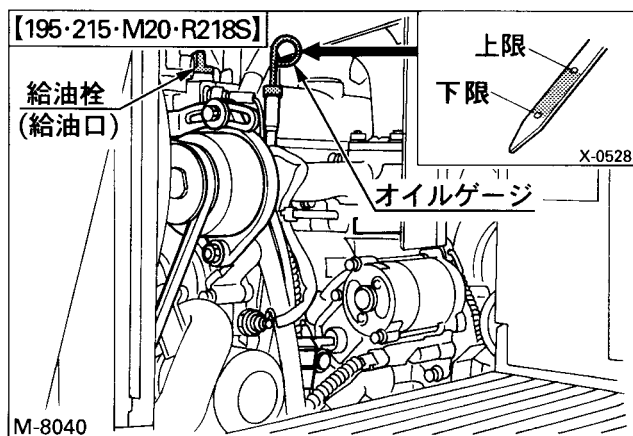
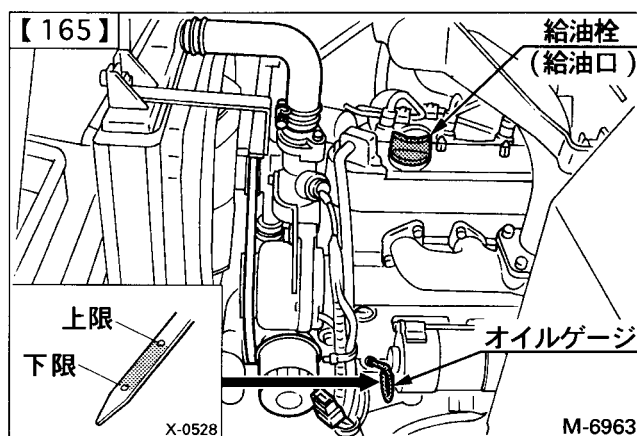
* 満タンお知らせ機能は下記の条件のとき、はたらかない場合があります。

- エンジン停止後約20秒間
- 給油中に機体を揺らしたり、急激に給油したとき
- 液晶ディスプレイの燃料表示が全て点灯(満タン付近)している状態で給油したとき

2. エンジンオイル

◆点検・補給

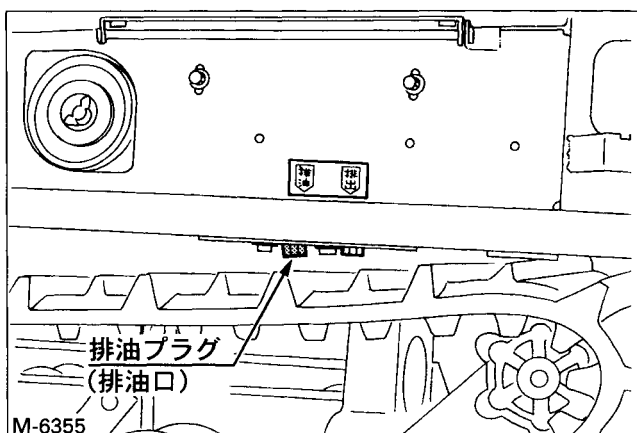
オイルゲージを抜いて、先端をきれいにふき取ります。もう一度差し込んでから抜き、ゲージの**上限**と**下限**の間にオイルがあるか点検します。不足しているときは、給油口から規定量になるまで給油してください。さらに、油もれのないことも調べてください。



◆交換

●排油のしかた

給油栓を外してから、排油プラグを外し、オイルを排出してください。



●給油のしかた

排油プラグを締付けて、給油口から規定量のオイルを給油し、給油栓を締付けてください。

重要

※指定以外のオイルを使用すると、出力が低下したり、エンジンオイルが異常に消耗又は劣化し、エンジントラブルの原因となります。また、気温によりオイルを選んでください。

気温	オイルの種類	規定オイル容量
15℃以下のとき	クボタ純オイル ディーゼルエンジン用 D10W-30	●上限線 【165】……………約3.2L 【195・215 M20・M23・R218S】……………約5.1L
15℃以上のとき	クボタ純オイル ディーゼルエンジン用 D30又はD10W-30	●下限線 【165】……………約2.2L 【195・215 M20・M23・R218S】……………約3.5L

※クボタ純オイルの入手が困難な場合は、CC級以上のオイルをお使いください。
この場合は気温により下表のように使い分けてください。

気温	オイルの種類
0℃以下	SAE10W又は10W-30
0～25℃	SAE20又は10W-30
25℃以上	SAE30又は10W-30

※10W-30はオールシーズン用です。

補足

※付属部品のじょうごを使用して給油してください。

3. トランスミッションケースオイル



警告

※排油するときは、刈取部を上げ、刈取下降ロックレバーを上げて、刈取部の下降防止を行なってください。さらに枕木などを使用して落下防止の歯止めをしてください。

◆点検・補給

検油ボルトを外してオイルが検油口から出てくれば適正量です。不足しているときは、給油口から規定量になるまで給油してください。さらに、油もれのないことも調べてください。

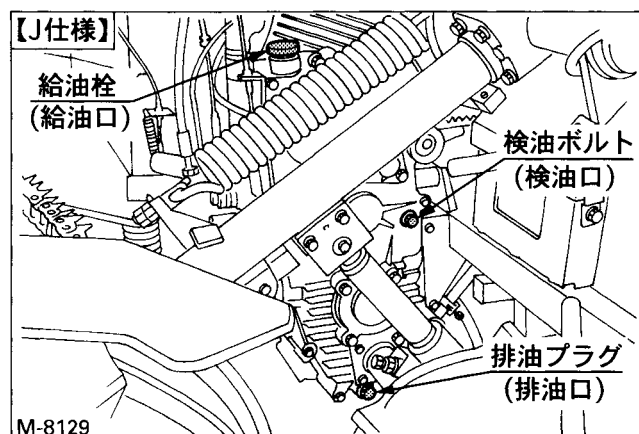
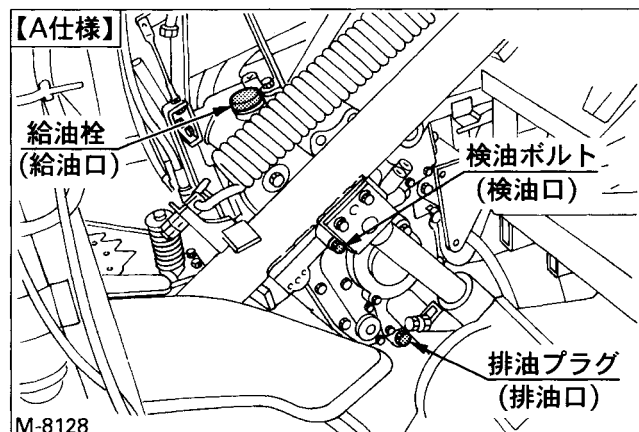
◆交換

●排油のしかた

給油栓を外してから、排油プラグを外し、オイルを排出してください。

●給油のしかた

排油プラグを締付けて、検油口からオイルが出てくるまで給油口から規定量のオイルを給油し、給油栓と検油ボルトを締付けてください。



オイルの種類	規定オイル容量
クボタ純オイル スーパーUDT	【A仕様】 3.0 L 【165J仕様】 3.2～3.6 L 【195・215・M20・M23J仕様】 3.6～4.0 L

重要

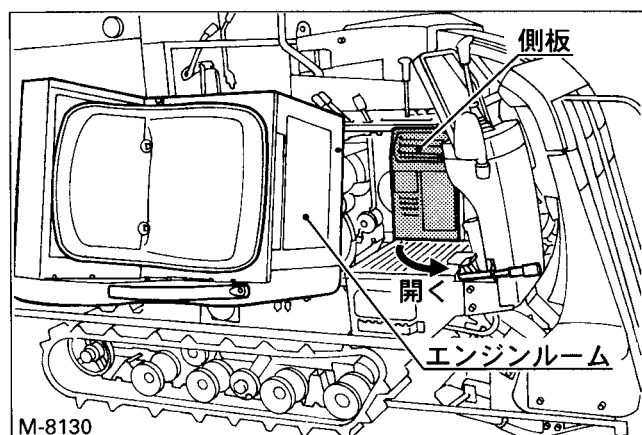
※給油したあとエンジンを約1分回転させて、再度点検を行ない検油口からオイルが出ないときは、オイルを追加補給してください。

補足

※付属部品のじょうごを使用して給油してください。

4. 油圧オイルタンクオイル

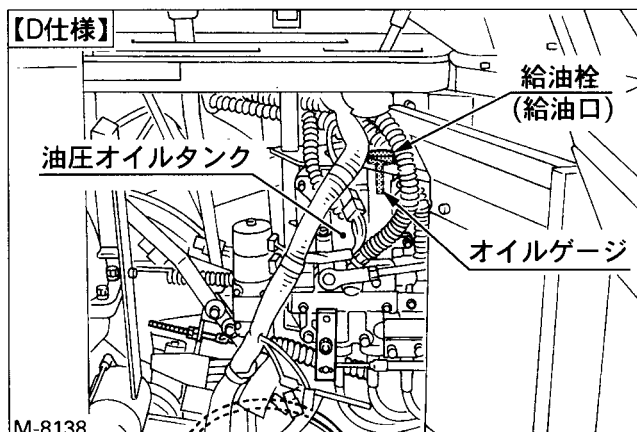
エンジンルームオープンをしてステップ左側の側板を開きます。



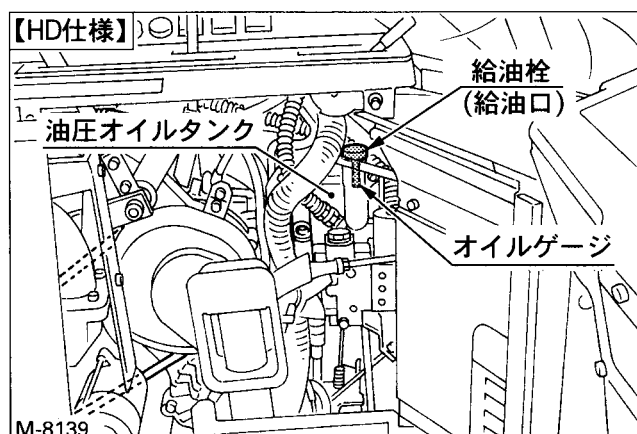
M-8130

◆点検・補給

給油栓を外し、オイルゲージ先端に付着しているオイルをきれいにふき取ります。もう一度締込んでから外したとき、オイルゲージの先端にオイルが付着していないときは、先端に付着するまで給油口からオイルを補給してください。



M-8138



M-8139

オイルの種類	オイル容量
クボタ純オイルスーパーUDT	1.4 L

補 足

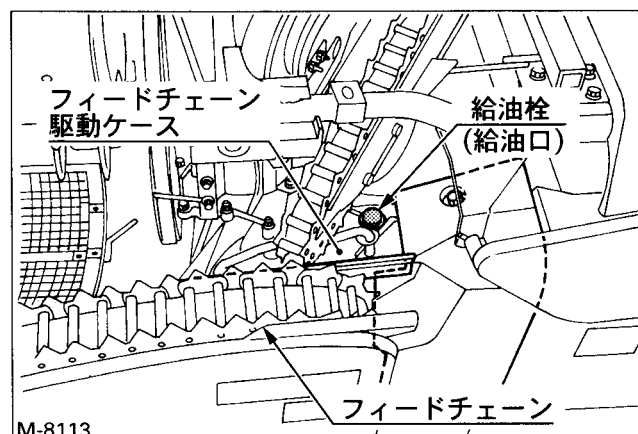
*刈取部を下げた状態で検油してください。

5. フィードチェーン駆動ケースオイル

こぎ胴をオープンしてください。

◆補給

給油栓を外して、オイルを適量補給してください。



M-8113

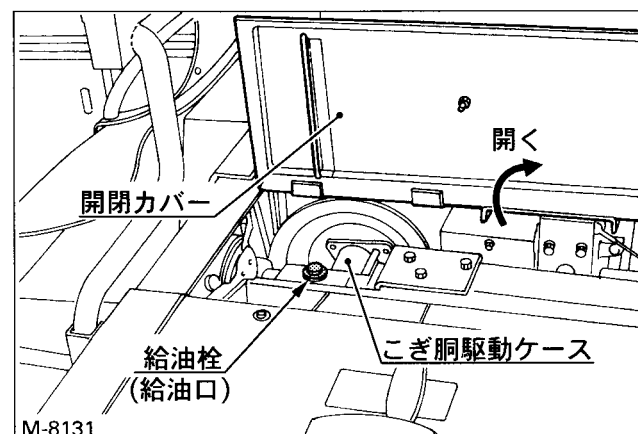
オイルの種類	オイル容量
クボタ純オイル M90又はM80B	0.25 L

6. こぎ胴駆動ケースのオイル

脱こく上部の開閉カバーを開いてください。

◆補給

給油栓を外して、オイルを適量補給してください。



M-8131

オイルの種類	オイル容量
クボタ純オイル M90又はM80B	0.15 L

7. 各部のグリース

分解時にクボタスベアグリースを補給してください。

◆刈取部

- * 刈取りギヤケース 50g
- * 供給ギヤケース 150g
- * 引起し駆動ケース(7箇所) 各50g

◆脱こく部

- * 排わらべベルケース 30g
- * 縦スクリュベベルケース 50g
- * 2番ベルケース 15g
- * 2番チェーンケース 50g

◆アンローダ[G仕様]

- * グレンタンク駆動ケース 50g
- * アンローダケース1 25g
- * アンローダケース2 25g
- * アンローダケース3 25g
- * アンローダケース2・3

接続回転しゅう動部 塗布

■ラジエータ冷却水の点検・交換



注意

* ラジエータキャップやリザーブタンクは、エンジン運転中及び停止直後に開けると、熱湯が噴出することがありますので、エンジン停止後じゅうぶん冷えてからにしてください。

◆点検

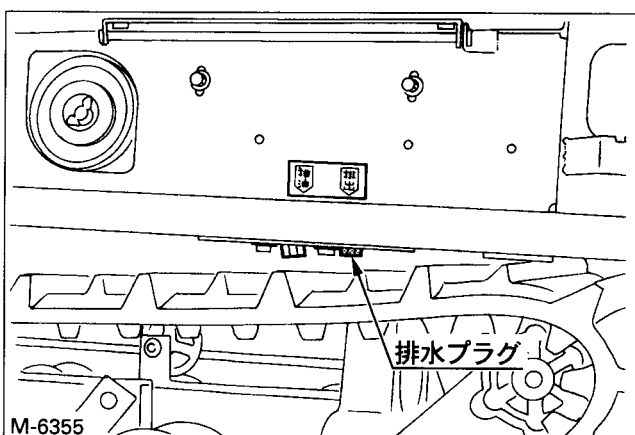
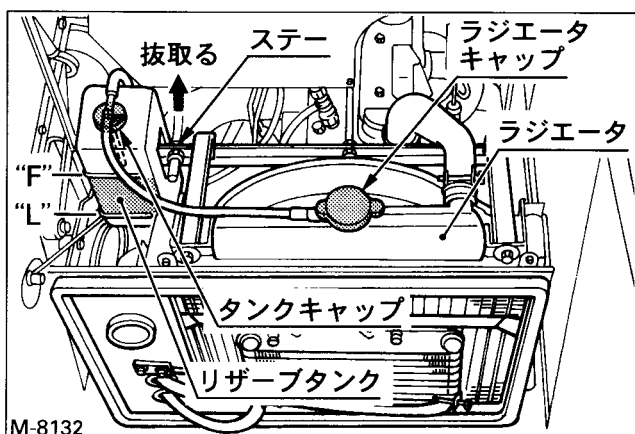
エンジンルームをオープンしたあとリザーブタンクの水量が“LOW”(下限)と“FULL”(上限)の間にあるか確かめます。“LOW”(下限)の線より下にあるときは、リザーブタンクのキャップを外して清水を補給してください。

補足

* “FULL”(上限)の線以上は補給しないでください。

◆交換

- ① ラジエータの冷却水は排水プラグを外したあと、ラジエータキャップを外して排水します。
- ② リザーブタンクの冷却水はタンクのキャップ(吸引パイプ付)を取外したあと、ステアからリザーブタンクを外して排水します。
- ③ 水道水でこみやさびが出なくなるまで洗います。
- ④ 排水プラグを締付けたあと、ラジエータ及びリザーブタンクに不凍液と混合した清水を入れます。



- ⑤ ラジエータキャップ及びリザーブタンク、キャップ、オーバフローパイプを取付けます。

補足

* 不凍液の混合比は、寒冷地ほど高くなります。購入先の人に相談して、下表を参照して混合比を決めてください。また、不凍液はロングライフクーラントをご使用ください。

●不凍液混合比率表

外気温度 (℃)	-11.5	-15	-20	-25	-30	-35	-40
比 水 (%)	75	70	65	60	55	50	45
率 不凍液 (%)	25	30	35	40	45	50	55

※ラジエータ容量 { [165] 2.5L
[195・215・M20・M23・R218S] 4.0L

※新しい冷却水と交換を行なったあとは、必ず不凍液を入れて、5分間エンジンを空回転し、不凍液の混合を早めてください。そのあと、リザーブタンクの水量を確かめておいてください。

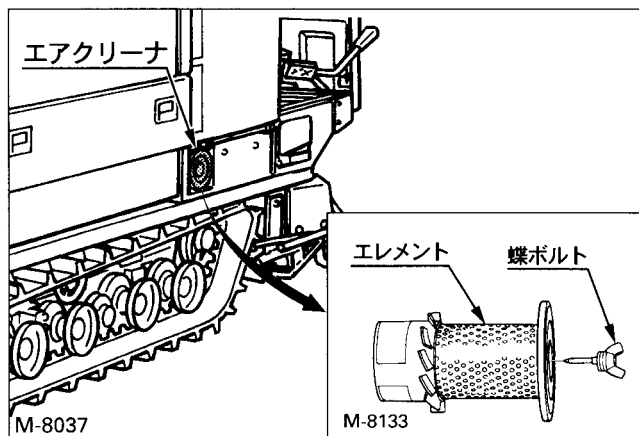
■エアクリーナの点検・掃除・交換

重要

- * 高性能サイクロン併用乾式エレメントを使用していますので、オイルを使用しないでください。
- * エアクリーナにほこりが詰まったまま運転すると、エンジンの出力が低下したり、エンジンオイルが異常に消耗又は劣化し、エンジントラブルの原因となります。点検は運転前に欠かさず行なってください。

◆点検

蝶ボルトを取外してエアクリーナのエレメントを抜きます。



◆掃除

エレメントの掃除は、エレメントの内側から空気を吹きつけるか、又は軽く振ってゴミを取除いてください。汚れのひどい場合や300時間経過しているときは、交換してください。

補足

- * エアの圧力は0.69Mpa (7.0kgf/cm²) をこえないよう注意し、ノズルとエレメントの間は適当にあけてください。
- * カーボンや油分が付着しているときは、クボタ指定の純正エレメント洗浄剤で洗浄してください。

【参考】

- * エレメント洗浄剤
ND-1500(品番：15221-8665-1)

■パイプ・ホース類の点検・交換



注意

- * 運転中ラジエータホースが外れると熱湯が吹き出し、ヤケドをするおそれがあります。
- * 燃料系ゴムホースが破損していると燃料もれを起し火災の原因となります。

◆点検

エンジン、エアクリーナ、ラジエータ、燃料タンク各部にある各パイプやホースを点検し、油もれや水もれが発生しているときは、パイプやホースの交換やバンドを締付けてください。

重要

- * オイルドレーンゴムホースが破損していると、エンジンが焼付を起します。
- * 油もれや水もれをしていなくても、2年経過しているときや劣化の激しい場合は交換してください。

◆交換

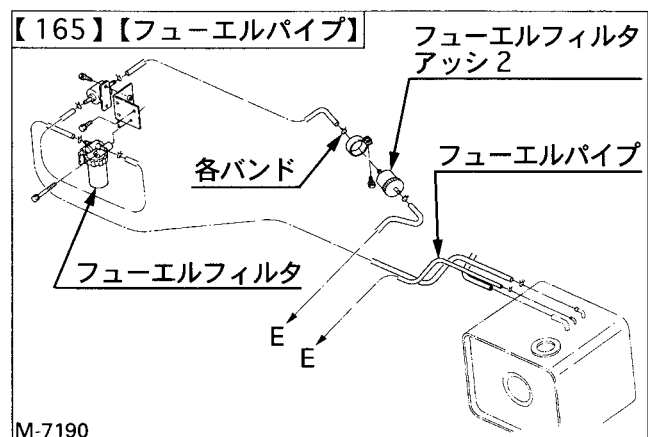
交換時の取付け不良やバンドの締付忘れ、締付不足がないよう取付けてください。

重要

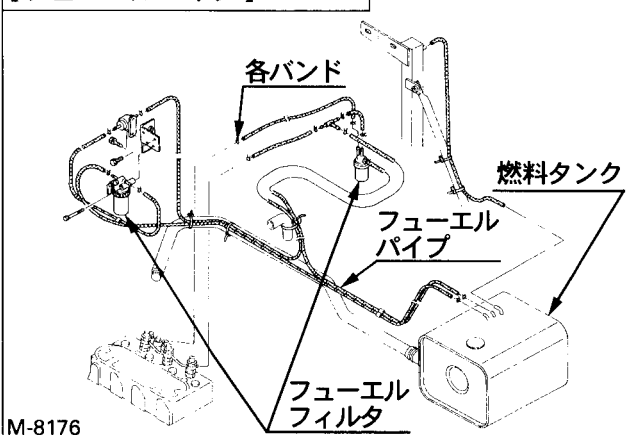
- * 交換時にパイプや噴射ポンプなどにゴミが入らないように注意してください。

補足

- * フューエルパイプ交換後は、スイッチキーを“入”位置にすると5～10秒で自動的にエア抜きされます。(フューエルフィルタアッシの交換の項参照)

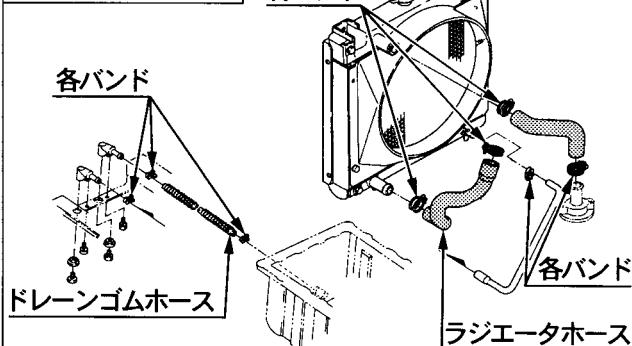


【195・215・R218S・M20・M23】
【フューエルパイプ】



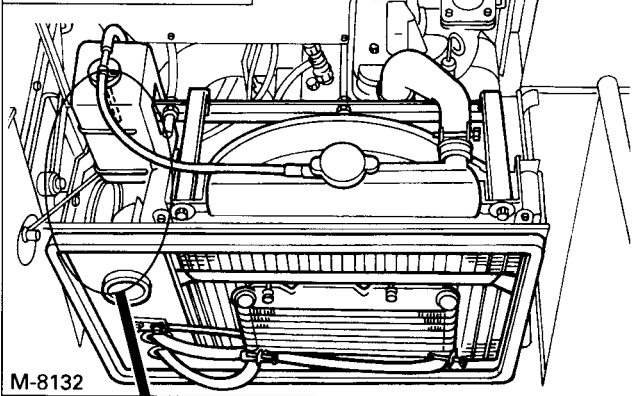
M-8176

【ラジエータホース】
【ドレングムホース】



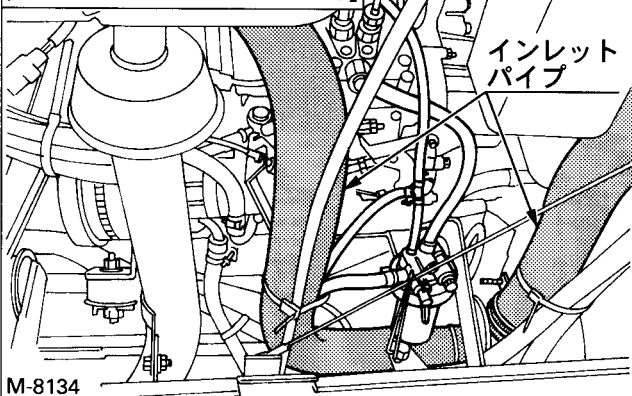
M-7185

【インレットパイプ】



M-8132

【195・215・R218S・M20・M23】

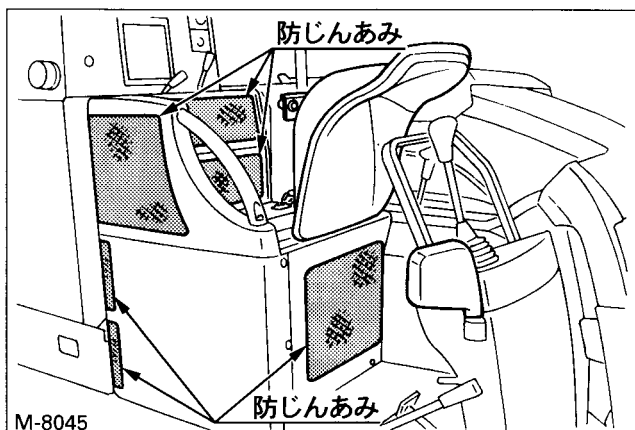


M-8134

■防じんあみ、ラジエータフィンの掃除 ■オイルクーラフィンの掃除【J仕様(165除く)】

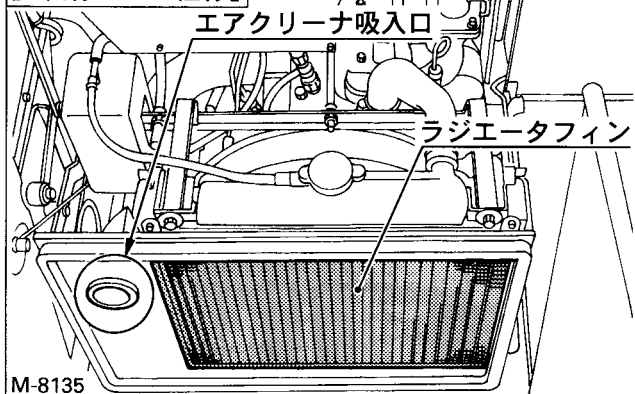
◆掃除

エンジンルームをオープンしたあと、圧縮空気を使用するなどして防じんあみやラジエータ部及びエンジンに付着しているゴミなどを掃除してください。



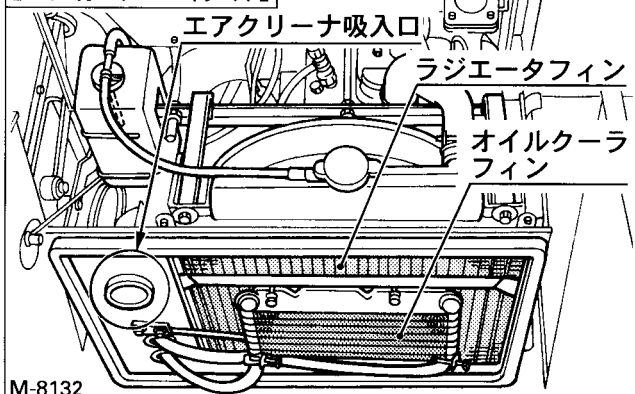
M-8045

【A仕様・165J仕様】



M-8135

【J仕様（165除く）】



M-8132

重 要

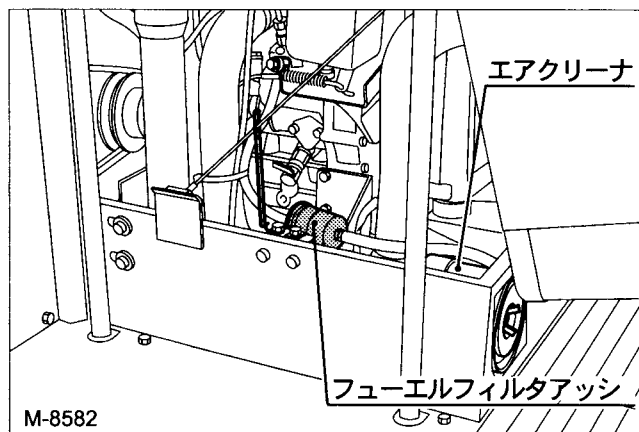
*ヘラやドライバなど固いものを使用して、ラジエータフィンやオイルクーラは掃除しないでください。ラジエータフィンを傷め、ラジエータの機能を低下させる原因になります。

*エアクリーナの吸入口から水が入ると、エンジンの不調又は、故障の原因となりますので、水が入らないように吸入口を水を通さない物で覆ってください。

■フューエルフィルタアッシの交換【165】

◆交換

運転時間が200時間ごとにフューエルフィルタアッシを交換してください。フューエルフィルタアッシはエアクリーナの後側にあります。



重要

- * フィルタ下部に水が溜まっているときは、早目に交換してください。
- * 燃料タンクにゴミなどの異物や水が混入すると、フィルタの目詰まりが早くなったり、フィルタ内に水が溜まりやすくなりエンジンの故障の原因となります。

補足

- * 交換後は、スイッチキーを“入”位置にすると5～10秒で自動的にエア抜きされます。

■フューエルフィルタの掃除と

フィルタエレメントの交換

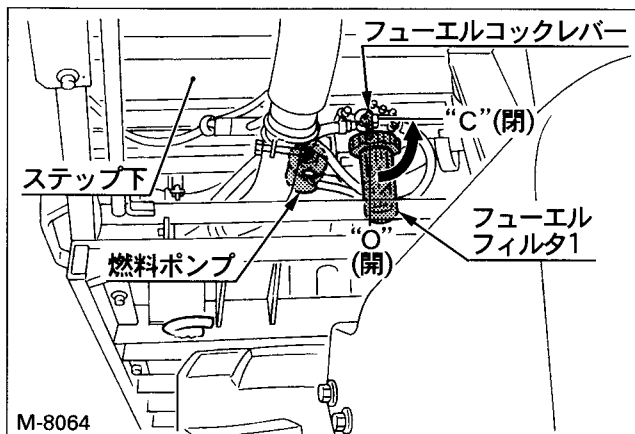
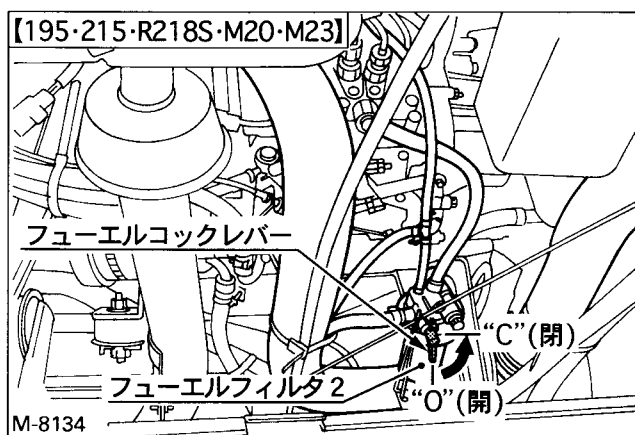
掃除や交換は燃料を給油する前に行なってください。また、フューエルフィルタ2【195・215・R218S・M20・M23】はエンジン後側にありますのでエンジンルームをオープンしてください。また、フューエルフィルタ1は運転席ステップ下側にあります。

◆掃除・交換

重要

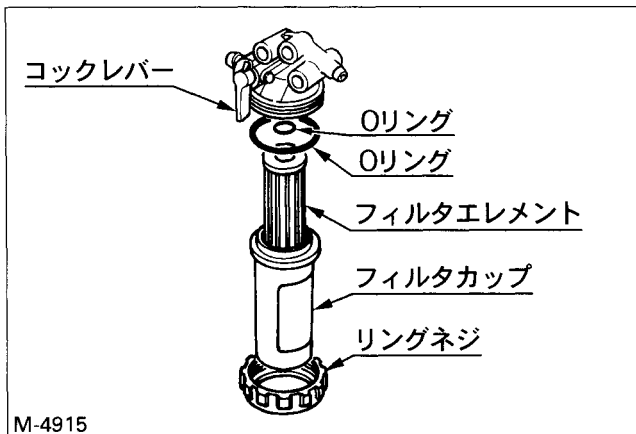
- * フィルタ下部に水が溜まっているときは、早目に掃除又は、交換してください。
- * 燃料タンクにゴミなどの異物や水が混入すると、フィルタの目詰まりが早くなったり、フィルタ内に水が溜まりやすくなりエンジンの故障の原因となります。

- ① フューエルコックレバーを“O”(開)位置から“C”(閉)位置にします。



- ② リングネジをゆるめてフィルタカップを外します。

- ③フィルタエレメントを取出して軽油でOリングを含めて洗浄(すすぎ洗い)をします。このとき、汚れのひどい場合や運転時間が400時間経過しているときは交換してください。



M-4915

重要

- * Oリングは傷つけないようにしてください。また、失くさないでください。
- * 汚れ(目詰まり)がひどい場合は、洗浄を行なっても短時間で目詰まりします。

- ④Oリングやフィルタエレメントにゴミが付着しないように元通りに組付けます。

重要

- * Oリングは溝にきちんと入れて組付けてください。
- * ゴミが燃料内に混入すると、燃料ポンプや噴射ノズルの故障の原因となります。

補足

- * 掃除又は、交換後は、スイッチキーを“入”位置にすると5～10秒で自動的にエア抜きされます。

■エンジンオイルフィルタ

カートリッジの交換

2回目のエンジンオイルの交換(エンジンオイルの交換の項参照)と同時に交換してください。交換するときは、エンジンルームをオープンしてください。

◆交換

- ①専用工具を使ってカートリッジを取外します。

補足

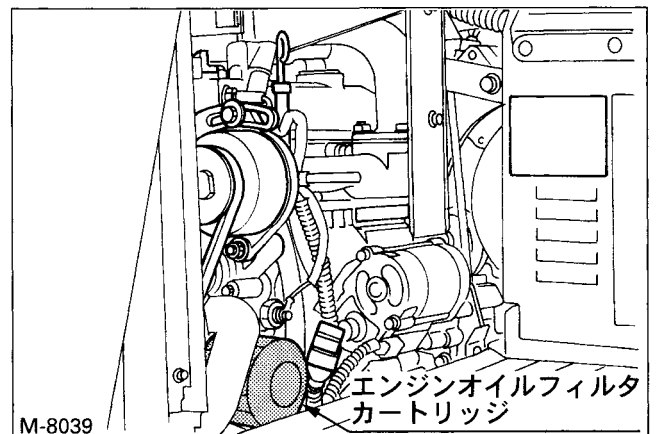
- * 取外しかたや専用工具については、購入先にご相談ください。

- ②新しいカートリッジはOリングにオイルを薄く塗布してから、フィルタレンチを使用せず手で締付けてください。

- ③オイルゲージの上限線までオイルを補給したあと、5分程度エンジンを運転して各部及び油圧(オイルランプ)に異常がないことを確認してから、エンジンを止め、再度油面がオイルゲージの規定内にあることを確認しておいてください。

補足

- * オイルフィルタカートリッジを交換すると、オイルフィルタカートリッジに入る量だけエンジンオイルの油面が下がります。



M-8039

重要

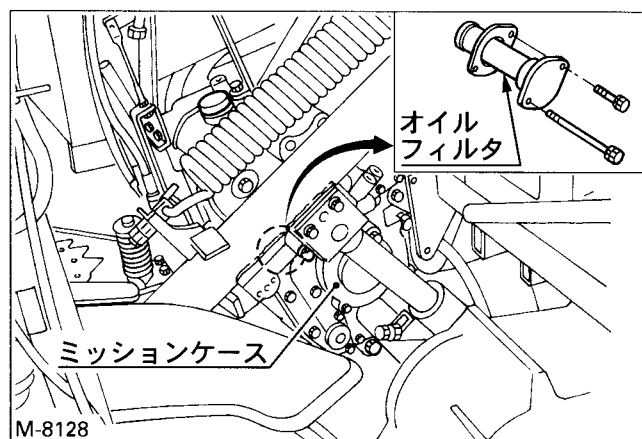
- * エンジンオイルを交換するときに、ゴミなどの異物が混入するとフィルタの目詰まりが早くなったり、エンジンの故障の原因となります。

■ミッションオイルフィルタの交換

◆交換

●【A仕様】

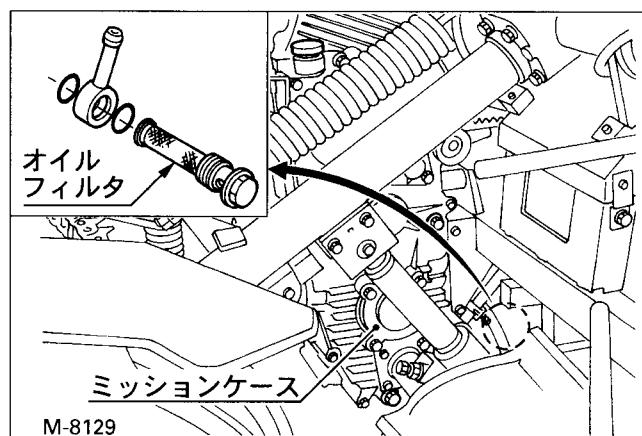
- ① ミッションケースからミッションオイルを排出します。(トランスミッションケースオイルの交換の項参照)
- ② ボルト2本を取外してオイルフィルタを抜取ります。
- ③ 新しいオイルフィルタに交換したあと、ボルト2本で取付けます。



- ④ ミッションオイルを給油します。

●【J仕様】

- ① ミッションケースからミッションオイルを排出します。(トランスミッションケースオイルの交換の項参照)
- ② オイルフィルタ(ボルト部一体型)を取外します。
- ③ 新しいオイルフィルタを取付けます。



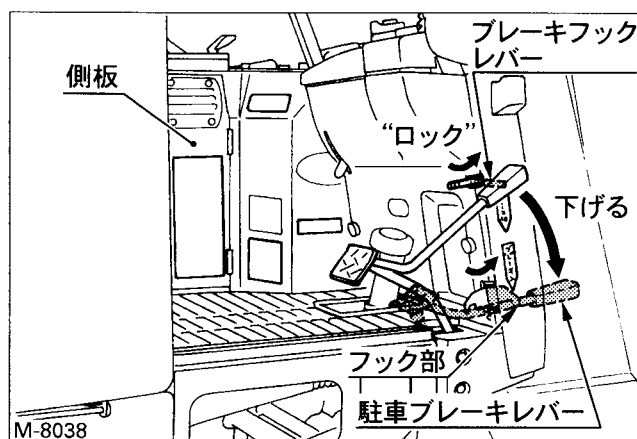
- ④ ミッションオイルを給油します。

■各部ワイヤ・ロッドの点検・調整

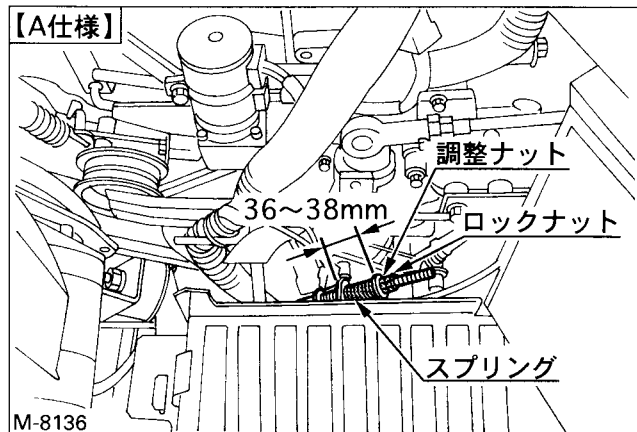
1. 駐車ブレーキの点検・調整

駐車ブレーキレバーをフック部にかけた状態で、スプリングの長さを36~38mmに調整します。

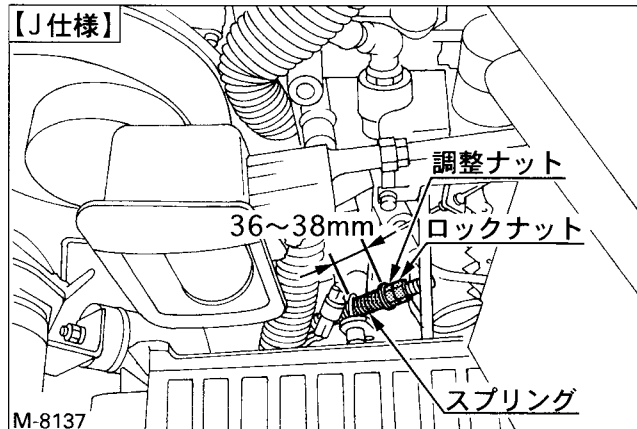
- ① エンジンルームをオープンしたあと、ステップ左側の側板を開きます。
- ② ロックナットと調整ナットをゆるめて、調整ナットで調整を行ないます。
- ③ ロックナットを締付けたあと、側板を閉じてエンジンルームを閉じます。
- ④ 調整後、駐車ブレーキが正常に作動するか再確認します。



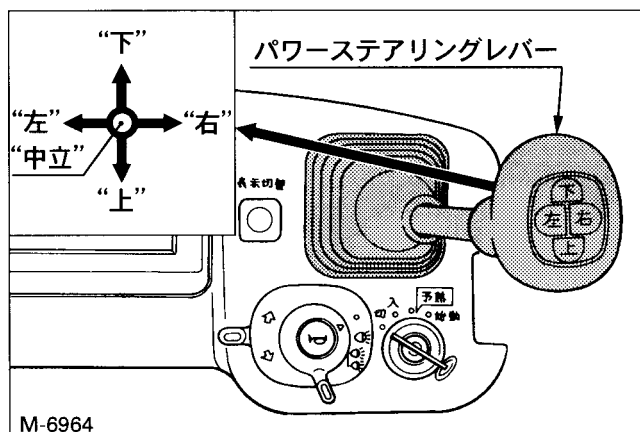
【A仕様】



【J仕様】



2. パワーステアリングレバーの点検・調整



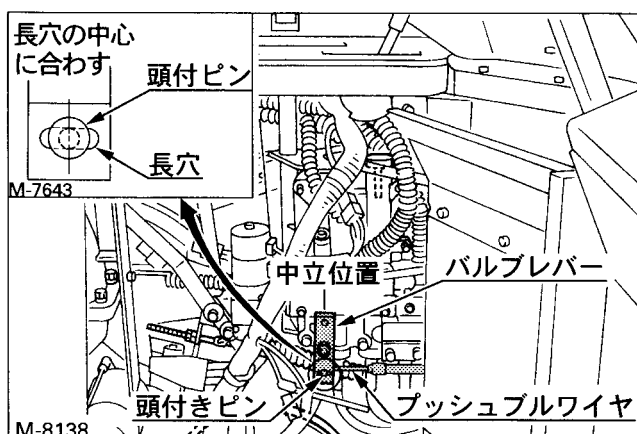
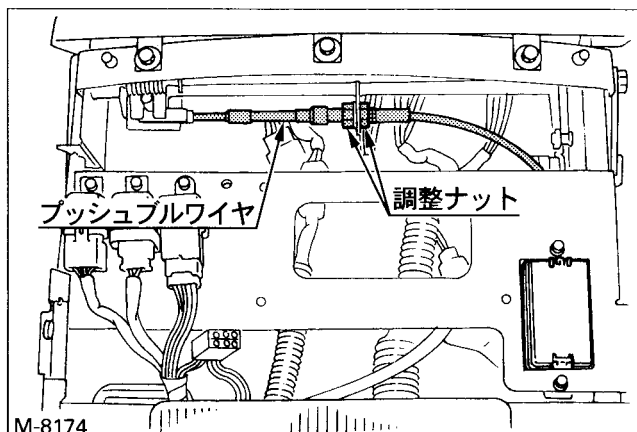
◆操向操作(サイドクラッチ)

パワーステアリングレバーが“中立”のとき、調整ナットでプッシュブルワイヤを調整して、バルブレバーを“中立”の位置にしてください。

- ①フロントカバーをを外します。
- ②エンジンルームをオープンしたあと、ステップ左側の側板を開きます。

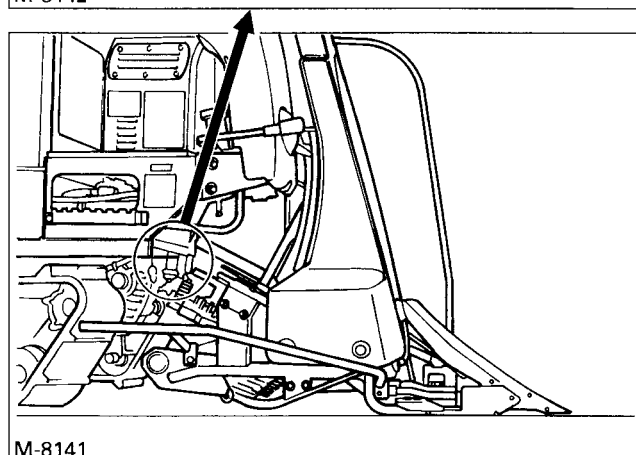
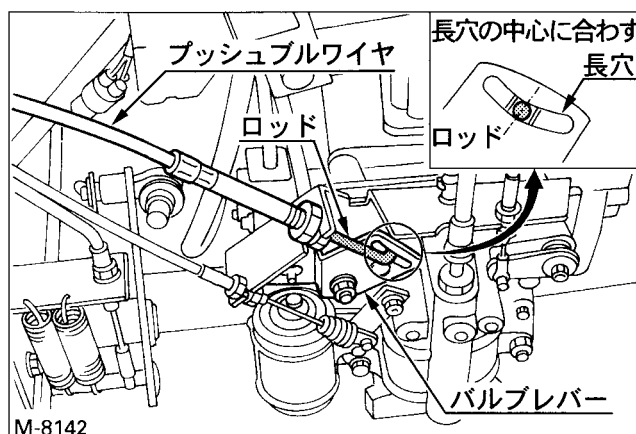
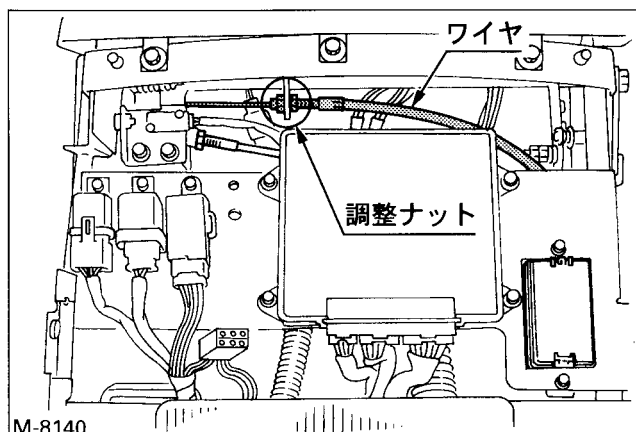
●【A仕様】

- (1)調整ナット2個をゆるめて調整を行ないます。調整は、バルブレバーとプッシュブルワイヤを接続している頭付きピンとバルブレバーの長穴の中心が一致する位置(“中立”位置)に合わせます。
- (2)調整ナットを締付けたあと、側板を閉じてエンジンルームを閉じます。
- (3)フロントカバーを取付けます。



●【J仕様】

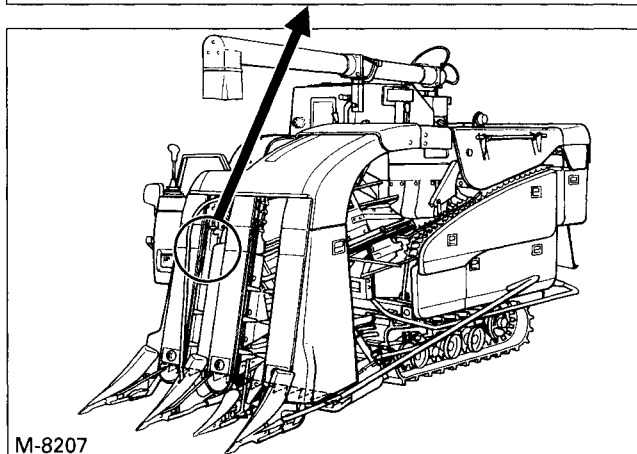
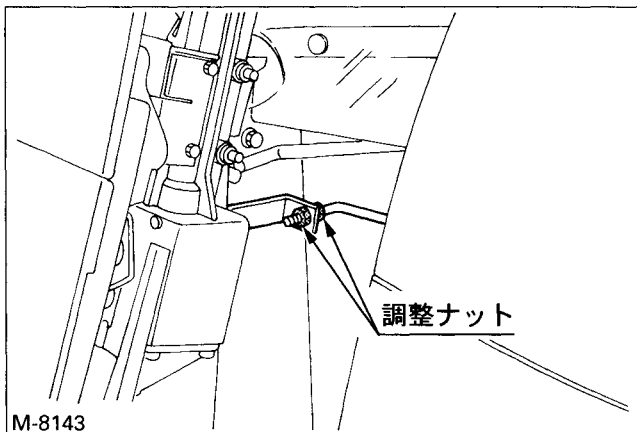
- (1)調整ナット2個をゆるめて調整を行ないます。調整は、プッシュブルワイヤ終端のロッドとバルブレバーの長穴の中心が一致する位置(“中立”位置)に合わせます。
- (2)調整ナットを締付けたあと、側板を閉じてエンジンルームを閉じます。
- (3)フロントカバーを取付けます。



●刈取部昇降操作

パワーステアリングレバーを前・後方向に操作したとき、昇降スピードが遅いとき又は、昇降できないときは、調整ナットで調節してください。

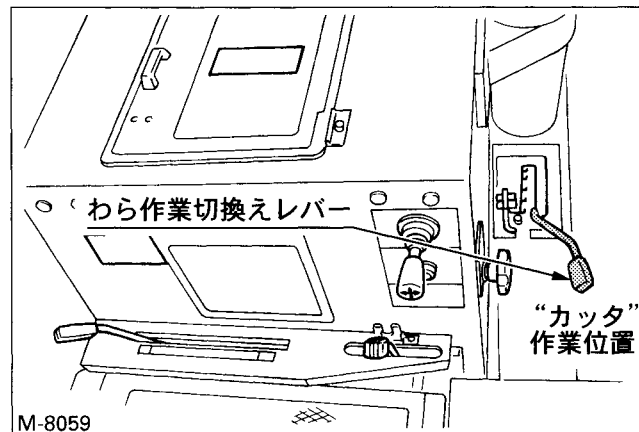
- ①調整ナット2個をゆるめて調整を行ないます。
- ②調整ナットを締付けます。



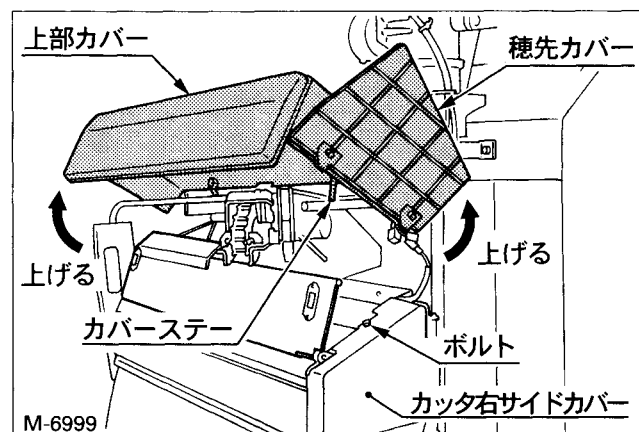
3. 排わら切換えカバー開閉ワイヤの点検・調整

わら作業切換えレバーを“カッタ”作業位置にしたとき、カッタ切換えカバーが内側へ傾いているときは、排わら切換えカバーの開閉ワイヤを張ってください。

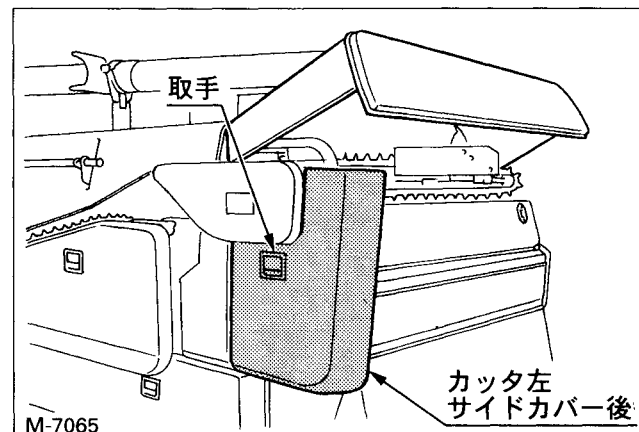
- ①わら作業切換えレバーを“カッタ”作業位置にします。



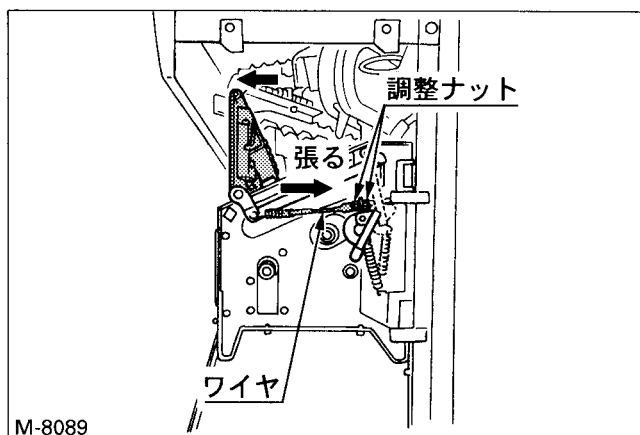
- ②上部カバーを上げて、カバーステーをセットしたあと、穂先カバーを上げます。そのあと、ボルトを外してカッタ右サイドカバーを取外します。



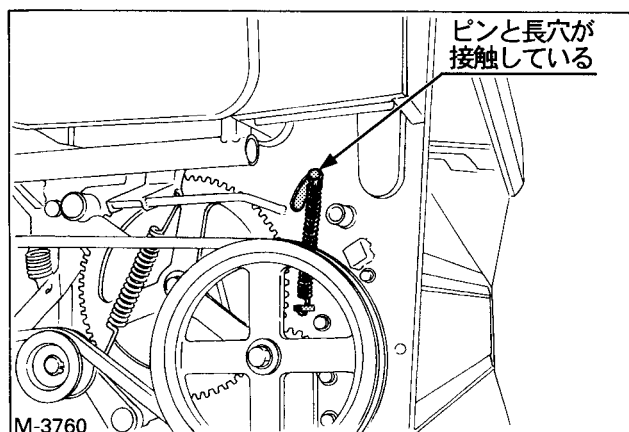
- ③カッタ回転カバーを上側に回転させたあと、取手を引いてカッタ左サイドカバー後を外します。



- ④調整ナット2箇所をゆるめます。
- ⑤ピンと長穴が接触するまで調整ナットでワイヤを張ります。
- ⑥調整ナット2箇所を締付けます。



M-8089



M-3760

- ⑦取外したカッタ左, 右のサイドカバーを取付けます。

4. 排わらレール2の点検・調整

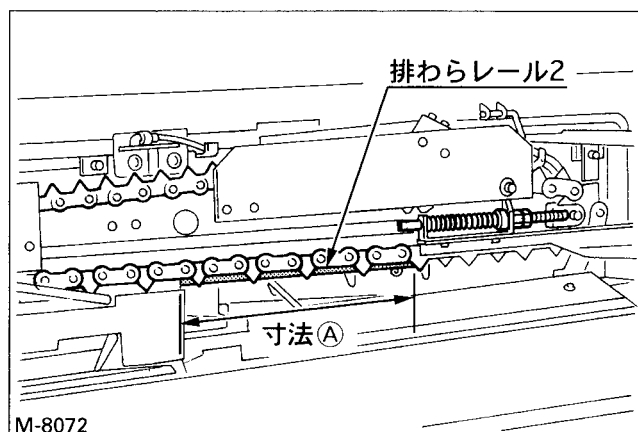
わら作業切換えレバーを“ドロツバ”作業位置にしたとき、カッタ上部排わら株元チェーン下側にある排わらレール2の出代を260～295mmに調整します。

- ①わら作業切換えレバーを“ドロツバ”位置にします。



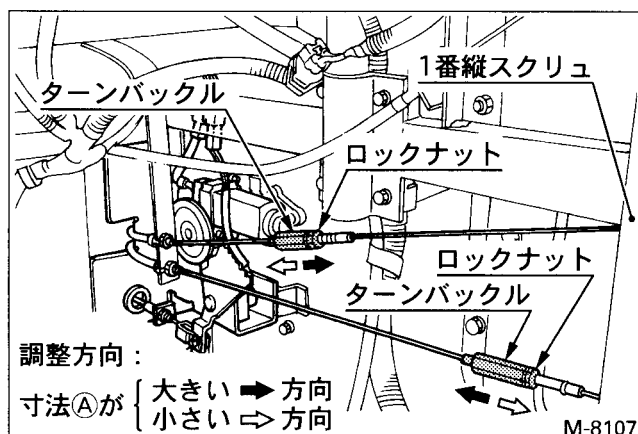
M-8059

- ②下図の出代の寸法Aを測定します。



M-8072

- ③寸法Aが規定値(260～295mm)から外れているときは1番縦スクリ後部にある2箇所のターンバックルで調整します。ターンバックルのロックナットをゆるめ、ターンバックルを回して調整を行なつて、調整後はターンバックルのロックナットを締付けます。



M-8107

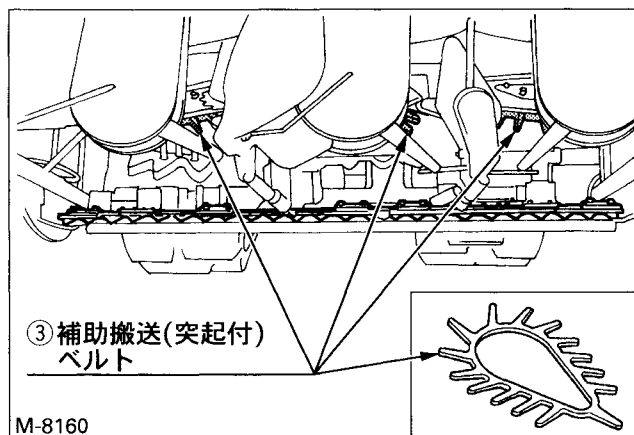
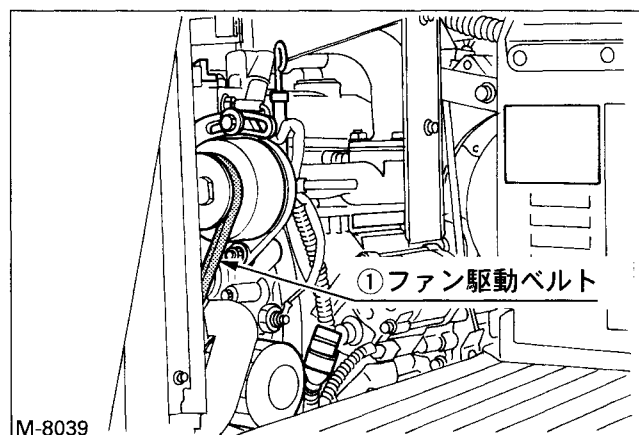
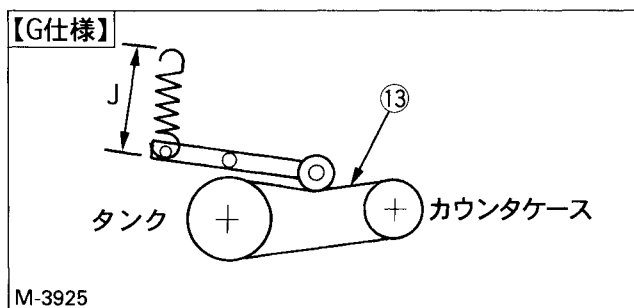
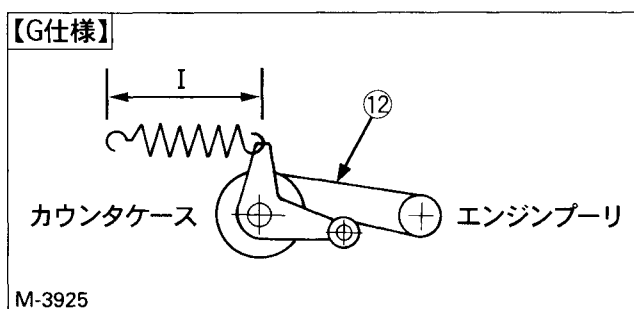
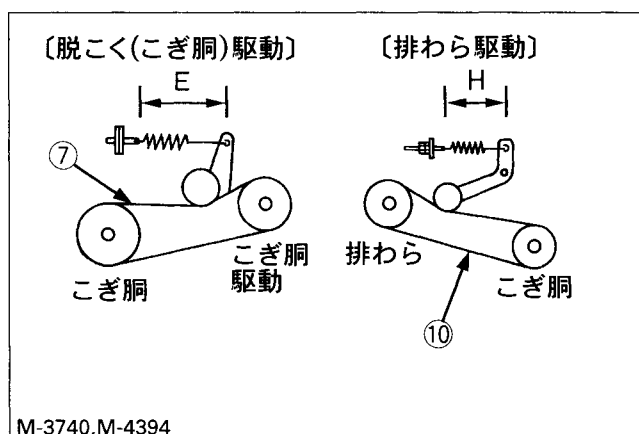
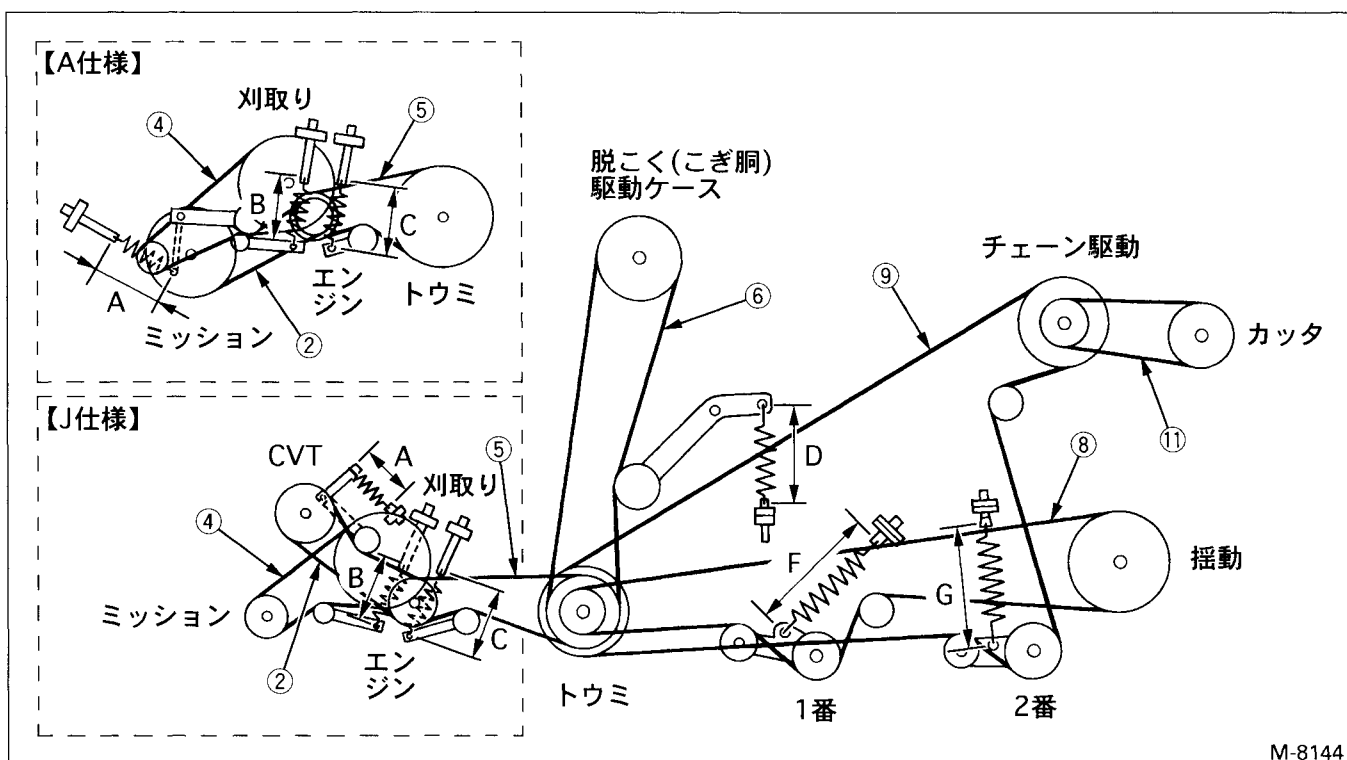
補 足

- *わら作業の切換えレバーを操作したとき、ドロツバけん制金具に一度接触させると寸法Aは大きくなります。
- *2箇所のターンバックルは片方を回転させると同じ量だけ、もう片方も回転させてください。

■各部ベルトの点検・調整

下表を参照して、各部ベルトの張り調整を行なってください。

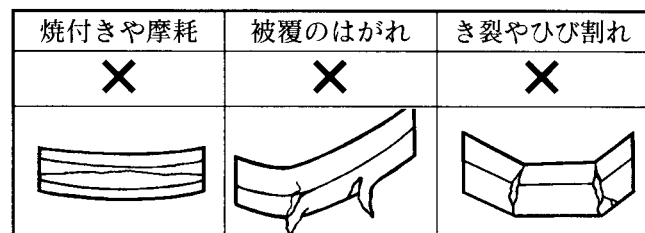
点検箇所	図番	名 称	適 応 機 種	サ イ ズ	本数 (本/台)	張 り 調 整		
						※テンション スプリング 取付け長さ (mm)		たわみ量 (mm)
運 転 席 ・ 刈 取 部 周 辺	①	ファン駆動ベルト	【165】	35ブイベルト	1	—		5～10
			【195・215・R218S】	37.5ブイベルト				
			【M20・M23】	37ブイベルト				
	②	走行(ミッション)駆動ベルト	【165A仕様】	特B46	1	A	217～223	—
			【195・215A仕様】	特B48				
			【R218S】	特B47				
			【M20・M23A仕様】	特C48				
			【195・215J仕様】	特B43				
			【165・M20・M23J仕様】	特B42				
	③	補助搬送(突起付)ベルト	【165・195・215・R218S】	—	2	—		5～10
			【M20・M23】		3			
	④	刈取駆動ベルト	【165・195・215A仕様・R218S】	特B50.5	1	B	【165・195・215A仕様】 142～148	—
			【M20・M23A仕様】	特B53			【165・195・215J仕様】 【M20・M23J/A仕様】 165～171	
			【165・195・215J仕様】	特B44				
			【M20・M23J仕様】	特B41.5(コグ)				
	⑤	トウミ駆動ベルト	【165】	特C50	1	C	212～218	—
			【195・215】	特C63				
			【R218S】	特C50.5				
			【M20・M23】	特C70				
	⑥	脱こく(こぎ胴)駆動ケースベルト	【165・R218S】	特C78	1	D	180～185	—
			【195・215】	特C81.5				
			【165-S1】	特C76.5				
			【195・215-S1】	特C84				
			【M20・M23】					
脱こく部・ カッタ部 周辺	⑦	脱こく(こぎ胴)駆動ベルト	【165・195・215・R218S】	特C53	1	E	145～150	—
			【M20・M23】	特B55	2		143～147	
	⑧	1番・揺動駆動ベルト	【全機種】	特B94	1	F	175～180	—
	⑨	2番・フィードチェーン ・駆動ベルト	【165・R218S】	特B111	1	G	188～193	—
			【195・215・M20・M23】	特B113				
	⑩	排わら駆動ベルト	【全機種】	特B38	1	H	155～160	—
⑪	カッタ駆動ベルト	【全機種】	特B52	1	スプリングの掛け換え			—
グレンタンク部	⑫	グレンタンク駆動ベルト1	【165・R218SG仕様】	特B56	1	I	211～215	—
			【195・215・M20・M23G仕様】	特B64				
	⑬	グレンタンク駆動ベルト2	【165・R218SG仕様】	特B37	1	J	108～116	—
			【195・215・M20・M23G仕様】	特B32				



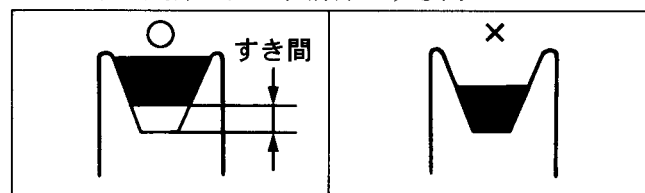
◆点検

各部のベルトを点検するときは、下記の事項をよく確認してください。

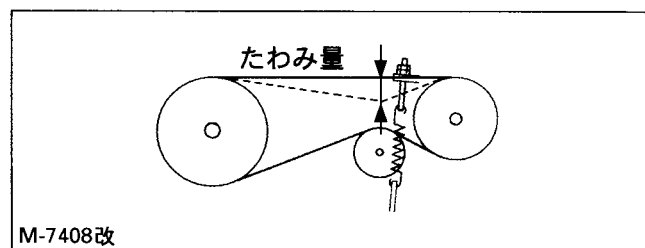
1. ベルトの焼付きや摩耗、被覆のはがれ、き裂やひび割れ



2. ベルトの底部とプリー溝部のすき間



3. ベルトの伸び(たわみ量)



上記の事項を確認したとき、異常があればベルト交換又は、ベルトの張り調整を行なってください。ベルトの交換は購入先へ連絡して行なってください。

重要

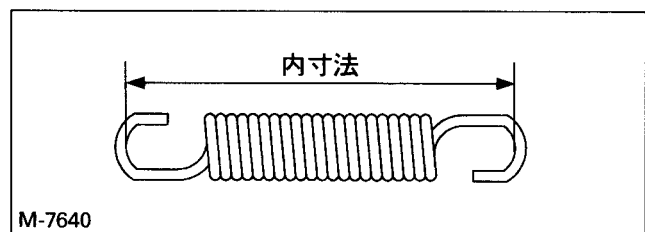
*ベルトは必ずクボタ純正のものを使用してください。

◆調整

ベルトが伸びているとき(スリップが発生しやすい)は、張り調整を行なってください。

補 足

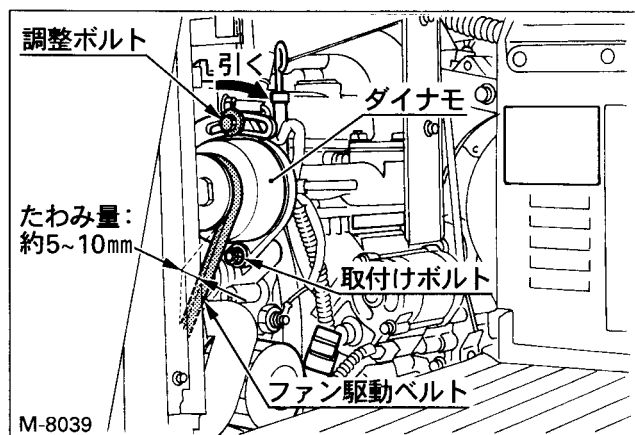
*スプリングの取付け長さは、フックの内寸法を測定してください。



●ファン駆動ベルト

ベルトのたわみ量を約5～10mmに調整します。

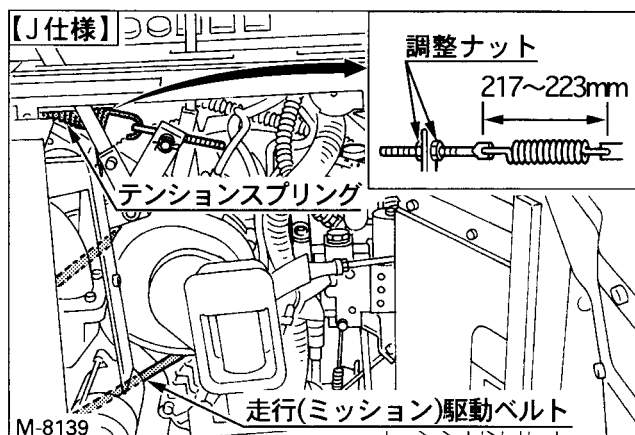
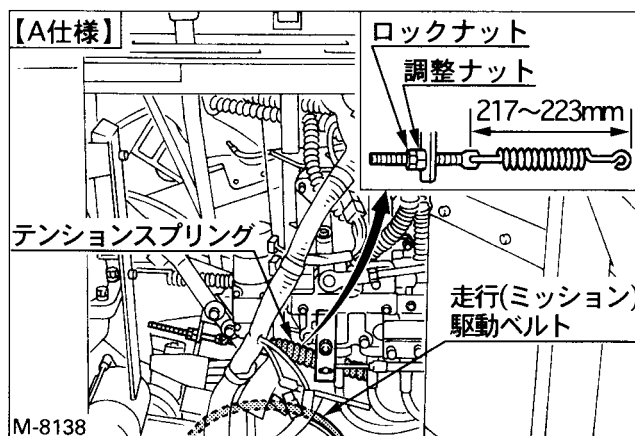
- ①ダイナモの取付けボルトと調整ボルトをゆるめます。
- ②ダイナモを引っ張ります。
- ③調整ボルトを締付けたあと取付けボルトを締付けます。



●走行(ミッション)駆動ベルト

テンションスプリングの長さを217～223mmに調整します。

- ①エンジンルームをオープンしたあと、ステップ左側の側板を開きます。
- ②【A仕様】はロックナットと調整ナット、【J仕様】は調整ナット2箇所をそれぞれゆるめて、調整ナットで調整を行ないます。
- ③ロックナットを締付けたあと、側板を閉じてエンジンルームを閉じます。

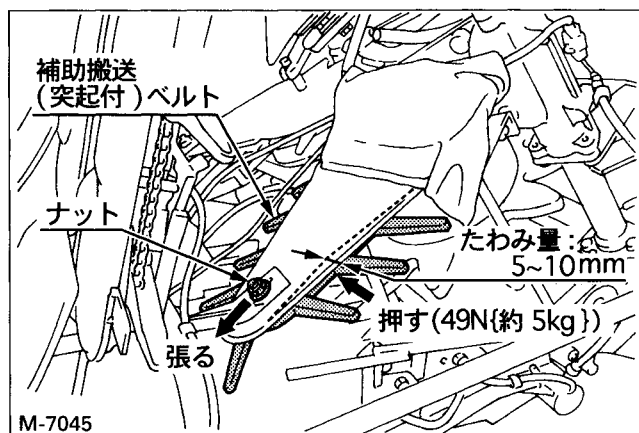


●補助搬送(突起付)ベルト

指先でベルトの中央部を押したとき(49N(約5kg)の荷重)のたわみ量を5~10mmに調整します。

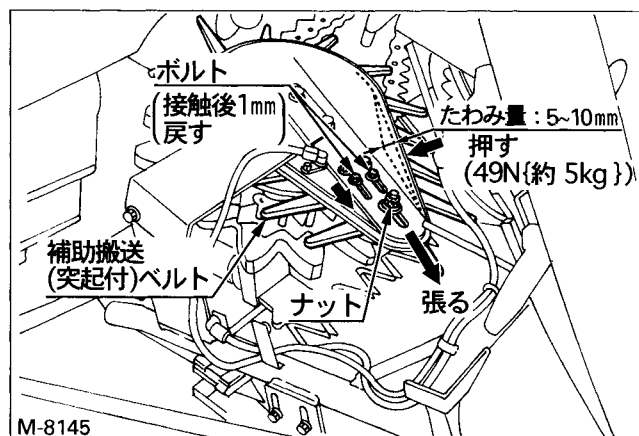
【165・195・215・R218S】

- ①ナットをゆるめます。
- ②張り方向にナット部を前方へ押しながらナットを締付けます。



【M20・M23】

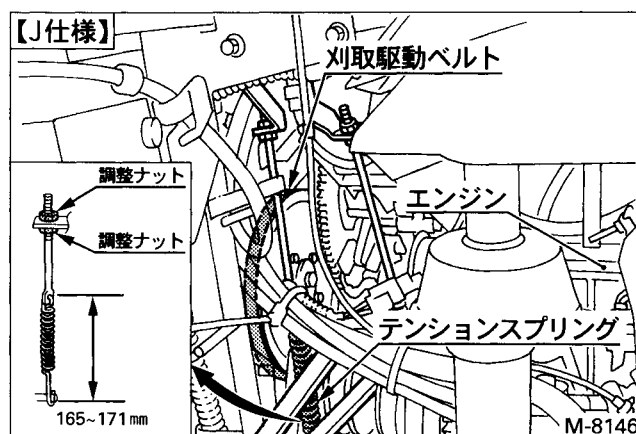
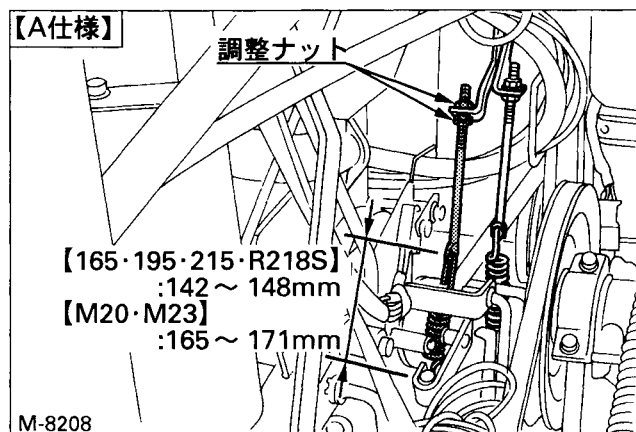
- ①ボルト(2本)とナットをゆるめます。
- ②張り方向にナット部を前方へ押しながらナットを締付けます。
- ③ゆるめたボルト2本を前方へ動かなくなるまで押したあと、少し(約1mm)後方へ動かしてボルト2本を締付けます。



●刈取駆動ベルト

テンションスプリングの長さを142~148【165・195・215・R218S】、165~171【M20・M23】mmに調整します。

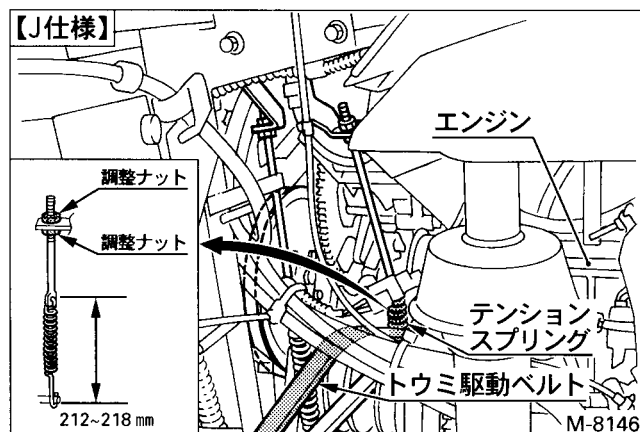
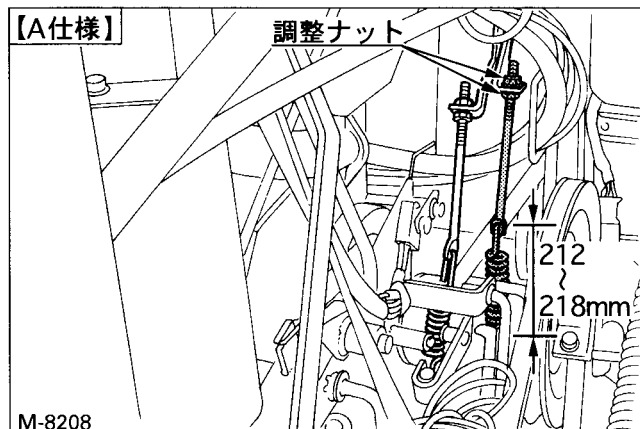
- ①刈取クラッチレバーを“入”位置にします。
- ②エンジンルームをオープンしたあと、ステップ左側の側板を開きます。
- ③調整ナット2個をゆるめて、調整を行ないます。
- ④調整ナットを締付けたあと、側板を閉じてエンジンルームを閉じます。



● トウミ駆動ベルト

テンションスプリングの長さを212～218mmに調整します。

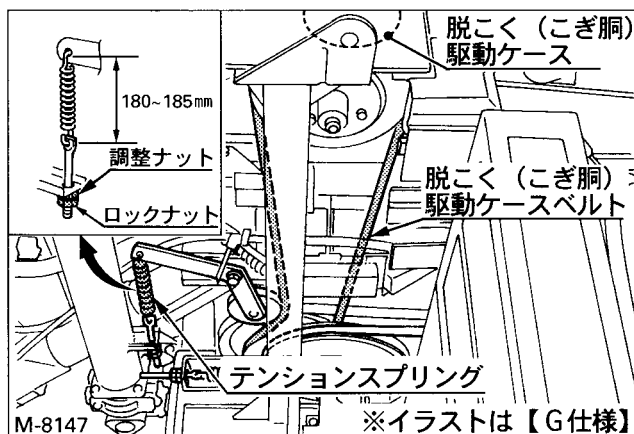
- ① 脱こくクラッチレバーを“入”位置にします。
- ② エンジンルームをオープンしたあと、ステップ左側の側板を開きます。
- ③ 調整ナット2個をゆるめて、調整を行ないます。
- ④ 調整ナットを締付けたあと、側板を閉じてエンジンルームを閉じます。



● 脱こく(こぎ胴)駆動ケースベルト

テンションスプリングの長さを180～185mmに調整します。

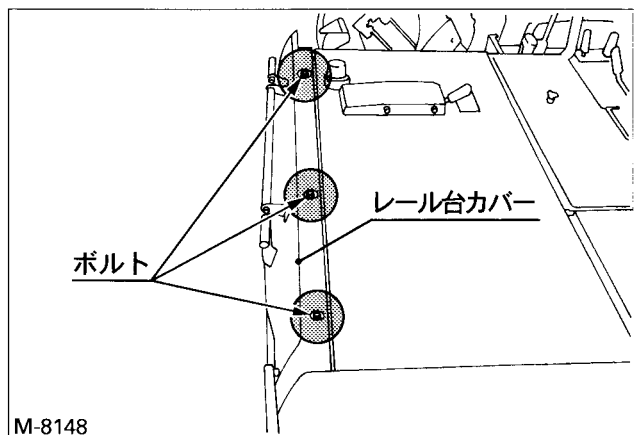
- ① 【ホッパ仕様】は右サイドカバー上・下を取外します。【G仕様】はグレンタンクオープンにします。
- ② ロックナットと調整ナットをゆるめて、調整ナットで、調整を行ないます。
- ③ ロックナットを締付けたあと、【ホッパ仕様】は右サイドカバー上・下を取付けます。【G仕様】はグレンタンクを閉じます。



● 脱こく(こぎ胴)駆動ベルト

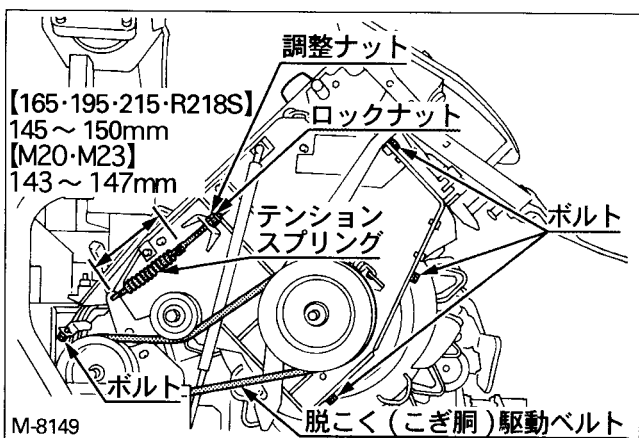
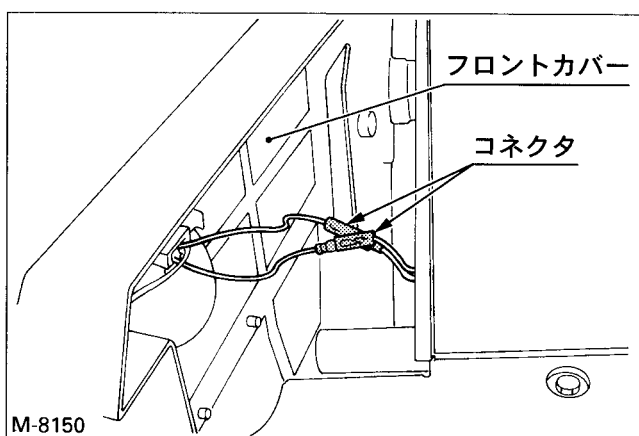
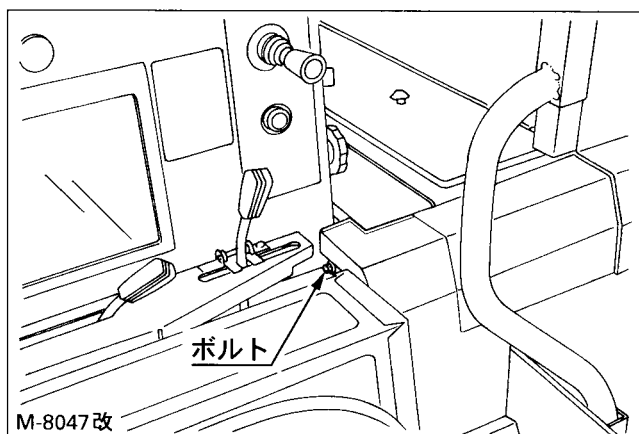
テンションスプリングの長さを145～150【165・195・215・R218S】、143～147【M20・M23】mmに調整します。

- ① 下図のボルト3本を外し、レール台カバーを取外します。



- ② フロントカバーの取付けボルト5本を取外したあと、作業灯のコネクタを外します。
- ③ こぎ胴をオープンしてフロントカバーを取外します。
- ④ ロックナットと調整ナットをゆるめて、調整ナットで調整を行ないます。

- ⑤ ロックナットを締付けたあと、フロントカバー及び作業灯のコネクタを取付けます。

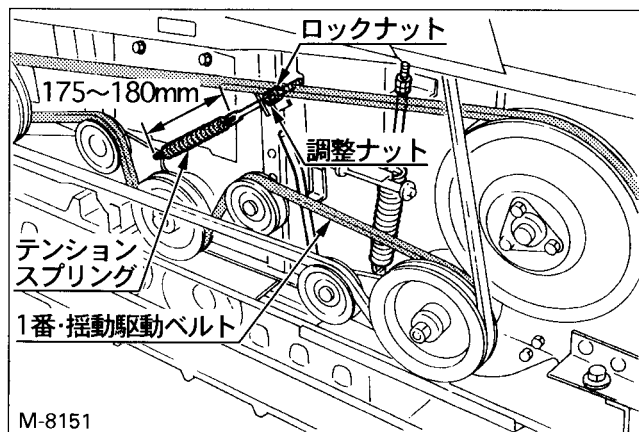


- ⑥ ボルト3本でレール台カバーを取付けます。

● 1番・揺動駆動ベルト

テンションスプリングの長さを175～180mmに調整します。

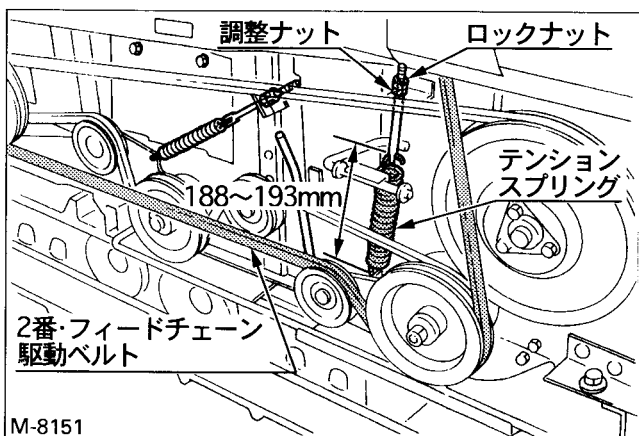
- ① 左サイドカバー上・下を取外します。
- ② ロックナットと調整ナットをゆるめて、調整ナットで調整を行ないます。
- ③ ロックナットを締付けたあと、左サイドカバー上・下を取付けます。



● 2番・フィードチェーン・駆動ベルト

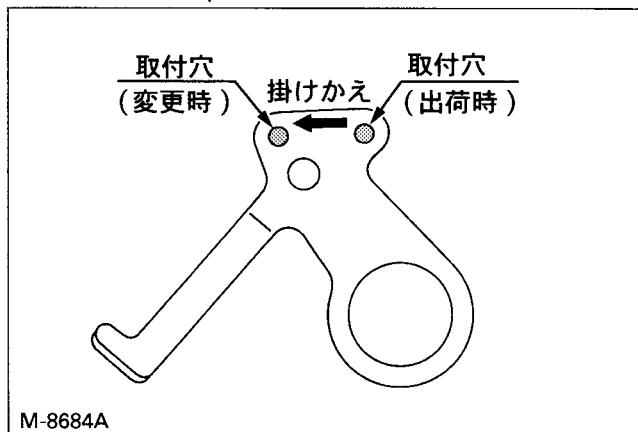
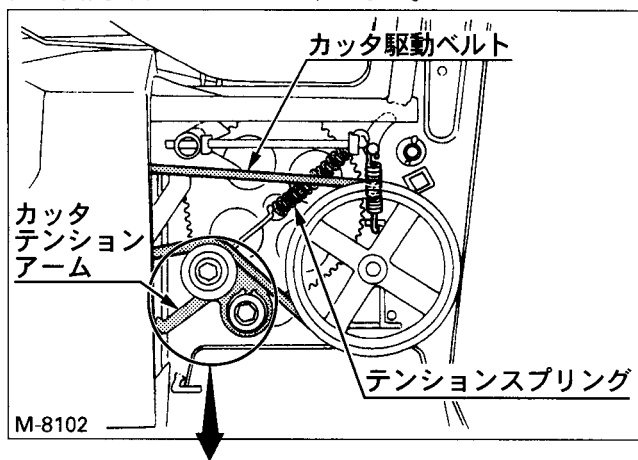
テンションスプリングの長さを188～193mmに調整します。

- ① 左サイドカバー上・下を取外します。
- ② ロックナットと調整ナットをゆるめて、調整ナットで調整を行ないます。
- ③ ロックナットを締付けたあと、左サイドカバー上・下を取付けます。



● カッタ駆動ベルト

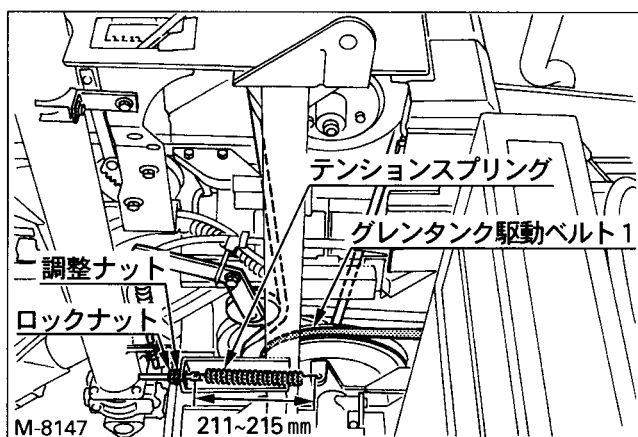
ベルトの張りが弱いときは、テンションスプリングを取付けているカッタテンションアーム側の取付穴の位置を変更(掛けかえ)してください。



● グレンタンク駆動ベルト 1【G仕様】

テンションスプリングの長さを211~215mmに調整します。

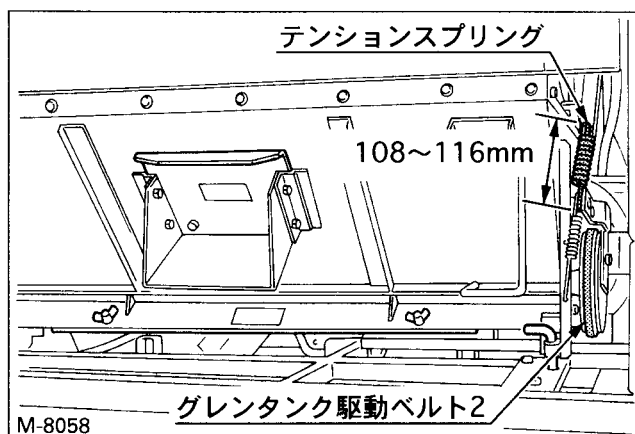
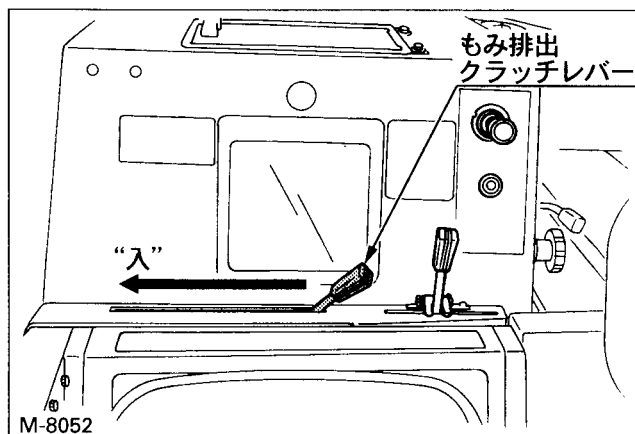
- ① グレンタンクオープンを行います。
- ② 調整ナット2個をゆるめて、調整を行ないます。
- ③ 調整ナットを締付けたあと、グレンタンクを閉じます。



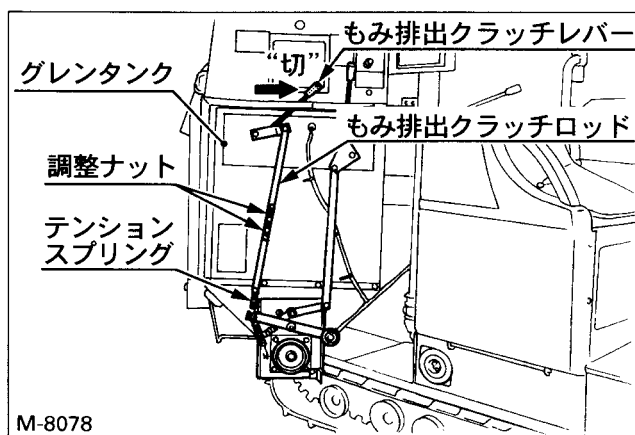
● グレンタンク駆動ベルト 2【G仕様】

テンションスプリングの長さを108~116mmに調整します。

- ① もみ排出クラッチレバーを“入”位置にします。
- ② カバー(タンク下)を取外します。
- ③ テンションスプリングの長さを測定します。



- ④ 規定値(108~116mm)から外れているときはグレンタンクをオープンしたあと、もみ排出クラッチレバーをいったん“切”位置にします。
- ⑤ もみ排出クラッチロッド中間位置にある2箇所の調整ナットをゆるめて、調整を行ないます。



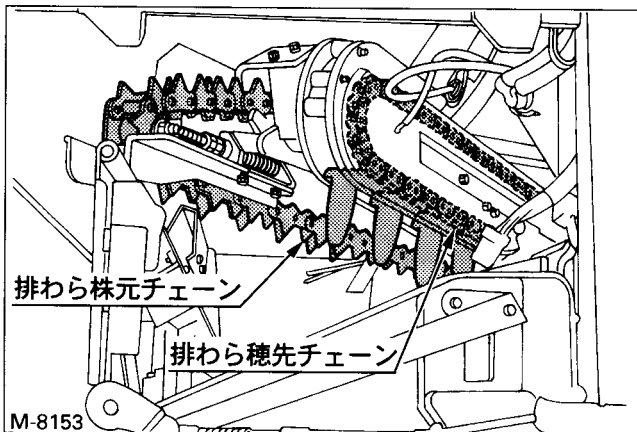
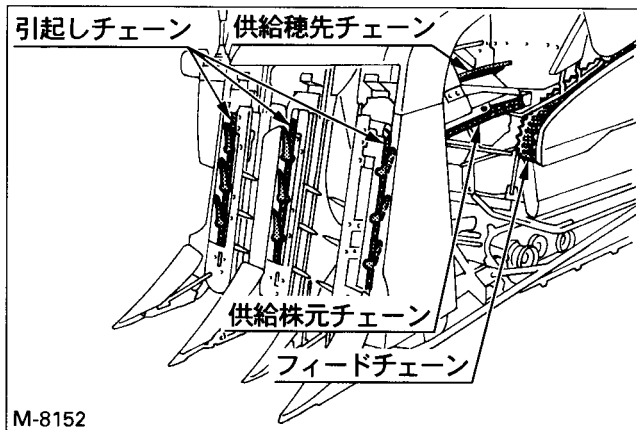
- ⑥ 2箇所の調整ナットを締付けたあと、グレンタンクを閉じてグレンタンク駆動ベルト2を取付けます。
- ⑦ もみ排出クラッチレバーを“入”位置にしてテンションスプリングが規定値になっていることを確認します。

■各部チェーンの点検・調整

◆点検

各部のチェーンを点検して、ゆるみがあるときは調整してください。

●点検箇所

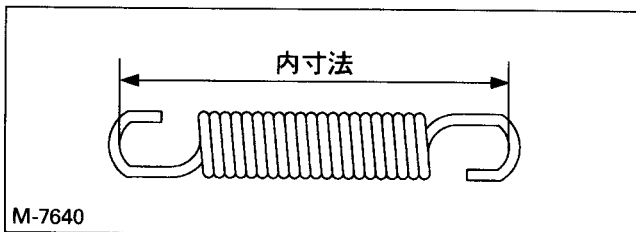


◆調整

チェーンが伸びているときは、張り調整を行なってください。

補 足

* スプリングの取付け長さは、フックの内寸法を測定してください。

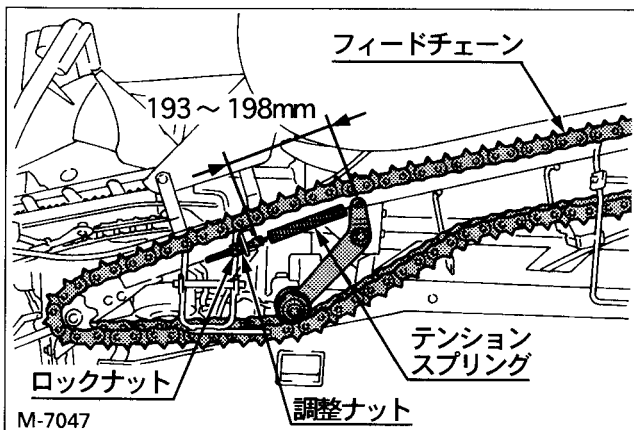


●フィードチェーン

[165・195・215・R218S]

テンションスプリングの長さを193～198mmに調整します。

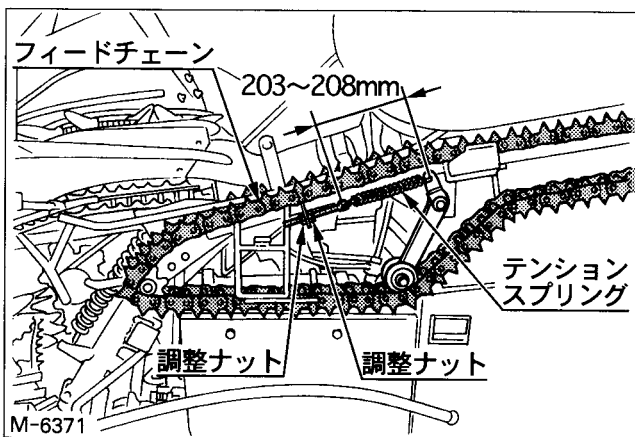
- ① 左サイドカバー上を取外します。
- ② ロックナットと調整ナットをゆるめて、調整ナットで調整します。
- ③ ロックナットを締付けたあと、左サイドカバー上を取付けます。



[M20・M23]

テンションスプリングの長さを203～208mmに調整します。

- ① 左サイドカバー上を取外します。
- ② 調整ナット2個をゆるめて調整します。
- ③ 調整ナットを締付けたあと、左サイドカバー上を取付けます。

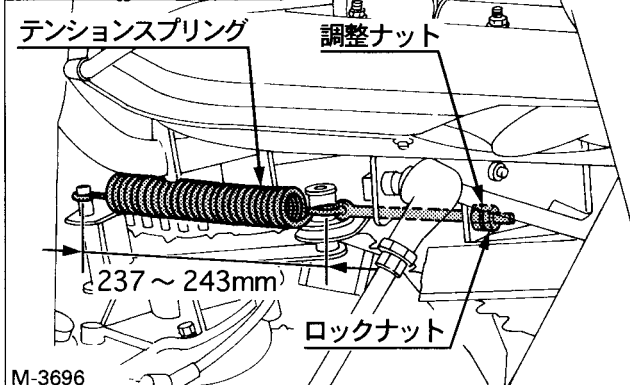


●供給株元チェーン

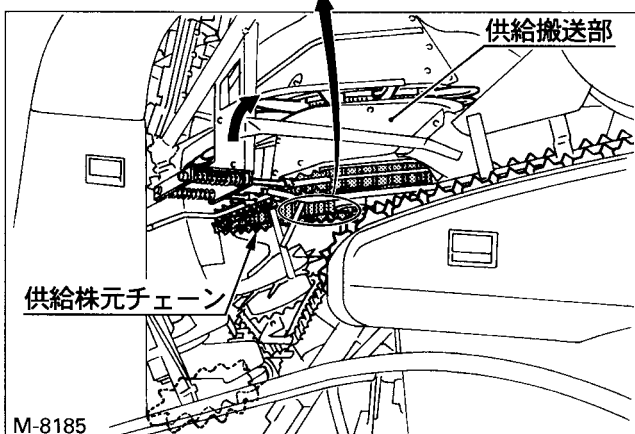
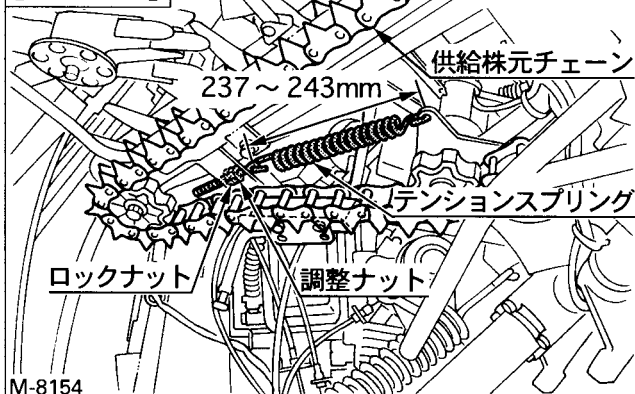
テンションスプリングの長さを237～243mmに調整します。

- ①供給搬送部をこぎ深さ手動スイッチで最上位置にします。
- ②供給搬送部の下面にあるテンションスプリングのロックナットと調整ナットをゆるめて、調整ナットで調整します。
- ③ロックナットを締付けます。

【165・195・215・R218S】



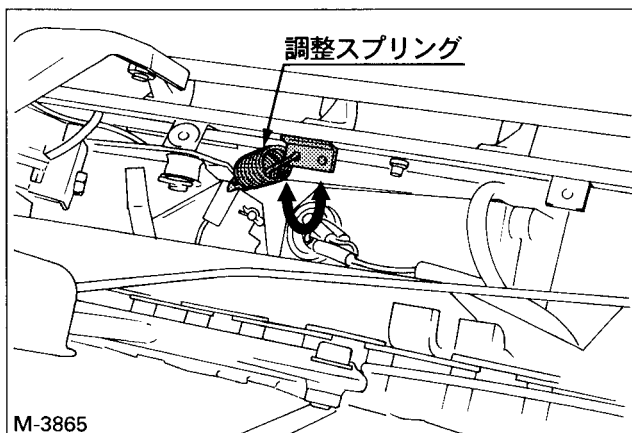
【M20・M23】



●供給穂先チェーン

【165・195・215・R218S】

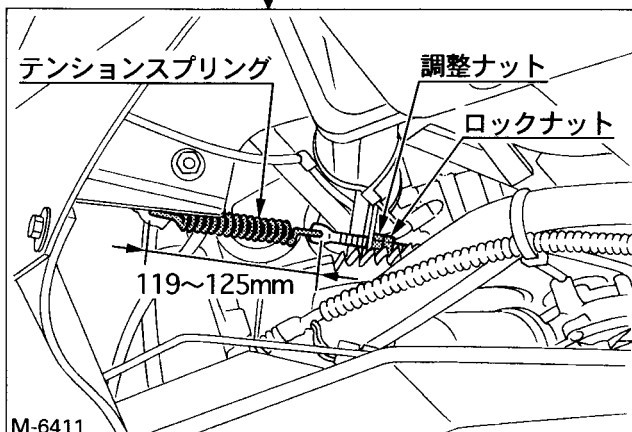
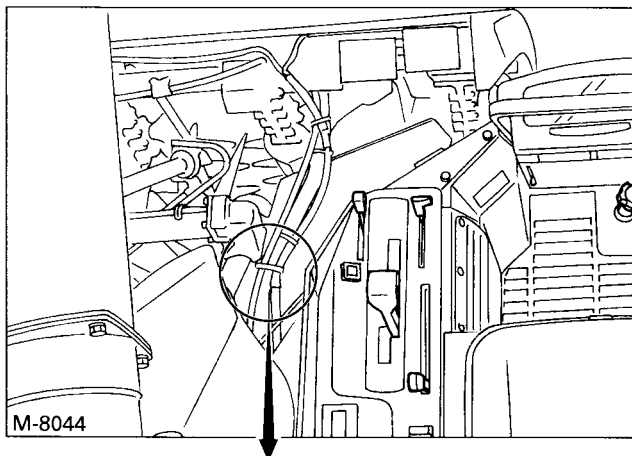
チェーンが伸びてきたら、調整スプリングのフックを掛ける穴位置を変更してください。



【M20・M23】

テンションスプリングの長さを119～125mmに調整します。【HD】仕様は防じんカバーを上げてください。

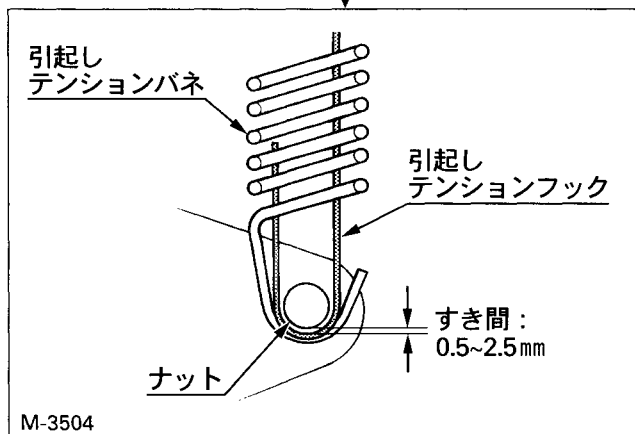
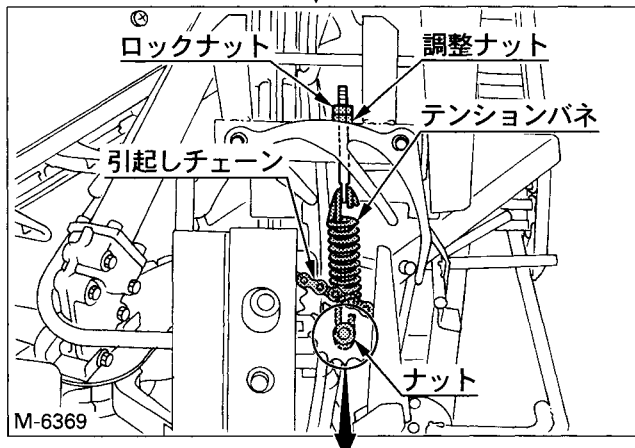
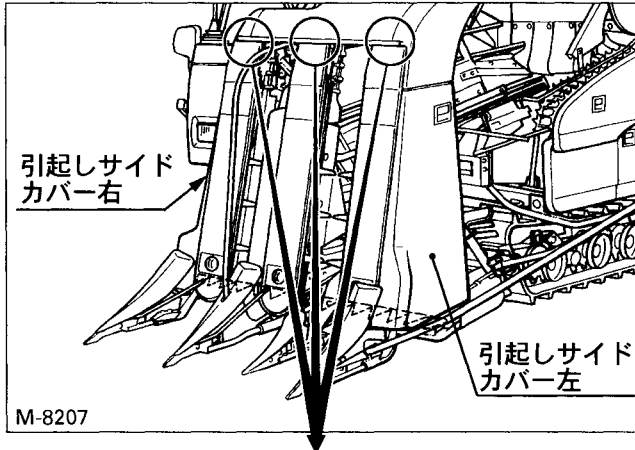
- ①供給搬送部をこぎ深さ手動スイッチで最上昇位置にします。
- ②ロックナットと調整ナットをゆるめて、調整ナットで調整します。
- ③ロックナットを締付けます。



● 引きしチェーン

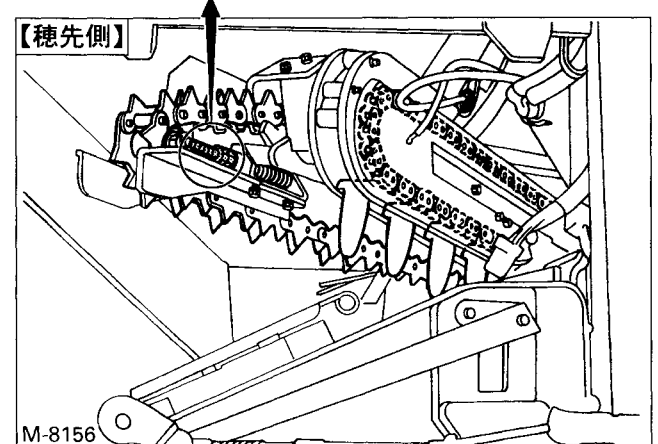
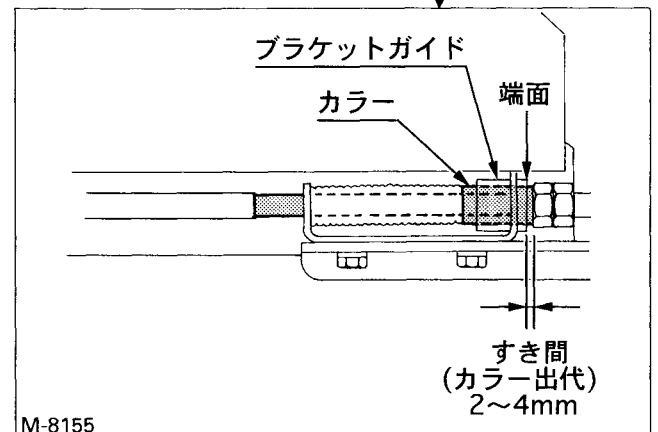
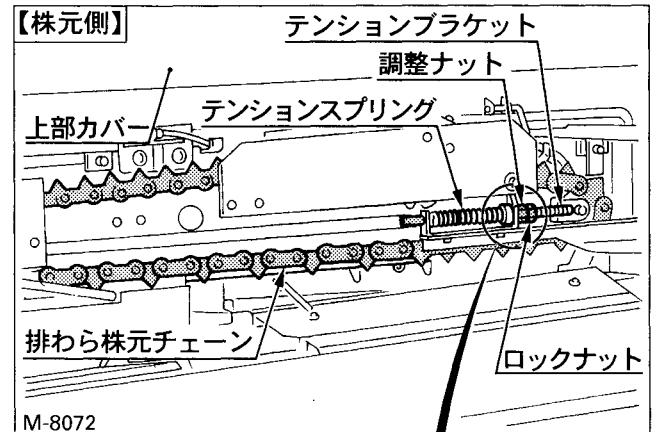
引きしテンションフックとナットのすき間を0.5～2.5mmに調整します。左・右の引きしチェーンの調整を行なうときは、引きしサイドカバー左・右を取外してください。

- ① ロックナットと調整ナットをゆるめて、調整ナットで調整します。
- ② ロックナットを締付けます。



● 排わら株元チェーン

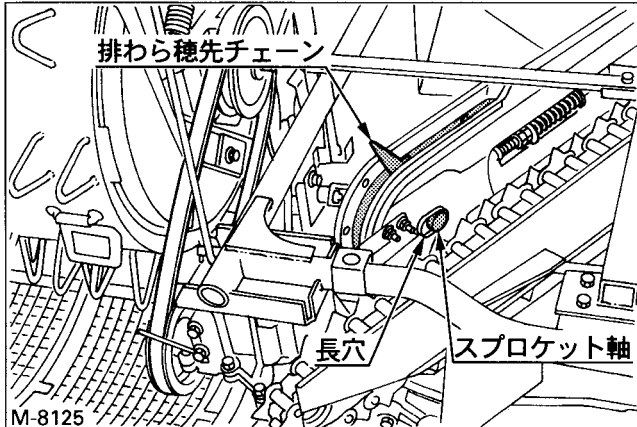
- ① カッタ上部カバーを上げて、ステーで落下防止をします。
 - ② テンションブラケットを取付けているブラケットガイドの端面と調整ナットのすき間(カラーの出代)を2～4mmに調整します。調整は株元側と穂先側が連結しているため同時に行ないます。
- (1) ロックナットと調整ナットをゆるめて、調整ナットで調整を行ないます。
- (2) ロックナットを締付けます。



- ④ カッタ上部カバーを閉じます。

●排わら穂先チェーン

排わら穂先チェーンの張り調整は自動(自動テンション)で行ないますが、チェーンが伸びてスプロケット軸が長穴の終端の位置になったときは、販売店に連絡してください。



■刈刃の点検・調整【165・195・215・R218S】



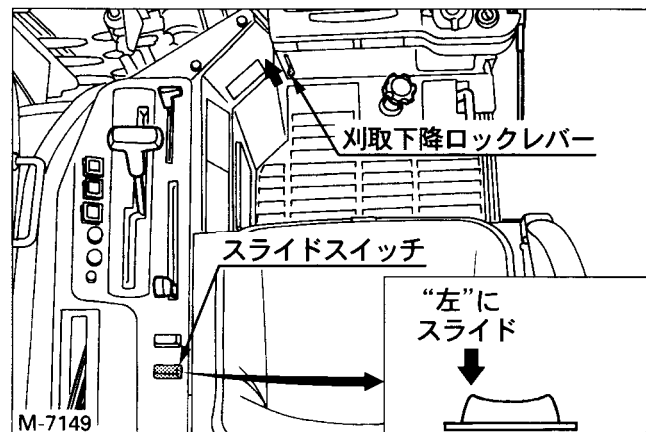
注意

- * 平たんな場所で刈取部を上げて、刈取り下降ロックレバーを“ロック”位置にして刈取部を必ずロックし、落下防止の歯止めをしてください。
- * 刃部に手を掛けないでください。不用意に歯が動くと危険です。
- * 脱着作業は手袋をしてください。

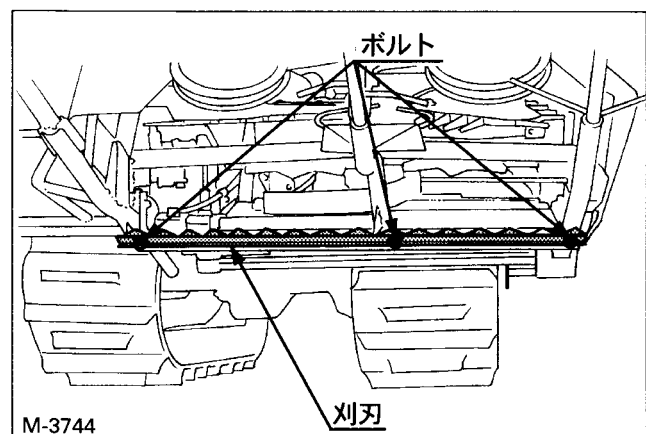
刈刃の刃先が磨耗してきたり、欠けてくると作物の刈跡が悪くなったり、引抜きを起こすことがありますので、早目の点検・調整・交換を行なってください。

◆点検・取外し

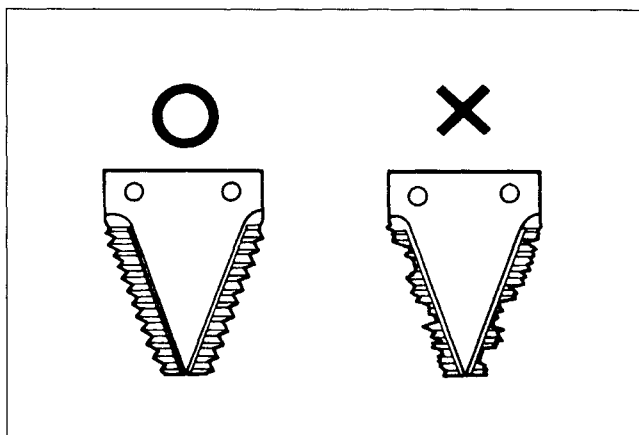
- ① 引起しサイドカバー左・右を取外します。
- ② パワーステアリングレバー操作で刈取部を上昇させたあとエンジンを停止し、刈取下降ロックレバーを“ロック”位置にします。
- ③ 刈取スライドスイッチで刈取部を左側いっぱいまでスライドします。



- ④ 刈刃フレームに締付けているボルト3本を取外します。



- ⑤ 刈刃の刃先と刈刃の動きを確認し、動きがかたいときは、注油、グリース塗布やすき間調整を行ないます。また、刃先が磨耗したり、欠けているときは購入先に連絡して交換してください。



◆すき間調整

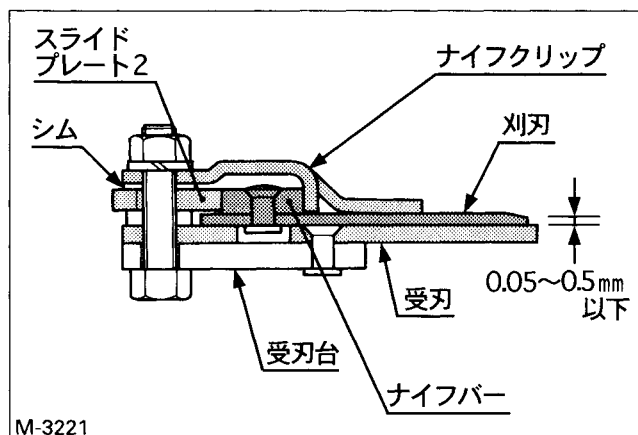
すき間を測定するときは、すき間ゲージを使用してください。

- ① ボルト・ナットを取外してナイフクリップ(4箇所)を受刃台から外します。

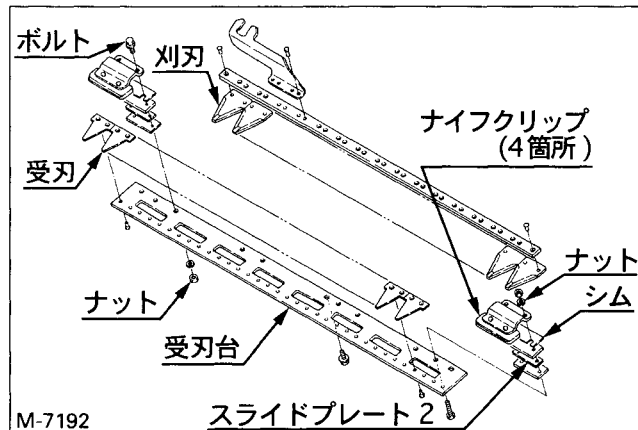
補 足

* 刈刃に付着している泥(土)を掃除して取除いてください。

- ② ナイフクリップとスライドプレートにあるシムを増減して調整したあと、ボルト・ナットを締付けたときの刈刃と受刃のすき間を0.05~0.5mmに調整します。

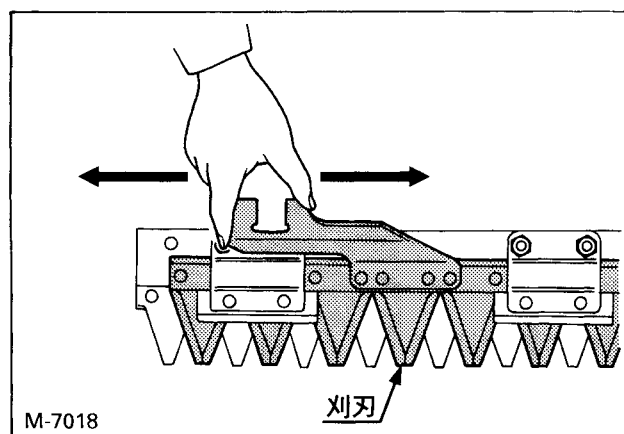


M-3221



M-7192

- ③ すき間調節が終わったら、左右の刈刃が手で動くことを確認します。



M-7018

◆取付け

取外しの逆の手順で取付けます。

■刈刃の点検・調整【M20・M23】

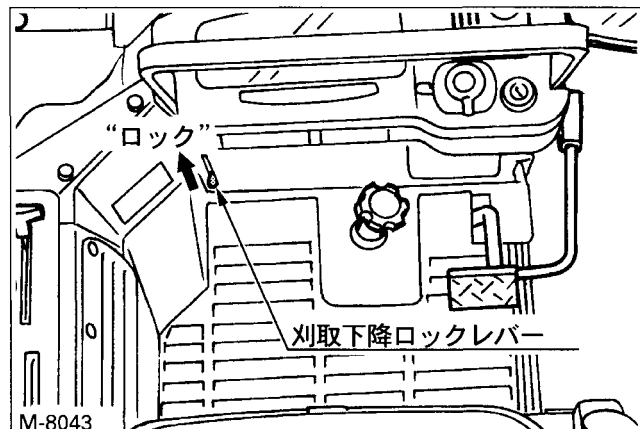


- * 平たんな場所で刈取部を上げて、刈取り下降ロックレバーを“ロック”位置にして刈取部を必ずロックし、落下防止の歯止めをしてください。
- * 刃部に手を掛けしないでください。不用意に歯が動くと危険です。
- * 脱着作業は手袋をしてください。

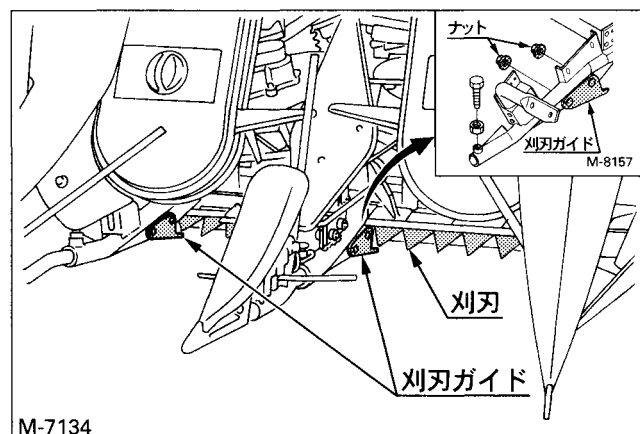
刈刃の刃先が磨耗してきたり、欠けてくると作物の刈跡が悪くなったり、引抜きを起こすことがありますので、早目の点検・調整・交換を行なってください。

◆点検・取外し

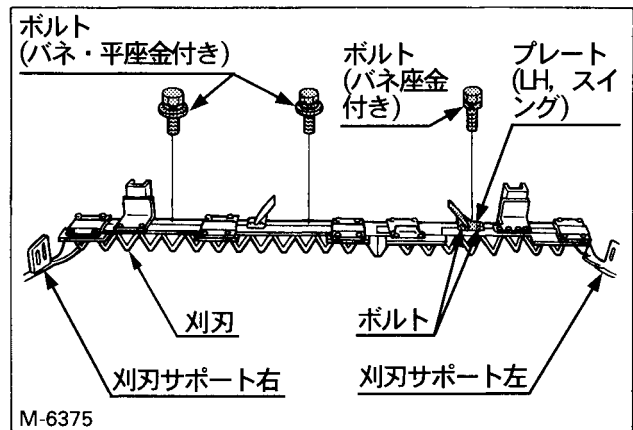
- ① 引起しサイドカバー左・右を取外します。
- ② パワーステアリングレバー操作で刈取部を上昇させたあとエンジンを停止し、刈取下降ロックレバーを“ロック”位置にします。



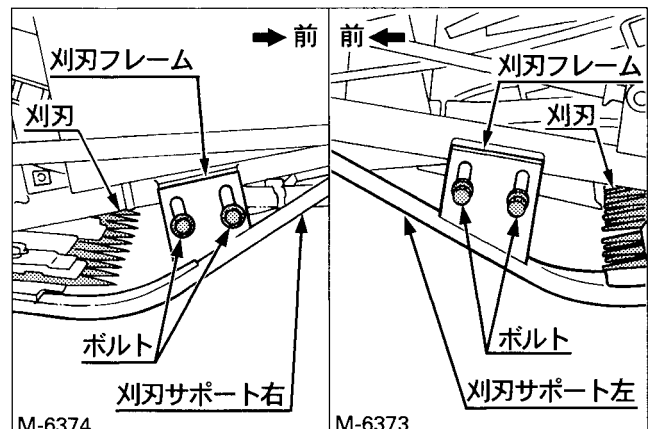
- ③ 刈刃下の刈刃ガイドのナット各2個を外して、刈刃ガイドを取外します。



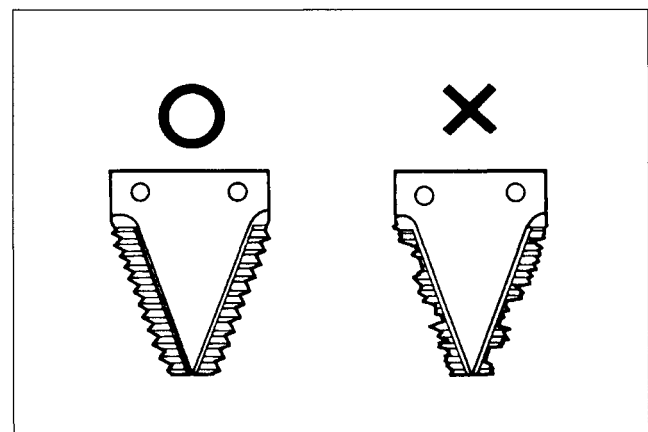
- ④ ボルト2本を取外してプレート(LH, スイング)を外します。
- ⑤ ボルト3本を取外します。



- ⑥ 本機側の刈刃フレームと刈刃完備側の刈刃サポート左・右の取付けボルト各2本をそれぞれ取外し、刈刃完備を取外します。取外すときは、2人作業で刈刃完備の両端を持ちコンクリートなど固い平坦な場所に置いてください。



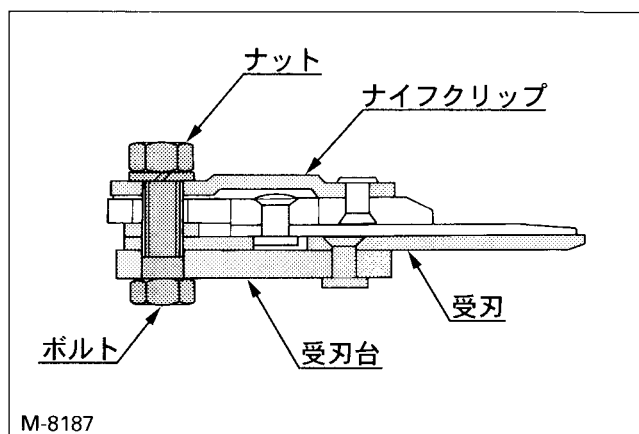
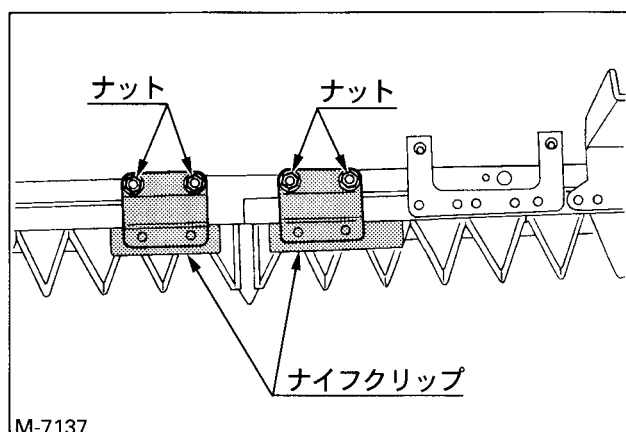
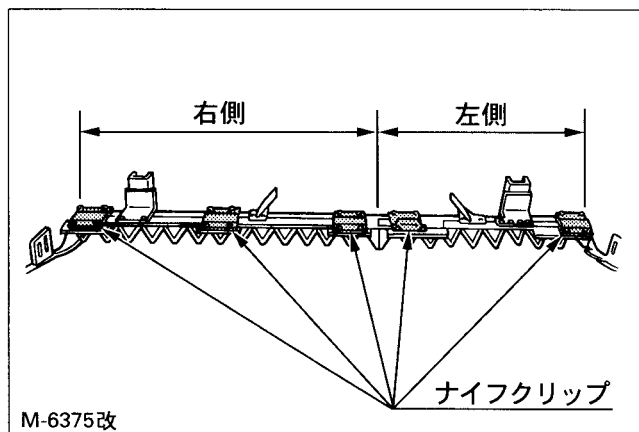
- ⑦ 刈刃の刃先と刈刃の動きを確認し、動きがかたいときは、注油、グリース塗布やすき間調整を行いません。また、刃先が磨耗したり、欠けているときは購入先に連絡して交換してください。



◆すき間調整

調整は刈刃アッシの右側又は、左側のどちらかを行なってからもう片方を行なってください。また、すき間を測定するときは、すき間ゲージを使用してください。

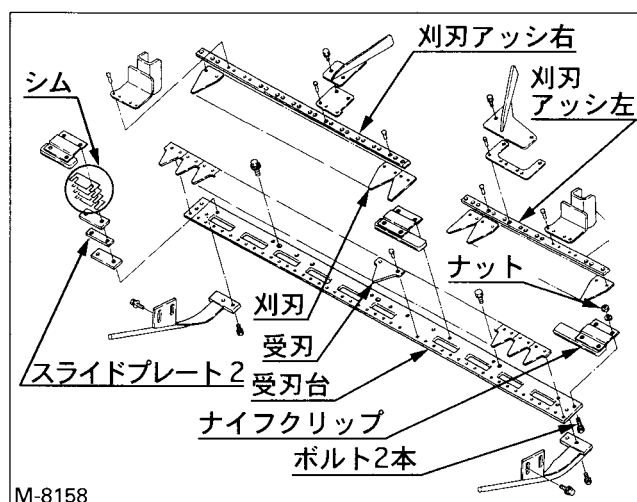
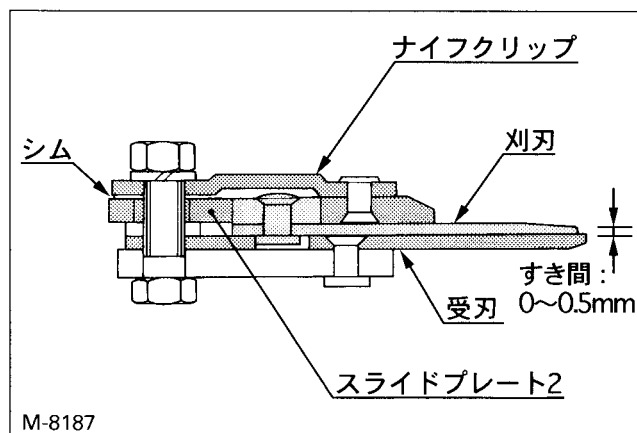
- ① ボルト・ナットを取外してナイフクリップ(右側3箇所、左側2箇所)を受刃台から外します。



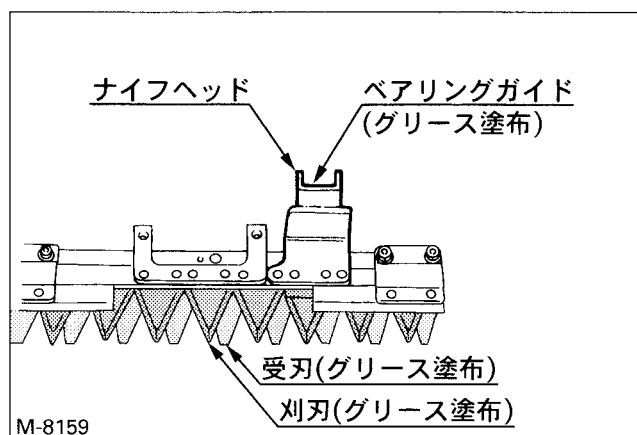
補 足

* 刈刃に付着している泥(土)を掃除して取除いてください。

- ② ナイフクリップとスライドプレート2の間にあるシムを増減して調整したあと、ボルト・ナットを締付けたときの刈刃と受刃のすき間を0～0.5mmに調整します。

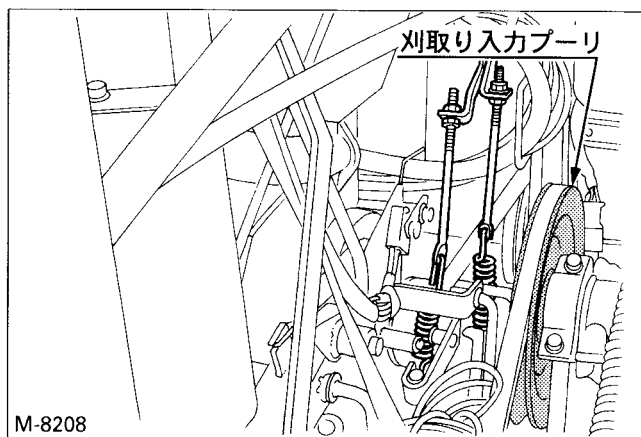
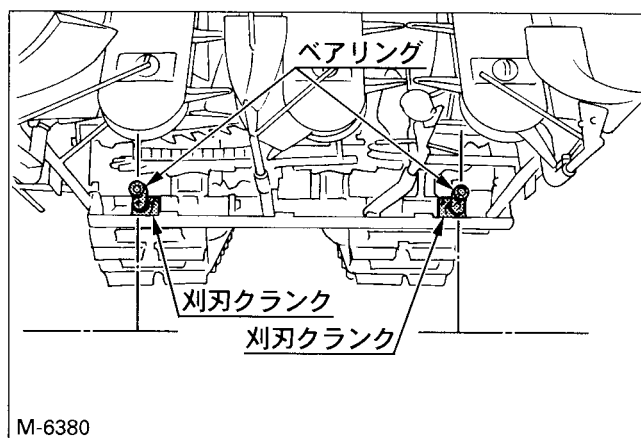


- ③ ナイフヘッドを持ち、刈刃を左、右に動かします。動かないときや軽く動くときは再調整を行ない、異常がなければ受刃、ナイフヘッドのベアリングガイドにグリースを塗布します。



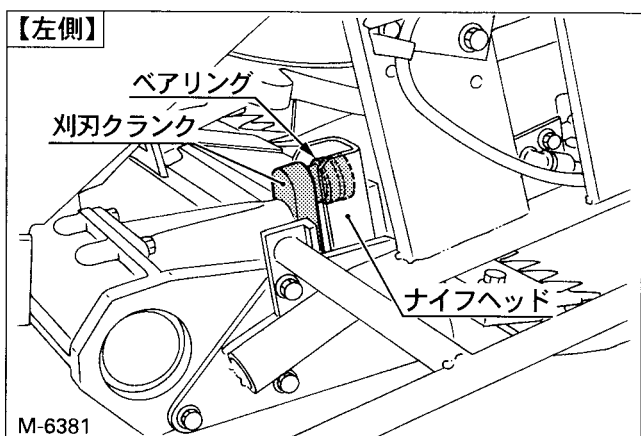
◆取付け

- ① 刈刃クランクのベアリングの位置を刈取入力プーリを回して、地面に対して垂直で上側位置に調整します。

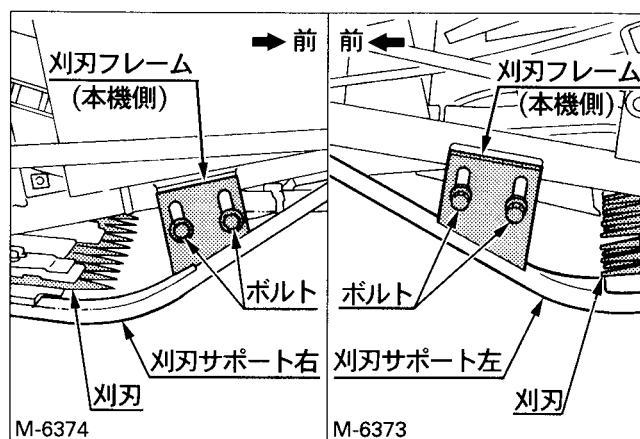


- ② 刈刃完備を本機側に取付けます。

- (1) 2人作業で刈刃完備の両端部を持上げて、刈刃完備の両端部にあるナイフヘッドを刈刃クランクのベアリングに左・右同時にはめ込みます。

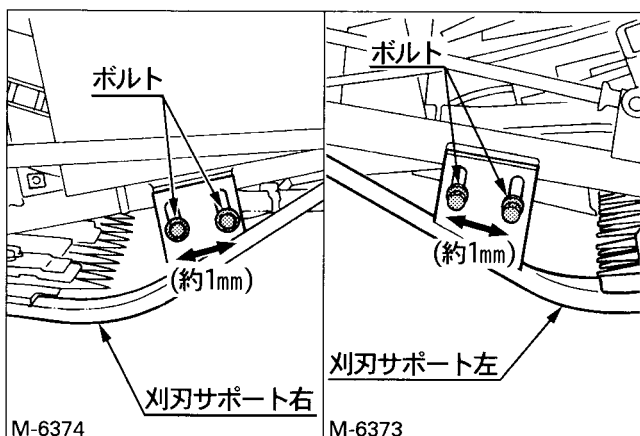
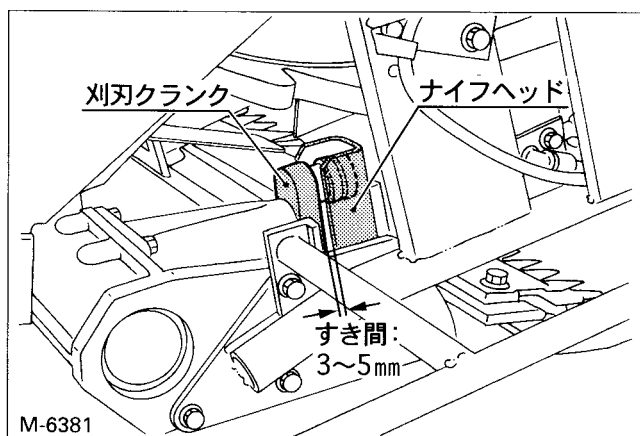


- (2) 本機側の刈刃フレームに刈刃完備の刈刃サポートをボルト各2本で左、右それぞれ取付けます。

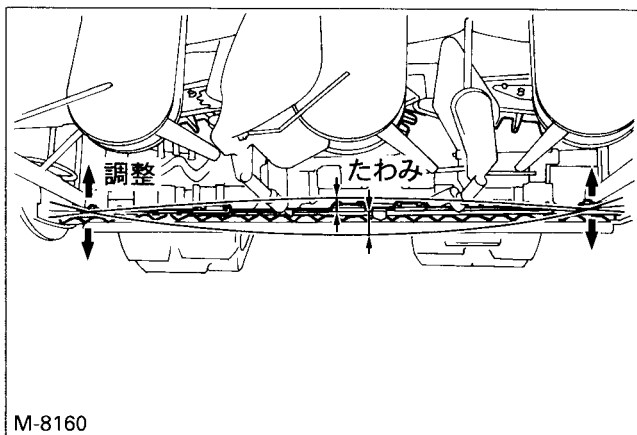


- (3) 刈刃完備を取付けたあと、各部のすき間・刈刃の反りや作動状態を確認し、異常があるときは調整を行います。

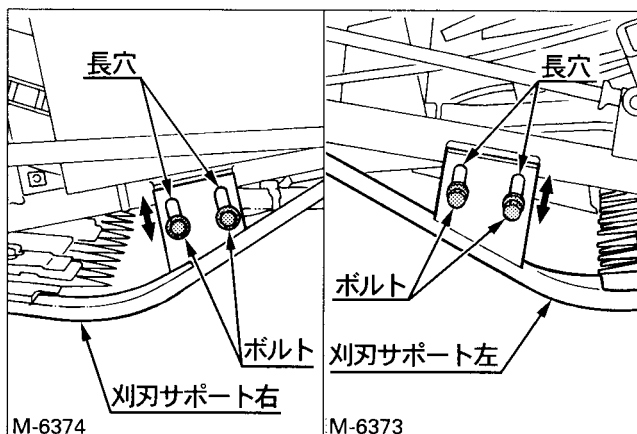
- ナイフヘッドと刈刃クランクのすき間が3～5mmの範囲に入っていることを確認します。範囲から外れているときは、刈刃完備の刈刃サポート左・右の取付けボルト各2本をゆるめて前・後に動かし(約1mm)で調整したあと、取付けボルトを締付けます。



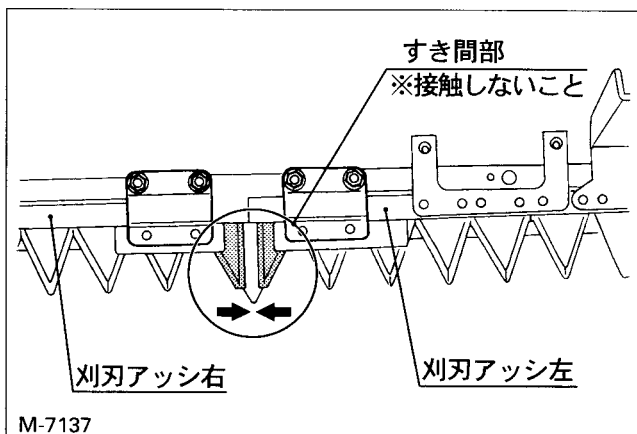
- 刈刃全体の水平方向のたわみ(曲がり)量が多いときは、刈刃サポートのボルト左又は、右2本をゆるめ、刈刃サポートの長穴の範囲内で上・下調整し、調整後はボルトを締付けます。



M-8160



- 刈刃入力プーリを手で回して、刈刃アッシ左・右がお互い反対方向に動き、すき間部で刈刃アッシ左・右が接触していないことを確認します。また、ナイフヘッドと刈刃クランクが接触していないことを確認します。



M-7137

重要

- * 刈刃アッシ左・右が接触しているときやナイフヘッドと刈刃クランクが接触しているときは、故障の原因となりますので販売店へ連絡してください。

- ③ プレート(LH, スイング)及び刈刃ガイド2箇所を組付け方向に注意して取付けます。
- ④ 刈取部を地面に接地させて引起しカバー左、右を取付けます。

■ わら切刃の点検・交換



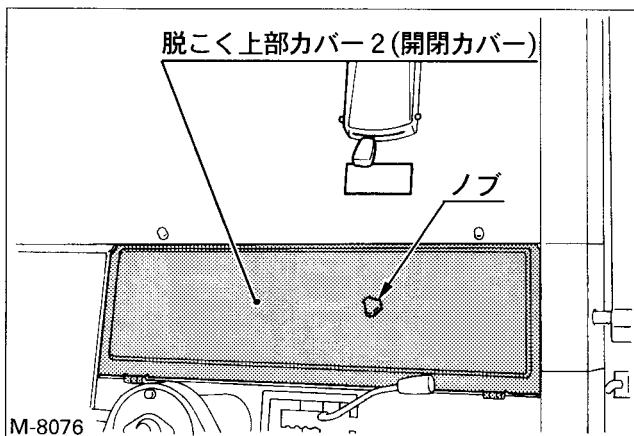
注意

- * 刃部に手を掛けないでください。不用意に刃が動く危険です。
- * 危険ですので、手袋をして、脱着作業をしてください。

わら切刃が切れなくなると、こぎ胴室内に発生するわらくずを細かく切断できなくなるため、わらくずの移動が悪くなります。また、必要以上の動力を消費するばかりでなく、排じん選別室に送られたわらくずがブロワに吸引されにくくなって、2番スクリュに巻きついたり、2番処理胴に詰まったりします。

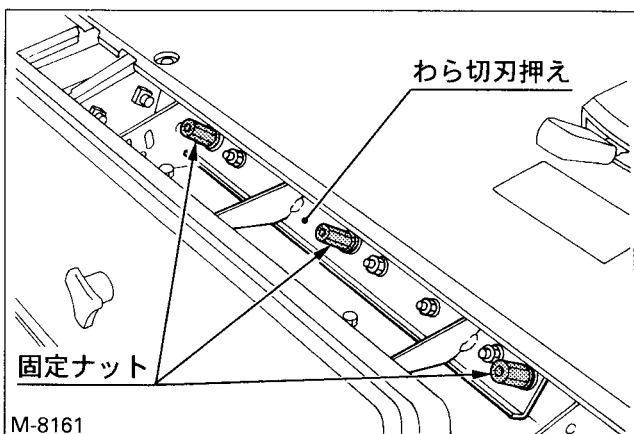
◆ 点検・交換

- ① わら作業切換えレバーを“ドロツパ”位置にします。
- ② 脱こく上部カバー2の開閉カバーのノブを持上げて開きます。



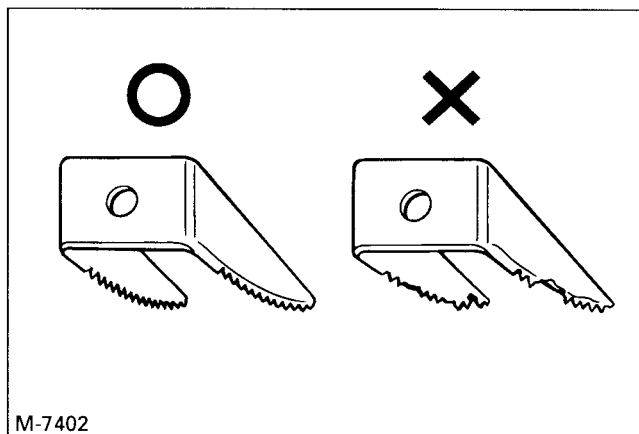
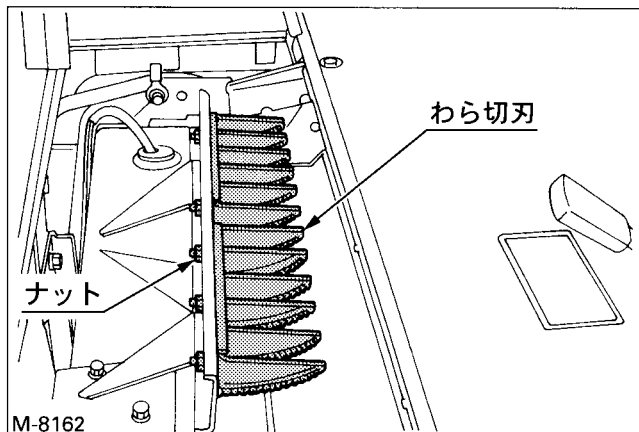
M-8076

- ③ わら切刃押えの固定ナット(左、右両端と中央の3箇所)を取外します。



M-8161

- ④ わら切刃押えを取り出したあと、わら切刃の刃先を確認します。刃先が摩耗したり、欠けているときは交換してください。



◆交換・取付け

- ① 刃先を下側にしてわら切刃押えを差込みます。
- ② 固定ナットを3箇所取付けます。
- ③ 開閉カバーを閉じます。

重 要

* わら切刃を取付けるときは、取付方向や傾きの出ないように注意して取付けてください。

■カッタ部の点検・調整



警 告

* 平たんな場所でエンジンを必ず停止して行なってください。

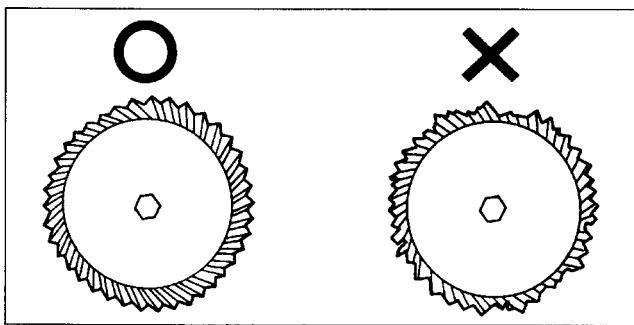
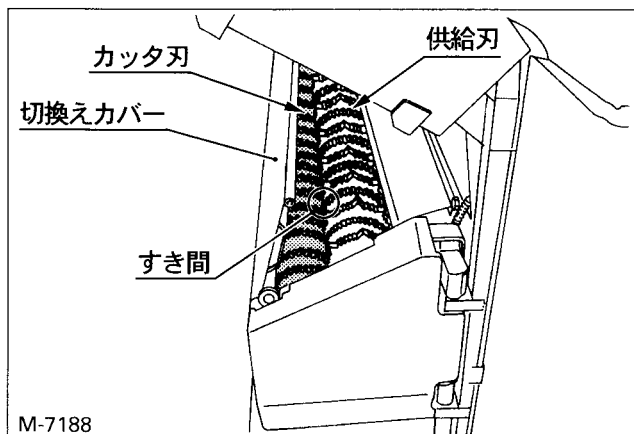
* 手袋を使用し、直接カッタ刃に触れないでください。

補 足

* わらくずなどは取除いてください。

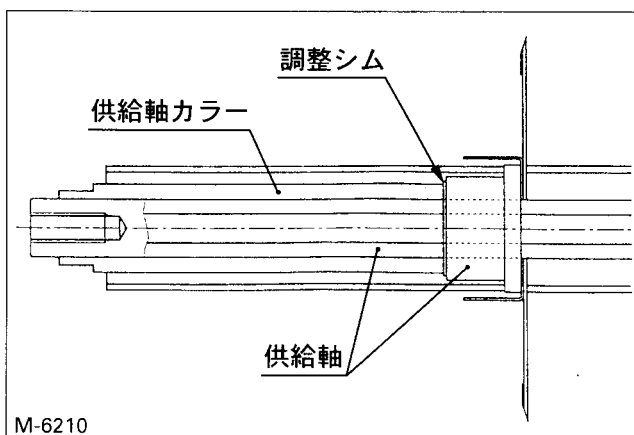
◆点検

- ① 排わら作業切換えレバーを“カッタ”作業位置にして、切換えカバーを開いて切断(カッタ)刃の先や切断(カッタ)刃と供給刃のすきまを確認します。刃先が摩耗したり、欠けているときは交換してください。また、切断(カッタ)刃と供給刃がくっついていたり、離れているときはすきま調整を行ないます。



◆すきま調整

供給軸カラーと供給軸の間に“調整シム”を適宜使用して、すき間を4.5～8.0mmに調整します。



■カッタ刃の交換のしかた



警告

- *カッタ刃を交換するときは、エンジンを必ず止めてください。
- *手袋を使用し、直接カッタ刃に触れないでください。
- *切断軸完備を外すときは、2人でカッタ刃のない両端を持って脱着作業をしてください。

重要

- *軸の締付けトルクは、下記の通りです。確実に締付けてください。

締付けトルク … 49.0～58.8N・m(500～600kgf・cm)

組付け時、刃物・パイプ端面に砂など異物が付着しますと、刃物間寸法が出ない場合がありますので注意してください。

- *軸を垂直に立てて組んでください。組付け後の軸振れが無くなります。

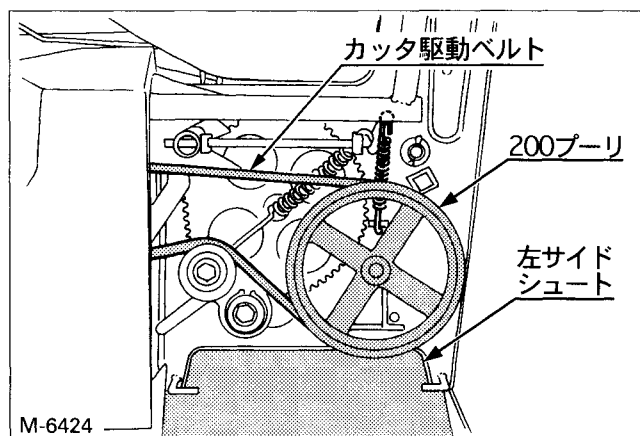
- *刃の向き、組合せが逆にならないよう特に注意してください。

- *組付け後、刃と刃が接触していないか軽く回して確かめてください。

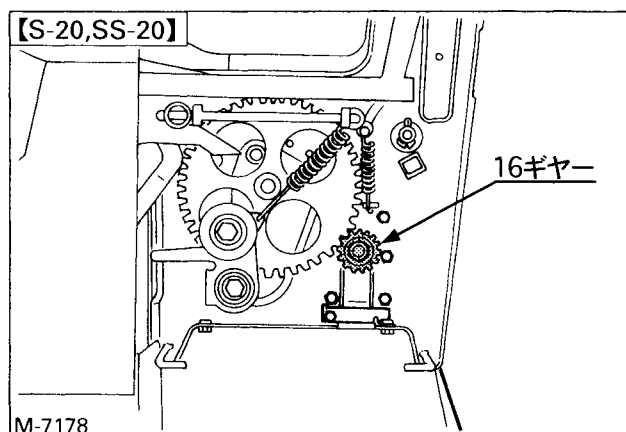
- ①左サイドカバー・右サイドカバー（M6ボルト1個）、左右サイドシュート（M6ボルト各2個）を外します。

- ②カッタ駆動ベルトを外します。

- ③200プーリを外します。（M10ボルト1個）



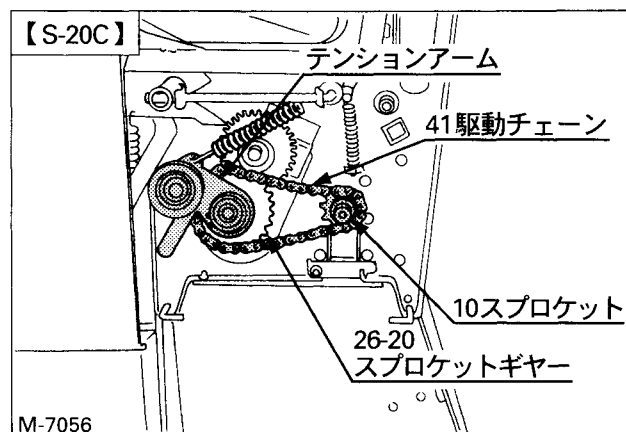
- ④16ギヤーを外します。【S-20, SS-20】



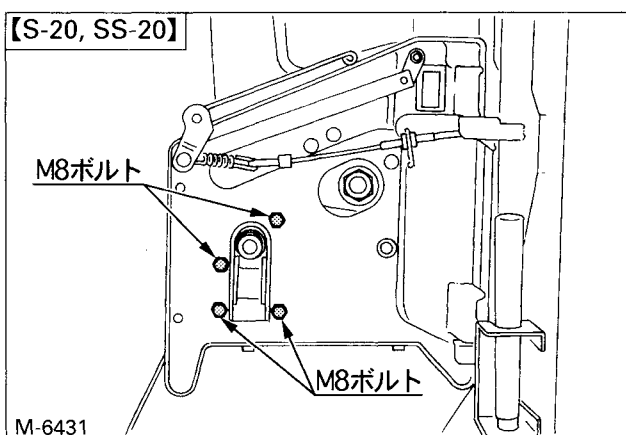
- ⑤テンションアーム・カラー(15-12)を外します。

(M6ボルト1個)

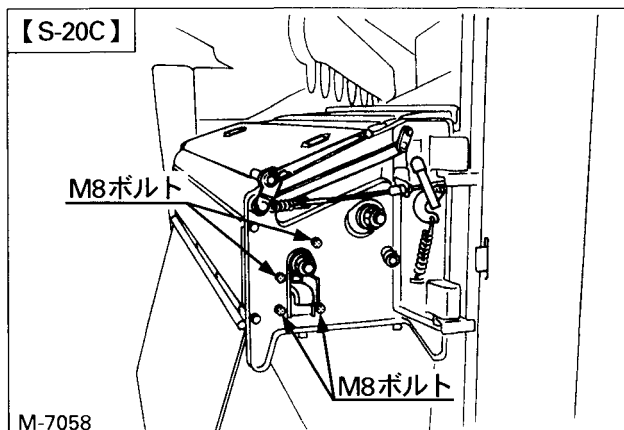
10スプロケット・26-20スプロケットギヤー・41駆動チェーンを外します。【S-20C】



- ⑥穂先側の軸受けのM8ボルトを先に外します。（M8ボルト4個）

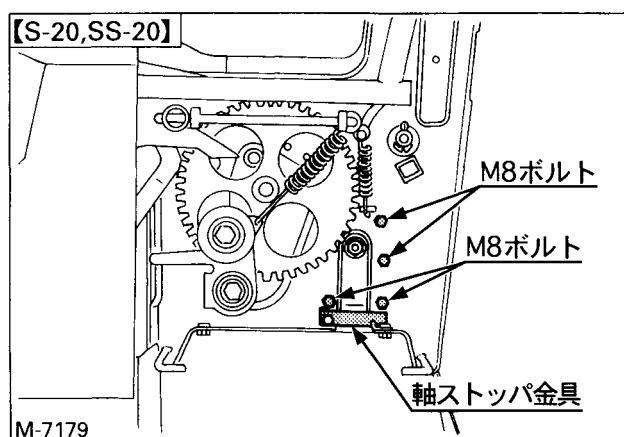


【S-20C】

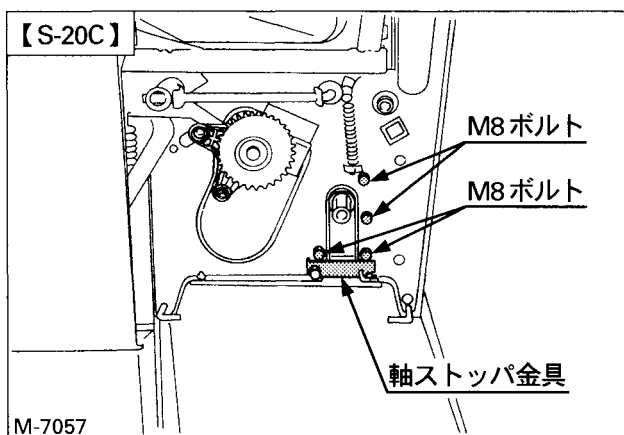


- ⑦ 株元側（伝導側）の軸受けのM8ボルトを後で外します。（M8ボルト4個）

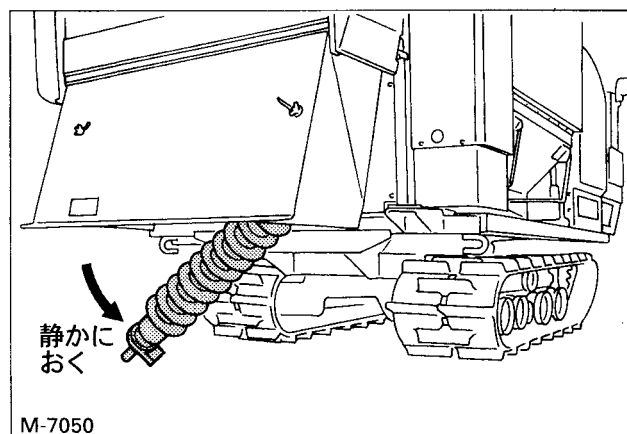
【S-20,SS-20】



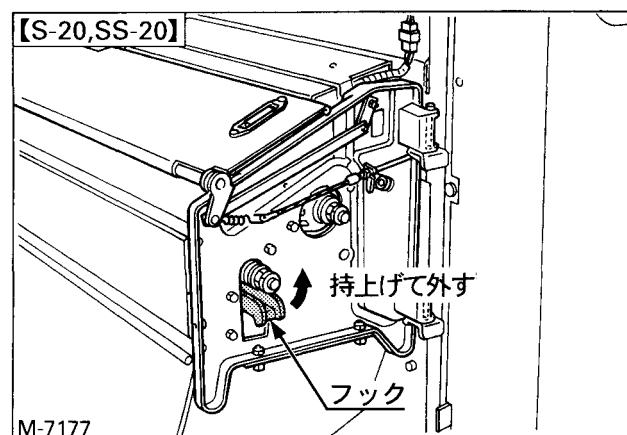
【S-20C】



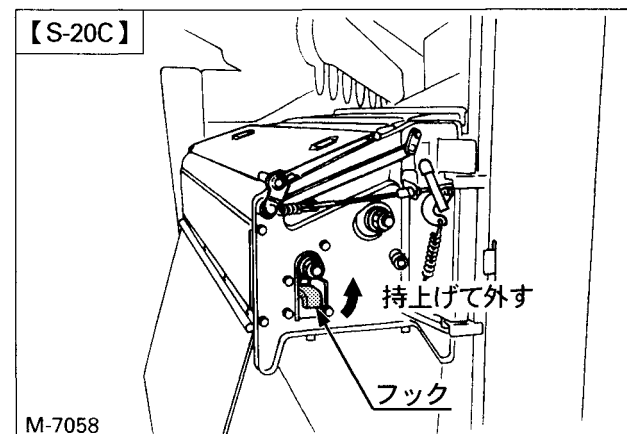
- ⑧ 株元側の軸端を持ち、軸ストッパ金具を上にあげ、軸端を静かに地面におきます。



- ⑨ 穂先側の軸受けフック部をフレームから外し、軸アッシを取出します。

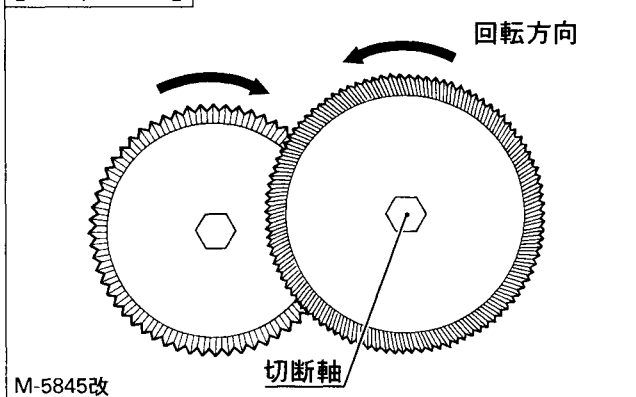


【S-20C】

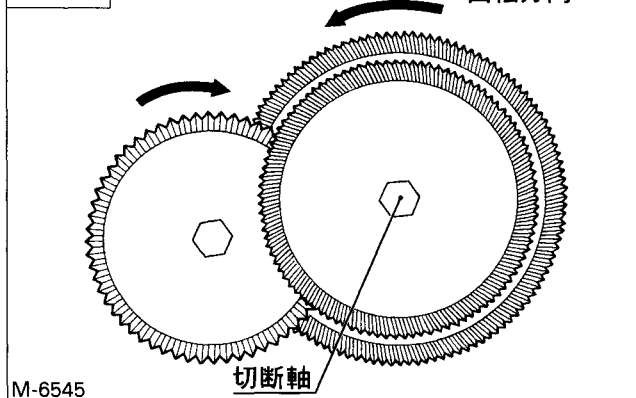


- ⑩軸アッシを安定した所に置き六角ナットをゆるめ、順に分解します。
- ⑪刃の交換ができたなら、分解した順序を間違えないよう組立ててください。
- なお、歯の向きと回転方向は下図のようになります。

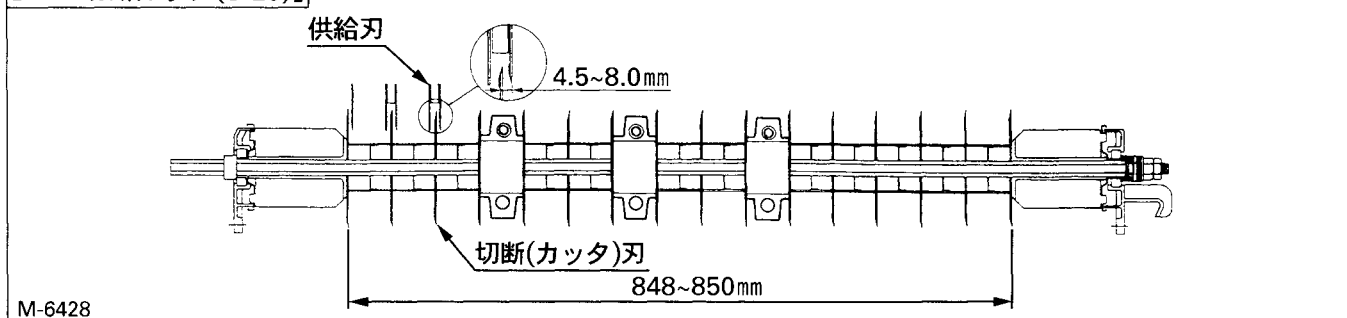
【S-20, SS-20】



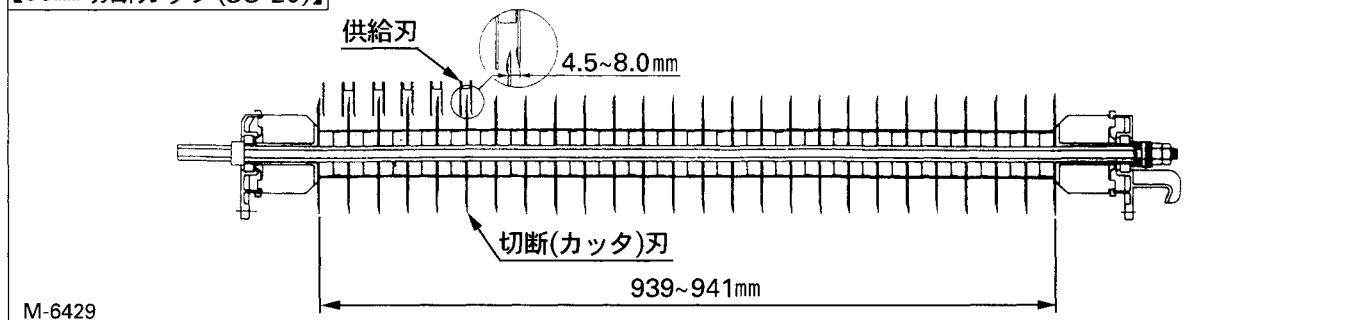
【S20C】



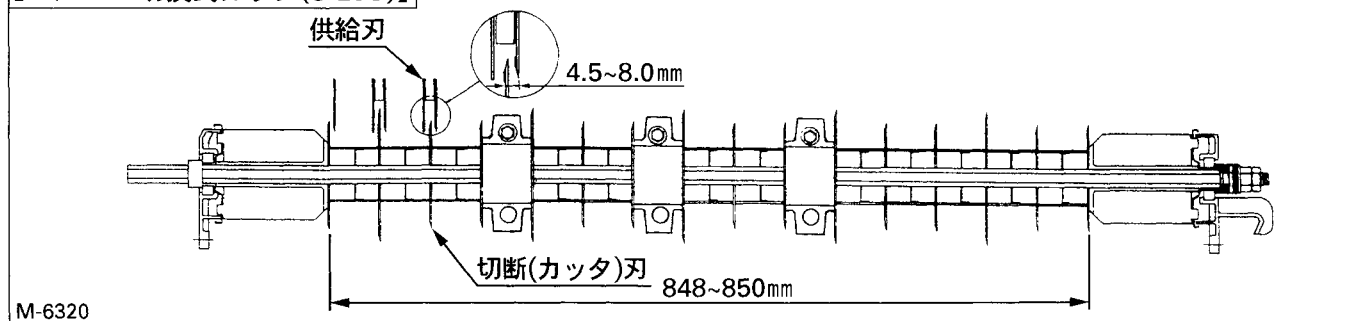
【50mm切断カッタ(S-20)】



【35mm切断カッタ(SS-20)】

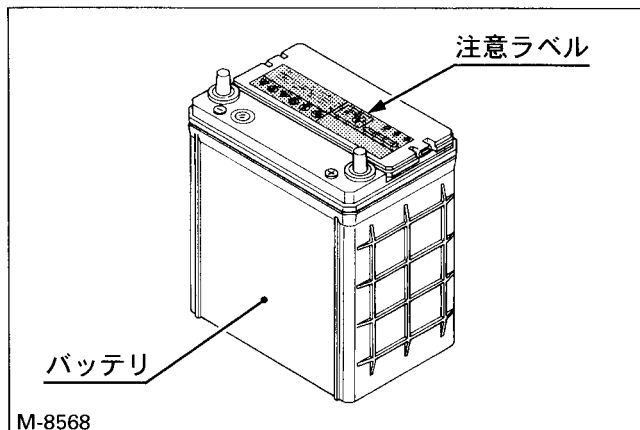


【50/150mm切換式カッタ(S-20C)】



■バッテリーの点検・交換

バッテリー上面に貼ってある取扱いの注意ラベルをよく読んでください。



危険

*バッテリーの近くに裸火(マッチ、ライター、タバコの火など)を近づけたり、⊕端子と⊖端子が金属工具などの接触によって起こるスパークをさせないでください。バッテリーのガスで引火爆発するおそれがあります。

*バッテリーを取扱うときは、必ず保護メガネとゴム手袋を着用してください。バッテリーに入っている電解液(希硫酸)により、失明やヤケドの原因となります。

警告

*バッテリーを乾いた布などで掃除しないでください。静電気により引火爆発するおそれがあります。

補足

*出荷時は、補水不要のバッテリーです。

◆点検



危険

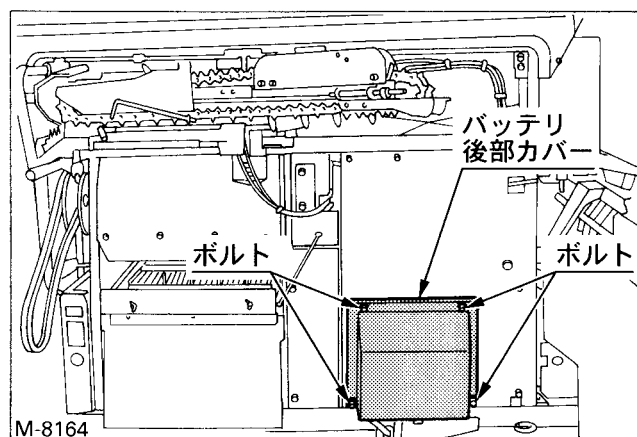
バッテリーが破損や傾いたりして、液もれが発生しているとき……

*バッテリー液が身体や衣服に付かないようにしてください。付着したときは、すぐに水で洗い流してください。電解液(希硫酸)によってヤケドすることがあります。

*バッテリーの電解液(希硫酸)が目に入った場合は、ただちに多量の清水で洗浄したあと、速やかに医師(眼科医)の治療を受けてください。失明の原因となります。

① カッタオープンをします。

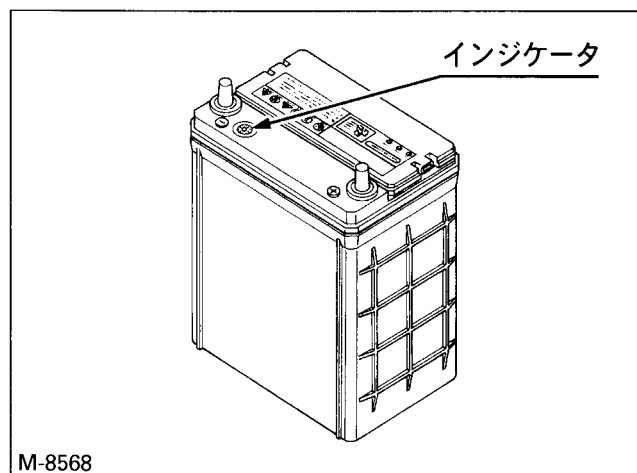
② ボルト4本を取外して、バッテリー後部カバーを取外します。



③ バッテリーの状態を点検し、異常があれば処置します。

(1) バッテリー上面にあるインジケータの色で充電状態を確認します。下表を参照し、処置を行ってください。

表示の色	充電状態	処置
緑	正常	使用可能
黒	放電している	補充電
透明	液減り	交換



補足

*インジケータは真上から確認してください。

- (2) バッテリーが破損して液もれが発生しているときは、交換してください。

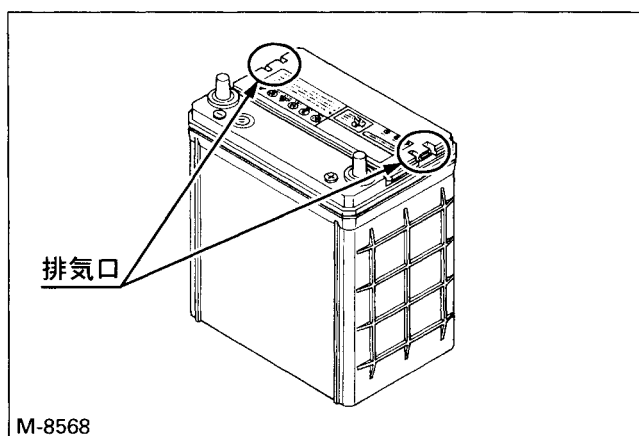
重要

* 液もれが発生すると車体が腐食する原因となります。

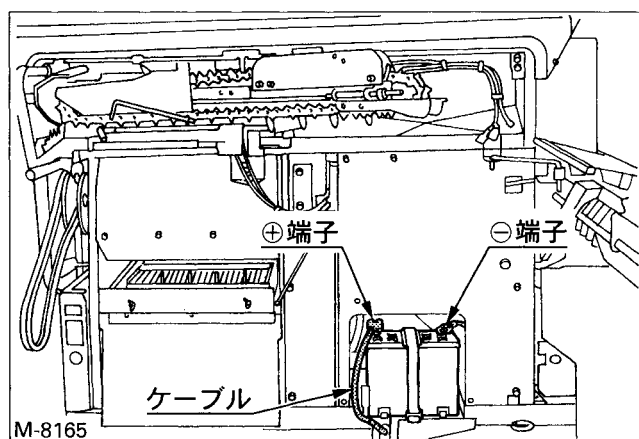
- (3) ふたの排気口にゴミなどが付着しているときは掃除してください。

重要

* 排気口をふさぎますと、バッテリー内部で発生するガスによりバッテリーの内圧が上がり、破損する原因となります。



- (4) バッテリーケーブルの破損や⊕端子、⊖端子にゆれみや腐食がないか確認し、ケーブルの交換や端子の増締めや掃除を行ないます。



◆ 補充電・交換



警告

* バッテリーは、以下の順序で取換えてください。順序を誤まると、ショートによるスパークで引火爆発するおそれがあります。

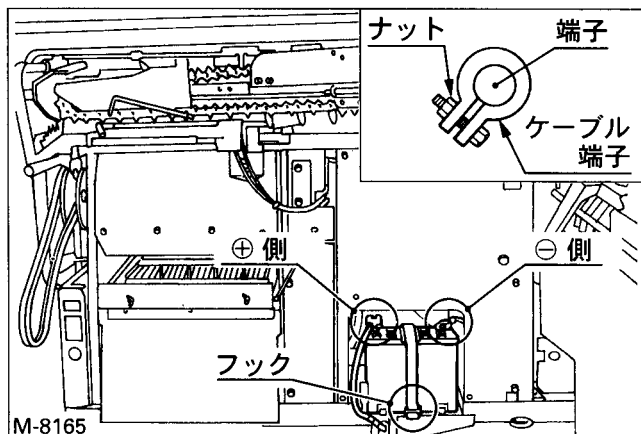
- ・ 取外し…⊖端子側(アース側)から外す。
- ・ 取付け…⊖端子側(アース側)を最後に接続する。
- * バッテリーを転倒させたり、衝撃を与えたりしないでください。電解液(希硫酸)のもれにより、失明やヤケドをするおそれがあります。
- * バッテリーを機体に取り付けた状態での充電は避けてください。バッテリーの引火爆発や機体損傷の原因となるおそれがあります。
- * バッテリーの取付け方向を間違えないでください。⊕と⊖が逆に取付けられると接続ケーブルが損傷し、火災の原因となるおそれがあります。
- * バッテリーを投げたり、落としたり、斜めにしたり、衝撃を与えたりしないでください。バッテリーに入っている電解液(希硫酸)により、失明やヤケドの原因となることがあります。
- * 充電器やブースターケーブルを使用するときの取扱いは、それぞれの取扱説明書に従って行なってください。取扱いを誤まると引火爆発するおそれがあります。

次のような状態が発生したときは補充電を行なってください。また、補充電を行なっても短時間で再発するときや状態が良くならないときは、バッテリーの寿命でするので交換を行なってください。

- スタータモータの回転が、いつもより弱い。
- アクセルの加減で、ヘッドランプの明るさが変わる。
- ホーンの音が、いつもより低い。
- バッテリー電解液の減りが早い。

① バッテリーを機体から取外します。

- (1) ゴムバンドの端部金具をフックから外します。
- (2) ケーブル端子のナットをゆるめて、端子からケーブル端子を外します。取外すときは、必ず⊖側から取外してください。



重要

* バッテリーを斜めにしたり、横倒しにして運ばないでください。電解液（希硫酸）がこぼれ、衣服の損傷の原因となります。

② 補充電を行なうときは、平たんで風通しの良い場所を選んで行ないます。また、充電は、バッテリーの⊕を充電器の⊕側に、バッテリーの⊖を充電器の⊖側にそれぞれ接続して、普通の充電方法で行なってください。

補足

* 急速充電を行なったときは、作業後必ず補充電を行なってください。

③ 補充電が終わると取外したときと逆の手順で取付けます。

重要

* バッテリーを交換するとき、バッテリーは下記指定のバッテリーを使用してください。電圧や容量が違くと故障の原因となります。

バッテリー形式：50B24L-MF

* バッテリーはエンジン始動用ですから、他の用途には使用しないでください。

* バッテリーはきちんと取付けてください。傾いたりすると転倒や液もれの原因となります。

④ ボルト 4 本でバッテリー後部カバーを取付けます。

⑤ カッタ部を閉じます。

補水が必要なバッテリーの場合

（補水が不要なバッテリーの説明と異なる部分の説明です。）

◆点検・補水



注意

バッテリーには補水不要なタイプと補水が必要なバッテリーの 2 種類があります。補水が必要なバッテリーについては、以下の事を守ってください。

* バッテリーは液面が LOWER (最低液面線) 以下になったままで使用や充電をしないでください。

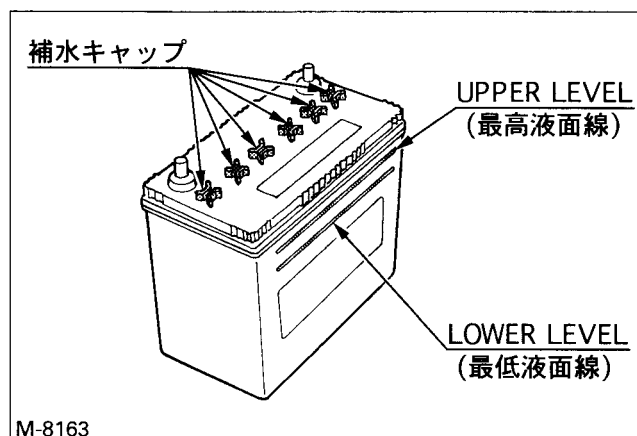
LOWER 以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され、バッテリーの寿命を縮めるばかりでなく、爆発の原因となることがあります。

すぐに UPPER LEVEL と LOWER LEVEL の間に補水してください。

* バッテリー液が身体や衣服に付かないようにしてください。付着したときは、すぐに水で洗い流してください。電解液（希硫酸）によってヤケドすることがあります。

バッテリーの状態を点検し、異常があれば処置します。

(1) バッテリー液の量を点検し、“UPPER LEVEL” (最高液面線) と “LOWER LEVEL” (最低液面線) の間に液量があるか確認し、不足しているときは補水キャップを外して補水します。



M-8163

重要

* バッテリー液が不足して極板が空气中に露出しますと、バッテリーの寿命は著しく短くなります。

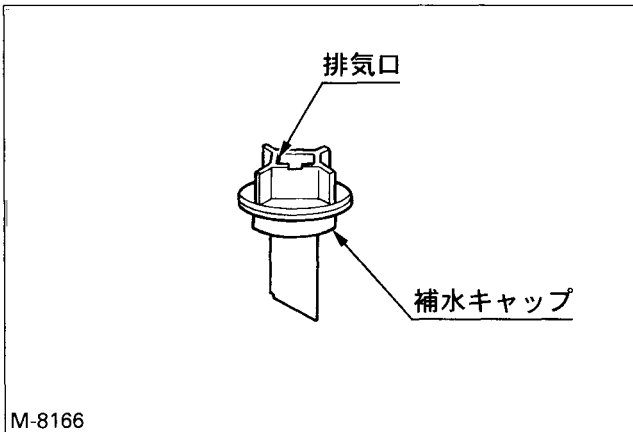
* バッテリー液を補充する場合は、必ず精製水を補充してください。希硫酸・井戸水・泥水などは絶対に入れないでください。

* バッテリーに精製水を入れ過ぎないでください。液もれして機体を傷めるおそれがあります。

- (2) 補水キャップの排気口にゴミなどが付着しているときは掃除してください。

重要

* 排気口をふさぎますと、バッテリー内部で発生するガスによりバッテリーの内圧が上がり、破損する原因となります。



◆ 充電・交換



注意

* 充電中は補水キャップ全てを取外して行ないますので裸火は近づけないでください。引火爆発するおそれがあります。

- ① 充電を行なうときは、平たんで風通しの良い場所を選んで補水キャップを全て取外した状態で行ないます。

また、充電は、バッテリーの⊕を充電器の⊕側に、バッテリーの⊖を充電器の⊖側にそれぞれ接続して、普通の充電方法で行なってください。

補足

* 急速充電を行なったときは、作業後必ず充電を行なってください。

- ② 充電が終ると補水キャップを全て取付けてください。

■ 吐出口ブーツの点検・交換【G仕様】

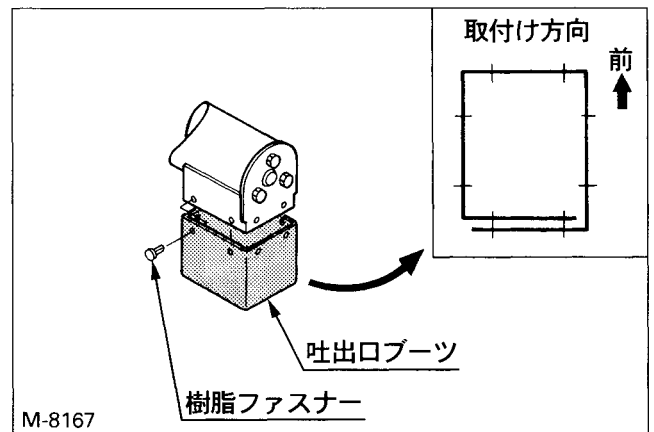
アンローダ先端部の吐出口ブーツが破損したときは交換してください。

◆ 交換

- ① ブーツを取付けている樹脂ファスナー 8 本を外します。
- ② 破損したブーツを取外し、新しいブーツを取付けます。

補足

* ブーツを取付けるとき、ブーツの重なりの方を間違えないでください。



重要

* ブーツ（品番：5G001-5124-0）は必ずクボタ純正のものを使用してください。

■電気の各配線コード・各ヒューズの点検・交換



注意

*配線コード被覆の損傷やコネクタ（端子）の接触不良によるろう電やショート（短絡）は火災の原因となります。

◆各配線コードの点検・交換

各配線コードのコネクタ（端子）の接続状態を点検し、ゆるみや外れがあるときは確実に差込んでください。また、被覆の損傷状態を点検し、被覆が破れているときは、販売店へ連絡して交換してください。

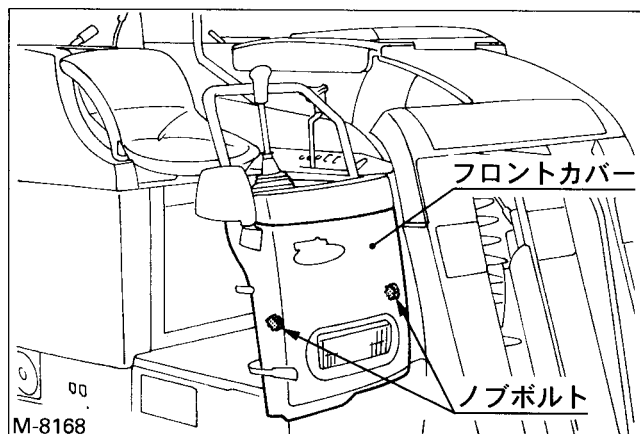
◆各ヒューズの交換

ヒューズ切れによる異常が発生したときは、ヒューズを交換してください。

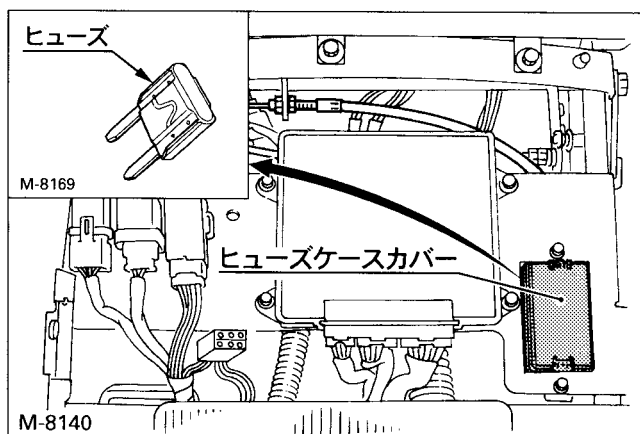
重要

*ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は、針金や銀紙などで代用せず、購入先に連絡してください。

- ①エンジンを止めた状態で刈取部を地面に接地させます。
- ②左・右のノブボルト各1本を取外して、フロントカバーを外します。



- ③ヒューズケースのカバーを取外します。
- ④ヒューズが切れた箇所に同じ容量のヒューズを予備ヒューズから選んで交換します。



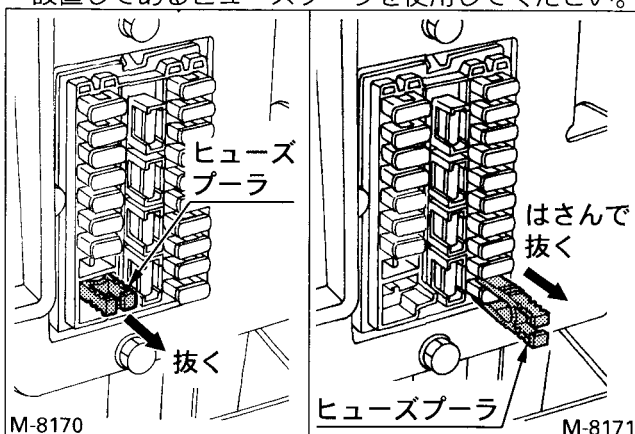
番号	回路 (容量)	予備ヒューズ	番号	回路 (容量)
①	アンローダ(25A)	10A	⑧	AES(20A)
②	フラッシュ(10A)		⑨	メータ(10A)
③	結束機 (20A)		⑩	本機 (10A)
④	CVT (30A)	15A	⑪	こぎ深モータ(20A)
⑤	リレー・ランプ・ブザー (10A)		⑫	ライト・フラッシュ(15A)
⑥	ヘッドライト(10A)	20A	⑬	方向ソレノイド(20A)
⑦	予備ヒューズ(30A)		⑭	マイコン・ホーン(10A)
—	—	25A	⑮	トウミモータ(15A)
—	ヒューズ・プーラ (ヒューズ抜き)		⑯	チャフモータ(15A)
—	—		⑰	刈取スライド(20A)

仕様	165・195・215・R218S		M20・M23		
	A ホツパ/G	J ホツパ/G	A ホツパ/G	J G	J ホツパ/G
番号	D	HD	D	D	HD
①	—/○	—/○	—/○	○	—/○
②	○	○	○	○	○
③	○	○	○	○	○
④	—	○	—	○	○
⑤	○	○	○	○	○
⑥	○	○	○	○	○
⑦	—	○	—	○	○
⑧	○	○	○	○	○
⑨	○	○	○	○	○
⑩	○	○	○	○	○
⑪	○	○	○	○	○
⑫	○	○	○	○	○
⑬	—	○	—	—	○
⑭	○	○	○	○	○
⑮	—	○	—	—	○
⑯	—	○	—	—	○
⑰	○	○	—	—	—

補足

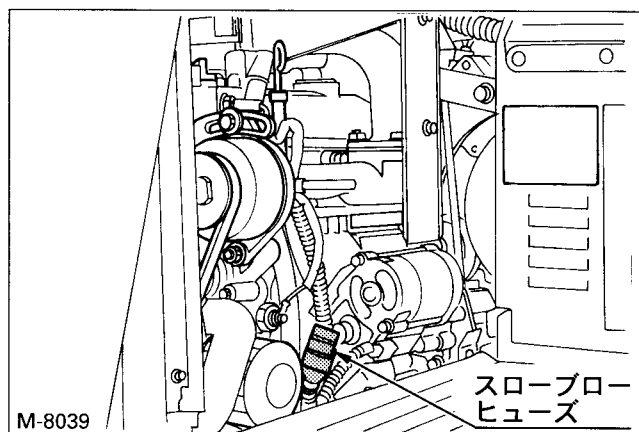
*ヒューズケースカバー裏面のラベルで容量(A)を確認してください。

*ヒューズを交換するときは、ヒューズケース左下に設置してあるヒューズプーラを使用してください。



●スローブローヒューズの点検・交換

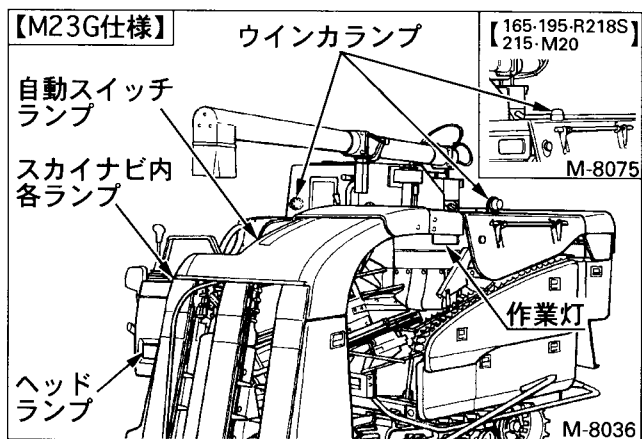
スローブローヒューズは、過電流が流れたときに各配線が損傷しないように保護するためのものです。エンジンがかからないときは点検し、切れているときは付属部品の中にある予備のヒューズ（50A）と交換してください。



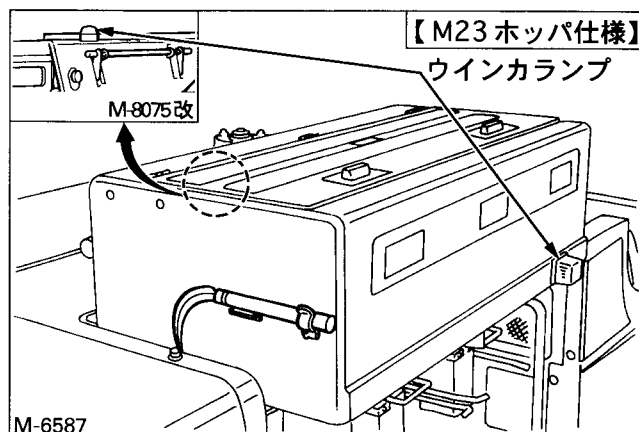
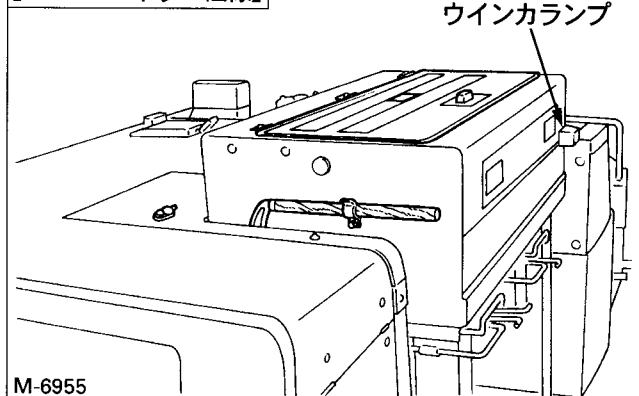
■ランプ（電球）の点検・交換

■ホーンスイッチの点検

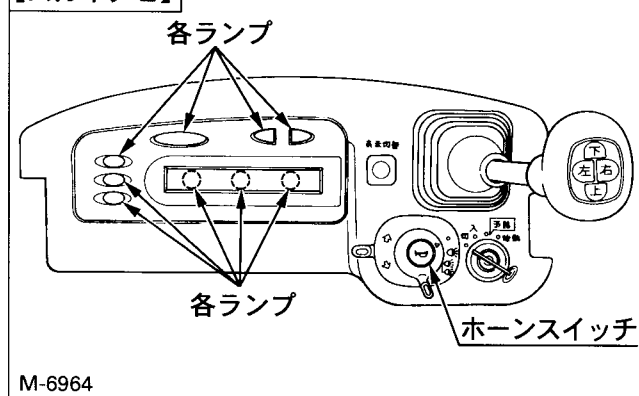
ランプ（電球）切れがないか点検し、切れているときは交換してください。また、ホーンスイッチを押して点検し、鳴らないときは、配線やヒューズを確認してください。



【165・195ホッパ仕様】

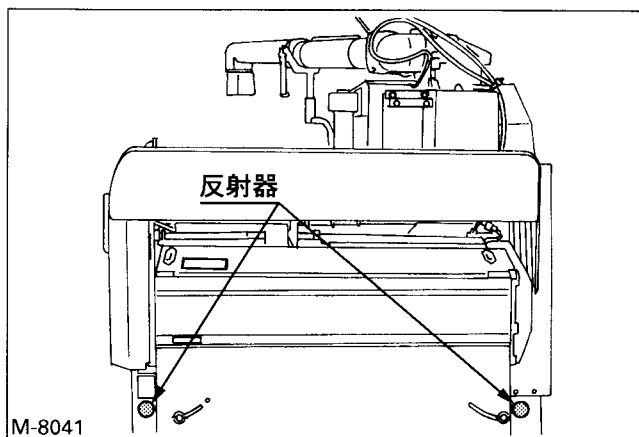


【スカイナビ】



■反射器の点検・交換

汚れや破損がないか点検し、掃除又は、交換を行なってください。



■刈取スライドの点検・注油・掃除・増締め [165・195・215・R218S]



注意

*平たんな場所で、刈取下降ロックをして必ずエンジンを停止してください。

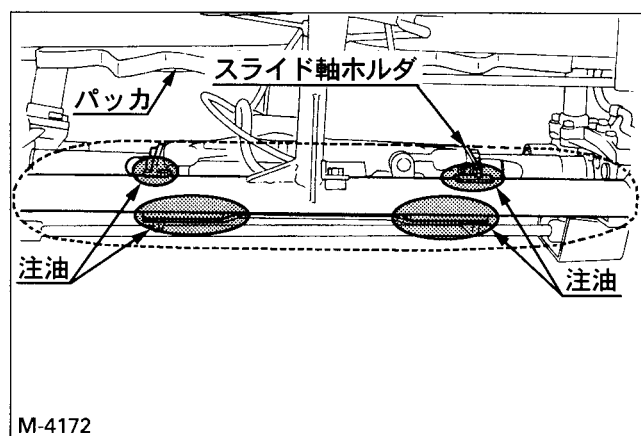
刈取部を地面から約5～10cm上げたあと、脱こくクラッチレバーを“切”位置にし、エンジンを停止します。そのあと、刈取下降ロックレバーを“ロック”位置にし、スイッチキーを“入”位置にしてください。

◆点検

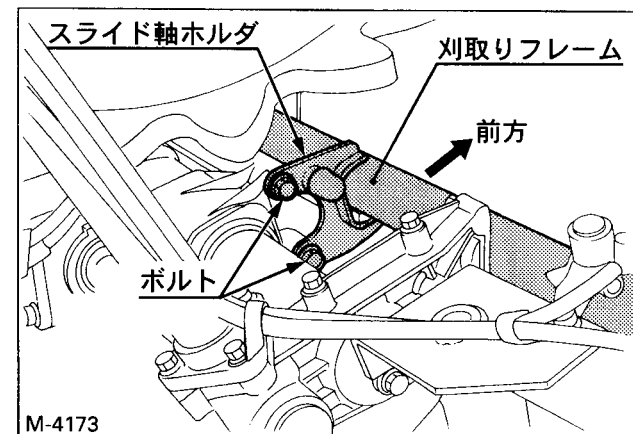
刈取部をスライドスイッチで左⇄右に動かして、スライドする時間が正常時より遅いときや動きにくいときは、スライド装置各部に注油してください。

また、振動が大きいときは、パッカ下のデッキを外し、スライド軸ホルダ(2箇所)のボルトにゆるみがあるときは増締めしてください。このとき、泥やわらくずがたまっているときは取除いておいてください。

◆注油・掃除・増締め箇所



M-4172



M-4173

重要

*スライドを連続して5往復以上しないでください。また、スライドが停止したら、スイッチからすぐ手を離してください。モータが加熱し故障の原因になります。

■クローラの点検・調整

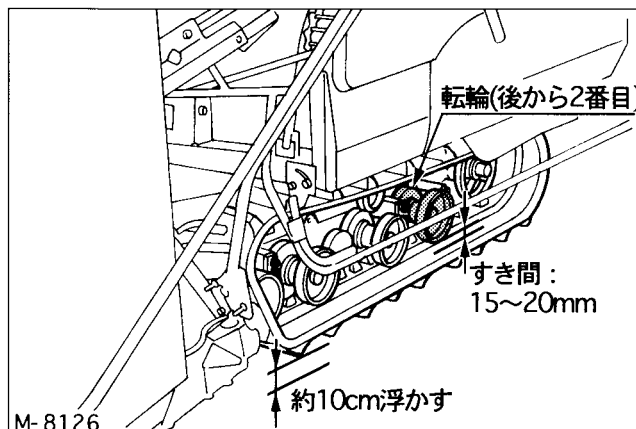


注意

*平たんな場所でエンジンを必ず止めて行なってください。

*ジャッキアップを行なうときは、所定の場所でバランスのとれた位置にして作業してください。

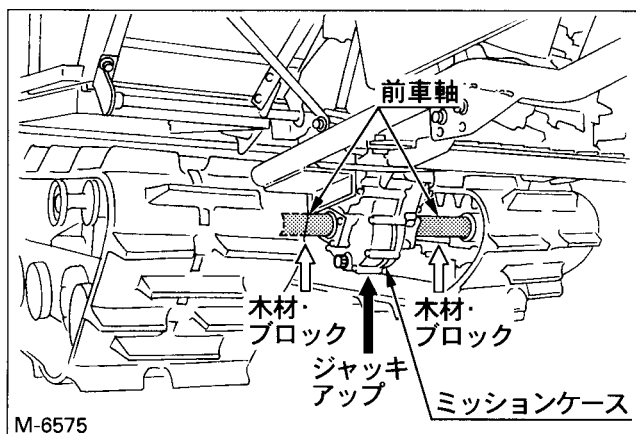
地面からクローラを浮かした状態で、クローラ下側上面と後から2番目の転輪下端のすき間を15～20mmに調整してください。また、調整は片側ずつ行なってください。



M-8126

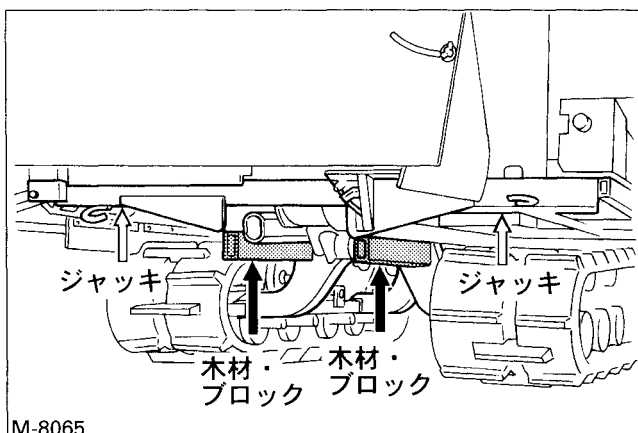
①ジャッキを使用して、クローラを地面から10cm程度浮かせます。

(1)前部はミッションケース下部にブロックや木材を準備し、ジャッキアップしたあと前車軸にセットします。



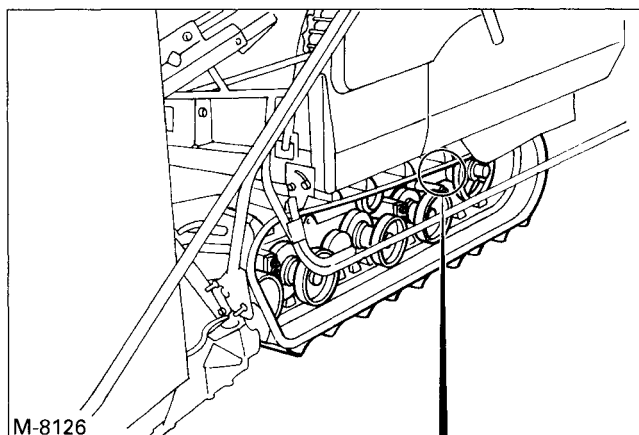
M-6575

(2)後部は機体フレームの下図位置にセットします。

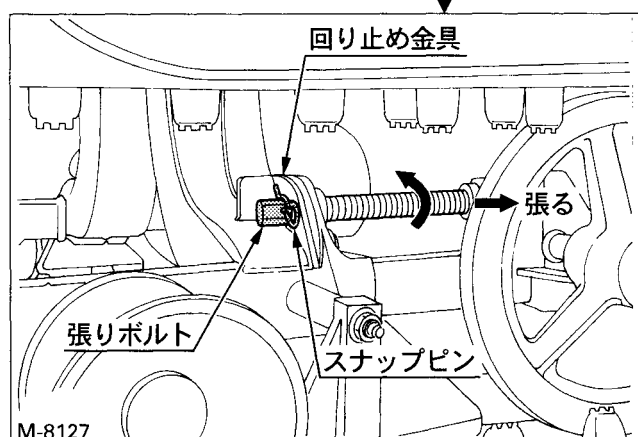


M-8065

- ②クローラ後部にある張りボルトの回り止め金具を、スナップピンを抜いて取外します。
- ③張りボルトを左に回してクローラを張りながら、すき間の調整を行ないます。



M-8126



M-8127

- ④左、右両方共に行ない調整後は、回り止め金具を取付けてスナップピンを差込みます。
- ⑤ジャッキ及びブロックや木材を取外します。

重要

- *クローラを張り過ぎると車軸の折損の原因になります。
- *クローラがゆるみ過ぎると脱輪したりスプロケット及び芯金が早期に摩耗することがあります。初期伸びがあるため初期20時間目に増し張りしてください。

刈取作業後の手入れ

刈取作業が終わったあとは、機械の点検・整備を怠らず翌日又は、翌年の刈取作業に備えてください。

■毎日の作業後



注意

*機体に本機カバーをかけるときは、エンジン・マフラーが冷えてからかけてください。停止直後にカバーをかけると火災のおそれがあります。

- ①平たんな場所にコンバインを停めます。
- ②機体各部のわらくずを取除いたあと、必要なときは各部に注油を行ないます。(各部の掃除と注油のしかたの項参照)
- ③【G仕様】はアンローダを収納します。
- ④刈取部を地面に接地させます。
- ⑤メインスイッチのスイッチキーを抜取ります。
- ⑥本機カバーをかけます。

■長期格納時

刈取のシーズンが終了して翌年まで長期間使用しないとき、格納する前の各部の点検・整備を念入りに行なってください。

◆各部の掃除・注油と補修

機体を平たんな場所に停めて下記事項を行なってください。

- 各部に付着した泥などの汚れをきれいに水洗いし、乾いた布で水分をふき取ってください。
- 各回転部分や切刃部・ベルト・チェーンなどに巻付いた雑草やわらくずを、完全に取除いてください。

重要

*機体を洗う場合は、電装部品に水がかからないようにしてください。

補足

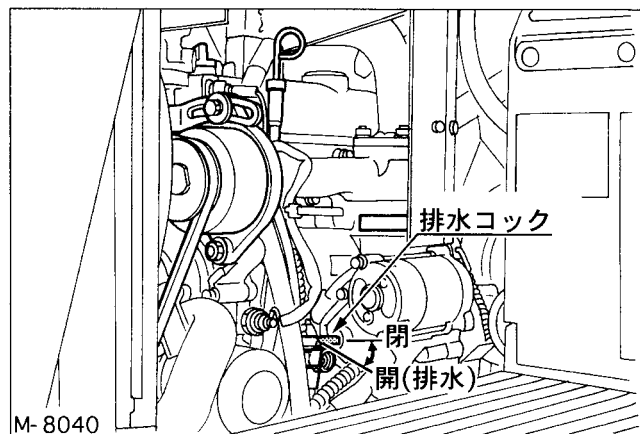
- *各部にもみやわらくずが残っていると、ネズミの巣になったり、配線部をかじられて、故障の原因となるのできれいに取除いてください。
- *各チェーン、各回転部分や摩擦しゅう動部分には、さびが発生ないようにじゅうぶん注油してください。
- *塗料のはげた所には補修塗料を塗って、さびが発生ないようにしてください。

◆ラジエータ冷却水

ラジエータ冷却水は冬期のエンジン凍結割れを防止するため、排水又は、不凍液（ロングライフクーラント）を清水に混ぜた冷却水を入れておいてください。

●排水しておくとき

- ①ラジエータ及びリザーブタンクの冷却水を排水します。（ラジエータ冷却水の点検・交換の項参照）
- ②エンジンに取付けている排水コックを開いてエンジンの冷却水を排出します。



- ③ラジエータキャップは締付けますが、排水コックは開けたままにし、ラジエータキャップに水なしと書いた札を掛けておいてください。

●不凍液を入れておくとき

冷却水の補給・交換を行なって、ラジエータ及びリザーブタンクには、不凍液の混ざった適正な混合比の冷却水を規定量入れておきます。（ラジエータ冷却水の点検・交換の項参照）

重要

- *冷却水には、不凍液（ロングライフクーラント）を適正量入れ（混合比は最高でも50%以下）、よく水と混ぜ合せてからお使いください。
（ラジエータ容量……4.0L）
- *不凍液の混合比を誤ると、冬期には冷却水の凍結、夏期にはエンジンの故障やラジエータの破損の原因になります。
- *不凍液を使用する場合は、ラジエータ保浄剤を投入しないでください。不凍液には防錆剤が入っていますので、保浄剤を混入するとエンジン部品に悪影響を与えます。
- *クボタ不凍液（ロングライフクーラント）の有効使用期間は2年間です。必ず2年で交換してください。

◆バッテリー

**危険**

*保管や持運びの際にバッテリーに火気を近付けたり、ショートさせると爆発の危険がありますので注意してください。

**注意**

*バッテリーを点検するときには、エンジンを停止し、メインスイッチを“切”にしてください。

長期間使用しない場合は、できるだけバッテリーを機体から取外してください。また、以下の点に注意して保管してください。

- 保管前に点検し、必要に応じて充電を行なってください。（バッテリー液補水タイプは、補水してから充電を行なってください。）
- バッテリーは保管中でも自己放電するので夏は1カ月、冬は2カ月に1回それぞれ点検し、必要に応じて充電を行なってください。
- 次のような場所に保管してください。

- (1)直射日光が当たらない（温度が低く変化の少ない）乾燥している場所
- (2)雨露が少なく、水没のおそれがない場所
- (3)バッテリーの有害なガスや液、粉じんの発生が起らない場所

機体に取付けている場合は、⊖側のケーブルを必ず取外してください。

4. 各レバー・その他

点検・整備が終わったあと、納屋などに停めておくときは刈取部を地面に接地させて、下記事項を行なってください。

- デバイダカバーを取付けたあと、分草かんを収納します。
- 【ホッパ仕様】はもみデツキを折りたたみ、【G仕様】はアンローダ受けを下げてアンローダを収納します。
- アクセルレバーをいっぱい戻して（“”位置）止めておいてください。
- 各作業クラッチ（刈取・脱こく・もみ排出【G仕様】）レバーは“切”位置にしておいてください。
- メインスイッチのスイッチキーは、必ず抜取って保管してください。
- 本機カバーをかけます。

コンバインの不調と処置

次のようなトラブルが起ったら！

ページ

液晶ディスプレイにオーバヒートと表示されブザーが鳴った	147
ビービーと断続ブザーが鳴る	148
ビービーと断続ブザーが鳴ってエンジンが止まる	148
こき残りがでる	149
もみの飛散が多い	149
選別が悪くなった	150
わらが切れなくなった	151



警告

*各部の調整、点検、交換などを行なうときは、エンジンを必ず止めてから行なってください。



注意

*各クラッチは、“切”にしてください。

*エンジン始動時は合図をし、安全を確認してください。

*運転中及び停止直後は、ラジエータの圧力キャップを絶対に開けないでください。またオーバヒートなどの高温時は、エンジンを約5分間アイドリング回転で運転したあと、エンジンを停止し、30分以上経過するまでエンジンカバーを開けないでください。熱湯が噴出したり、高温部でヤケドするおそれがあります。

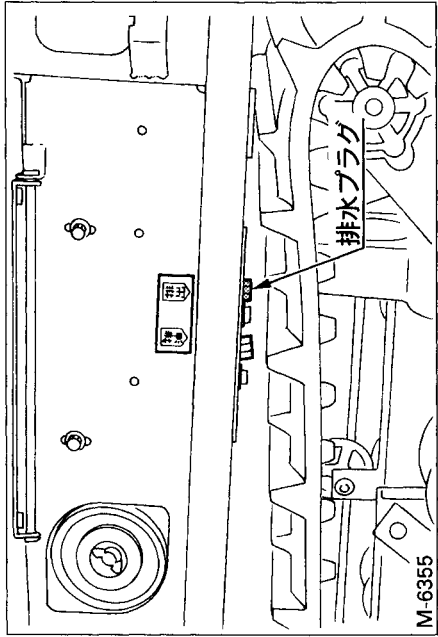
*刈刃やカッタの清掃時は刃部に注意してください。

*燃料やオイルがこぼれた場合は、火気に注意しきれいにふき取ってください。

液晶ディスプレイにオーバーヒートと表示されブザーが鳴った

●エンジンがオーバーヒート(過熱)している。

すぐにすること	原因	点検箇所	処置	参照ページ
●刈取作業を中止して、エンジンを約5分間アイドリング回転で運転したあと止める。	妨じんあみ、又はラジエータフィンがわからくずなどで目詰まりしている。	妨じんあみ ラジエータフィン	● 妨じんあみをブラシなどで清掃する。 ● 圧縮空気か水道水で、フィンを傷つけないように清掃する。	109ページ 109ページ
	冷却水が不足している。	ラジエータ リザーブタンク	● 清水をラジエータ給水口まで補給する。 ラジエータが熱いときは危険です。 30分程度冷やしてキャップを開けてください。 ● 清水をリザーブタンクの“FULL”まで補給する。 ● 排水プラグからもれていないか点検する。	107ページ 144ページ
	エンジンオイルが不足している。	オイルゲージ	● 上限近くまで、補給する。	104ページ
ファン駆動ベルトがゆるんでいる。	ファン駆動ベルトがゆるんでいる。	エンジンオイル フィルタカートリッジ	● エンジンオイルフィルタカートリッジの交換時期になったら交換してください。	111ページ
		ファン駆動ベルトのたわみ	● ダイナモの取付けボルトをゆるめ、ダイナモを引っ張りながらベルトの増張りを行なう。 ● ベルトが損傷しているときは新品と交換する。	118ページ



ビービーと断続ブザーが鳴る

すぐにあること	原因	点検箇所	処	参照ページ
●刈取作業を中止して、操作パネルの液晶ディスプレイ表示をみる。	タンクが満杯。	ホッパ又はグレンタンク	●もみ袋を交換する。又は、もみを排出する。	59,60ページ
●液晶ディスプレイに「もみ満杯」と表示されている。	脱こく部に負荷がかかりすぎている。	微調節レバー	●こぎ深さ調節位置が適正か確認する。	47,48ページ
●液晶ディスプレイに「2番詰まり」と表示されている。		副変速レバー	●作業速度を一段落す。	7ページ
重 要 ＊ブザーが鳴つたまま作業を続けるとトラブルの原因になります。	こぎ室、処理胴、1番スクリュ、2番処理ケースなどに詰まりがある。	こぎ室送じん調節レバー	●こぎ室送じん調節レバーを“標準”又は“開”にする。	46,74ページ
	こぎ室、処理胴、1番スクリュ、2番処理ケースに詰まりがある。	こぎ室	●こぎ室、処理胴、1番スクリュ、2番処理ケースなどに詰まりがないか点検し、詰まりがあれば取除く。	91,92,93ページ
	浮きわら、雑草が発生している。	こぎ深さセンサ	●浮きわら、雑草を除去してください。	17ページ
	シーブケースに詰まりがある。	シーブケース	●チャフシーブ（選別板のすきま）などに目詰まりがないか点検し、詰まりがあれば取除き、そのあと脱こく機を空回しをして、機内のわらくずを排出する。	91ページ

●エンジン自動停止装置が働いている。

ビービーと断続ブザーが鳴ってエンジンが止まる

すぐにあること	原因	点検箇所	処	参照ページ
●刈取、脱こくクラッチレバーを“切”にする。	カタタが詰まっている。	搬送部	●搬送部（フィードチェーン・排ワラチェーンのボタンタツチ部、カタタの入口部）にわらが詰まっていないか点検し、詰まりがあれば取除く。	91,92ページ
●主変速レバーを“中立”にする。	カタタ部が詰まっている。	カタタ部	●フィードチェーンの詰まりは、こぎ胴をオープンして取除く。	
●メインスイツチを“切”にする。	結束作業においてビルのひもが巻付いているか、又はひも切れ、ひもの消費。	結束部	●カタタの刃が摩耗していないか点検し、摩耗している場合は交換する。	132ページ
	結束部が詰まっている。	結束部	●結束部にひも、わらなどが巻付いていないか点検し、巻付いていなければ取除く。	—
			●ひもがなければ補充する。	—
			●結束部にわらが詰まっていないか点検し、詰まりがあれば取除く。	—

こぎ残りがでる

すぐにすること	原因	点検箇所	処置	参照ページ
●刈取作業を中止し、搬送部にある作物を流しきる。	こぎ深さ調節が浅い。	●センサアーム(微調整レバー) [165・195・215・P218S] ●センサホルダ [M20・M23]	●センサアーム(微調整レバー)又は、センサホルダの調節で、脱こく機入口の“こぎ深さ指示(▼)マーク”の指示の位置に穂先を合せる。	48,49ページ
	脱こくの回転数が低い。	回転表示	●回転計を見ながら、アクセルレバーで正規回転にする。	46ページ
	作物が短い。	株元供給チェーン	●株元供給チェーンを短かん用に調整する。	71,72ページ

もみの飛散が多い

すぐにすること	原因	点検箇所	処置	参照ページ
●刈取作業を中止して、搬送部にある作物を流しきる。	脱こく回数が高い。	回転表示	●回転計を見ながら、アクセルレバーで 正規回転 にする。	46ページ
	トウミ調節が強すぎる。 チャフ（選別板のすきま）調節を閉めすぎる。	●麦/稲/濡れ切換えスイッチ 【HD仕様】 ●チャフ調節ダイヤル 【HD仕様】	●麦/稲/濡れ切換えスイッチを作物の状態に合わせる。 ●チャフ調節ダイヤルを“ 開 ”の方へ調節する。	
		●トウミ調節レバー 【D仕様】 ●チャフ調節レバー 【D仕様】	●トウミ調節を“ 標準 ”又は“ 弱 ”の方に調節する。 ●チャフ調節レバーを“ 標準 ”又は“ 高能率 ”の方に調節する。	75,76ページ
	排じん調節板が“下”になっている。	排じん調節板	●排じん調節板を“ 標準 ”又は“ 上 ”の位置に調節する。	75ページ
	こぎ室送じん調節が開きすぎ。	こぎ室送じん調節レバー	●こぎ室送じん調節レバーを“ 標準 ”又は“ 閉 ”の方へ調節する。	75ページ

選別が悪くなった

現象	原因	点検箇所	処置	参照ページ
[稲] ●小枝梗が多い。 ●穂切が多い。 [麦] ●のげが取れない。 ●稃が取れない。 (脱皮しない)	●エンジン回転数が低い。 ●こぎ室送じん調節が開きすぎ。 【D仕様の場合】 ●チャフ(選別板のすきま)調節が開きすぎ。 【HD仕様の場合】 ●チャフ(選別板のすきま)調節が開きすぎ。	回転計 こぎ室送じん調節レバー チャフ調節レバー チャフ調節ダイヤル	●回転計を見ながら、アクセルレバーで 正規回転 にする。 ●こぎ室送じん調節レバーを “標準” 又は “閉” の方へ調節する。 (この場合、少し能率が下がる。) ●チャフ調節レバーを “標準” 又は “高能率” の反対側の方へ調節する。 ●麦/稲/濡れ切換えスイッチを作物の状態に合わせる。 ●チャフ調節ダイヤルを “○” 又は “閉” の方へ調節する。	46ページ 75ページ 75ページ 75ページ
	[稲・麦] ●切わら・ゴミが入る。	回転計 トウミ風路 トウミ調節レバー チャフ調節レバー チャフ調節ダイヤル	●回転計を見ながら、アクセルレバーで 正規回転 にする。 ●わらくずを排除。 ●トウミ調節レバーを “標準” 又は “強” の方へ調節する。 ●チャフ調節レバーを “標準” 又は “高能率” の反対側の方へ調節する。 ●麦/稲/濡れ切換えスイッチを作物の状態に合わせる。 ●チャフ調節ダイヤルを “○” 又は “閉” の方へ調節する。	46ページ 73ページ 75ページ 75ページ
	[稲・麦] ●こく粒のいいみが多い。	回転計 こぎ室送じん調節レバー トウミ調節レバー チャフ調節レバー チャフ調節ダイヤル	●回転計を見ながら、アクセルレバーで 正規回転 にする。 ●こぎ室送じん調節レバーを “標準” 又は “閉” の方へ調節する。 ●トウミ調節レバーを “標準” 又は “弱” の方へ調節する。 ●チャフ調節レバーを “標準” 又は “高能率” 側の方へ調節する。 ●麦/稲/濡れ切換えスイッチを作物の状態に合わせる。 ●チャフ調節ダイヤルを “○” 又は “閉” の方へ調節する。	46ページ 75ページ 75ページ

わらが切れなくなつた

すぐにすること	原因	点検箇所	処置	参照ページ
●刈取作業をやめ、エンジン を必ず止める。	カッタの刃が切れない。	カッタの刃	●カッタ刃が摩耗していないか点検し、摩耗している場合は交換する。	132ページ
	こぎ深さが深くなりすぎている。	手動こぎ深さスイッチ	●センサーアーム(微調整レバー) [165・195・215・R218S] 又は、センサーホルダ [M20・M23] で脱こく機入口の “こぎ深さ指示(▼)マーク” の指示の位置に穂先を合わせる。	48,49ページ
	カッタ刃のすき間が広い。	刃のすき間	●すき間の調節	132ページ

付 表

主要諸元

農 機 型 式 名			クボタ R9601(G)					
商 品 名			SR165A(G)			SR165J(G)		
区 分	ホ ッ パ 仕 様		DW	—	DSW3	HDW	—	
	グレンタンク仕様		DW	DW2	—	HDW	HDW2	
機 体 寸 法	全 長 (mm)		3105					
	全 幅 (mm)		1660					
	全 高 (mm)	ホ ッ パ	1640	—	1690	1640	—	
グレンタンク		1920	1920	—	1920	1920		
機 体 質 量〔重量〕 (kg)	ホ ッ パ		977	—	1025	992	—	
	グレンタンク		1133	1151	—	1148	1166	
エ ン ジ ン	型 式 名		D782 - C - 3			D782 - C - 3 - 1		
	種 類		水冷4サイクル3気筒立形ディーゼル					
	総 排 気 量 (L(cc))		0.778 {778}					
	出 力 / 回 転 速 度 (kW{PS}/rpm)		12.1 {16.5} / 2800					
	使 用 燃 料		ディーゼル軽油					
	燃 料 タ ン ク 容 量 (L)		18					
	始 動 方 式		セルモータ式					
	バ ッ テ リ (V·Ah)		12・36					
走 行	ク ロ ー ラ	中 心 距 離 (mm)	ホ ッ パ	825	—	895	825	—
			グレンタンク	825	815	—	825	815
		幅 × 接地長 (mm)	ホ ッ パ	330 × 1093	—	400 × 1129	330 × 1093	—
			グレンタンク	330 × 1093	360 × 1093	—	330 × 1093	360 × 1093
		平均接地圧 (kPa{kgf/cm ² })	ホ ッ パ	13.3 {0.14}	—	11.1 {0.11}	13.5 {0.14}	—
			グレンタンク	15.4 {0.16}	14.3 {0.15}	—	15.6 {0.16}	14.5 {0.15}
部	最 低 地 上 高 (mm)		186			236		186
	変 速 方 式		油圧シフト式			ベルト式〔ジョイマチックCVT〕		
	変 速 段 数		前進9段・後進3段			前進無段・後進無段〔副変速各3段〕		
	走 行 速 度 (m/s) 〔エンジン定格回転速度時〕	前 進	低 : 0.24・0.33・0.43 中 : 0.48・0.66・0.86 高 : 0.94・1.31・1.69			低 : 0.12~0.48 中 : 0.21~0.85 高 : 0.44~1.75		
		後 進	低 : 0.24 中 : 0.48 高 : 0.94			低 : 0.13~0.37 中 : 0.23~0.63 高 : 0.41~1.14		
	旋 回 方 式		ブレーキターン					
	刈 取 条 数 (条)		2					
	刈 幅〔デバイダ先端間隔〕 (mm)		795~845					
刈 取 部	刈 取 装 置 形 式		往復動刃式					
	刃 幅 (mm)		795					
	変 速 段 数 (段)		2			2〔車速同調〕		
	刈 高 さ 範 囲 (mm)		35~150					
	こ ぎ 深 さ 調 節 方 式		電動モータ式					
	刈 取 横 ス ラ イ ド 量 (mm)		240					
脱 こ く 部	脱 こ く 方 式		下こぎ・単胴・軸流式					
	こ ぎ 胴	径 × 幅 (mm)	424 × 450					
		回転速度 (rpm)	465〔S1仕様 : 400〕					
	処 理 胴	径 × 幅 (mm)	250 × 106〔ツースパー処理方式〕					
		回転速度 (rpm)	1200					
	2 番 還 元 方 式		スクリュ式					
	揺 動 板 幅 × 長 さ (mm)		465 × 921					
	選 別 方 式		揺動・圧風・全幅吸引					

* この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

農 機 型 式 名			クボタ R9601(G)				
商 品 名			SR165A(G)			SR165J(G)	
区 分	ホ ッ パ 仕 様		DW	—	DSW3	HDW	—
	グレンタンク仕様		DW	DW2	—	HDW	HDW2
こ く 粒 処 理 部	グ レ ン タ ン ク 仕 様 ロ ー ダ	タ ン ク 容 量 (L{袋})		470 {約9.5}〔1 袋約50L〕			
		排 出 方 式		スクリュコンベア式			
		排 出 時 間 (s)		120			
		旋回範囲(度)・旋回方式		300〔右230, 左70〕・電動モータ式			
		昇降範囲(度)・昇降方式		0〔水平〕～45・油圧式			
		排出高さ〔作業時〕(mm)		1885～4360			
		排出長さ〔作業時〕(mm)		2410～3470			
理 部	ホッパ 仕 様	容 量(L{袋})		100 {約2}〔1 袋約50L〕			
		吐出口数(口)		2			
排 わ ら 処 理 装 置	工 場 出 荷 仕 様		●カッタ 又は、●カッタ後部標準結束機 又は、●カッタ後部ドロツパ カッタ切断長さ：35mm又は、50mm〔切断刃：標準切断刃〕				
	オ プ シ ョ ン		●35mm切断カッタ ●50mm切断カッタ ●35/150mm切換え式カッタ ●50/150mm切換え式カッタ〔切断刃：標準切断刃/セラミック切断刃〕 ●カッタ後部標準結束機 ●単体標準結束機 ●カッタ後部ストンパ結束機 ●単体ストンパ結束機 ●カッタ後部ドロツパ ●標準結束機後部寄せ装置				
諸 化 装 置	自 動 化 装 置	自 動 こ ぎ 深 さ 制 御	○	○	○	○	○
		自 動 車 速 制 御	—	—	—	○	○
		自 動 方 向 制 御	—	—	—	○	○
		自 動 脱 こ く 制 御	—	—	—	○	○
		自動エンジン停止装置	○	○	○	○	○
		アンローダ自動旋回装置 【グレンタンク仕様】	○	○	—	○	○
	置	パイプロシャッタ〔手動〕 【グレンタンク仕様】	○	○	—	○	○
		集中注油装置〔手動〕	○	○	○	○	○
		防 じ ん カ バ ー	—	—	—	○	○
		警 報 装 置	充電、オイル、燃料、水温、負荷、エンジン回転、こぎ深さ シーブ詰まり、2番詰まり、もみ満杯、カッタ詰まり、制御装置〔システム〕異常				
適応作物範囲〔全長〕(mm)			550～1300				
倒 伏 適 応 性 (度)			追刈り：85以下・向刈り：70以下				
作業能率〔計算値〕(a/hr{分/10a})			17～10 {34～56}				

* この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

農 機 型 式 名			クボタ R9602(G)			
商 品 名			SR195A(G)		SR195J(G)	
区 分	ホ ッ パ 仕 様		DW	—	HDW	—
	グレンタンク仕様		DW	DW2	HDW	HDW2
機 体 寸 法	全 長 (mm)		3260			
	全 幅 (mm)		1660			
	全 高 (mm)	ホ ッ パ	1640			
		グレンタンク	1920			
機 体 質 量〔重量〕 (kg)	ホ ッ パ		1056	—	1071	—
	グレンタンク		1233	1252	1248	1267
エ ン ジ ン	型 式 名		D1105 - C - 6		D1105 - C - 6 - 1	
	種 類		水冷4サイクル3気筒立形ディーゼル			
	総 排 気 量 (L{cc})		1.123 {1123}			
	出 力 / 回 転 速 度 (kW{PS}/rpm)		14.0 {19.0} / 2500			
	使 用 燃 料		ディーゼル軽油			
	燃 料 タ ン ク 容 量 (L)		24			
	始 動 方 式		セルモータ式			
	バ ッ テ リ (V・Ah)		12・36			
走 行 部	ク ロ ー ラ	中心距離 (mm)	ホ ッ パ 825	—	825	—
			グレンタンク 825	815	825	815
		幅×接地長 (mm)	ホ ッ パ 330×1159	—	330×1159	—
			グレンタンク 330×1159	360×1159	330×1159	360×1159
		平均接地圧 (kPa{kgf/cm ² })	ホ ッ パ 13.5 {0.14}	—	13.7 {0.14}	—
			グレンタンク 15.8 {0.16}	14.7 {0.15}	16.0 {0.16}	14.9 {0.15}
刈 取 部	最 低 地 上 高 (mm)		186			
	変 速 方 式		油圧シフト式		ベルト式〔ジョイマチックCVT〕	
	変 速 段 数		前進9段・後進3段		前進無段・後進無段〔副変速各3段〕	
	走 行 速 度 (m/s) (エンジン定格回転速度時)	前 進	低 : 0.26・0.36・0.46 中 : 0.51・0.71・0.92 高 : 1.02・1.41・1.82		低 : 0.14~0.54 中 : 0.23~0.92 高 : 0.46~1.82	
		後 進	低 : 0.26 中 : 0.51 高 : 1.02		低 : 0.14~0.38 中 : 0.23~0.64 高 : 0.46~1.27	
	旋 回 方 式		ブレーキターン			
	刈 取 条 数 (条)		2			
	刈 幅〔デバイダ先端間隔〕 (mm)		795~845			
脱 こ く 部	刈 取 装 置 形 式		往復動刃式			
	刃 幅 (mm)		795			
	変 速 段 数 (段)		2		2〔車速同調〕	
	刈 高 さ 範 囲 (mm)		35~150			
	こ ぎ 深 さ 調 節 方 式		電動モータ式			
	刈 取 横 ス ラ イ ド 量 (mm)		240			
	脱 こ く 方 式		下こぎ・単胴・軸流式			
	こ ぎ 胴	径×幅 (mm)	424×600			
回転速度 (rpm)		465〔S1仕様 : 400〕				
処 理 胴 径×幅 (mm)		250×106〔ツースパー処理方式〕				
回転速度 (rpm)		1200				
選 別 部	2 番 還 元 方 式		スクリュ式			
	揺 動 板 幅×長さ (mm)		465×1071			
	選 別 方 式		揺動・圧風・全幅吸引			

* この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

農 機 型 式 名			クボタ R9602(G)				
商 品 名			SR195A(G)		SR195J(G)		
区 分	ホ ッ パ 仕 様		DW	—	HDW	—	
	グレンタンク仕様		DW	DW2	HDW	HDW2	
こ く 粒 処 理 部	グ レ ン タ ン ク 仕 様	タ ン ク 容 量 (L{袋})	570 {約11.5}〔1袋約50L〕				
		排 出 方 式	スクリュコンベア式				
		排 出 時 間 (s)	150				
		旋回範囲(度)・旋回方式	300〔右230, 左70〕・電動モータ式				
		昇降範囲(度)・昇降方式	0〔水平〕～45・油圧式				
		排出高さ〔作業時〕(mm)	1885～4360				
		排出長さ〔作業時〕(mm)	2410～3470				
	ホ ッ パ 仕 様	ホッパ	容 量(L{袋})	100 {約2}〔1袋約50L〕			
			吐出口数(口)	4			
	排 わ ら 処 理 装 置	工 場 出 荷 仕 様		●カッタ 又は, ●カッタ後部標準結束機 又は, ●カッタ後部ドロツパ カッタ切断長さ: 35mm又は, 50mm〔切断刃: 標準切断刃〕			
オ プ シ ョ ン		●35mm切断カッタ ●50mm切断カッタ ●35/150mm切換え式カッタ ●50/150mm切換え式カッタ〔切断刃: 標準切断刃/セラミック切断刃〕 ●カッタ後部標準結束機 ●単体標準結束機 ●カッタ後部ストンパ結束機 ●単体ストンパ結束機 ●カッタ後部ドロツパ ●標準結束機後部寄せ装置					
諸 化 装 置	自 動 化 装 置	自 動 こ ぎ 深 さ 制 御	○	○	○	○	
		自 動 車 速 制 御	—	—	○	○	
		自 動 方 向 制 御	—	—	○	○	
		自 動 脱 こ く 制 御	—	—	○	○	
		自動エンジン停止装置	○	○	○	○	
		アンローダ自動旋回装置 〔グレンタンク仕様〕	○	○	○	○	
	置	パイプロシャッタ〔手動〕 〔グレンタンク仕様〕	○	○	○	○	
		集中注油装置〔手動〕	○	○	○	○	
		防 じ ん カ バ ー	—	—	○	○	
		警 報 装 置	充電, オイル, 燃料, 水温, 負荷, エンジン回転, こぎ深さ シーブ詰まり, 2番詰まり, もみ満杯, カッタ詰まり, 制御装置〔システム〕異常				
適応作物範囲〔全長〕(mm)			550～1300				
倒 伏 適 応 性 (度)			追刈り: 85以下・向刈り: 70以下				
作業能率〔計算値〕(a/hr{分/10a})			19～11 {31～53}				

*この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

農 機 型 式 名			クボタ R9602G							
商 品 名			SR215AG				SR215JG			
区 分			DW	DW2	HDW	HDW2	DW	DW2	HDW	HDW2
機 体 寸 法	全 長 (mm)		3260							
	全 幅 (mm)		1660							
	全 高 (mm)		1920							
機 体 質 量〔重量〕(kg)			1233	1252	1237	1256	1248	1267	1248	1267
エ ン ジ ン	型 式 名		D1105-C-9				D1105-C-7			
	種 類		水冷4サイクル3気筒立形ディーゼル							
	総 排 気 量 (L{cc})		1.123 {1123}							
	出 力 / 回 転 速 度 (kW{PS}/rpm)		15.4 {21.0} / 2500							
	使 用 燃 料		ディーゼル軽油							
	燃 料 タ ン ク 容 量 (L)		24							
	始 動 方 式		セルモータ式							
	バ ッ テ リ (V・Ah)		12・36							
走 行 部	ク ロ ー ラ	中 心 距 離 (mm)	825	815	825	815	825	815	825	815
		幅 × 接 地 長 (mm)	330 × 1159	360 × 1159	330 × 1159	360 × 1159	330 × 1159	360 × 1159	330 × 1159	360 × 1159
		平均接地圧 (kPa{kgf/cm ² })	15.8 {0.16}	14.7 {0.15}	15.8 {0.16}	14.7 {0.15}	16.0 {0.16}	14.9 {0.15}	16.0 {0.16}	14.9 {0.15}
	最 低 地 上 高(mm)		186							
	変 速 方 式		油圧シフト式				ベルト式〔ジョイマチックCVT〕			
	変 速 段 数		前進9段・後進3段				前進無段・後進無段〔副変速各3段〕			
	走 行 速 度(m/s) 〔エンジン定格回転速度時〕	前 進	低 : 0.27・0.37・0.48 中 : 0.54・0.74・0.96 高 : 1.06・1.48・1.90				低 : 0.13~0.54 中 : 0.24~0.96 高 : 0.45~1.81			
		後 進	低 : 0.27 中 : 0.54 高 : 1.05				低 : 0.14~0.38 中 : 0.23~0.64 高 : 0.46~1.27			
旋 回 方 式			ブレーキターン							
刈 取 部	刈 取 条 数 (条)		2							
	刈 幅〔デバイダ先端間隔〕(mm)		795~845							
	刈 取 装 置 形 式		往復動刃式							
	刃 幅(mm)		795							
	変 速 段 数(段)		2				2〔車速同調〕			
	刈 高 さ 範 囲(mm)		35~150							
	こ ぎ 深 さ 調 節 方 式		電動モータ式							
	刈 取 横 ス ラ イ ド 量(mm)		240							
脱 こ く 部	脱 こ く 方 式		下こぎ・単胴・軸流式							
	こ ぎ 胴	径 × 幅(mm)	424 × 600							
		回転速度(rpm)	465〔S1仕様 : 400〕							
	処 理 胴	径 × 幅(mm)	250 × 106〔ツースパー処理方式〕							
		回転速度(rpm)	1200							
	2 番 還 元 方 式		スクリュ式							
	揺 動 板 幅 × 長 さ(mm)		465 × 1071							
	選 別 方 式		揺動・圧風・全幅吸引							

* この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

農 機 型 式 名		クボタ R9602G							
商 品 名		SR215AG				SR215JG			
区 分		DW	DW2	HDW	HDW2	DW	DW2	HDW	HDW2
こく粒処理部	タンク容量 (L{袋})	570 {約11.5} [1袋約50L]							
	排出方式	スクリュコンベア式							
	排出時間 (s)	150							
	旋回範囲(度)・旋回方式	300 [右230, 左70] ・電動モータ式							
	昇降範囲(度)・昇降方式	0 [水平] ~45・油圧式							
	排出高さ [作業時] (mm)	1885~4360							
	排出長さ [作業時] (mm)	2410~3470							
排わら処理装置	工場出荷仕様	●カッタ 又は, ●カッタ後部標準結束機 又は, ●カッタ後部ドロツパ カッタ切断長さ: 35mm又は, 50mm [切断刃: 標準切断刃]							
	オプション	●35mm切断カッタ ●50mm切断カッタ ●35/150mm切換え式カッタ ●50/150mm切換え式カッタ [切断刃: 標準切断刃/セラミック切断刃] ●カッタ後部標準結束機 ●単体標準結束機 ●カッタ後部ストンバ結束機 ●単体ストンバ結束機 ●カッタ後部ドロツパ ●標準結束機後部寄せ装置							
諸化装置	自動こぎ深さ制御	○	○	○	○	○	○	○	○
	自動車速制御	—	—	—	—	○	○	○	○
	自動方向制御	—	—	○	○	—	—	○	○
	自動脱こく制御	—	—	○	○	—	—	○	○
	自動エンジン停止装置	○	○	○	○	○	○	○	○
	アンローダ自動旋回装置	○	○	○	○	○	○	○	○
	パイプロシャッタ [手動]	○	○	○	○	○	○	○	○
置	集中注油装置 [手動]	○	○	○	○	○	○	○	○
	防じんカバー	—	—	○	○	—	—	○	○
警 報 装 置		充電, オイル, 燃料, 水温, 負荷, エンジン回転, こぎ深さ シープ詰まり, 2番詰まり, もみ満杯, カッタ詰まり, 制御装置 [システム] 異常							
適応作物範囲 [全長] (mm)		550~1300							
倒伏適応性 (度)		追刈り: 85以下・向刈り: 70以下							
作業能率 [計算値] (a/hr{分/10a})		21~12 {28~48}							

*この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

農 機 型 式 名			クボタ R9602G	
商 品 名			R218SAG	
区 分			DW	
機 体 寸 法	全 長 (mm)		3105	
	全 幅 (mm)		1660	
	全 高 (mm)		1920	
機 体 質 量〔重量〕(kg)			1155	
エ ン ジ ン	型 式 名		D1105-C-4-2	
	種 類		水冷4サイクル3気筒立形ディーゼル	
	総 排 気 量 (L{cc})		1.123 {1123}	
	出 力 / 回 転 速 度 (kW{PS}/rpm)		13.2 {18} / 2500	
	使 用 燃 料		ディーゼル軽油	
	燃 料 タ ン ク 容 量 (L)		18	
	始 動 方 式		セルモータ式	
	バ ッ テ リ (V·Ah)		12・36	
走 行	ク ロ ー ラ	中 心 距 離 (mm)	825	
		幅 × 接 地 長 (mm)	330 × 1093	
		平 均 接 地 圧 (kPa{kgf/cm ² })	15.7 {0.16}	
部	最 低 地 上 高 (mm)		186	
	変 速 方 式		油圧シフト式	
	変 速 段 数		前進9段・後進3段	
	走 行 速 度 (m/s) 〔エンジン定格回転速度時〕	前 進	低 : 0.24・0.33・0.43 中 : 0.48・0.66・0.86 高 : 0.94・1.31・1.69	
		後 進	低 : 0.24 中 : 0.48 高 : 0.94	
	旋 回 方 式		ブレーキターン	
	刈 取 部	刈 取 条 数 (条)		2
		刈 幅〔デバイダ先端間隔〕(mm)		795～845
刈 取 装 置 形 式		往復動刃式		
刃 幅 (mm)		795		
変 速 段 数 (段)		2		
刈 高 さ 範 囲 (mm)		35～150		
こぎ深さ調節方式		電動モータ式		
刈取横スライド量 (mm)		240		
脱 こ く 部	脱 こ く 方 式		下こぎ・単胴・軸流式	
	こ ぎ 胴	径 × 幅 (mm)	424 × 450	
		回転速度 (rpm)	465	
	処 理 胴	径 × 幅 (mm)	250 × 106〔ツースパー処理方式〕	
		回転速度 (rpm)	1200	
	2 番 還 元 方 式		スクリュ式	
	揺 動 板	幅 × 長さ (mm)	465 × 921	
		選 別 方 式		揺動・圧風・全幅吸引

* この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

農 機 型 式 名		クボタ R9602G
商 品 名		R218SAG
区 分		DW
こく粒処理部	タンク容量 (L{袋})	470 {約9.5} [1袋約50L]
	排出方式	スクリュコンベア式
	排出時間 (s)	120
	旋回範囲(度)・旋回方式	300 [右230, 左70] ・電動モータ式
	昇降範囲(度)・昇降方式	0 [水平] ~45・油圧式
	排出高さ〔作業時〕(mm)	1730~3720
	排出長さ〔作業時〕(mm)	2040~2810
排わら処理装置	工場出荷仕様	●カッタ 又は、●カッタ後部標準結束機 又は、●カッタ後部ドロツパ カッタ切断長さ：35mm又は、50mm [切断刃：標準切断刃]
	オプション	●35mm切断カッタ ●50mm切断カッタ ●35/150mm切換え式カッタ ●50/150mm切換え式カッタ [切断刃：標準切断刃/セラミック切断刃] ●カッタ後部標準結束機 ●単体標準結束機 ●カッタ後部ストンパ結束機 ●単体ストンパ結束機 ●カッタ後部ドロツパ ●標準結束機後部寄せ装置
諸化装置	自動こぎ深さ制御	○
	自動車速制御	—
	自動方向制御	—
	自動脱こく制御	—
	自動エンジン停止装置	○
	アンローダ自動旋回装置	○
	パイプロシャッタ〔手動〕	○
	集中注油装置〔手動〕	○
	防じんカバー	—
置	警 報 装 置	充電, オイル, 燃料, 水温, 負荷, エンジン回転, こぎ深さ シープ詰まり, 2番詰まり, もみ満杯, カッタ詰まり, 制御装置〔システム〕異常
適応作物範囲〔全長〕(mm)		550~1300
倒 伏 適 応 性 (度)		追刈り：85以下・向刈り：70以下
作業能率〔計算値〕(a/hr{分/10a})		17~10 {34~56}

* この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

農 機 型 式 名			クボタ R9514G					
商 品 名			SR - M20AG			SR - M20JG		
区 分			D	DW	DW2	D	DW	DW2
機 体 寸 法	全 長 (mm)		3495					
	全 幅 (mm)		1680					
	全 高 (mm)		1970					
機 体 質 量〔重量〕(kg)			1360	1380	1435	1380	1400	1455
エ ン ジ ン	型 式 名		D1105 - C - 5					
	種 類		水冷4サイクル3気筒立形ディーゼル					
	総 排 気 量 (L(cc))		1.123 {1123}					
	出 力 / 回 転 速 度 (kW(PS)/rpm)		14.7 {20.0} / 2500					
	使 用 燃 料		ディーゼル軽油					
	燃 料 タ ン ク 容 量 (L)		24					
	始 動 方 式		セルモータ式					
	バ ッ テ リ (V・Ah)		12・36					
走 行	ク	中 心 距 離 (mm)	905	895	895	905	895	895
		幅 × 接 地 長 (mm)	330 × 1230	360 × 1230	400 × 1230	330 × 1230	360 × 1230	400 × 1230
		平 均 接 地 圧 (kPa(kg/cm ²))	16.4 {0.17}	15.3 {0.16}	14.3 {0.15}	16.7 {0.17}	15.5 {0.16}	14.5 {0.15}
部	最 低 地 上 高 (mm)		225					
	変 速 方 式		油圧シフト式			ベルト式〔ジョイマチックCVT〕		
	変 速 段 数		前進9段・後進3段			前進無段・後進無段〔副変速各3段〕		
	走 行 速 度 (m/s) 〔エンジン定格回転速度時〕	前 進	低 : 0.25・0.35・0.45 中 : 0.42・0.59・0.79 高 : 0.98・1.36・1.76			低 : 0.11~0.45 中 : 0.19~0.79 高 : 0.34~1.38		
後 進		低 : 0.25 中 : 0.42 高 : 0.98			低 : 0.11~0.31 中 : 0.19~0.53 高 : 0.34~0.96			
刈 取	旋 回 方 式		ブレーキターン					
	刈 取 条 数 (条)		3					
	刈 幅〔デバйда先端間隔〕(mm)		1150~1200					
	刈 取 装 置 形 式		往復動刃式					
	刃 幅 (mm)		1136					
	変 速 段 数 (段)		2			2〔車速同調〕		
	刈 高 さ 範 囲 (mm)		35~150					
脱 こ	こぎ深さ調節方式		電動モータ式					
	脱 こ く 方 式		下こぎ・単胴・軸流式					
	こ ぎ 胴	径 × 幅 (mm)	424 × 600					
		回転速度 (rpm)	480					
	処 理 胴	径 × 幅 (mm)	250 × 106〔ツースパー処理方式〕					
		回転速度 (rpm)	1191					
	2 番 還 元 方 式		スクリュ式					
	部	揺 動 板	幅 × 長さ (mm)	465 × 1132				
選 別 方 式		揺動・圧風・全幅吸引						

* この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

農 機 型 式 名		クボタ R9514G				
商 品 名		SR - M20AG			SR - M20JG	
区 分		D	DW	DW2	D	DW DW2
こ く 粒 処 理 部	タ ン ク 容 量 (L{袋})	640 {約13} {1 袋約50L}				
	ア 排 出 方 式	スクリュコンベア式				
	排 出 時 間 (s)	160				
	旋回範囲(度)・旋回方式	300〔右230, 左70〕・電動モータ式				
	昇降範囲(度)・昇降方式	0〔水平〕～45・油圧式				
	排出高さ〔作業時〕(mm)	1780～3770				
	排出長さ〔作業時〕(mm)	2040～2810				
排 わ ら 処 理 装 置	工 場 出 荷 仕 様	●カッタ 又は、●カッタ後部標準結束機 カッタ切断長さ：35mm又は、50mm〔切断刃：標準切断刃〕				
	オ プ シ ョ ン	●35mm切断カッタ ●50mm切断カッタ ●35/150mm切換え式カッタ ●50/150mm切換え式カッタ〔切断刃：標準切断刃/セラミック切断刃〕 ●カッタ後部標準結束機 ●単体標準結束機 ●カッタ後部ストンパ結束機 ●単体ストンパ結束機 ●カッタ後部ドロツパ ●標準結束機後部集束ドロツパ				
諸 装 置	自 動 こ ぎ 深 さ 制 御	○	○	○	○	○
	自 動 車 速 制 御	—	—	—	○	○
	自 動 エ ン ジ ン 停 止 装 置	○	○	○	○	○
	ア ン ロ ー ダ 自 動 旋 回 装 置	○	○	○	○	○
	バ イ プ ロ シ ャ ッ タ 〔 手 動 〕	○	○	○	○	○
	集 中 注 油 装 置 〔 手 動 〕	○	○	○	○	○
	防 じ ん カ バ ー	○	○	○	○	○
	警 報 装 置	充電, オイル, 燃料, 水温, 負荷, エンジン回転, こぎ深さ シープ詰まり, 2 番詰まり, もみ満杯, カッタ詰まり, 制御装置〔システム〕異常				
適応作物範囲〔全長〕(mm)		550～1300				
倒 伏 適 応 性 (度)		追刈り：85以下・向刈り：70以下				
作業能率〔計算値〕(a/hr{分/10a})		23～13 {26～46}				

*この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

農 機 型 式 名			クボタ R9514(G)								
商 品 名			SR-M23A(G)			SR-M23J(G)					
区 分	ホ ッ パ 仕 様		D	DW	—	—	—	HD	HDW	—	
	グレンタンク仕様		—	DW	DW2	DW	DW2	—	HDW	HDW2	
機 体 寸 法	全 長 (mm)		3555								
	全 幅 (mm)		1680								
	全 高 (mm)	ホ ッ パ	1800								
		グレンタンク	1970								
機 体 質 量〔重量〕	ホ ッ パ		1257	1300	—	—	—	1300	1325	—	
	(kg) グレンタンク		—	1450	1465	1475	1490	—	1480	1495	
エ ン ジ ン	型 式 名		D1105 - C - 3								
	種 類		水冷4サイクル3気筒立形ディーゼル								
	総 排 気 量 (L{cc})		1.123 {1123}								
	出 力 / 回 転 速 度 (kW{PS}/rpm)		16.5 {22.5} / 2800								
	使 用 燃 料		ディーゼル軽油								
	燃 料 タ ン ク 容 量 (L)		24								
	始 動 方 式		セルモータ式								
	バ ッ テ リ (V・Ah)		12・36								
走 行 部	ク ロ ー ラ	中 心 距 離 (mm)	ホ ッ パ	905	895	—	—	—	905	895	—
			グレンタンク	—	895	895	895	895	—	895	895
		幅×接地長 (mm)	ホ ッ パ	330×1245	360×1245	—	—	—	330×1245	360×1245	—
			グレンタンク	—	360×1245	400×1245	360×1245	400×1245	—	360×1245	400×1245
		平均接地圧 (kPa{kgf/cm ² })	ホ ッ パ	15.2 {0.16}	14.2 {0.15}	—	—	—	15.5 {0.16}	14.5 {0.15}	—
			グレンタンク	—	15.9 {0.16}	14.4 {0.15}	16.1 {0.17}	14.7 {0.15}	—	16.2 {0.17}	14.7 {0.15}
刈 取 部	最 低 地 上 高 (mm)		225								
	変 速 方 式		油圧シフト式			ベルト式〔ジョイマチックCVT〕					
	変 速 段 数		前進9段・後進3段			前進無段・後進無段〔副変速各3段〕					
	走 行 速 度 (m/s)〔エンジン定格回転速度時〕	前 進	低：0.30・0.35・0.45 中：0.50・0.70・0.90 高：1.16・1.62・2.09			低：0.13～0.53 中：0.23～0.90 高：0.41～1.63					
		後 進	低：0.25 中：0.42 高：0.98			低：0.13～0.37 中：0.23～0.6 高：0.41～1.14					
	旋 回 方 式		ブレーキターン								
脱 こ 部	刈 取 条 数 (条)		3								
	刈 幅〔デバイダ先端間隔〕(mm)		1150～1200								
	刈 取 装 置 形 式		往復動刃式								
	刃 幅 (mm)		795								
	変 速 段 数 (段)		2			2〔車速同調〕					
	刈 高 さ 範 囲 (mm)		35～150								
脱 こ 部	こ ぎ 深 さ 調 節 方 式		電動モータ式								
	脱 こ く 方 式		下こぎ・単胴・軸流式								
	こ ぎ 胴	径×幅(mm)	424×600								
		回転速度(rpm)	480								
	処 理 胴	径×幅(mm)	250×106〔ツースパー処理方式〕								
		回転速度(rpm)	1191								
部	2 番 還 元 方 式		スクリュ式								
	揺 動 板 幅×長さ(mm)		465×1132								
	選 別 方 式		揺動・圧風・全幅吸引								

* この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

農 機 型 式 名			クボタ R9514(G)								
商 品 名			SR-M23A(G)			SR-M23J(G)					
区 分	ホ ッ パ 仕 様		D	DW	—	—	—	HD	HDW	—	
	グレンタンク仕様		—	DW	DW2	DW	DW2	—	HDW	HDW2	
こ く 粒 処 理 部	グ レ ン タ ン ク 仕 様	タ ン ク 容 量 (L{袋})	640 {約13} { 1 袋約50L}								
		排 出 方 式	スクリュコンベア式								
		排 出 時 間 (s)	120								
		旋回範囲(度)・旋回方式	300 [右230, 左70] ・電動モータ式								
		昇降範囲(度)・昇降方式	0 [水平] ~45・油圧式								
		排出高さ [作業時] (mm)	1780~3770								
		排出長さ [作業時] (mm)	2040~2810								
	ホッパ仕様	ホッパ	容 量(L{袋})	200 {約4} { 1 袋約50L}							
			吐出口数(口)	4							
	排 わ ら 処 理 装 置	工 場 出 荷 仕 様		●カッタ 又は, ●カッタ後部標準結束機 カッタ切断長さ: 35mm又は, 50mm [切断刃: 標準切断刃]							
オ プ シ ョ ン		●35mm切断カッタ ●50mm切断カッタ ●35/150mm切換え式カッタ ●50/150mm切換え式カッタ [切断刃: 標準切断刃/セラミック切断刃] ●カッタ後部標準結束機 ●単体標準結束機 ●カッタ後部ストンパ結束機 ●単体ストンパ結束機 ●カッタ後部ドロツパ ●標準結束機後部集束ドロツパ									
諸 化 装 置	自 動 化 装 置	自 動 こ ぎ 深 さ 制 御	○	○	○	○	○	○	○	○	
		自 動 車 速 制 御	—	—	—	○	○	○	○	○	
		自 動 方 向 制 御	—	—	—	—	—	○	○	○	
		自 動 脱 こ く 制 御	—	—	—	—	—	○	○	○	
		自動エンジン停止装置	○	○	○	○	○	○	○	○	
		アンローダ自動旋回装置 【グレンタンク仕様】	○	○	○	○	○	○	○	○	
	置	パイプロシャッタ [手動] 【グレンタンク仕様】	○	○	○	○	○	○	○	○	
		集中注油装置 [手動]	○	○	○	○	○	○	○	○	
		防 じ ん カ バ ー	—	—	—	—	—	○	○	○	
		警 報 装 置	充電, オイル, 燃料, 水温, 負荷, エンジン回転, こぎ深さ シーブ詰まり, 2 番詰まり, もみ満杯, カッタ詰まり, 制御装置 [システム] 異常								
適応作物範囲 [全長] (mm)			550~1300								
倒 伏 適 応 性 (度)			追刈り: 85以下・向刈り: 70以下								
作業能率 [計算値] (a/hr{分/10a})			27~15 {22~40}								

* この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

付属部品

次の部品が付属していますのでお調べください。

* 保証書【165・195・215・R218S】	1	* 工具	
* サービスブック【M20・M23】	1	10－12スパナ	1
* 取扱説明書	1	12－14スパナ	1
* 本機カバー	1	14－17スパナ	1
* 小物部品	1セット	⊕⊖ドライバ	1
* デバイダ	1式	プライヤ	1
* デバイダカバー	1式	油差し	1
* 分草ガイド	1	じょうご	1
* もみ袋【ホッパ仕様】	2	給油パイプ	1
* スローブローヒューズ（50A）	1	工具袋	1

オプション（別売品） （純正品を使いましょう）

◆刈取部

■スイスイデバイダ【165・195・215・R218S】

倒伏した作物が能率よく刈取りできます。

品 番	品 名
58112-00000	SRM20スイスイデバイダ

■スイスイデバイダ【M20・M23】

倒伏した作物が能率よく刈取りできます。3連式にする場合は2連式に1連式を右側に取付けてください。

	品 番	品 名
2連式	58183-00000	SRM21スイスイデバイダ
1連式	58184-00000	SRM21-Rスイスイデバイダ

◆脱こく部

■防じんカバー

運転席側へ飛散してくるゴミやちりを防ぐカバーです。

品 番	品 名
5H522-95100	カバー, アッシ(ボウジン)【165・195・215・R218S】
5H120-95100	カバー, アッシ(ボウジンアトツケ)【M20】
52450-56100	カバー, アッシ(ボウジン)【M23】

■キャノピ

グレンタンク装着型の雨よけ、日よけです。

品 番	品 名
5H099-00000	CP-20 キャノピ

■種子用交換部品

品 番	品 名
53687-93300	コウカンブヒン, アッシ(シュシヨウ)【165・R218S】
53680-93300	241, アッシ(シュシヨウ)【195・215】
53682-93300	25, アッシ(シュシヨウ)【M20・M23】

◆こく粒処理部

■グレンタンク用延長アンローダ【G仕様】

品 番	品 名
58058-91100	延長アンローダアッシ【M20】
5G030-91100	延長アンローダアッシ【M23】
5G045-91101	延長アンローダアッシ【R218S】

*延長アンローダの長さは0.8mです。

■作業灯ランプ【G仕様】

アンローダ先端に取付けます。

品 番	品 名
58058-91500	ランプ(作業灯アッシ)

■アンローダリモコン

アンローダの昇降、旋回やもみの排出の操作がアンローダの先端で行なえます。

品 番	品 名
5H149-00000	SR-GPKパワークラッチ, キット

◆排わら処理部

■カッタ後部標準結束機

品 番	品 名
57964-00000	NK-20SY

■単体標準結束機

品 番	品 名
57171-00000	NK-20Y

■カッタ後部ストンパ結束機

品 番	品 名
57988-00000	NK-20SR

■単体ストンパ結束機

品 番	品 名
57181-00000	NK-20R

■カッタ後部ドロツパ

品 番	品 名
57257-00000	D-30

■標準結束機後部寄せ装置

【165・195・215・R218S】

品 番	品 名
57857-00000	YNK-2

■標準結束機後部集束ドロップ

【M20・M23】

品 番	品 名
57873-00000	DNK-3

■50mm・35mm切断カッタ

品 番	品 名
57749-02000	S-20(M1) カッタ(50mm切断) 【165・195・215】
57749-04000	S-20(S) カッタ(50mm切断) 【R218S】
57749-03000	S-20(M) カッタ(50mm切断) 【M20・M23】
57708-02000	S-20H(M1) カッタ (50mm切断セラミック刃) 【165・195・215】
57708-04000	S-20H(S) カッタ (50mm切断セラミック刃) 【R218S】
57708-03000	S-20H(M) カッタ (50mm切断セラミック刃) 【M20・M23】
57739-02000	SS-20(M1) スーパカッタ(35mm切断) 【165・195・215】
57739-04000	SS-20(S) カッタ(35mm切断) 【R218S】
57739-03000	SS-20(M) スーパカッタ(35mm切断) 【M20・M23】
57709-02000	SS-20H(M1) スーパカッタ (35mm切断セラミック刃) 【165・195・215】
57709-04000	SS-20H(S) カッタ (35mm切断セラミック刃) 【R218S】
57709-03000	SS-20H(M) スーパカッタ (35mm切断セラミック刃) 【M20・M23】

■50/150mm・35/150mm切断長切換えカッタ

わらの切断長さがレバー 1 本で簡単に約50mmと約150mm、約35mmと約150mmに切換えができます。

品 番	品 名
57736-02000	S-20C (M1) 切換えカッタ (50/150mm切断) 【165・195・215】
57736-04000	S-20C (S) 切換えカッタ (50/150mm切断) 【R218S】
57736-03000	S-20C (M) 切換えカッタ (50/150mm切断) 【M20・M23】
57718-02000	S-20CH (M1) 切換えカッタ (50/150mm切断セラミック刃) 【165・195・215】
57718-04000	S-20CH (S) 切換えカッタ (50/150mm切断) 【R218S】
57718-03000	S-20CH (M) 切換えカッタ (50/150mm切断セラミック刃) 【M20・M23】
57737-02000	SS-20C (M1) 切換えカッタ (35/150mm切断) 【165・195・215】
57737-04000	SS-20C (S) 切換えカッタ (35/150mm切断) 【R218S】
57737-03000	SS-20C (M) 切換えカッタ (35/150mm切断) 【M20・M23】
57719-02000	SS-20CH (M1) 切換えカッタ (35/150mm切断セラミック刃) 【165・195・215】
57719-04000	SS-20CH (S) 切換えカッタ (35/150mm切断) 【R218S】
57719-03000	SS-20CH (M) 切換えカッタ (35/150mm切断セラミック刃) 【M20・M23】

■セラミック切断刃

品 番	品 名	個数/台			
		S-20	S-20C	SS-20	SS-20C
57748-91120	セツダンバ (130×17セラミック)	—	11	—	20
57748-91110	セツダンバ (150×17セラミック)	16	5	26	6

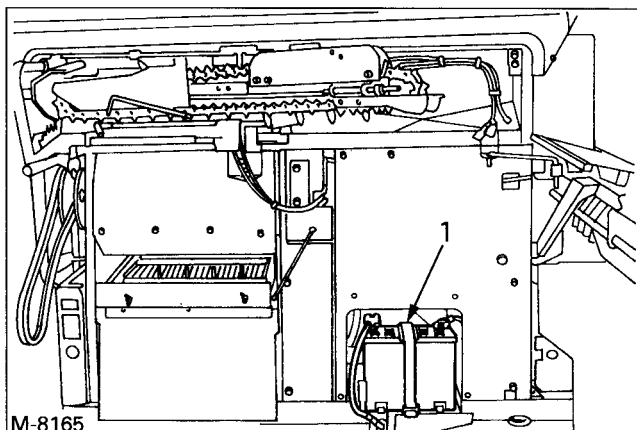
■簡易拡散装置 【M20・M23】

わら処理部で切わらの拡散と条散布の作業が行なえます。

品 番	品 名
57748-9120-0	カクサン、アッシ(カンイ)

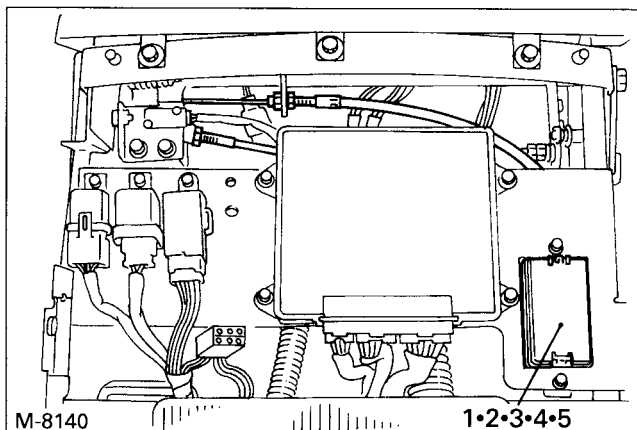
消耗部品（純正部品を使いましょう）

◆バッテリー



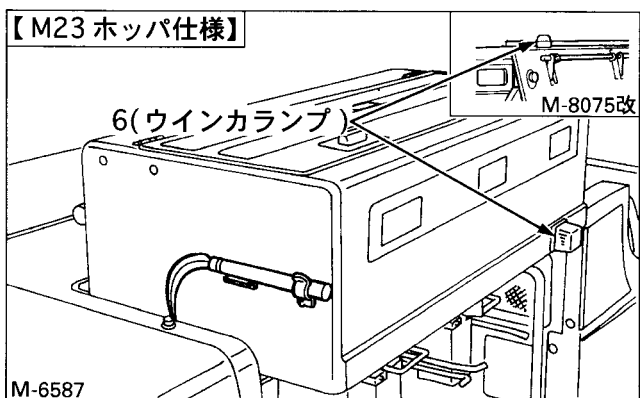
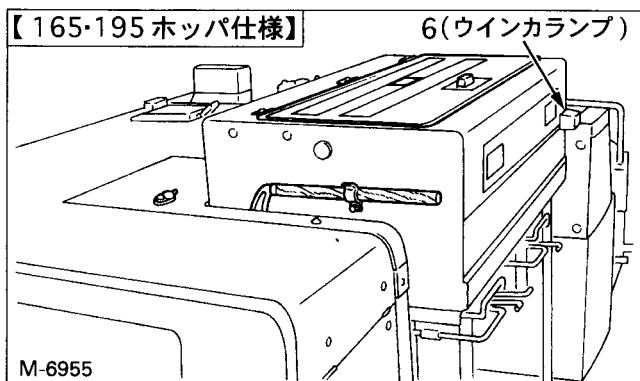
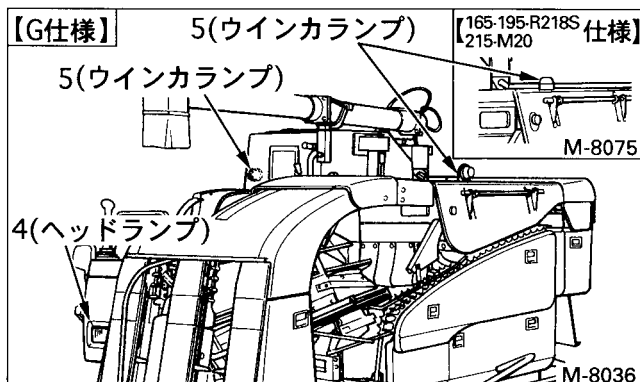
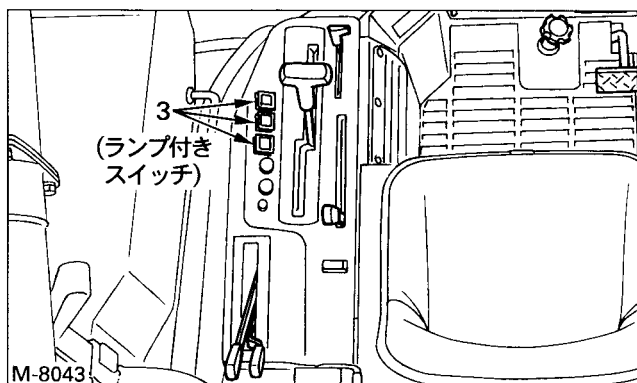
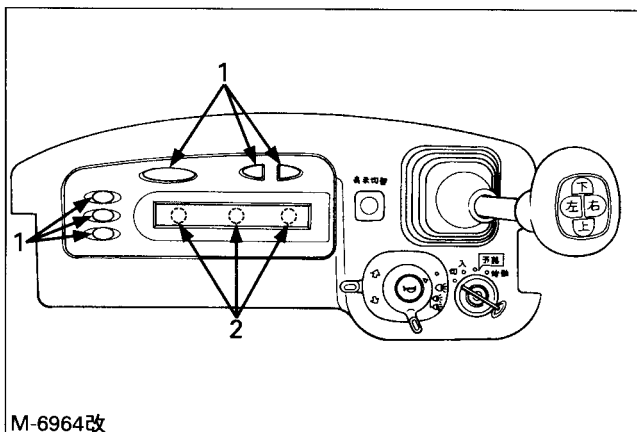
図番	品 名	品 番	対象型式
1	バッテリー (50B24L-MF)	07908-25040	全型式
	バッテリー(デルコ 50B24L)	5H522-4111-0	

◆ヒューズ



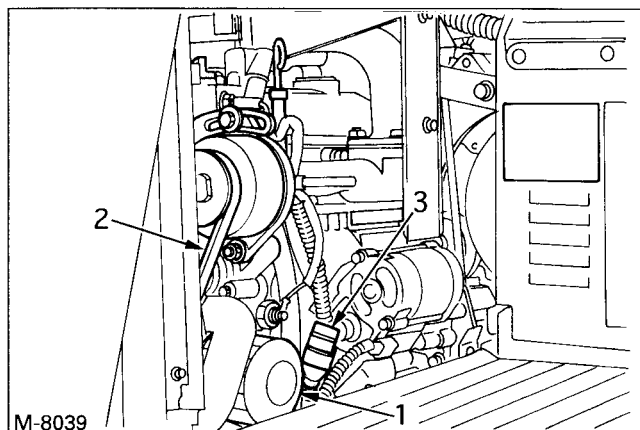
図番	品 名	品 番	対象型式
1	10Aオートヒューズ	5H050-4162-0	全型式
2	15Aオートヒューズ	5H050-4163-0	
3	20Aオートヒューズ	5H050-4164-0	
4	25Aオートヒューズ	5H050-4165-0	
5	30Aオートヒューズ	5H050-4166-0	

◆ランプ(電球)



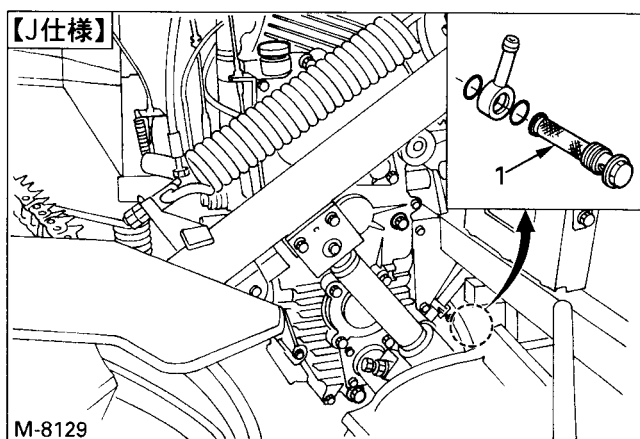
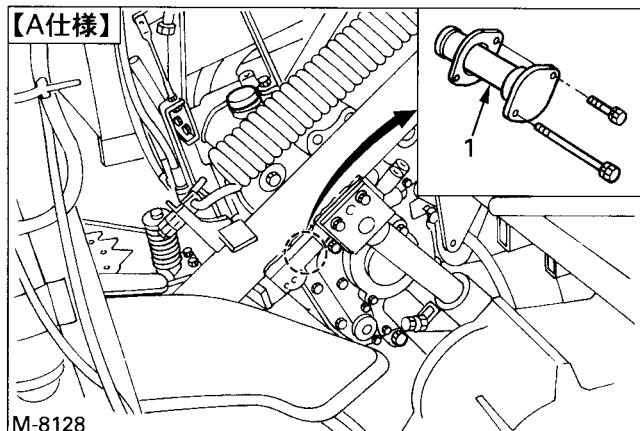
図番	品 名	品 番	対象型式
1	バルブ 1.7W	52200-4153-0	全型式
2	ランプバルブ	5H050-4407-0	
3	ランプバルブ	56713-9516-0	
4	ランプバルブ	56713-4172-0	
5	ランプバルブ	59900-4816-0	グレンタンク仕様
6	ランプバルブ	36200-7517-0	ホッパ仕様

- ◆オイルフィルタカートリッジ
- ◆ファン駆動ベルト (37.5インチベルト)
- ◆スローブローヒューズ



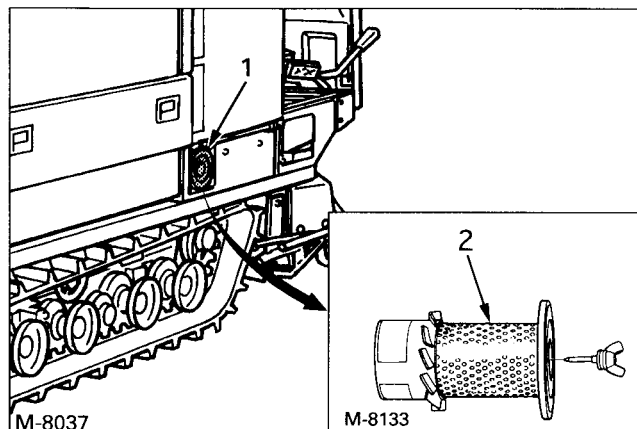
図番	品名	品番	対象型式
1	オイルフィルタカートリッジ	15241-3209-0	195-215-R218S-M20-M23
		15853-3243-0	165
2	Vベルト (35.0)	16883-9701-0	165
	37.5 Vベルト	16282-9701-0	195-215-R218S
	37 Vベルト	16241-9701-0	M20-M23
3	スローブローヒューズ	17478-6008-0	全型式

◆ミッションオイルフィルタ



図番	品名	品番	対象型式
1	オイルフィルタ	59240-1531-0	A仕様
	オイルフィルタ	67156-3612-0	J仕様

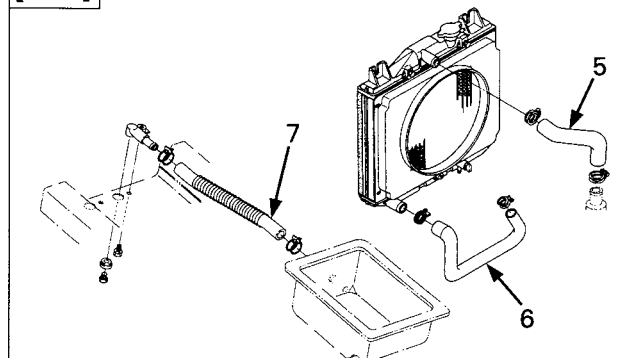
◆エアクリーナエレメント



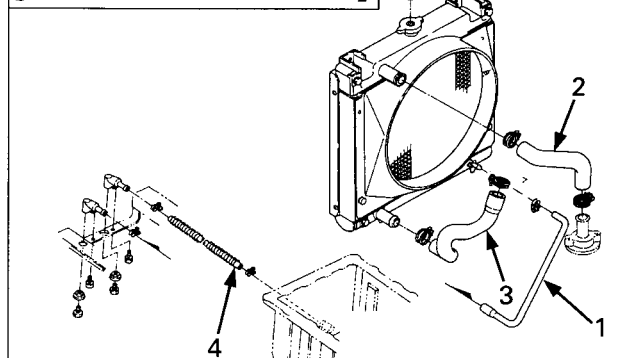
図番	品名	品番	対象型式
1	エレメントアッシ	52300-2578-0	全型式
2	エアクリーナエレメント	15852-1122-0	全型式

◆ラジエータホース, オイルドレインゴムホース

【165】



【195・215・R218S・M20・M23】

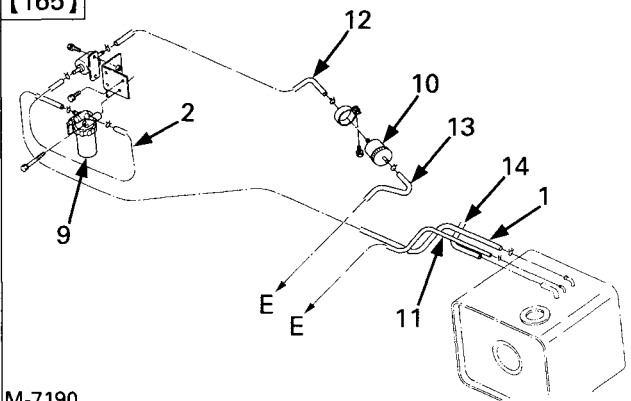


図番	品名	品番
1	チューブ(ハイスイ)	5H522-2592-0
2	ウォーターパイプ2	52300-2544-0
3	ホース(2, ウォータ)	52320-2539-0
4	チューブ(ハイユ)	52450-2591-0
5	ウォーターパイプ4	52350-2544-0
6	ウォーターパイプ1	52350-2539-0
7	チューブ(ハイユ)	5H020-2591-0

◆フューエルパイプ

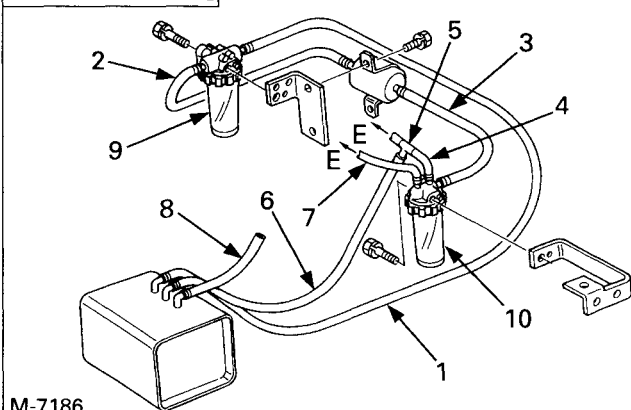
◆フューエルフィルタアッシ, フィルタエレメント

【165】



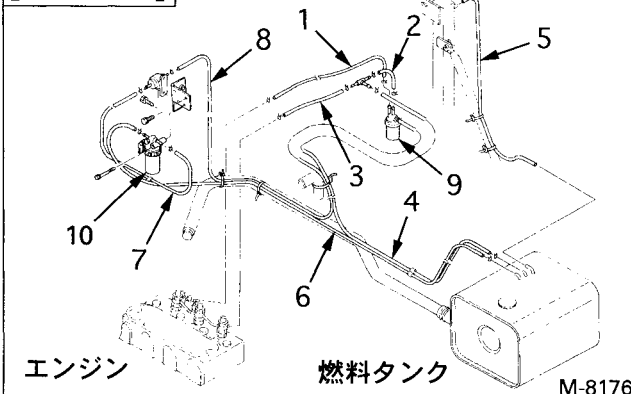
M-7190

【195・215・R218S】



M-7186

【M20・M23】

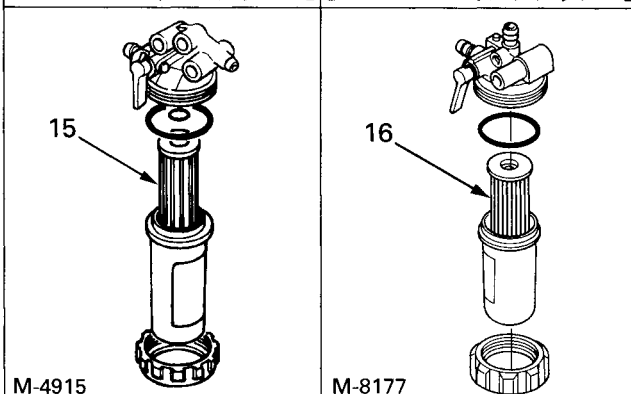


エンジン

燃料タンク

M-8176

【フューエルフィルタアッシ1】 【フューエルフィルタアッシ2】

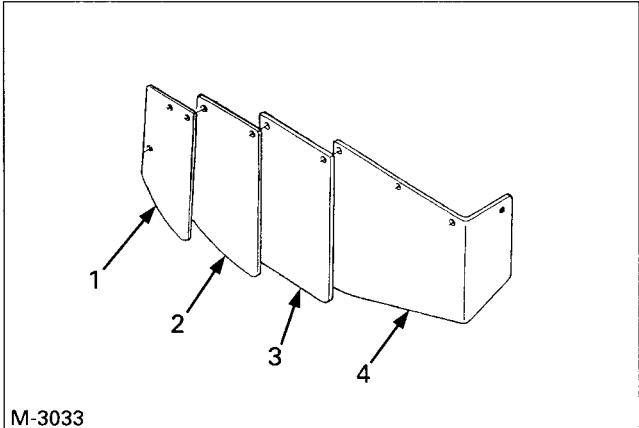
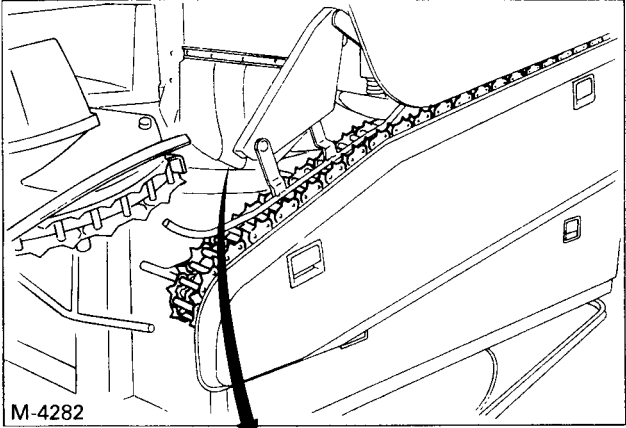


M-4915

M-8177

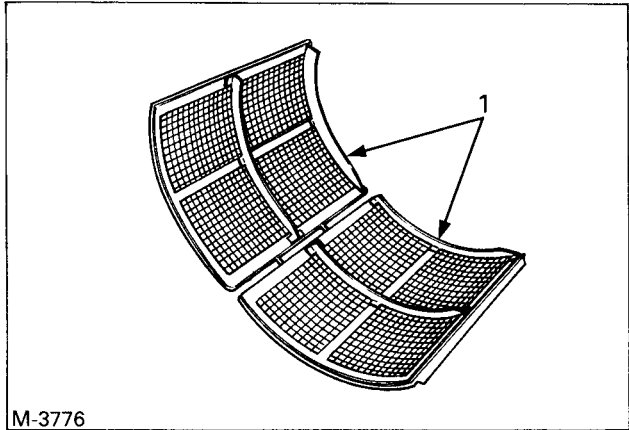
図番	品 名	品 番	対象型式
1	フューエルチューブ	09661-72000	165・195・215・R218S
		09661-70220	M20・M23
2	フューエルチューブ	09661-70300	165・195・215・R218S
		09661-40060	M20・M23
3	フューエルチューブ	09661-71100	165・195・215・R218S
		09661-40440	M20・M23
4	フューエルチューブ	09661-40060	165・195・215・R218S
		09661-41400	M20・M23
5	フューエルチューブ	09661-40190	165・195・215・R218S
		09663-80625	M20・M23
6	フューエルチューブ	09661-41400	165・195・215・R218S
		09661-72000	M20・M23
7	フューエルチューブ	09661-70220	165・195・215・R218S
		09661-70300	M20・M23
8	フューエルチューブ	09663-80625	165・195・215・R218S
		09661-71100	M20・M23
9	フューエルフィルタアッシ1	15393-4301-7	全型式
10	フューエルフィルタアッシ2	13351-4301-0	165
		16271-4301-0	195・215・R218S・M20・M23
11	フューエルチューブ	09661-41800	165・195・215・R218S
12	フューエルチューブ	09661-70950	165・195・215・R218S
		09661-70300	165
13	フューエルチューブ	09661-70260	195・215・R218S
		09663-80525	165・195・215・R218S
14	フューエルチューブ	09663-80525	165・195・215・R218S
15	エレメントアッシ	15231-4356-0	全型式
16	エレメントアッシ	16271-4356-0	全型式

◆脱こくフロントハンプ



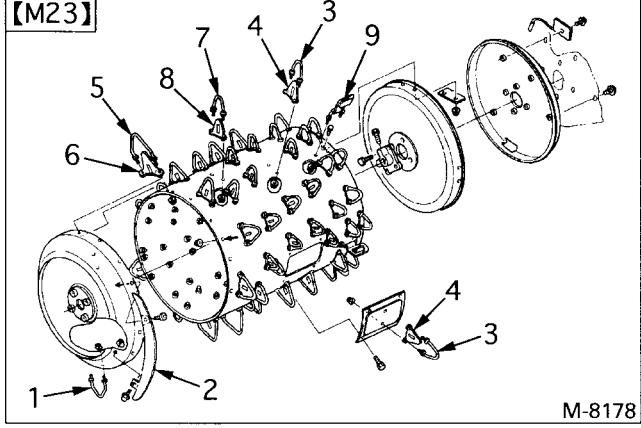
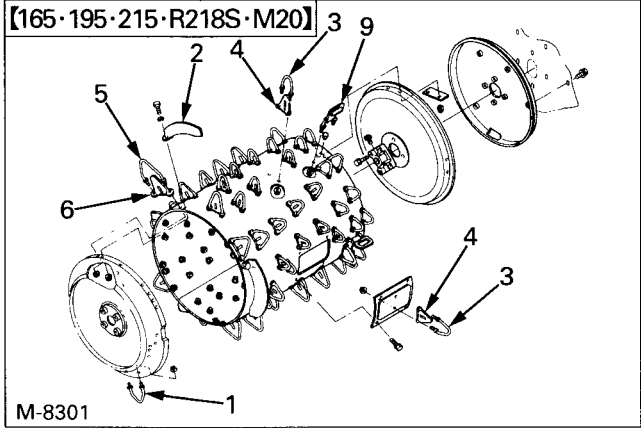
図番	品 名	品 番	対象型式
1	入口飛散防止1	53650-6115-2	全型式
2	入口飛散防止2	53650-6116-0	
3	入口飛散防止3	53650-6117-0	
4	入口飛散防止4	53650-6118-0	

◆樹脂受あみ



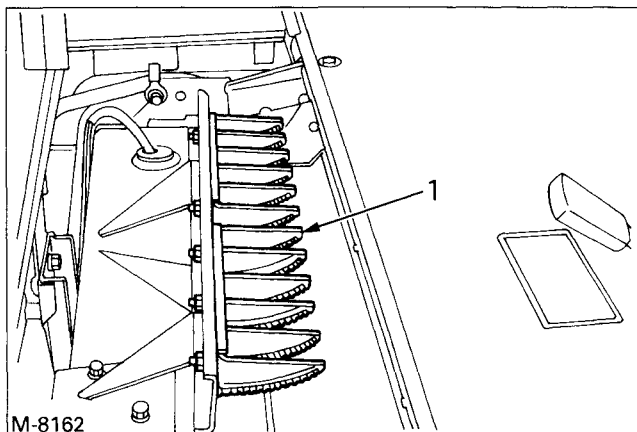
図番	品 名	品 番	対象型式
1	9+11 受けアミ	53660-2114-0	165・R218S
		53650-2114-3	195・215 M20・M23

◆こぎ歯



図番	品 名	品 番	対象型式
1	ダイ1セイソシ	53582-7212-0	全型式
2	イタセイソシ	53567-2145-0	165・195・215・R218S・M20
		53961-2257-3	M23
3	ナミハ	53582-7219-0	全型式
4	イタコキハ	53567-2147-0	
5	ダイ2ホキョウシ	53582-7217-0	165・195・215・R218S・M20
		53821-2247-0	M23
6	イタホキョウシ	53567-2146-0	165・195・215・R218S・M20
		53821-2246-0	M23
7	ナミハ	53821-2248-3	M23
8	イタコキハ	53821-2249-0	
9	コキドウハネ	53591-2127-2	全型式

◆わら切刃

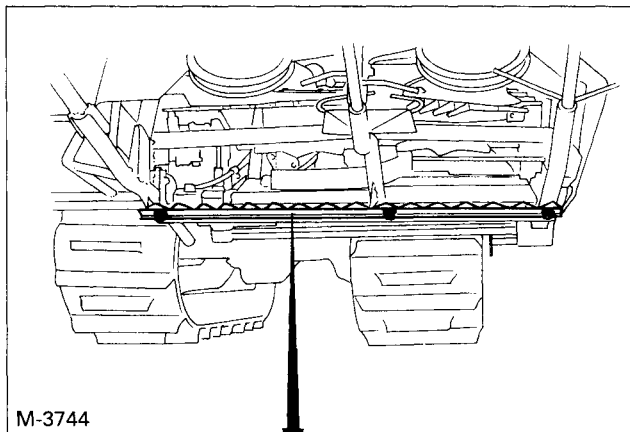


M-8162

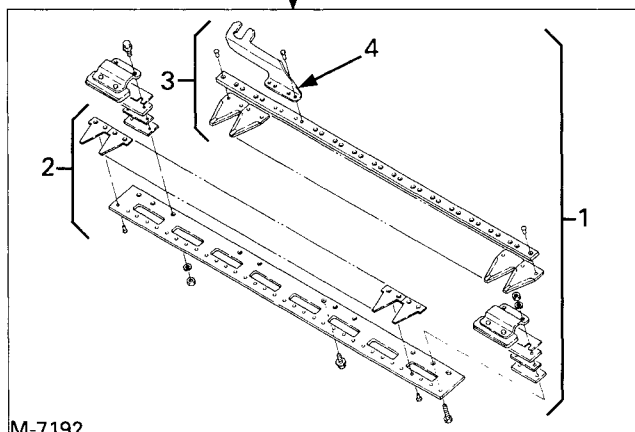
図番	品 名	品 番	対象型式
1	セツダンバ(ワラキリハ)	53605-2151-0	全型式

◆刈刃

[165・195・215・R218S]



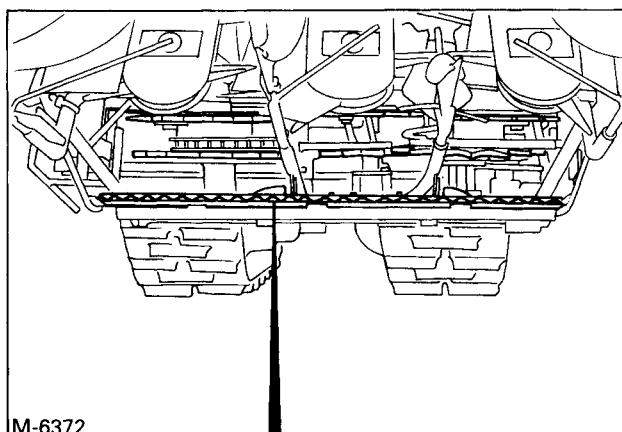
M-3744



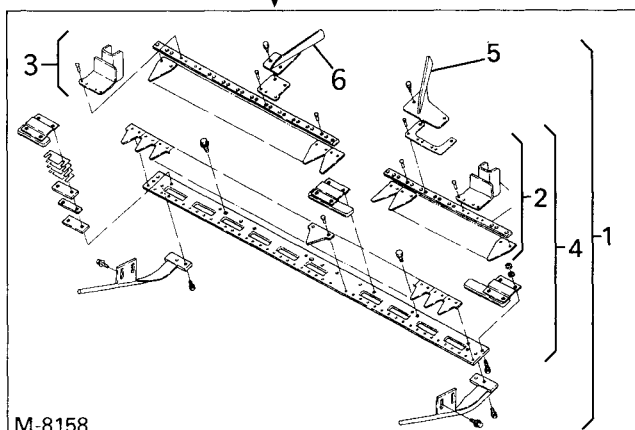
M-7192

図番	品 名	品 番
1	刈刃アッシ	5H050-5801-0
2	受刃コンブ	5H050-5830-0
3	刈刃コンブ	5H050-5840-0
4	ナイフヘッド	52300-5843-0

[M20・M23]



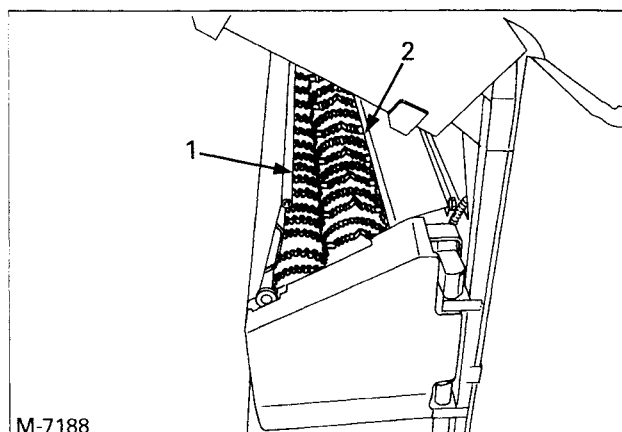
M-6372



M-8158

図番	品 名	品 番	対象型式
1	刈刃アッシ	52450-5801-0	全型式
2	刈刃コンブ左	52450-5810-0	
3	刈刃コンブ右	52450-5840-0	
4	刈刃アッシ	52450-5801-0	
5	プレート(LH, スイング)	52450-5921-0	
6	プレート(RH, スイング)	52450-5923-0	

◆カッタ刃

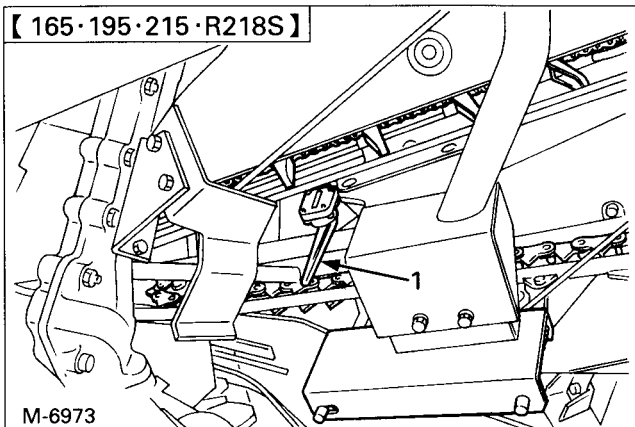


M-7188

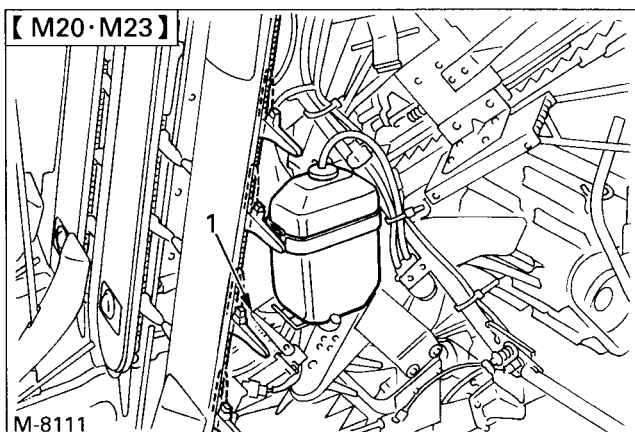
図番	品 名	品 番	対象型式
1	150セツダンバ	57783-2121-0	全型式
1	セツダンバ(130)	57784-2223-0	SS-20C
2	130キョウキュウバ	57783-2139-0	全型式

◆株元センサ

【165・195・215・R218S】



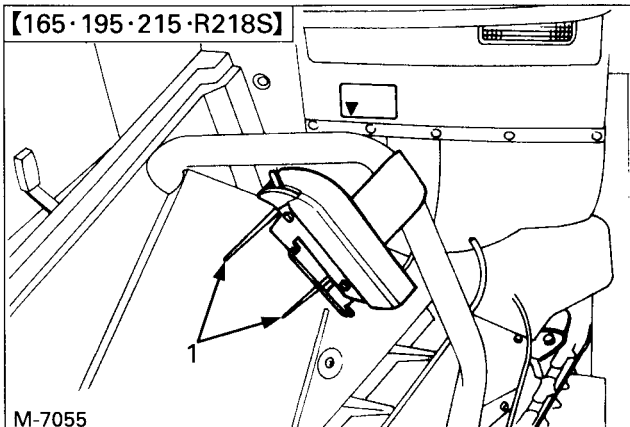
【M20・M23】



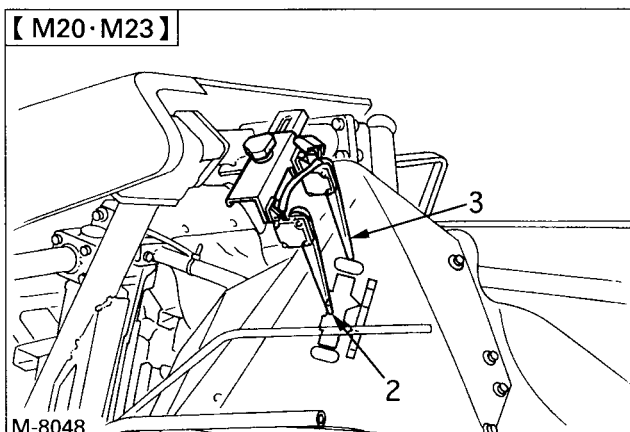
図番	品 名	品 番	対象型式
1	スイッチ, アッシ(カブモト)	59700-7503-0	165-195-215-R218S
	カブモトセンサ, アッシ	52450-7580-0	M20-M23

◆穂先センサ

【165・195・215・R218S】

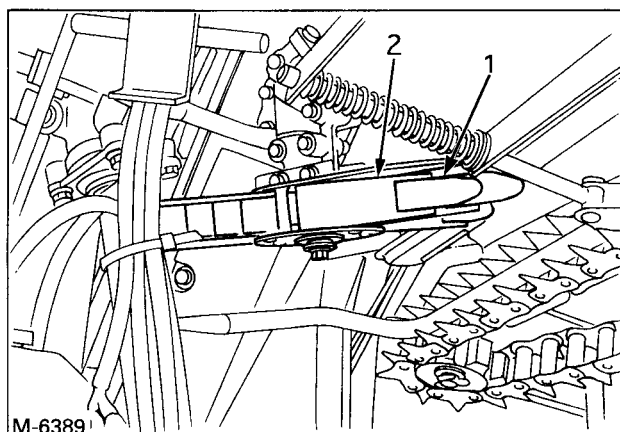


【M20・M23】



図番	品 名	品 番	対象型式
1	ホサキセンサアッシ	52300-7534-0	165-195-215-R218S
2	センサ, アッシ (AFC)	52450-7560-0	M20-M23
2	センサ, アッシ (カブモト)	52450-7580-0	M20-M23

◆カキコミ爪延長ゴム【M20・M23】

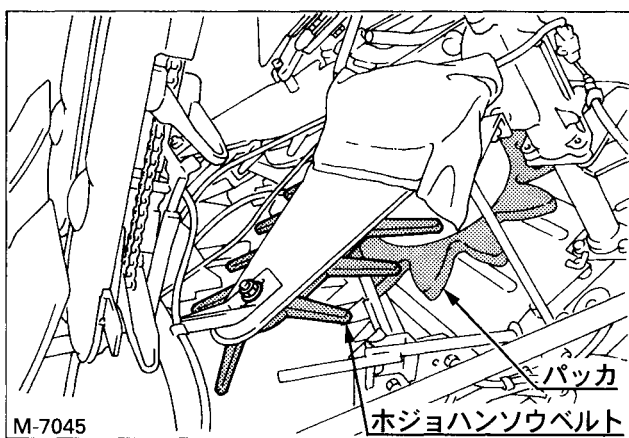
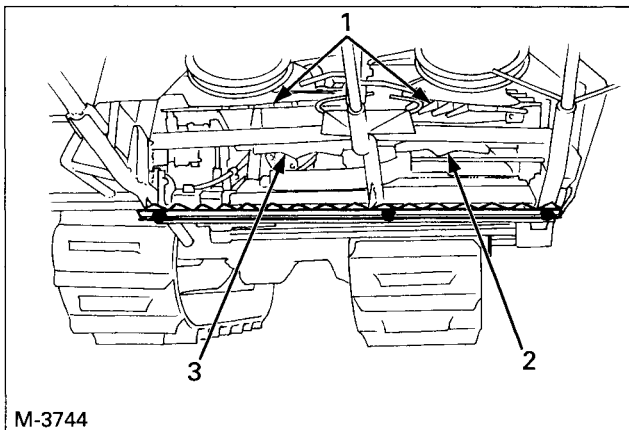


図番	品 名	品 番	対象型式
1	ツメ (エンチョウ)	52450-6863-0	M20-M23
2	ツメ (ハンソウ)	52450-6861-3	

◆突起付ベルト

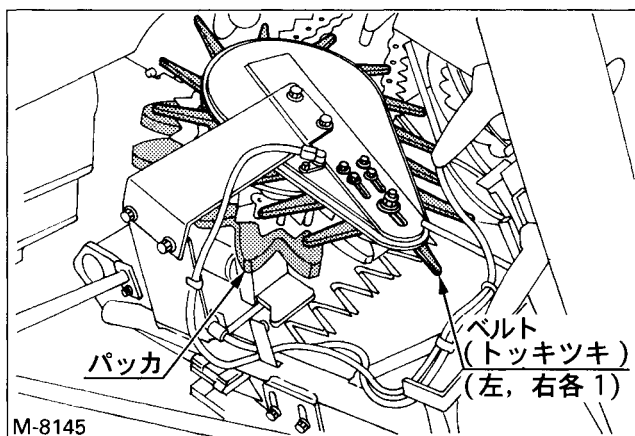
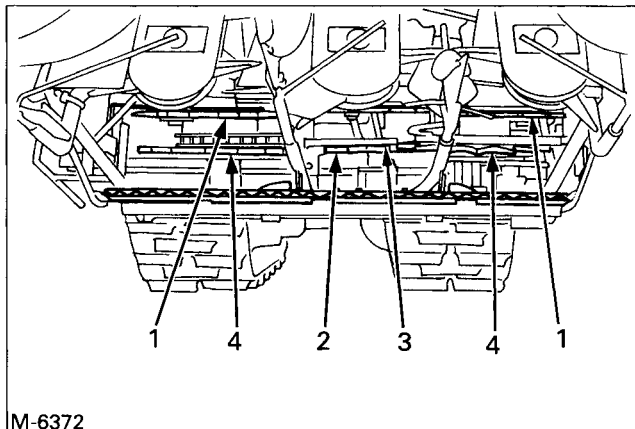
◆パッカ

[165・195・215・R218S]



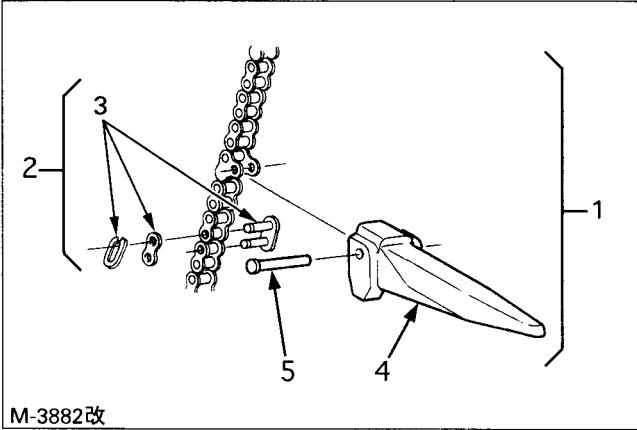
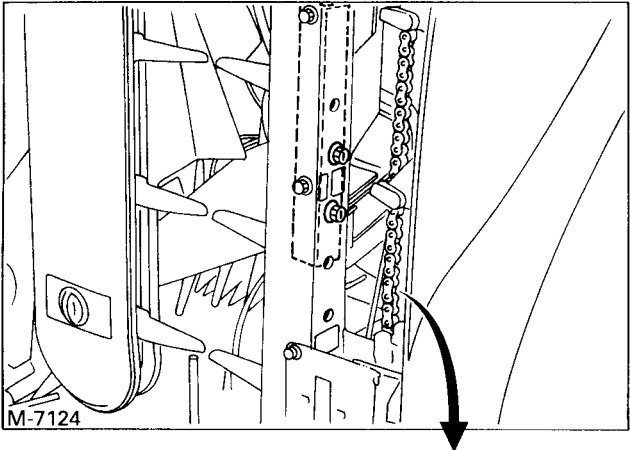
図番	品 名	品 番	対象型式
1	ベルト(ホジョハンソウ)	52300-6189-2	165・195・215 ・R218S
2	パッカ(ミギ)[機体左]	52320-6132-0	
3	パッカ(ヒダリ)[機体右]	52320-6115-0	

【M20・M23】



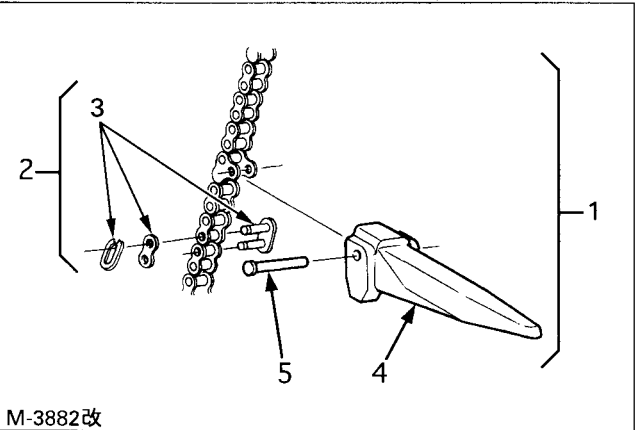
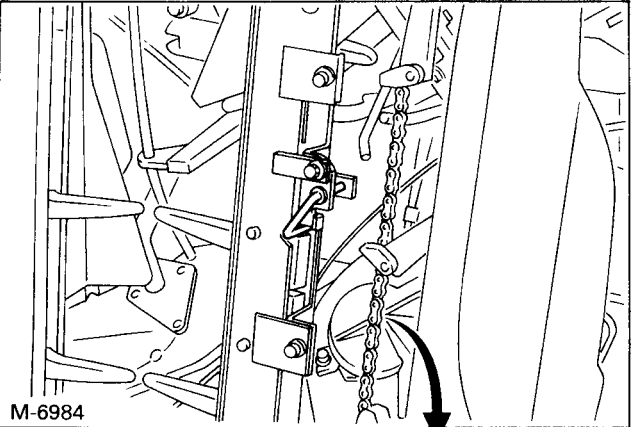
図番	品 名	品 番	対象型式
1	ベルト (トッキツキ)	52450-6222-0	M20・M23
2	ホジョハンソウベルト	59460-6219-0	
3	パッカ (8)	52450-6112-0	
4	パッカ	52450-6311-0	

◆引きしチェーン
【165・195・215・R218S】



図番	品 名	品 番	対象型式
1	引きしチェーンカンビ	52300-0076-0	165・195・215 ・R218S
2	引きしチェーンアッシ	5H522-5401-0	
3	415エスチェーンツギテ	50400-9112-0	
4	引きし爪	59700-5422-0	
5	爪取付けピン	56713-5431-2	

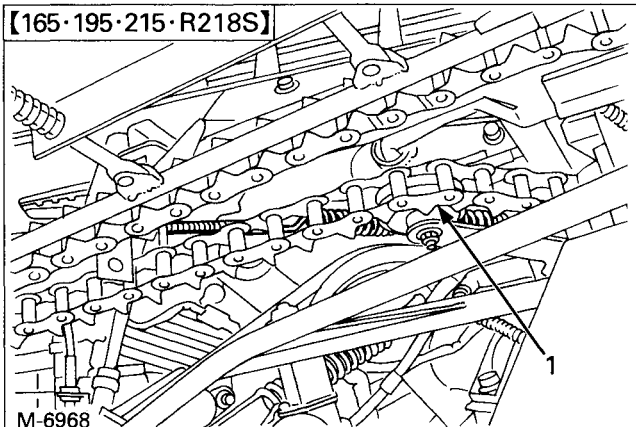
【M20・M23】



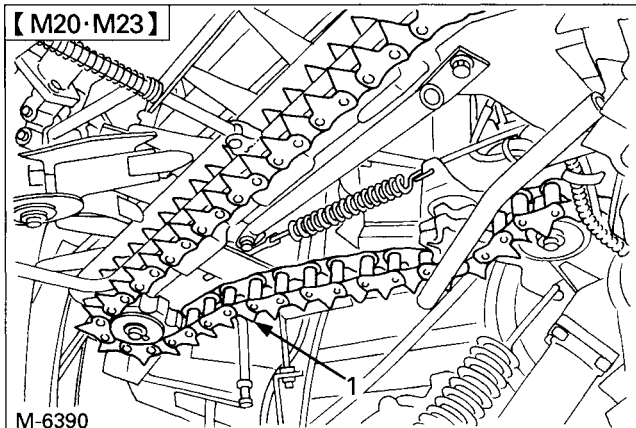
図番	品 名	品番	対象型式
1	引きしチェーン爪アッシ	52200-5401-0	M20・M23
2	引きしチェーンアッシ	52200-5410-0	
3	415エスチェーンツギテ	50400-9112-0	
4	引きし爪	59700-5422-0	
5	爪取付けピン	56713-5431-2	

◆供給株元チェーン

【165・195・215・R218S】

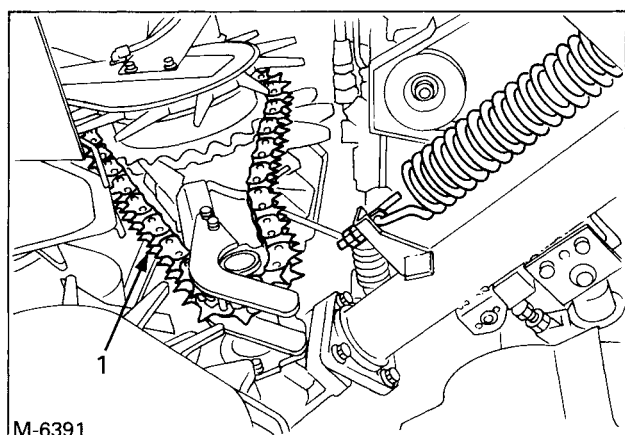


【M20・M23】



図番	品 名	品 番	対象型式
1	搬送チェーン, コンブ	52300-6620-0	165・195・215・R218S
	供給チェーン	52450-6630-0	M20・M23

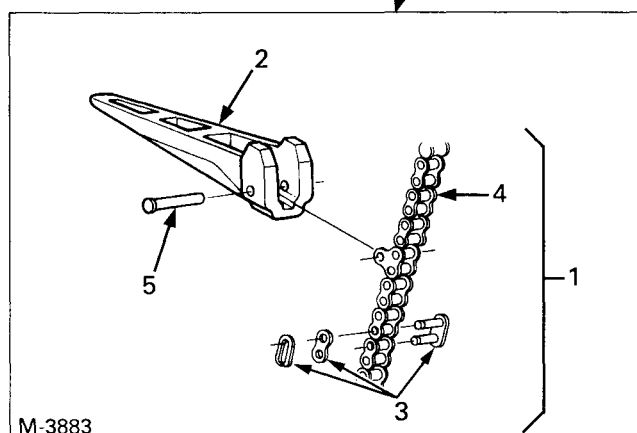
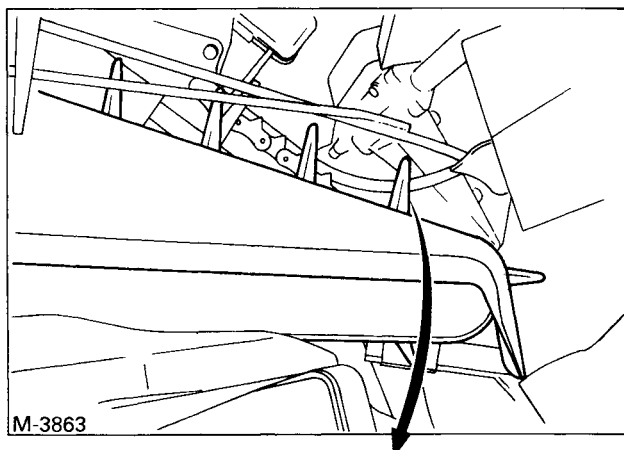
◆右株元チェーン【M20・M23】



図番	品 名	品 番	対象型式
1	チェーン (右株元44)	52450-6359-0	M20・M23

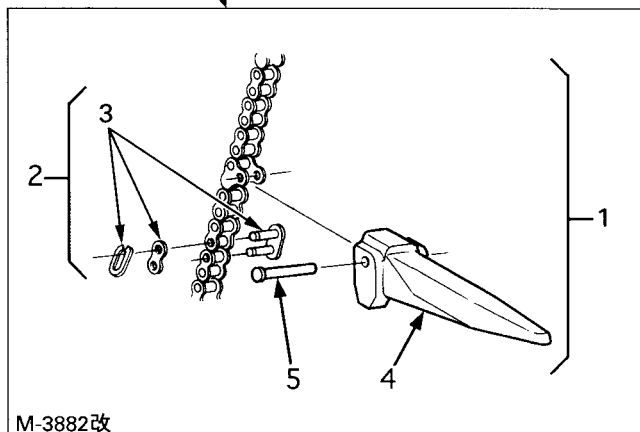
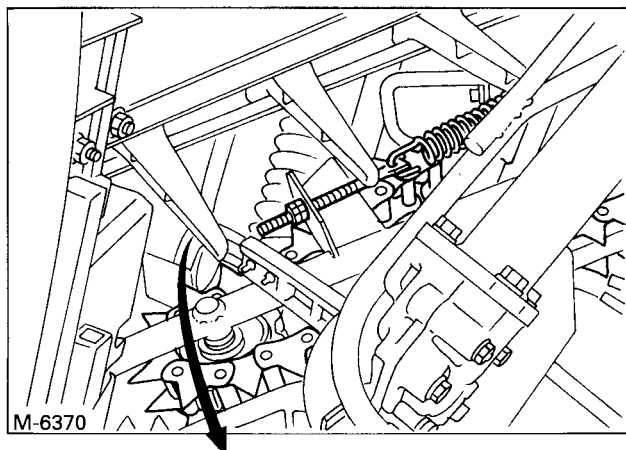
◆供給穂先チェーン

【165・195・215・R218S】



図番	品 名	品 番	対象型式
1	穂先チェーンコンブ	52300-6660-0	165・195・215 ・R218S
2	搬送爪	59240-6665-0	
3	415エスチェーンツギテ	55411-4644-0	
4	オフセットツギテ	59240-6664-0	
5	穂先爪ピン	55411-6363-0	

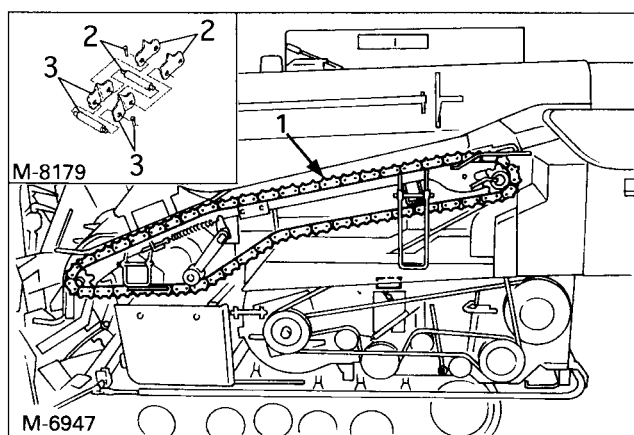
【M20・M23】



図番	品 名	品 番	対象型式
1	穂先チェーンアッシ	52450-6721-0	M20・M23
2	穂先チェーン	52450-6723-0	
3	415エスチェーンツギテ	50400-9112-0	
4	搬送爪	56713-6523-0	
5	爪取付ピン	56713-5431-2	

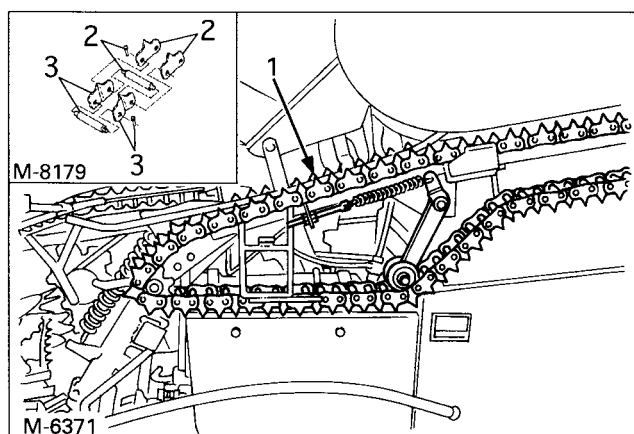
◆フィードチェーン

【165・195・215・R218S】



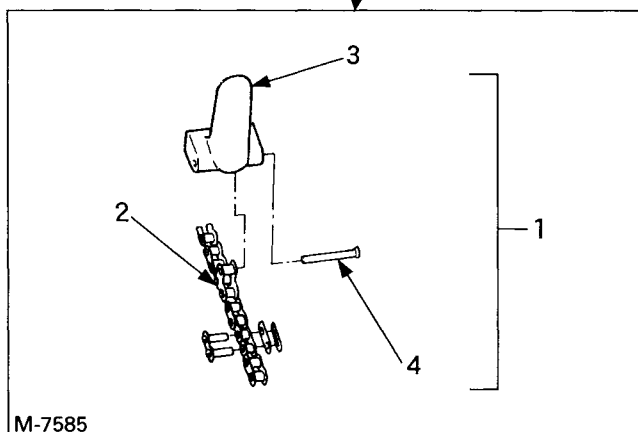
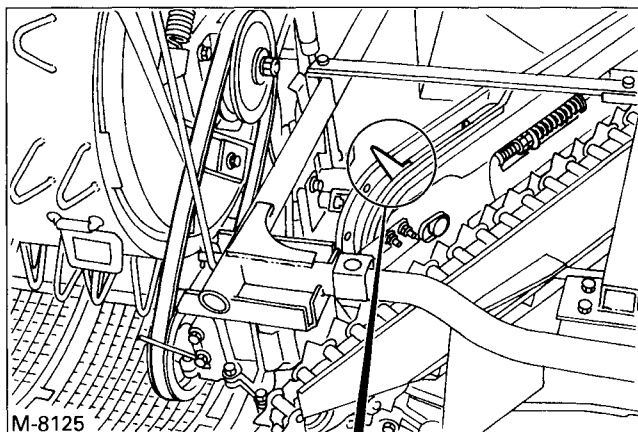
図番	品 名	品 番	対象型式
1	チェーン(フィード,85L)	53687-4212-0	165・R218S
	チェーン(フィード,95L)	53685-4212-0	195・215
2	ツギテリンク	53650-9121-0	165・195・215
3	オフセットリンク	53650-9122-0	・R218S

【M20・M23】



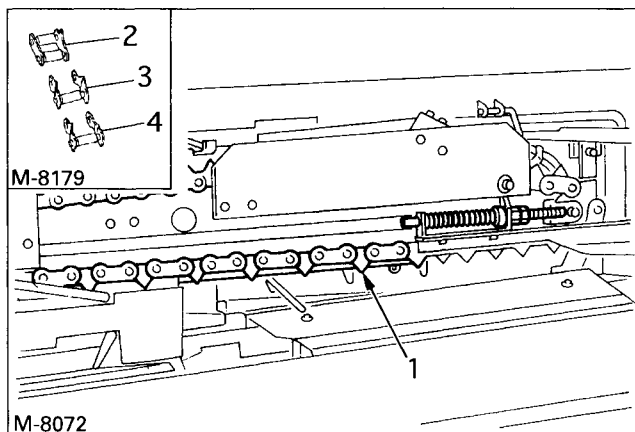
図番	品 名	品 番	対象型式
1	チェーン(フィード100L)	53669-4212-0	M20
	チェーン(フィード101L)	53684-4212-0	M23
2	チェーンツギテ(リンク)	53681-9114-0	M20・M23
3	チェーンツギテ(オフセット)	53681-9115-0	

◆排わら穂先チェーン



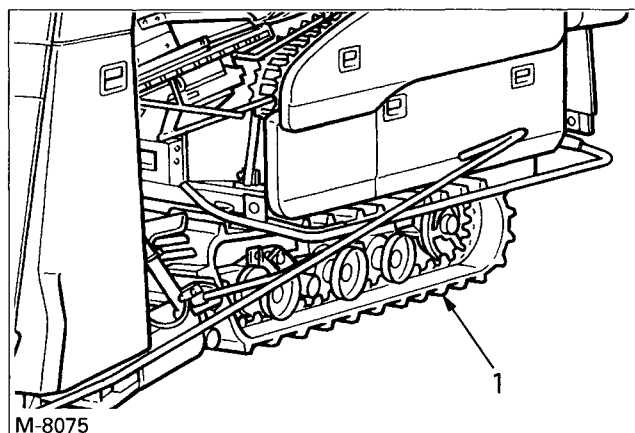
図番	品 名	品 番	対象型式
1	排わら穂先チェーンアッシ	53931-4440-2	全型式
2	排わら穂先チェーン	53931-4441-2	
3	搬送爪	53961-4421-0	
4	穂先爪ピン	55411-6363-0	

◆排わら株元チェーン



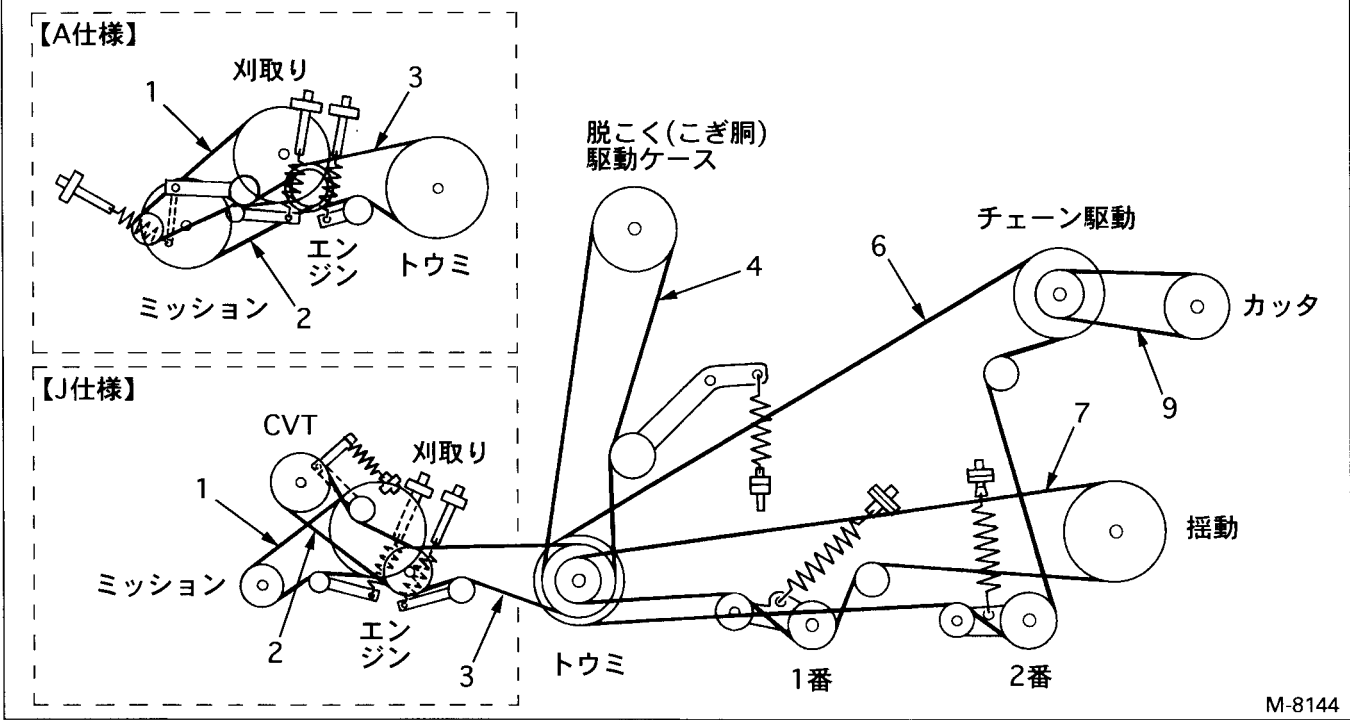
図番	品 名	品 番	対象型式
1	チェーン (ハイワラ)	53650-4311-4	165-195-215-R218S-M20
		53681-4311-0	M23
2	ハイワラチェーンツギテ1 チェーンツギテ(1・ハイワラ)	53650-9111-0	165-195-215-R218S-M20
		53681-9111-0	M23
3	ハイワラチェーンツギテ2 チェーンツギテ(2・ハイワラ)	53650-9112-0	165-195-215-R218S-M20
		53681-9112-0	M23
4	ハイワラチェーンツギテ3 チェーンツギテ(3・ハイワラ)	53650-9113-0	165-195-215-R218S-M20
		53681-9113-0	M23

◆クローラ

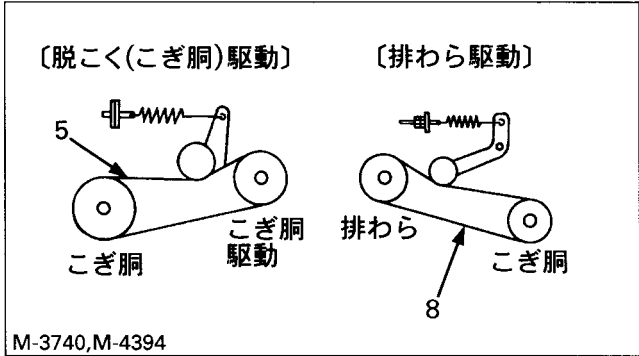


図番	品 名	品 番	対象型式
1	クローラ (330×40)	5H020-2152-0	165W仕様-R218S
	クローラ (360×40)	5H030-2151-0	165W2仕様
	クローラ (W400×42)	5H016-2151-0	165SW3仕様
	クローラ (330×42)	5H050-2152-0	195-215W仕様
	クローラ (360×42)	5H054-2151-0	195-215W2仕様
	クローラ (330×44)	52450-2151-0	M20標準仕様
	クローラ (360×44)	52450-2152-0	M20W仕様
	クローラ (400×44)	52460-2151-0	M20W2仕様
	クローラ (330×45)	5H130-2151-0	M23標準仕様
	クローラ (360×45)	5H130-2152-0	M23W仕様
	クローラ (400×45)	5H130-2153-0	M23W2仕様

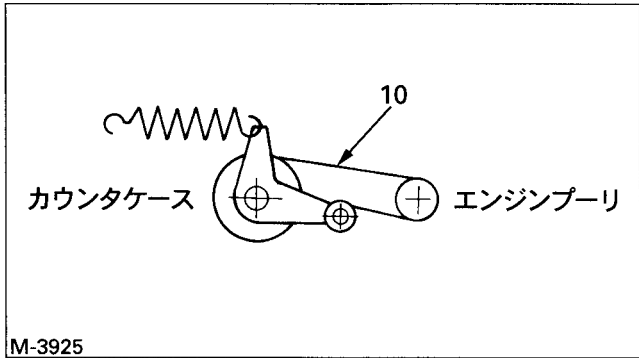
■ベルト関係



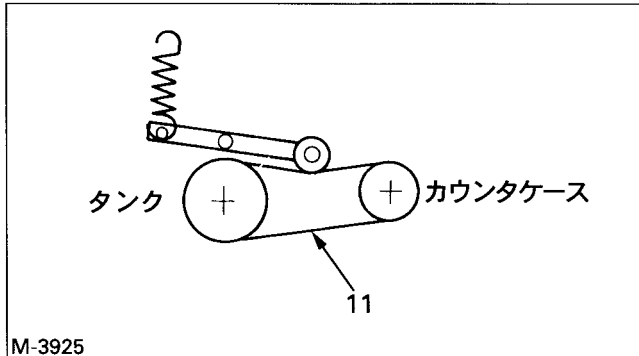
M-8144



M-3740,M-4394



M-3925



M-3925

	図番	品 名	品 番	対象型式
本機	1	50.5 Bベルト	52300-1274-0	165-195-215A仕様 R218S
		Vベルト (B53)	52450-1274-0	M20-M23A仕様
		Vベルト (B44)	5H050-1275-0	165-195-215J仕様
		Vベルト (B41.5)	5H020-1146-0	M20-M23J仕様
	2	Vベルト (B46)	5H020-1145-0	165A仕様
		Vベルト (B48)	5H040-1145-0	195-215A仕様
		Vベルト (B47)	59820-8124-2	R218S仕様
		Vベルト (C48)	52450-1145-0	M20-M23A仕様
		Vベルト (B43)	5H050-1146-0	195-215J仕様
		Vベルト (B42)	5H100-1275-0	165-M20-M23J仕様
	3	Vベルト (C50)	5H020-1241-0	165
		Vベルト (C63)	5H050-1241-0	195-215
		Vベルト (C50.5)	56900-1241-0	R218S
		Vベルト トクC70 W800	52450-1241-0	M20-M23
脱こく	4	Vベルト (C78)	53664-1581-0	165
		Vベルト (81.5)	53652-1581-0	195-215
		Vベルト (C78)	53637-1581-0	R218S
		Vベルト (C-76.5)	53664-9332-0	165-SI
		Vベルト (C84)	53682-1581-0	195-215-SI-M20-M23
	5	ブイベルト トクシイ53	53650-1588-0	165-195-215-R218S
		Vベルト (B55)	59700-1146-0	M20-M23
	6	Vベルト (ビイ111)	53664-2591-0	165-R218S
		Vベルト (ビイ113)	53652-2591-0	195-215-M20-M23
	7	Vベルト (トクビイ94)	53685-2592-0	165-195-215-R218S-M20
		Vベルト トクB94	53671-2592-0	M23
	8	Vベルト トクB38 W400L	53681-4318-0	全型式
カッタ	9	Vベルト (B-52)	57748-3131-0	全型式
グレンタンク	10	ブイベルト (トクビイ56)	53475-5621-0	165G仕様
		Vベルト (B64)	52330-7162-0	195-215-R218S-M20-M23G仕様
	11	Vベルト (トクB37)	5G003-7123-0	165G仕様
		Vベルト トクB32 W600	58058-7123-0	195-215-R218S-M20-M23G仕様

クボタ純オイル

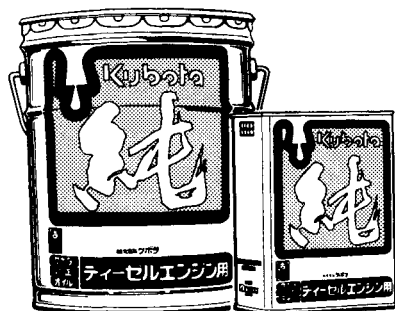
■オイルは **クボタ純オイル** をお使いください。

オイルは、コンバインの開発研究から生まれたクボタ純オイルを、必ずお使いください。

市販のオイルをご使用になりますと、あなたの大切なコンバインの寿命を縮めることがあります。

お買求めは、販売店またはJA農協へご用命ください。

●D30又はD10W30（ディーゼルエンジン用）

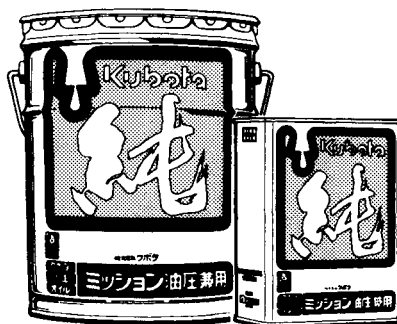


Z-1025

20ℓ

4ℓ

●M80B（ミッション油圧兼用）

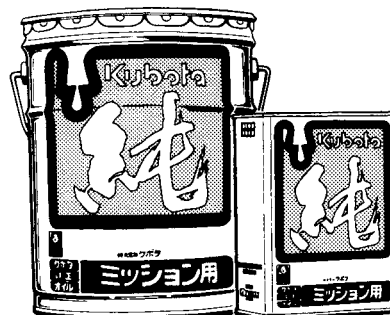


Z-1024

20ℓ

4ℓ

●M90（一般ミッション・各ギヤ用）

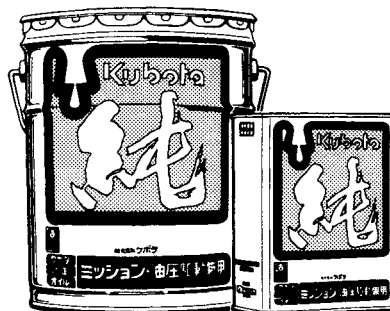


Z-1023

20ℓ

4ℓ

●スーパーUDT（油圧駆動・ミッション油圧兼用）

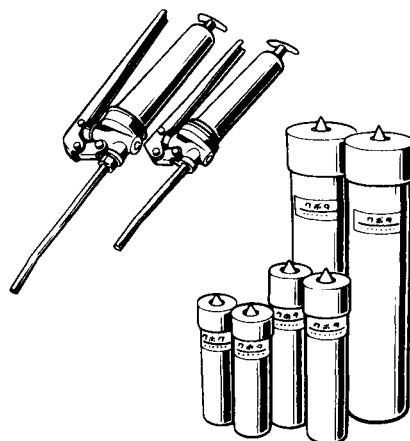


Z-1021

20ℓ

4ℓ

■クボタスペアグリース



Z-1026

60

100 400

修理・取扱い・手入れなどでご不明の点はまず、購入先へ ご相談ください

おぼえのため、記入されると便利です

購入先名	担当	電話 ()	—
ご購入日	型式名	区分	
車台番号(製造番号)		エンジン型式	エンジン番号

万一ご購入先でご不明の点がございましたら、下記にお問合わせください。

株式会社クボタ

機械札幌事務所：電(011)662-2121
 機械東日本事務所：電(048)862-1121
 機械西日本事務所：電(0722)41-8506
 機械福岡事務所：電(092)606-3161

〒063-0061 札幌市西区西町北16丁目1番1号
 〒338-0832 さいたま市浦和区西堀5丁目2番36号
 〒590-0806 堺市緑ヶ丘北町1丁目1番36号
 〒811-0213 福岡市東区和白丘2丁目2番76号

クボタ機械サービス株式会社

本社営業技術部：電(0722)41-8092
 北海道営業技術推進部：電(011)662-2121
 秋田営業技術推進部：電(0188)45-1601
 仙台営業技術推進部：電(022)384-5162
 東京営業技術推進部：電(048)862-1124
 新潟営業技術推進部：電(025)285-1261
 金沢営業技術推進部：電(0762)75-1121
 名古屋営業技術推進部：電(0586)24-5111
 大阪営業技術推進部：電(0722)41-8550
 米子営業技術推進部：電(0859)33-5011
 岡山営業技術推進部：電(086)279-4511
 高松営業技術推進部：電(0878)74-5091
 福岡営業技術推進部：電(092)606-3725
 熊本営業技術推進部：電(096)357-6181

〒590-0823 堺市石津北町64番地
 〒063-0061 札幌市西区西町北16丁目1番1号
 〒011-0901 秋田市寺内字大小路207-54
 〒981-1221 名取市田高字原182番地の1
 〒338-0832 さいたま市浦和区西堀5丁目2番36号
 〒950-0992 新潟市上所上1丁目14番15号
 〒924-0038 松任市下柏野町956-1
 〒491-0031 一宮市観音町1番地の1
 〒590-0806 堺市緑ヶ丘北町1丁目1番36号
 〒683-0804 米子市米原7丁目1番1号
 〒703-8216 岡山市宍甘275番地
 〒769-0102 香川県綾歌郡国分寺町国分字向647-3
 〒811-0213 福岡市東区和白丘2丁目2番76号
 〒861-4147 熊本県下益城郡富合町大字廻江846-1

株式会社クボタアグリ東日本

東北系統推進部：電(0188)45-1601
 関東・甲信越系統推進部：電(048)862-1124

〒011-0901 秋田市寺内字大小路207-54
 〒338-0832 さいたま市浦和区西堀5丁目2番36号

株式会社クボタアグリ西日本

中部・近畿系統推進部：電(0722)41-8550
 中四国系統推進部：電(0878)74-5091

〒590-0806 堺市緑ヶ丘北町1丁目1番36号
 〒769-0102 香川県綾歌郡国分寺町国分字向647-3

株式会社クボタアグリ九州

九州系統事業推進部：電(092)606-3725

〒811-0213 福岡市東区和白丘2丁目2番76号



このマークは「お客様」「ディーラ」「クボタ」の三者
が一体となって安全宣言を行うための統一マークです。

株式会社クボタ

本 社 大阪市浪速区敷津東 1 丁目 2 番47号 ☎556-8601

品番 5H130-8511-4

Kubota